令和６年度
千葉県こどもの生活実態調査
報告書

令和７年３月

千葉県

■目次■

Ⅰ．調査概要 1
１．目的 1
２．実態調査票の配布及び回答数 1
３．生活困難度の定義（参考：平成 28 年度東京都子供の生活実態調査） 2
４．困窮層の割合 3
５．分析対象について 6
６．回答者の基本属性 7
７．集計方法等について 8
Ⅱ．結果概要 9
１．生活困窮の状況 9
（１） 結果概要 9
（２） 考察 9
２．こどもの生活の状況 10
（１） 結果概要 10
（２） 考察 10
３．こども及び保護者の健康・自己肯定感 11
（１） 結果概要 11
（２） 考察 11
４．保護者とこども・地域との関わり 12
（１） 結果概要 12
（２） 考察 12
５．保護者のこれまでの経験 13
（１） 結果概要 13
（２） 考察 13
６．こどもの学びの状況 13
（１） 結果概要 13
（２） 考察 14
７．保護者の就労状況 14
（１） 結果概要 14
（２） 考察 14
８．経済的支援制度の利用状況 15
（１） 結果概要 15
（２） 考察 15
９．子育て支援・相談機関の利用状況 15
（１） 結果概要 15
（２） 考察 16
10．新型コロナウイルス感染症の影響 16

（1） 結果概要 16
（2） 考察 16
Ⅲ．基本集計 17
1．保護者アンケート集計結果 17
（1） 基本属性 17
（2） 保護者の就業状況・収入状況 27
（3） 暮らしの状況 40
（4） 健康状態 57
（5） こどもとの関わり 78
（6） 新型コロナウイルス感染症の影響 104
（7） 相談相手、過去の経験、自己肯定感など 118
（8） 支援の利用状況 153
2．こどもアンケート集計結果 222
（1） 学校・勉強について 222
（2） 生活習慣について 251
（3） 平日放課後や休日の過ごし方について 267
（4） 普段の活動状況について 296
（5） 所有物について 325
（6） 周囲との関わりについて 339
（7） 学校生活に関する悩み 363
（8） 健康状態について 377
（9） 自己肯定感について 399
（10） 支援場所の利用意向 417
（11） 新型コロナウイルス感染症の影響 425
Ⅳ．テーマ別集計 437
1．経年比較 437
（1） 分析結果 437
（2） 考察 445
2．貧困の継続状況別分析 446
（1） 分析結果 447
（2） 考察 458
3．保護者の国籍別分析 459
（1） 分析結果 460
（2） 考察 471
4．保護者との関わりとこどもの自己肯定感 472
（1） 分析結果 473
（2） 考察 479
5．習い事の有無とこどもの自己肯定感 480
（1） 分析結果 480

（２） 考察 485
６．こどもの生活習慣と健康 486
（１） 分析結果 486
（２） 考察 505
７．保護者の相談相手の有無と心の健康 506
（１） 分析結果 506
（２） 考察 512
＜参考資料＞ 513

Ⅰ．調査概要

１．目的

千葉県内に住む小学５年生及び中学２年生とその保護者を対象に勉強時間・場所、放課後の過ごし方、学校の授業の理解度、保護者の学歴、就業の状況・収入、公的支援等に対する認知度・利用度等、教育や生活に関連する調査を行い、その結果を取りまとめた。

２．実態調査票の配布及び回答数

実態調査票については、人口規模や地域性のバランスを考慮し、県内の 14 市町村（柏市、成田市、旭市、八千代市、我孫子市、鴨川市、鎌ケ谷市、富津市、四街道市、匝瑳市、山武市、多古町、睦沢町、長生村）に配布。当該回答に加えて、君津市が同時期に本調査と同様の設問を含めて実施した「君津市こどもの生活状況調査」の回答を統合し、計 15 市町村の回答結果の集計・分析を行った。

配布数	こども票・保護者票　各 19,728 件 うち小学５年生：9,931 件 中学２年生：9,797 件
回答者数	こども票　7,127 件 うち小学５年生：3,605 件 中学２年生：3,401 件 学年不明：121 件 保護者票　7,275 件 うち小学５年生：3,887 件 中学２年生：3,372 件 学年不明：16 件
回答率	こども票　36.1% うち小学５年生：36.3% 中学２年生：34.7% 保護者票　36.9% うち小学５年生：39.1% 中学２年生：34.4%

３．生活困難度の定義（参考：平成 28 年度東京都子供の生活実態調査）

本調査では、こどもの「生活困難」にかかる３要素を以下のとおり定義した。

①低所得	等価世帯所得が厚生労働省「2023（令和５）年国民生活基礎調査」から算出される基準未満の世帯と定義する。 ＜低所得基準＞ 世帯所得の中央値 405 万円÷√平均世帯人数（2.25 人）×50% ＝135.0 万円
②家計の逼迫	保護者票において、以下の７項目中、１つ以上が該当する場合と定義する。 １．過去１年以内に経済的な理由で電話料金の滞納があった ２．過去１年以内に経済的な理由で電気料金の滞納があった ３．過去１年以内に経済的な理由でガス料金の滞納があった ４．過去１年以内に経済的な理由で水道料金の滞納があった ５．過去１年以内に経済的な理由で家賃の滞納があった ６．過去１年以内に「家族が必要とする食料が買えなかった経験」があった ７．過去１年以内に「家族が必要とする衣類が買えなかった経験」があった
③こどもの体験や所有物の欠如	保護者票において、過去１年以内にこどもの体験や所有物に関する以下 15 項目のうち、経済的な理由により欠如している項目が３つ以上ある場合と定義する。 １．海水浴に行く ２．博物館・科学館・美術館などに行く ３．キャンプやバーベキューに行く ４．スポーツ観戦や劇場に行く ５．遊園地やテーマパークに行く ６．毎月おこづかいを渡す ７．毎年新しい洋服・靴を買う ８．習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる ９．学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう） 10．お誕生日のお祝いをする 11．１年に１回くらい家族旅行に行く 12．クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる 13．こどもの年齢にあった本 14．こども用のスポーツ用品・おもちゃ 15．こどもが自宅で宿題（勉強）をすることができる場所

上記３つの要素について、該当する要素の数に応じて以下のとおり生活困難度を分類した。

困窮層	２つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか１つの要素に該当
一般層	いずれの要素にも該当しない

なお、上記３要素についてひとつでも欠損がある場合は無効としたため、生活困難度を算出できるサンプルは 5406 件（保護者票ベース）となった。

４．困窮層の割合

保護者票における困窮層の割合をみると、全体では困窮層が 9.7%、周辺層が 12.8%であった。また、３要素に該当する割合はそれぞれ①低所得が 5.4%、②家計の逼迫が 14.1%、③こどもの体験や所有物の欠如が 14.6%となっていた。

図表 1　困窮層・周辺層・一般層の割合（保護者票ベース）

	全体		小学５年生		中学２年生	
	人	割合	人	割合	人	割合
①　困窮層	522	9.7%	264	9.0%	257	10.4%
②　周辺層	694	12.8%	360	12.3%	333	13.4%
小計（①+②）	1216	22.5%	624	21.4%	590	23.8%
③　一般層	4190	77.5%	2297	78.6%	1890	76.2%
合計（①+②+③）	5406	100.0%	2921	100.0%	2480	100.0%

図表 2　生活困難に係る３要素の構成割合（保護者票ベース）

	全体		小学５年生		中学２年生	
	人	割合	人	割合	人	割合
①低所得	294	5.4%	141	4.8%	151	6.1%
②家計の逼迫	763	14.1%	407	13.9%	356	14.4%
③こどもの体験や所有物の欠如	790	14.6%	394	13.5%	395	15.9%

図表 3　困窮層・周辺層の割合（小学５年生・保護者票ベース）

			人	割合	人	%
困窮層	３つに該当	①低所得＋②家計の逼迫＋③こどもの体験や所有物欠如	54	1.8%	264	9.0%
	２つに該当	①低所得＋②家計の逼迫	17	0.6%		
		①低所得＋③こどもの体験や所有物欠如	18	0.6%		
		②家計の逼迫＋③こどもの体験や所有物欠如	175	6.0%		
周辺層	１つに該当	①低所得	52	1.8%	360	12.3%
		②家計の逼迫	161	5.5%		
		③こどもの体験や所有物欠如	147	5.0%		
困窮層と周辺層の計					624	21.4%

図表 4　困窮層・周辺層の割合（中学２年生・保護者票ベース）

			N	%	N	%
困窮層	３つに該当	①低所得＋②家計の逼迫＋③こどもの体験や所有物欠如	55	2.2%	257	10.4%
	２つに該当	①低所得＋②家計の逼迫	11	0.4%		
		①低所得＋③こどもの体験や所有物欠如	31	1.3%		
		②家計の逼迫＋③こどもの体験や所有物欠如	160	6.5%		
周辺層	１つに該当	①低所得	54	2.2%	333	13.4%
		②家計の逼迫	130	5.2%		
		③こどもの体験や所有物欠如	149	6.0%		
困窮層と周辺層の計					590	23.8%

図表 5　困窮層・周辺層の割合（全体・保護者票ベース）

			人	%	人	%
困窮層	３つに該当	①低所得＋②家計の逼迫＋③こどもの体験や所有物欠如	109	2.0%	522	9.7%
	２つに該当	①　低所得＋②家計の逼迫	28	0.5%		
		①低所得＋③こどもの体験や所有物欠如	50	0.9%		
		②家計の逼迫＋③こどもの体験や所有物欠如	335	6.2%		
周辺層	１つに該当	①　低所得	107	2.0%	694	12.8%
		②　家計の逼迫	291	5.4%		
		③　こどもの体験や所有物欠如	296	5.5%		
困窮層と周辺層の計					1216	22.5%

世帯タイプ別に、困窮層・周辺層・一般層の割合をみると、特に「ひとり親（二世代）」において困窮層が 32.1%、周辺層が 23.3%と高い割合となっていた。

図表 6　世帯タイプ別　困窮層・周辺層・一般層の割合（保護者票ベース）

＜全体＞

	全体		ふたり親（二世代）		ふたり親（三世代）		ひとり親（二世代）		ひとり親（三世代）	
	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合
①困窮層	522	9.7%	298	6.9%	45	8.2%	120	32.1%	55	30.4%
②周辺層	694	12.8%	493	11.5%	66	12.1%	87	23.3%	45	24.9%
③一般層	4190	77.5%	3504	81.6%	435	79.7%	167	44.7%	81	44.8%

＜小学５年生＞

	全体		ふたり親（二世代）		ふたり親（三世代）		ひとり親（二世代）		ひとり親（三世代）	
	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合
①困窮層	264	9.0%	155	6.5%	27	10.0%	58	32.4%	22	27.5%
②周辺層	360	12.3%	273	11.4%	31	11.5%	41	22.9%	14	17.5%
③一般層	2297	78.6%	1959	82.1%	212	78.5%	80	44.7%	44	55.0%

＜中学２年生＞

	全体		ふたり親（二世代）		ふたり親（三世代）		ひとり親（二世代）		ひとり親（三世代）	
	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合
①困窮層	257	10.4%	143	7.5%	18	6.5%	61	31.8%	33	32.7%
②周辺層	333	13.4%	220	11.5%	35	12.7%	45	23.4%	31	30.7%
③一般層	1890	76.2%	1543	81.0%	223	80.8%	86	44.8%	37	36.6%

注）全体には世帯タイプが４パターンに該当しなかったサンプルも含まれるため、各世帯タイプの合計と全体は一致しない。

５．分析対象について

有効回答となったこども票・保護者票のうち、こどもと保護者がマッチングできたのは小学５年生では 3,468 件、中学２年生では 3,021 件であった。本報告書において、こども票の分析のうち、保護者票の回答にもとづいたクロス軸を用いる場合、こどもと保護者がマッチングできたサンプル以外はクロス軸が作成できないため、全体と各クロス軸の合計は一致しない。また、保護者票の分析にあたっては、マッチングの有無にかかわらず、全サンプルを対象とする。分析対象となる保護者・こどもの件数内訳は以下のとおりである。

図表 7　分析対象の件数内訳（生活困難度別）

（人）

	こども		保護者	
	小学生	中学生	小学生	中学生
全体	3,605	3,401	3,887	3,372
困窮層	230	228	264	257
周辺層	314	291	360	333
一般層	2,056	1,684	2,297	1,890

注）全体には生活困難度が算出できなかったサンプルも含まれるため、困窮層・周辺層・一般層の合計と全体は一致しない。

６．回答者の基本属性

図表 8　こども問１　学年

	n	割合
小学生	3605	50.6%
中学生	3401	47.7%
無回答	121	1.7%
全体	7127	100.0%

図表 9　こども問２　性別

		全体	男子	女子	その他・答えたくない	無回答
小学生	n	3605	1741	1813	43	8
	割合	100.0%	48.3%	50.3%	1.2%	0.2%
中学生	n	3401	1553	1656	51	141
	割合	100.0%	45.7%	48.7%	1.5%	4.1%

図表 10　保護者問２　回答者の続柄

		全体	母親	父親	祖父・祖母	叔父・叔母などの親戚	施設職員	里親	その他	無回答
小学生	n	3887	3456	399	15	0	7	3	2	5
	割合	100.0%	88.9%	10.3%	0.4%	0.0%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%
中学生	n	3372	3004	338	11	4	9	3	1	2
	割合	100.0%	89.1%	10.0%	0.3%	0.1%	0.3%	0.1%	0.0%	0.1%

図表 11　保護者問３・４　世帯タイプ

		全体	ふたり親（二世代）	ふたり親（三世代）	ひとり親（二世代）	ひとり親（三世代）	その他	無回答
小学生	n	3887	3126	384	237	125	15	0
	割合	100.0%	80.4%	9.9%	6.1%	3.2%	0.4%	0.0%
中学生	n	3372	2580	387	251	134	19	1
	割合	100.0%	76.5%	11.5%	7.4%	4.0%	0.6%	0.0%

７．集計方法等について

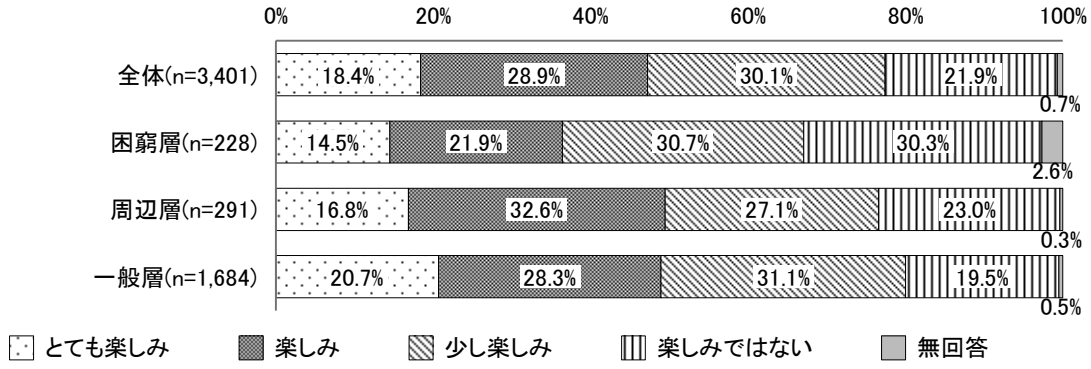
○ 各図表の結果数値（%）は小数点第二位以下を四捨五入して表示しているため、各項目の割合の合計が 100%に一致しない場合がある。

○ 本報告書においては、クロス集計結果の掲載時に、χ二乗検定によって項目間に統計的に有意な差を認められるかを検定している。その結果、１%水準で有意である場合には p<.01（もしくは[**]），５%水準で有意である場合には p<.05（もしくは[*]）とそれぞれ記載している。なお、１%水準で有意であるとは、図表で示している項目間に統計的に差がない確率が１%未満であり、項目間に差があるといって差し支えないという意味である。

例）以下の図表の場合、p<.01 であるため、困窮状況によって数学の授業を楽しみと思う度合いに有意な差がみられるということができる。

図表○　学校生活_数学の授業：単数回答（こども Q3A）（生活困難度別）

＜中学生＞（p<.01）



○ グラフ内の数値が細かく見づらい場合には、グラフ内の数値を省略し、別途数値表をグラフの下に掲載している。

○ 「Ⅲ．基本集計」において、生活困難度別のグラフは有意差がみられたかどうかにかかわらず、すべてのグラフを掲載している。一方、世帯タイプ別のグラフは、紙幅の都合上一部の項目に限定してグラフを掲載している。

Ⅱ．結果概要

以下では、各調査結果についてテーマごとに概要を整理するとともに、今後必要と考えられる施策等に関する考察を行う。

１．生活困窮の状況

（１）結果概要

○ 生活困難度について経年変化をみると、令和元年度「千葉県子どもの生活実態調査」（以下、R1 調査）に比べて今回調査（以下、R6 調査）では、困窮層がやや増加し、一般層がやや減少している。（図表 393、図表 394）

○ 生活困難の構成要素別にみると、「低所得」に該当する割合が 4.1%から 5.4%へ、「家計の逼迫」に該当する割合が 12.4%から 14.1%へ、「こどもの体験や所有物の欠如」に該当する割合が 10.6%から 14.6%へそれぞれ増加している。（図表 395、図表 396）

○ 困窮層では、一般層に比べて現在の暮らしが「大変苦しい」とする割合や、金銭不足で食料や衣類を買えなかったり、電話料金などを期限までに支払えなかったことがあるとする割合が高くなっている。（図表 28、図表 30～図表 41）

○ 世帯にないものをみると、困窮層では一般層に比べて、「急な出費のための貯金」「新聞の定期購読」「こどもの年齢にあった本」などがないとする割合が高くなっている。（図表 42）

○ こどもの所有物をみると、「自宅で宿題をすることができる場所」や「自分専用の勉強机」などの勉強に適した環境や、「友達が着ているのと同じような服」、「２足以上のサイズのあった靴」など日常生活を送る上で重要なものを所有するこどもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が低い。一方、「けいたい電話、スマートフォン」「けいたい音楽プレーヤー」については、生活困難度による所有率の差はみられない。（図表 284～図表 297）

○ 10 年前の生活が大変苦しいと回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。（図表 110）

○ 世帯タイプ別にみると、「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」では、全体に比べて現在の暮らしが「やや苦しい」「大変苦しい」とする割合が高くなっている。（図表 29）

（２）考察

○ R1 調査と R6 調査の比較から、コロナ禍を経て、直接的な収入の格差自体はそれほど広がっていないものの、家計への影響やこどもの体験・所有物といった間接的な格差が拡大しているという可能性が示唆される。

○ 困窮状況により物品の所有状況には差がみられ、こどもの学習や日常生活に影響が出ている可能性がある。特に、食料や衣類といった日常生活に不可欠なものが買えなかった経験があるという家庭も一定数みられ、こどもの健康状態への影響が懸念される。

○ 一方で、スマートフォン等の所持については、困窮状況による差がみられないものもあることから、所有しているものや外見だけでは判断できないことも留意が必要である。

○ ふたり親世帯と比べてひとり親世帯では、経済的に困窮した状況に置かれている傾向がみられるため、優先的な支援が必要であると考えられる。

２．こどもの生活の状況

（１）結果概要

○　中学生について、午前０時以降に就寝すると回答したこどもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。（図表 219）

○　平日に毎日朝ご飯を食べる割合は、一般層に比べて困窮層の方が低い。（図表 220）

○　長期休暇中にいつも昼ご飯を食べる割合は、一般層に比べて困窮層の方が低い。（図表 222）

○　給食以外で野菜を毎日食べるこどもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が低く 15～20 ポイントの差がある。（図表 223）

○　同様に、肉か魚を毎日食べるこどもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が低く約 15 ポイントの差がある。（図表 227）

○　平日の放課後一緒に過ごす人について、生活困難度別では差がみられなかったが、世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「家族」とする割合が低く、「ひとりでいる」とする割合が高くなっている。（図表 234）

○　居場所の利用意向をみると、小学生では「家で勉強できない時、静かに勉強できる場所」「大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所」を使ってみたいという割合が一般層に比べて困窮層ほど高い。（図表 377、図表 378）

○　中学生においては、一般層に比べて困窮層において、要介護者の家族がいる割合が高い。（図表 13）また、家事や家族の世話で勉強する時間・遊ぶ時間がとれないことが「よくあった」「時々あった」とする割合が高くなっている。（図表 330、図表 331）

○　また、保護者が外国籍の場合にも、同様の傾向がみられる。（図表 452、図表 453）

（２）考察

○ 困窮層のこどもほど、睡眠・食事などの基本的な生活習慣において課題がみられる。睡眠については、困窮層のこどもほど夜遅くまで起きているという傾向がみられる。また、食事については、困窮層のこどもほど毎日朝ご飯を食べておらず、野菜や魚・肉を食べる頻度も低いという傾向がみられる。

○ ひとり親世帯（特に二世代）のこどもは、平日の放課後にひとりで過ごしている割合が高い。また、困窮層の小学生ほど、静かに勉強できる場所や、無料で勉強をみてくれる場所へのニーズが高い。

○ こうしたことから、こどもの食事や睡眠など、生活習慣を整える支援が必要であるとともに、こどもが安心して勉強できるような居場所の確保について検討する必要がある。

○ 困窮層では、要介護者の家族がいる割合が高く、貧困のみでない複合的な課題を抱えている可能性が高く、家庭内での家事や家族の世話によって勉強や遊びの時間が確保できないヤングケアラー状態におかれているこどもの割合が高い。また、保護者が外国籍の場合も、言語面でのサポート等の必要性からヤングケアラー状態にあるこどもがいることもうかがわれ、包括的な支援が必要と考えられる。

３．こども及び保護者の健康・自己肯定感

（１）結果概要

○　こどもを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがあったと回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。特に、中学生については一般層に比べて困窮層の方が約 10 ポイント高い。（図表 57）

○　健康状態が良いと回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が低く、20 ポイント以上の差がある。（図表 43）

○　健康診断やがん検診を定期的に受けていると回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が低く、費用面を理由に挙げる割合が高い。（図表 52、図表 53）

○　「がんばれば、むくわれる」「自分は価値のある人間だ」「目標や計画は達成できる」「積極的に色々な人と話したい」「今後の人生が楽しみだ」「自分のことが好きだ」と「思わない」保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。（図表 115、図表 117、図表 123、図表 125、図表 126、図表 128）

○　また、「不安に感じることがある」「孤独を感じることがある」と「とても思う」保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。（図表 119、図表 121）

○　こどもの自己肯定感をみると、中学生においては、「自分は価値のある人間だ」「自分は友達に好かれている」「自分のことが好きだ」と「思わない」こどもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。（図表 357、図表 365、図表 371）

○　同じく中学生においては、「孤独を感じることがある」と「とても思う」こどもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。（図表 363）

○　世帯タイプ別にみると、小学生において、「自分は価値のある人間だ」「自分のことが好きだ」と「思わない」こどもの割合は、全体に比べて「ひとり親（二世代）」で高い。（図表 358、図表 372）

○　貧困の継続状況別にみると、特に貧困継続群において、全体的に保護者の自己肯定感が低い傾向がみられる。（図表 410～図表 416）

○　こどもにおいても、貧困継続群において同様の傾向がみられる。（図表 419～図表 425）

（２）考察

○　困窮層ほど、費用負担を理由としてこどもの医療機関受診や保護者自身の健康診断等の受診を抑制する傾向がみられる。また、困窮層の保護者ほど、健康状態がよくないという傾向がみられる。これらのことにより、健康状態の悪化が懸念され、医療費負担の増大や保護者が働けなくなるリスクが高まり、状況がより深刻になる可能性がある。

○　また、困窮層やひとり親世帯であるほど、保護者やこどもの自己肯定感が低い傾向がみられた。特に、困窮状況が長く続いている家庭においてそうした傾向がみられることから、貧困初期段階での早期介入の重要性がうかがわれる。

４．保護者とこども・地域との関わり

（１）結果概要

○　おうちの大人と一緒に朝食をたべる機会が「ほぼない」と回答したこどもの割合は、一般層と比べて困窮層の方が高い。（図表 258）

○　小学生においては、おうちの大人と一緒に遊んだり体を動かしたりする機会や、学校生活の話をする機会、ニュースなど社会の出来事の話をする機会が困窮層ほど少ない傾向がみられる。（図表 264、図表 266、図表 268）

○　保護者が外国籍の場合にも、保護者からこどもへの関わり（学校生活の話をする、ニュースなどの社会のできごとについて話す）について、日常的に行っている割合が低い傾向がみられる。（図表 429、図表 430）

○　保護者の関わりとこどもの自己肯定感の関連をみると、生活困難度に関わらず、「がんばれば、むくわれる」「自分は価値のある人間だ」「自分のことが好きだ」といった自己肯定感は、保護者との関わりが多いほど高くなる傾向にあり、保護者との関わりとこどもの自己肯定感には高い相関関係がみられた。（図表 457～図表 465）

○　困ったときや悩みがあるときに相談できる相手や、近隣で挨拶をしたり悩みを相談できる知人等がいないと回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。（図表 99、図表 101、図表 103）

○　相談相手がいない割合は、貧困状態が継続している場合や、保護者が外国籍である場合にも高い。（図表 406、図表 432）

（２）考察

○　困窮層の家庭は家族間のコミュニケーションや外部とのコミュニケーションが少なく、孤立している可能性がうかがわれる。相談できる相手がいない世帯は、困窮の初期段階にあっても周囲が気づかず見落とされてしまい、困窮の問題が雪だるま式に肥大化してしまう可能性があるため、相談支援体制の充実や相談窓口のより効果的な周知の方法を検討する必要がある。

○　こどもにおいては、保護者との関わりが自己肯定感を高めることがうかがえたが、困窮層の場合、さまざまな要因からそうした関わりを十分にもてない保護者がいることも想定される。そうした家庭のこどもに対しても、居場所支援等を通じて、親以外の大人とのコミュニケーション機会やさまざまな体験の機会を確保していくことが重要である。

○　また、保護者が外国籍である場合、日本国籍の場合に比べてこどもとのコミュニケーションが少ない傾向がみられる。この背景には、外国籍保護者の多忙さだけでなく、親子間で日本語と母語の使用に差が生じ、コミュニケーションが難しくなっていることも一因として想定される。

○　加えて、外国籍の保護者の場合、相談相手や近隣の友人・知人がいないという割合も高いため、周囲からのサポートが得られないまま、親子のコミュニケーションが少なくこどもが孤立してしまうという可能性が懸念される。そのため、こうした外国籍家庭の保護者・こどもに対しても相談支援や居場所支援等をより充実させる必要がある。

５．保護者のこれまでの経験

（１）結果概要

○　保護者が最後に卒業した学校をみると、母親・父親ともに、「中学校」「高校」と回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。（図表 105、図表 106）

○　15 歳頃の暮らし向きが「やや苦しかった」「大変苦しかった」と回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。（図表 109）

○　成人する前に体験したこととして、「両親が離婚した」と回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。（図表 111）

○　こどもを持ってから経験したことをみると、「（元）配偶者（パートナー）から暴力をふるわれたことがある」「こどもに行き過ぎた体罰を与えたことがある」「育児放棄になった時期がある」「出産や育児でうつ（状態）になったことがある」「わが子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」「自殺を考えたことがある」と回答した保護者の割合は、いずれも一般層に比べて困窮層の方が高い。（図表 113）

○　世帯タイプ別にみると、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において、「（元）配偶者（パートナー）から暴力をふるわれたことがある」「自殺を考えたことがある」とする割合が高くなっている。また、「ひとり親（二世代）」においては、「こどもに行き過ぎた体罰を与えたことがある」「育児放棄になった時期がある」とする割合もやや高い。（図表 114）

（２）考察

○　困窮家庭では、保護者自身がこども時代に経済的に困窮していたり両親の離婚を経験していたりと厳しい家庭環境にあり、一般家庭に比べると教育水準にも差がみられ、世代を超えた困窮状況の連鎖がうかがえる。

○　また、困窮している家庭ほど配偶者からの暴力や保護者のうつ状態、希死念慮などが生じているとともに、こどもに対する体罰や育児放棄、虐待の傾向がうかがわれることから、経済状況だけでなく、こどもの育つ環境そのものにも負の連鎖が生じている可能性が示唆される。

○　こうした負の連鎖を断ち切り、こどもが置かれた環境によらず夢や希望をもつことができるようにするためには、こどもだけでなく保護者に対する相談支援等を充実させることが必要であると考えられる。

６．こどもの学びの状況

（１）結果概要

○　学校の授業が分からないと感じるこどもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が高く、中学生ではその傾向が顕著である。（図表 208）

○　自宅で宿題ができる場所がない、欲しいと回答したこどもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。（図表 287）

○　学校の授業が「あまりわからない／わからないことが多い／ほとんど分からない」と回答した者のうち、中学生において、勉強が分からないときに塾や習い事の先生が教えてくれると回答したこどもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が低い。（図表 209）

○　学習塾に通っていないこどもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。（図表 214）
○　学校の授業以外の勉強時間は、一般層に比べて困窮層の方が少ない。（図表 212）
○　将来、大学またはそれ以上まで進学したいと回答した中学生の割合は、一般層に比べて困窮層の方が低い。（図表 215）
○　世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、勉強がわからないときに教えてもらう人として「親」を挙げる割合は、ふたり親世帯に比べてひとり親世帯で低くなっている。また、中学生においてはひとり親世帯において「教えてもらえる人がいない」とする割合も高い。（図表 210）

（２）考察

○　困窮状況によって授業の理解度や学校外での学習環境・勉強時間に差がみられ、中学生においてその差が顕著に確認された。
○　また、中学生の進学希望にも差があり、困窮が影響して進学を諦めるこどもが一定数いることが推測される。
○　ひとり親世帯では、親が勉強を教えることが難しい状況にあることもうかがえ、こうしたこどもたちに対する学習支援の重要性が示唆される。

７．保護者の就労状況

（１）結果概要

○　小学生において、母親の就業状況は「パート・アルバイト」の割合が一般層よりも困窮層・周辺層において高くなっているが、中学生においては困窮状況による有意な差がみられない。（図表 19）
○　困窮層の場合、父親の就業形態は「民間企業の正社員」「公務員などの正職員」の割合が一般層での割合よりも低くなっている。（図表 21）
○　世帯タイプ別にみると、ふたり親世帯に比べて母子世帯（母親がいるひとり親世帯）の場合、母親が正社員・正職員として働いている割合が高いが、パート・アルバイトとして働いている割合も約３～４割となっている。（図表 20）
○　一方、父子世帯（父親がいるひとり親世帯）では、父親が正社員・正職員として働いている割合は約８～９割であり、母子世帯に比べて高くなっている。（図表 22）
○　保護者国籍別にみると、保護者が外国籍の場合、父親が非正規雇用（契約社員、パート・アルバイト等）や自営業で働いている割合が高い。（図表 427）

（２）考察

○　困窮層、周辺層、一般層の違いは、母親の就業状況よりも父親の就業状況との関係が強くみられる。
○　母子世帯の場合は父子世帯に比べて親が非正規雇用である割合が高く、世帯の困窮につながっていると推測される。非正規雇用で働く保護者に対する支援が必要であると考えられる。
○　また、保護者が外国籍の家庭では、父親が非正規雇用など不安定な就業状況におかれている傾向がみられており、こどもへの支援を検討するうえで、世帯全体の状況を考慮する必要性がうかがえる。

８．経済的支援制度の利用状況

（１）結果概要

○　経済的支援制度の利用状況をみると、一般層・周辺層だけでなく、困窮層においても、多くの支援制度について「利用したいと思ったことがなかった」が一定の割合を占めている。また、困窮層、周辺層において「利用したかったが条件を満たしていなかった」や「制度等について全く知らなかった」と回答した保護者が一定数存在する。（図表 151～図表 167）

○　児童扶養手当、就学援助費については、困窮層においても「現在利用している」と「利用したことがある」を合わせた割合が３～４割となっている。（図表 153、図表 157）

○　母子・父子・寡婦福祉資金や生活福祉資金について、困窮層では一般層に比べて「制度等について全く知らなかった」という割合が高くなっている。（図表 163、図表 165）

（２）考察

○　困窮層であっても、支援制度について「全く知らなかった」「利用したいと思ったことがなかった」という保護者が一定数存在しており、必要な家庭に支援制度が届いていない可能性がうかがえる。

○　こうしたことから、支援が必要なすべての家庭に必要な情報が提供できるよう、各支援制度の情報をわかりやすく伝える方法を検討するとともに、利用しやすい制度設計を検討していく必要がある。

９．子育て支援・相談機関の利用状況

（１）結果概要

○　こどもに関する支援制度等の情報の受け取り方法で最も割合の高いものは「学校からのお便り」。「行政の広報誌」や「学校からのメール」、「家族・友人」から情報を受け取っている割合は一般層に比べて困窮層の方が低い。（図表 191）

○　保護者国籍別にみると、保護者が外国籍の場合、行政の広報誌やＳＮＳ、家族・友人から情報を得ているという割合が低い。（図表 446）

○　公的機関の中で保護者が相談した経験があると回答した割合が最も高かった相談先は「学校や幼稚園、保育園の先生」となっている。一方、学校や幼稚園、保育園の先生に対し「相談したかったが抵抗感があった」と回答した保護者の割合は、一般層に比べて困窮層の方が高い。（図表 171）

○　小中学生いずれの保護者も、スクールカウンセラーに対して「相談したかったが抵抗感があった」、「相談する窓口や方法がわからなかった」と回答した割合は一般層に比べて困窮層で高い。（図表 173）

○　世帯タイプ別にみると、中学生の保護者において、ふたり親世帯に比べてひとり親世帯では「学校や幼稚園、保育園の先生」に相談したことがある割合が低い。（図表 172）

○　保護者国籍別にみると、いずれの相談先についても、保護者が「外国籍」の場合、「相談する窓口や方法がわからなかった」を選択している割合が高くなっている。（図表 435～図表 445）

○　子育て支援サービスの中で保護者が「利用したことはないが興味がある」とする割合が特に高いのは「学校以外が実施する学習支援」「こども食堂」「フードバンク等の食料支援」であ

り、小学生においては特に困窮層・周辺層で関心が高い。（図表 142、図表 145、図表 149）

○ 子育て支援サービスに関して世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、「ひとり親（二世代）」の場合に「放課後に過ごせる居場所」を利用したことがある割合が高い。また、ひとり親世帯の場合、「こども食堂」「フードバンク等の食料支援」を「利用したことはないが興味がある」とする割合が高い。（図表 138、図表 146、図表 150）

（2）考察

○ こどもに関する支援制度等の情報の受け取り先や、相談する先としていずれも学校が中心となっているが、困窮層やひとり親世帯ほど学校への相談に対して抵抗感を感じ、相談できていない可能性がある。

○ 各支援サービスの中で、利用したことはないが興味があるという回答が多いもの（学校外の学習支援、こども食堂、フードバンク等）については、必要な人に支援が届いていない可能性があるため、提供しているサービスの過不足量や周知の方法について検討していく必要がある。

○ また、保護者が外国籍である場合、両方が日本国籍の家庭に比べると情報が届きづらく、相談したくても窓口や方法がわからないという課題を抱えている可能性が高い。こうした家庭に対しては、情報提供の方法や内容について配慮をする必要がある。

10. 新型コロナウイルス感染症の影響

（1）結果概要

○ 新型コロナウイルス感染症が流行し始めた頃（2020 年頃）とそれまでの変化を聞いたところ、小中学生いずれの保護者においても、「世帯全体の収入」が減ったと回答した割合や、「お金が足りなくて必要な食料や衣服を買えないこと」「保護者自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」等が増えたと回答した割合は、一般層よりも困窮層で高い。（図表 85～図表 91）

○ こどもにおいては、小中学生いずれも、「学校の授業がわからないと感じること」が増えたと回答した割合は、一般層よりも困窮層で高い。（図表 382）

（2）考察

○ 新型コロナウイルス感染症による影響は特に困窮層において大きかった。困窮層の保護者は経済面・メンタル面で大きな影響を受けていた一方、こどもにおいては休校等による学習の遅れの格差が拡大していたことが推察される。

Ⅲ．基本集計

１．保護者アンケート集計結果

（１）基本属性

1） お子さんからみた同居家族の続柄

小学生の「全体」では、「母親」が 98.2%でもっとも割合が高く、次いで「父親」が 91.7%となっている。

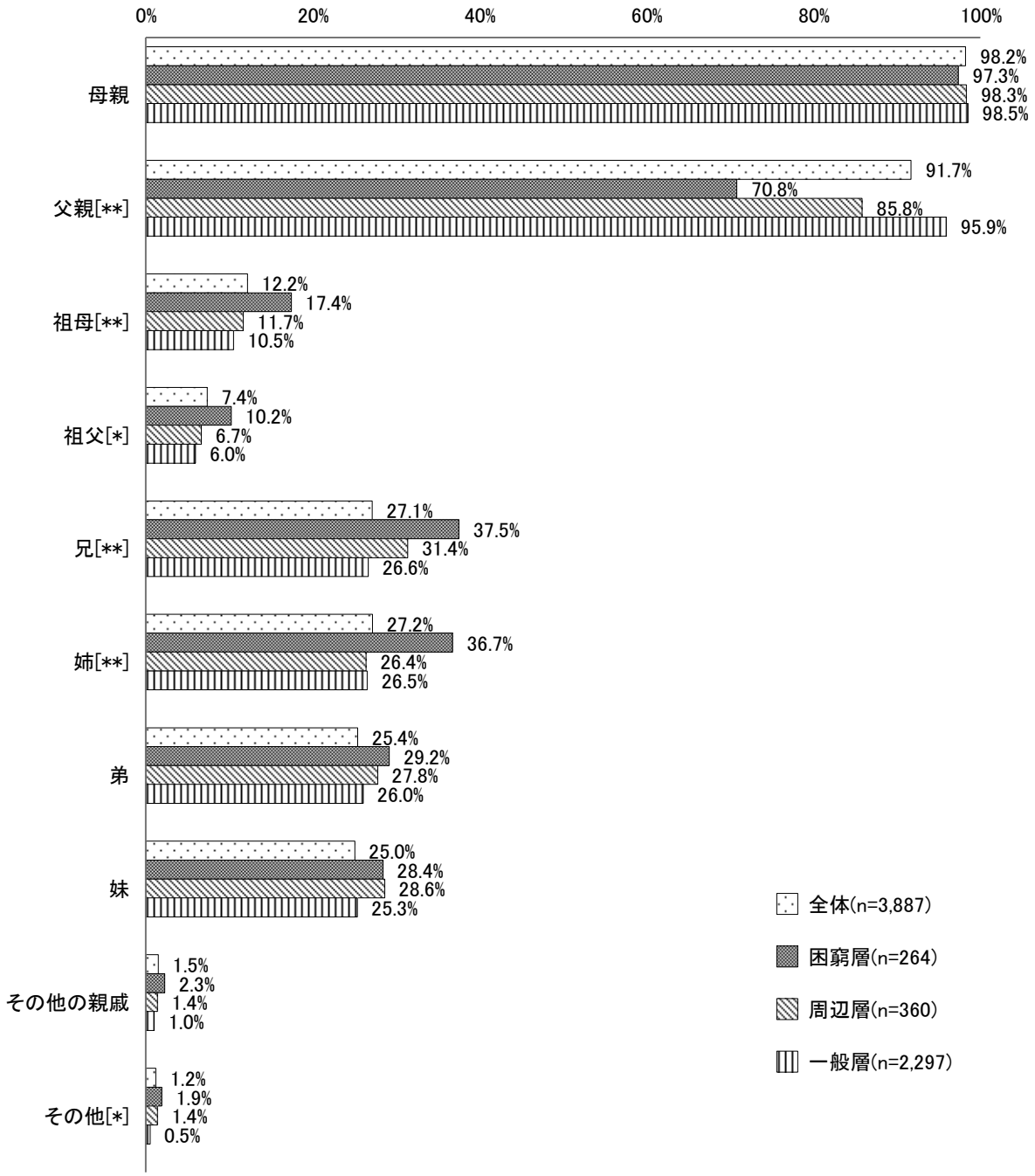
「困窮層」では、「母親」が 97.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「母親」が 98.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「母親」が 98.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「母親」が 98.0%でもっとも割合が高く、次いで「父親」が 89.4%となっている。

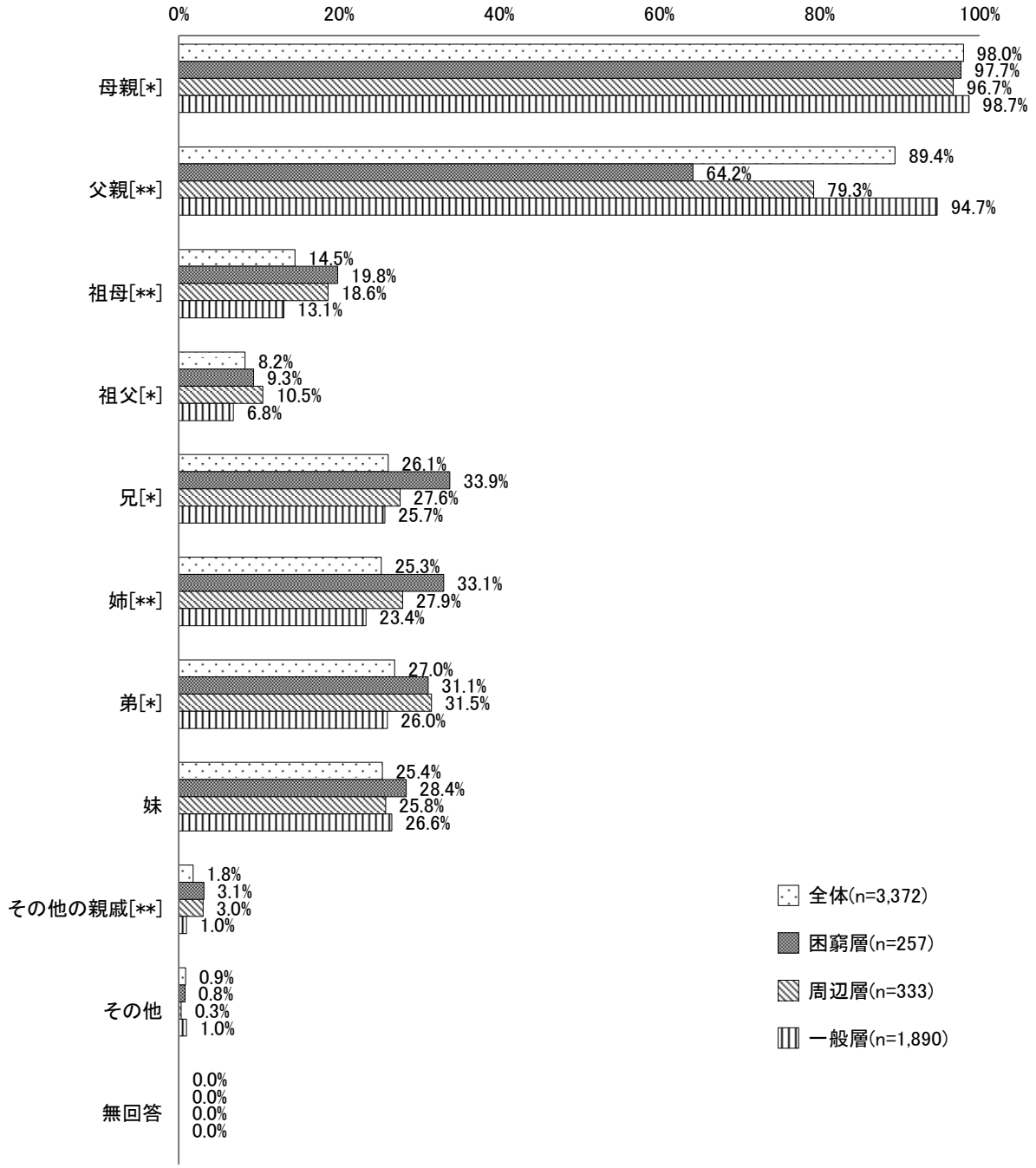
「困窮層」では、「母親」が 97.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「母親」が 96.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「母親」が 98.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 12　お子さんからみた同居家族の続柄：複数回答（Q4）（生活困難度別）

＜小学生＞



＜中学生＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
母親[*]
98.0%
97.7%
96.7%
98.7%
父親[**]
89.4%
64.2%
79.3%
94.7%
祖母[**]
14.5%
19.8%
18.6%
13.1%
祖父[*]
8.2%
9.3%
10.5%
6.8%
兄[*]
26.1%
33.9%
27.6%
25.7%
姉[**]
25.3%
33.1%
27.9%
23.4%
弟[*]
27.0%
31.1%
31.5%
26.0%
妹
25.4%
28.4%
25.8%
26.6%
その他の親戚[**]
1.8%
3.1%
3.0%
1.0%
その他
0.9%
0.8%
0.3%
1.0%
無回答
0.0%
0.0%
0.0%
0.0%
全体(n=3,372)
困窮層(n=257)
周辺層(n=333)
一般層(n=1,890)

2) 要介護者の有無

小学生の「全体」では、「いない」が 94.6%でもっとも割合が高く、次いで「いる」が 5.2%となっている。

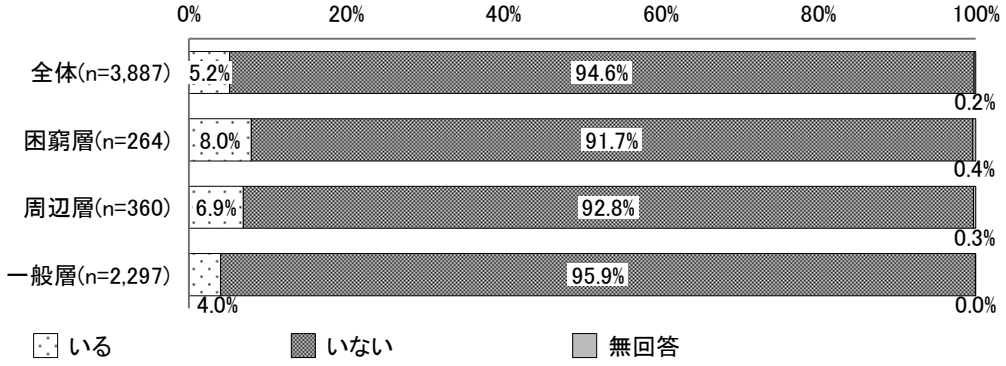
「困窮層」では、「いない」が 91.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いない」が 92.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いない」が 95.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「いない」が 92.4%でもっとも割合が高く、次いで「いる」が 7.3%となっている。

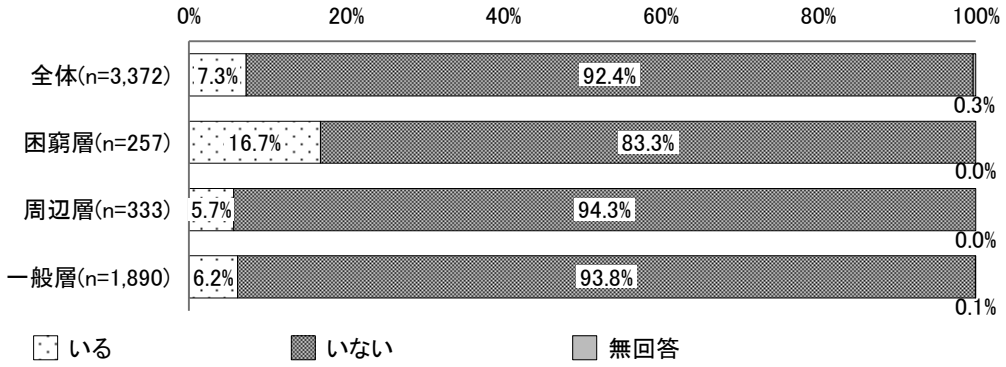
「困窮層」では、「いない」が 83.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いない」が 94.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いない」が 93.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 13　要介護者の有無：単数回答（Q5）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



3) 親の婚姻状況

小学生の「全体」では、「結婚している」が 90.5%でもっとも割合が高く、次いで「離婚」が 7.4%となっている。

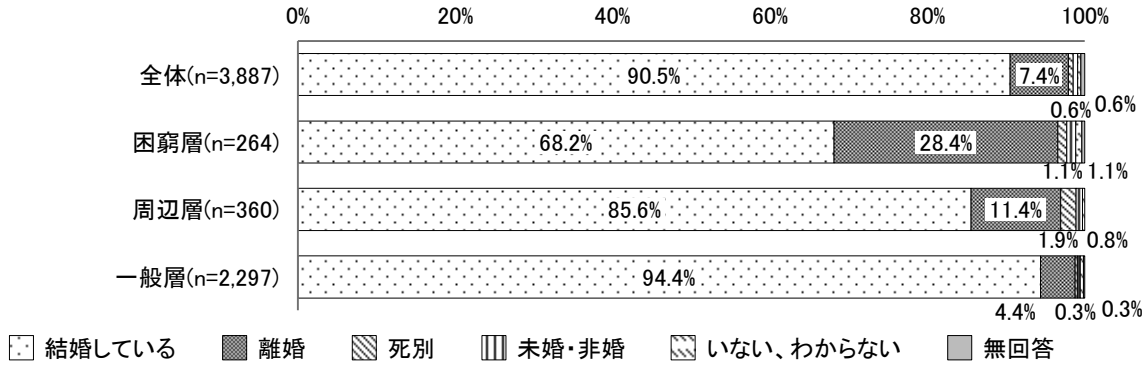
「困窮層」では、「結婚している」が 68.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「結婚している」が 85.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「結婚している」が 94.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「結婚している」が 88.6%でもっとも割合が高く、次いで「離婚」が 8.8%となっている。

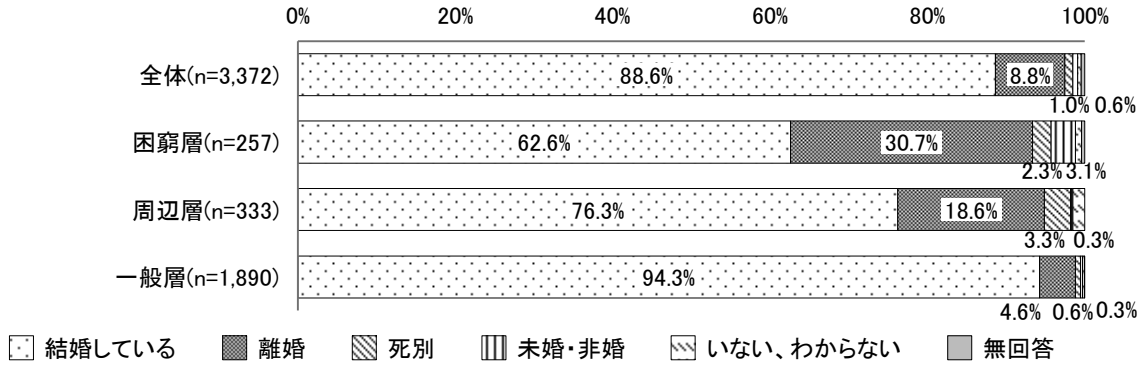
「困窮層」では、「結婚している」が 62.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「結婚している」が 76.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「結婚している」が 94.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 14　親の婚姻状況：単数回答（Q6）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q6 親の婚姻状況					
		結婚している	離婚	死別	未婚・非婚	いない、わからない	無回答
全体	3,887	90.5	7.4	0.6	0.6	0.4	0.5
困窮層	264	68.2	28.4	1.1	1.1	0.8	0.4
周辺層	360	85.6	11.4	1.9	0.8	0.3	0.0
一般層	2,297	94.4	4.4	0.3	0.3	0.4	0.2

＜数値表：中学生＞

	合計	Q6 親の婚姻状況					
		結婚している	離婚	死別	未婚・非婚	いない、わからない	無回答
全体	3,372	88.6	8.8	1.0	0.6	0.4	0.4
困窮層	257	62.6	30.7	2.3	3.1	0.8	0.4
周辺層	333	76.3	18.6	3.3	0.3	1.5	0.0
一般層	1,890	94.3	4.6	0.6	0.3	0.2	0.1

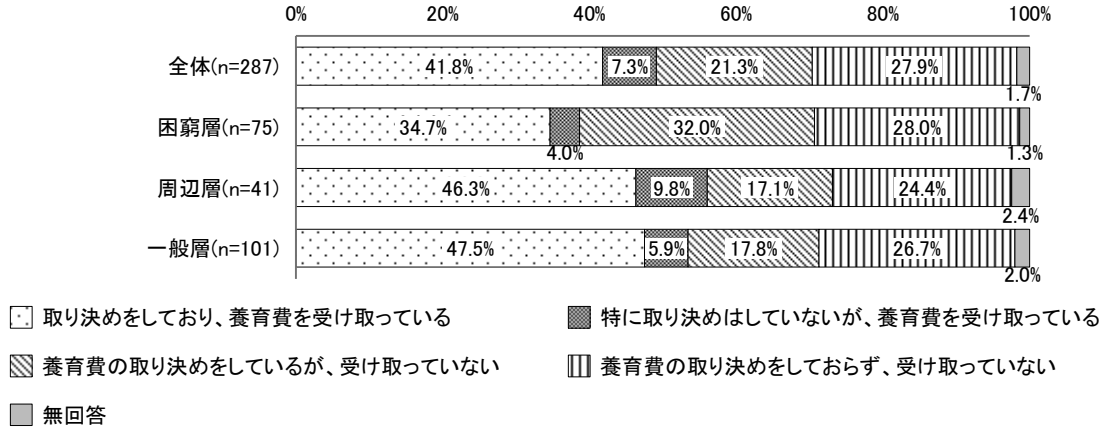
4） 養育費の取り決め状況

小学生の「全体」では、「取り決めをしており、養育費を受け取っている」が 41.8%でもっとも割合が高く、次いで「養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない」が 27.9%となっている。「困窮層」では、「取り決めをしており、養育費を受け取っている」が 34.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「取り決めをしており、養育費を受け取っている」が 46.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「取り決めをしており、養育費を受け取っている」が 47.5%でもっとも割合が高くなっている。

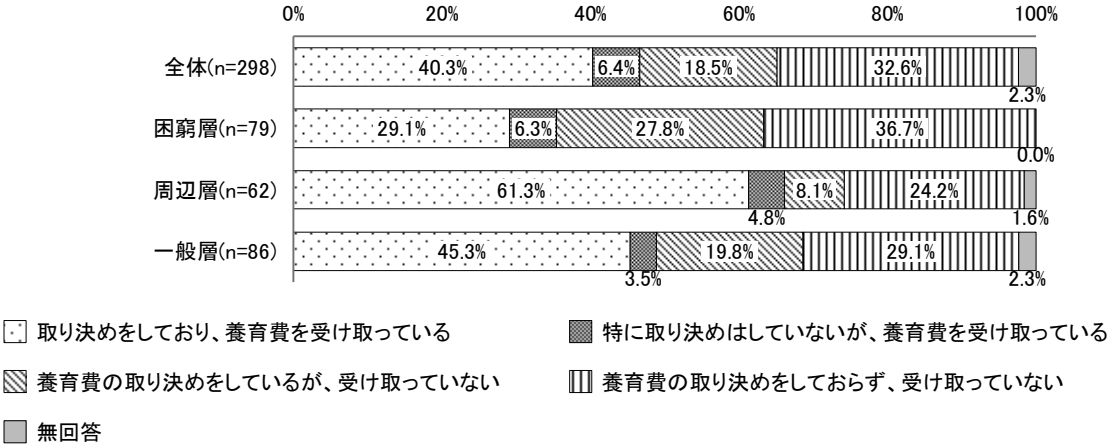
中学生の「全体」では、「取り決めをしており、養育費を受け取っている」が 40.3%でもっとも割合が高く、次いで「養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない」が 32.6%となっている。「困窮層」では、「養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない」が 36.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「取り決めをしており、養育費を受け取っている」が 61.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「取り決めをしており、養育費を受け取っている。」が 45.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 15　養育費の取り決め状況：単数回答（Q7①）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.01）



注）対象は Q6 で「離婚」と回答した者に限定

5)　金額の満足度

小学生の「全体」では、「十分ではない」が 68.1%でもっとも割合が高く、次いで「十分である」が 29.1%となっている。

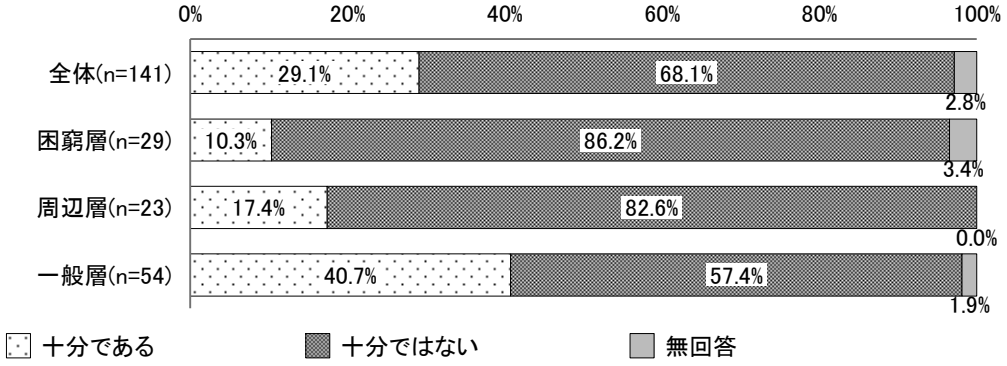
「困窮層」では、「十分ではない」が 86.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「十分ではない」が 82.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「十分ではない」が 57.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「十分ではない」が 74.1%でもっとも割合が高く、次いで「十分である」が 24.5%となっている。

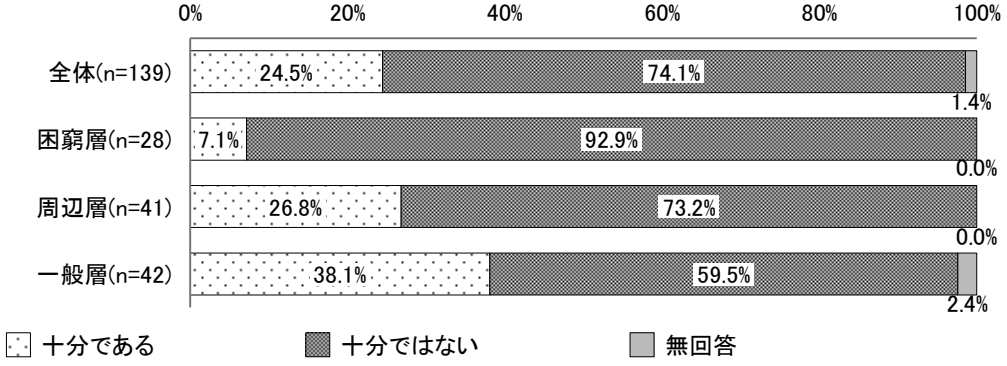
「困窮層」では、「十分ではない」が 92.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「十分ではない」が 73.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「十分ではない」が 59.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 16　金額の満足度：単数回答（Q7②）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.05）



注）対象は Q7①で「取り決めをしており、養育費を受け取っている」「特に取り決めはしていないが、養育費を受け取っている」と回答した者に限定

6） 母親の国籍

小学生の「全体」では、「日本」が 96.7%でもっとも割合が高く、次いで「日本以外」が 1.9%となっている。

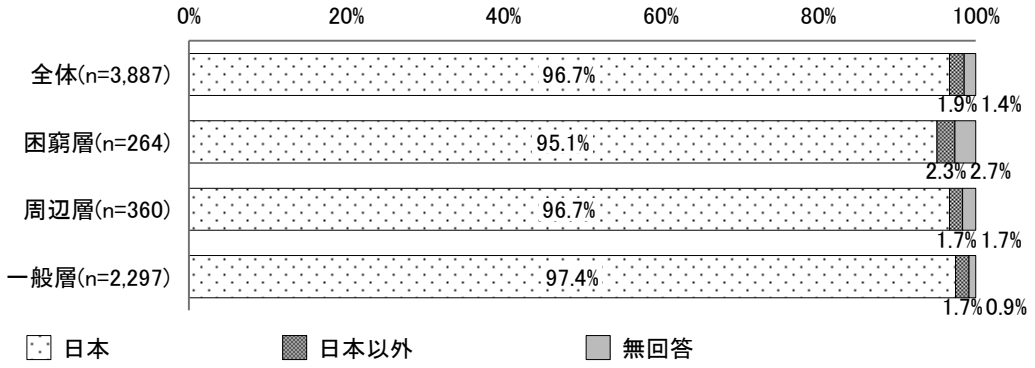
「困窮層」では、「日本」が 95.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「日本」が 96.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「日本」が 97.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「日本」が 96.9%でもっとも割合が高く、次いで「日本以外」が 1.8%となっている。

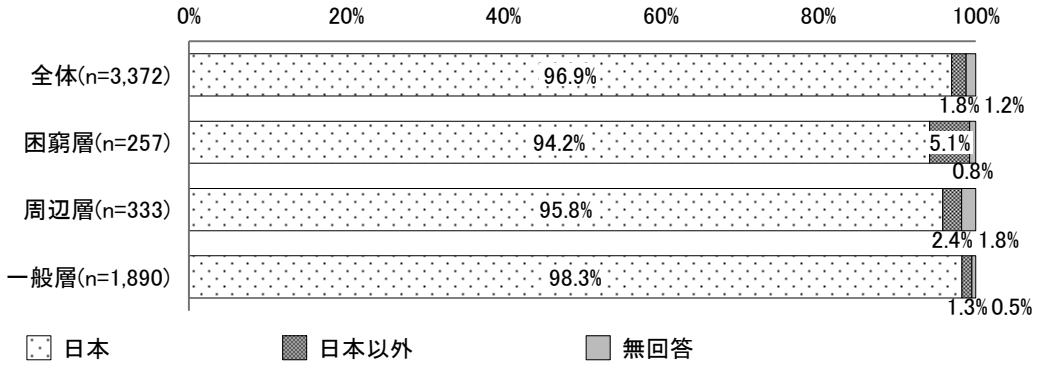
「困窮層」では、「日本」が 94.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「日本」が 95.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「日本」が 98.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 17　母親の国籍：単数回答（Q8A）（生活困難度別１.）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.01）



7)　父親の国籍

小学生の「全体」では、「日本」が 95.7%でもっとも割合が高く、次いで「日本以外」が 1.6%となっている。

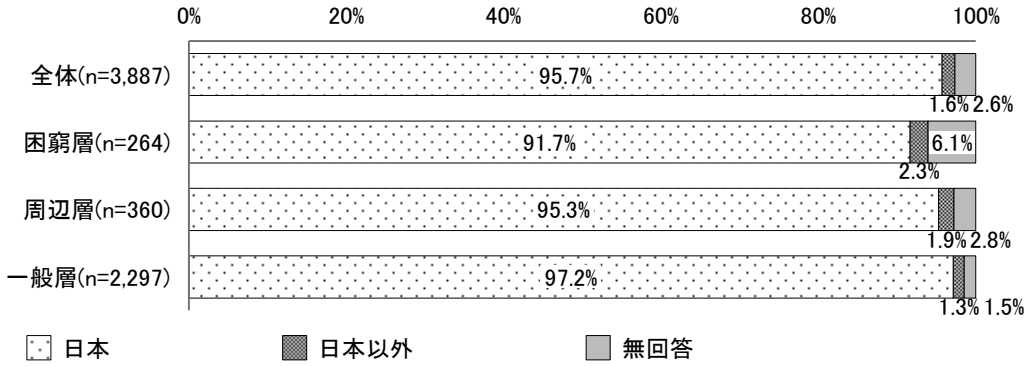
「困窮層」では、「日本」が 91.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「日本」が 95.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「日本」が 97.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「日本」が 96.1%でもっとも割合が高く、次いで「日本以外」が 1.4%となっている。

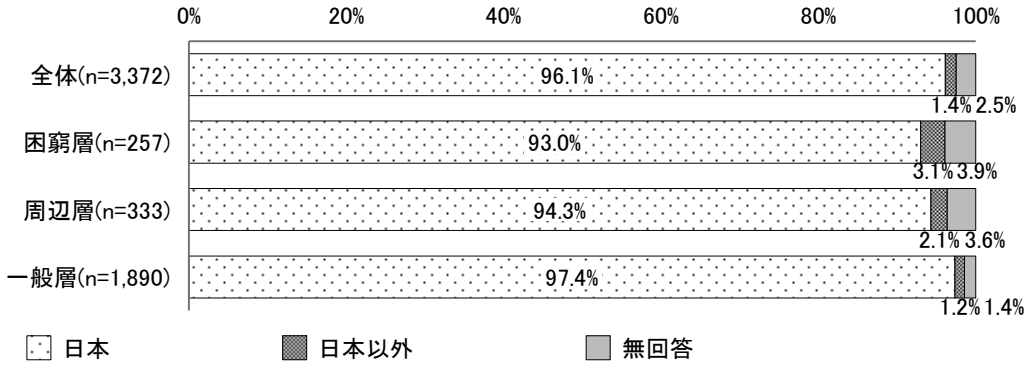
「困窮層」では、「日本」が 93.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「日本」が 94.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「日本」が 97.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 18　父親の国籍：単数回答（Q8B）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.05）



（２）保護者の就業状況・収入状況

1)　母親の就業状況

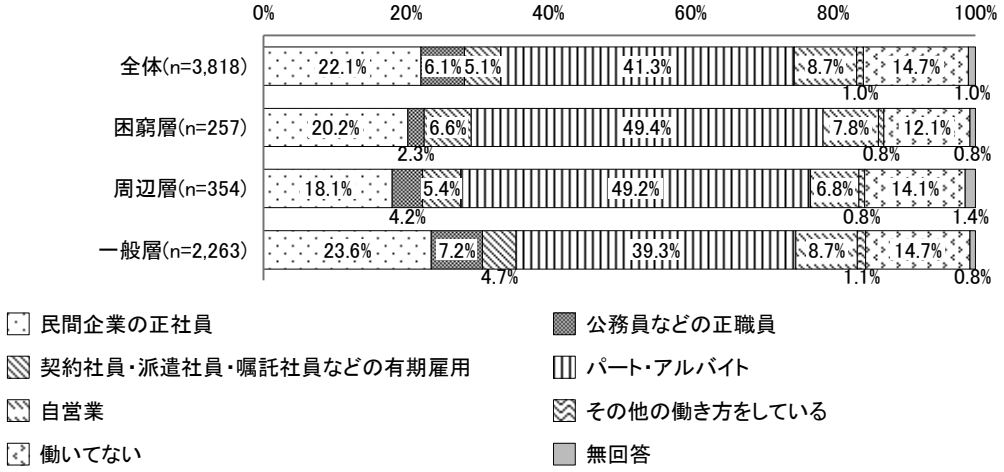
母親と同居している場合について、母親の就業状況をみると、小学生の「全体」では、「パート・アルバイト」が 41.3%でもっとも割合が高く、次いで「民間企業の正社員」が 22.1%となっている。「困窮層」では、「パート・アルバイト」が 49.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「パート・アルバイト」が 49.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「パート・アルバイト」が 39.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「パート・アルバイト」が 46.1%でもっとも割合が高く、次いで「民間企業の正社員」が 20.0%となっている。

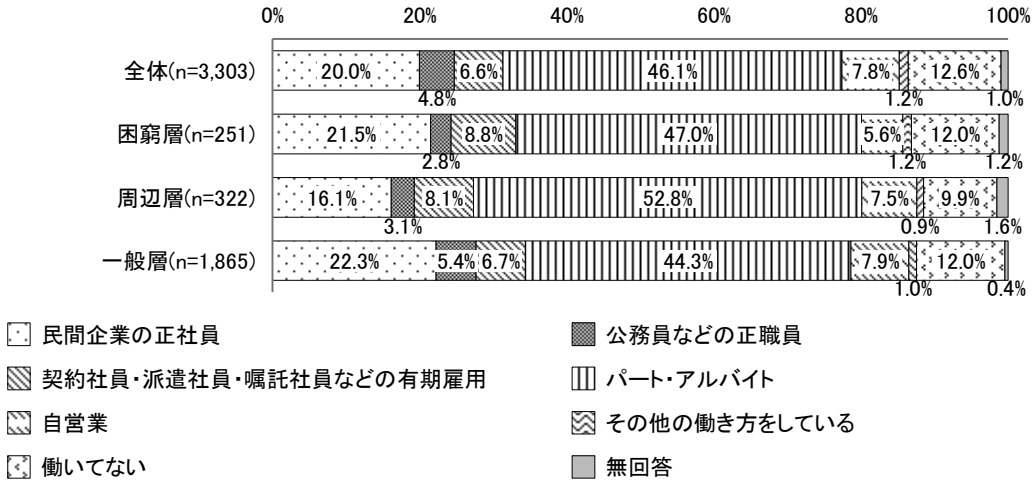
「困窮層」では、「パート・アルバイト」が 47.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「パート・アルバイト」が 52.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「パート・アルバイト」が 44.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 19　母親の就業状況：単数回答（Q9）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（有意差なし）

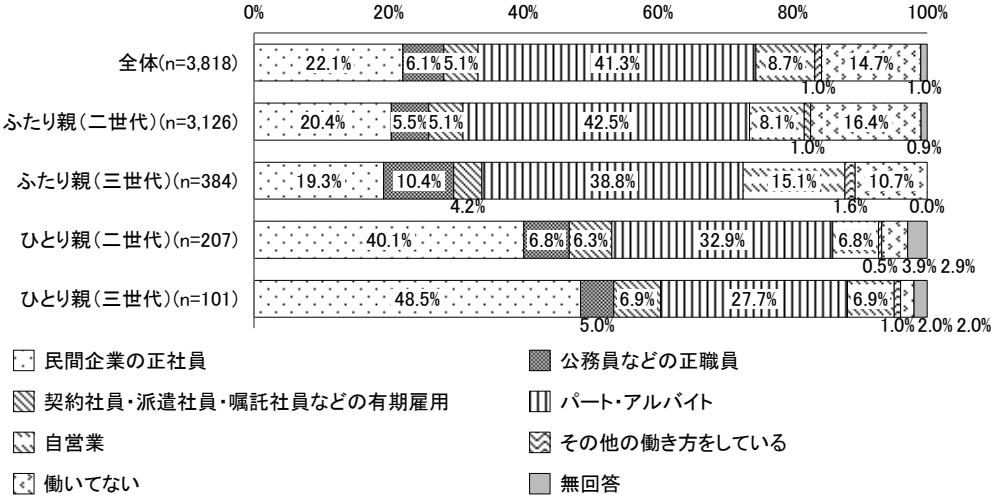


注）対象は Q4 で「母親と同居」と回答した者に限定

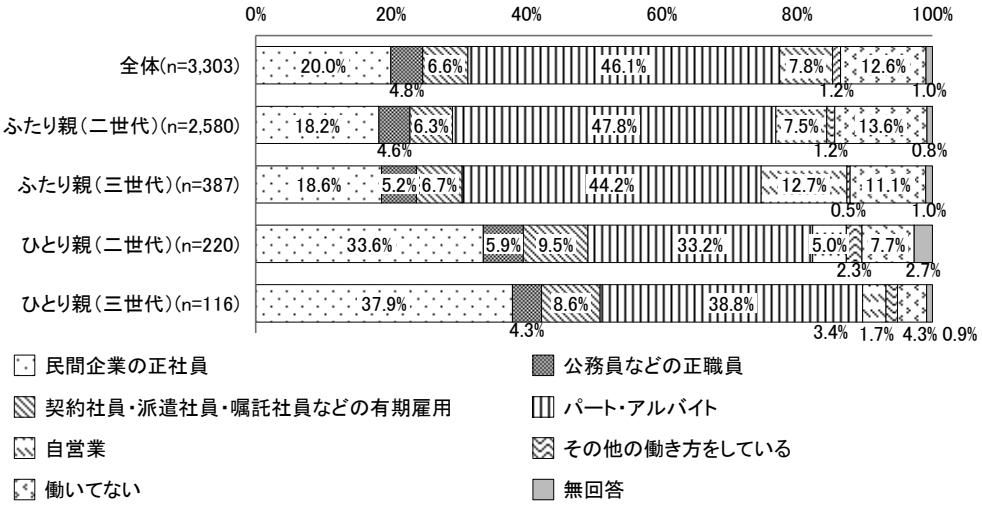
世帯タイプ別にみると、小学生・中学生ともに、「ふたり親（二世代）」「ふたり親（三世代）」では「パート・アルバイト」の割合が高く、「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」では「民間企業の正社員」の割合が高くなっている。

図表 20　母親の就業状況：単数回答（Q9）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



注）対象は Q4 で「母親と同居」と回答した者に限定

2) 父親の就業状況

父親と同居している場合について、父親の就業状況をみると、小学生の「全体」では、「民間企業の正社員」が 71.5%でもっとも割合が高く、次いで「自営業」が 12.6%となっている。

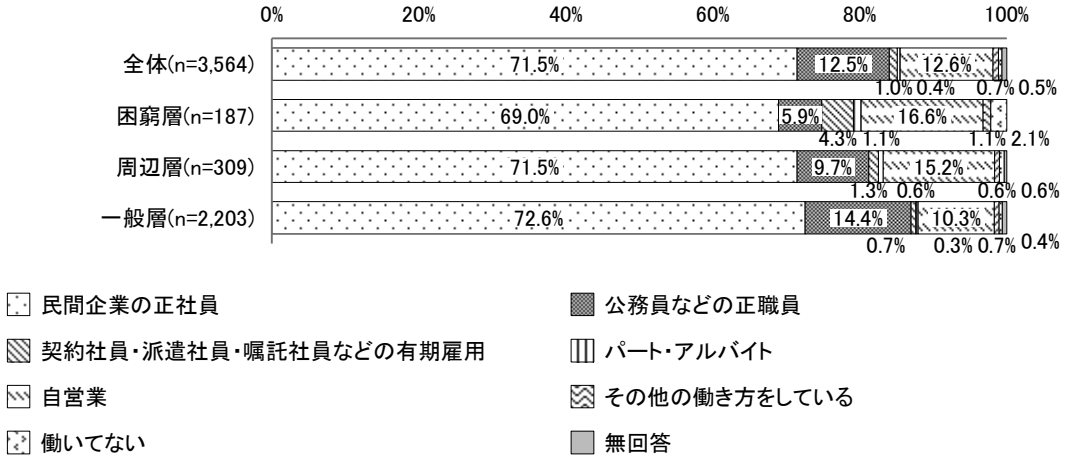
「困窮層」では、「民間企業の正社員」が 69.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「民間企業の正社員」が 71.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「民間企業の正社員」が 72.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「民間企業の正社員」が 71.9%でもっとも割合が高く、次いで「自営業」が 12.4%となっている。

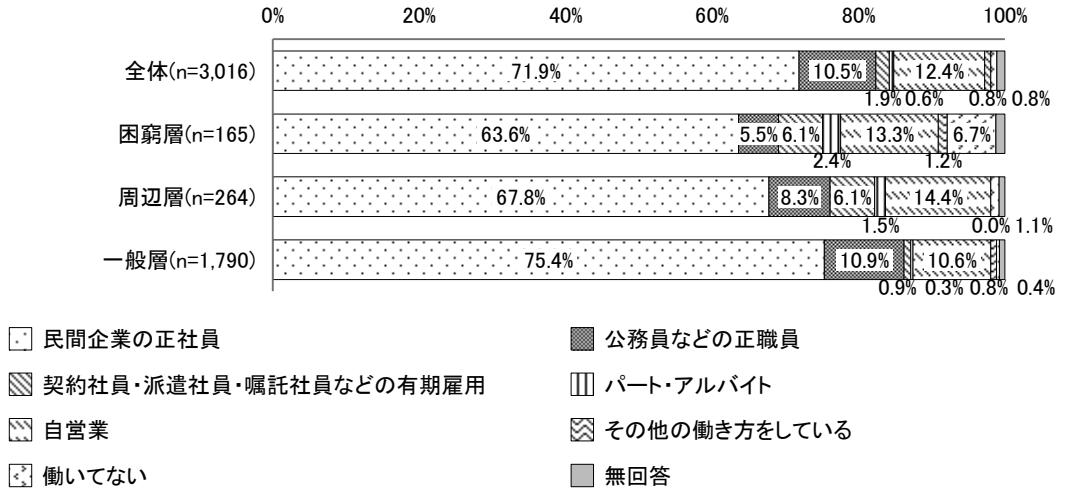
「困窮層」では、「民間企業の正社員」が 63.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「民間企業の正社員」が 67.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「民間企業の正社員」が 75.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 21　父親の就業状況：単数回答（Q10）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



注）対象は Q4 で「父親と同居」と回答した者に限定

＜数値表：小学生＞

	合計	Q10 父親の就業状況								
		民間企業の正社員	公務員などの正職員	契約社員・派遣社員・嘱託社員などの有期雇用	パート・アルバイト	自営業	その他の働き方をしている	働いてない	無回答	非該当
全体	3,564	71.5	12.5	1.0	0.4	12.6	0.7	0.5	0.6	
困窮層	187	69.0	5.9	4.3	1.1	16.6	1.1	2.1	0.0	
周辺層	309	71.5	9.7	1.3	0.6	15.2	0.6	0.6	0.3	
一般層	2,203	72.6	14.4	0.7	0.3	10.3	0.7	0.4	0.6	

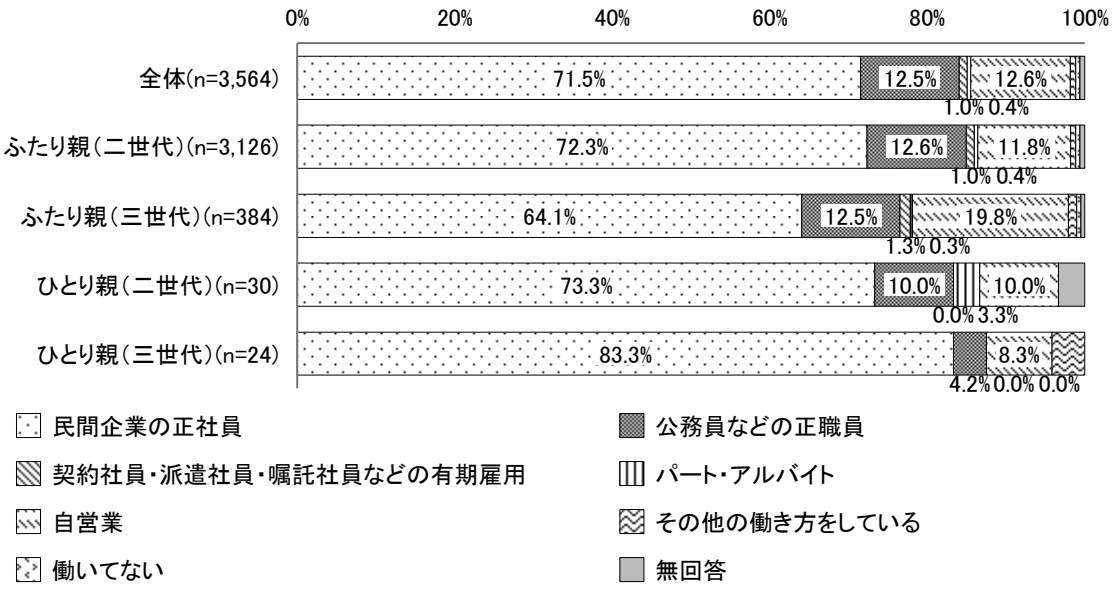
＜数値表：中学生＞

	合計	Q10 父親の就業状況								
		民間企業の正社員	公務員などの正職員	契約社員・派遣社員・嘱託社員などの有期雇用	パート・アルバイト	自営業	その他の働き方をしている	働いてない	無回答	非該当
全体	3,016	71.9	10.5	1.9	0.6	12.4	0.8	0.8	1.1	
困窮層	165	63.6	5.5	6.1	2.4	13.3	1.2	6.7	1.2	
周辺層	264	67.8	8.3	6.1	1.5	14.4	0.0	1.1	0.8	
一般層	1,790	75.4	10.9	0.9	0.3	10.6	0.8	0.4	0.7	

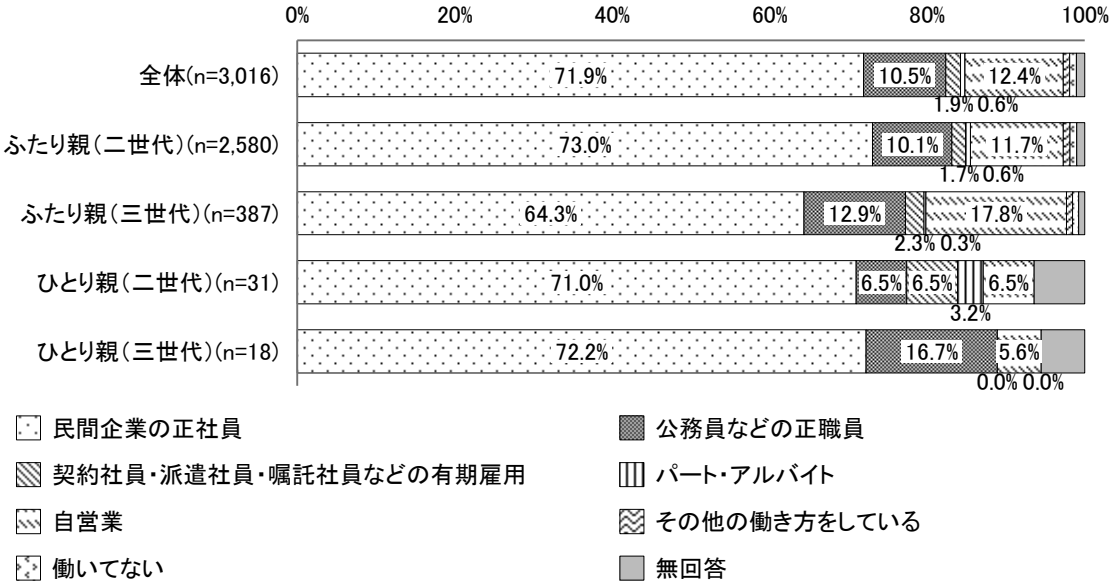
世帯タイプ別にみると、小学生・中学生ともに、「ふたり親（三世代）」では「自営業」の割合が高くなっている。

図表 22　父親の就業状況：単数回答（Q10）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.05）



注）対象は Q4 で「父親と同居」と回答した者に限定

＜数値表：小学生＞

	合計	Q10 父親の就業状況							
		民間企業の正社員	公務員などの正職員	契約社員・派遣社員・嘱託社員などの有期雇用	パート・アルバイト	自営業	その他の働き方をしている	働いてない	無回答
全体	3,564	71.5	12.5	1.0	0.4	12.6	0.7	0.5	0.6
ふたり親（二世代）	3,126	72.3	12.6	1.0	0.4	11.8	0.6	0.5	0.6
ふたり親（三世代）	384	64.1	12.5	1.3	0.3	19.8	1.0	0.5	0.5
ひとり親（二世代）	30	73.3	10.0	0.0	3.3	10.0	0.0	0.0	3.3
ひとり親（三世代）	24	83.3	4.2	0.0	0.0	8.3	4.2	0.0	0.0

＜数値表：中学生＞

	合計	Q10 父親の就業状況							
		民間企業の正社員	公務員などの正職員	契約社員・派遣社員・嘱託社員などの有期雇用	パート・アルバイト	自営業	その他の働き方をしている	働いてない	無回答
全体	3,016	71.9	10.5	1.9	0.6	12.4	0.8	0.8	1.1
ふたり親（二世代）	2,580	73.0	10.1	1.7	0.6	11.7	0.9	0.9	1.0
ふたり親（三世代）	387	64.3	12.9	2.3	0.3	17.8	0.8	0.8	0.8
ひとり親（二世代）	31	71.0	6.5	6.5	3.2	6.5	0.0	0.0	6.5
ひとり親（三世代）	18	72.2	16.7	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	5.6

3) 世帯全員の年間収入

小学生の「全体」では、「900 万円以上」が 26.5%でもっとも割合が高く、次いで「600～700 万円未満」が 13.0%となっている。

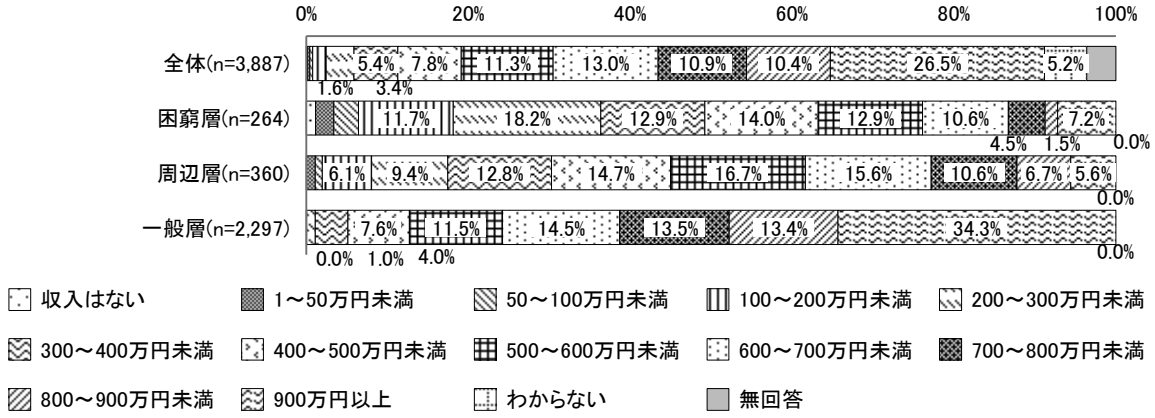
「困窮層」では、「200～300 万円未満」が 18.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「500～600 万円未満」が 16.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「900 万円以上」が 34.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「900 万円以上」が 24.6%でもっとも割合が高く、次いで「600～700 万円未満」が 12.2%となっている。

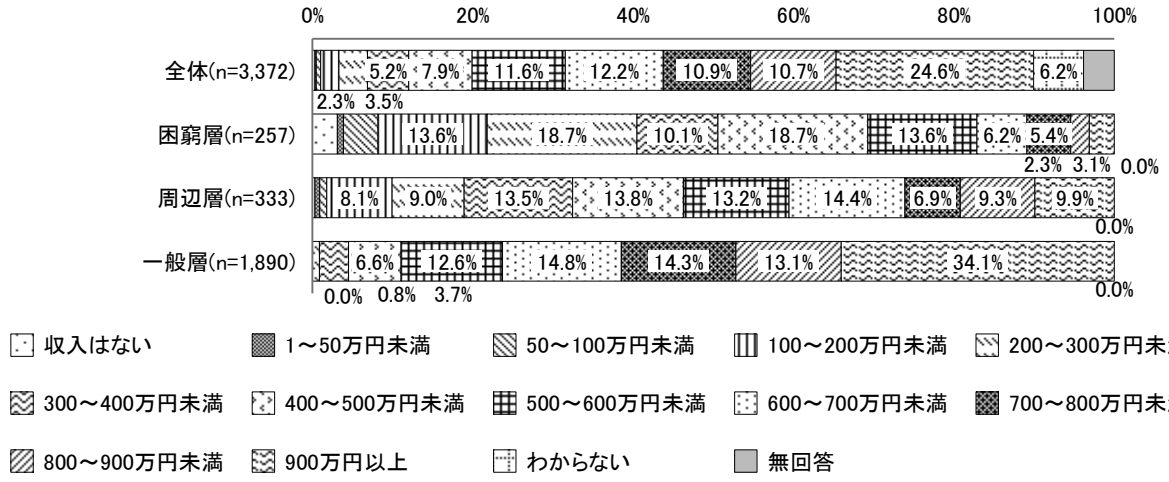
「困窮層」では、「200～300 万円未満」「400～500 万円未満」が 18.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「600～700 万円未満」が 14.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「900 万円以上」が 34.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 23　世帯全員の年間収入：単数回答（Q11）（生活困難度別）

＜小学生＞（検定不可）



＜中学生＞（検定不可）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q11 世帯全員の年間収入													
		収入はない	1～50万円未満	50～100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900万円以上	わからない	無回答
全体	3,887	0.1	0.3	0.4	1.6	3.4	5.4	7.8	11.3	13.0	10.9	10.4	26.5	5.2	3.6
困窮層	264	1.1	2.3	3.0	11.7	18.2	12.9	14.0	12.9	10.6	4.5	1.5	7.2	0.0	0.0
周辺層	360	0.0	1.1	0.8	6.1	9.4	12.8	14.7	16.7	15.6	10.6	6.7	5.6	0.0	0.0
一般層	2,297	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	4.0	7.6	11.5	14.5	13.5	13.4	34.3	0.0	0.0

＜数値表：中学生＞

	合計	Q11 世帯全員の年間収入													
		収入はない	1～50万円未満	50～100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900万円以上	わからない	無回答
全体	3,372	0.3	0.2	0.5	2.3	3.5	5.2	7.9	11.6	12.2	10.9	10.7	24.6	6.2	3.9
困窮層	257	3.1	0.8	4.3	13.6	18.7	10.1	18.7	13.6	6.2	5.4	2.3	3.1	0.0	0.0
周辺層	333	0.3	0.6	0.9	8.1	9.0	13.5	13.8	13.2	14.4	6.9	9.3	9.9	0.0	0.0
一般層	1,890	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	3.7	6.6	12.6	14.8	14.3	13.1	34.1	0.0	0.0

4） 母親の年間収入

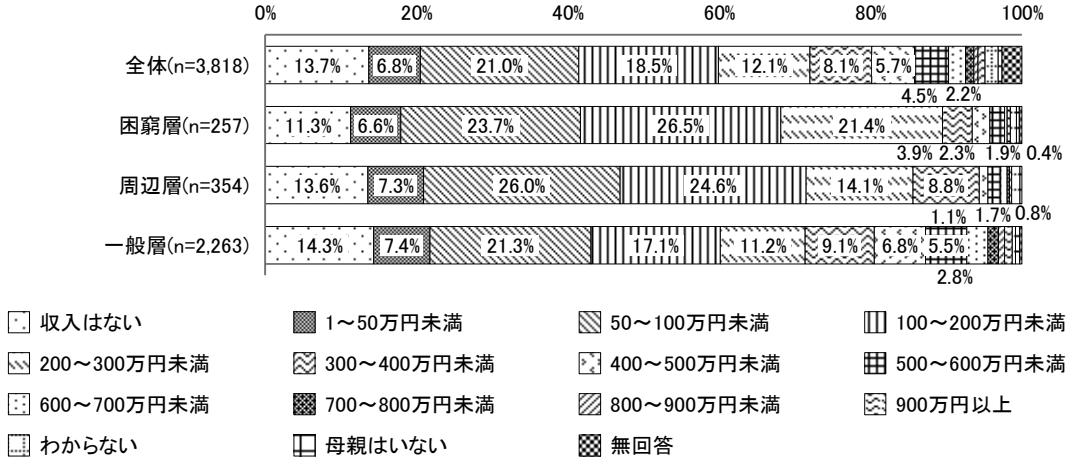
母親と同居している場合について、母親の年間収入をみると、小学生の「全体」では、「50～100万円未満」が 21.0%でもっとも割合が高く、次いで「100～200 万円未満」が 18.5%となっている。「困窮層」では、「100～200 万円未満」が 26.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「50～100 万円未満」が 26.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「50～100 万円未満」が 21.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「50～100 万円未満」が 23.0%でもっとも割合が高く、次いで「100～200 万円未満」が 21.8%となっている。

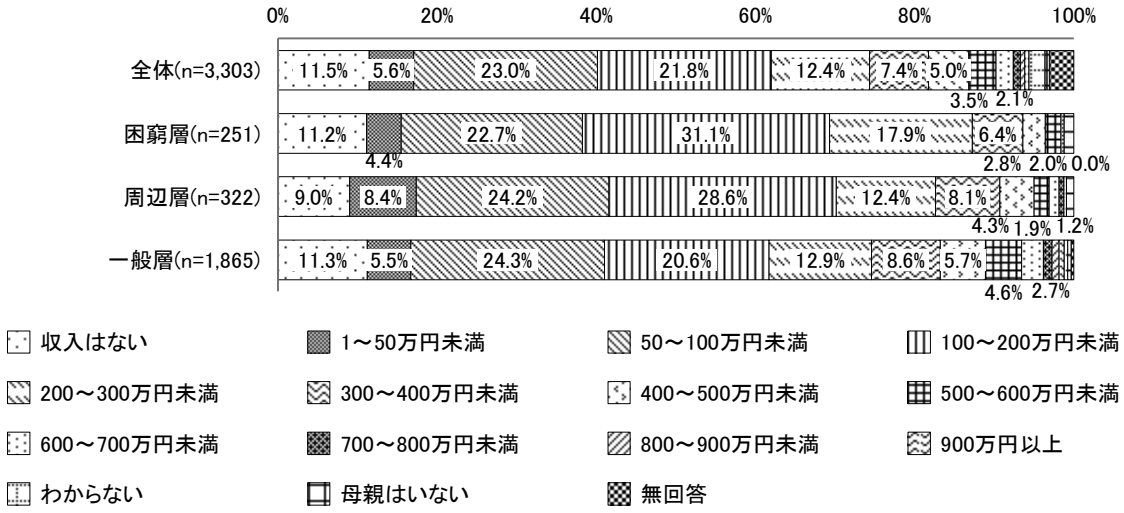
「困窮層」では、「100～200 万円未満」が 31.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「100～200 万円未満」が 28.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「50～100 万円未満」が 24.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 24　母親の年間収入：単数回答（Q12）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



注）対象は Q4 で「母親と同居」と回答した者に限定

＜数値表：小学生＞

	合計	Q12 母親の年間収入														
		収入はない	1～50万円未満	50～100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900万円以上	わからない	母親はいない	無回答
全体	3,818	13.7	6.8	21.0	18.5	12.1	8.1	5.7	4.5	2.2	1.1	0.6	0.9	1.8	0.5	2.7
困窮層	257	11.3	6.6	23.7	26.5	21.4	3.9	2.3	1.9	0.4	0.0	0.0	0.4	0.8	0.4	0.4
周辺層	354	13.6	7.3	26.0	24.6	14.1	8.8	1.1	1.7	0.8	0.3	0.0	0.3	1.1	0.3	0.0
一般層	2,263	14.3	7.4	21.3	17.1	11.2	9.1	6.8	5.5	2.8	1.4	0.8	1.1	0.4	0.6	0.3

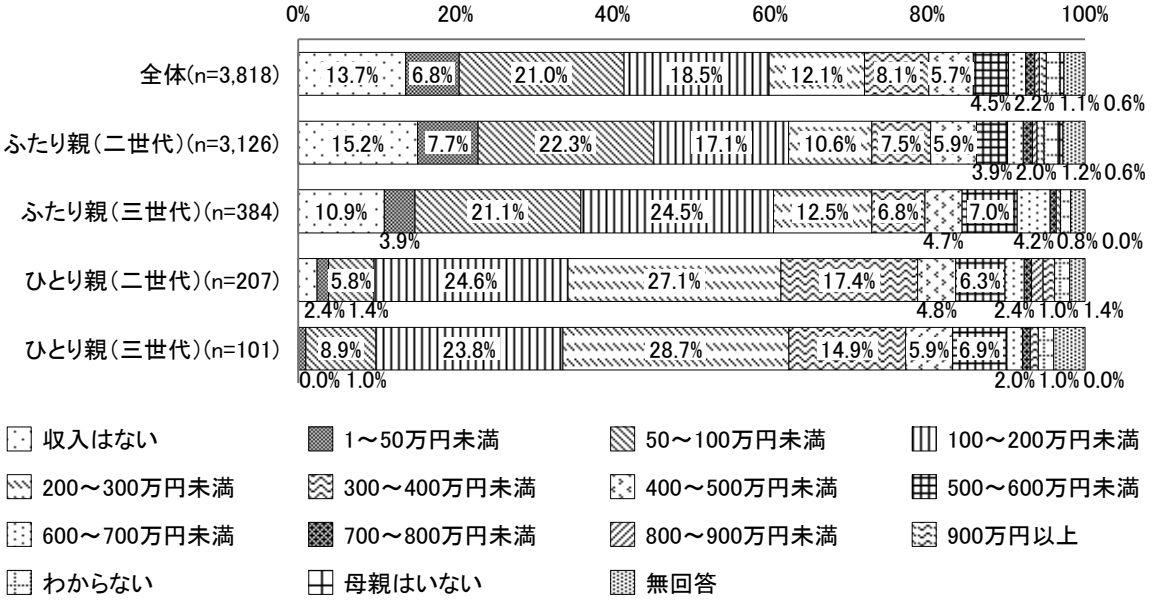
＜数値表：中学生＞

	合計	Q12 母親の年間収入														
		収入はない	1～50万円未満	50～100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900万円以上	わからない	母親はいない	無回答
全体	3,303	11.5	5.6	23.0	21.8	12.4	7.4	5.0	3.5	2.1	0.9	0.6	0.5	2.0	0.6	3.0
困窮層	251	11.2	4.4	22.7	31.1	17.9	6.4	2.8	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	1.2	0.0
周辺層	322	9.0	8.4	24.2	28.6	12.4	8.1	4.3	1.9	1.2	0.6	0.0	0.0	0.3	0.9	0.0
一般層	1,865	11.3	5.5	24.3	20.6	12.9	8.6	5.7	4.6	2.7	1.1	0.9	0.7	0.4	0.4	0.3

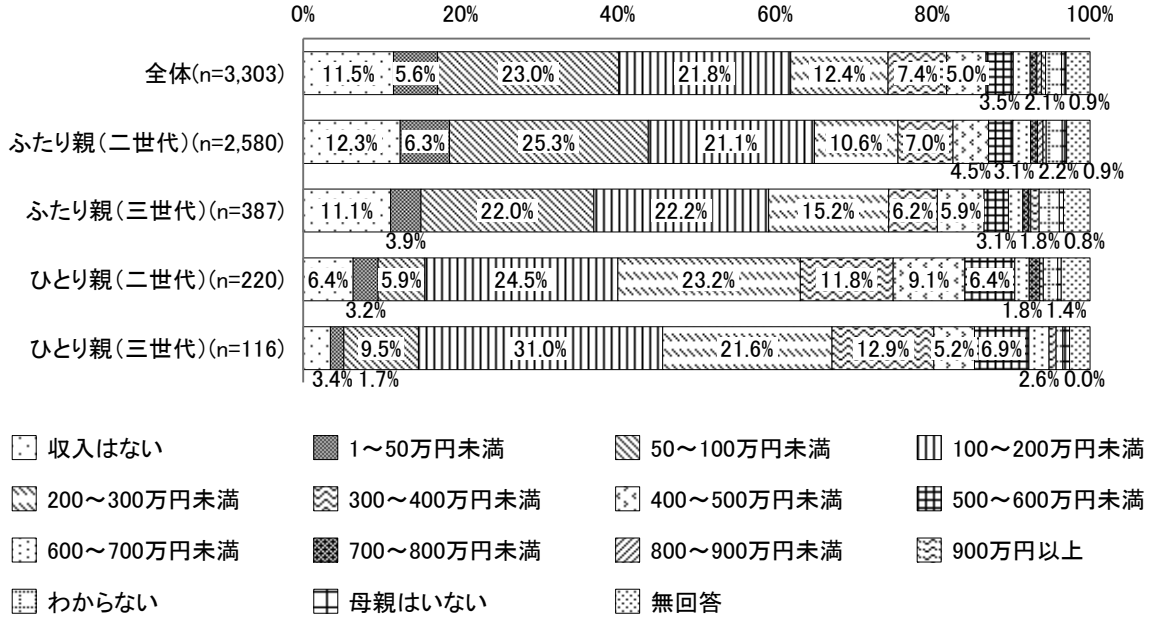
世帯タイプ別にみると、小中学生いずれも、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において、「200～300 万未満」「300～400 万円未満」の割合が高くなっている。

図表 25　母親の年間収入：単数回答（Q12）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



注）対象は Q4 で「母親と同居」と回答した者に限定

＜数値表：小学生＞

	合計	Q12 母親の年間収入														
		収入はない	1～50万円未満	50～100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900万円以上	わからない	母親はいない	無回答
全体	3,818	13.7	6.8	21.0	18.5	12.1	8.1	5.7	4.5	2.2	1.1	0.6	0.9	1.8	0.5	2.7
ふたり親（二世代）	3,126	15.2	7.7	22.3	17.1	10.6	7.5	5.9	3.9	2.0	1.2	0.6	0.9	1.8	0.6	2.8
ふたり親（三世代）	384	10.9	3.9	21.1	24.5	12.5	6.8	4.7	7.0	4.2	0.8	0.0	0.5	1.3	0.0	1.8
ひとり親（二世代）	207	2.4	1.4	5.8	24.6	27.1	17.4	4.8	6.3	2.4	1.0	1.4	1.4	1.9	0.0	1.9
ひとり親（三世代）	101	0.0	1.0	8.9	23.8	28.7	14.9	5.9	6.9	2.0	1.0	0.0	1.0	2.0	0.0	4.0

＜数値表：中学生＞

	合計	Q12 母親の年間収入														
		収入はない	1～50万円未満	50～100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900万円以上	わからない	母親はいない	無回答
全体	3,303	11.5	5.6	23.0	21.8	12.4	7.4	5.0	3.5	2.1	0.9	0.6	0.5	2.0	0.6	3.0
ふたり親（二世代）	2,580	12.3	6.3	25.3	21.1	10.6	7.0	4.5	3.1	2.2	0.9	0.7	0.4	2.0	0.6	2.9
ふたり親（三世代）	387	11.1	3.9	22.0	22.2	15.2	6.2	5.9	3.1	1.8	0.8	0.3	1.0	2.6	0.5	3.4
ひとり親（二世代）	220	6.4	3.2	5.9	24.5	23.2	11.8	9.1	6.4	1.8	1.4	0.0	0.5	1.8	0.5	3.6
ひとり親（三世代）	116	3.4	1.7	9.5	31.0	21.6	12.9	5.2	6.9	2.6	0.0	0.0	0.9	0.9	0.9	2.6

5） 父親の年間収入

父親と同居している場合について、父親の年間収入をみると、小学生の「全体」では、「500～600 万円未満」が 16.1%でもっとも割合が高く、次いで「900 万円以上」が 14.0%となっている。

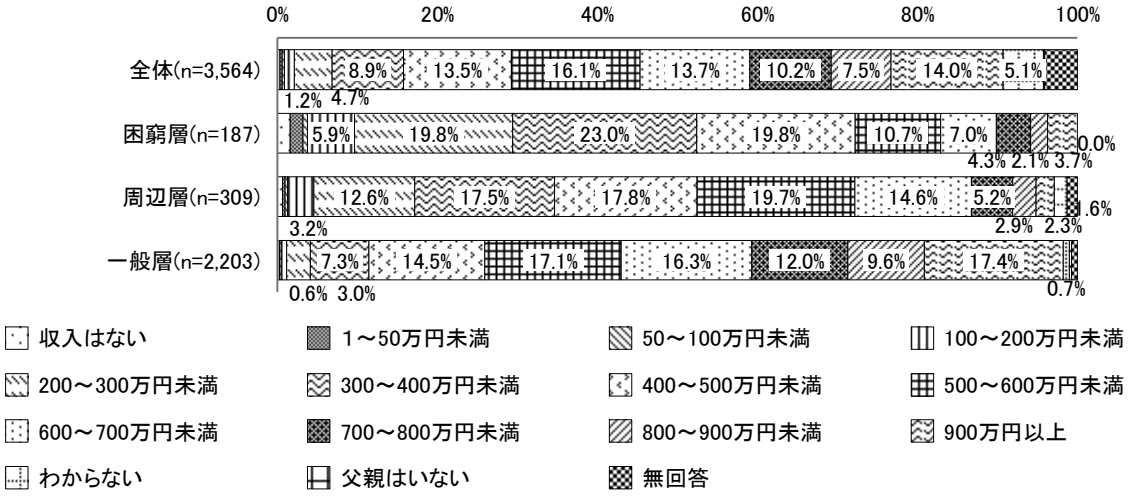
「困窮層」では、「300～400 万円未満」が 23.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「500～600 万円未満」が 19.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「900 万円以上」が 17.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「500～600 万円未満」が 15.8%でもっとも割合が高く、次いで「400～500 万円未満」が 14.2%となっている。

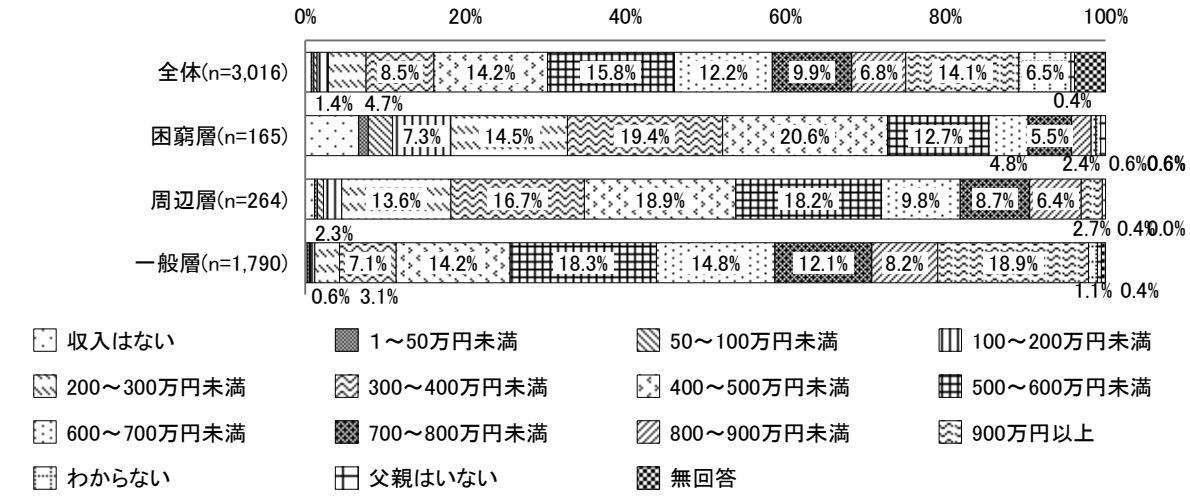
「困窮層」では、「400～500 万円未満」が 20.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「400～500 万円未満」が 18.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「900 万円以上」が 18.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 26　父親の年間収入：単数回答（Q13）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



注）対象は Q4 で「父親と同居」と回答した者に限定

＜数値表：小学生＞

	合計	Q13 父親の年間収入														
		収入はない	1～50万円未満	50～100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900万円以上	わからない	父親はいない	無回答
全体	3,564	0.3	0.3	0.3	1.2	4.7	8.9	13.5	16.1	13.7	10.2	7.5	14.0	5.1	0.2	4.1
困窮層	187	1.6	1.6	0.5	5.9	19.8	23.0	19.8	10.7	7.0	4.3	2.1	3.7	0.0	0.0	0.0
周辺層	309	0.6	0.3	0.3	3.2	12.6	17.5	17.8	19.7	14.6	5.2	2.9	2.3	1.6	0.0	1.3
一般層	2,203	0.2	0.1	0.2	0.6	3.0	7.3	14.5	17.1	16.3	12.0	9.6	17.4	0.7	0.3	0.8

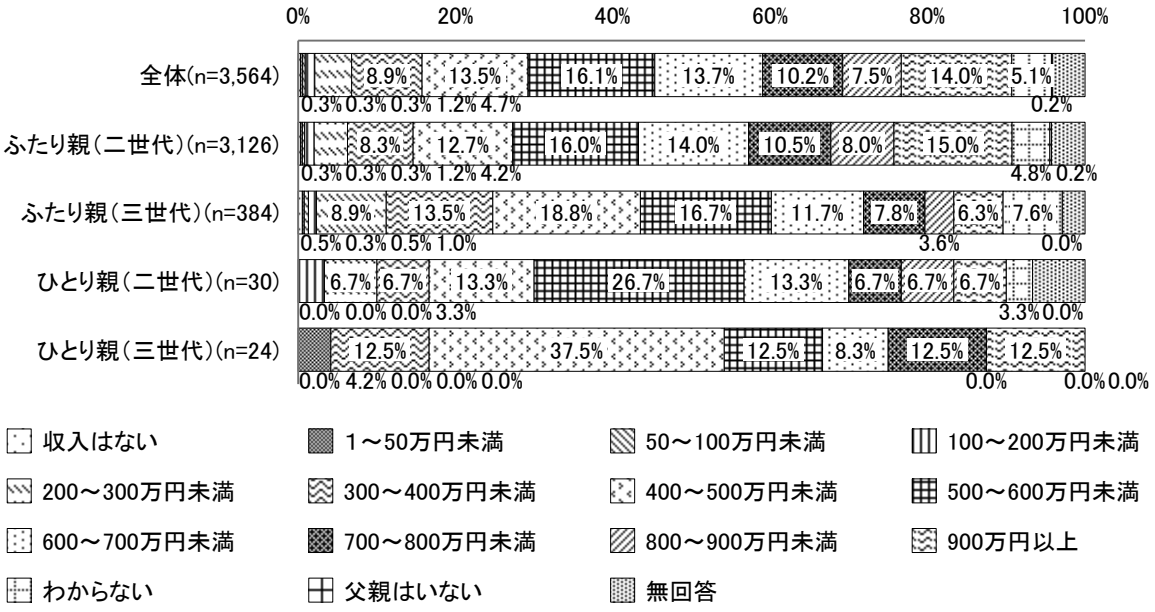
＜数値表：中学生＞

	合計	Q13 父親の年間収入														
		収入はない	1～50万円未満	50～100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900万円以上	わからない	父親はいない	無回答
全体	3,016	0.7	0.3	0.4	1.4	4.7	8.5	14.2	15.8	12.2	9.9	6.8	14.1	6.5	0.4	3.9
困窮層	165	6.7	1.2	3.0	7.3	14.5	19.4	20.6	12.7	4.8	5.5	2.4	0.6	0.6	0.6	0.0
周辺層	264	1.1	0.4	0.8	2.3	13.6	16.7	18.9	18.2	9.8	8.7	6.4	2.7	0.4	0.0	0.0
一般層	1,790	0.2	0.3	0.1	0.6	3.1	7.1	14.2	18.3	14.8	12.1	8.2	18.9	1.1	0.4	0.6

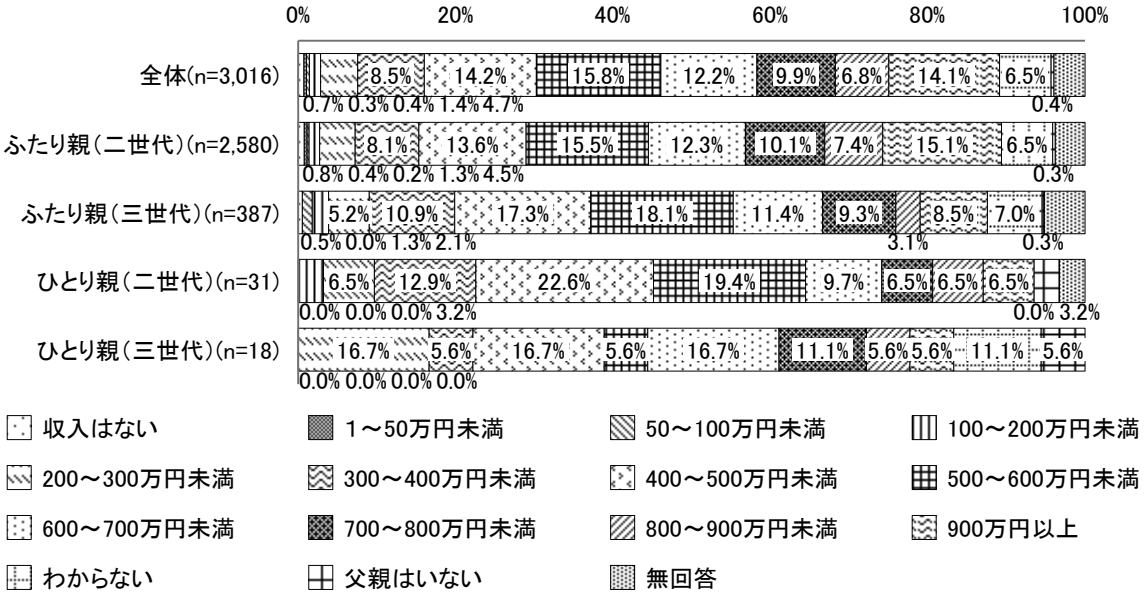
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において、「500～600万円」の割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において、「400～500 万円」の割合が高くなっている。

図表 27　父親の年間収入：単数回答（Q13）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



注）対象は Q4 で「父親と同居」と回答した者に限定

（3）暮らしの状況

1） 暮らしの状況

小学生の「全体」では、「普通」が 49.3%でもっとも割合が高く、次いで「やや苦しい」が 27.1%となっている。

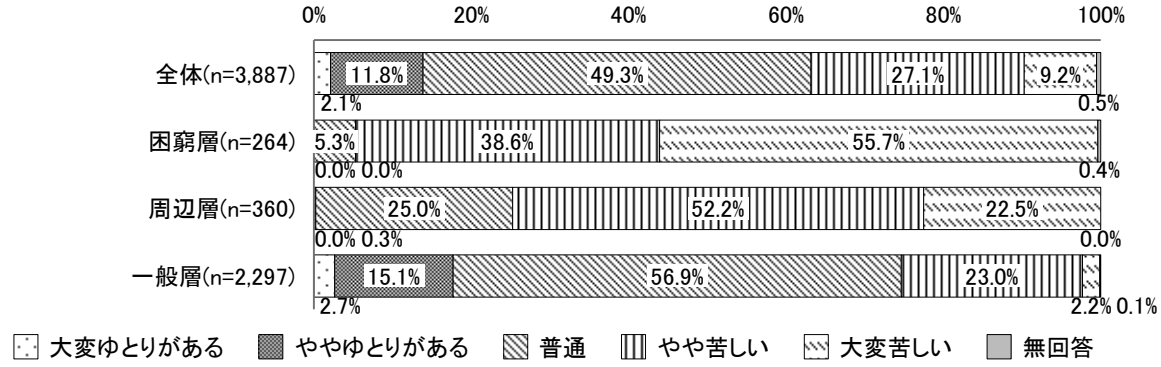
「困窮層」では、「大変苦しい」が 55.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「やや苦しい」が 52.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「普通」が 56.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「普通」が 48.3%でもっとも割合が高く、次いで「やや苦しい」が 29.1%となっている。

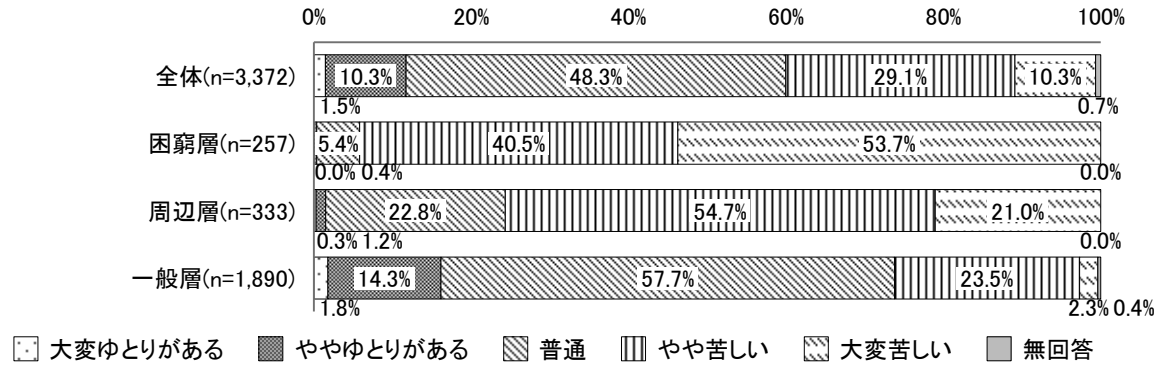
「困窮層」では、「大変苦しい」が 53.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「やや苦しい」が 54.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「普通」が 57.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 28　暮らしの状況：単数回答（Q14）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



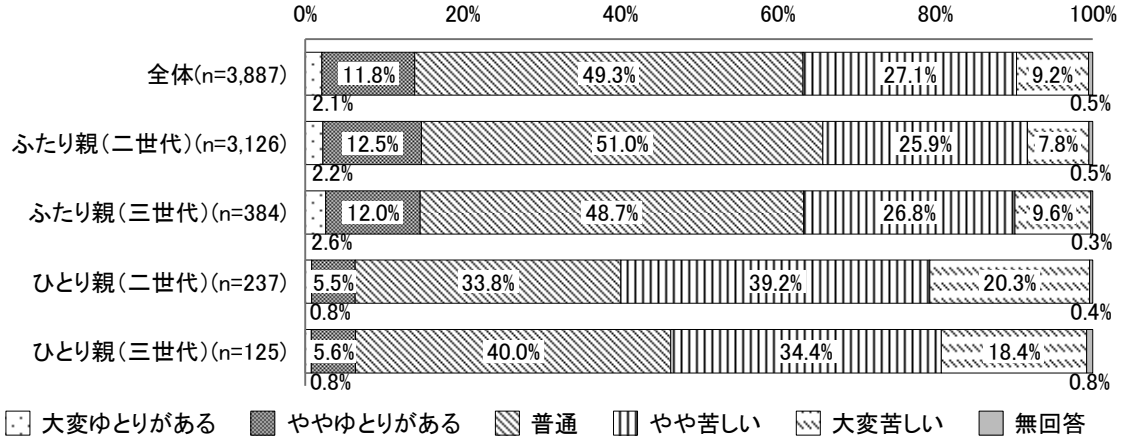
＜中学生＞（p<.01）



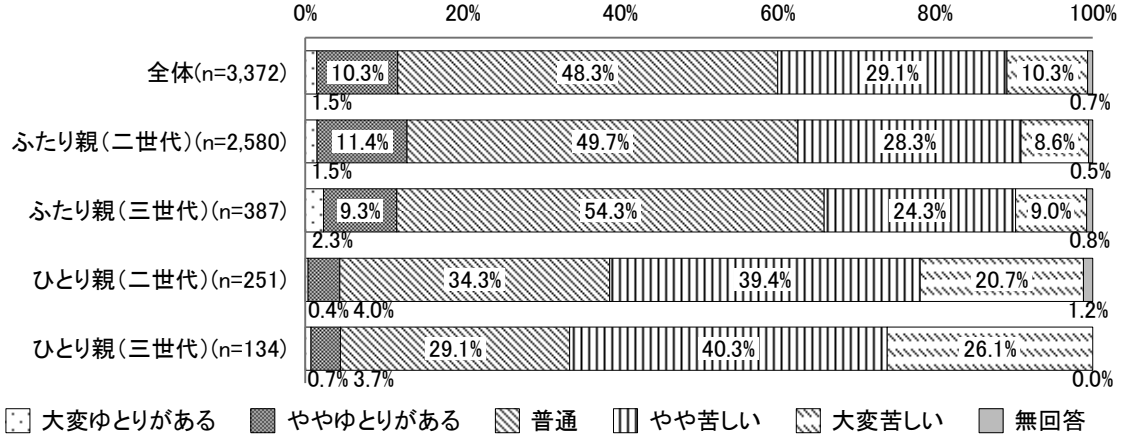
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」では、「やや苦しい」「大変苦しい」とする割合が高くなっている。

図表 29　暮らしの状況：単数回答（Q14）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



2)　金銭不足で買えない食料

小学生の「全体」では、「まったくなかった」が 82.8%でもっとも割合が高く、次いで「まれにあった」が 9.3%となっている。

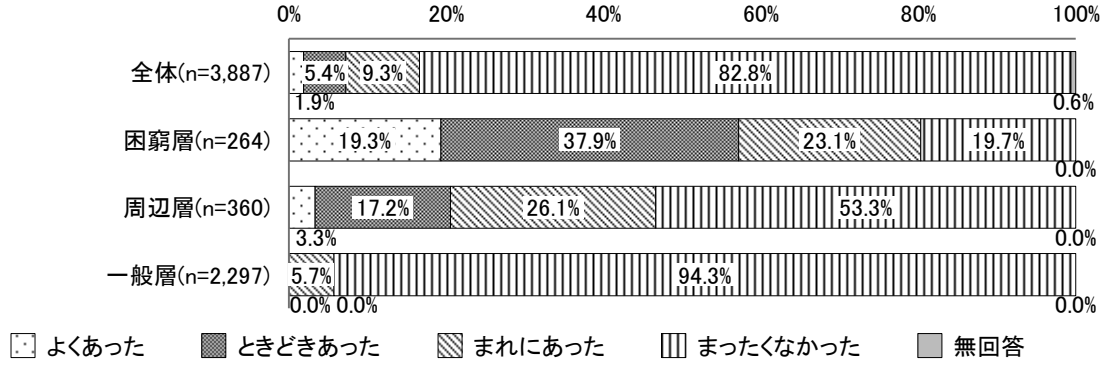
「困窮層」では、「ときどきあった」が 37.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「まったくなかった」が 53.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「まったくなかった」が 94.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「まったくなかった」が 82.5%でもっとも割合が高く、次いで「まれにあった」が 9.2%となっている。

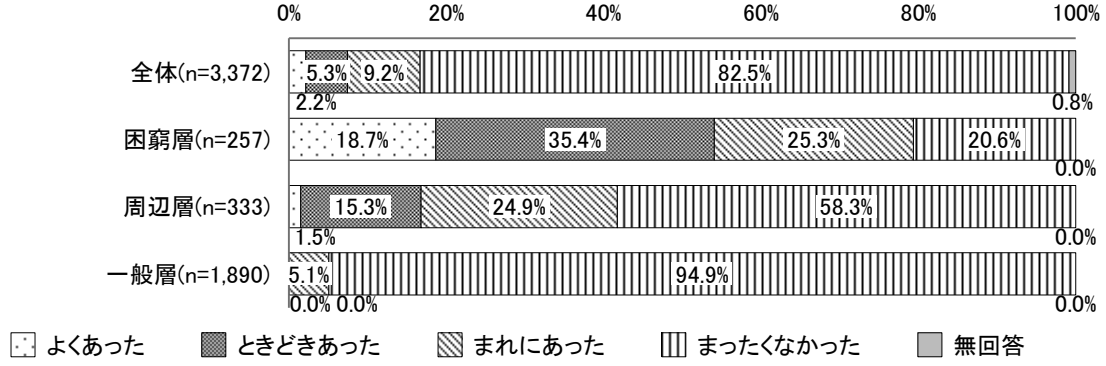
「困窮層」では、「ときどきあった」が 35.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「まったくなかった」が 58.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「まったくなかった」が 94.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 30　金銭不足で買えない食料：単数回答（Q15A）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



3) 金銭不足で買えない衣類

小学生の「全体」では、「まったくなかった」が 77.5%でもっとも割合が高く、次いで「まれにあった」が 12.2%となっている。

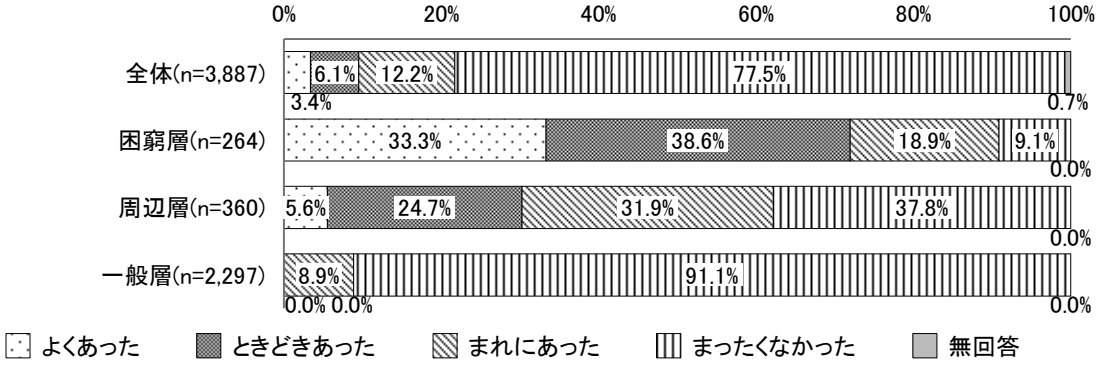
「困窮層」では、「ときどきあった」が 38.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「まったくなかった」が 37.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「まったくなかった」が 91.1%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「まったくなかった」が 76.7%でもっとも割合が高く、次いで「まれにあった」が 12.1%となっている。

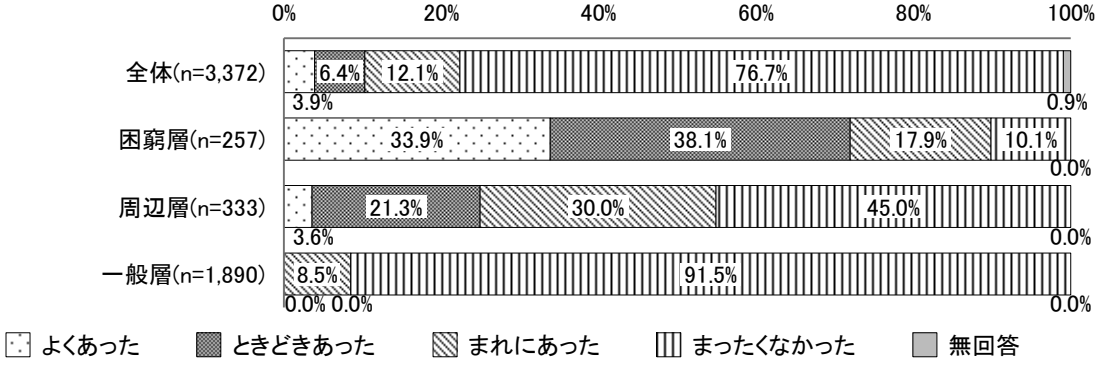
「困窮層」では、「ときどきあった」が 38.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「まったくなかった」が 45.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「まったくなかった」が 91.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 31　金銭不足で買えない衣類：単数回答（Q15B）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



4） 期限内に支払えないこと_電話料金

小学生の「全体」では、「なかった」が 88.3%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が 7.4%となっている。

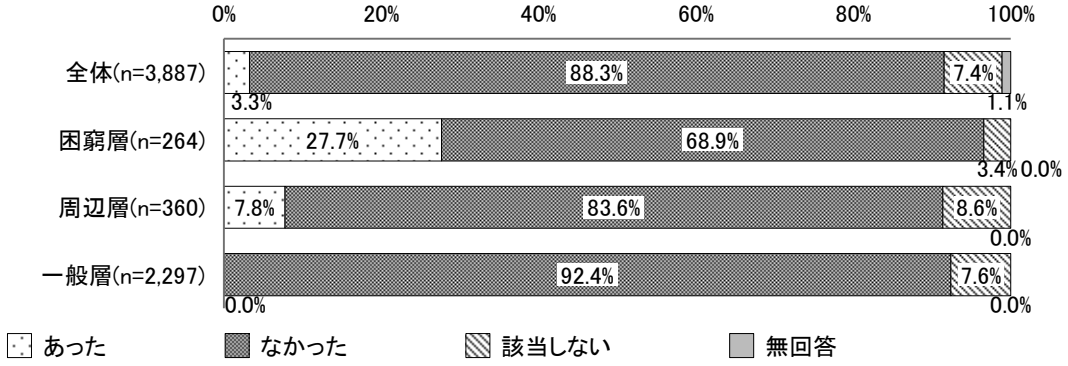
「困窮層」では、「なかった」が 68.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 83.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 92.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が 87.2%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が 7.7%となっている。

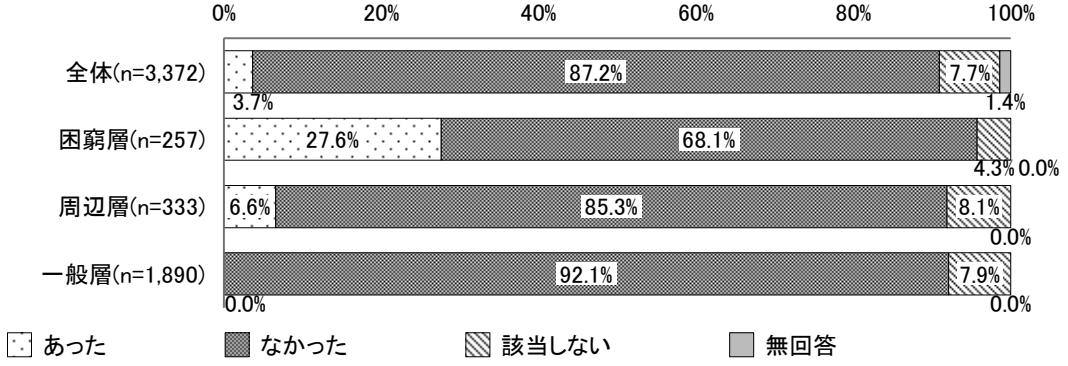
「困窮層」では、「なかった」が 68.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 85.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 92.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 32　期限内に支払えないこと_電話料金：単数回答（Q16A）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



5)　期限内に支払えないこと_電気料金

小学生の「全体」では、「なかった」が 88.1%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が 7.2%となっている。

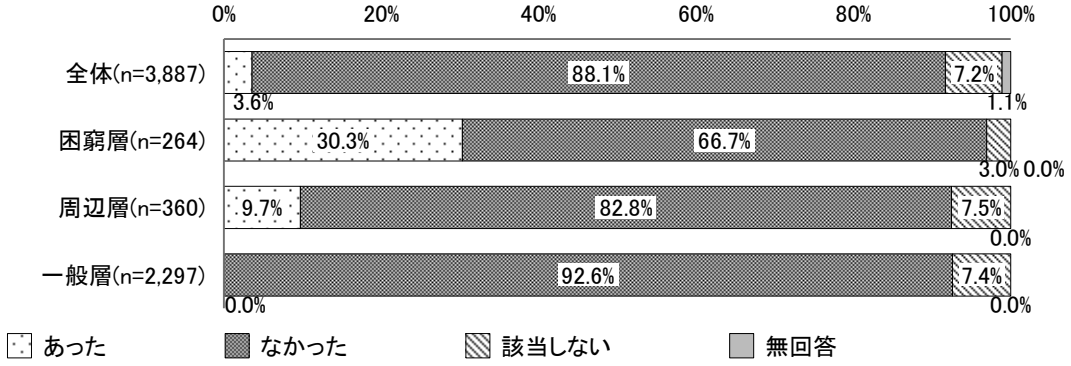
「困窮層」では、「なかった」が 66.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 82.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 92.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が 87.2%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が 7.7%となっている。

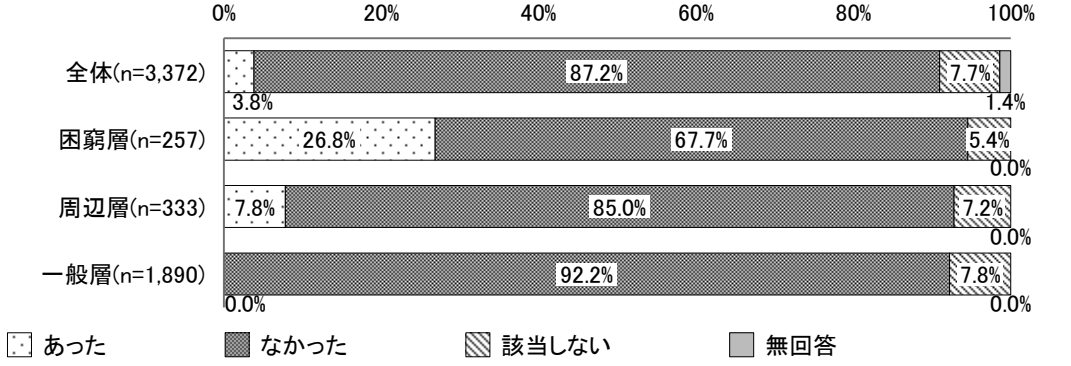
「困窮層」では、「なかった」が 67.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 85.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 92.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 33　期限内に支払えないこと_電気料金：単数回答（Q16B）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



6） 期限内に支払えないこと_ガス料金

小学生の「全体」では、「なかった」が 78.2%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が 17.6%となっている。

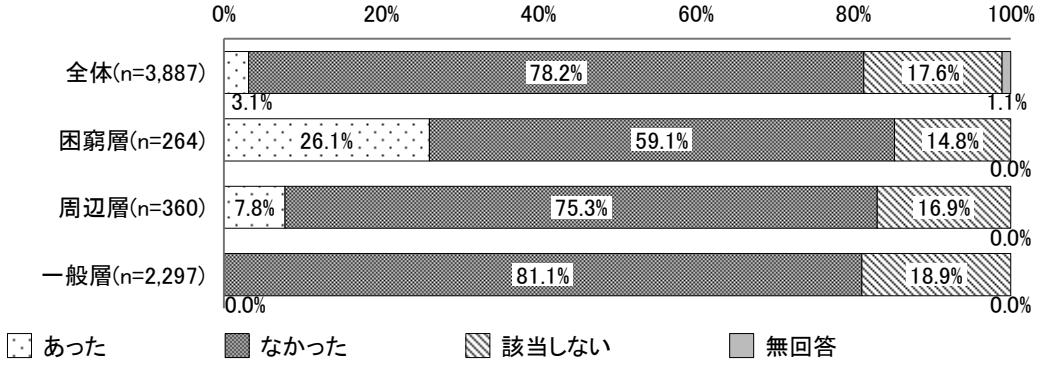
「困窮層」では、「なかった」が 59.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 75.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 81.1%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が 77.3%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が 18.1%となっている。

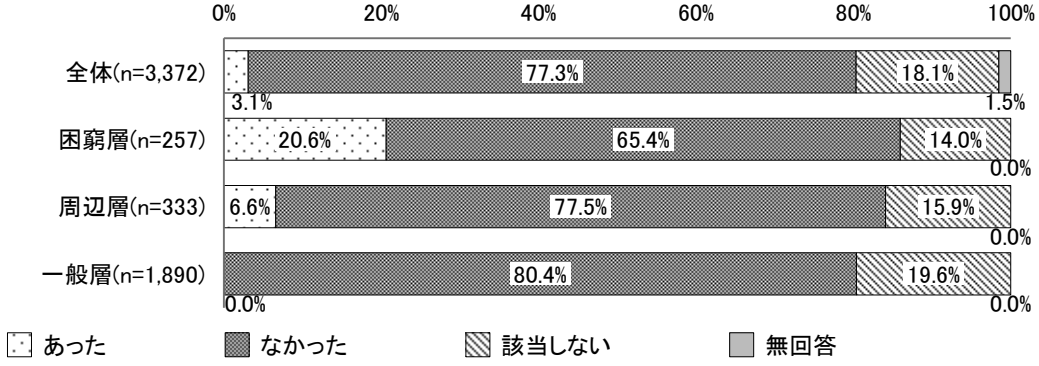
「困窮層」では、「なかった」が 65.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 77.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 80.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 34　期限内に支払えないこと_ガス料金：単数回答（Q16C）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



7)　期限内に支払えないこと_水道料金

小学生の「全体」では、「なかった」が 86.5%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が 8.3%となっている。

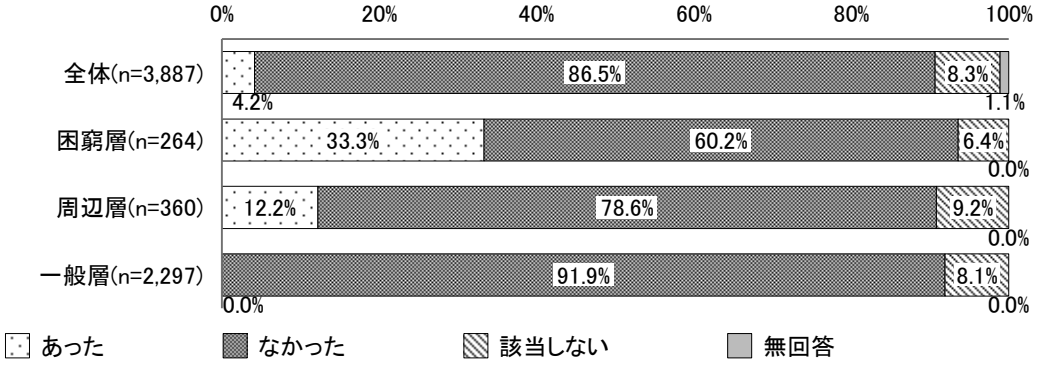
「困窮層」では、「なかった」が 60.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 78.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 91.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が 85.5%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が 9.1%となっている。

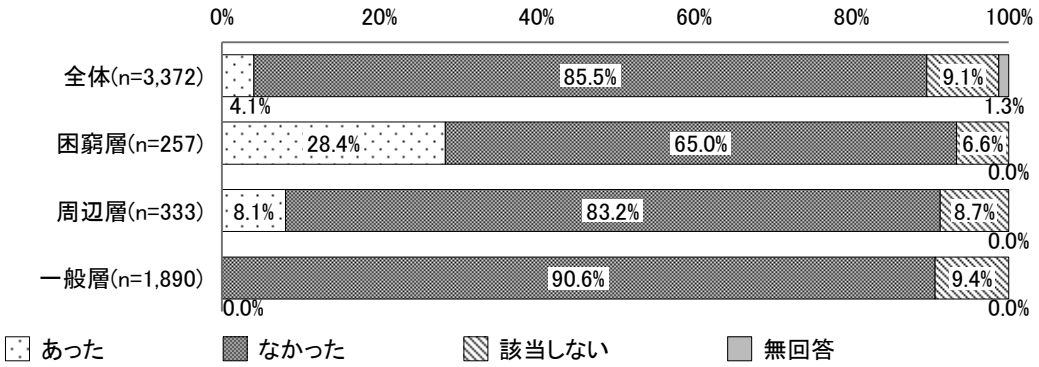
「困窮層」では、「なかった」が 65.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 83.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 90.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 35　期限内に支払えないこと_水道料金：単数回答（Q16D）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



8） 期限内に支払えないこと_家賃

小学生の「全体」では、「なかった」が 59.1%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が 37.3%となっている。

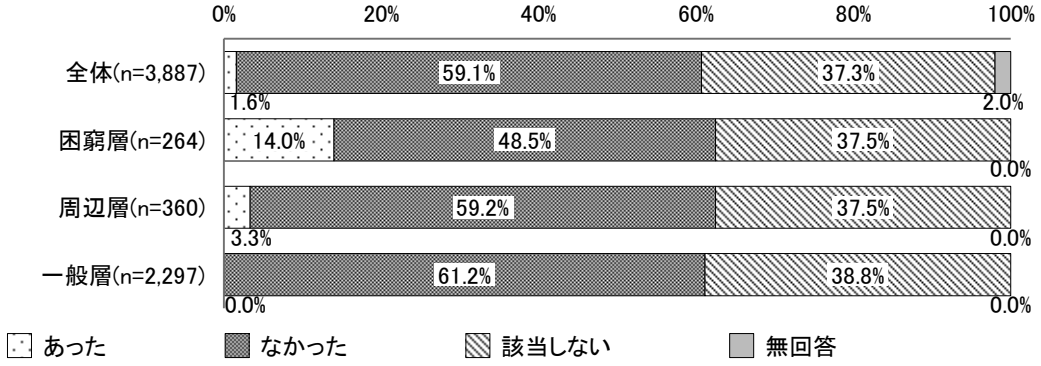
「困窮層」では、「なかった」が 48.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 59.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 61.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が 56.4%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が 39.1%となっている。

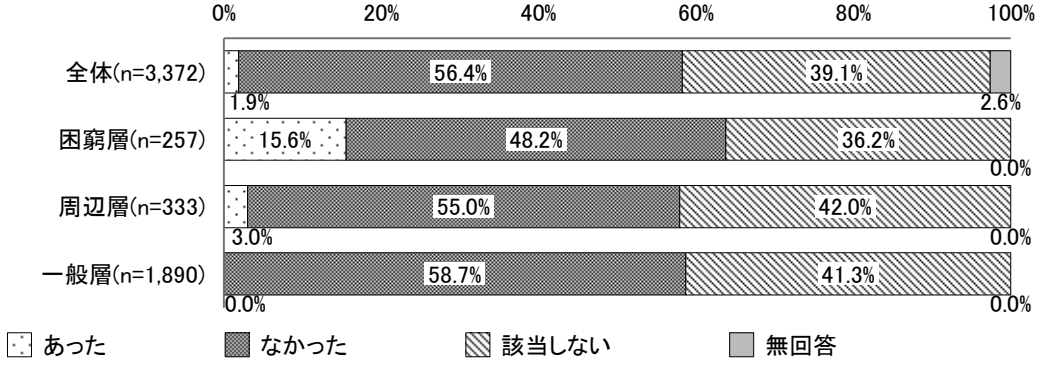
「困窮層」では、「なかった」が 48.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 55.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 58.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 36 期限内に支払えないこと_家賃：単数回答（Q16E）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



9） 期限内に支払えないこと_住宅ローン

小学生の「全体」では、「なかった」が 72.0%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が 24.2%となっている。

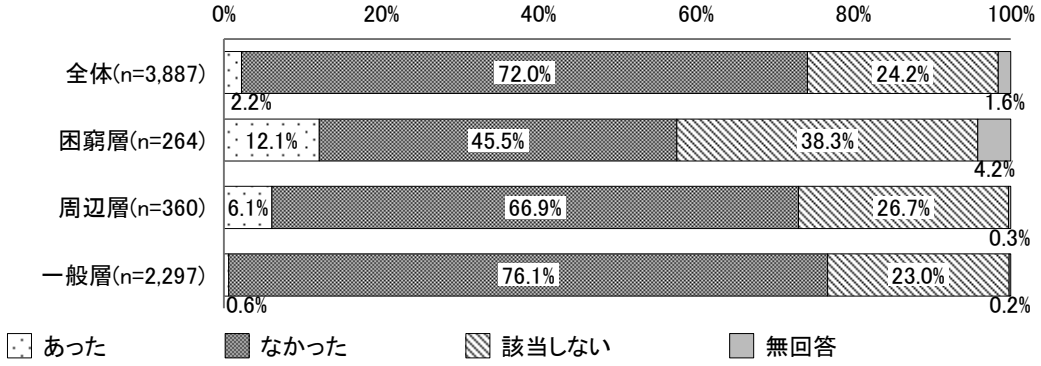
「困窮層」では、「なかった」が 45.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 66.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 76.1%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が 69.4%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が 27.2%となっている。

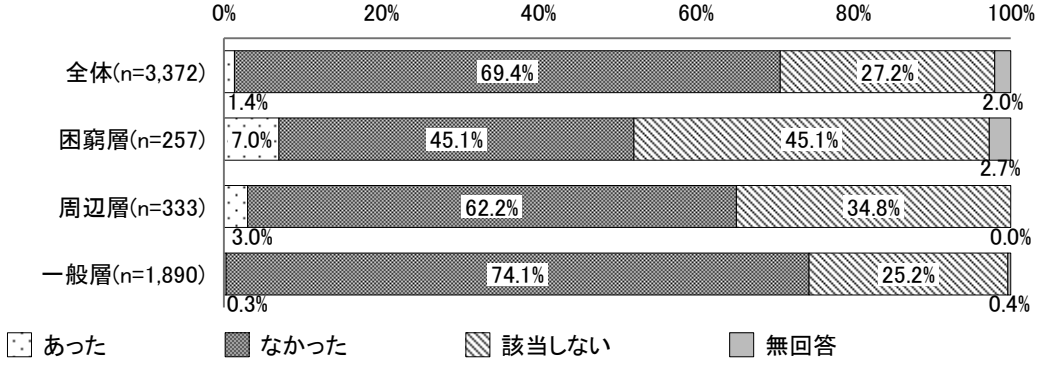
「困窮層」では、「なかった」「該当しない」が 45.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 62.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 74.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 37　期限内に支払えないこと_住宅ローン：単数回答（Q16F）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



10）期限内に支払えないこと_公的医療保険

小学生の「全体」では、「なかった」が 87.7%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が 8.6%となっている。

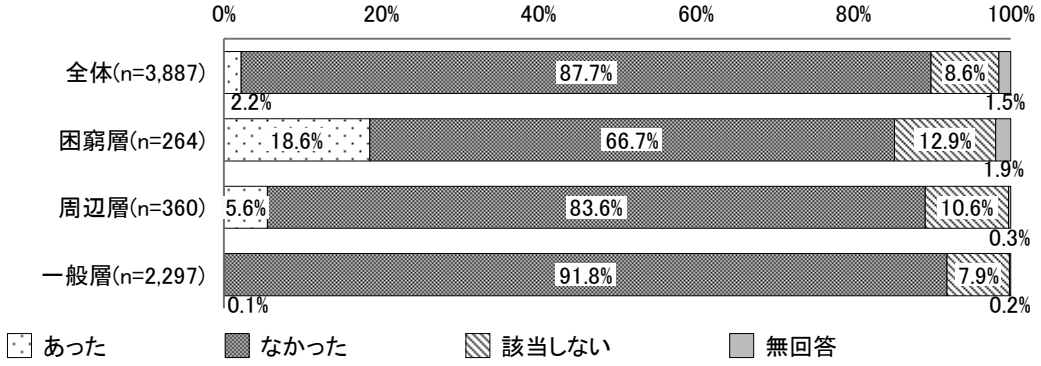
「困窮層」では、「なかった」が 66.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 83.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 91.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が 87.1%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が 9.4%となっている。

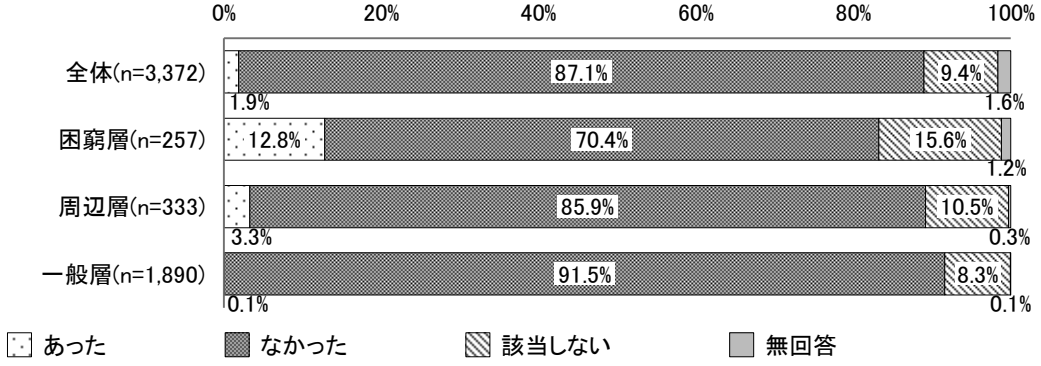
「困窮層」では、「なかった」が 70.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 85.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 91.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 38　期限内に支払えないこと_公的医療保険：単数回答（Q16G）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



11）期限内に支払えないこと_お子さんの給食費

小学生の「全体」では、「なかった」が 85.6%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が 10.2%となっている。

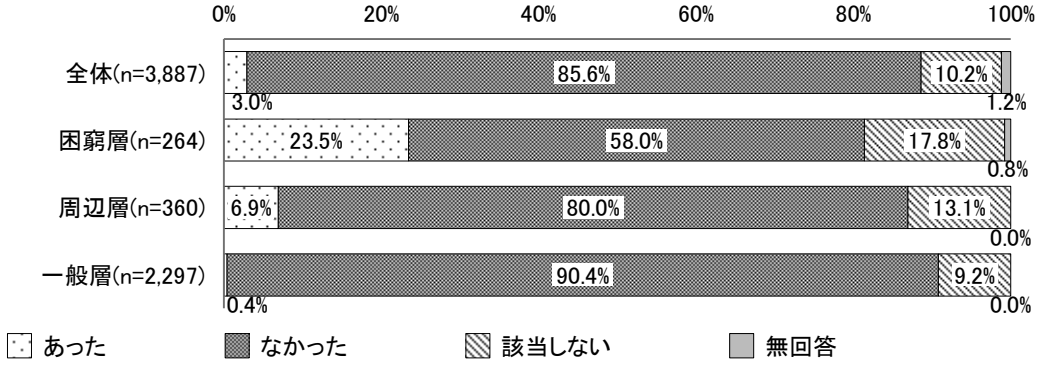
「困窮層」では、「なかった」が 58.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 80.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 90.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が 84.2%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が 11.1%となっている。

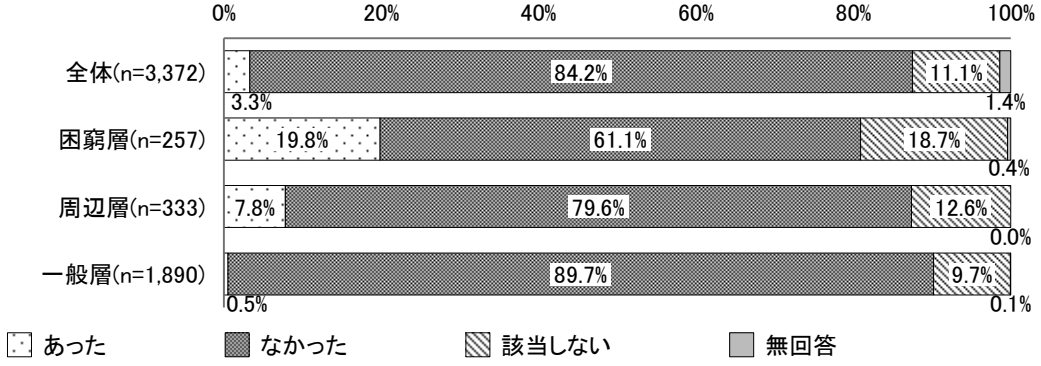
「困窮層」では、「なかった」が 61.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 79.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 89.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 39　期限内に支払えないこと_お子さんの給食費：単数回答（Q16H）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



12）期限内に支払えないこと_お子さんの学用品費

小学生の「全体」では、「なかった」が 88.9%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が 7.3%となっている。

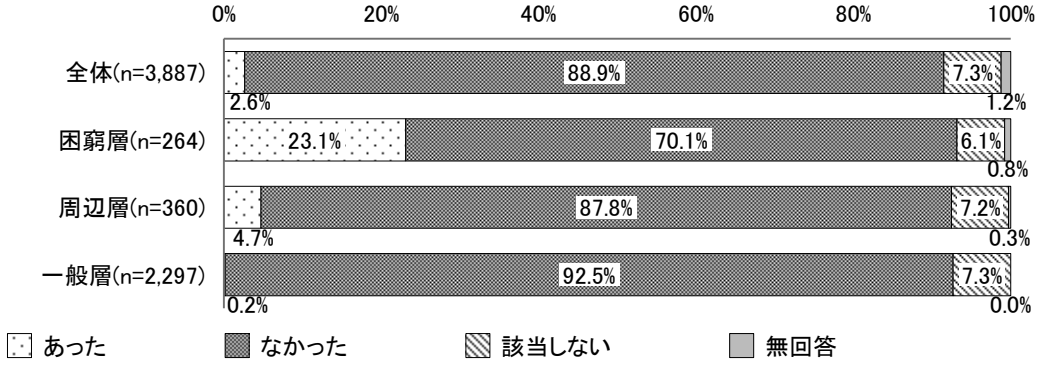
「困窮層」では、「なかった」が 70.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 87.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 92.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が 87.7%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が 7.7%となっている。

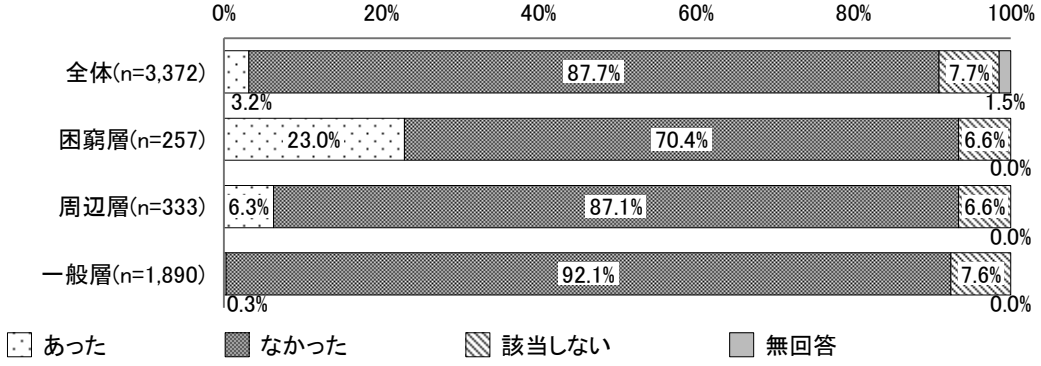
「困窮層」では、「なかった」が 70.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 87.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 92.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 40　期限内に支払えないこと_お子さんの学用品費：単数回答（Q16I）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



13）期限内に支払えないこと_その他の債務

小学生の「全体」では、「なかった」が 71.0%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が 21.1%となっている。

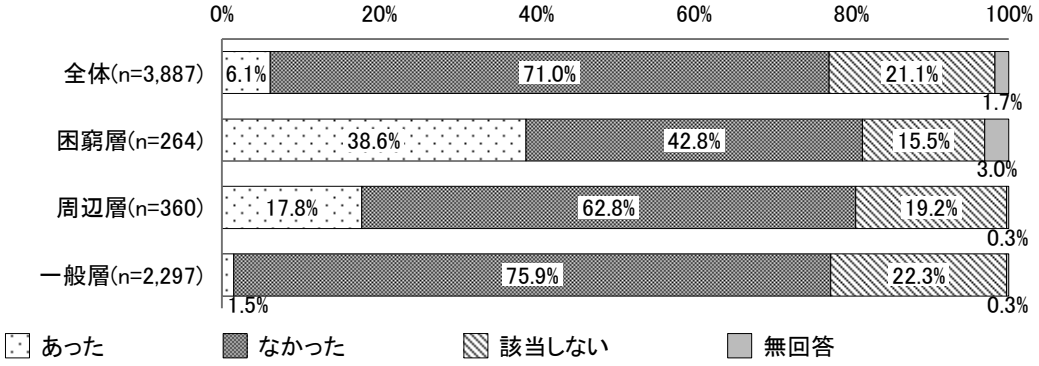
「困窮層」では、「なかった」が 42.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 62.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 75.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が 69.0%でもっとも割合が高く、次いで「該当しない」が 22.1%となっている。

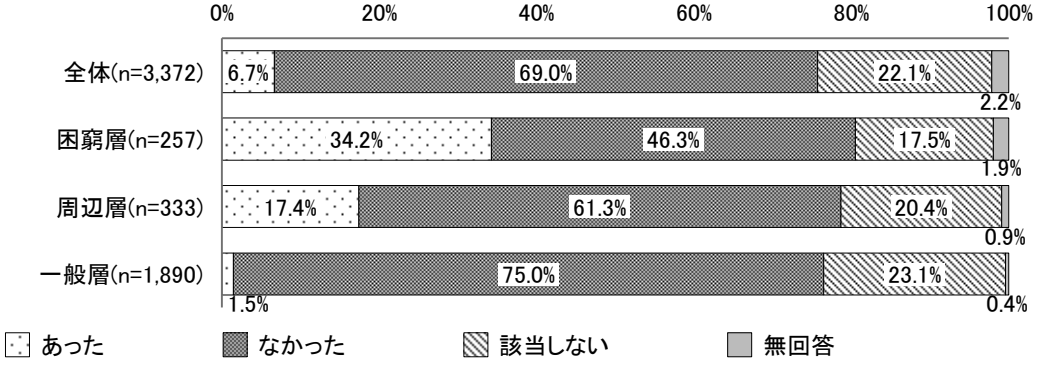
「困窮層」では、「なかった」が 46.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 61.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 75.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 41　期限内に支払えないこと_その他の債務：単数回答（Q16J）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



14）世帯にないもの

小学生の「全体」では、「新聞の定期購読」が 15.5%でもっとも割合が高く、次いで「インターネットにつながるパソコン」が 7.0%となっている。

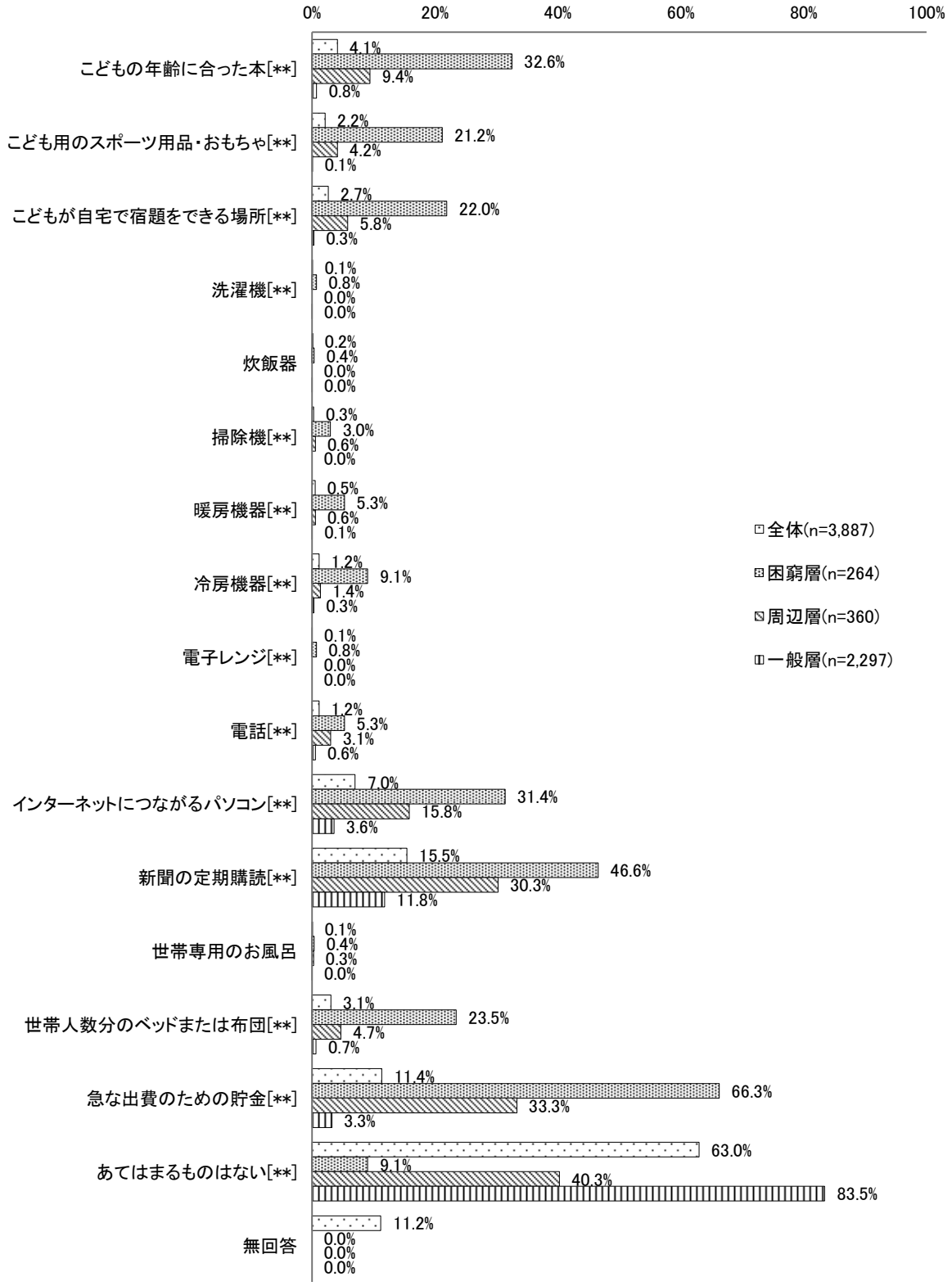
「困窮層」では、「新聞の定期購読」が 46.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「新聞の定期購読」が 30.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「新聞の定期購読」が 11.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「新聞の定期購読」が 15.4%でもっとも割合が高く、次いで「インターネットにつながるパソコン」が 7.2%となっている。

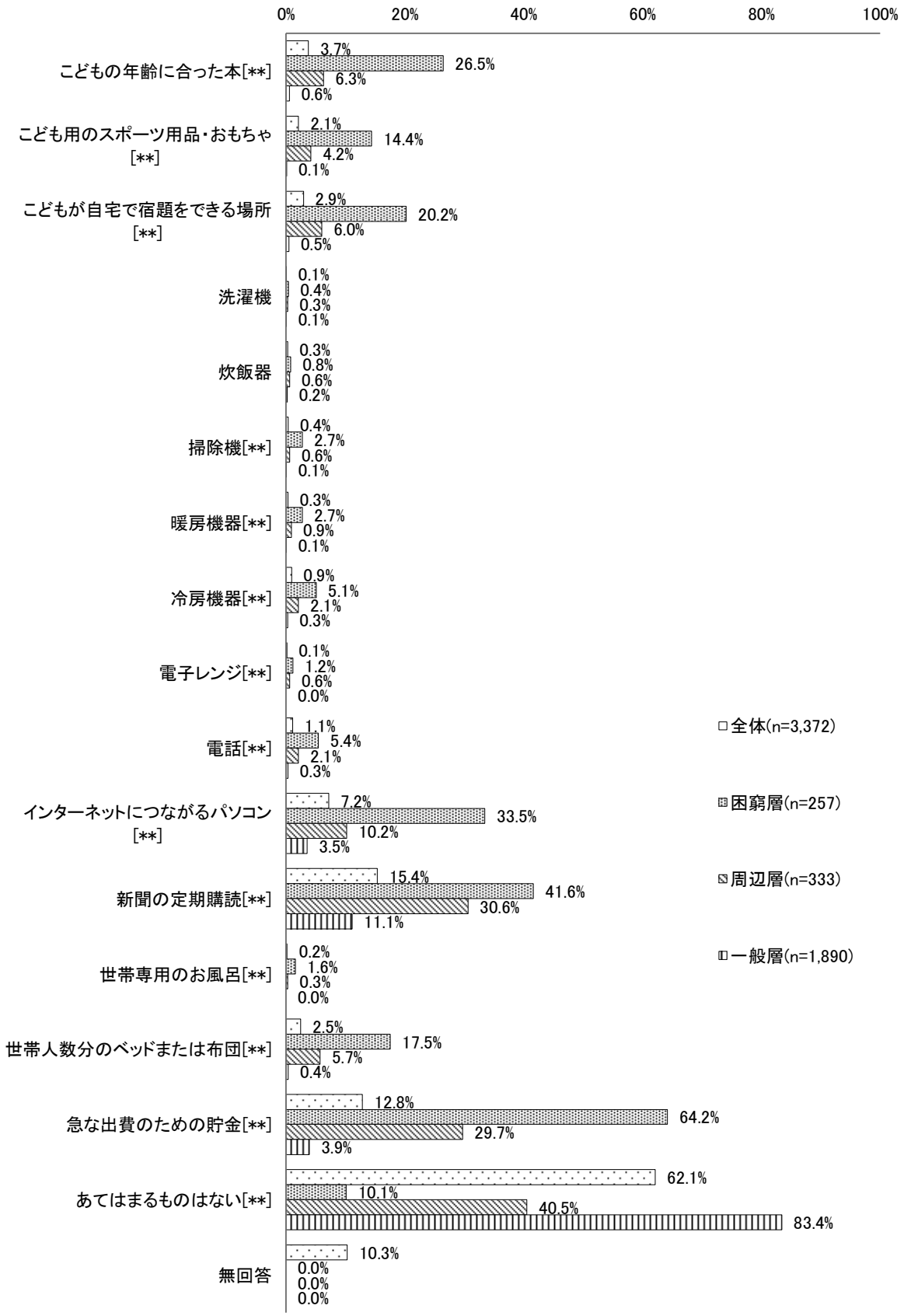
「困窮層」では、「新聞の定期購読」が 41.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「新聞の定期購読」が 30.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「新聞の定期購読」が 11.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 42　世帯にないもの：複数回答（Q17）（生活困難度別）

＜小学生＞



＜中学生＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
こどもの年齢に合った本[**]
3.7%
26.5%
6.3%
0.6%
こども用のスポーツ用品・おもちゃ[**]
2.1%
14.4%
4.2%
0.1%
こどもが自宅で宿題をできる場所[**]
2.9%
20.2%
6.0%
0.5%
洗濯機
0.1%
0.4%
0.3%
0.1%
炊飯器
0.3%
0.8%
0.6%
0.2%
掃除機[**]
0.4%
2.7%
0.6%
0.1%
暖房機器[**]
0.3%
2.7%
0.9%
0.1%
冷房機器[**]
0.9%
5.1%
2.1%
0.3%
電子レンジ[**]
0.1%
1.2%
0.6%
0.0%
電話[**]
1.1%
5.4%
2.1%
0.3%
インターネットにつながるパソコン[**]
7.2%
33.5%
10.2%
3.5%
新聞の定期購読[**]
15.4%
41.6%
30.6%
11.1%
世帯専用のお風呂[**]
0.2%
1.6%
0.3%
0.0%
世帯人数分のベッドまたは布団[**]
2.5%
17.5%
5.7%
0.4%
急な出費のための貯金[**]
12.8%
64.2%
29.7%
3.9%
あてはまるものはない[**]
62.1%
10.1%
40.5%
83.4%
無回答
10.3%
0.0%
0.0%
0.0%
□全体(n=3,372)
困窮層(n=257)
周辺層(n=333)
一般層(n=1,890)

（4）健康状態

1） 回答者の健康状態

小学生の「全体」では、「ふつう」が 34.9%でもっとも割合が高く、次いで「よい」が 34.3%となっている。

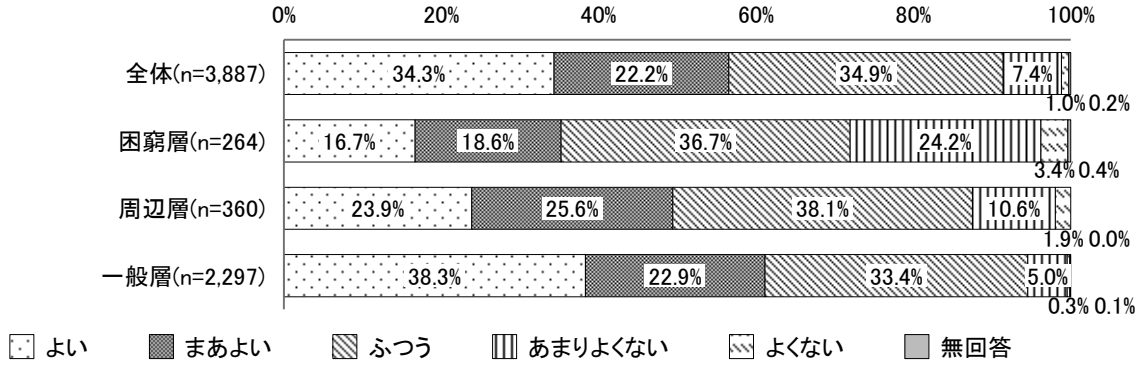
「困窮層」では、「ふつう」が 36.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ふつう」が 38.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「よい」が 38.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ふつう」が 38.1%でもっとも割合が高く、次いで「よい」が 30.1%となっている。

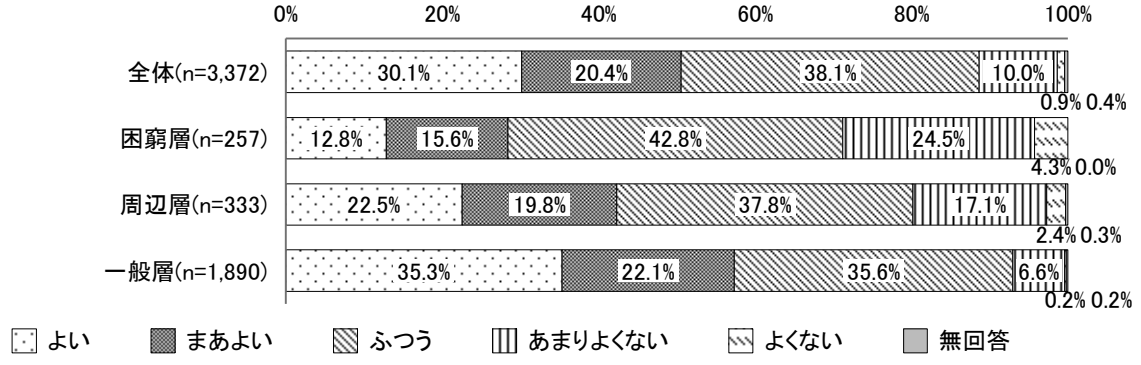
「困窮層」では、「ふつう」が 42.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ふつう」が 37.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ふつう」が 35.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 43　回答者の健康状態：単数回答（Q18）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



2) お子さんの健康状態

小学生の「全体」では、「よい」が 60.7%でもっとも割合が高く、次いで「まあよい」が 19.3%となっている。

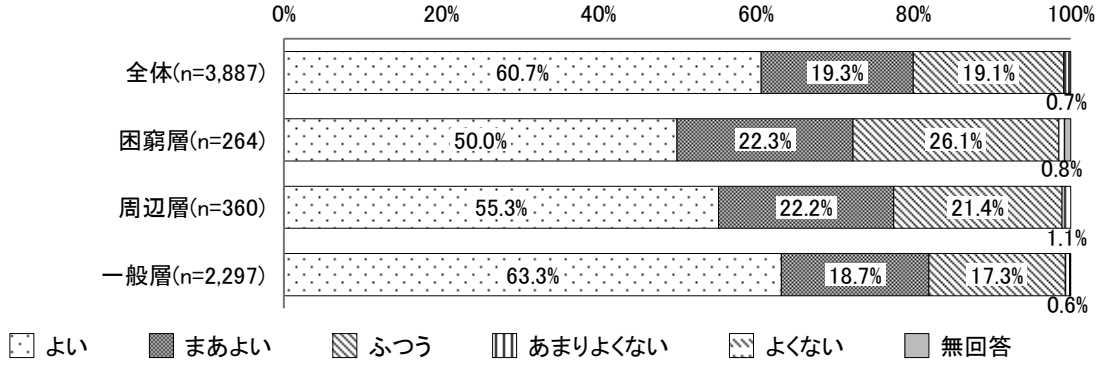
「困窮層」では、「よい」が 50.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「よい」が 55.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「よい」が 63.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「よい」が 53.5%でもっとも割合が高く、次いで「ふつう」が 23.6%となっている。

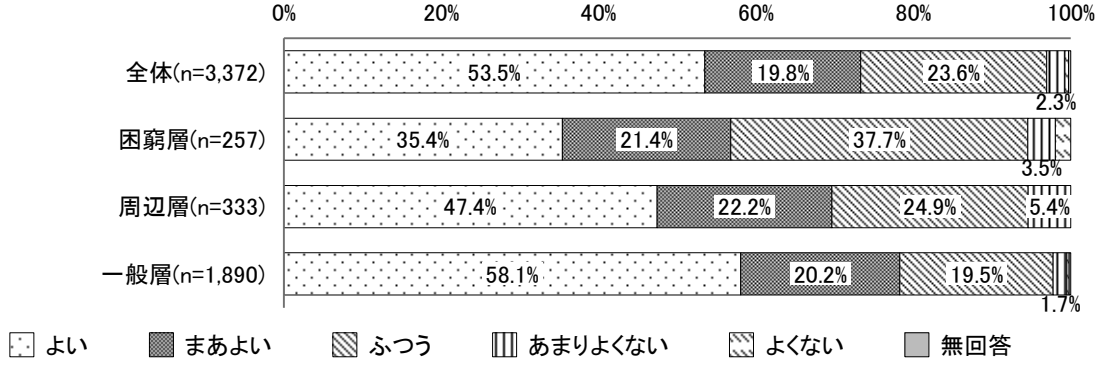
「困窮層」では、「ふつう」が 37.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「よい」が 47.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「よい」が 58.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 44　お子さんの健康状態：単数回答（Q19）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



<中学生＞（p<.01）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q19 お子さんの健康状態					
		よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
全体	3,887	60.7	19.3	19.1	0.7	0.0	0.2
困窮層	264	50.0	22.3	26.1	0.8	0.0	0.8
周辺層	360	55.3	22.2	21.4	1.1	0.0	0.0
一般層	2,297	63.3	18.7	17.3	0.6	0.0	0.1

＜数値表：中学生＞

	合計	Q19 お子さんの健康状態					
		よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
全体	3,372	53.5	19.8	23.6	2.3	0.4	0.3
困窮層	257	35.4	21.4	37.7	3.5	1.9	0.0
周辺層	333	47.4	22.2	24.9	5.4	0.0	0.0
一般層	1,890	58.1	20.2	19.5	1.7	0.3	0.2

3) 心の状態_神経過敏に感じた

小学生の「全体」では、「全くない」が 45.3%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 21.9%となっている。

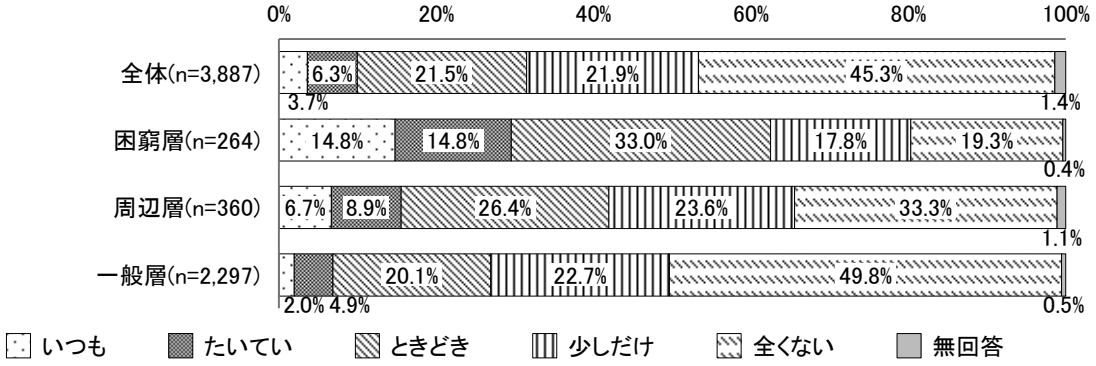
「困窮層」では、「ときどき」が 33.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 33.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 49.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「全くない」が 47.9%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 21.2%となっている。

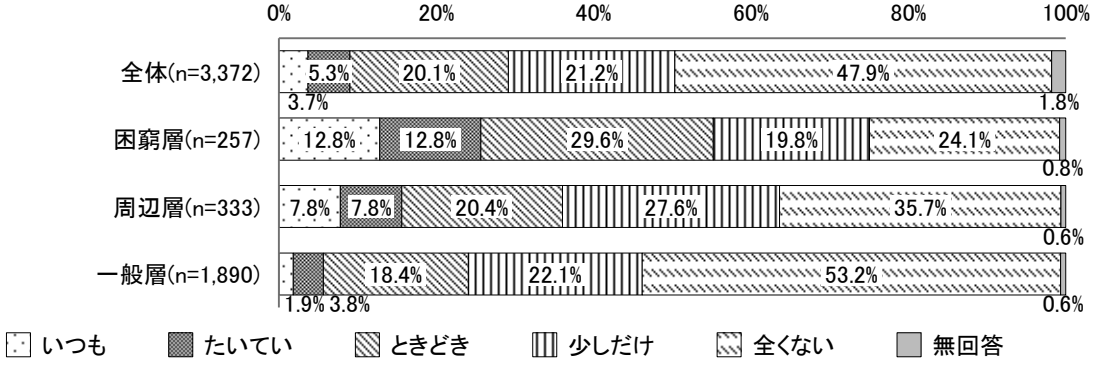
「困窮層」では、「ときどき」が 29.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 35.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 53.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 45　心の状態_神経過敏に感じた：単数回答（Q20A）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



4） 心の状態_絶望的だと感じた

小学生の「全体」では、「全くない」が 68.8%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 13.8%となっている。

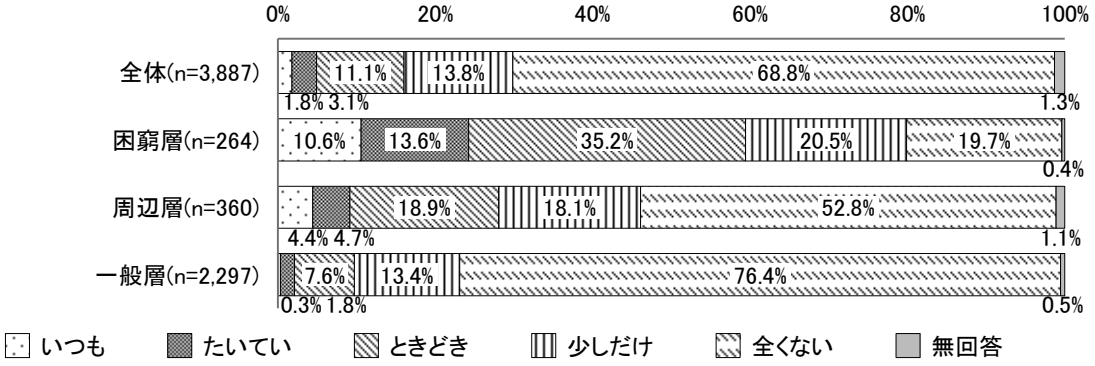
「困窮層」では、「ときどき」が 35.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 52.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 76.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「全くない」が 67.1%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 14.7%となっている。

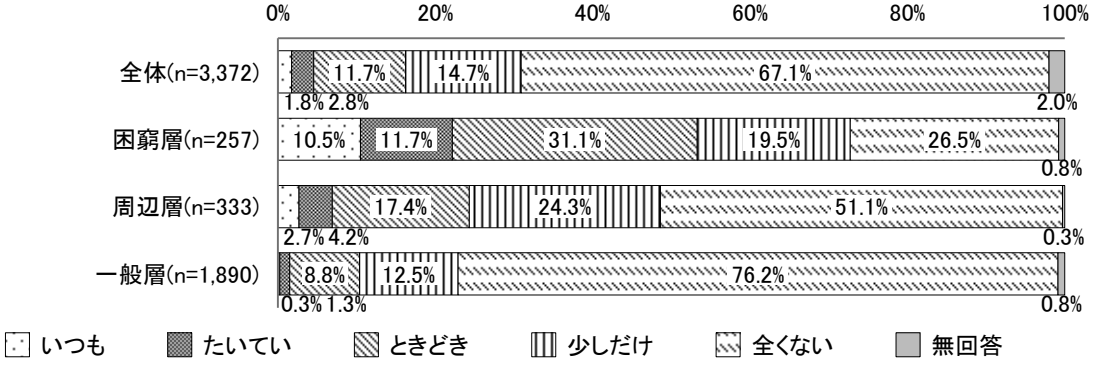
「困窮層」では、「ときどき」が 31.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 51.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 76.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 46 心の状態_絶望的だと感じた：単数回答（Q20B）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



5） 心の状態_そわそわ、落ち着かなく感じた

小学生の「全体」では、「全くない」が 54.9%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 22.9%となっている。

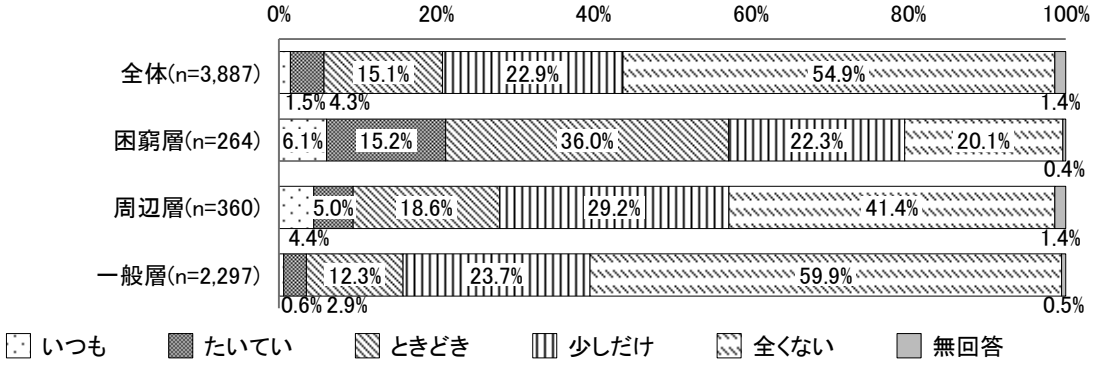
「困窮層」では、「ときどき」が 36.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 41.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 59.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「全くない」が 54.2%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 22.9%となっている。

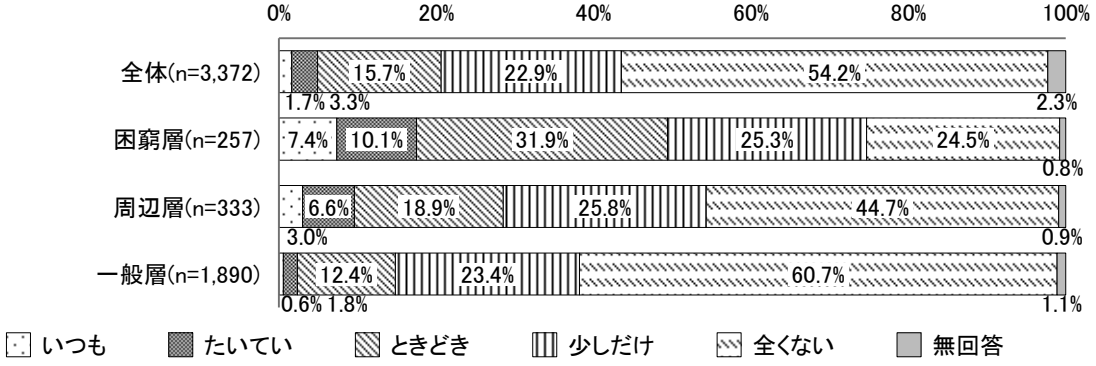
「困窮層」では、「ときどき」が 31.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 44.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 60.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 47 心の状態_そわそわ、落ち着かなく感じた：単数回答（Q20C）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



6） 心の状態_気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた

小学生の「全体」では、「全くない」が 48.1%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 25.3%となっている。

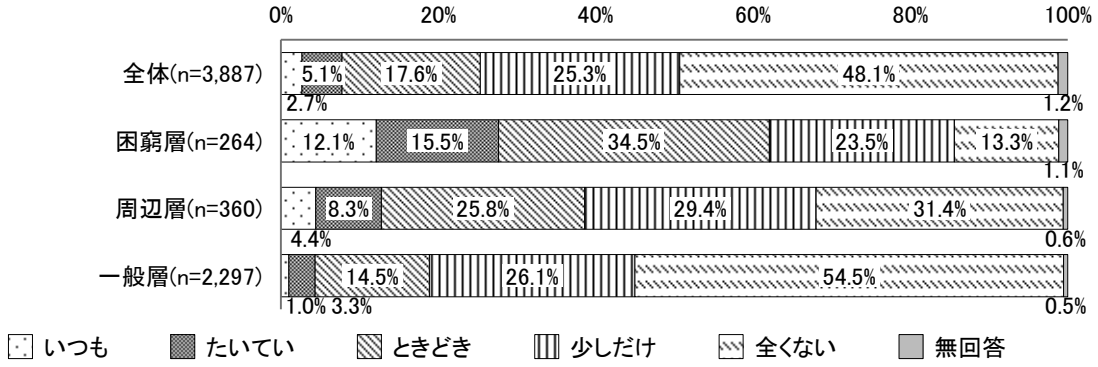
「困窮層」では、「ときどき」が 34.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 31.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 54.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「全くない」が 47.7%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 25.5%となっている。

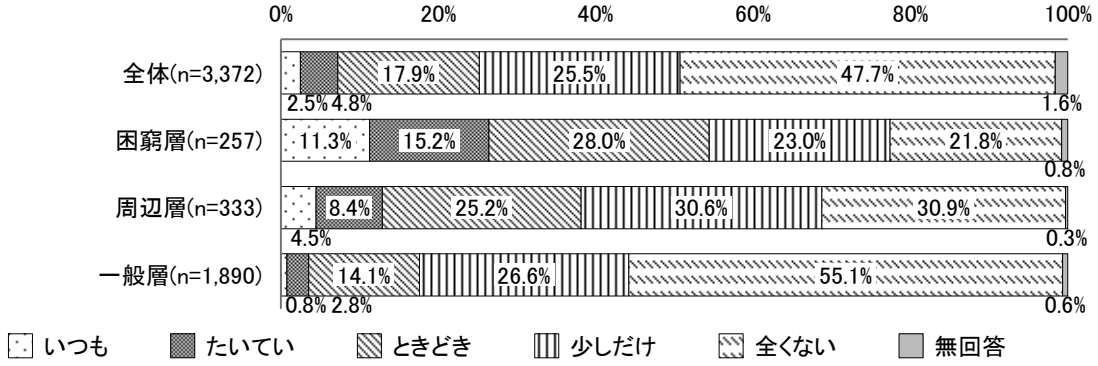
「困窮層」では、「ときどき」が 28.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 30.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 55.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 48　心の状態_気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた：単数回答（Q20D）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



7） 心の状態_何をするのも骨折りだと感じた

小学生の「全体」では、「全くない」が 53.5%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 23.1%となっている。

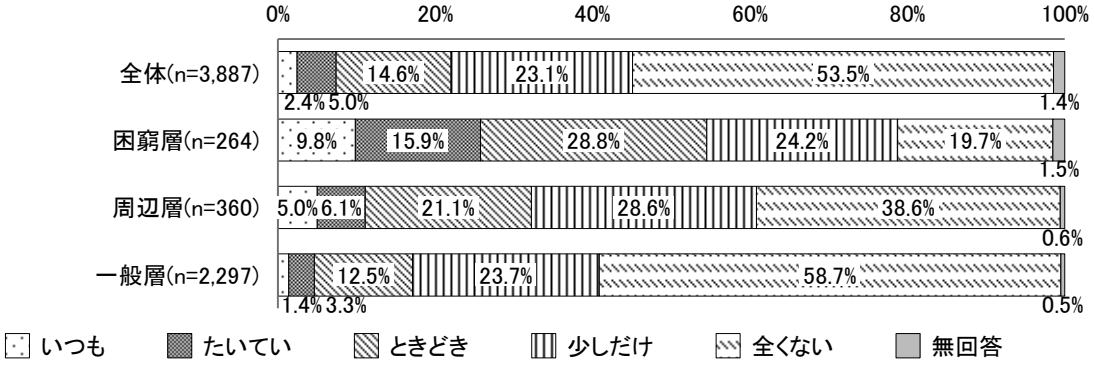
「困窮層」では、「ときどき」が 28.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 38.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 58.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「全くない」が 52.1%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 23.5%となっている。

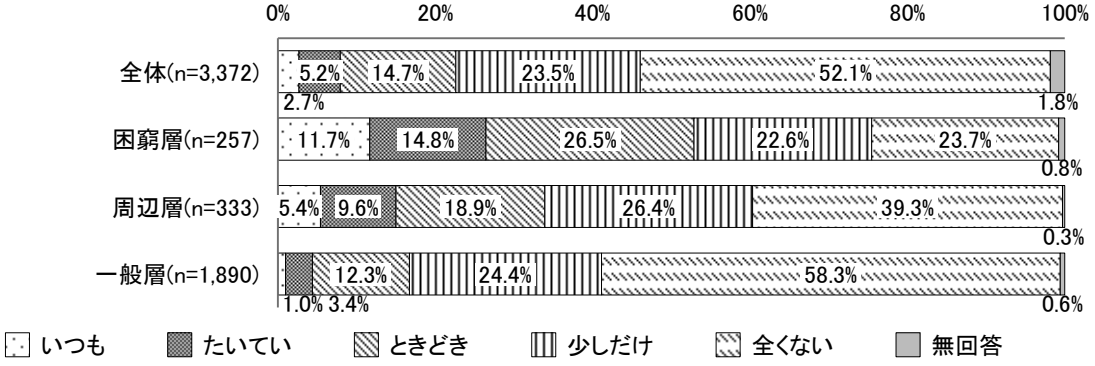
「困窮層」では、「ときどき」が 26.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 39.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 58.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 49 心の状態_何をするのも骨折りだと感じた：単数回答（Q20E）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



8） 心の状態_自分は価値のない人間だと感じた

小学生の「全体」では、「全くない」が 68.3%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 15.3%となっている。

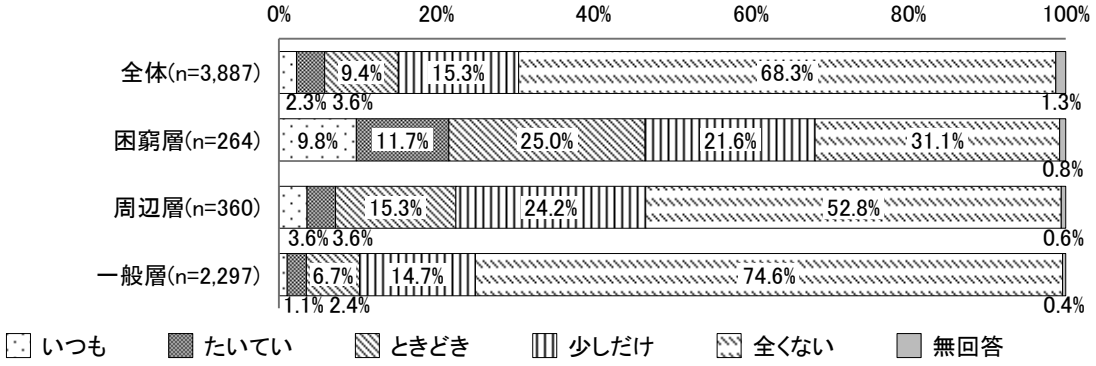
「困窮層」では、「全くない」が 31.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 52.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 74.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「全くない」が 67.2%でもっとも割合が高く、次いで「少しだけ」が 15.7%となっている。

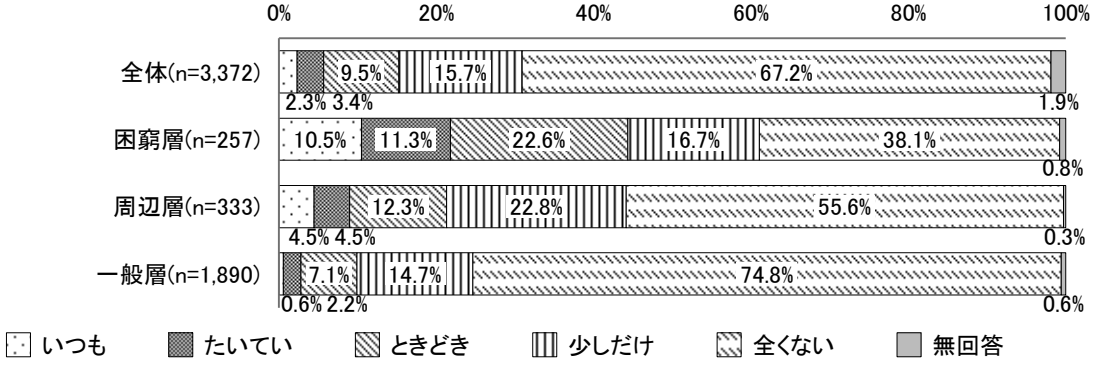
「困窮層」では、「全くない」が 38.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くない」が 55.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くない」が 74.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 50 心の状態_自分は価値のない人間だと感じた：単数回答（Q20F）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



9)　自分の体で気になること

小学生の「全体」では、「よく頭がいたくなる」が 33.6%でもっとも割合が高く、次いで「とくに気になることはない」が 32.5%となっている。

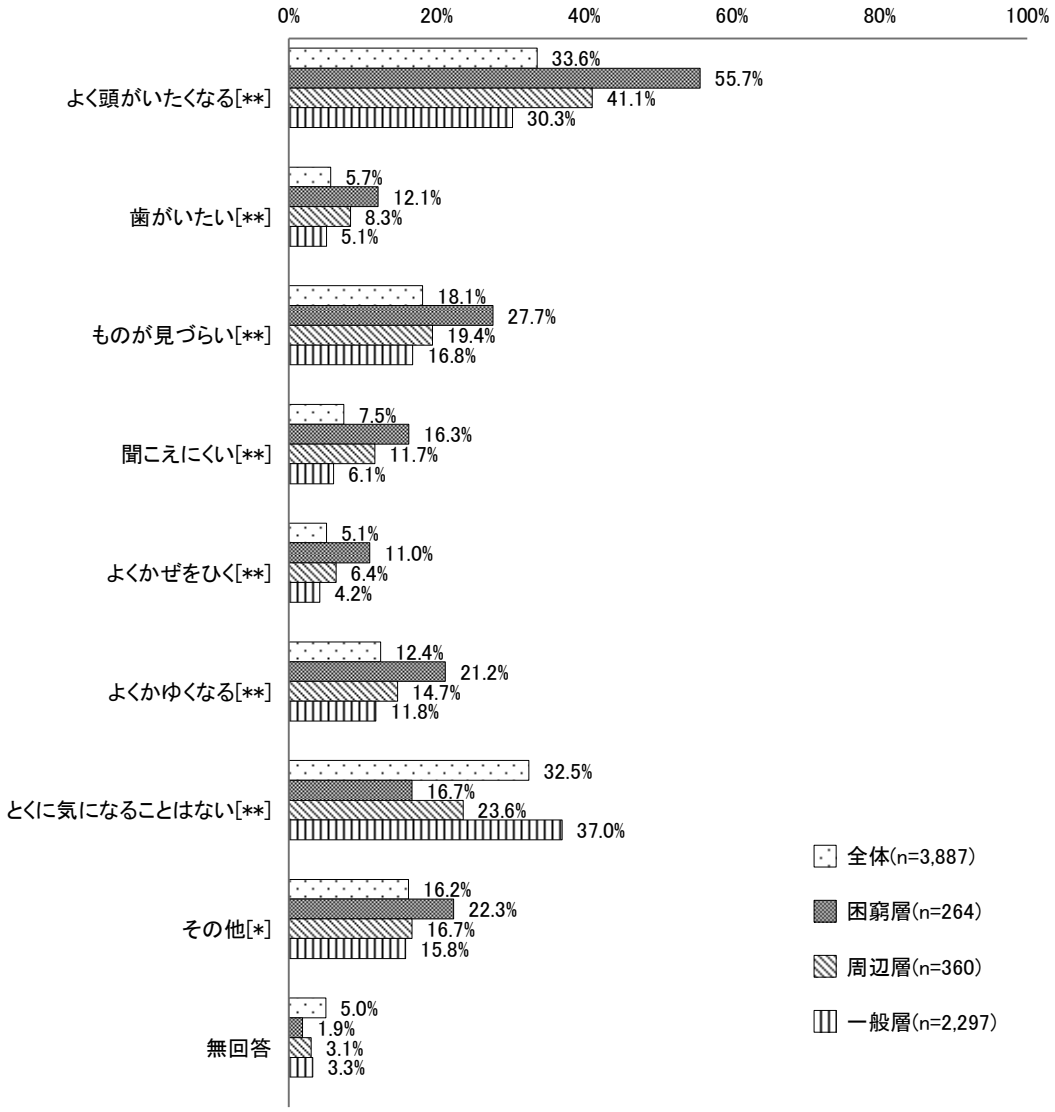
「困窮層」では、「よく頭がいたくなる」が 55.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「よく頭がいたくなる」が 41.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とくに気になることはない」が 37.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「よく頭がいたくなる」が 32.5%でもっとも割合が高く、次いで「とくに気になることはない」が 29.6%となっている。

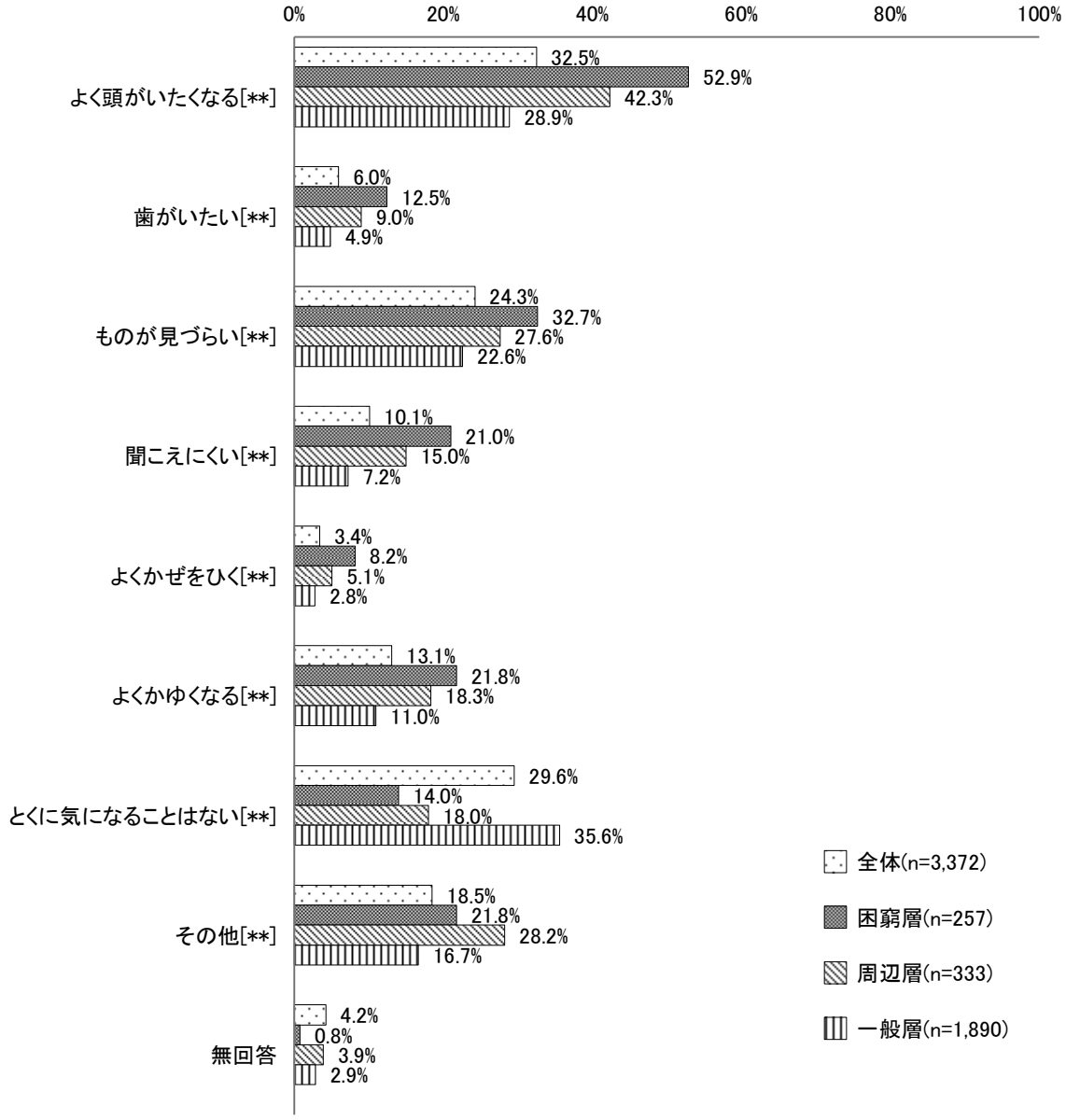
「困窮層」では、「よく頭がいたくなる」が 52.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「よく頭がいたくなる」が 42.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とくに気になることはない」が 35.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 51　自分の体で気になること：複数回答（Q21）（生活困難度別）

＜小学生＞



＜中学生＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
よく頭がいたくなる[**]
32.5%
52.9%
42.3%
28.9%
歯がいたい[**]
6.0%
12.5%
9.0%
4.9%
ものが見づらい[**]
24.3%
32.7%
27.6%
22.6%
聞こえにくい[**]
10.1%
21.0%
15.0%
7.2%
よくかぜをひく[**]
3.4%
8.2%
5.1%
2.8%
よくかゆくなる[**]
13.1%
21.8%
18.3%
11.0%
とくに気になることはない[**]
29.6%
14.0%
18.0%
35.6%
その他[**]
18.5%
21.8%
28.2%
16.7%
無回答
4.2%
0.8%
3.9%
2.9%
全体(n=3,372)
困窮層(n=257)
周辺層(n=333)
一般層(n=1,890)

10）健康診断やがん検診の有無

小学生の「全体」では、「はい」が 81.5%でもっとも割合が高く、次いで「いいえ」が 18.2%となっている。

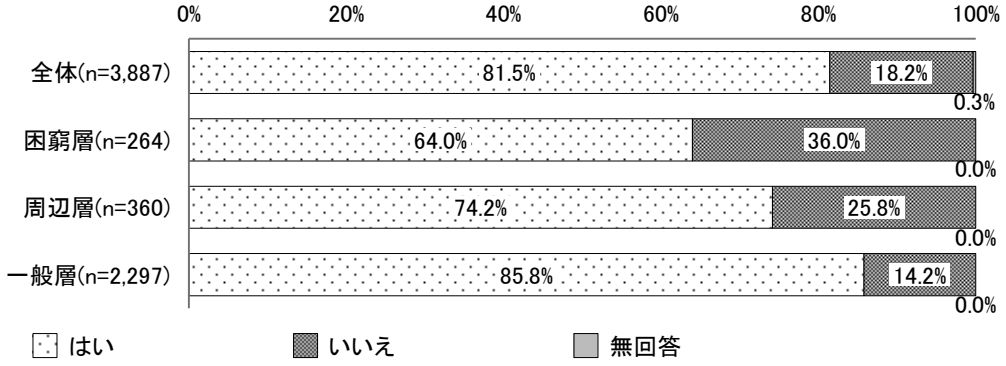
「困窮層」では、「はい」が 64.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「はい」が 74.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「はい」が 85.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「はい」が 82.1%でもっとも割合が高く、次いで「いいえ」が 17.4%となっている。

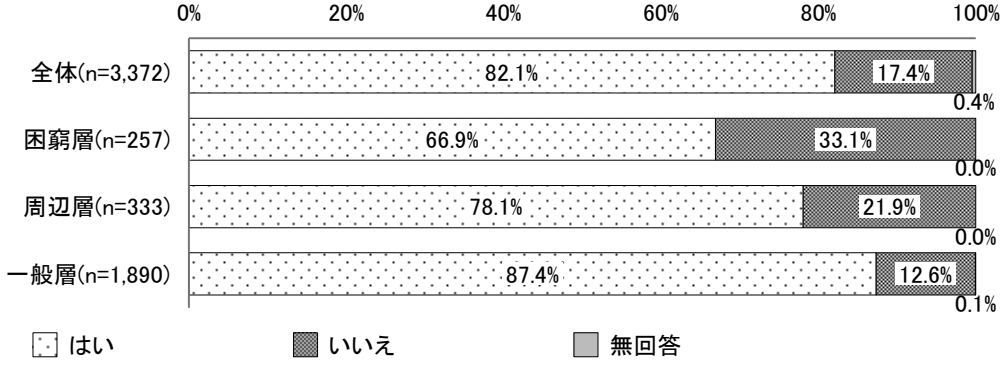
「困窮層」では、「はい」が 66.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「はい」が 78.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「はい」が 87.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 52　健康診断やがん検診の有無：単数回答（Q22）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



11）受けていない理由

健康診断やがん検診を受けていない場合について、受けていない理由をみると、小学生の「全体」では、「受診する時間がないから」が 48.0%でもっとも割合が高く、次いで「費用がかかるから」が 38.3%となっている。

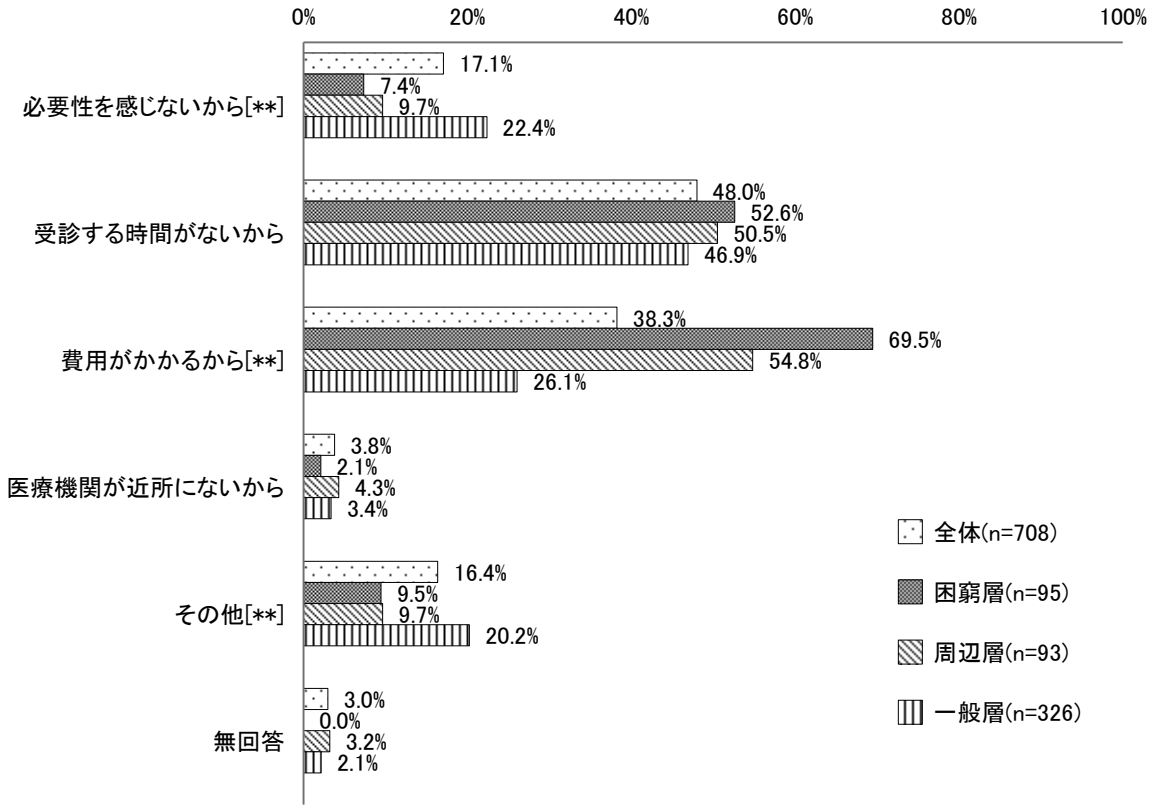
「困窮層」では、「費用がかかるから」が 69.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「費用がかかるから」が 54.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「受診する時間がないから」が 46.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「受診する時間がないから」が 45.2%でもっとも割合が高く、次いで「費用がかかるから」が 32.8%となっている。

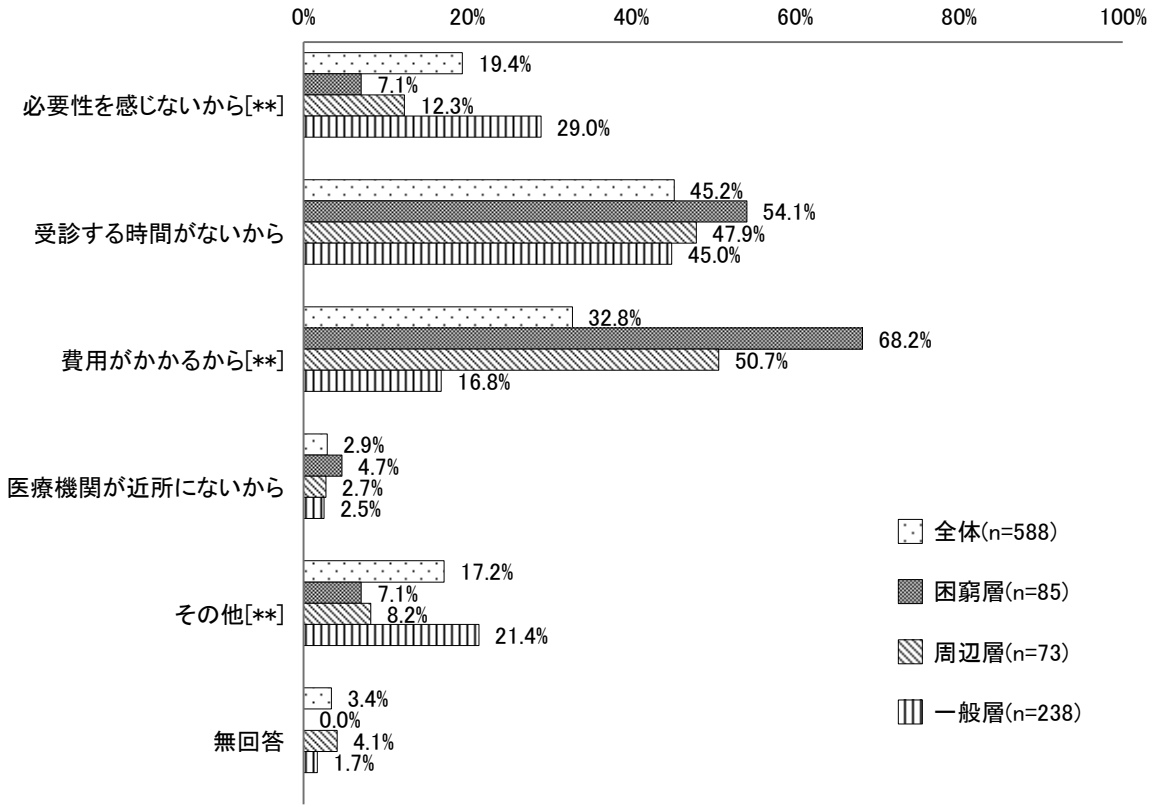
「困窮層」では、「費用がかかるから」が 68.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「費用がかかるから」が 50.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「受診する時間がないから」が 45.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 53　受けていない理由：複数回答（Q23）（生活困難度別）

＜小学生＞



＜中学生＞



注）対象は Q26 で「いいえ」と回答した者に限定

12）回答者が受診した方がよいと思ったが、受診しなかったこと

小学生の「全体」では、「なかった」が 67.1%でもっとも割合が高く、次いで「あった」が 31.8%となっている。

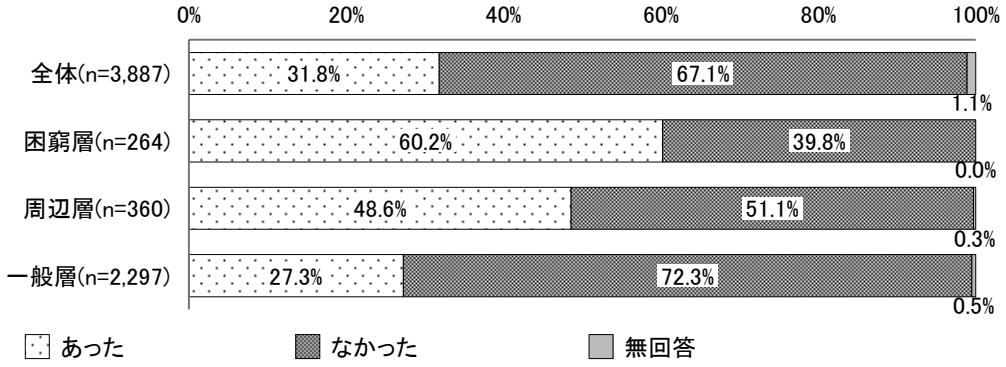
「困窮層」では、「あった」が 60.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 51.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 72.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が 69.2%でもっとも割合が高く、次いで「あった」が 29.9%となっている。

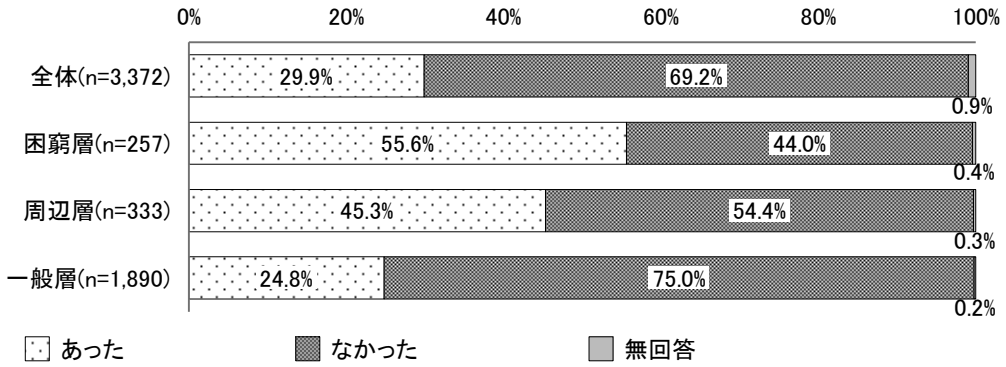
「困窮層」では、「あった」が 55.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 54.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 75.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 54　回答者が受診した方がよいと思ったが、受診しなかったこと：単数回答（Q24）
（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



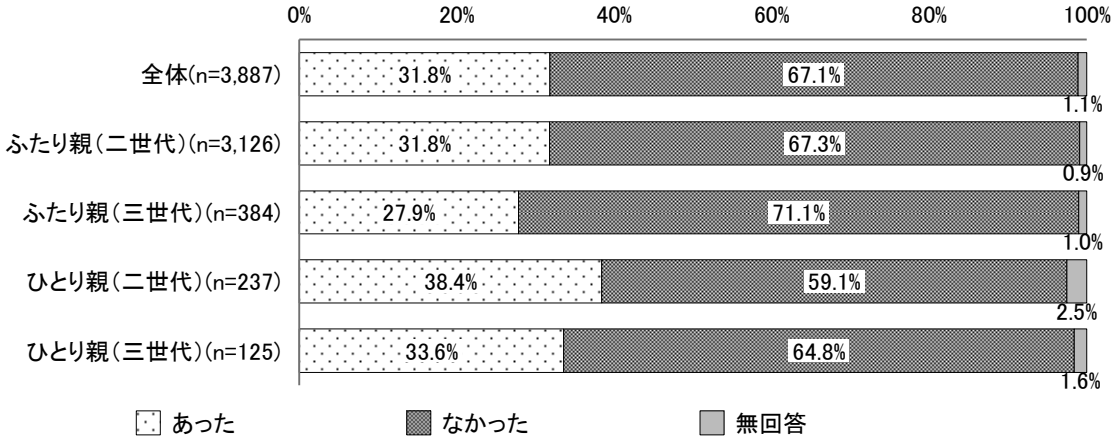
＜中学生＞（p<.01）



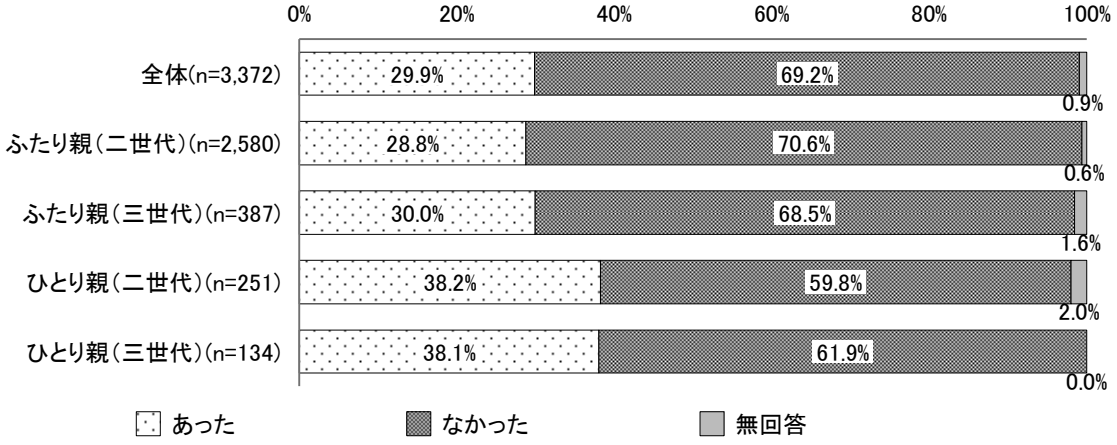
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「あった」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「あった」とする割合が高くなっている。

図表 55　回答者が受診した方がよいと思ったが、受診しなかったこと：単数回答（Q24）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（p<.01）



13）受診しなかった理由

回答者が受診したほうがよいと思ったが、受診しなかったことがあった場合について、受診しなかった理由をみると、小学生の「全体」では、「受診する時間がなかったから」が 55.1%でもっとも割合が高く、次いで「費用がかかるから」が 25.8%となっている。

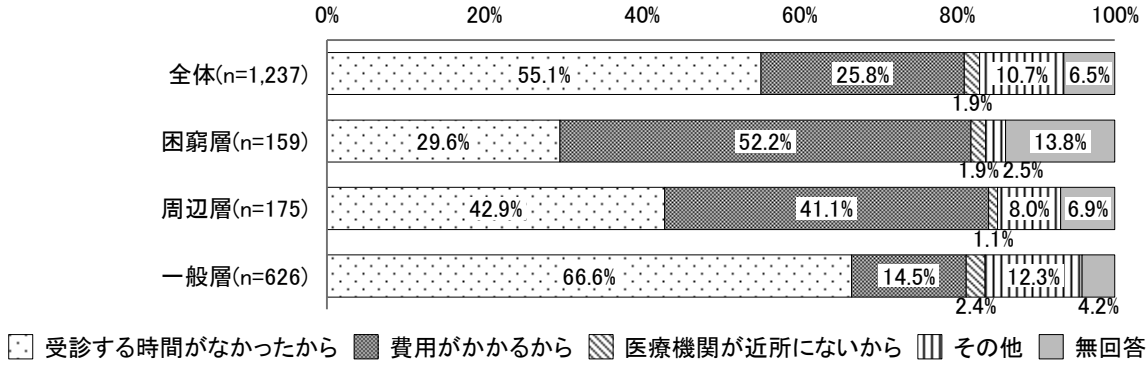
「困窮層」では、「費用がかかるから」が 52.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「受診する時間がなかったから」が 42.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「受診する時間がなかったから」が 66.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「受診する時間がなかったから」が 53.0%でもっとも割合が高く、次いで「費用がかかるから」が 28.3%となっている。

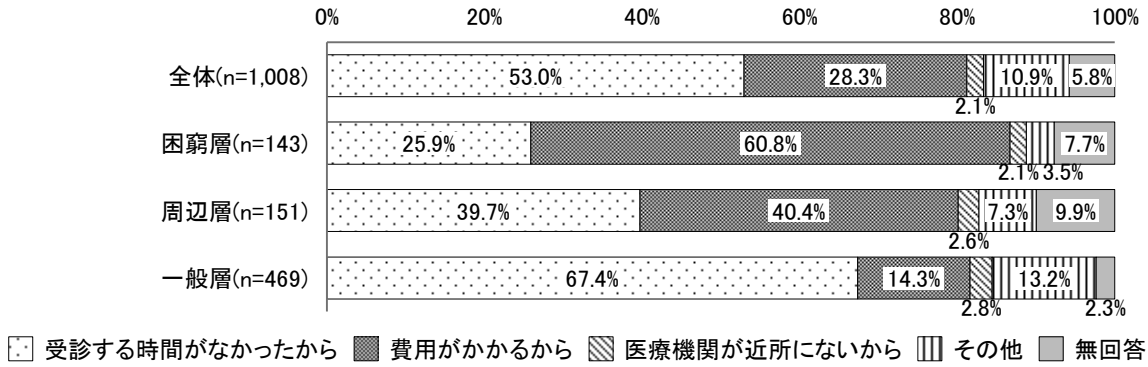
「困窮層」では、「費用がかかるから」が 60.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「費用がかかるから」が 40.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「受診する時間がなかったから」が 67.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 56　受診しなかった理由：単数回答（Q25）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



注）対象は Q24 で「あった」と回答した者に限定

14）お子さんを受診させた方がよいと思ったが、受診させなかったこと

小学生の「全体」では、「なかった」が 90.5%でもっとも割合が高く、次いで「あった」が 8.9%となっている。

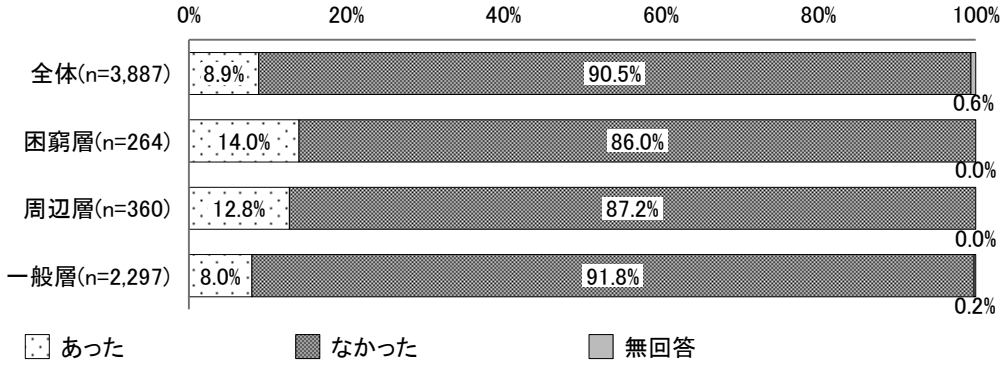
「困窮層」では、「なかった」が 86.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 87.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 91.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が 89.8%でもっとも割合が高く、次いで「あった」が 9.4%となっている。

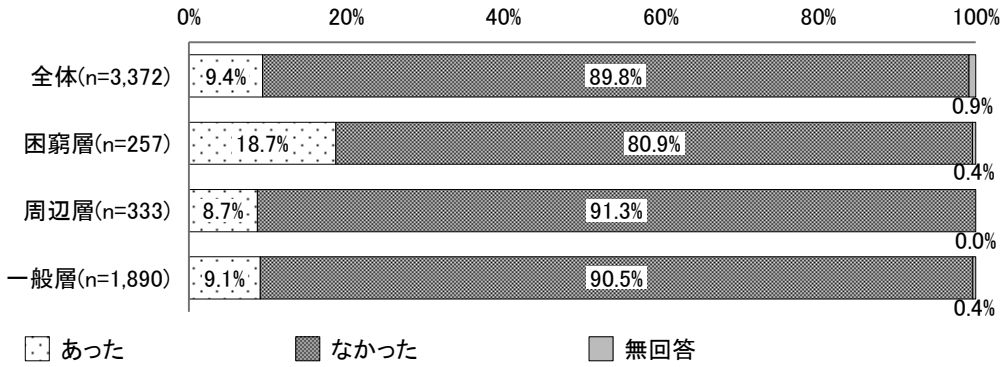
「困窮層」では、「なかった」が 80.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 91.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 90.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 57　お子さんを受診させた方がよいと思ったが、受診させなかったこと：単数回答（Q26）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



15）受診させなかった理由

お子さんを受診させた方がよいと思ったが、受診させなかったことがあった場合について、小学生の「全体」では、「最初は受診させようと思ったが、こどもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため」が 43.8%でもっとも割合が高く、次いで「多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため」が 33.6%となっている。

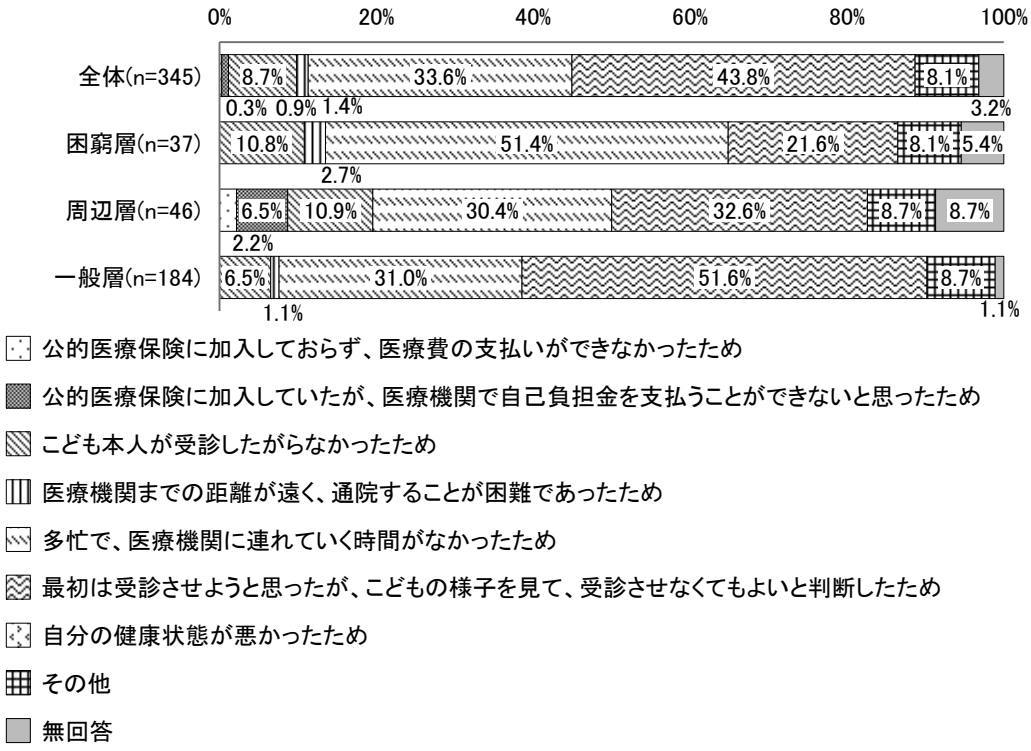
「困窮層」では、「多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため」が 51.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「最初は受診させようと思ったが、こどもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため」が 32.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「最初は受診させようと思ったが、こどもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため」が 51.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「最初は受診させようと思ったが、こどもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため」が 35.4%でもっとも割合が高く、次いで「多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため」が 29.7%となっている。

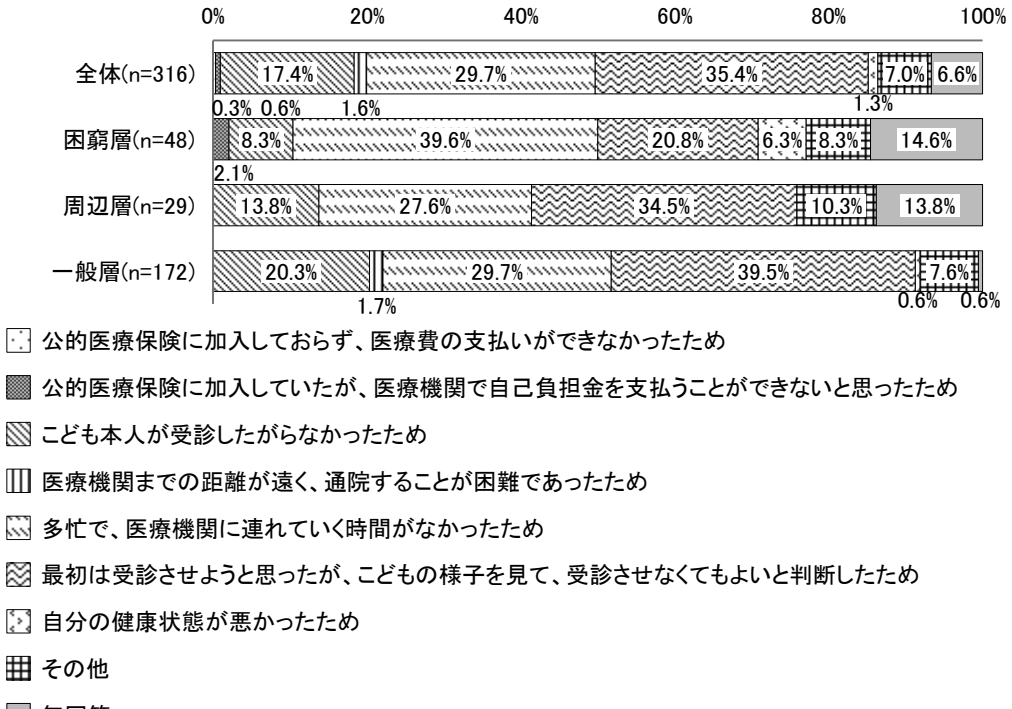
「困窮層」では、「多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため」が 39.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「最初は受診させようと思ったが、こどもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため」が 34.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「最初は受診させようと思ったが、こどもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため」が 39.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 58　受診させなかった理由：単数回答（Q27）（生活困難度別）

＜小学生＞（検定不可）



＜中学生＞（検定不可）



注）対象は Q26 で「あった」と回答した者に限定

＜数値表：小学生＞

	合計	Q27 受診させなかった理由									
		公的医療保険に加入しておらず、医療費の支払いができなかったため	公的医療保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を支払うことができないと思ったため	こども本人が受診したがらなかったため	医療機関までの距離が遠く、通院することが困難であったため	多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため	最初は受診させようと思ったが、こどもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため	自分の健康状態が悪かったため	その他	無回答	非該当
全体	345	0.3	0.9	8.7	1.4	33.6	43.8	0.0	8.1	3.2	
困窮層	37	0.0	0.0	10.8	2.7	51.4	21.6	0.0	8.1	5.4	
周辺層	46	2.2	6.5	10.9	0.0	30.4	32.6	0.0	8.7	8.7	
一般層	184	0.0	0.0	6.5	1.1	31.0	51.6	0.0	8.7	1.1	

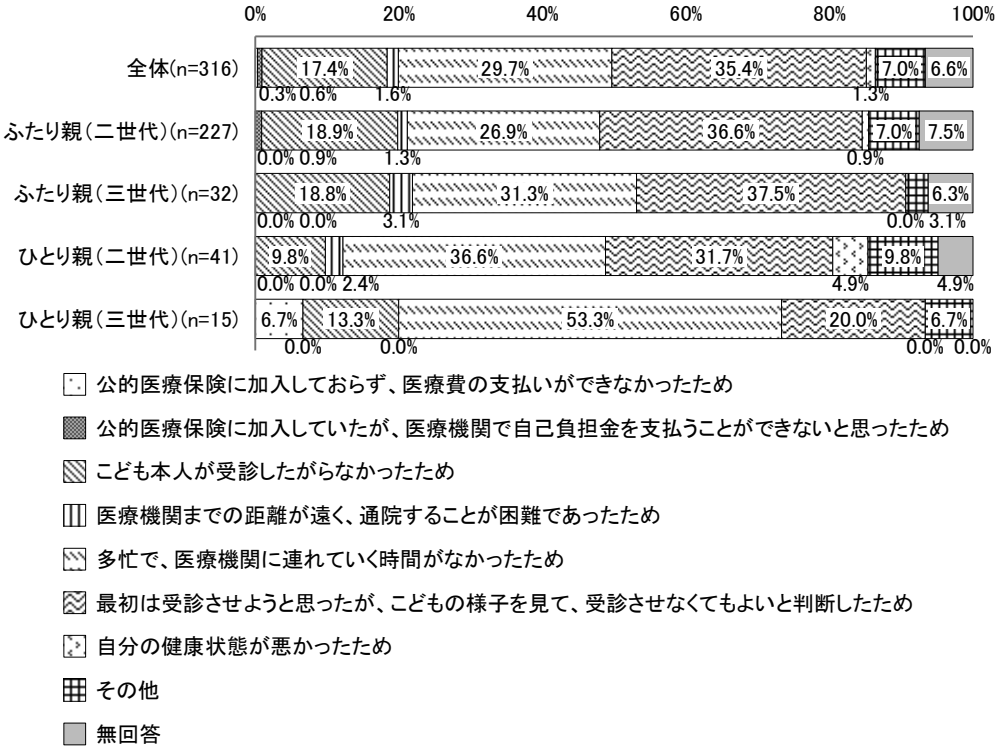
＜数値表：中学生＞

	合計	Q27 受診させなかった理由									
		公的医療保険に加入しておらず、医療費の支払いができなかったため	公的医療保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を支払うことができないと思ったため	こども本人が受診したがらなかったため	医療機関までの距離が遠く、通院することが困難であったため	多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため	最初は受診させようと思ったが、こどもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため	自分の健康状態が悪かったため	その他	無回答	非該当
全体	316	0.3	0.6	17.4	1.6	29.7	35.4	1.3	7.0	6.6	
困窮層	48	0.0	2.1	8.3	0.0	39.6	20.8	6.3	8.3	14.6	
周辺層	29	0.0	0.0	13.8	0.0	27.6	34.5	0.0	10.3	13.8	
一般層	172	0.0	0.0	20.3	1.7	29.7	39.5	0.6	7.6	0.6	

世帯タイプ別にみると、中学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代）」において「多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため」とする割合が高くなっている。小学生では有意な差がみられなかった。

図表 59　受診させなかった理由：単数回答（Q27）（世帯タイプ別）

＜中学生＞（p<.05）



（５）こどもとの関わり

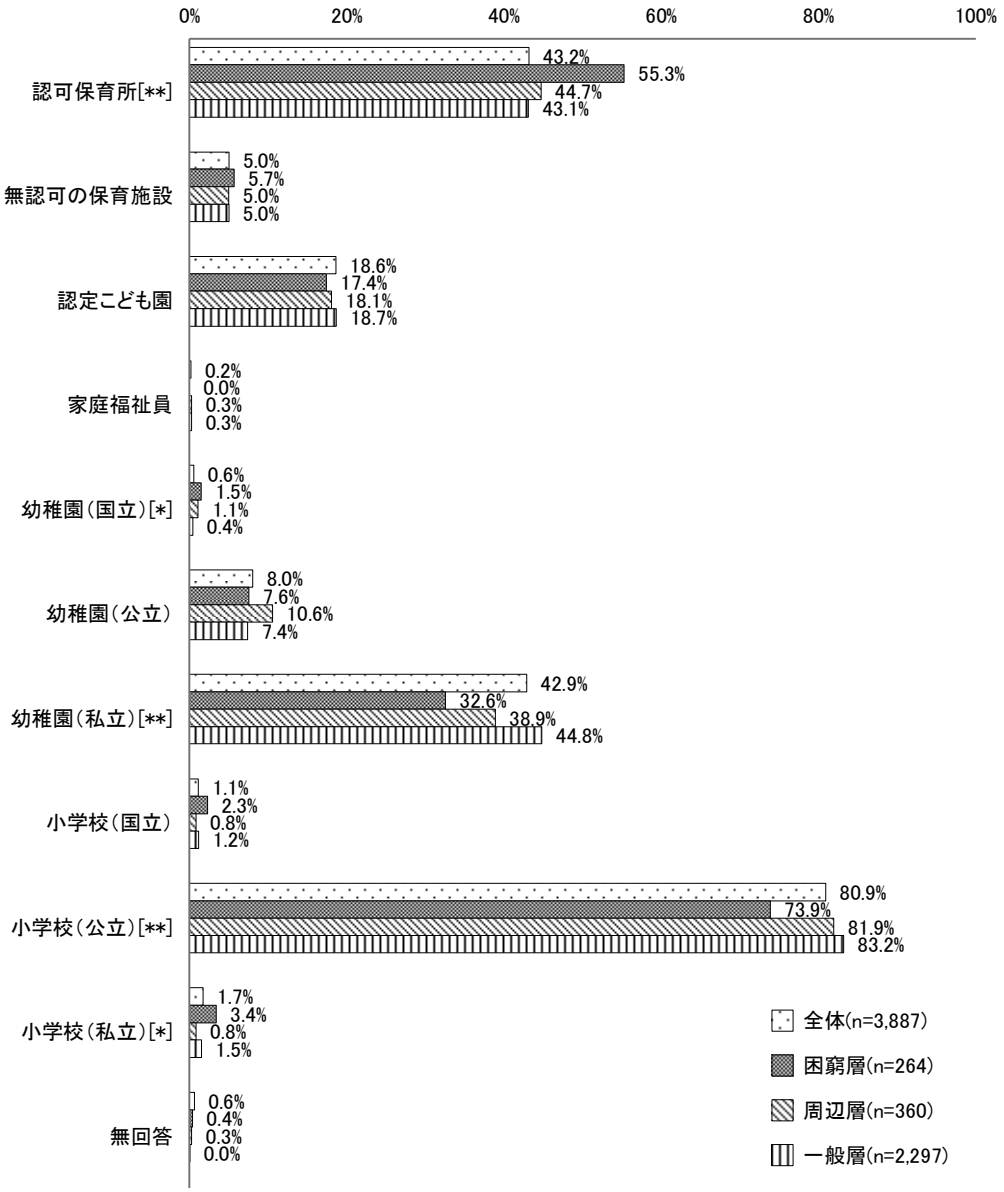
1） 通ったことのある保育・教育機関等

小学生の「全体」では、「小学校（公立）」が 80.9%でもっとも割合が高く、次いで「認可保育所」が 43.2%となっている。「困窮層」では、「小学校（公立）」が 73.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「小学校（公立）」が 81.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「小学校（公立）」が 83.2%でもっとも割合が高くなっている。

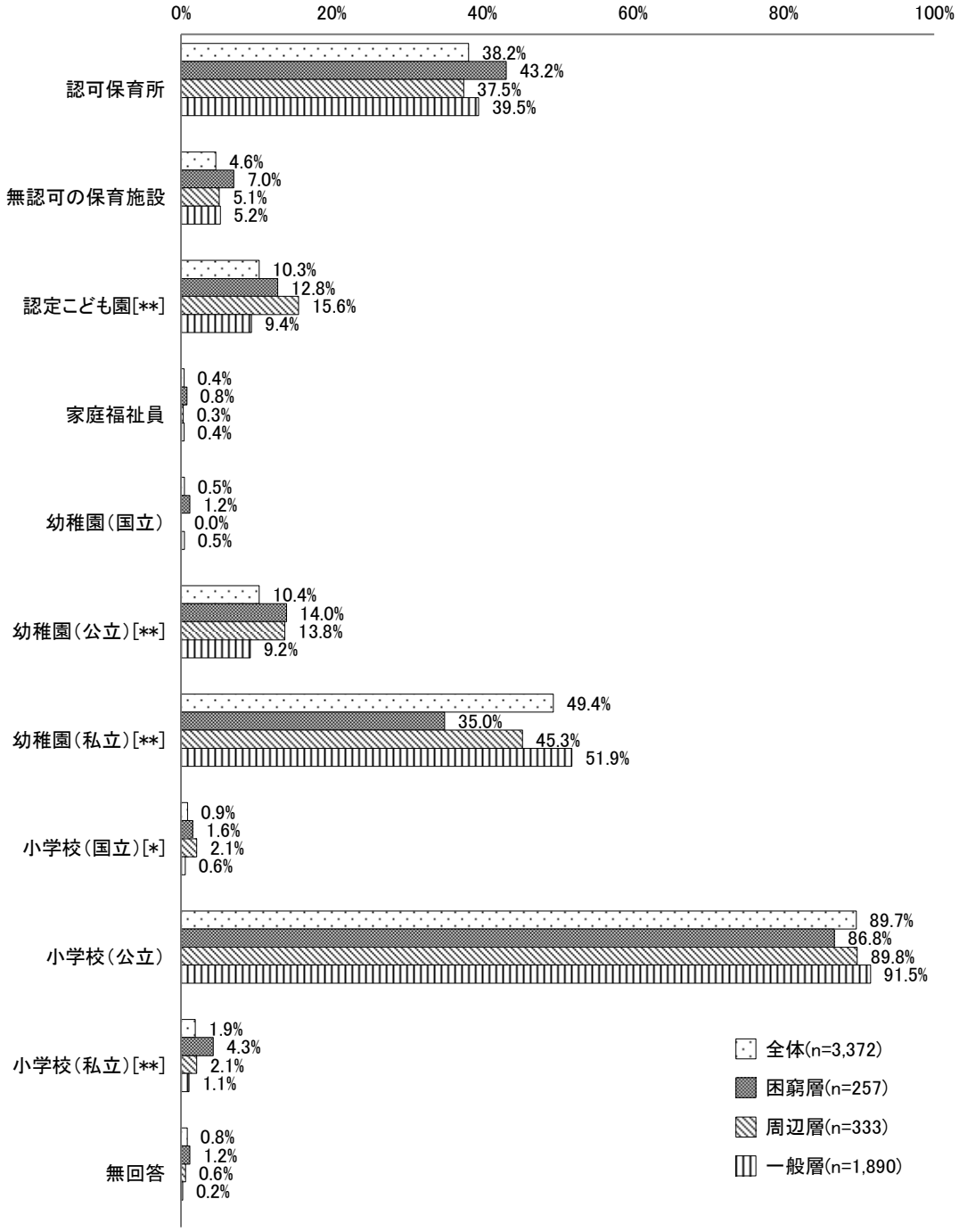
中学生の「全体」では、「小学校（公立）」が 89.7%でもっとも割合が高く、次いで「幼稚園（私立）」が 49.4%となっている。「困窮層」では、「小学校（公立）」が 86.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「小学校（公立）」が 89.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「小学校（公立）」が 91.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 60　通ったことのある保育・教育機関等：複数回答（Q28）（生活困難度別）

＜小学生＞



＜中学生＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
認可保育所
38.2%
43.2%
37.5%
39.5%
無認可の保育施設
4.6%
7.0%
5.1%
5.2%
認定こども園[**]
10.3%
12.8%
15.6%
9.4%
家庭福祉員
0.4%
0.8%
0.3%
0.4%
幼稚園（国立）
0.5%
1.2%
0.0%
0.5%
幼稚園（公立）[**]
10.4%
14.0%
13.8%
9.2%
幼稚園（私立）[**]
49.4%
35.0%
45.3%
51.9%
小学校（国立）[*]
0.9%
1.6%
2.1%
0.6%
小学校（公立）
89.7%
86.8%
89.8%
91.5%
小学校（私立）[**]
1.9%
4.3%
2.1%
1.1%
無回答
0.8%
1.2%
0.6%
0.2%
全体(n=3,372)
困窮層(n=257)
周辺層(n=333)
一般層(n=1,890)

2)　教育を受けさせたい段階

小学生の「全体」では、「大学またはそれ以上」が 62.9%でもっとも割合が高く、次いで「まだわからない」が 17.4%となっている。

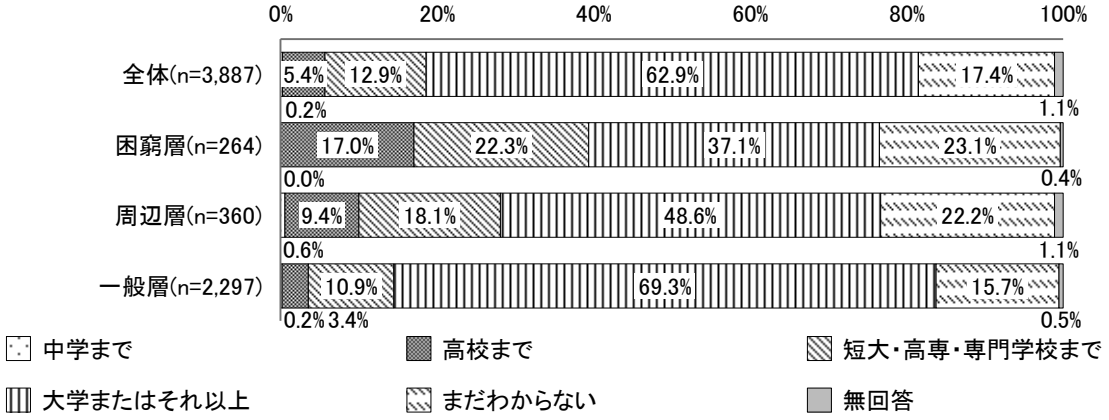
「困窮層」では、「大学またはそれ以上」が 37.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「大学またはそれ以上」が 48.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「大学またはそれ以上」が 69.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「大学またはそれ以上」が 59.7%でもっとも割合が高く、次いで「まだわからない」が 16.4%となっている。

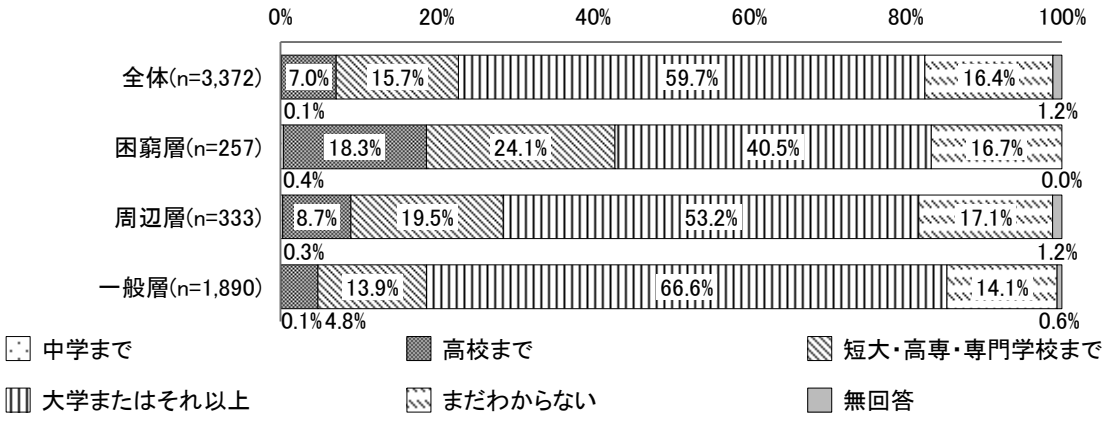
「困窮層」では、「大学またはそれ以上」が 40.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「大学またはそれ以上」が 53.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「大学またはそれ以上」が 66.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 61　教育を受けさせたい段階：単数回答（Q29）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



3)　将来について、お子さんと一緒に考えたり、話すこと

小学生の「全体」では、「たまにする」が 62.6%でもっとも割合が高く、次いで「よくする」が 19.5%となっている。

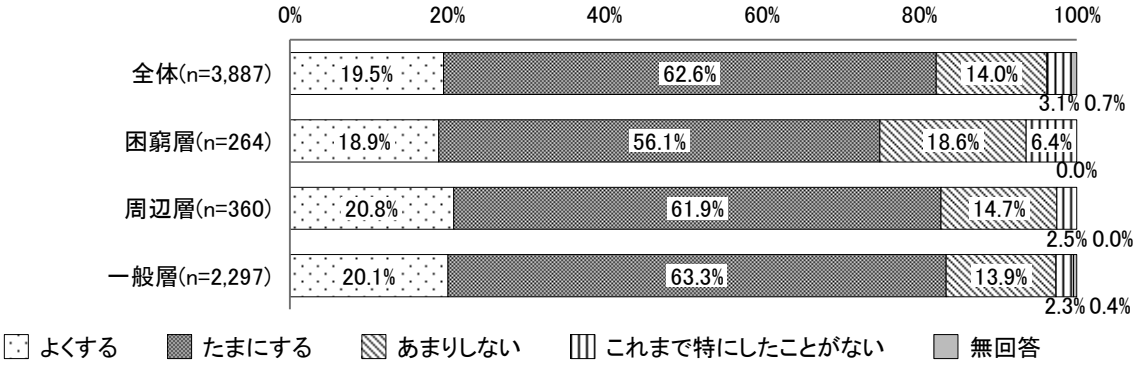
「困窮層」では、「たまにする」が 56.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「たまにする」が 61.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「たまにする」が 63.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「たまにする」が 64.1%でもっとも割合が高く、次いで「よくする」が 20.0%となっている。

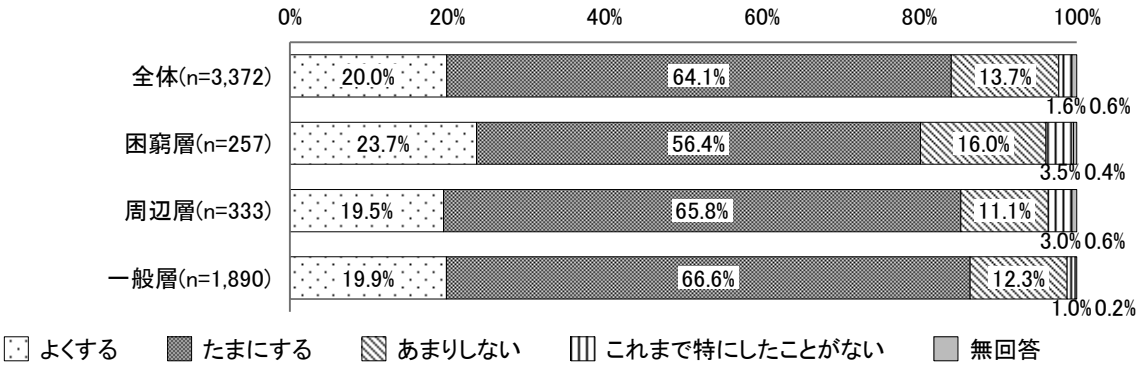
「困窮層」では、「たまにする」が 56.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「たまにする」が 65.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「たまにする」が 66.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 62　将来について、お子さんと一緒に考えたり、話すこと：単数回答（Q30）
（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



4) 毎月お小遣いを渡す

小学生の「全体」では、「していない/したくない」が 47.1%でもっとも割合が高く、次いで「している」が 43.8%となっている。

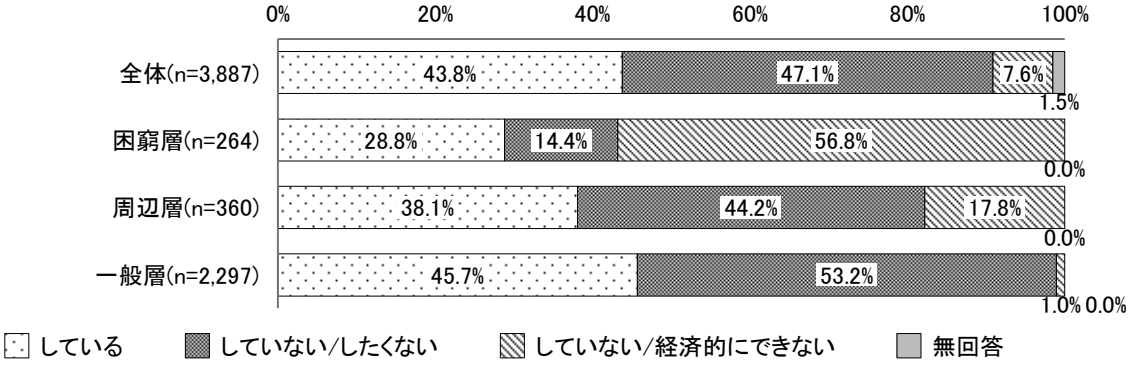
「困窮層」では、「していない/経済的にできない」が 56.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「していない/したくない」が 44.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「していない/したくない」が 53.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「している」が 58.1%でもっとも割合が高く、次いで「していない/したくない」が 32.5%となっている。

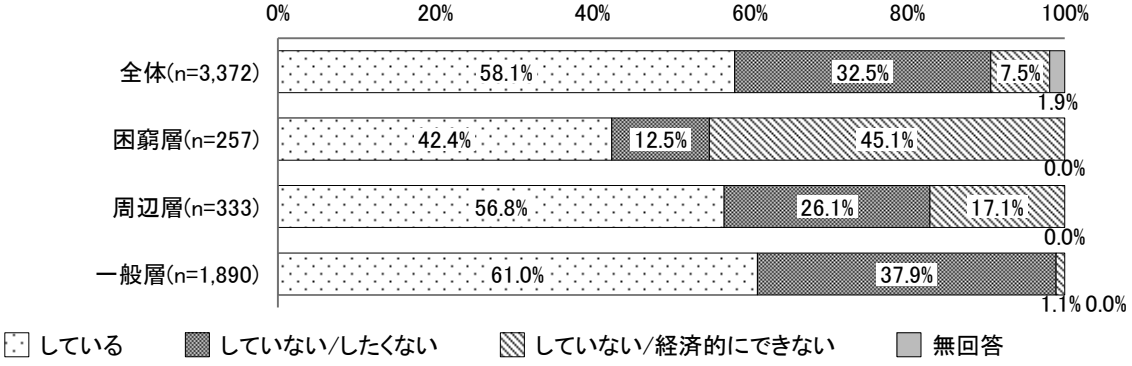
「困窮層」では、「していない/経済的にできない」が 45.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が 56.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が 61.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 63　毎月お小遣いを渡す：単数回答（Q31A）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



5) 毎年新しい洋服・靴を買う

小学生の「全体」では、「している」が 92.0%でもっとも割合が高く、次いで「していない/経済的にできない」が 3.8%となっている。

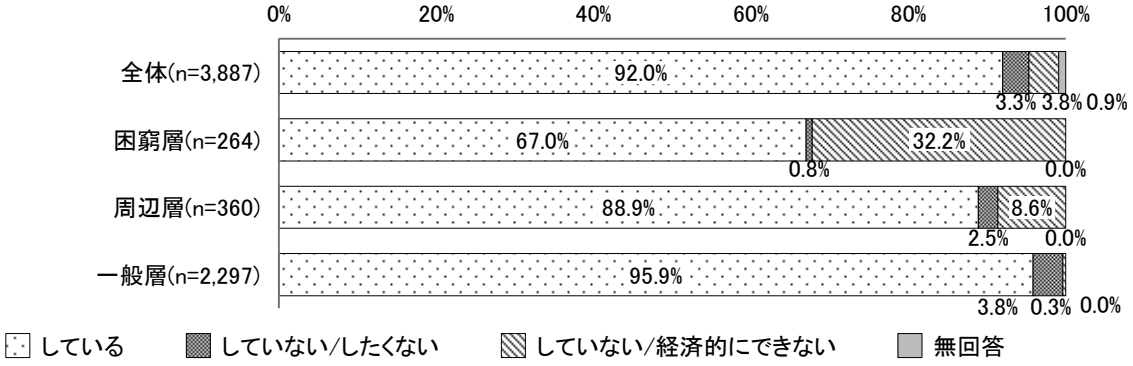
「困窮層」では、「している」が 67.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が 88.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が 95.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「している」が 90.5%でもっとも割合が高く、次いで「していない/経済的にできない」が 4.8%となっている。

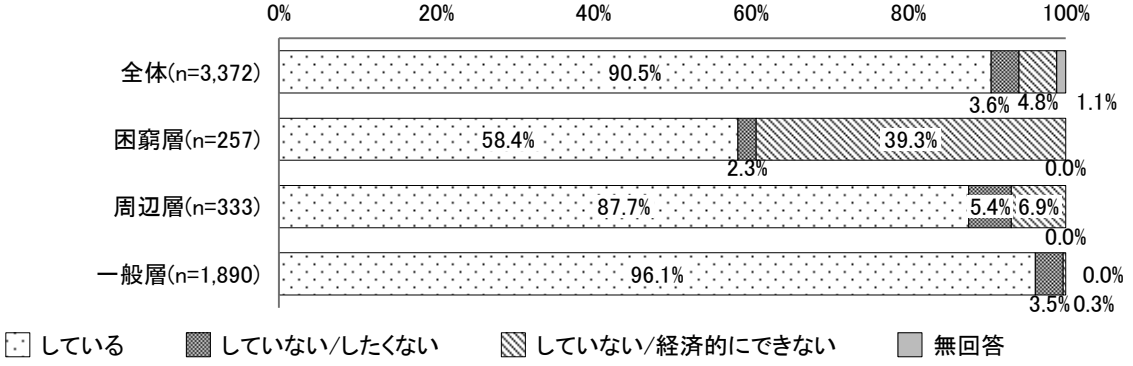
「困窮層」では、「している」が 58.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が 87.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が 96.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 64　毎年新しい洋服・靴を買う：単数回答（Q31B）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



6） 習い事に通わせる

小学生の「全体」では、「している」が 81.5%でもっとも割合が高く、次いで「していない/したくない」が 8.9%となっている。

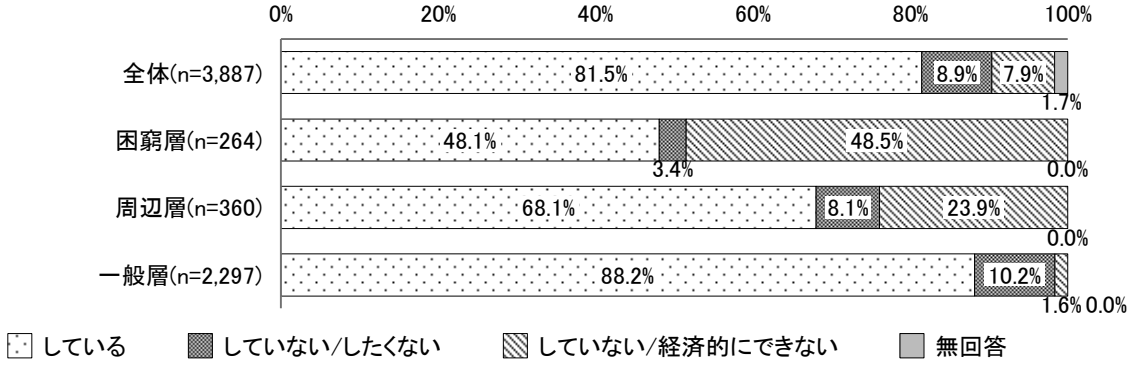
「困窮層」では、「していない/経済的にできない」が 48.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が 68.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が 88.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「している」が 61.8%でもっとも割合が高く、次いで「していない/したくない」が 21.9%となっている。

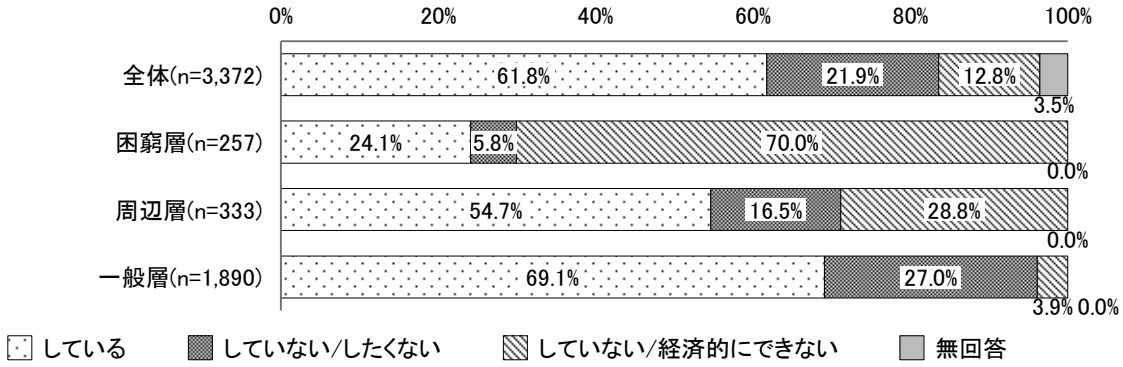
「困窮層」では、「していない/経済的にできない」が 70.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が 54.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が 69.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 65　習い事に通わせる：単数回答（Q31C）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



7)　学習塾に通わせる

小学生の「全体」では、「している」が 53.5%でもっとも割合が高く、次いで「していない/したくない」が 28.9%となっている。

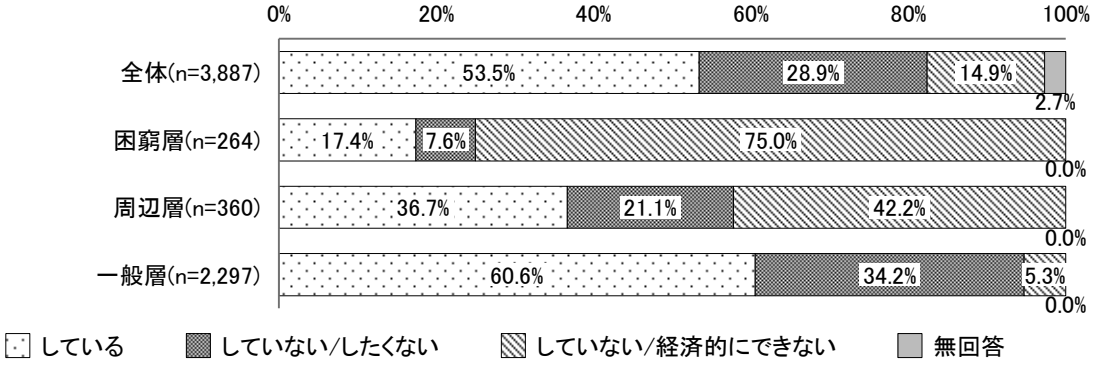
「困窮層」では、「していない/経済的にできない」が 75.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「していない/経済的にできない」が 42.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が 60.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「している」が 61.2%でもっとも割合が高く、次いで「していない/したくない」が 21.2%となっている。

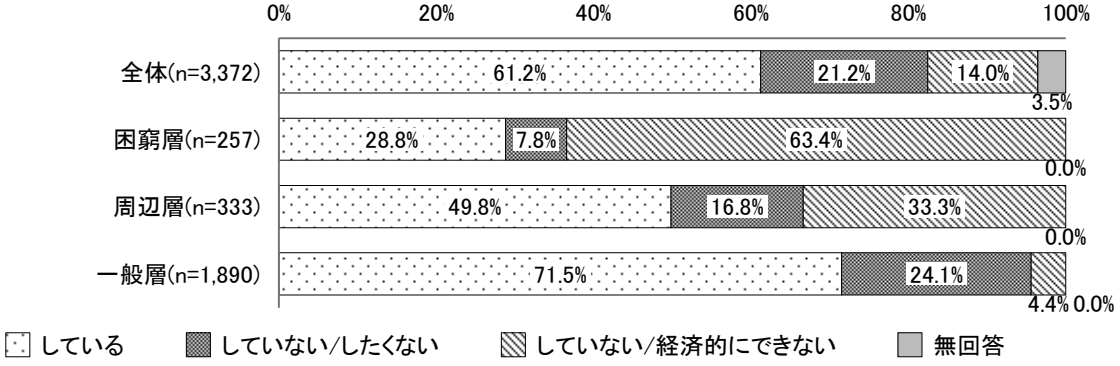
「困窮層」では、「していない/経済的にできない」が 63.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が 49.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が 71.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 66　学習塾に通わせる：単数回答（Q31D）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



8)　お誕生日のお祝いをする

小学生の「全体」では、「している」が 98.7%でもっとも割合が高く、次いで「していない/したくない」が 0.4%、「していない/経済的にできない」が 0.4%となっている。

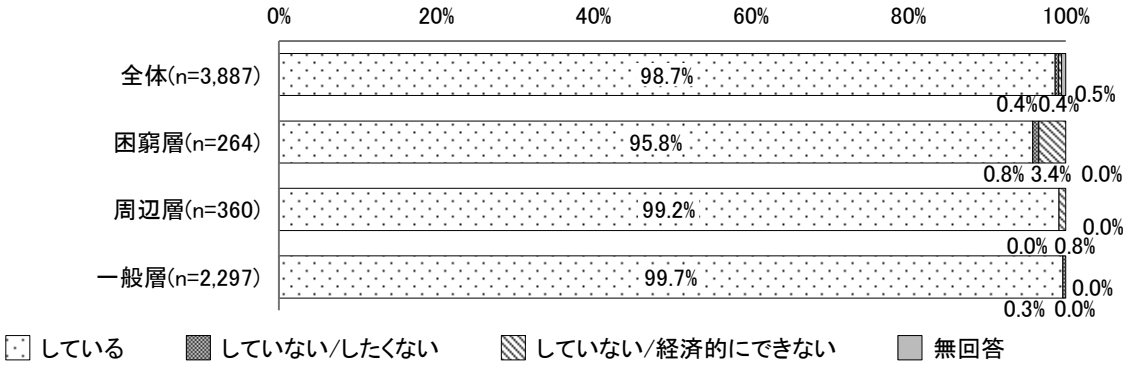
「困窮層」では、「している」が 95.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が 99.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が 99.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「している」が 97.8%でもっとも割合が高く、次いで「していない/経済的にできない」が 0.9%となっている。

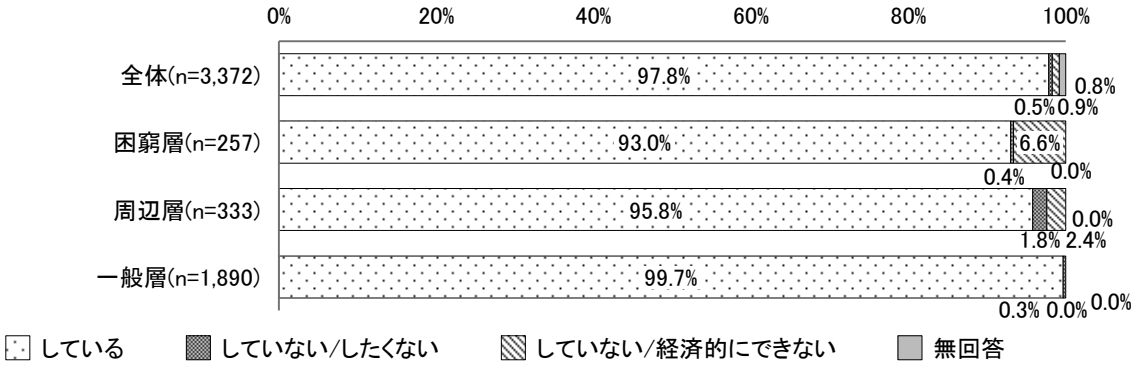
「困窮層」では、「している」が 93.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が 95.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が 99.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 67　お誕生日のお祝いをする：単数回答（Q31E）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



9) 1年に1回くらい家族旅行に行く

小学生の「全体」では、「している」が 76.8%でもっとも割合が高く、次いで「していない/経済的にできない」が 16.5%となっている。

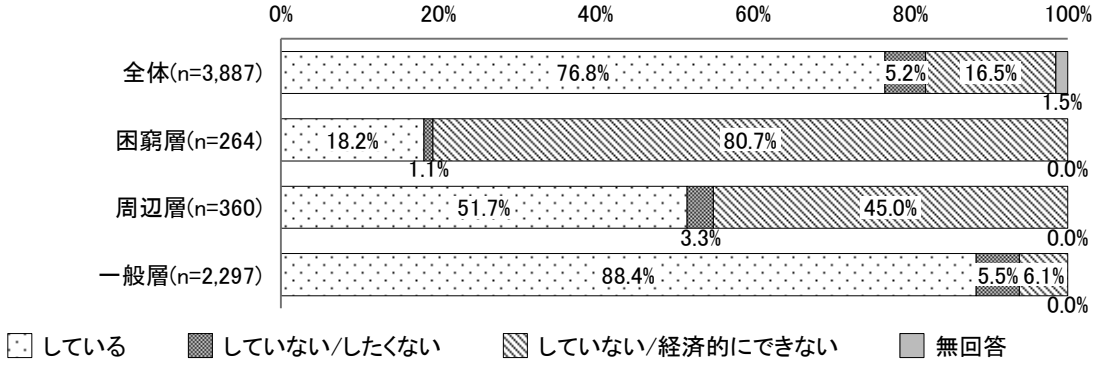
「困窮層」では、「していない/経済的にできない」が 80.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が 51.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が 88.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「している」が 67.4%でもっとも割合が高く、次いで「していない/経済的にできない」が 21.6%となっている。

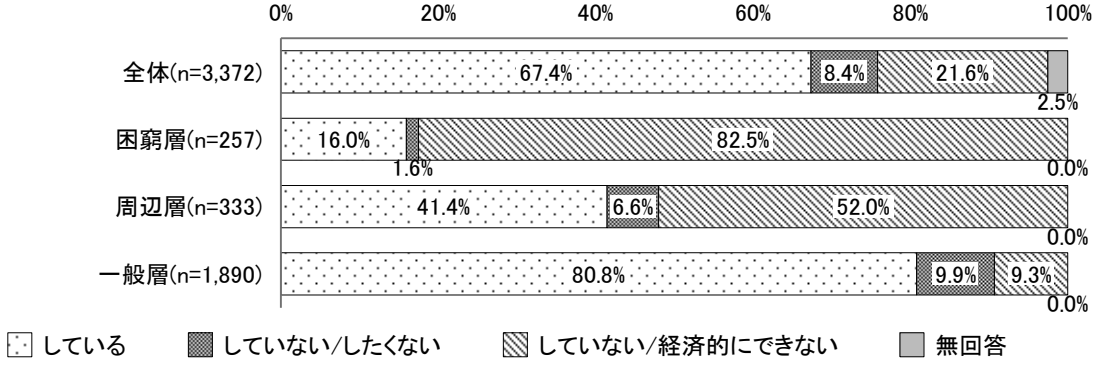
「困窮層」では、「していない/経済的にできない」が 82.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「していない/経済的にできない」が 52.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が 80.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 68　1年に1回くらい家族旅行に行く：単数回答（Q31F）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



10）クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる

小学生の「全体」では、「している」が 96.0%でもっとも割合が高く、次いで「していない/経済的にできない」が 2.2%となっている。

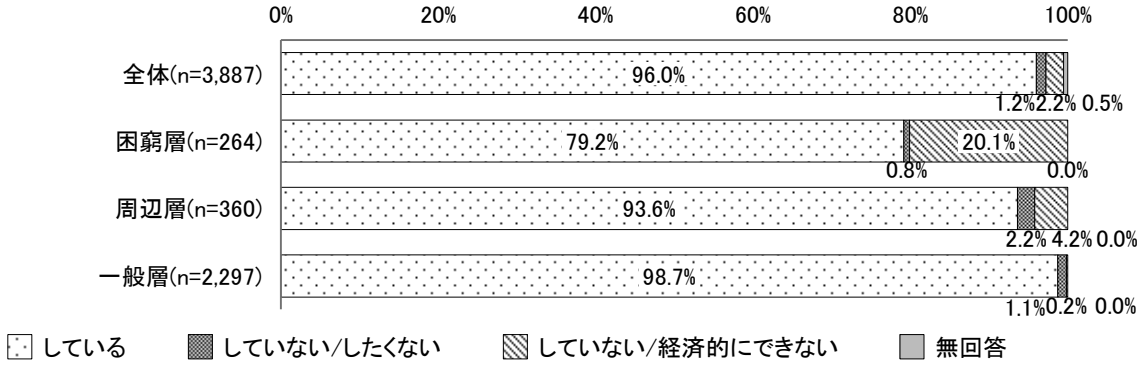
「困窮層」では、「している」が 79.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が 93.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が 98.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「している」が 93.9%でもっとも割合が高く、次いで「していない/経済的にできない」が 2.8%となっている。

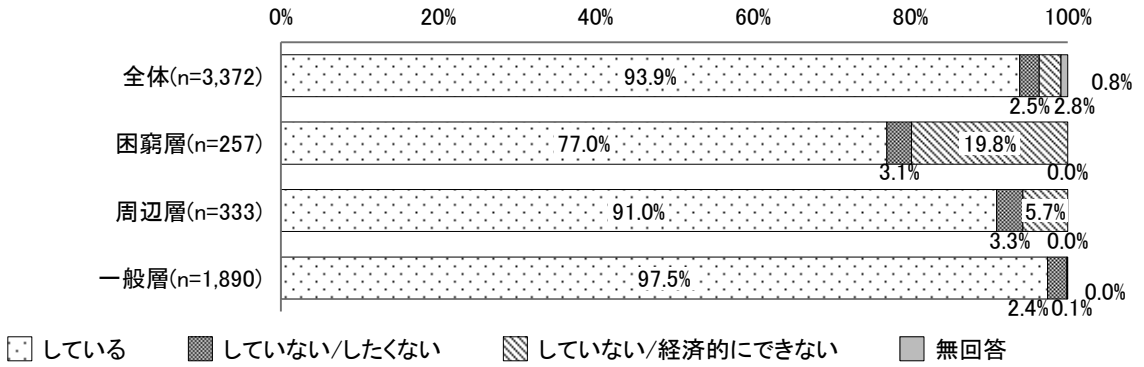
「困窮層」では、「している」が 77.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が 91.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が 97.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 69　クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる：単数回答（Q31G）
（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



11）こどもの学校行事などへ親が参加する

小学生の「全体」では、「している」が 97.9%でもっとも割合が高く、次いで「していない/したくない」が 1.0%となっている。

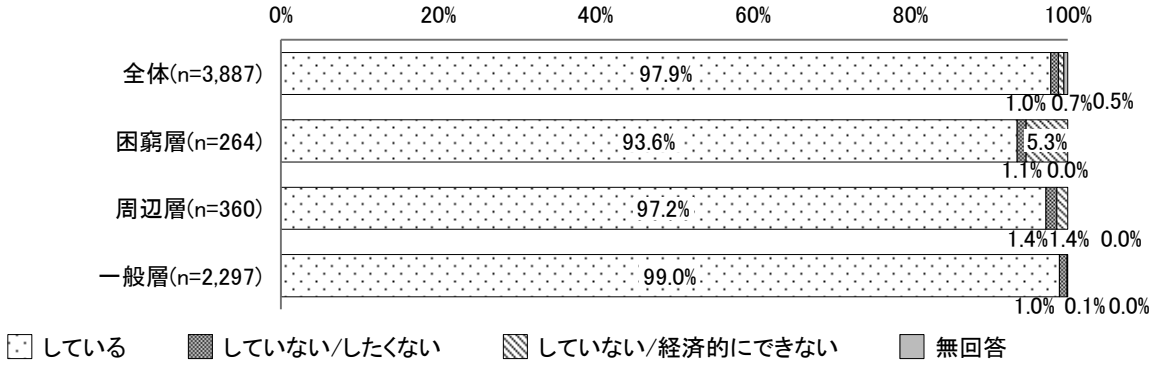
「困窮層」では、「している」が 93.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が 97.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が 99.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「している」が 95.4%でもっとも割合が高く、次いで「していない/したくない」が 2.6%となっている。

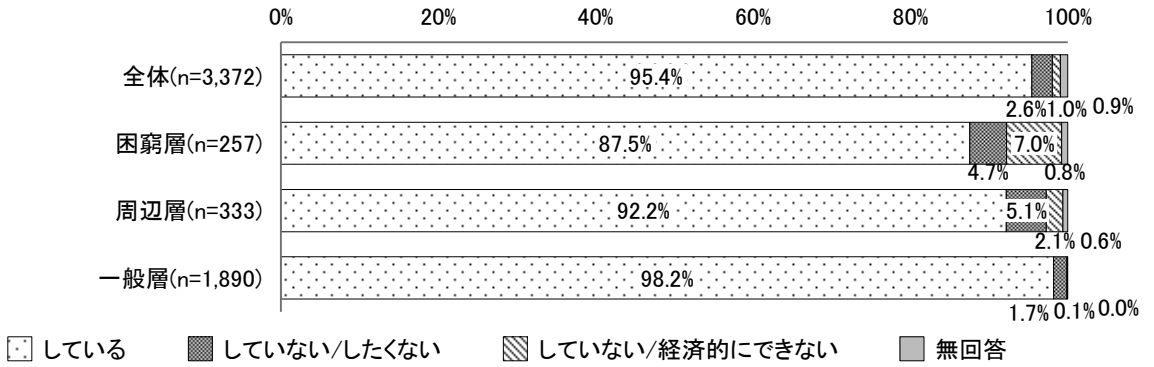
「困窮層」では、「している」が 87.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「している」が 92.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「している」が 98.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 70　こどもの学校行事などへ親が参加する：単数回答（Q31H）
（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



12）海水浴に行く

小学生の「全体」では、「ある」が 47.2%でもっとも割合が高く、次いで「その他の理由でない」が 37.1%となっている。

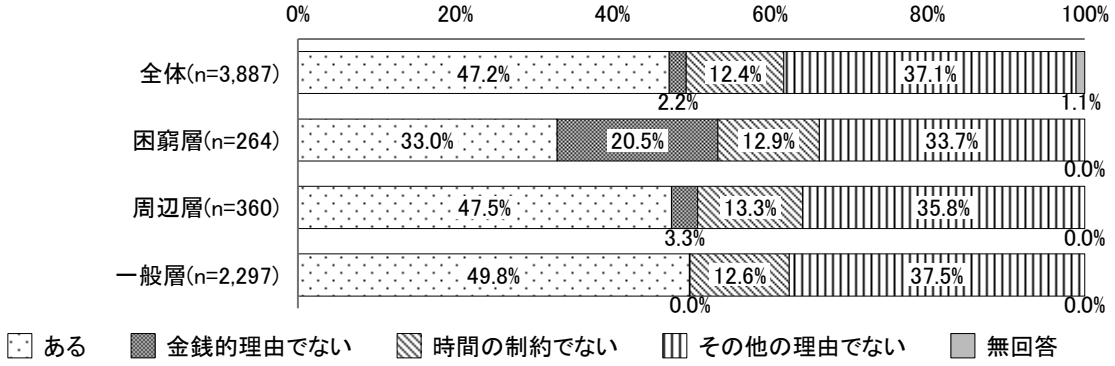
「困窮層」では、「その他の理由でない」が 33.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 47.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 49.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「その他の理由でない」が 47.5%でもっとも割合が高く、次いで「ある」が 29.0%となっている。

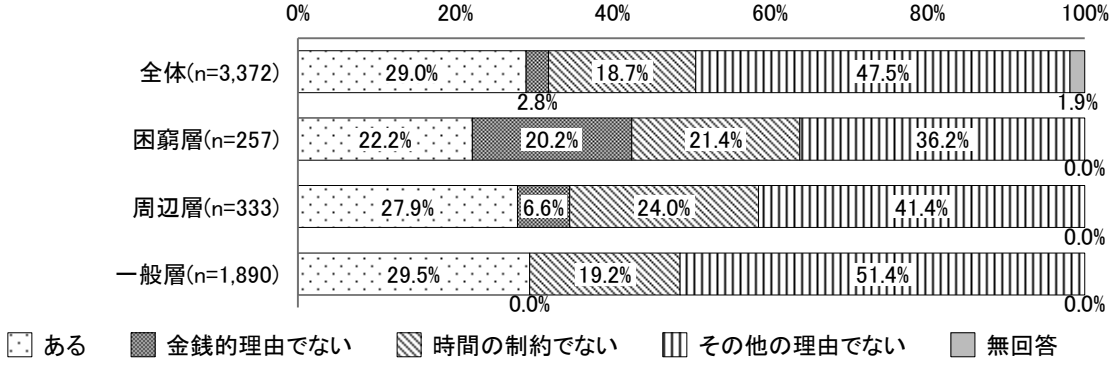
「困窮層」では、「その他の理由でない」が 36.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「その他の理由でない」が 41.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「その他の理由でない」が 51.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 71　海水浴に行く：単数回答（Q32A）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



13）キャンプやバーベキューに行く

小学生の「全体」では、「ある」が 49.4%でもっとも割合が高く、次いで「その他の理由でない」が 34.2%となっている。

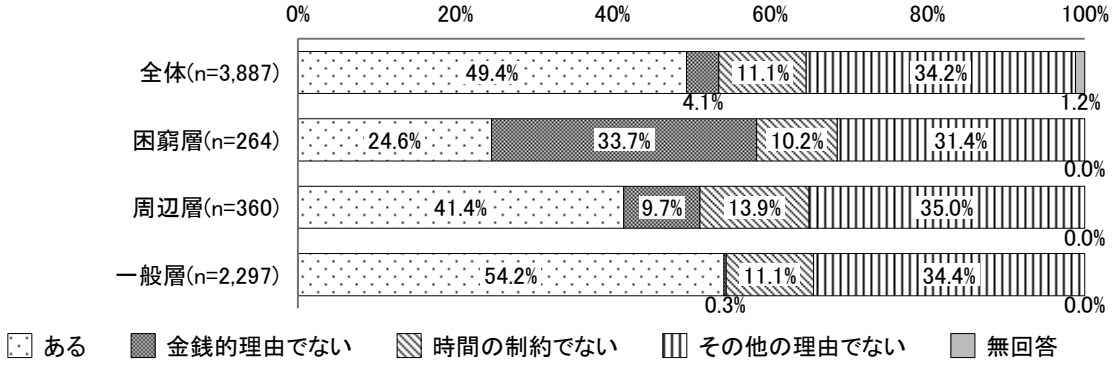
「困窮層」では、「金銭的理由でない」が 33.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 41.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 54.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「その他の理由でない」が 42.3%でもっとも割合が高く、次いで「ある」が 33.8%となっている。

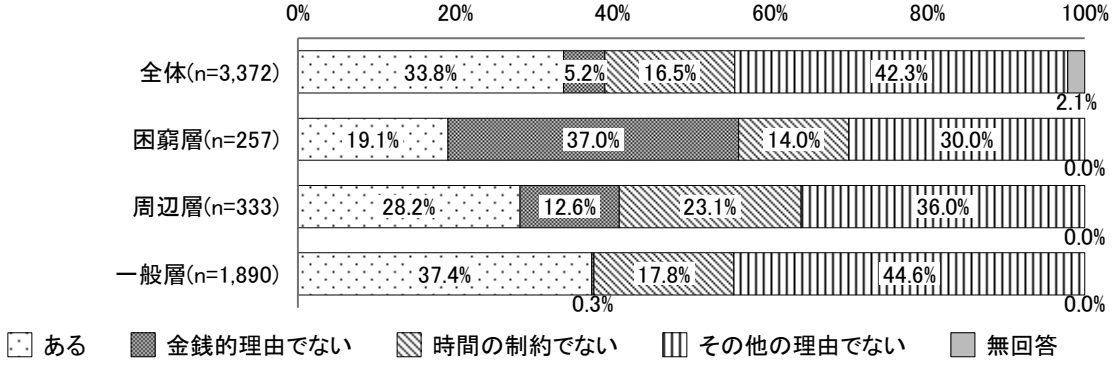
「困窮層」では、「金銭的理由でない」が 37.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「その他の理由でない」が 36.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「その他の理由でない」が 44.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 72　キャンプやバーベキューに行く：単数回答（Q32B）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



14） 博物館・科学館・美術館などに行く

小学生の「全体」では、「ある」が 51.2%でもっとも割合が高く、次いで「その他の理由でない」が 34.2%となっている。

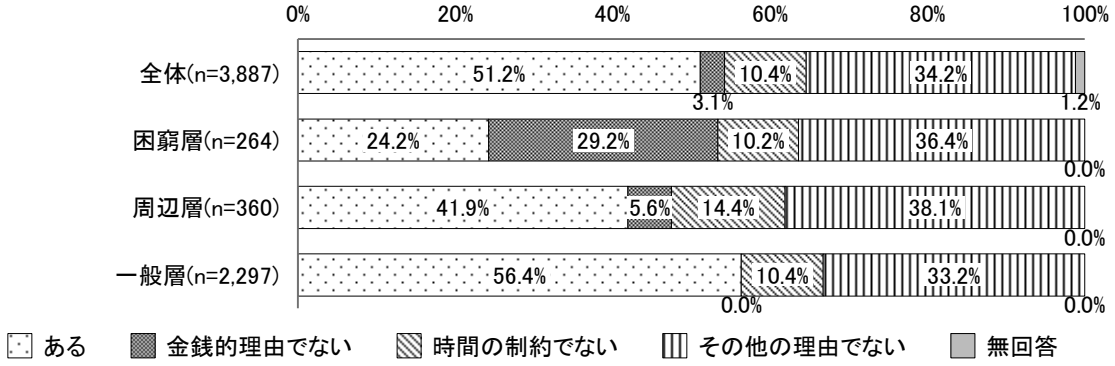
「困窮層」では、「その他の理由でない」が 36.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 41.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 56.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「その他の理由でない」が 45.5%でもっとも割合が高く、次いで「ある」が 31.6%となっている。

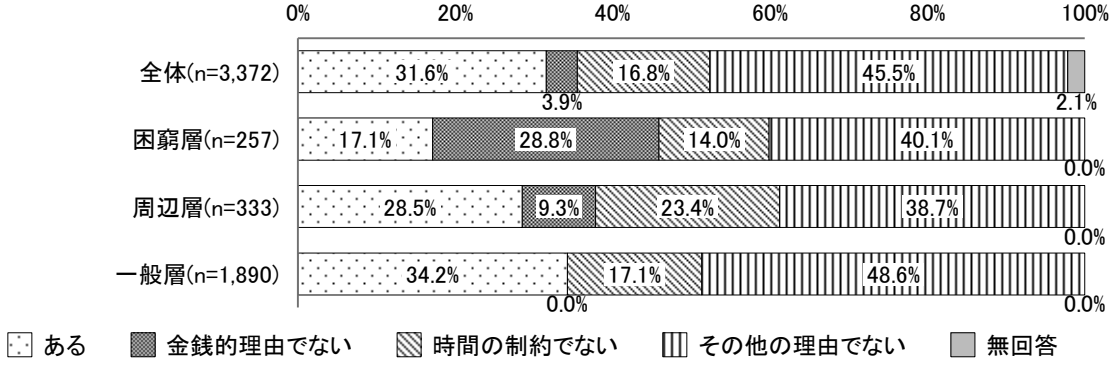
「困窮層」では、「その他の理由でない」が 40.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「その他の理由でない」が 38.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「その他の理由でない」が 48.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 73　博物館・科学館・美術館などに行く：単数回答（Q32C）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



15）スポーツ観戦や劇場に行く

小学生の「全体」では、「ある」が 45.4%でもっとも割合が高く、次いで「その他の理由でない」が 39.7%となっている。

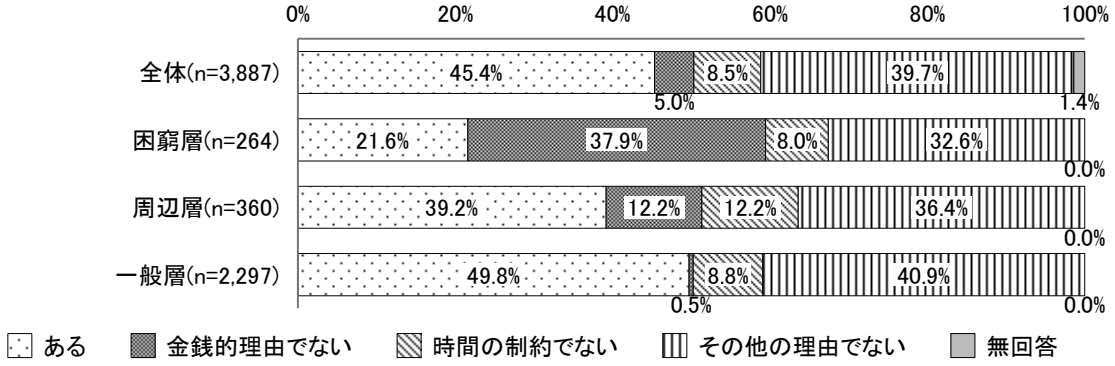
「困窮層」では、「金銭的理由でない」が 37.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 39.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 49.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「その他の理由でない」が 44.6%でもっとも割合が高く、次いで「ある」が 35.1%となっている。

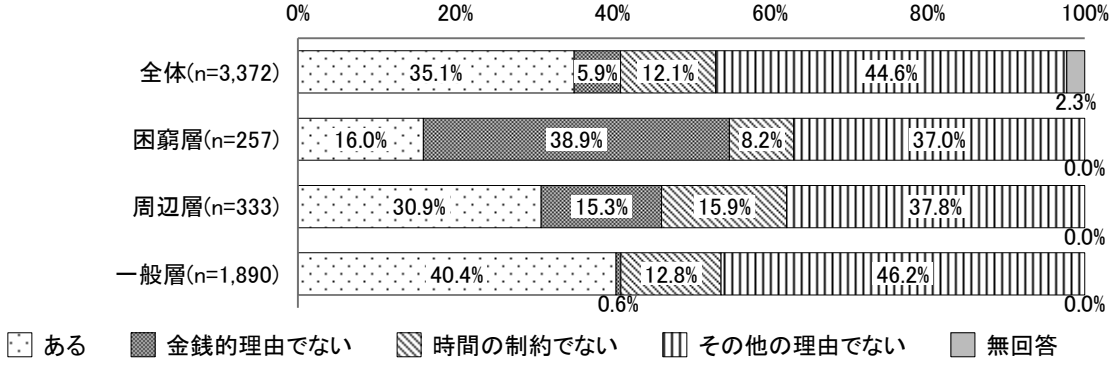
「困窮層」では、「金銭的理由でない」が 38.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「その他の理由でない」が 37.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「その他の理由でない」が 46.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 74　スポーツ観戦や劇場に行く：単数回答（Q32D）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



16）映画鑑賞に行く

小学生の「全体」では、「ある」が 77.6%でもっとも割合が高く、次いで「その他の理由でない」が 14.3%となっている。

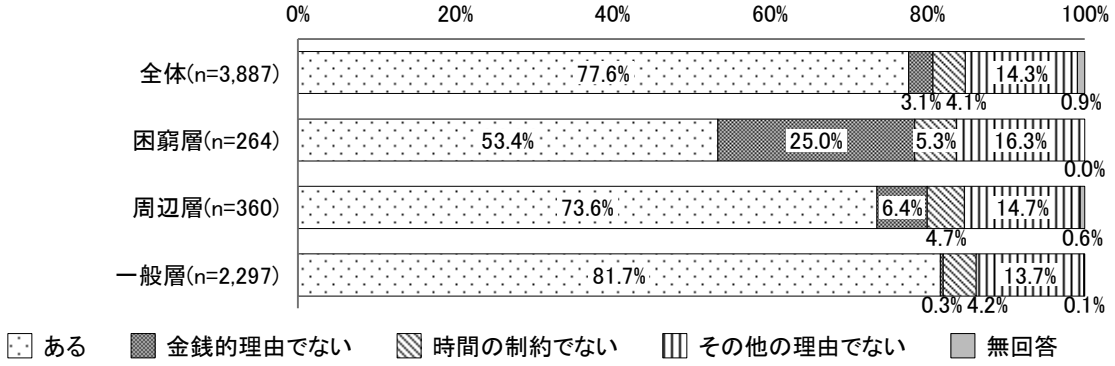
「困窮層」では、「ある」が 53.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 73.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 81.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ある」が 69.4%でもっとも割合が高く、次いで「その他の理由でない」が 19.3%となっている。

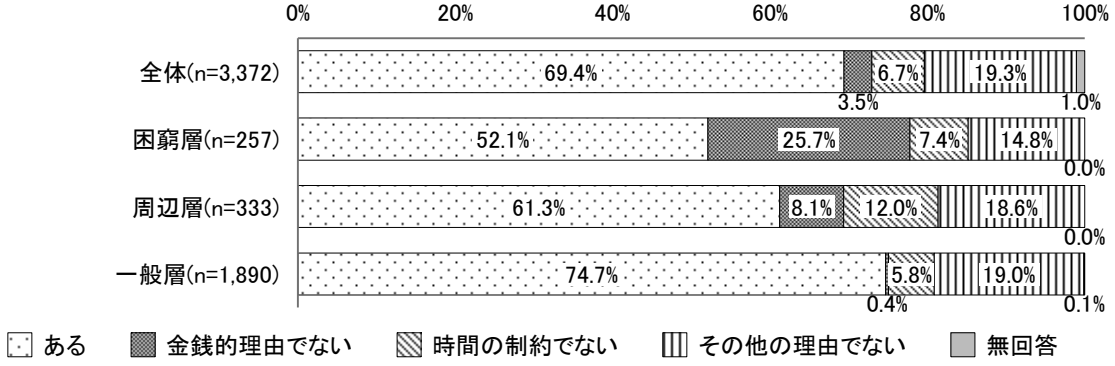
「困窮層」では、「ある」が 52.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 61.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 74.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 75　映画鑑賞に行く：単数回答（Q32E）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



17）遊園地やテーマパークに行く

小学生の「全体」では、「ある」が 75.7%でもっとも割合が高く、次いで「その他の理由でない」が 9.7%となっている。

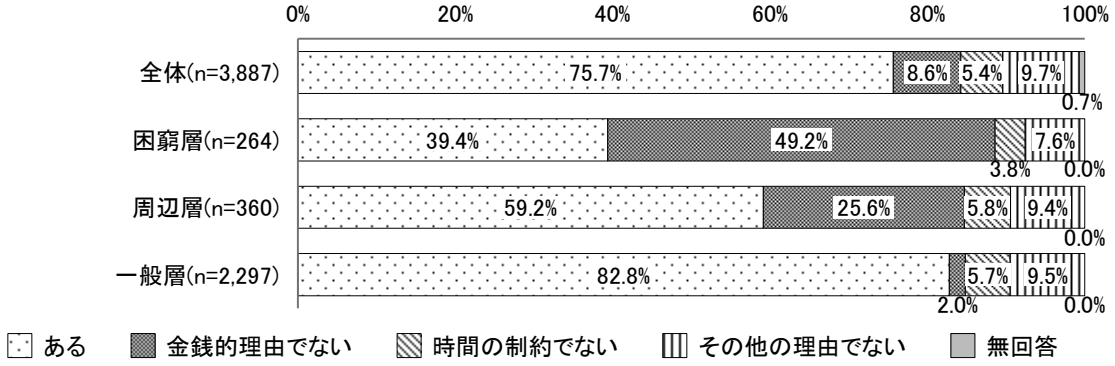
「困窮層」では、「金銭的理由でない」が 49.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 59.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 82.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ある」が 58.1%でもっとも割合が高く、次いで「その他の理由でない」が 20.1%となっている。

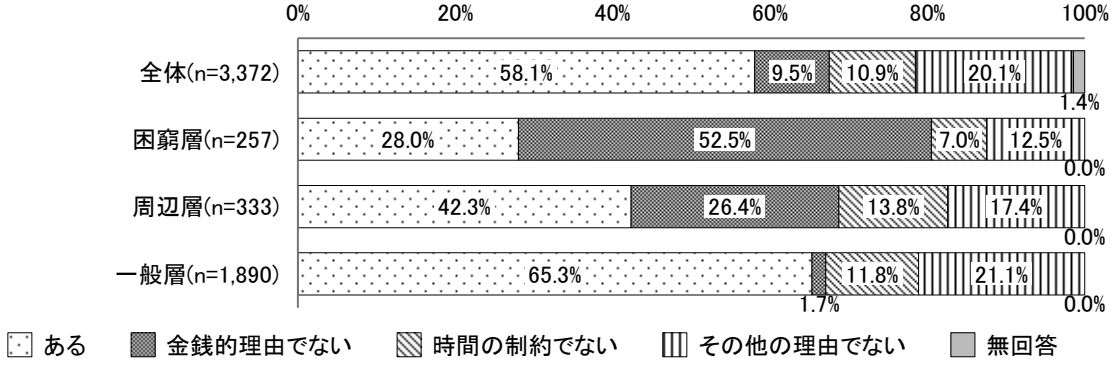
「困窮層」では、「金銭的理由でない」が 52.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 42.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 65.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 76　遊園地やテーマパークに行く：単数回答（Q32F）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



18）一緒に朝食をたべる

小学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が 56.0%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 回」が 16.8%となっている。

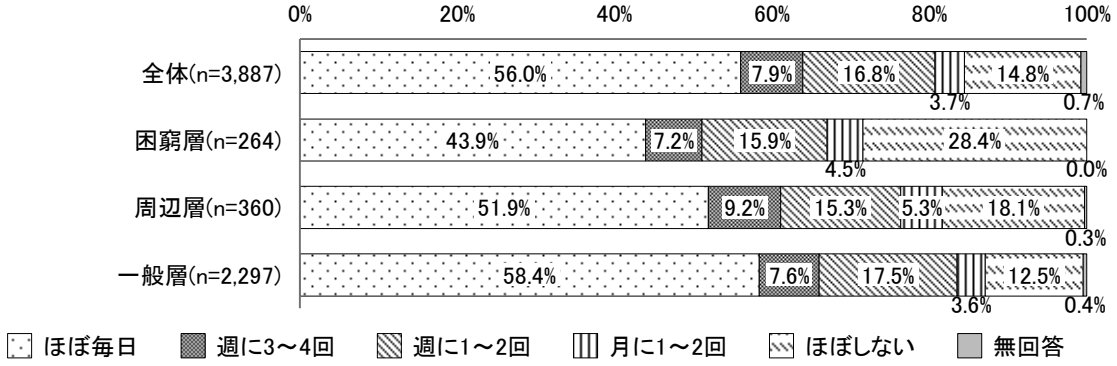
「困窮層」では、「ほぼ毎日」が 43.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼ毎日」が 51.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼ毎日」が 58.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が 44.0%でもっとも割合が高く、次いで「ほぼしない」が 23.6%となっている。

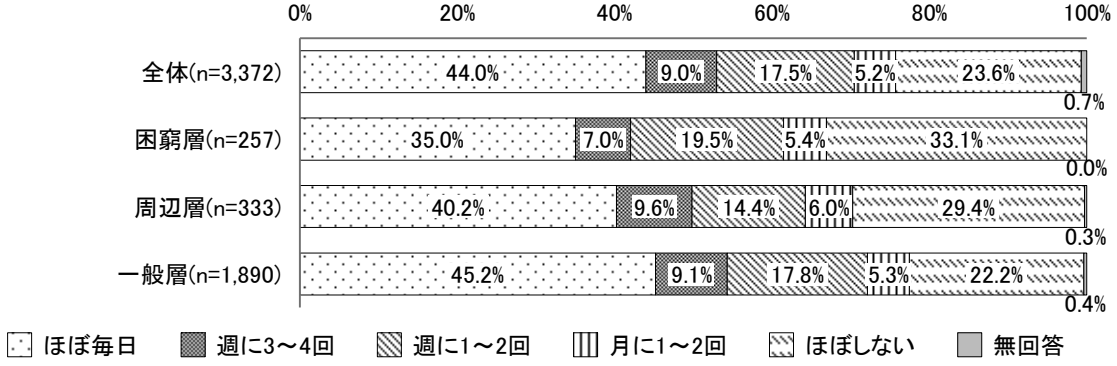
「困窮層」では、「ほぼ毎日」が 35.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼ毎日」が 40.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼ毎日」が 45.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 77　一緒に朝食をたべる：単数回答（Q33A）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



19）一緒に夕食をたべる

小学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が 83.7%でもっとも割合が高く、次いで「週に 3～4 回」が 8.7%となっている。

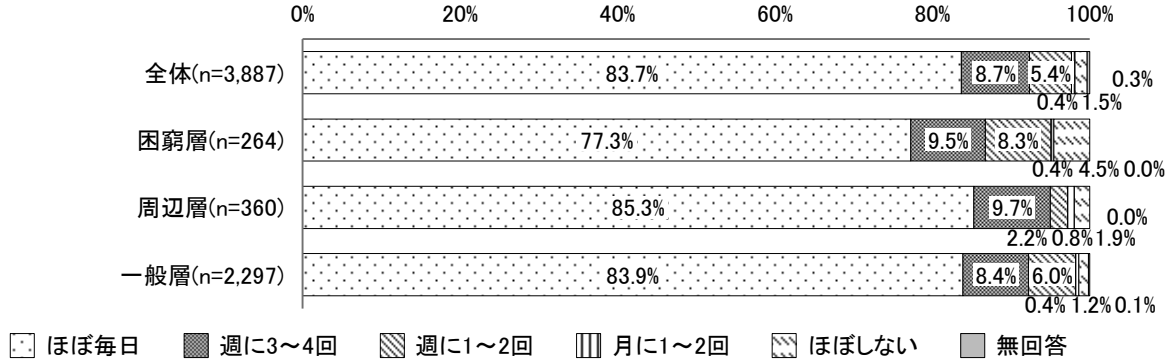
「困窮層」では、「ほぼ毎日」が 77.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼ毎日」が 85.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼ毎日」が 83.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が 75.4%でもっとも割合が高く、次いで「週に 3～4 回」が 12.8%となっている。

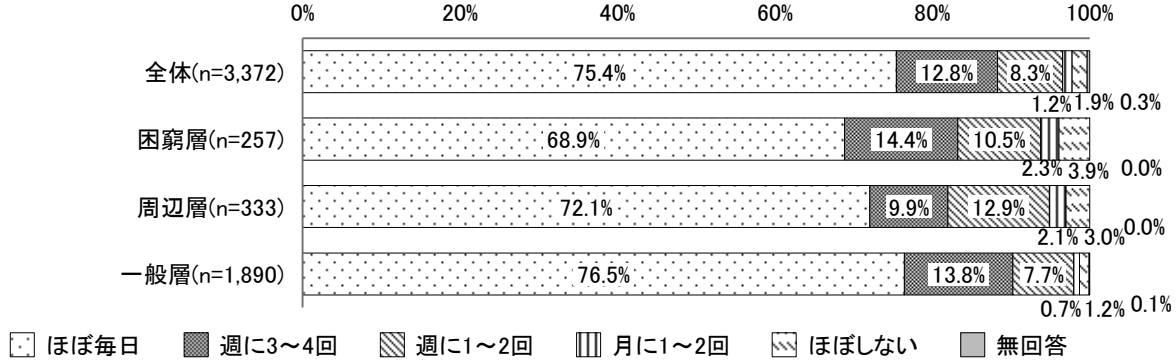
「困窮層」では、「ほぼ毎日」が 68.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼ毎日」が 72.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼ毎日」が 76.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 78　一緒に夕食をたべる：単数回答（Q33B）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



20）勉強をみてあげる

小学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が 28.2%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 回」が 26.1%となっている。

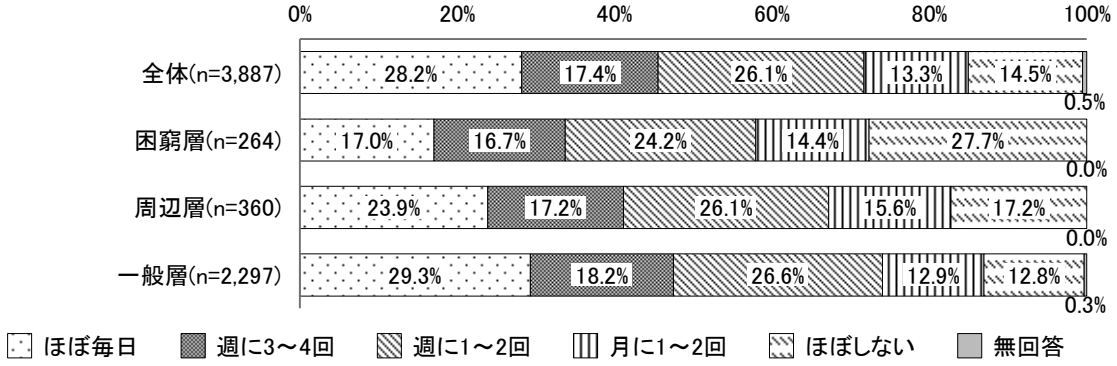
「困窮層」では、「ほぼしない」が 27.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「週に 1～2 回」が 26.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼ毎日」が 29.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ほぼしない」が 50.4%でもっとも割合が高く、次いで「月に 1～2 回」が 22.1%となっている。

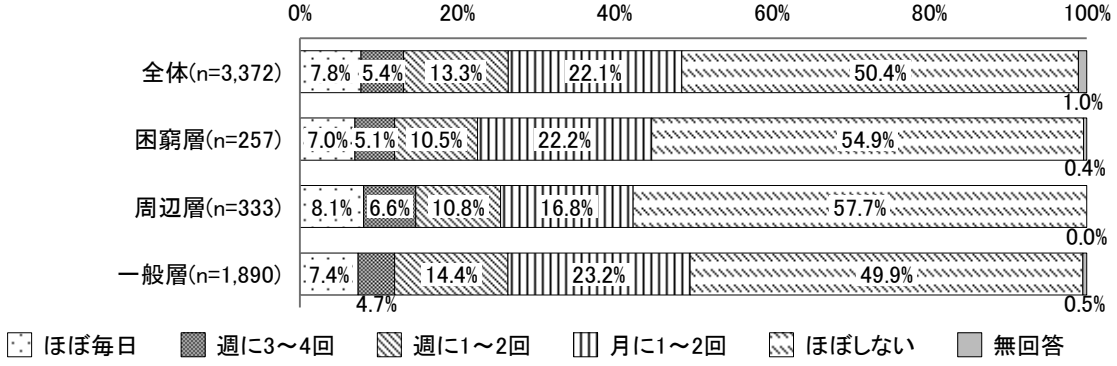
「困窮層」では、「ほぼしない」が 54.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼしない」が 57.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼしない」が 49.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 79　勉強をみてあげる：単数回答（Q33C）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.05）



21）一緒に遊んだり体を動かしたりする

小学生の「全体」では、「週に 1～2 回」が 35.6%でもっとも割合が高く、次いで「月に 1～2 回」が 24.4%となっている。

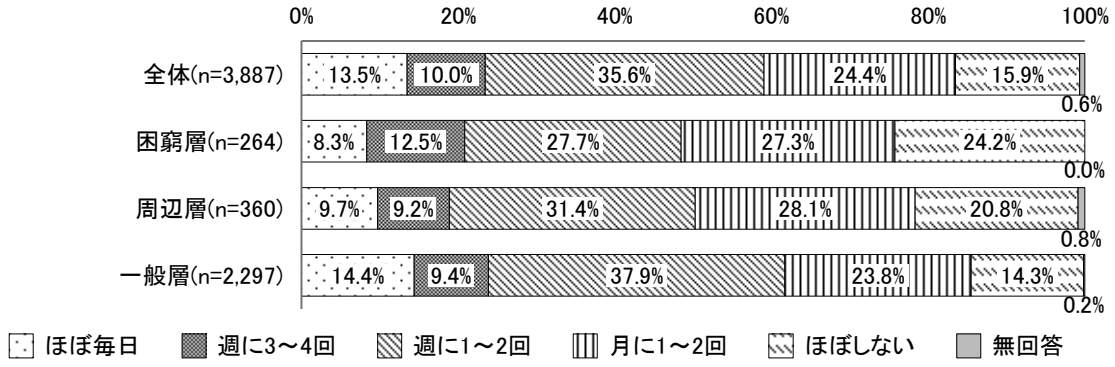
「困窮層」では、「週に 1～2 回」が 27.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「週に 1～2 回」が 31.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「週に 1～2 回」が 37.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ほぼしない」が 44.3%でもっとも割合が高く、次いで「月に 1～2 回」が 28.1%となっている。

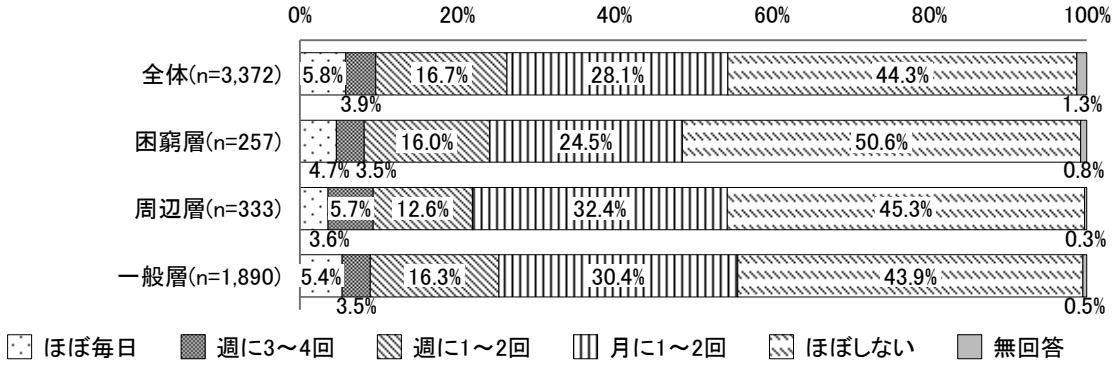
「困窮層」では、「ほぼしない」が 50.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼしない」が 45.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼしない」が 43.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 80　一緒に遊んだり体を動かしたりする：単数回答（Q33D）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（有意差なし）



22）学校生活の話をする

小学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が 70.9%でもっとも割合が高く、次いで「週に 3～4 回」が 17.1%となっている。

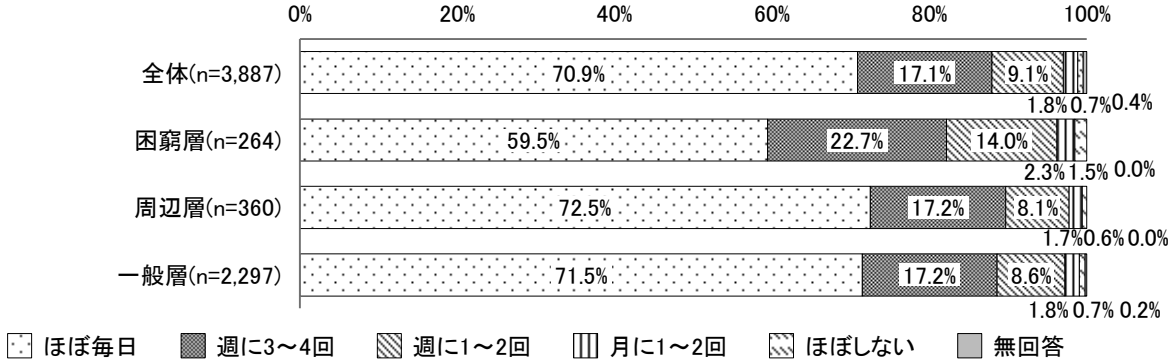
「困窮層」では、「ほぼ毎日」が 59.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼ毎日」が 72.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼ毎日」が 71.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が 58.3%でもっとも割合が高く、次いで「週に 3～4 回」が 19.6%となっている。

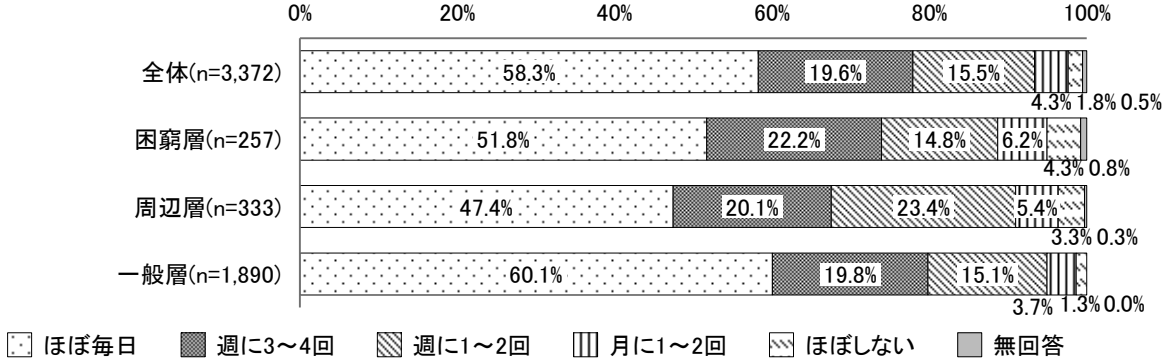
「困窮層」では、「ほぼ毎日」が 51.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼ毎日」が 47.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼ毎日」が 60.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 81　学校生活の話をする：単数回答（Q33E）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（p<.01）



23）ニュースなどの社会のできごとについて話す

小学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が 31.2%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 回」が 25.8%となっている。

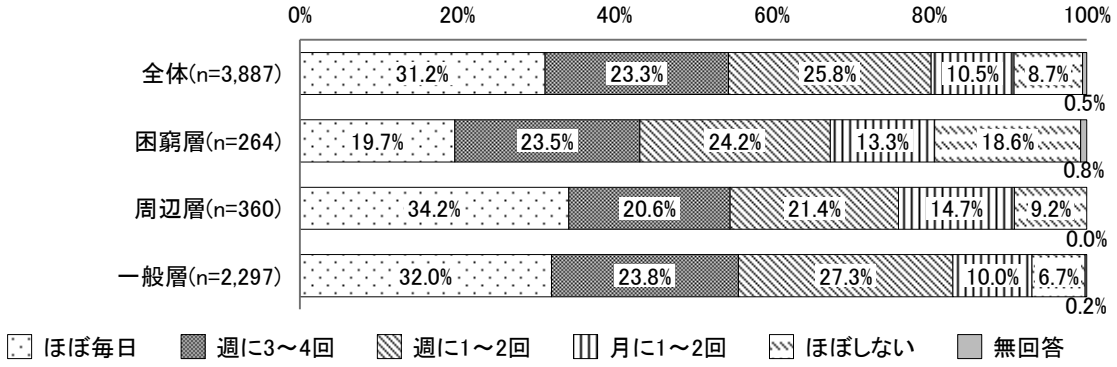
「困窮層」では、「週に 1～2 回」が 24.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼ毎日」が 34.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼ毎日」が 32.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「週に 1～2 回」が 28.6%でもっとも割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が 27.1%となっている。

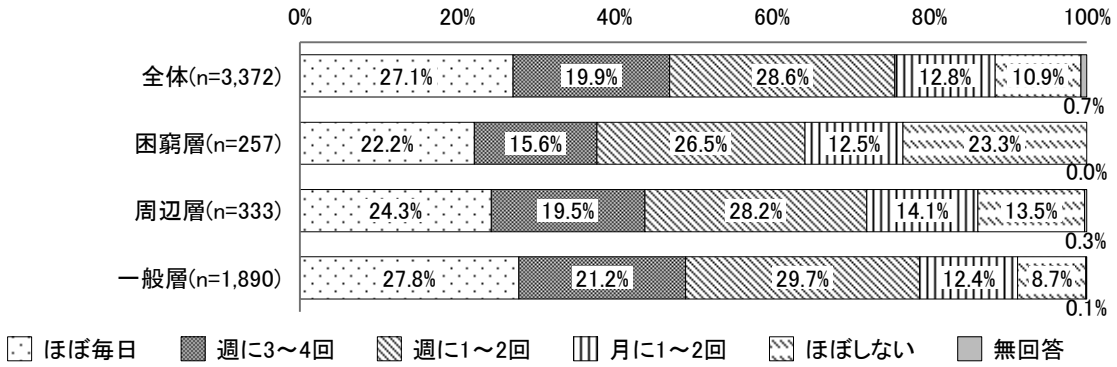
「困窮層」では、「週に 1～2 回」が 26.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「週に 1～2 回」が 28.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「週に 1～2 回」が 29.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 82　ニュースなどの社会のできごとについて話す：単数回答（Q33F）
（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



24） 一緒に料理をする

小学生の「全体」では、「月に 1～2 回」が 41.8%でもっとも割合が高く、次いで「ほぼしない」が 30.0%となっている。

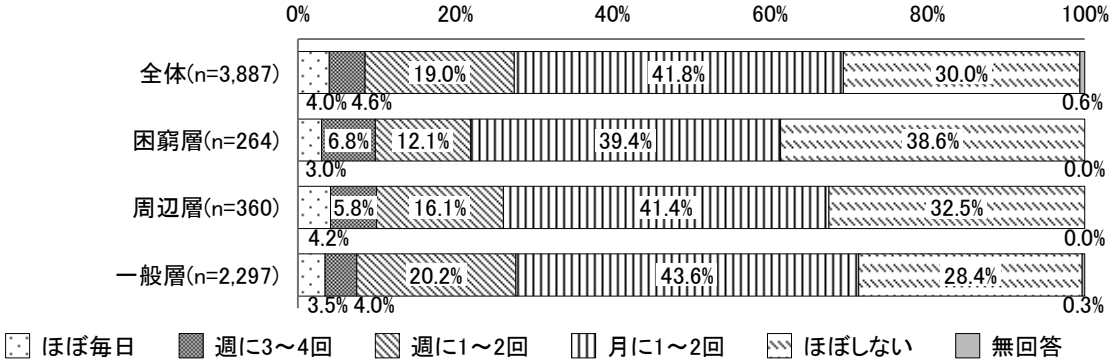
「困窮層」では、「月に 1～2 回」が 39.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「月に 1～2 回」が 41.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「月に 1～2 回」が 43.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ほぼしない」が 51.2%でもっとも割合が高く、次いで「月に 1～2 回」が 32.0%となっている。

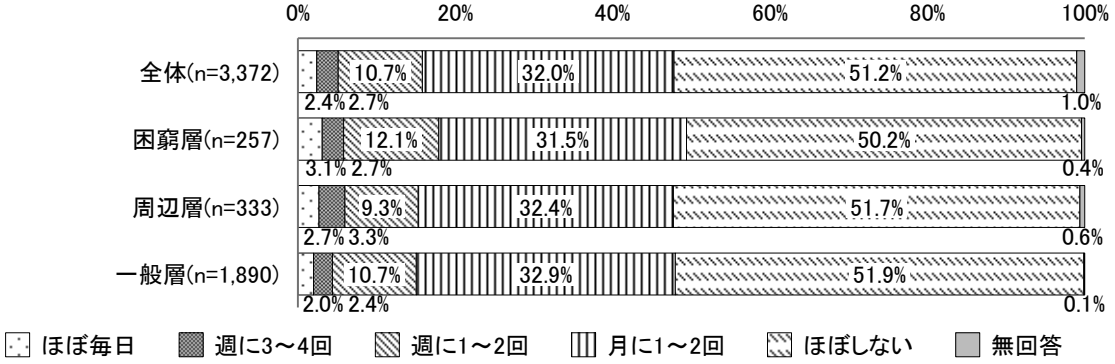
「困窮層」では、「ほぼしない」が 50.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼしない」が 51.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼしない」が 51.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 83　一緒に料理をする：単数回答（Q33G）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（有意差なし）



25）一緒に外出する

小学生の「全体」では、「週に 1～2 回」が 53.0%でもっとも割合が高く、次いで「週に 3～4 回」が 15.9%となっている。

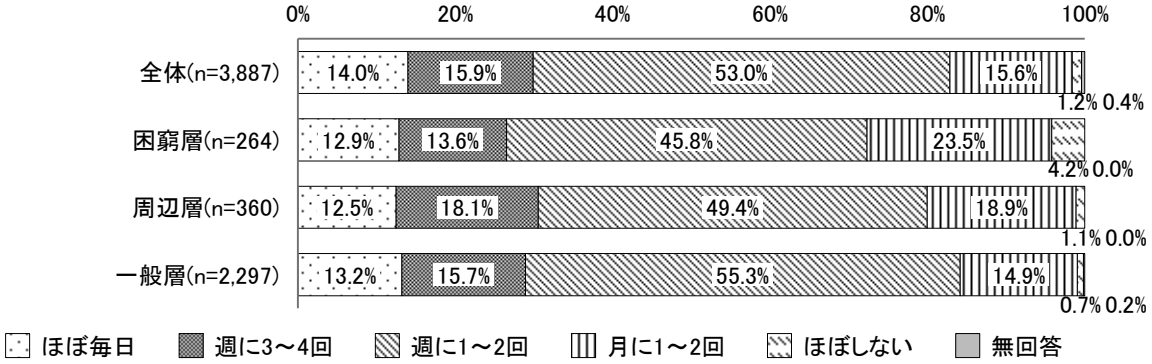
「困窮層」では、「週に 1～2 回」が 45.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「週に 1～2 回」が 49.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「週に 1～2 回」が 55.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「月に 1～2 回」が 41.3%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 回」が 38.9%となっている。

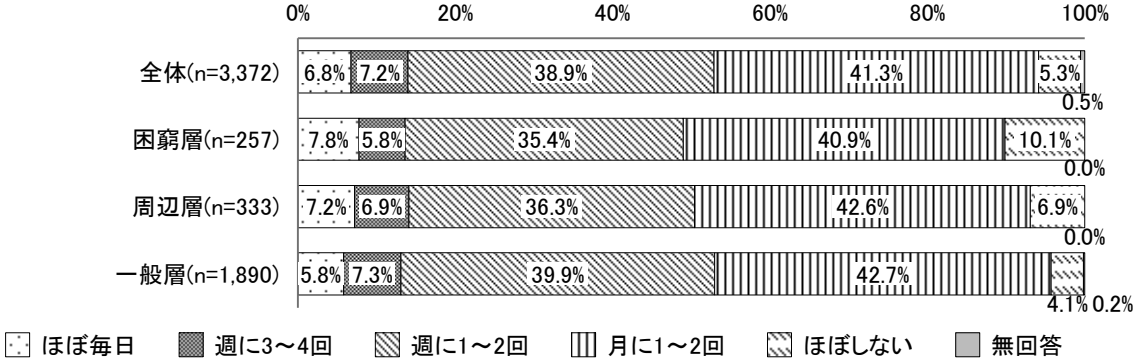
「困窮層」では、「月に 1～2 回」が 40.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「月に 1～2 回」が 42.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「月に 1～2 回」が 42.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 84　一緒に外出する：単数回答（Q33H）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



（6）新型コロナウイルス感染症の影響

1） コロナ流行頃の生活状況_世帯全体の収入の変化

小学生の「全体」では、「変わらない」が 65.8%でもっとも割合が高く、次いで「減った」が 25.0%となっている。

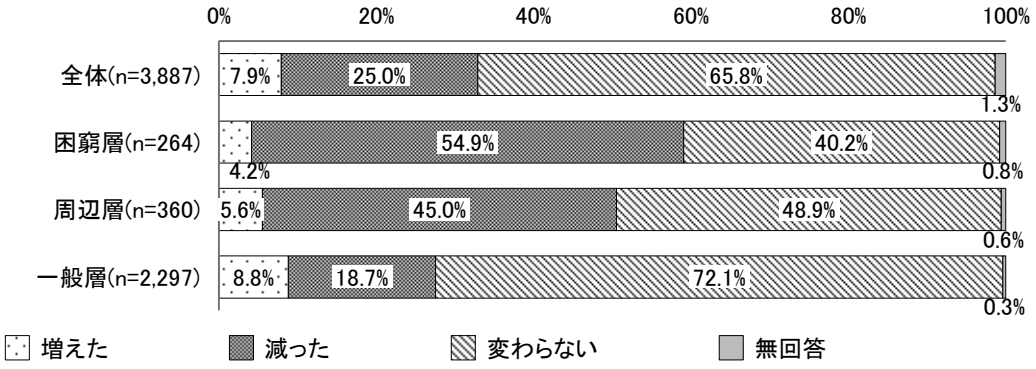
「困窮層」では、「減った」が 54.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 48.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 72.1%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 67.1%でもっとも割合が高く、次いで「減った」が 24.9%となっている。

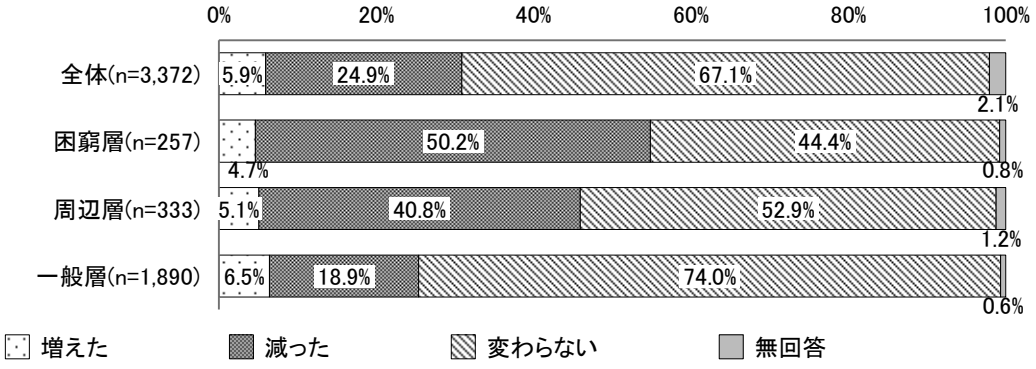
「困窮層」では、「減った」が 50.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 52.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 74.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 85 コロナ流行頃の生活状況_世帯全体の収入の変化：単数回答（Q34A）
（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



2)　コロナ流行頃の生活状況_生活に必要な支出の変化

小学生の「全体」では、「変わらない」が 45.6%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 43.7%となっている。

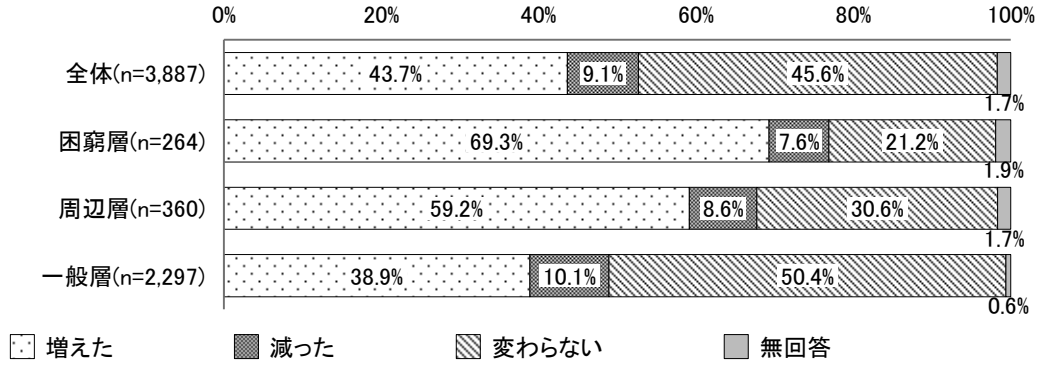
「困窮層」では、「増えた」が 69.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「増えた」が 59.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 50.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「増えた」が 44.8%でもっとも割合が高く、次いで「変わらない」が 43.5%となっている。

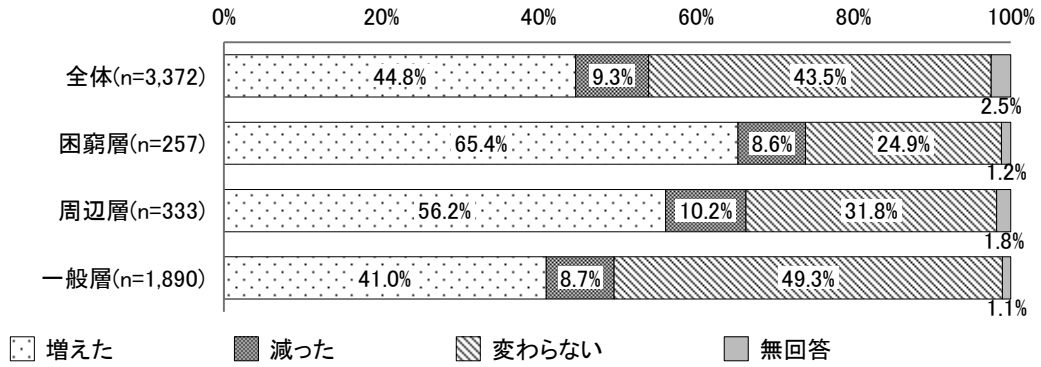
「困窮層」では、「増えた」が 65.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「増えた」が 56.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 49.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 86　コロナ流行頃の生活状況_生活に必要な支出の変化：単数回答（Q34B）
（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



3) コロナ流行頃の生活状況_お金が足りなくて必要な食料や衣服を買えないこと

小学生の「全体」では、「変わらない」が 81.6%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 13.2%となっている。

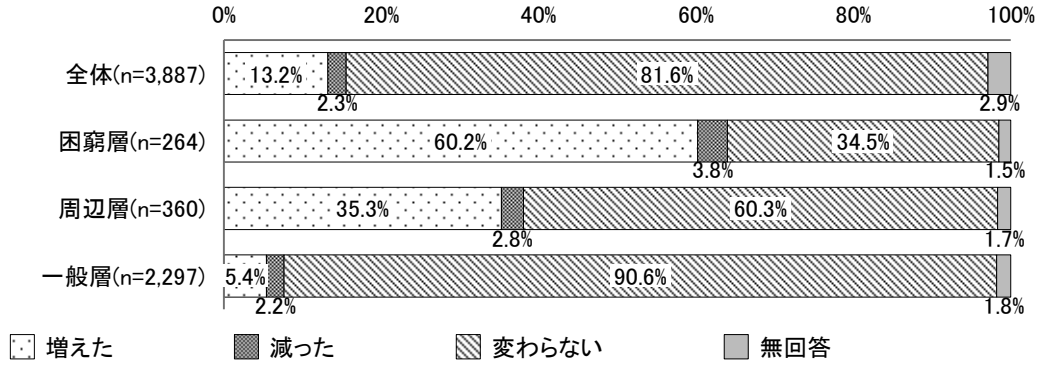
「困窮層」では、「増えた」が 60.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 60.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 90.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 82.1%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 12.2%となっている。

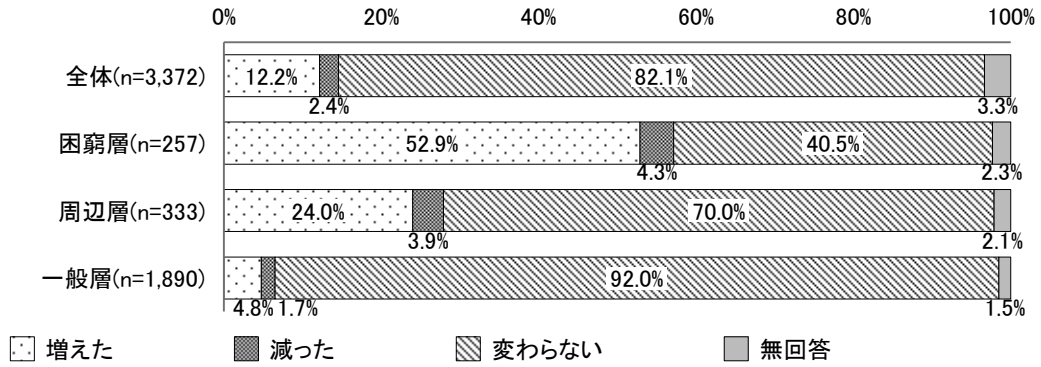
「困窮層」では、「増えた」が 52.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 70.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 92.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 87　コロナ流行頃の生活状況_お金が足りなくて必要な食料や衣服を買えないこと：単数回答（Q34C）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



4) コロナ流行頃の生活状況_お子さんと話をすること

小学生の「全体」では、「変わらない」が 67.2%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 28.7%となっている。

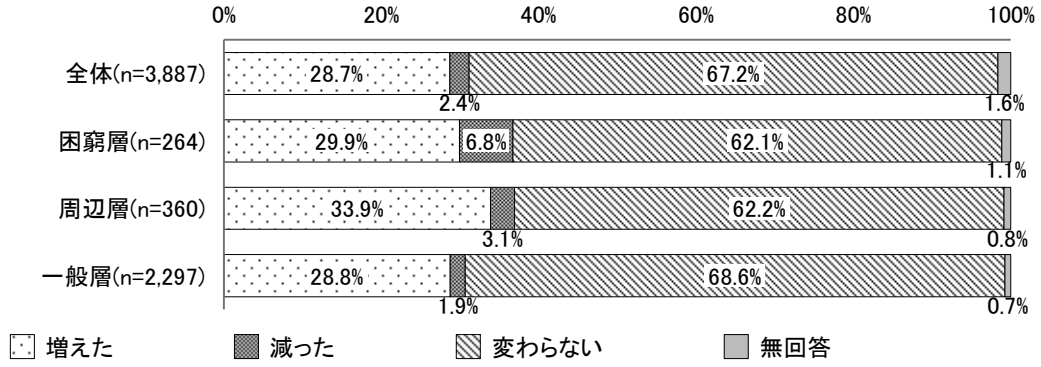
「困窮層」では、「変わらない」が 62.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 62.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 68.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 67.6%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 26.9%となっている。

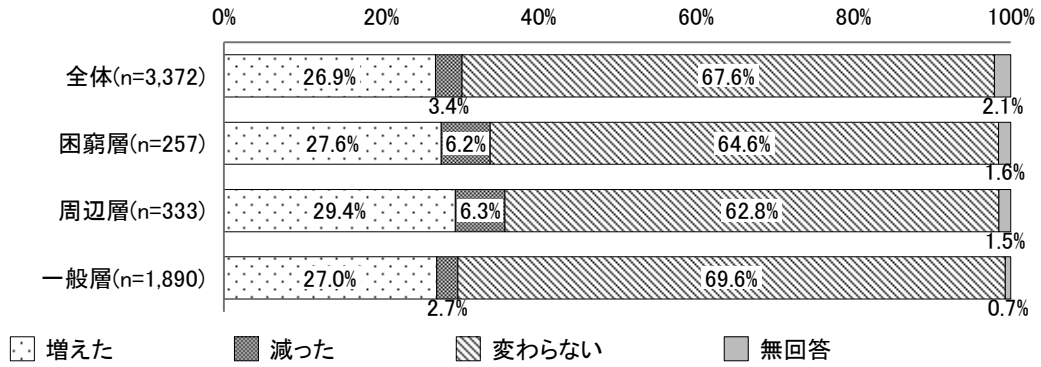
「困窮層」では、「変わらない」が 64.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 62.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 69.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 88　コロナ流行頃の生活状況_お子さんと話をすること：単数回答（Q34D）
（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



5) コロナ流行頃の生活状況_家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること

小学生の「全体」では、「変わらない」が 78.2%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 16.6%となっている。

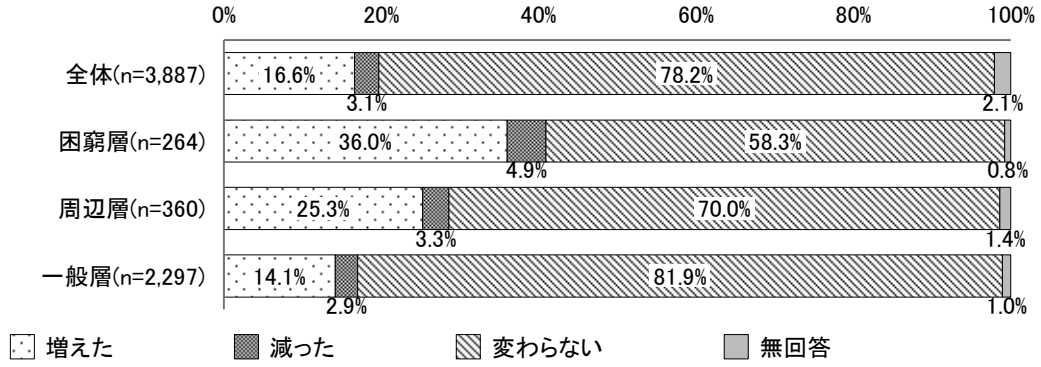
「困窮層」では、「変わらない」が 58.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 70.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 81.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 79.1%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 14.3%となっている。

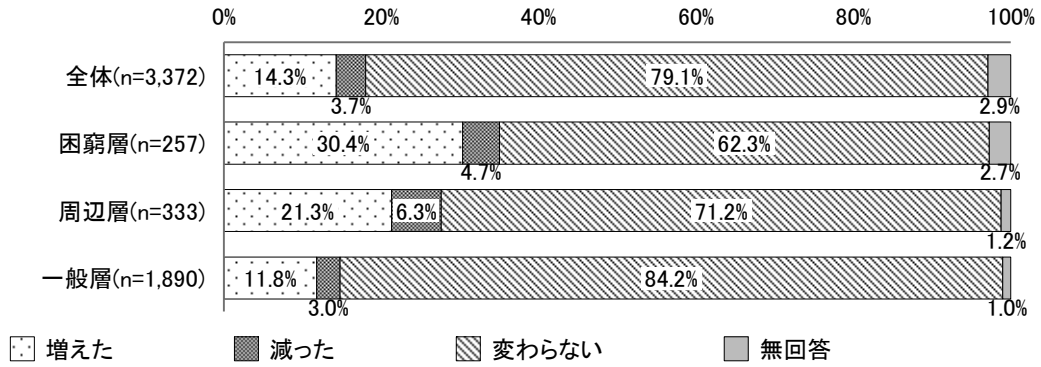
「困窮層」では、「変わらない」が 62.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 71.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 84.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 89　コロナ流行頃の生活状況_家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること：単数回答（Q34E）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



6） コロナ流行頃の生活状況_あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

小学生の「全体」では、「変わらない」が 58.9%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 36.7%となっている。

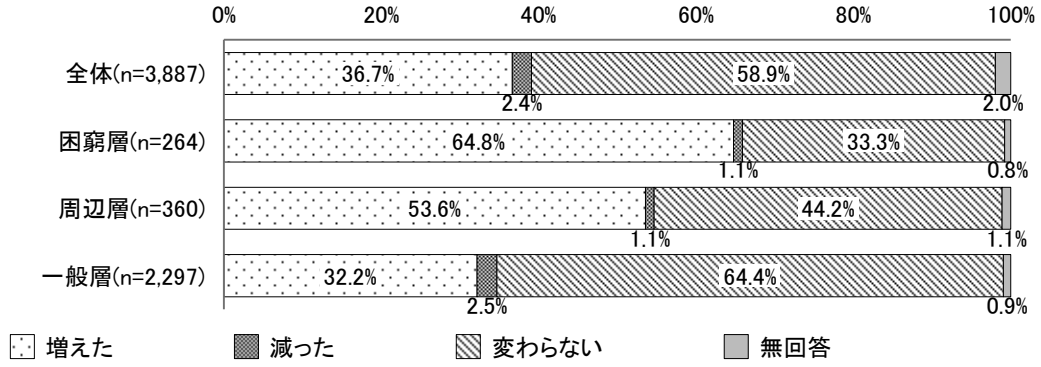
「困窮層」では、「増えた」が 64.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「増えた」が 53.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 64.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 61.7%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 33.1%となっている。

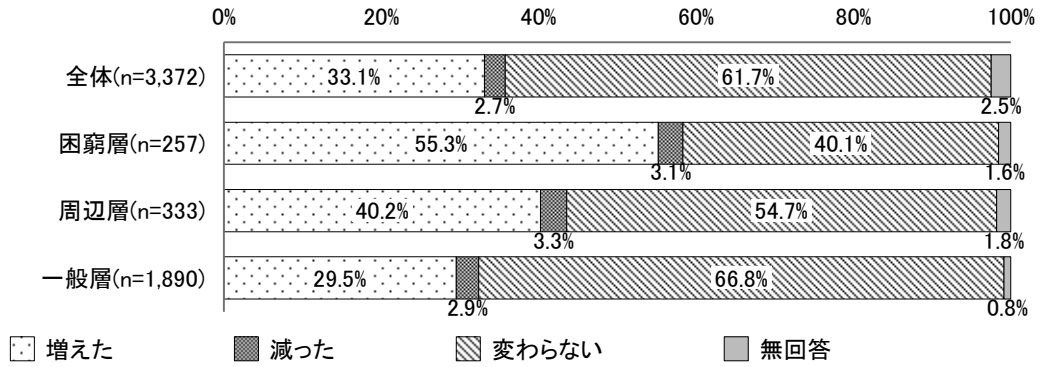
「困窮層」では、「増えた」が 55.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 54.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 66.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 90　コロナ流行頃の生活状況_あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと：単数回答（Q34F）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



7)　コロナ流行頃の生活状況_こども食堂やフードバンクを利用すること

小学生の「全体」では、「変わらない」が 87.0%でもっとも割合が高く、次いで「減った」が 3.0%となっている。

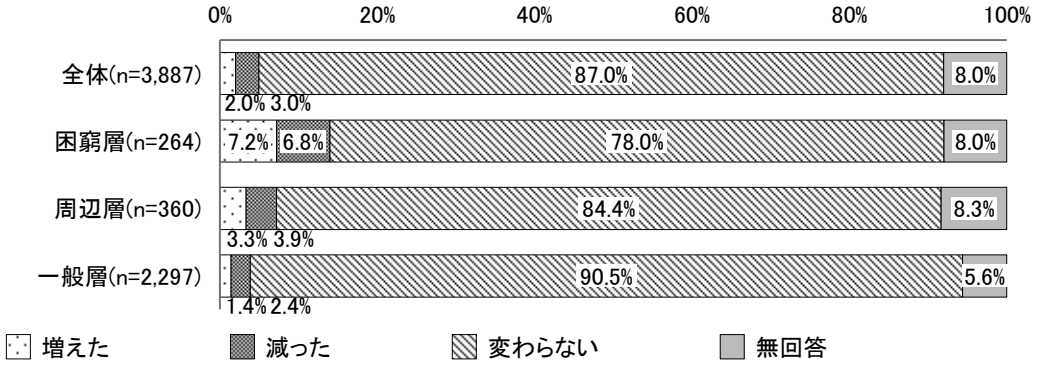
「困窮層」では、「変わらない」が 78.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 84.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 90.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 85.7%でもっとも割合が高く、次いで「減った」が 3.1%となっている。

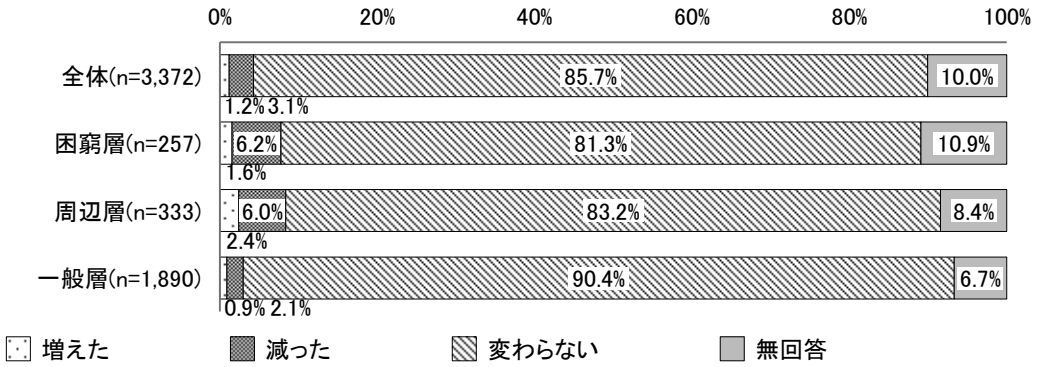
「困窮層」では、「変わらない」が 81.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 83.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 90.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 91　コロナ流行頃の生活状況_こども食堂やフードバンクを利用すること：単数回答（Q34G）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



8） 現在の生活状況_世帯全体の収入の変化

小学生の「全体」では、「変わらない」が 55.5%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 29.8%となっている。

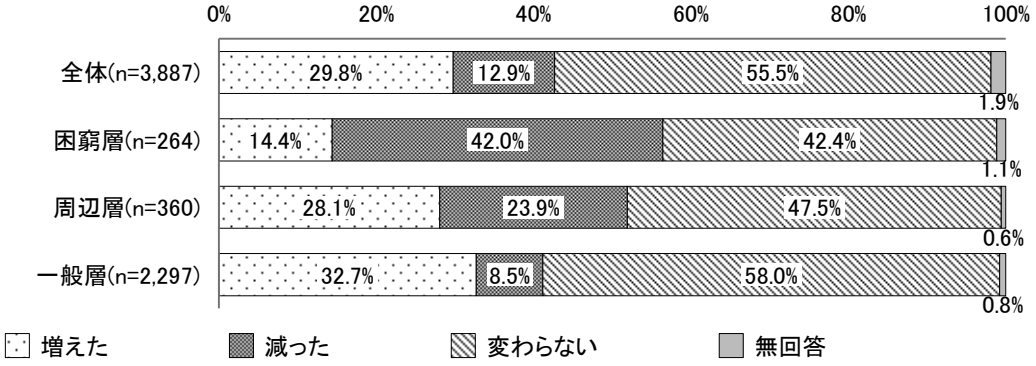
「困窮層」では、「変わらない」が 42.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 47.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 58.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 58.7%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 24.5%となっている。

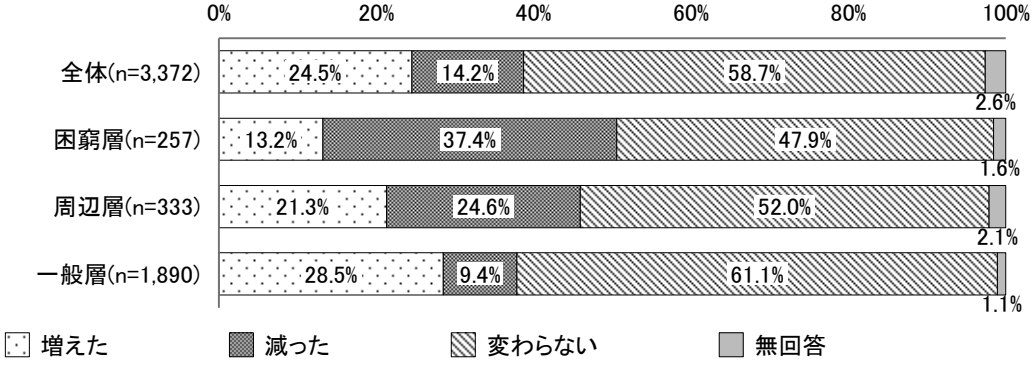
「困窮層」では、「変わらない」が 47.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 52.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 61.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 92　現在の生活状況_世帯全体の収入の変化：単数回答（Q35A）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



9)　現在の生活状況_生活に必要な支出の変化

小学生の「全体」では、「増えた」が 58.5%でもっとも割合が高く、次いで「変わらない」が 37.0%となっている。

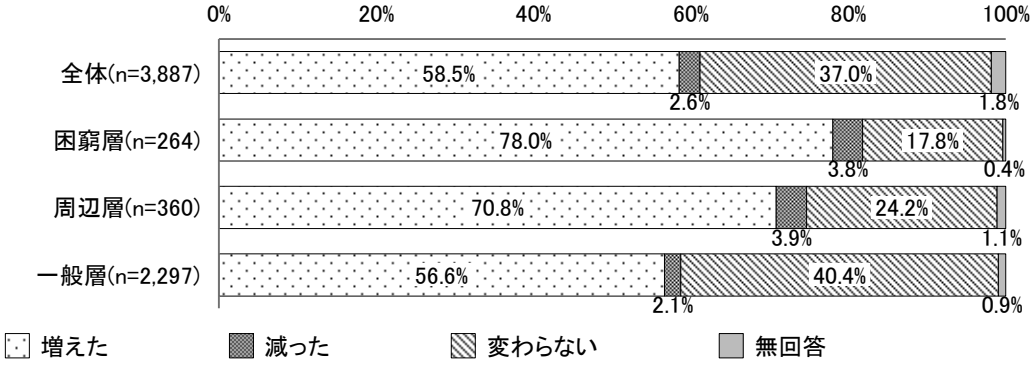
「困窮層」では、「増えた」が 78.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「増えた」が 70.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「増えた」が 56.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「増えた」が 58.0%でもっとも割合が高く、次いで「変わらない」が 37.0%となっている。

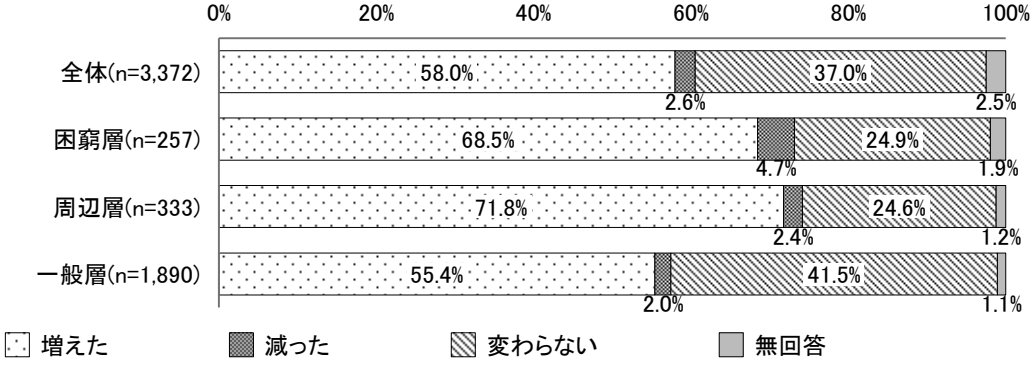
「困窮層」では、「増えた」が 68.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「増えた」が 71.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「増えた」が 55.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 93　現在の生活状況_生活に必要な支出の変化：単数回答（Q35B）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



10）現在の生活状況_お金が足りなくて必要な食料や衣服を買えないこと

小学生の「全体」では、「変わらない」が 80.1%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 13.4%となっている。

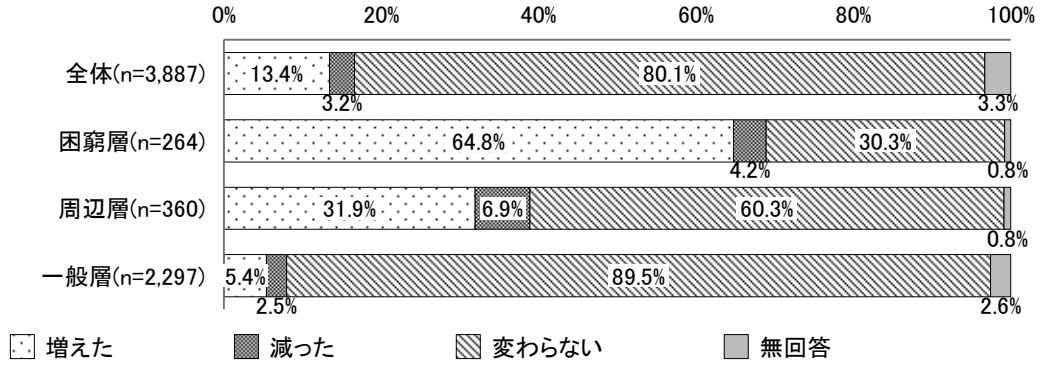
「困窮層」では、「増えた」が 64.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 60.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 89.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 80.7%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 12.5%となっている。

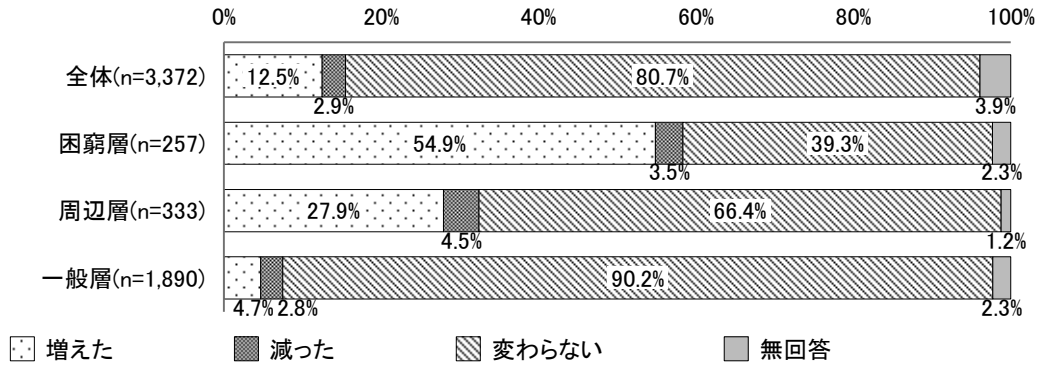
「困窮層」では、「増えた」が 54.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 66.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 90.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 94　現在の生活状況_お金が足りなくて必要な食料や衣服を買えないこと：単数回答（Q35C）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



11）現在の生活状況_お子さんと話をすること

小学生の「全体」では、「変わらない」が 77.5%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 14.5%となっている。

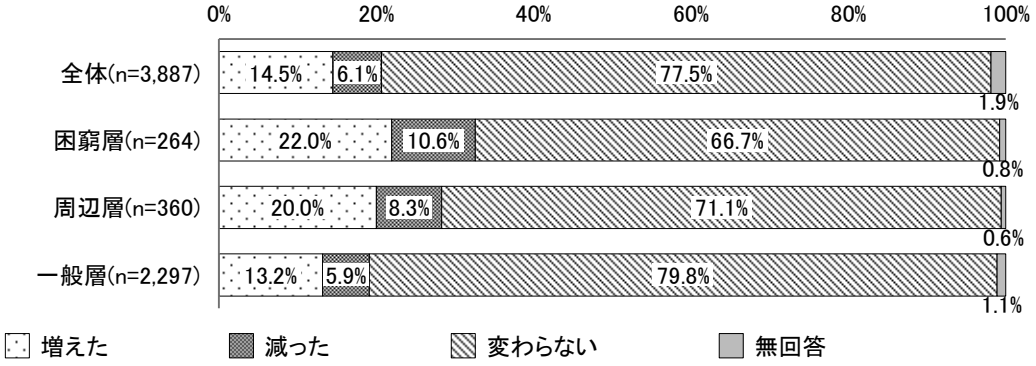
「困窮層」では、「変わらない」が 66.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 71.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 79.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 76.8%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 13.2%となっている。

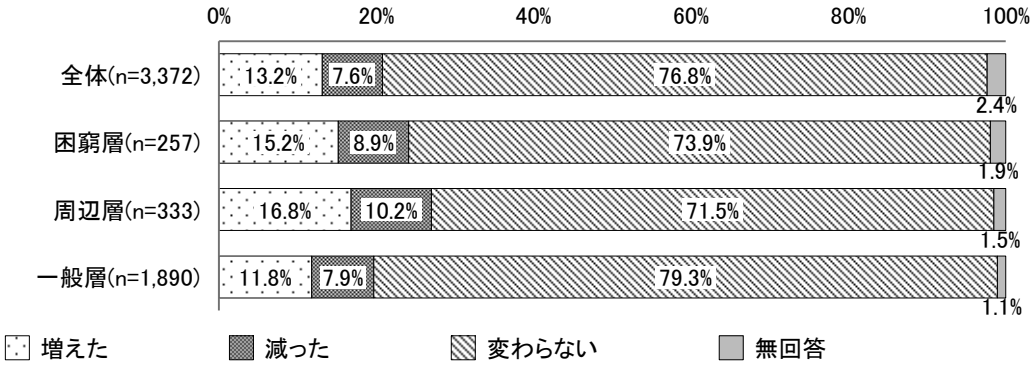
「困窮層」では、「変わらない」が 73.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 71.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 79.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 95　現在の生活状況_お子さんと話をすること：単数回答（Q35D）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.05）



12）現在の生活状況_家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること

小学生の「全体」では、「変わらない」が 78.5%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 10.8%となっている。

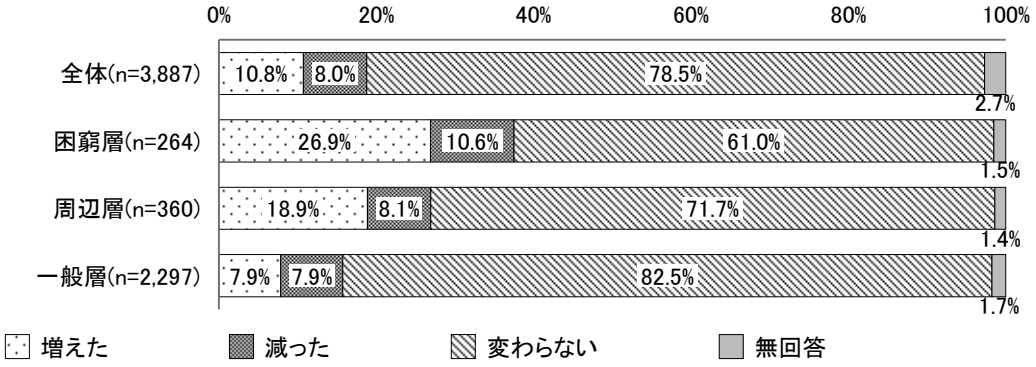
「困窮層」では、「変わらない」が 61.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 71.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 82.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 80.2%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 9.4%となっている。

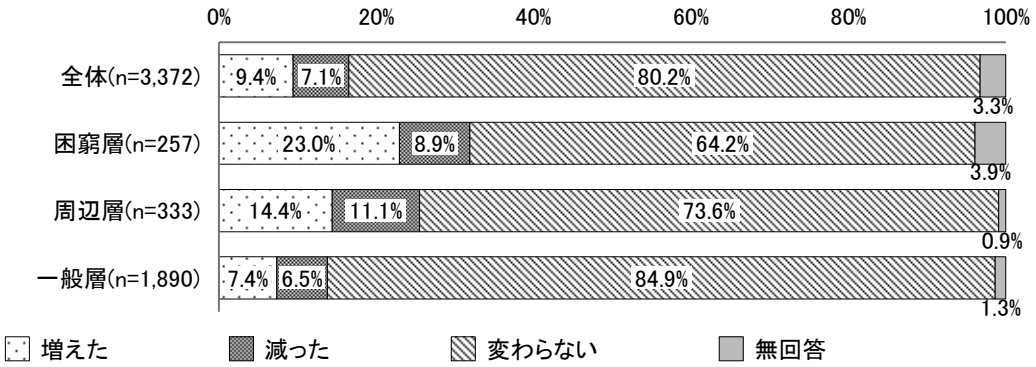
「困窮層」では、「変わらない」が 64.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 73.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 84.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 96　現在の生活状況_家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること：単数回答（Q35E）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



13）現在の生活状況_あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

小学生の「全体」では、「変わらない」が 66.5%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 19.3%となっている。

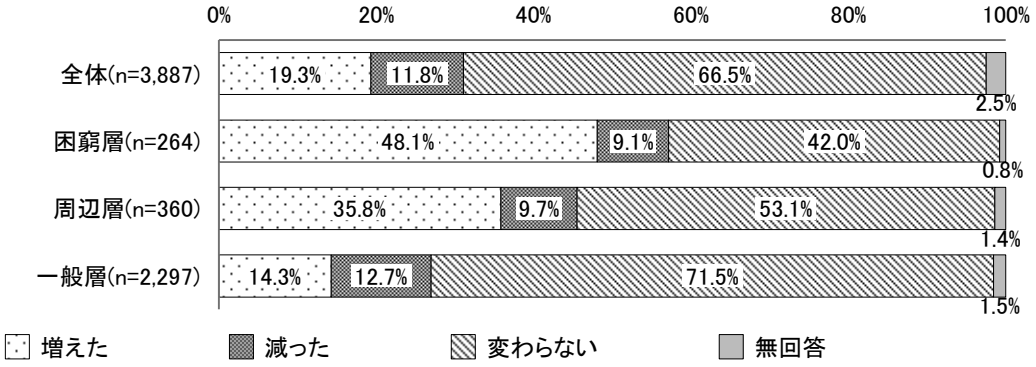
「困窮層」では、「増えた」が 48.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 53.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 71.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 68.2%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 18.6%となっている。

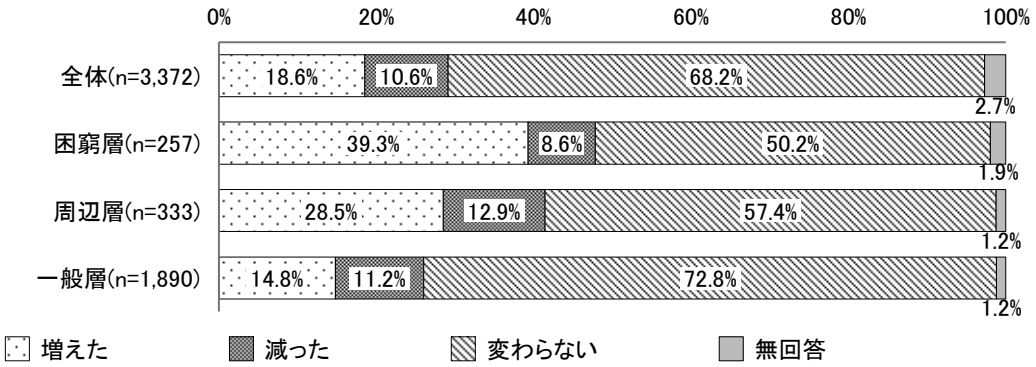
「困窮層」では、「変わらない」が 50.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 57.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 72.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 97　現在の生活状況_あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと：単数回答（Q35F）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



14）現在の生活状況_こども食堂やフードバンクを利用すること

小学生の「全体」では、「変わらない」が 86.6%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 2.5%となっている。

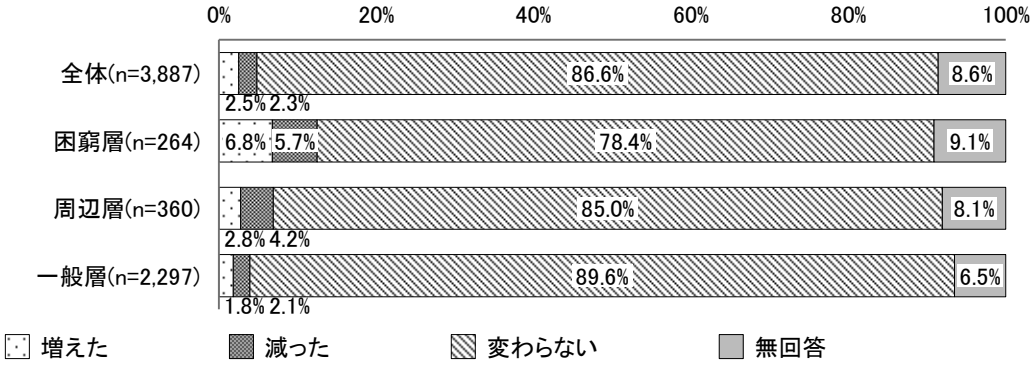
「困窮層」では、「変わらない」が 78.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 85.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 89.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 85.9%でもっとも割合が高く、次いで「減った」が 2.2%となっている。

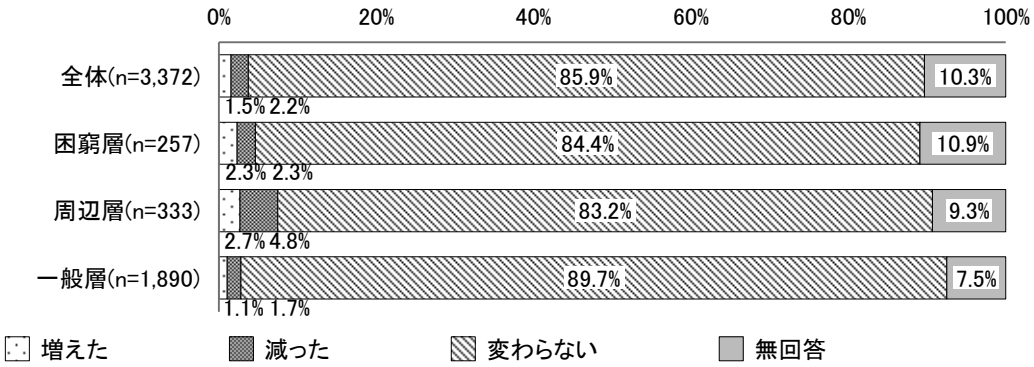
「困窮層」では、「変わらない」が 84.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 83.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 89.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 98　現在の生活状況_こども食堂やフードバンクを利用すること：単数回答（Q35G）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



（7）相談相手、過去の経験、自己肯定感など

1） 困ったとき等、相談できる人の有無

小学生の「全体」では、「いる」が 92.4%でもっとも割合が高く、次いで「いない」が 7.0%となっている。

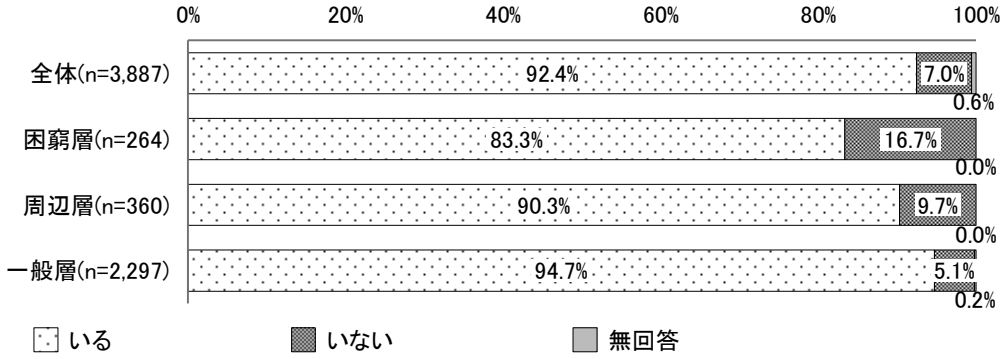
「困窮層」では、「いる」が 83.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いる」が 90.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いる」が 94.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「いる」が 90.4%でもっとも割合が高く、次いで「いない」が 9.0%となっている。

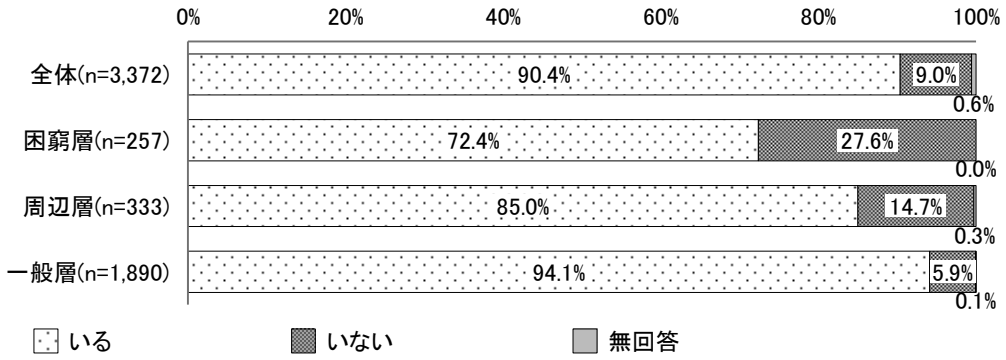
「困窮層」では、「いる」が 72.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いる」が 85.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いる」が 94.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 99 困ったとき等、相談できる人の有無：単数回答（Q36）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



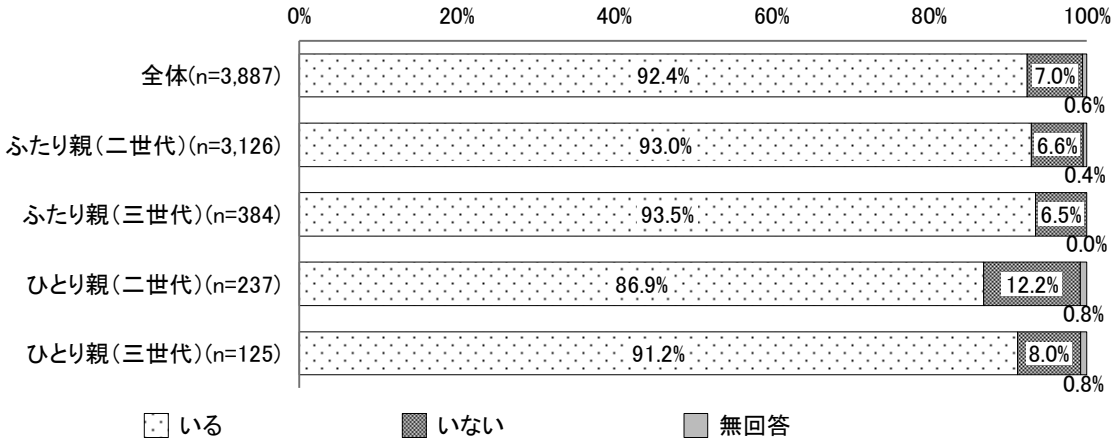
＜中学生＞（p<.01）



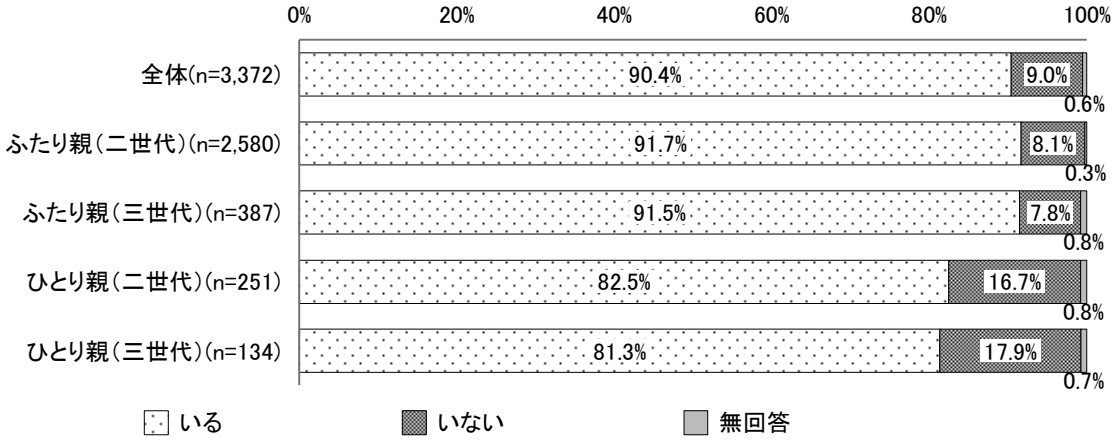
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「いない」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「いない」とする割合が高くなっている。

図表 100　困ったとき等、相談できる人の有無：単数回答（Q36）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（p<.01）



2)　近隣に、挨拶や日常会話をする知人等の有無

小学生の「全体」では、「いる」が 83.4%でもっとも割合が高く、次いで「いない」が 16.1%となっている。

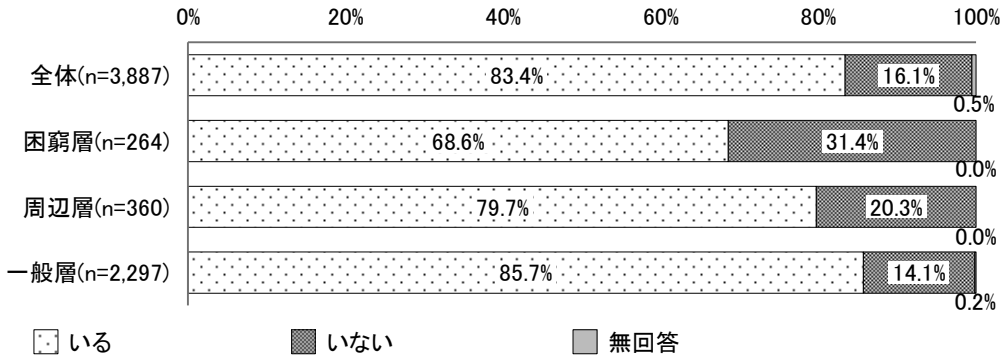
「困窮層」では、「いる」が 68.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いる」が 79.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いる」が 85.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「いる」が 81.8%でもっとも割合が高く、次いで「いない」が 17.3%となっている。

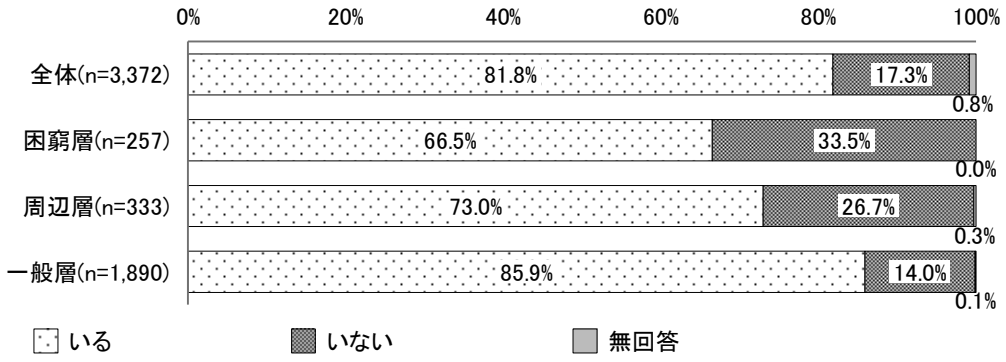
「困窮層」では、「いる」が 66.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いる」が 73.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いる」が 85.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 101　近隣に、挨拶や日常会話をする知人等の有無：単数回答（Q37）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



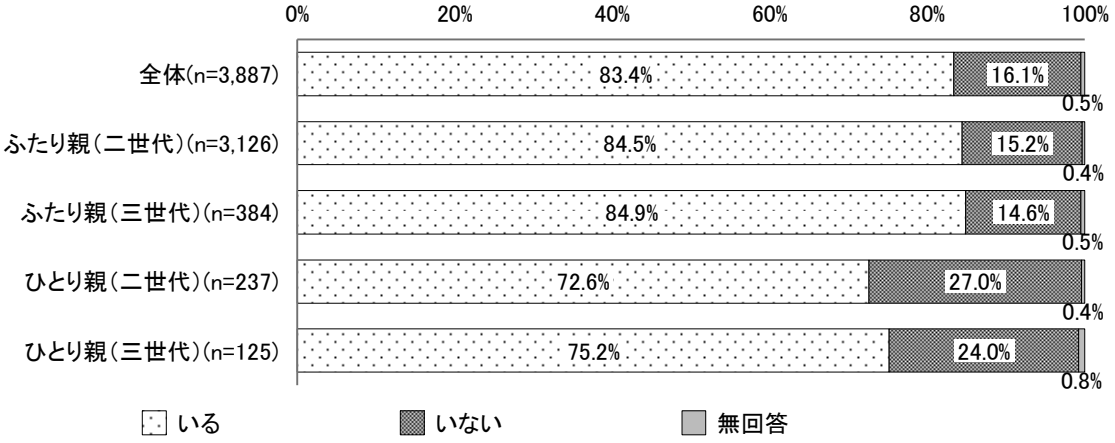
＜中学生＞（p<.01）



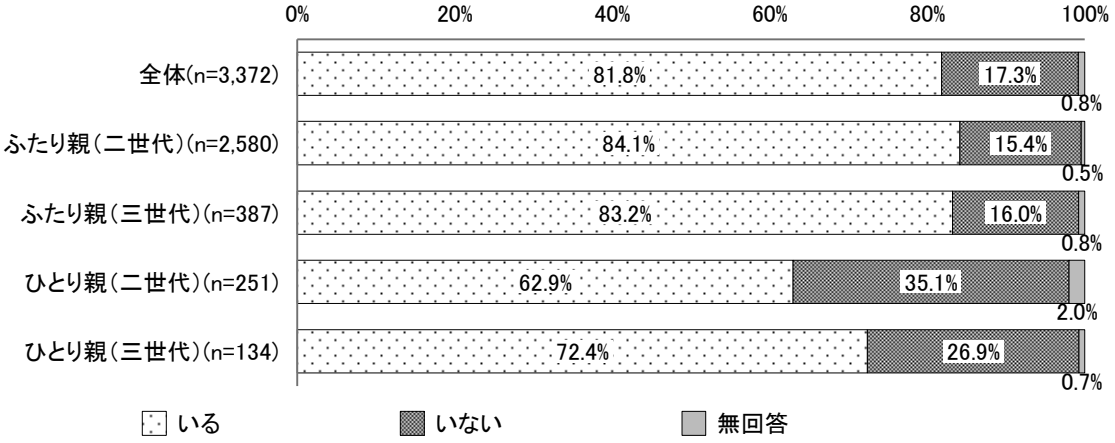
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ひとり親（二世代)」「ひとり親（三世代)」において「いない」とする割合が高くなっている。

図表 102　近隣に、挨拶や日常会話をする知人等の有無：単数回答（Q37）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



3) 近隣に、悩みを打ち明けたり、相談することができる知人等の有無

小学生の「全体」では、「いる」が 73.5%でもっとも割合が高く、次いで「いない」が 25.9%となっている。

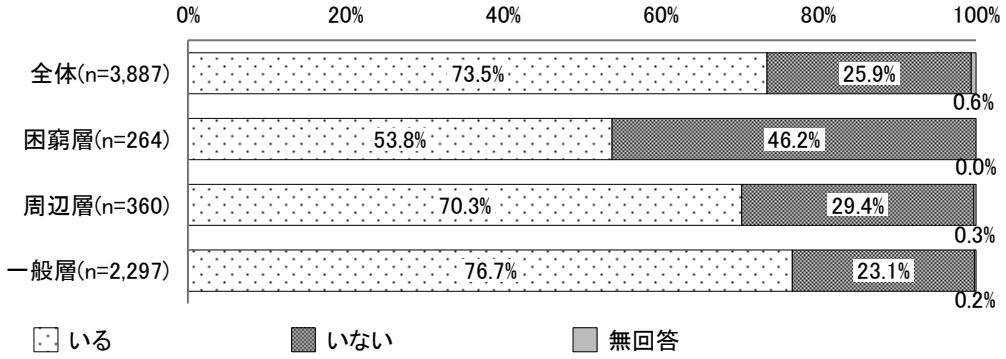
「困窮層」では、「いる」が 53.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いる」が 70.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いる」が 76.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「いる」が 71.5%でもっとも割合が高く、次いで「いない」が 27.6%となっている。

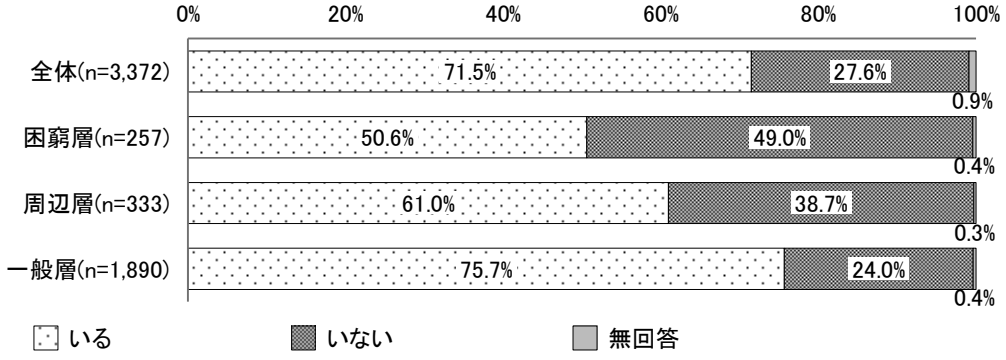
「困窮層」では、「いる」が 50.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いる」が 61.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いる」が 75.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 103　近隣に、悩みを打ち明けたり、相談することができる知人等の有無：単数回答（Q38）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



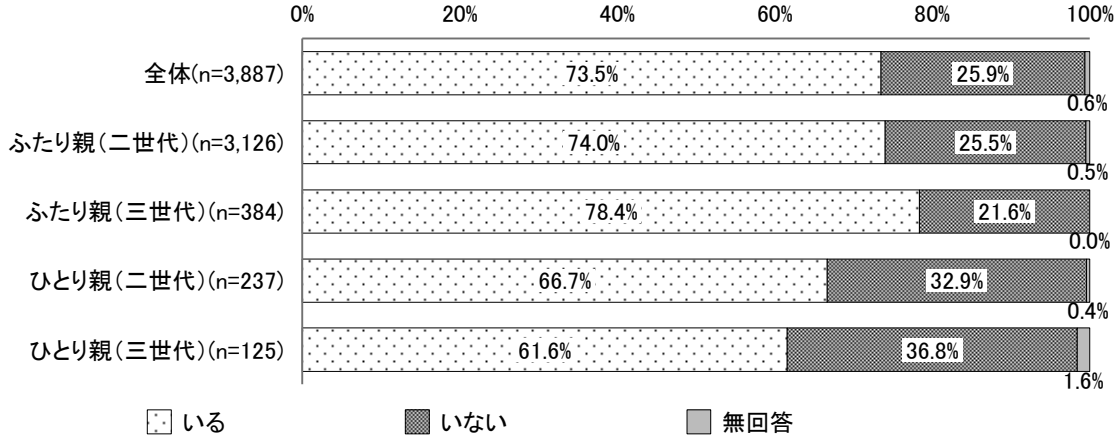
＜中学生＞（p<.01）



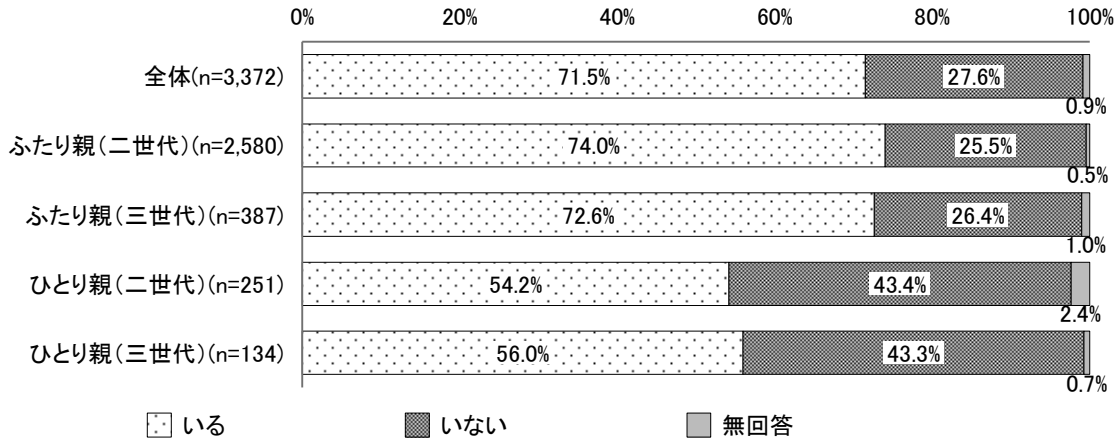
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ひとり親（二世代)」「ひとり親（三世代)」において「いない」とする割合が高くなっている。

図表 104　近隣に、悩みを打ち明けたり、相談することができる知人等の有無：単数回答（Q38）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



4） 最後に卒業した学校_母親

母親と同居している場合について、母親が最後に卒業した学校をみると、小学生の「全体」では、「短大、高専、専門学校等」が 40.0%でもっとも割合が高く、次いで「大学」が 28.1%となっている。

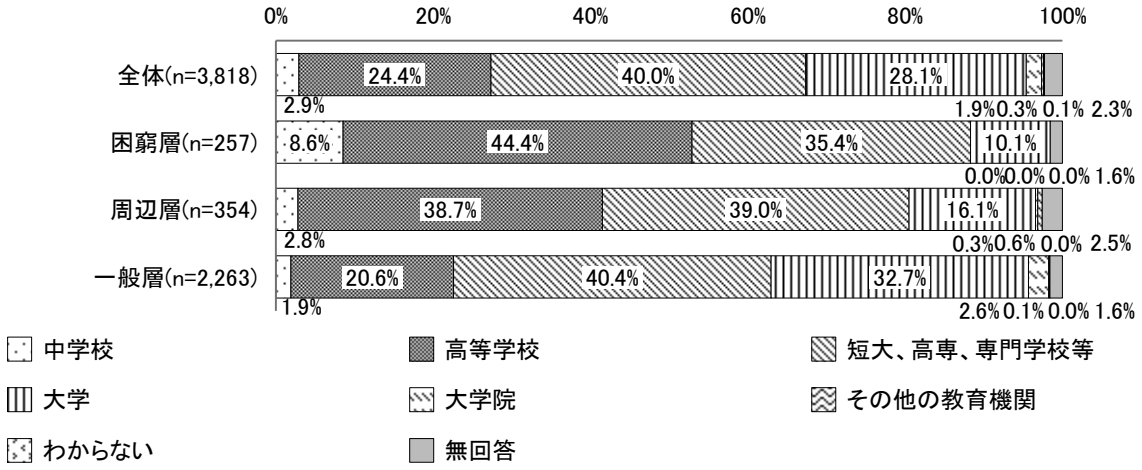
「困窮層」では、「高等学校」が 44.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「短大、高専、専門学校等」が 39.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「短大、高専、専門学校等」が 40.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「短大、高専、専門学校等」が 42.4%でもっとも割合が高く、次いで「高等学校」が 28.3%となっている。

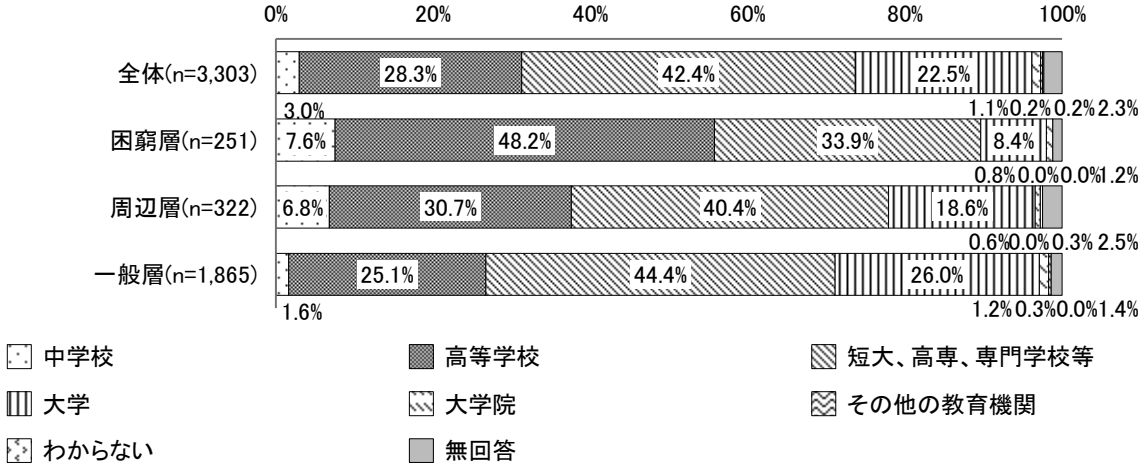
「困窮層」では、「高等学校」が 48.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「短大、高専、専門学校等」が 40.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「短大、高専、専門学校等」が 44.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 105 最後に卒業した学校_母親：単数回答（Q39_1）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



注）対象は Q4 で「母親と同居」と回答した者に限定

5) 最後に卒業した学校_父親

父親と同居している場合について、父親が最後に卒業した学校をみると、小学生の「全体」では、「大学」が 41.6%でもっとも割合が高く、次いで「高等学校」が 26.1%となっている。

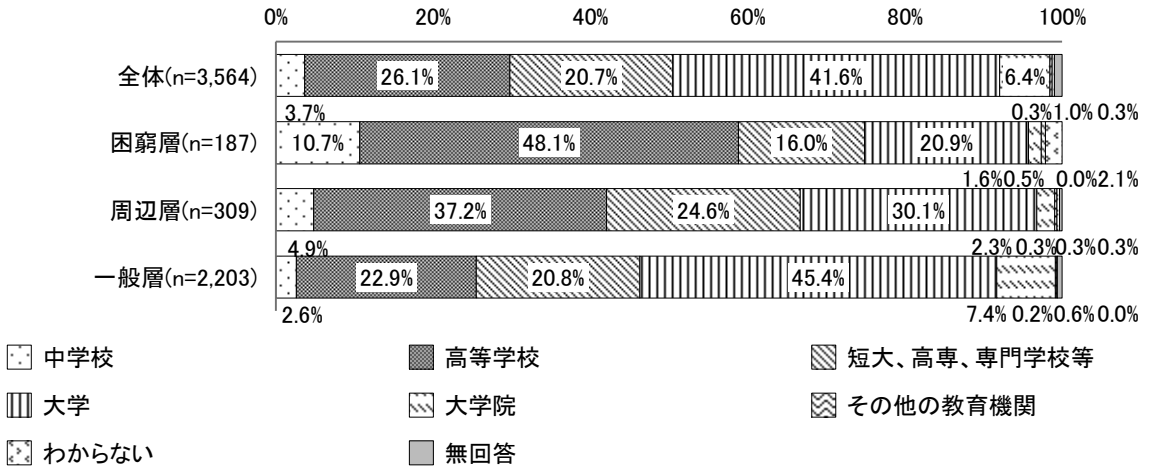
「困窮層」では、「高等学校」が 48.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「高等学校」が 37.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「大学」が 45.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「大学」が 39.1%でもっとも割合が高く、次いで「高等学校」が 27.3%となっている。

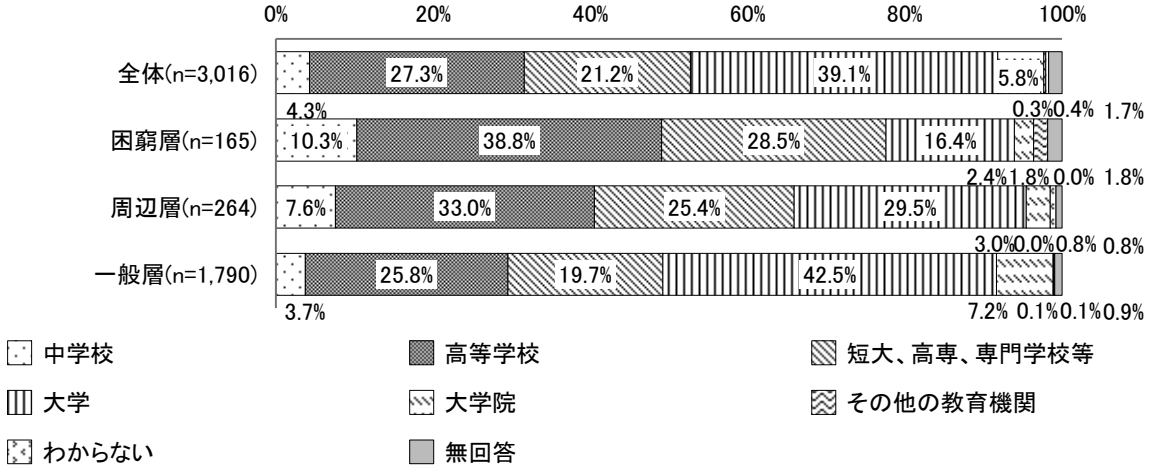
「困窮層」では、「高等学校」が 38.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「高等学校」が 33.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「大学」が 42.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 106　最後に卒業した学校_父親：単数回答（Q39_2）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



注）対象は Q4 で「父親と同居」と回答した者に限定

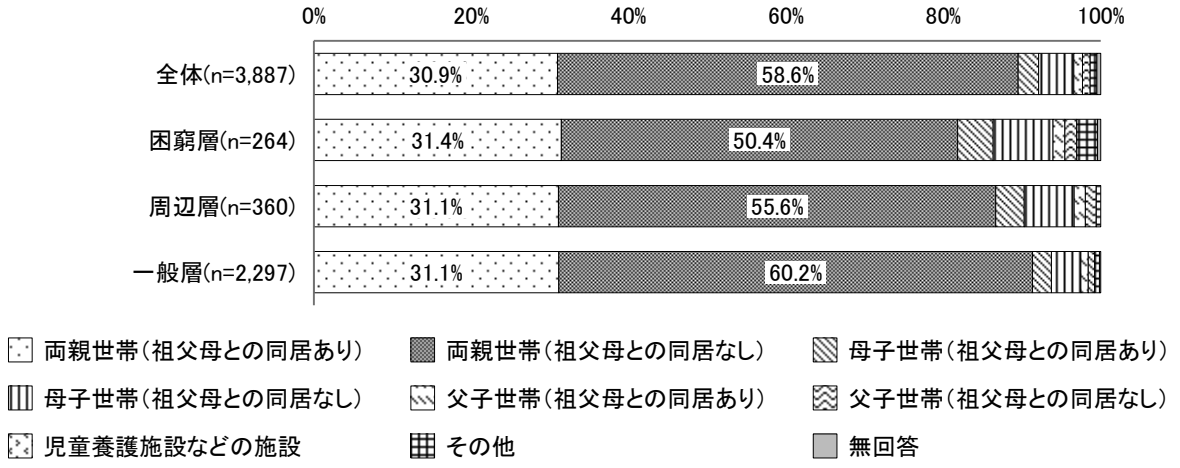
6) 15 歳の頃の家庭の様子

小学生の「全体」では、「両親世帯（祖父母との同居なし）」が 58.6%でもっとも割合が高く、次いで「両親世帯（祖父母との同居あり）」が 30.9%となっている。「困窮層」では、「両親世帯（祖父母との同居なし）」が 50.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「両親世帯（祖父母との同居なし）」が 55.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「両親世帯（祖父母との同居なし）」が 60.2%でもっとも割合が高くなっている。

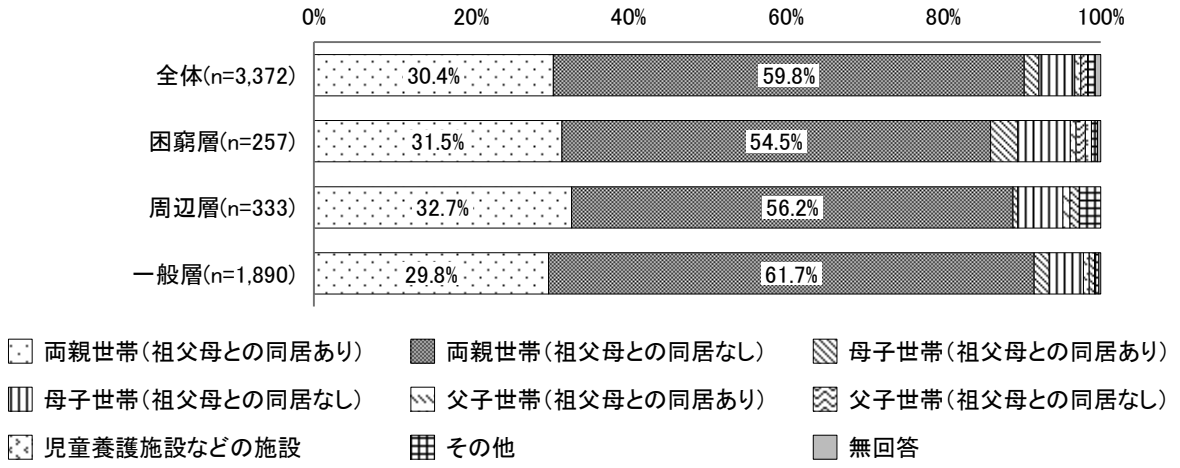
中学生の「全体」では、「両親世帯（祖父母との同居なし）」が 59.8%でもっとも割合が高く、次いで「両親世帯（祖父母との同居あり）」が 30.4%となっている。「困窮層」では、「両親世帯（祖父母との同居なし）」が 54.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「両親世帯（祖父母との同居なし）」が 56.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「両親世帯（祖父母との同居なし）」が 61.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 107　15 歳の頃の家庭の様子：単数回答（Q40）（生活困難度別）

＜小学生＞（検定不可）



＜中学生＞（p<.01）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q40 15歳の頃の家庭の様子								
		両親世帯（祖父母との同居あり）	両親世帯（祖父母との同居なし）	母子世帯（祖父母との同居あり）	母子世帯（祖父母との同居なし）	父子世帯（祖父母との同居あり）	父子世帯（祖父母との同居なし）	児童養護施設などの施設	その他	無回答
全体	3,887	30.9	58.6	2.6	4.5	1.1	1.0	0.0	0.9	0.5
困窮層	264	31.4	50.4	4.5	7.6	1.5	1.5	0.0	2.7	0.4
周辺層	360	31.1	55.6	3.6	6.4	1.4	1.4	0.0	0.6	0.0
一般層	2,297	31.1	60.2	2.4	3.8	0.9	0.8	0.0	0.6	0.1

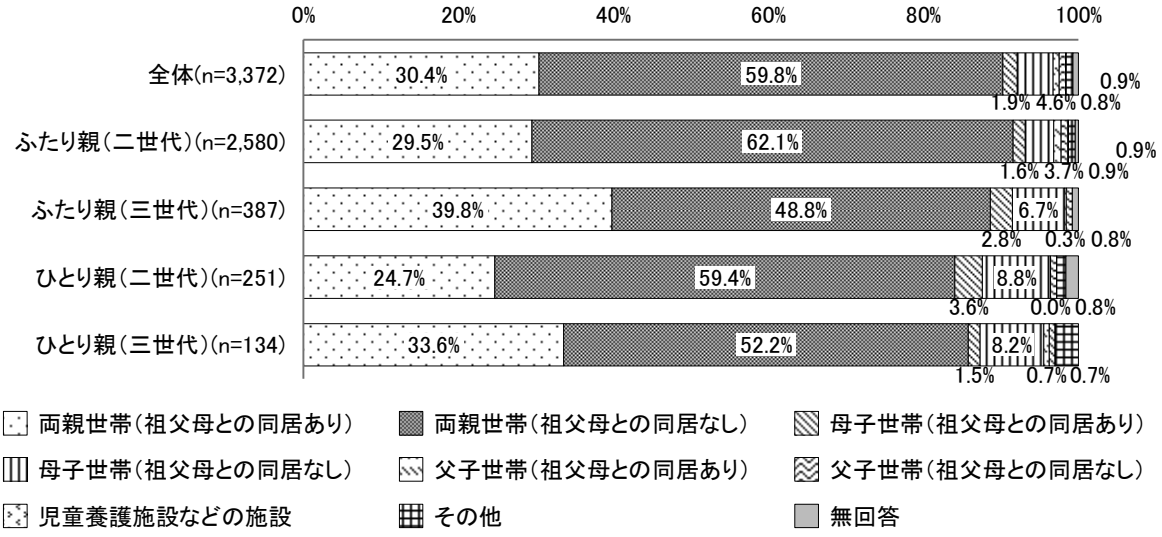
＜数値表：中学生＞

	合計	Q40 15歳の頃の家庭の様子								
		両親世帯（祖父母との同居あり）	両親世帯（祖父母との同居なし）	母子世帯（祖父母との同居あり）	母子世帯（祖父母との同居なし）	父子世帯（祖父母との同居あり）	父子世帯（祖父母との同居なし）	児童養護施設などの施設	その他	無回答
全体	3,372	30.4	59.8	1.9	4.6	0.8	0.9	0.1	0.9	0.7
困窮層	257	31.5	54.5	3.5	6.6	0.8	1.2	0.8	0.8	0.4
周辺層	333	32.7	56.2	0.6	5.7	0.9	1.2	0.0	2.7	0.0
一般層	1,890	29.8	61.7	1.9	4.4	0.7	0.7	0.1	0.5	0.2

世帯タイプ別にみると、中学生では、全体に比べて「ふたり親（三世代）」において「両親世帯（祖父母との同居あり）」とする割合が高くなっている。小学生では有意な差はみられなかった。

図表 108　15 歳の頃の家庭の様子：単数回答（Q40）（世帯タイプ別）

＜中学生＞（p<.01）



＜数値表：中学生＞

	合計	Q40 15歳の頃の家庭の様子								
		両親世帯（祖父母との同居あり）	両親世帯（祖父母との同居なし）	母子世帯（祖父母との同居あり）	母子世帯（祖父母との同居なし）	父子世帯（祖父母との同居あり）	父子世帯（祖父母との同居なし）	児童養護施設などの施設	その他	無回答
全体	3,372	30.4	59.8	1.9	4.6	0.8	0.9	0.1	0.9	0.7
ふたり親（二世代）	2,580	29.5	62.1	1.6	3.7	0.9	0.9	0.1	0.9	0.4
ふたり親（三世代）	387	39.8	48.8	2.8	6.7	0.3	0.8	0.0	0.0	0.8
ひとり親（二世代）	251	24.7	59.4	3.6	8.8	0.0	0.8	0.0	1.2	1.6
ひとり親（三世代）	134	33.6	52.2	1.5	8.2	0.7	0.7	0.0	3.0	0.0

7)　15 歳の頃の家庭の暮らし向き

小学生の「全体」では、「普通」が 50.3%でもっとも割合が高く、次いで「ややゆとりがあった」が 19.5%となっている。

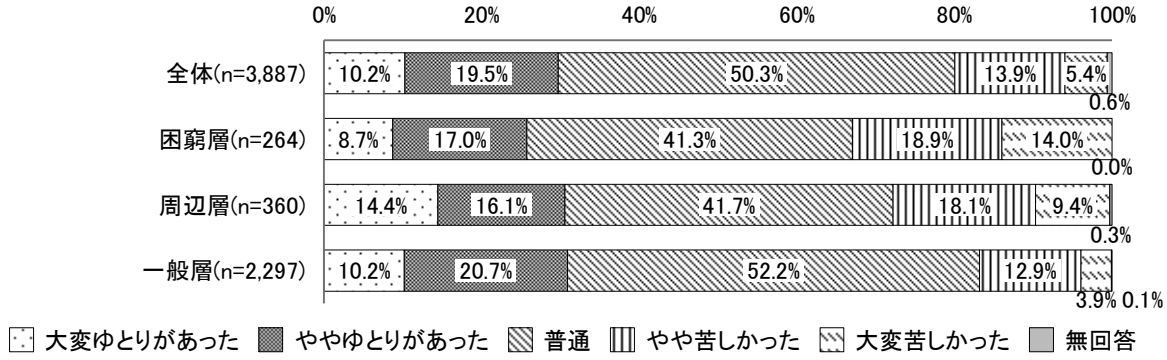
「困窮層」では、「普通」が 41.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「普通」が 41.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「普通」が 52.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「普通」が 50.6%でもっとも割合が高く、次いで「ややゆとりがあった」が 17.6%となっている。

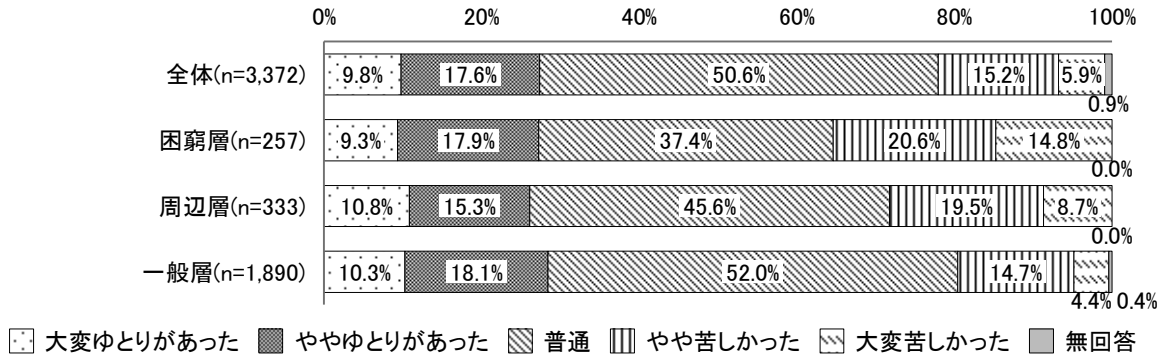
「困窮層」では、「普通」が 37.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「普通」が 45.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「普通」が 52.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 109　15 歳の頃の家庭の暮らし向き：単数回答（Q41）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



8） 10 年前の家庭の暮らし向き

小学生の「全体」では、「普通」が 55.3%でもっとも割合が高く、次いで「ややゆとりがあった」が 20.2%となっている。

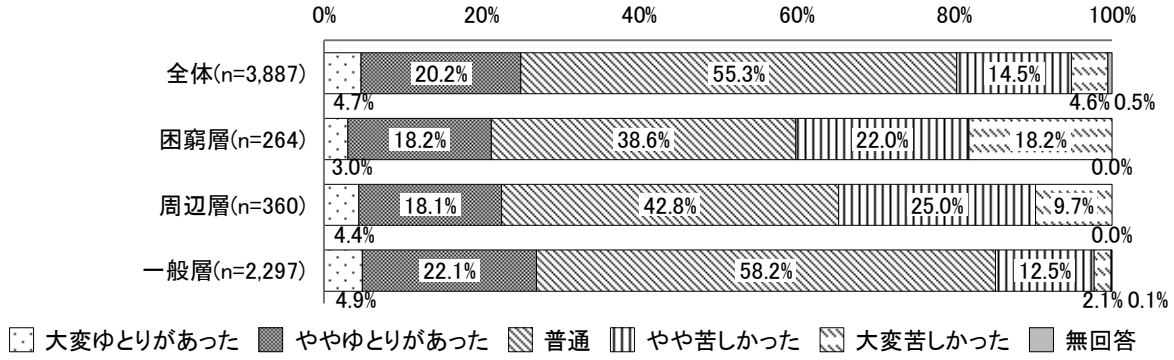
「困窮層」では、「普通」が 38.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「普通」が 42.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「普通」が 58.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「普通」が 53.8%でもっとも割合が高く、次いで「ややゆとりがあった」が 18.3%となっている。

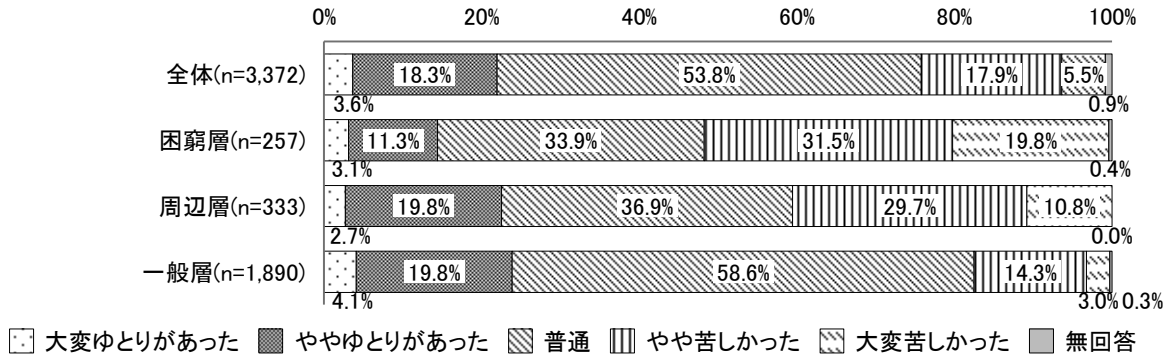
「困窮層」では、「普通」が 33.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「普通」が 36.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「普通」が 58.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 110　10 年前の家庭の暮らし向き：単数回答（Q42）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



9） 成人する前に体験したこと

小学生の「全体」では、「いずれも経験したことがない」が 78.9%でもっとも割合が高く、次いで「両親が離婚した」が 9.5%となっている。

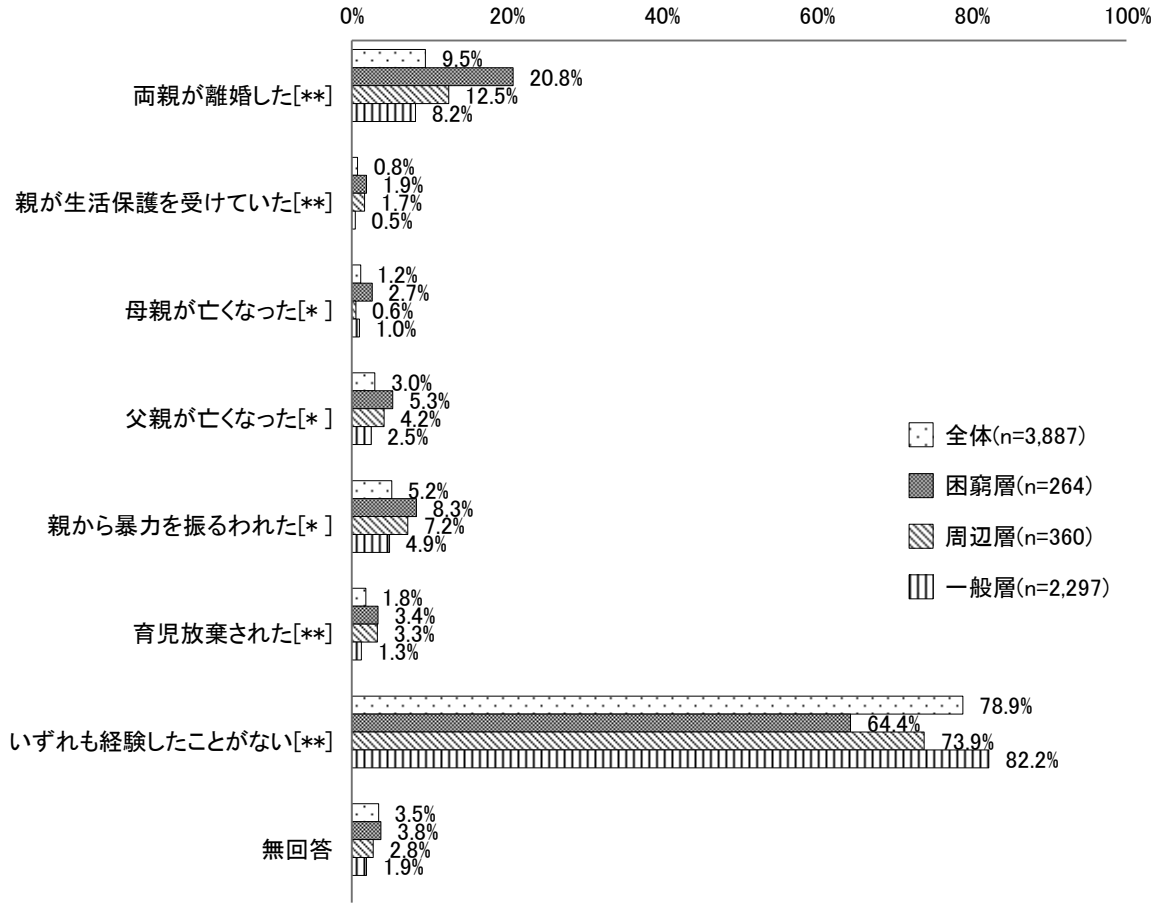
「困窮層」では、「いずれも経験したことがない」が 64.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いずれも経験したことがない」が 73.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いずれも経験したことがない」が 82.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「いずれも経験したことがない」が 78.3%でもっとも割合が高く、次いで「両親が離婚した」が 8.7%となっている。

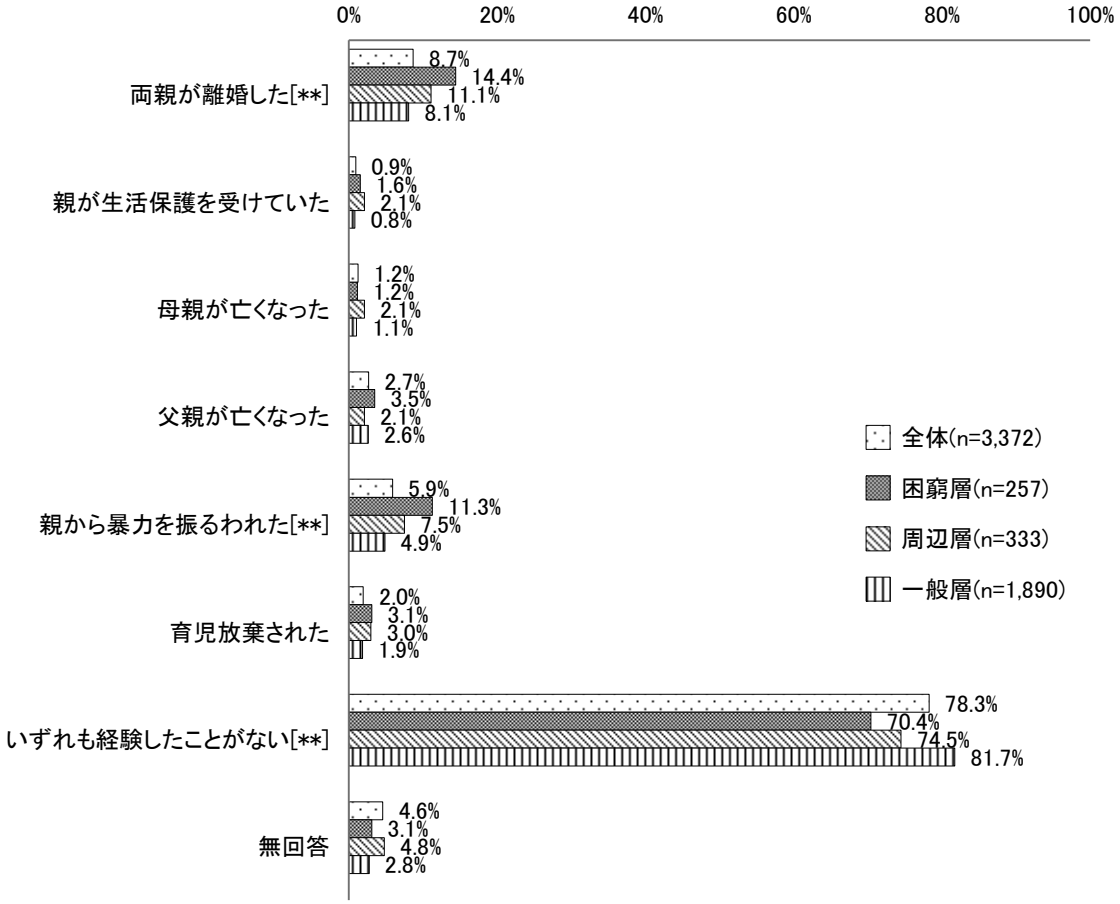
「困窮層」では、「いずれも経験したことがない」が 70.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いずれも経験したことがない」が 74.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いずれも経験したことがない」が 81.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 111　成人する前に体験したこと：複数回答（Q43）（生活困難度別）

＜小学生＞



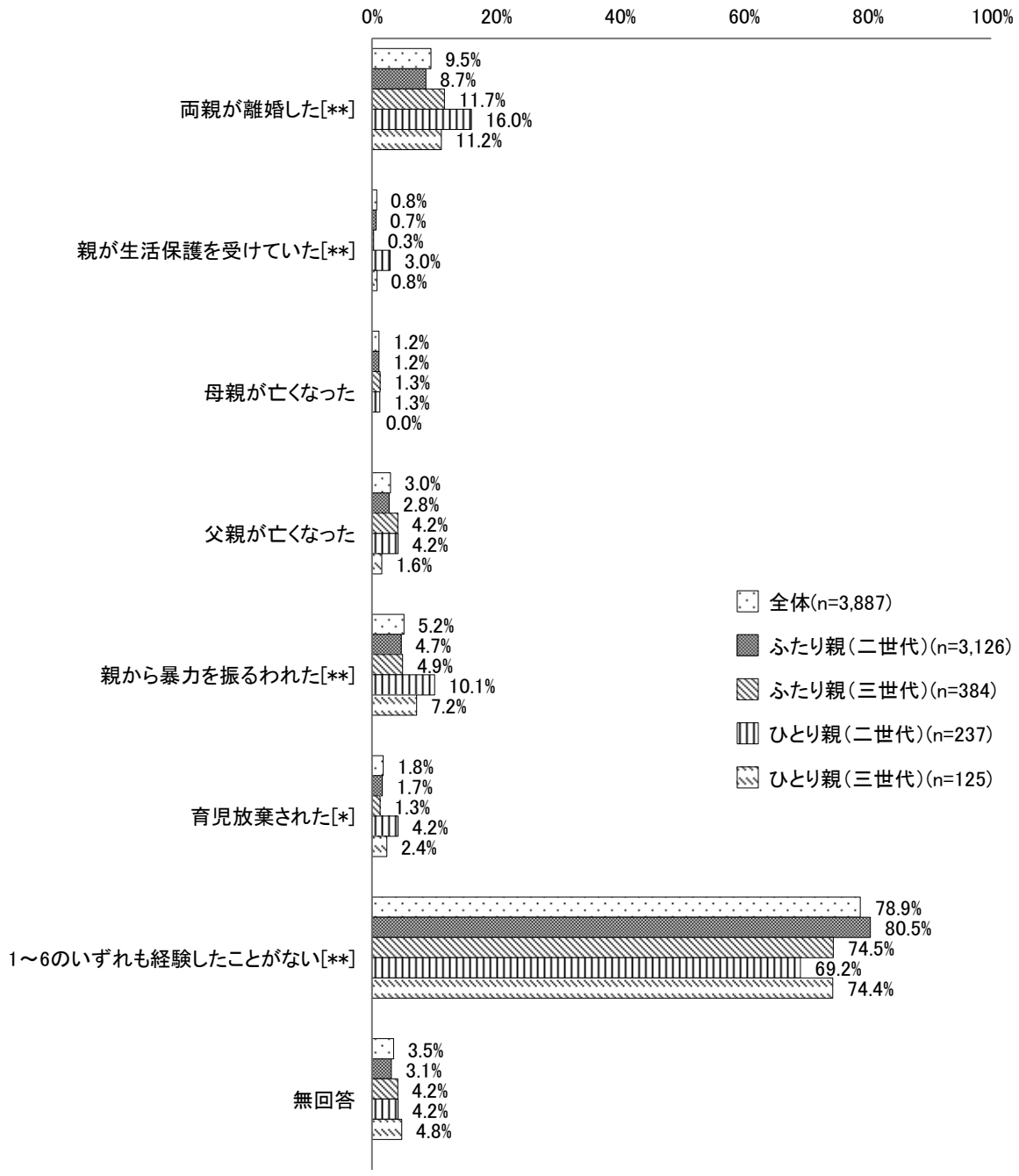
＜中学生＞



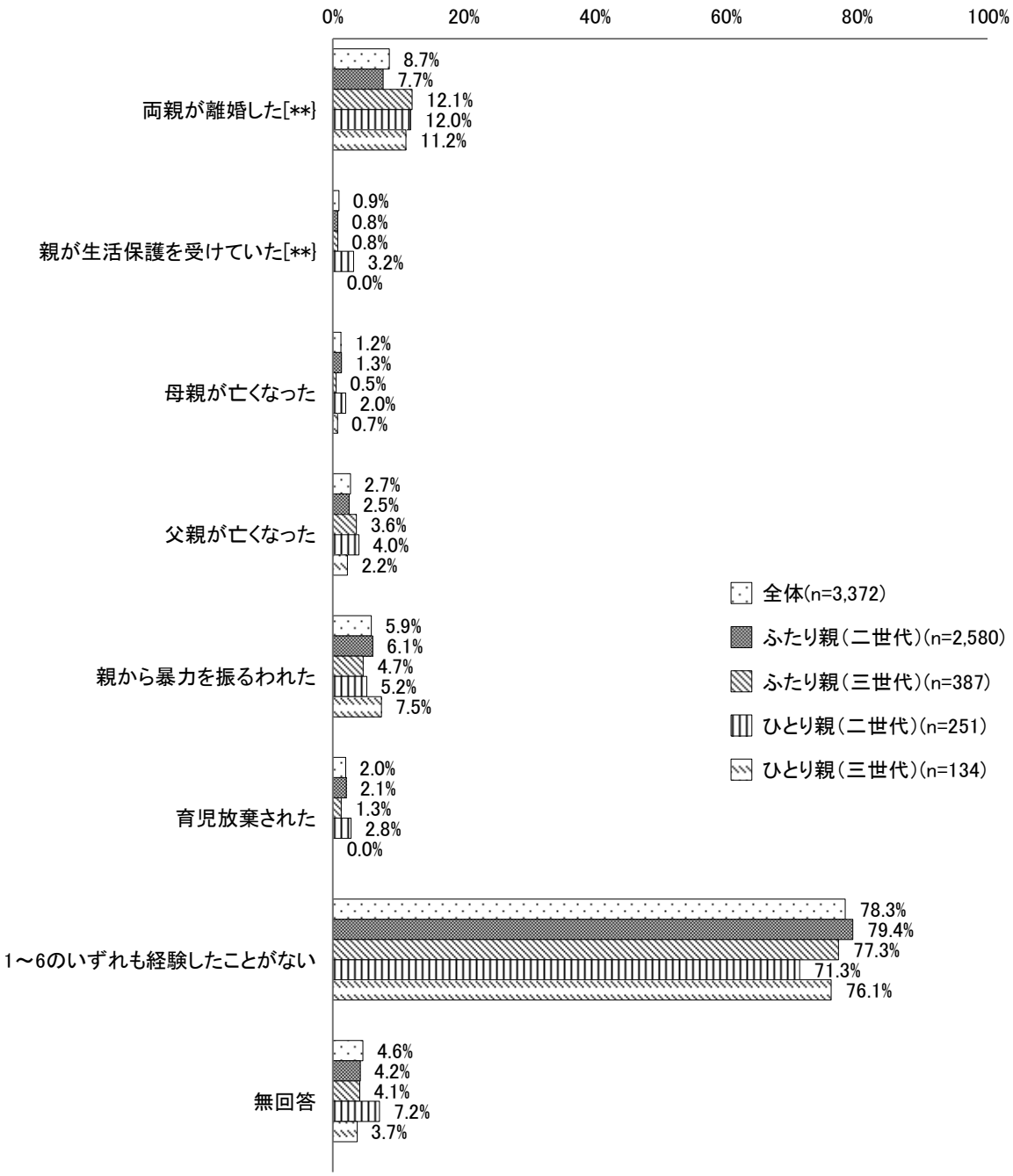
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代)」において「両親が離婚した」「親から暴力を振るわれた」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代)」において「親が生活保護を受けていた」とする割合が高くなっている。

図表 112　成人する前に体験したこと：複数回答（Q43）（世帯タイプ別）

＜小学生＞



＜中学生＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
両親が離婚した[**]
8.7%
7.7%
12.1%
12.0%
11.2%
親が生活保護を受けていた[**]
0.9%
0.8%
0.8%
3.2%
0.0%
母親が亡くなった
1.2%
1.3%
0.5%
2.0%
0.7%
父親が亡くなった
2.7%
2.5%
3.6%
4.0%
2.2%
親から暴力を振るわれた
5.9%
6.1%
4.7%
5.2%
7.5%
育児放棄された
2.0%
2.1%
1.3%
2.8%
0.0%
1～6のいずれも経験したことがない
78.3%
79.4%
77.3%
71.3%
76.1%
無回答
4.6%
4.2%
4.1%
7.2%
3.7%
全体(n=3,372)
ふたり親（二世代）(n=2,580)
ふたり親（三世代）(n=387)
ひとり親（二世代）(n=251)
ひとり親（三世代）(n=134)

10）お子さんをもってから経験したこと

小学生の「全体」では、「いずれも経験したことがない」が 64.0%でもっとも割合が高く、次いで「わが子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」が 15.7%となっている。

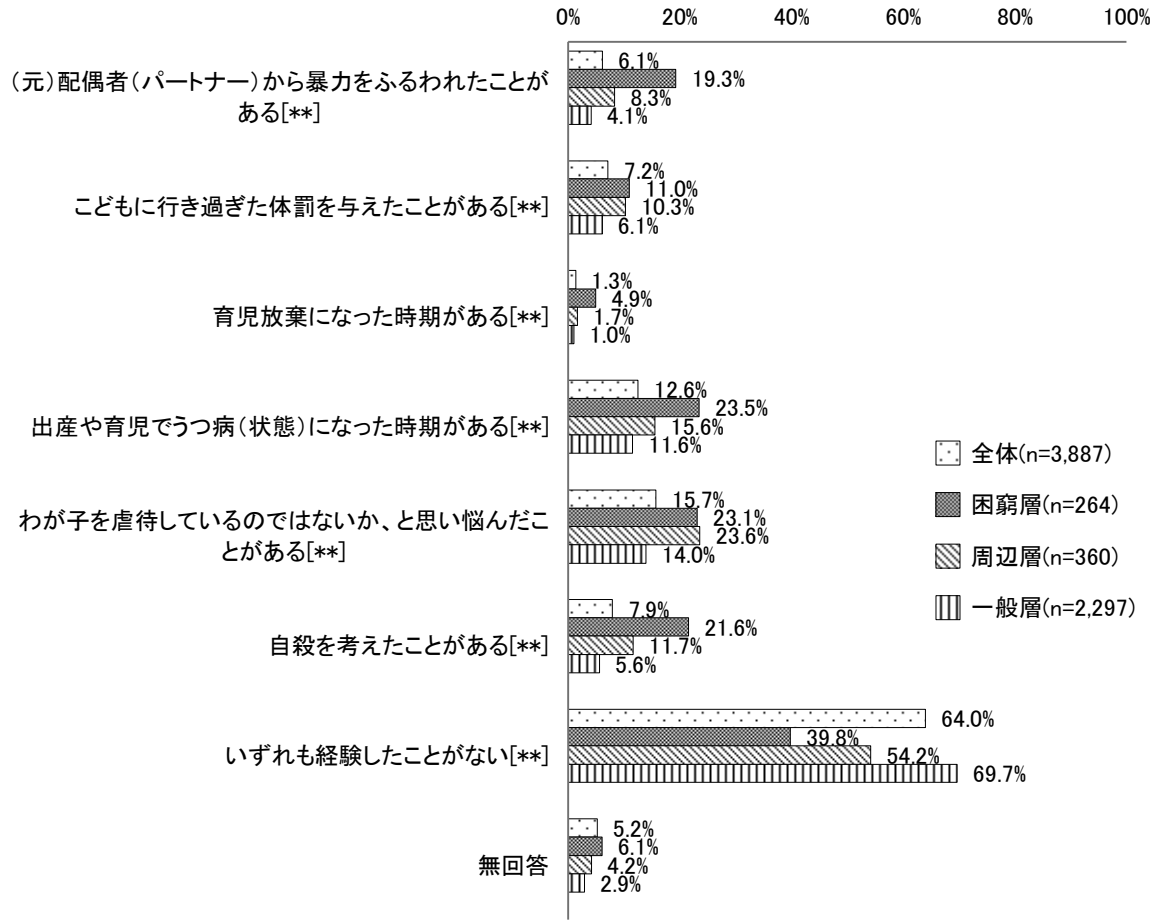
「困窮層」では、「いずれも経験したことがない」が 39.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いずれも経験したことがない」が 54.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いずれも経験したことがない」が 69.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「いずれも経験したことがない」が 63.5%でもっとも割合が高く、次いで「わが子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」が 14.1%となっている。

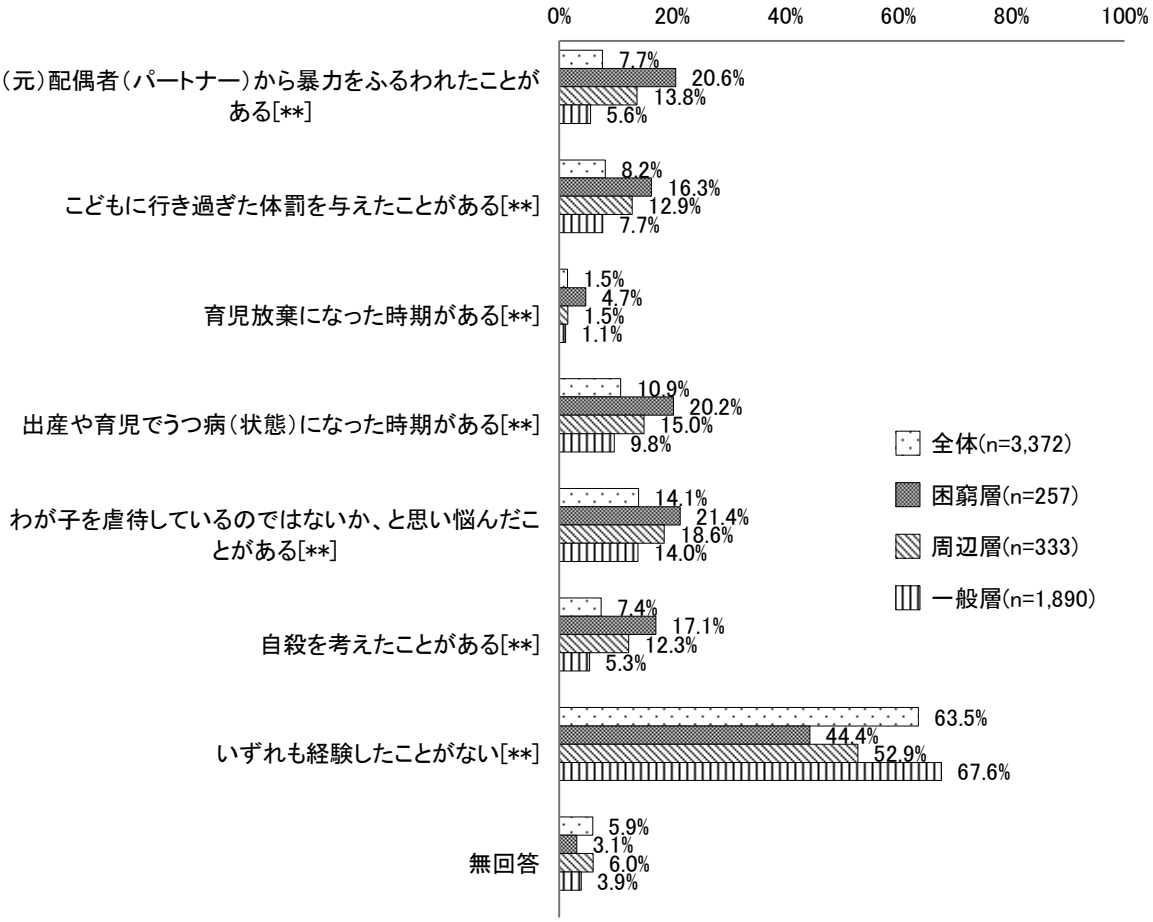
「困窮層」では、「いずれも経験したことがない」が 44.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いずれも経験したことがない」が 52.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いずれも経験したことがない」が 67.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 113　お子さんをもってから経験したこと：複数回答（Q44）（生活困難度別）

＜小学生＞



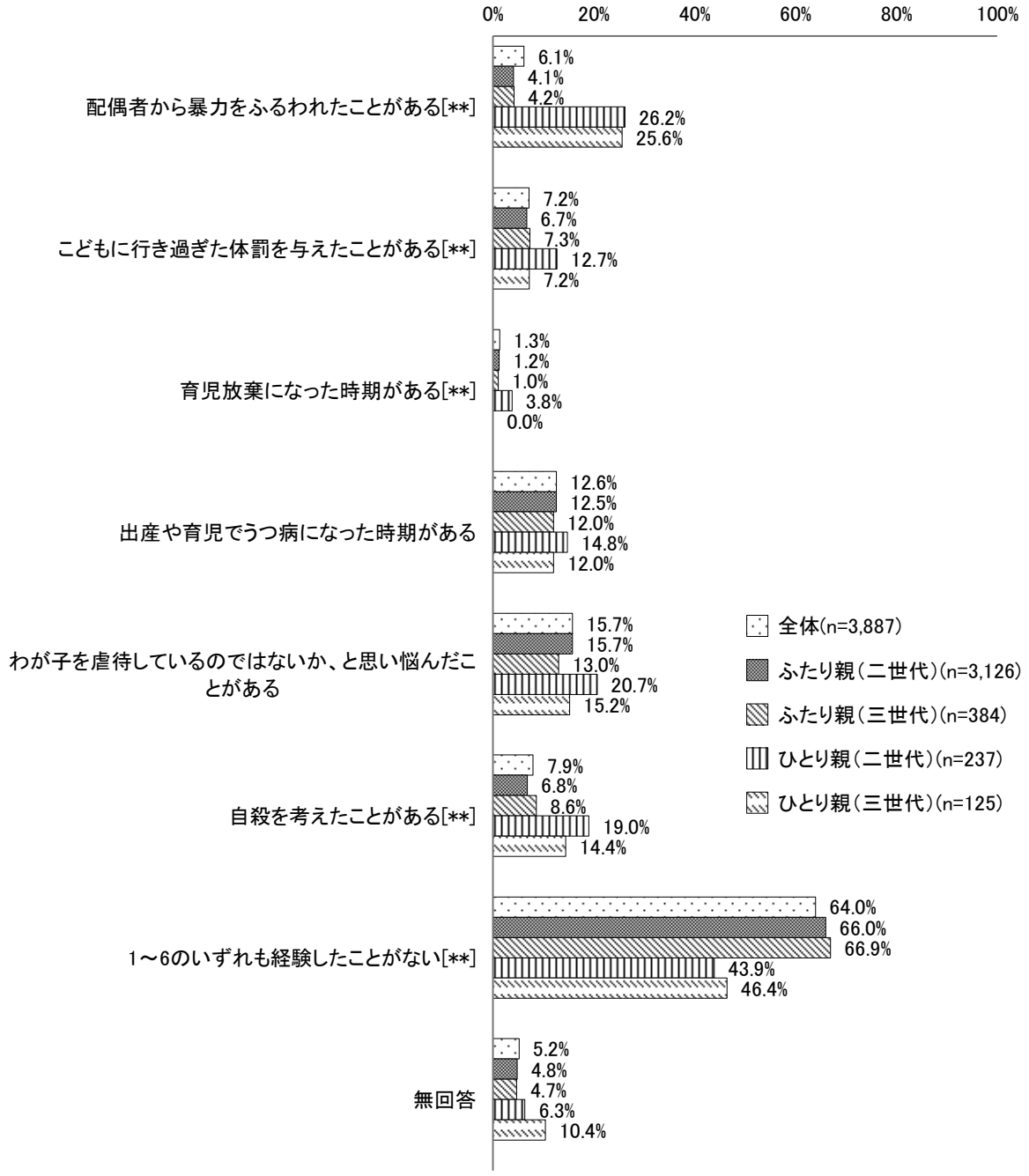
＜中学生＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
（元）配偶者（パートナー）から暴力をふるわれたことがある[**]
7.7%
20.6%
13.8%
5.6%
こどもに行き過ぎた体罰を与えたことがある[**]
8.2%
16.3%
12.9%
7.7%
育児放棄になった時期がある[**]
1.5%
4.7%
1.5%
1.1%
出産や育児でうつ病（状態）になった時期がある[**]
10.9%
20.2%
15.0%
9.8%
わが子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある[**]
14.1%
21.4%
18.6%
14.0%
自殺を考えたことがある[**]
7.4%
17.1%
12.3%
5.3%
いずれも経験したことがない[**]
63.5%
44.4%
52.9%
67.6%
無回答
5.9%
3.1%
6.0%
3.9%
全体(n=3,372)
困窮層(n=257)
周辺層(n=333)
一般層(n=1,890)

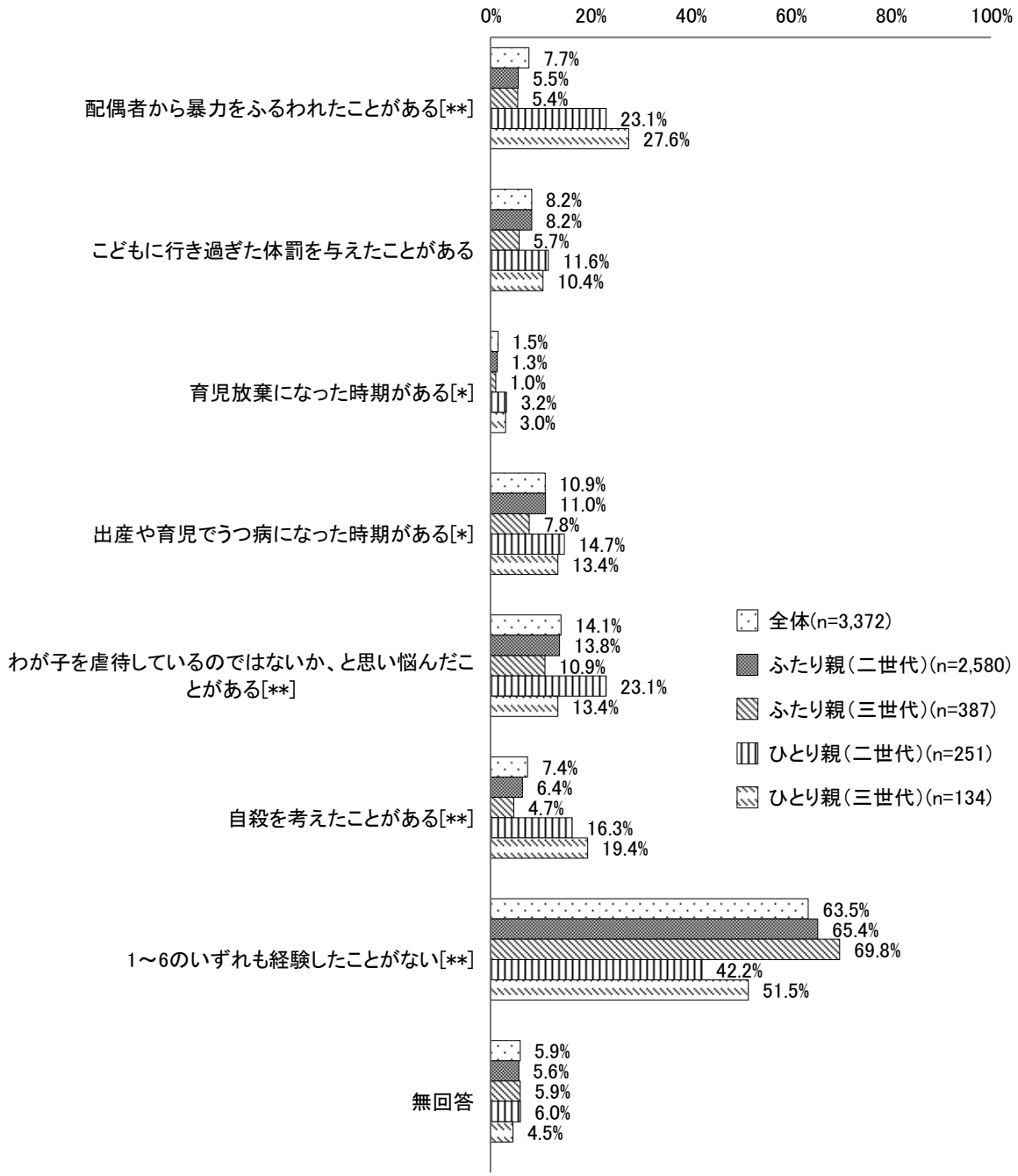
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体と比べて、「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において、「配偶者から暴力をふるわれたことがある」「自殺を考えたことがある」とする割合が高くなっている。また、「ひとり親（二世代）」では、「わが子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」とする割合も高い。

図表 114　お子さんをもってから経験したこと：複数回答（Q44）（世帯タイプ別）

＜小学生＞



＜中学生＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
配偶者から暴力をふるわれたことがある[**]
7.7%
5.5%
5.4%
23.1%
27.6%
こどもに行き過ぎた体罰を与えたことがある
8.2%
8.2%
5.7%
11.6%
10.4%
育児放棄になった時期がある[*]
1.5%
1.3%
1.0%
3.2%
3.0%
出産や育児でうつ病になった時期がある[*]
10.9%
11.0%
7.8%
14.7%
13.4%
わが子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある[**]
14.1%
13.8%
10.9%
23.1%
13.4%
自殺を考えたことがある[**]
7.4%
6.4%
4.7%
16.3%
19.4%
1～6のいずれも経験したことがない[**]
63.5%
65.4%
69.8%
42.2%
51.5%
無回答
5.9%
5.6%
5.9%
6.0%
4.5%
全体(n=3,372)
ふたり親（二世代）(n=2,580)
ふたり親（三世代）(n=387)
ひとり親（二世代）(n=251)
ひとり親（三世代）(n=134)

11）思いや気持ち_がんばれば、むくわれる

小学生の「全体」では、「思う」が 55.2%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 23.8%となっている。

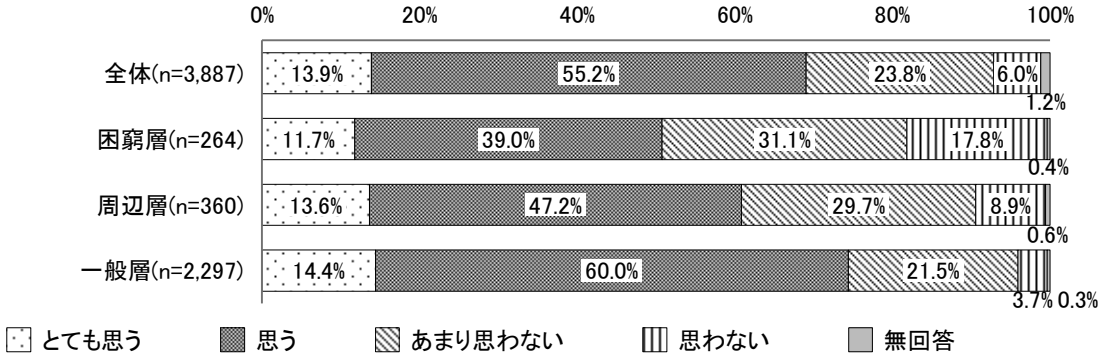
「困窮層」では、「思う」が 39.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 47.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 60.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「思う」が 55.7%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 24.2%となっている。

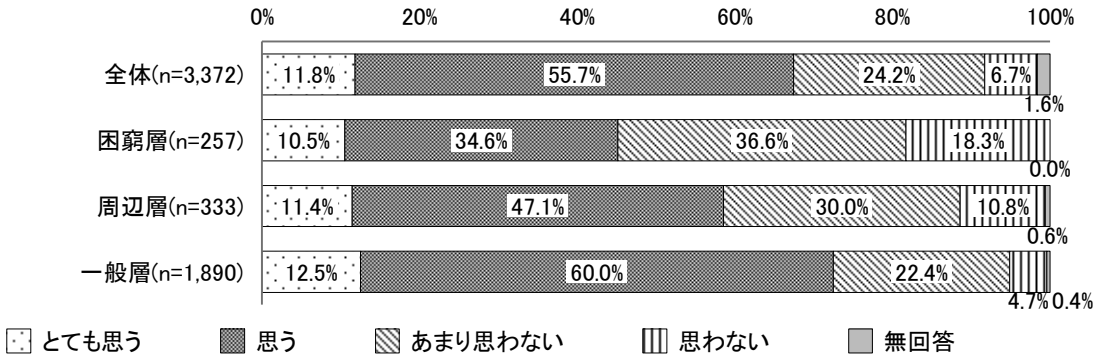
「困窮層」では、「あまり思わない」が 36.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 47.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 60.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 115　思いや気持ち_がんばれば、むくわれる：単数回答（Q45A）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



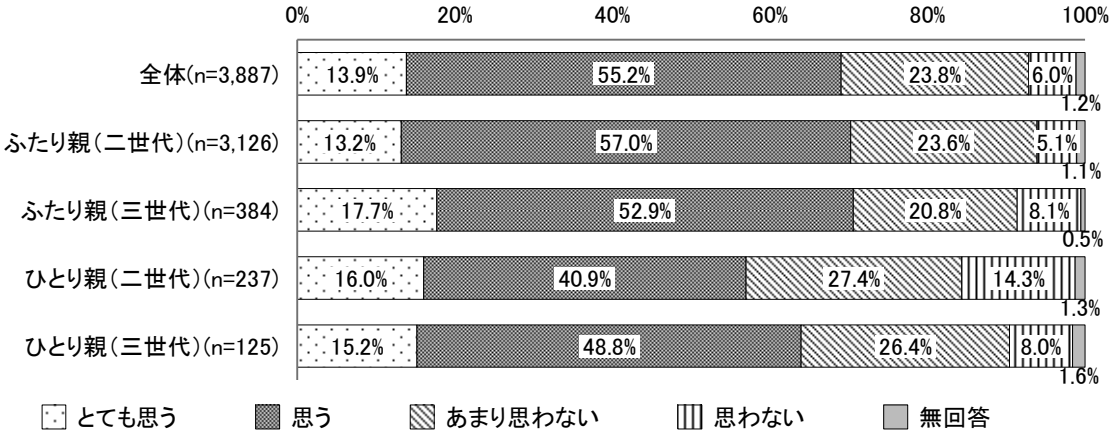
＜中学生＞（p<.01）



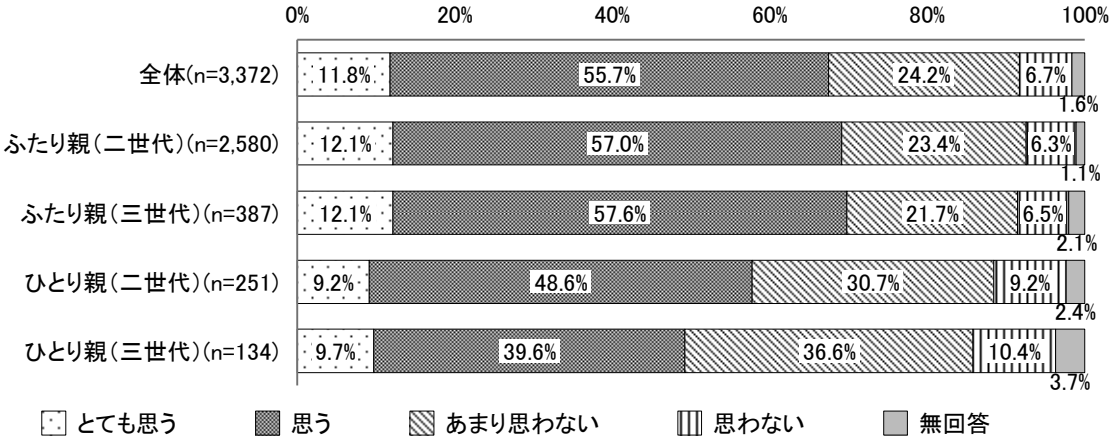
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「あまり思わない」「思わない」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「あまり思わない」「思わない」とする割合が高くなっている。

図表 116　思いや気持ち_がんばれば、むくわれる：単数回答（Q45A）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



12）思いや気持ち_自分は価値のある人間だ

小学生の「全体」では、「思う」が 43.5%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 37.8%となっている。

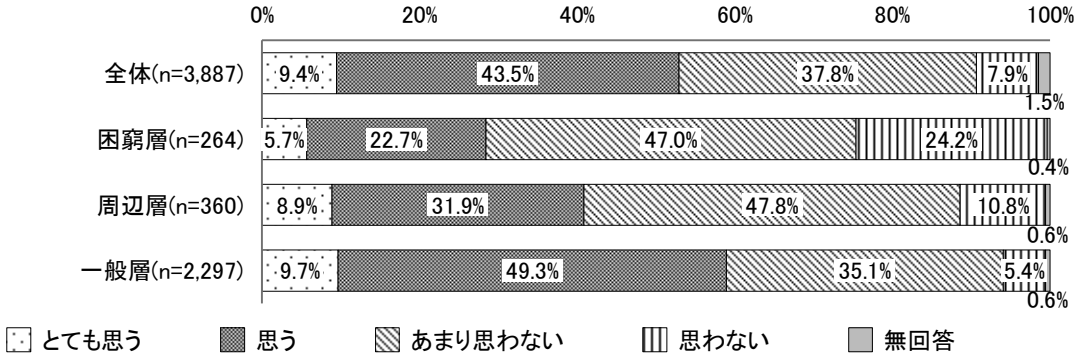
「困窮層」では、「あまり思わない」が 47.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「あまり思わない」が 47.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 49.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「思う」が 42.5%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 40.1%となっている。

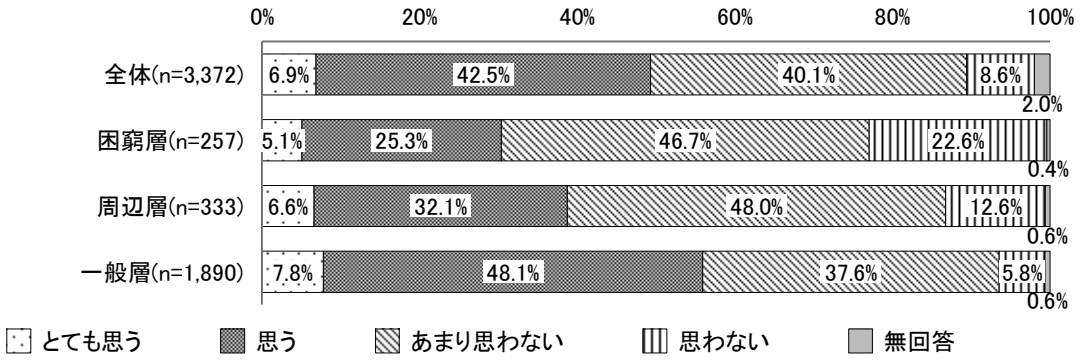
「困窮層」では、「あまり思わない」が 46.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「あまり思わない」が 48.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 48.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 117　思いや気持ち_自分は価値のある人間だ：単数回答（Q45B）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



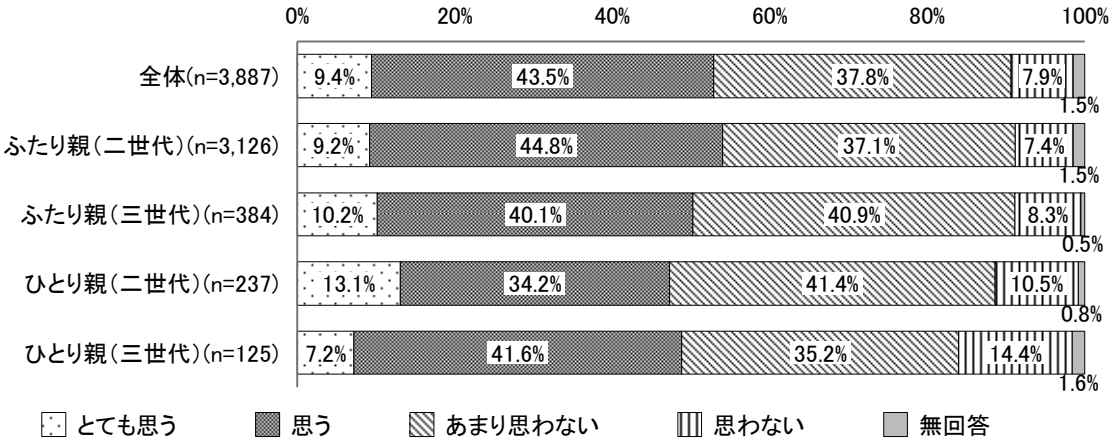
＜中学生＞（p<.01）



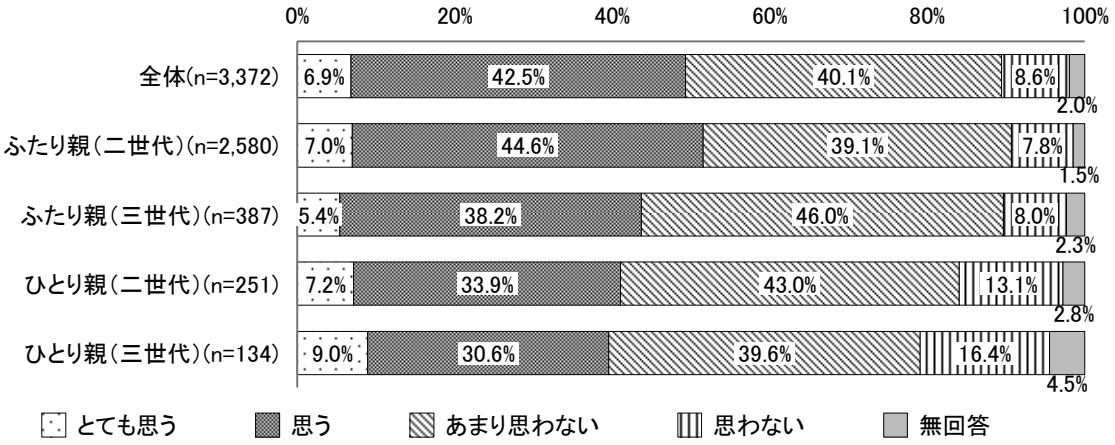
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代）」において「思わない」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「思わない」とする割合が高くなっている。

図表 118　思いや気持ち_自分は価値のある人間だ：単数回答（Q45B）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



13）思いや気持ち_不安に感じることがある

小学生の「全体」では、「思う」が 49.6%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 23.1%となっている。

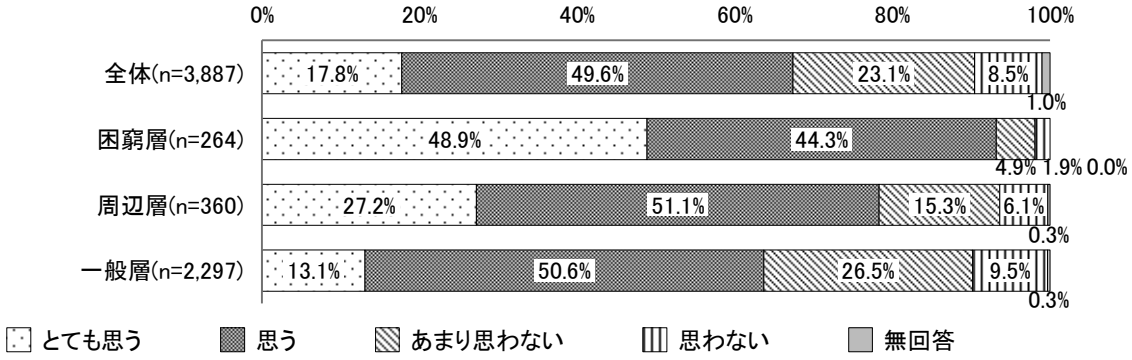
「困窮層」では、「とても思う」が 48.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 51.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 50.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「思う」が 51.0%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 23.0%となっている。

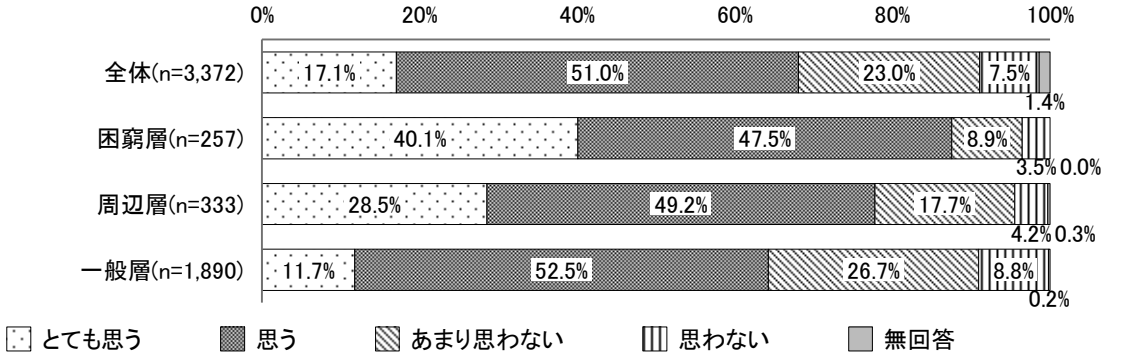
「困窮層」では、「思う」が 47.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 49.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 52.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 119　思いや気持ち_不安に感じることがある：単数回答（Q45C）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



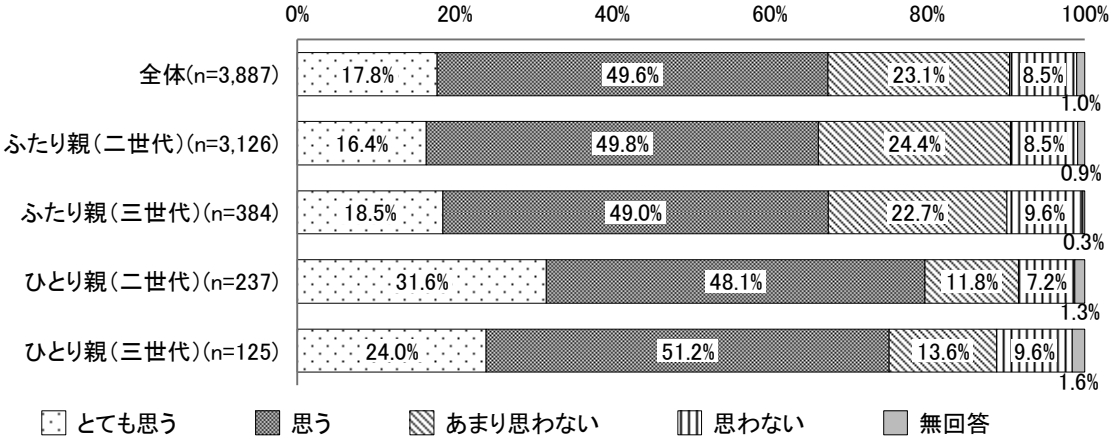
＜中学生＞（p<.01）



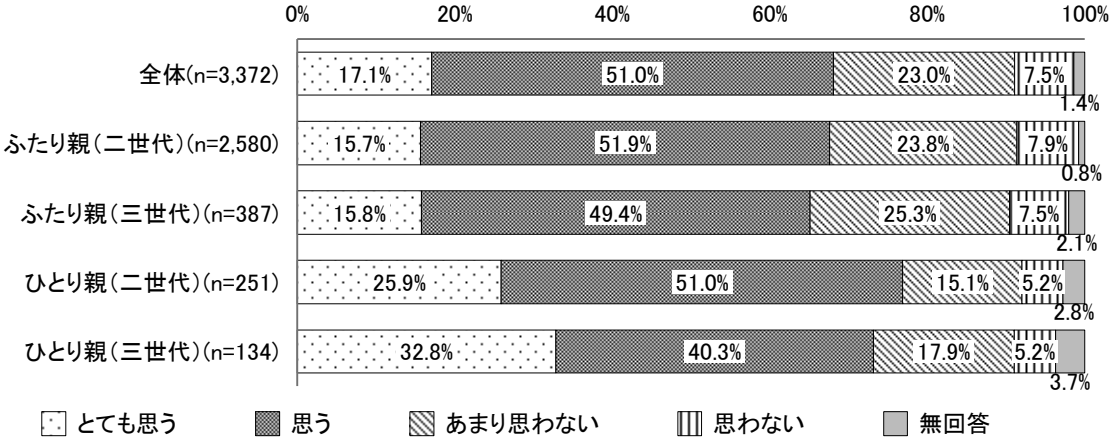
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ひとり親（二世代)」「ひとり親（三世代)」において「とても思う」とする割合が高くなっている。

図表 120　思いや気持ち_不安に感じることがある：単数回答（Q45C）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



14）思いや気持ち_孤独を感じることがある

小学生の「全体」では、「あまり思わない」が 38.6%でもっとも割合が高く、次いで「思う」が 26.2%となっている。

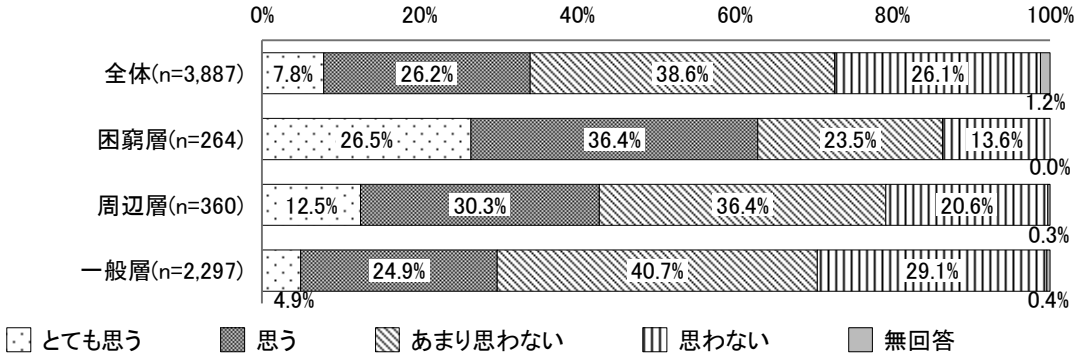
「困窮層」では、「思う」が 36.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「あまり思わない」が 36.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「あまり思わない」が 40.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「あまり思わない」が 38.6%でもっとも割合が高く、次いで「思う」が 27.0%となっている。

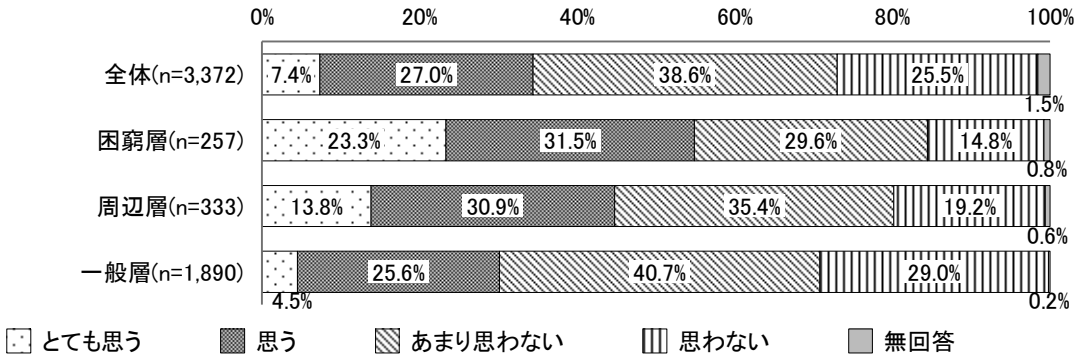
「困窮層」では、「思う」が 31.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「あまり思わない」が 35.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「あまり思わない」が 40.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 121　思いや気持ち_孤独を感じることがある：単数回答（Q45D）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



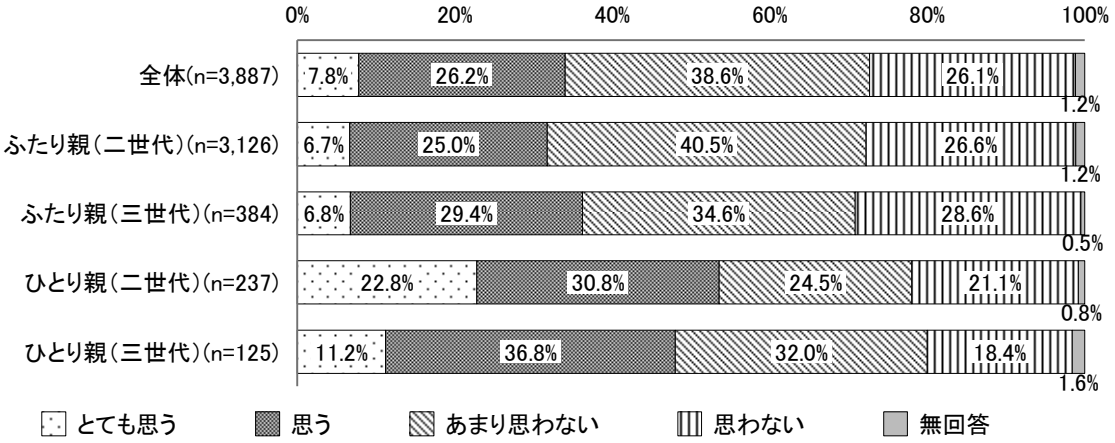
＜中学生＞（p<.01）



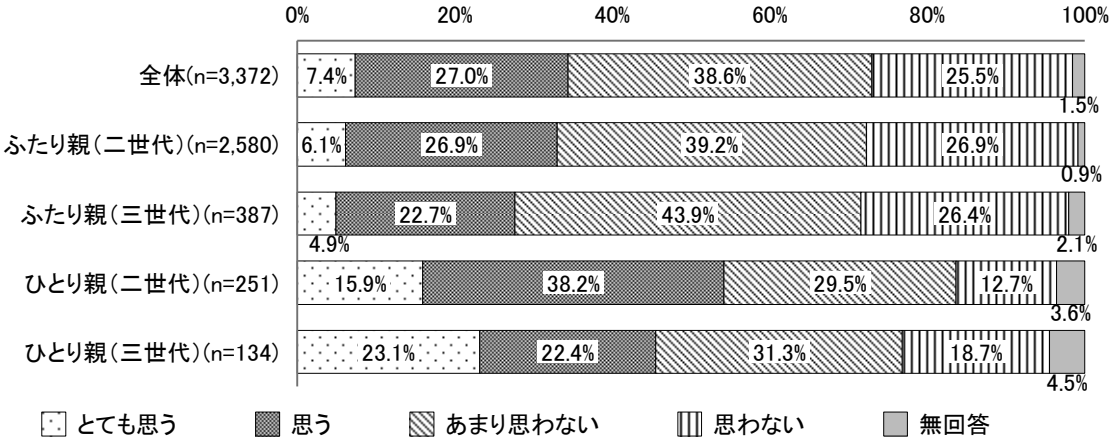
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「思う」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「思う」とする割合が高くなっている。

図表 122　思いや気持ち_孤独を感じることがある：単数回答（Q45D）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



15）思いや気持ち_目標や計画は達成できる

小学生の「全体」では、「思う」が 56.7%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 28.6%となっている。

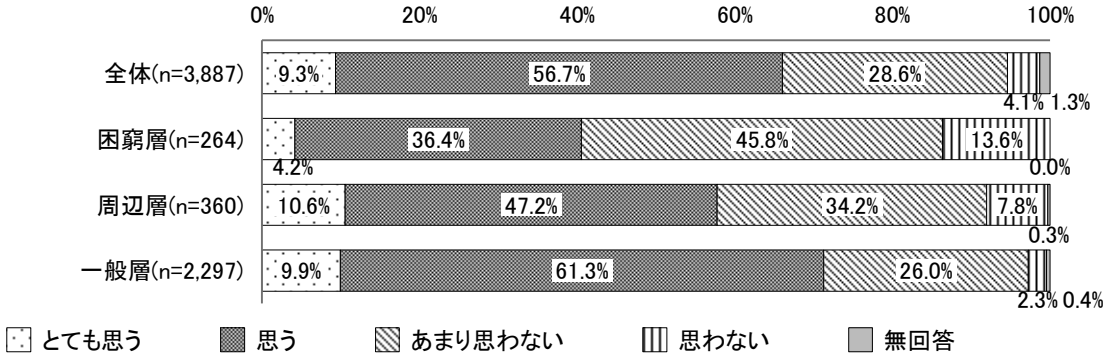
「困窮層」では、「あまり思わない」が 45.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 47.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 61.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「思う」が 57.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 29.0%となっている。

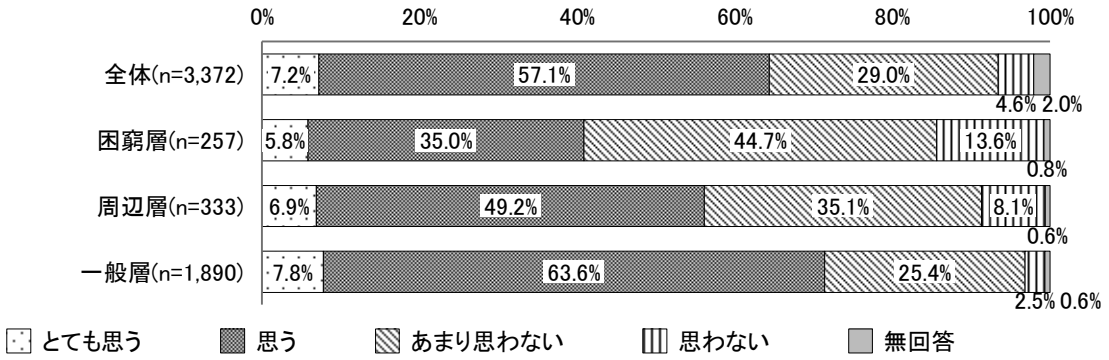
「困窮層」では、「あまり思わない」が 44.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 49.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 63.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 123　思いや気持ち_目標や計画は達成できる：単数回答（Q45E）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



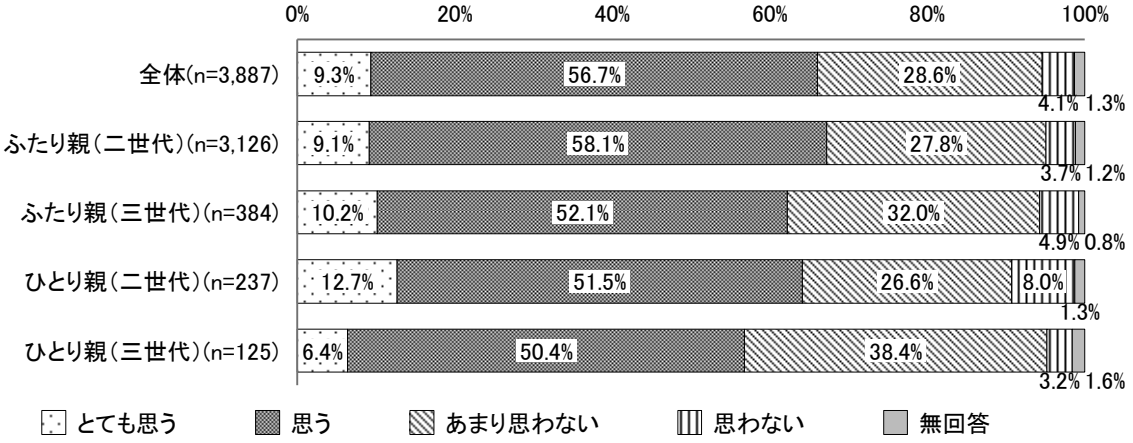
＜中学生＞（p<.01）



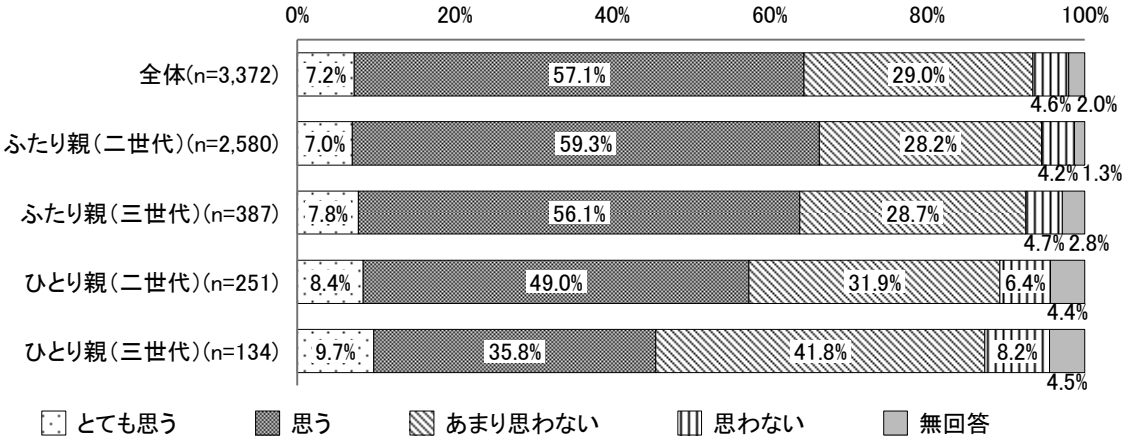
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ひとり親（三世代)」において「あまり思わない」とする割合が高くなっている。

図表 124　思いや気持ち_目標や計画は達成できる：単数回答（Q45E）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



16）思いや気持ち_積極的に色々な人と話したい

小学生の「全体」では、「あまり思わない」が 37.7%でもっとも割合が高く、次いで「思う」が 37.3%となっている。

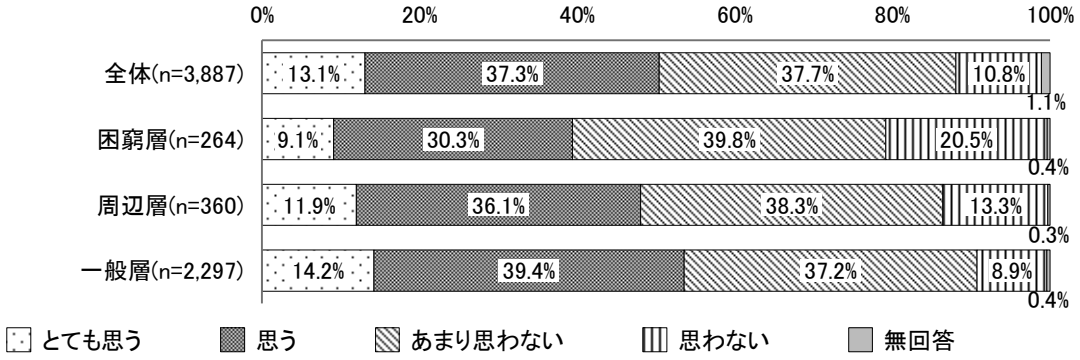
「困窮層」では、「あまり思わない」が 39.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「あまり思わない」が 38.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 39.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「あまり思わない」が 39.7%でもっとも割合が高く、次いで「思う」が 36.9%となっている。

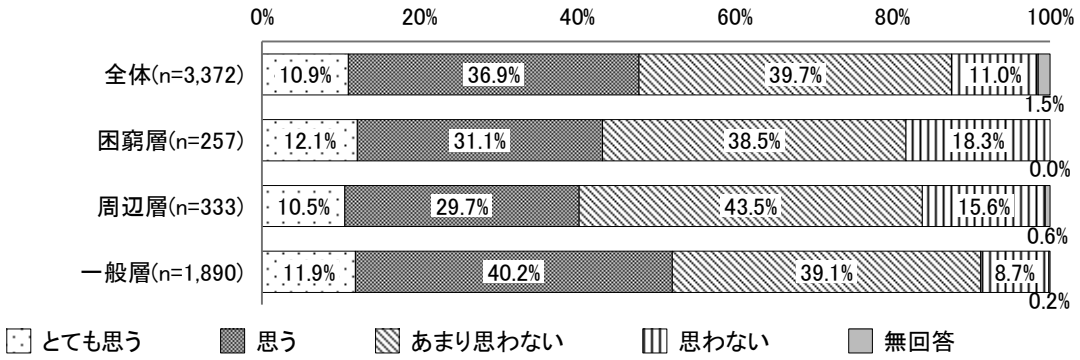
「困窮層」では、「あまり思わない」が 38.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「あまり思わない」が 43.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 40.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 125　思いや気持ち_積極的に色々な人と話したい：単数回答（Q45F）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



17）思いや気持ち_今後の人生が楽しみだ

小学生の「全体」では、「思う」が 50.5%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 26.2%となっている。

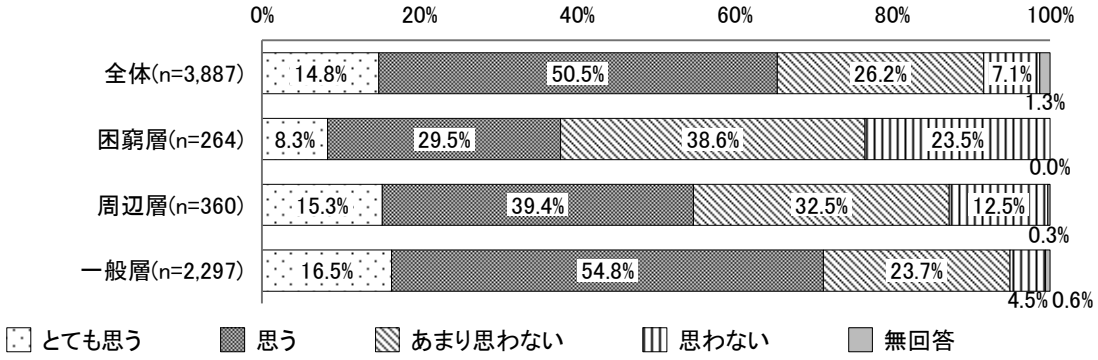
「困窮層」では、「あまり思わない」が 38.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 39.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 54.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「思う」が 48.9%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 29.4%となっている。

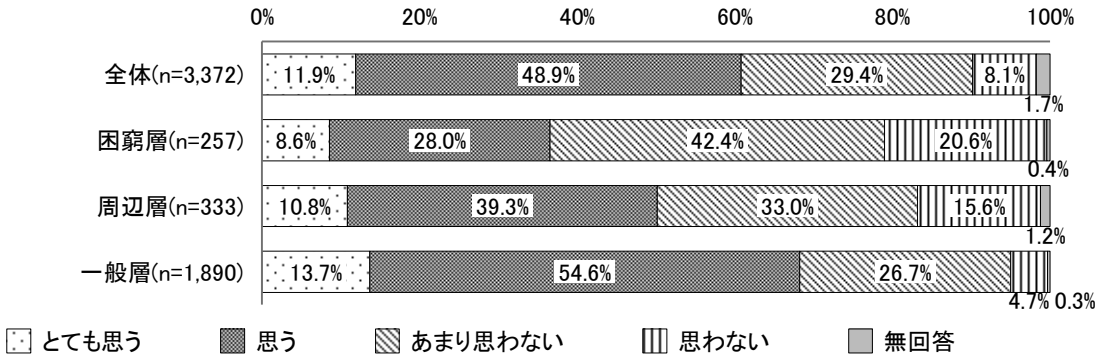
「困窮層」では、「あまり思わない」が 42.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 39.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 54.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 126　思いや気持ち_今後の人生が楽しみだ：単数回答（Q45G）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



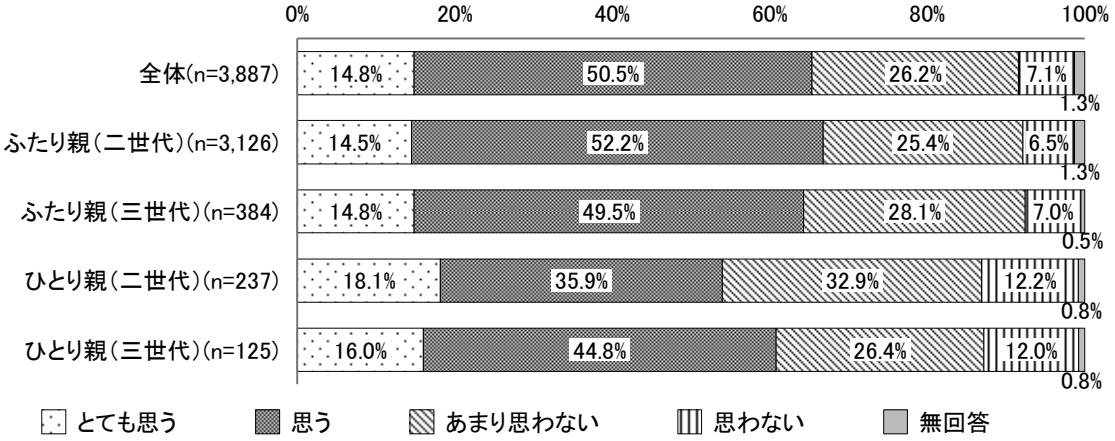
＜中学生＞（p<.01）



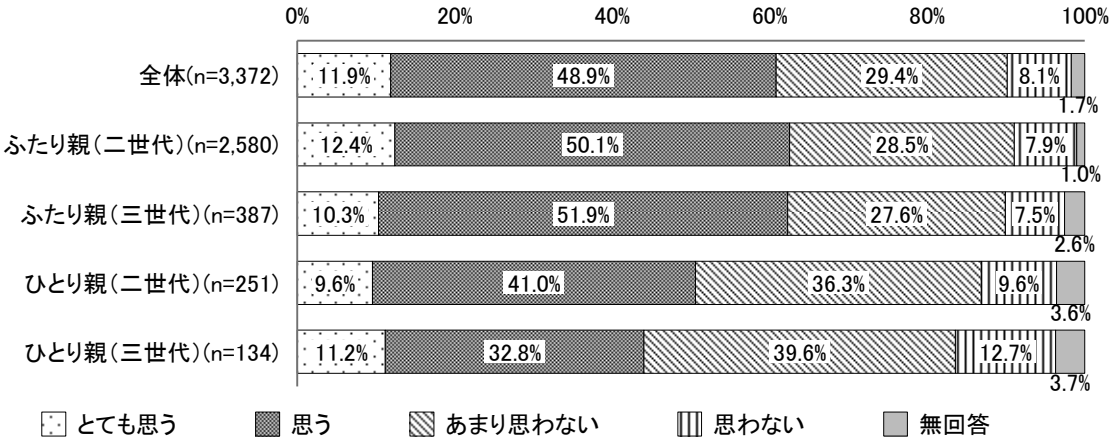
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「あまり思わない」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「あまり思わない」とする割合が高くなっている。

図表 127　思いや気持ち_今後の人生が楽しみだ：単数回答（Q45G）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



18）思いや気持ち_自分のことが好きだ

小学生の「全体」では、「思う」が 44.3%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 33.9%となっている。

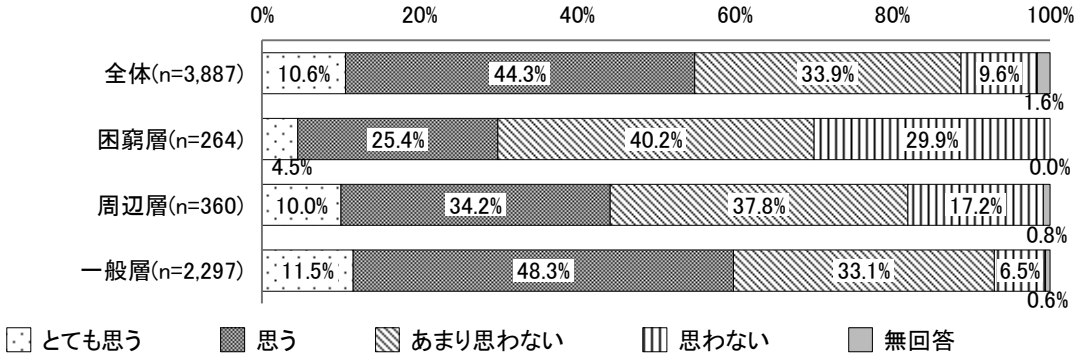
「困窮層」では、「あまり思わない」が 40.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「あまり思わない」が 37.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 48.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「思う」が 43.6%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 34.8%となっている。

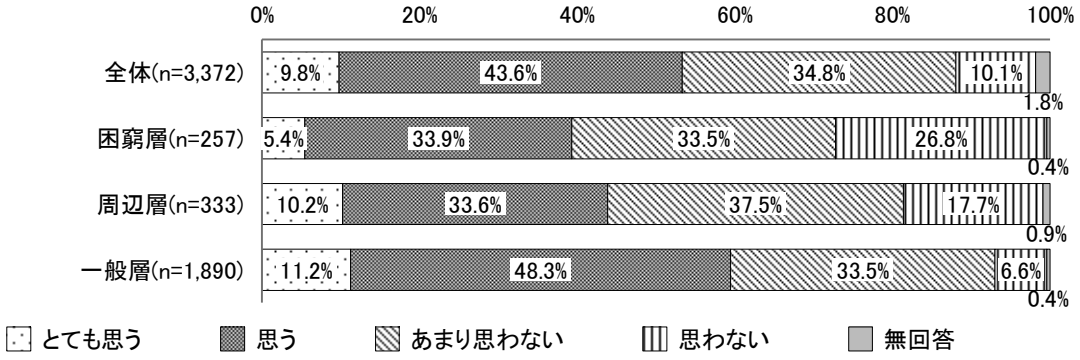
「困窮層」では、「思う」が 33.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「あまり思わない」が 37.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 48.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 128　思いや気持ち_自分のことが好きだ：単数回答（Q45H）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



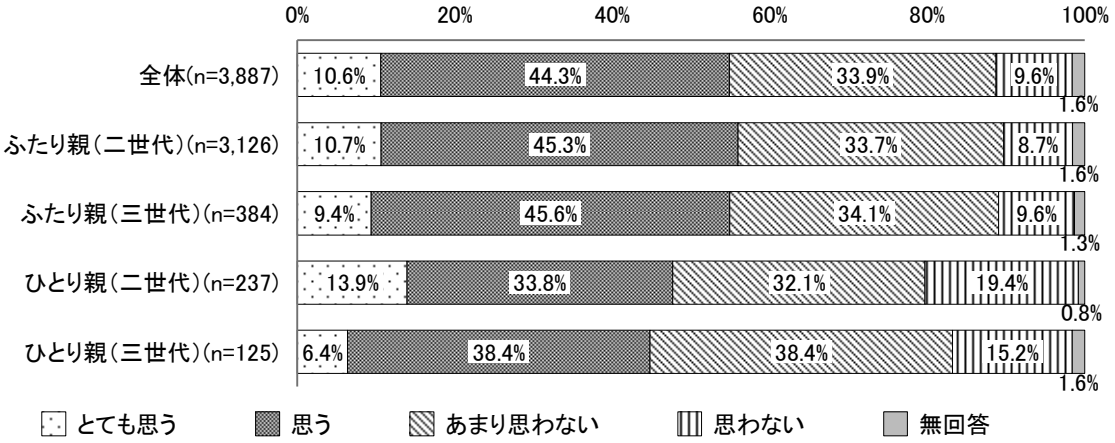
＜中学生＞（p<.01）



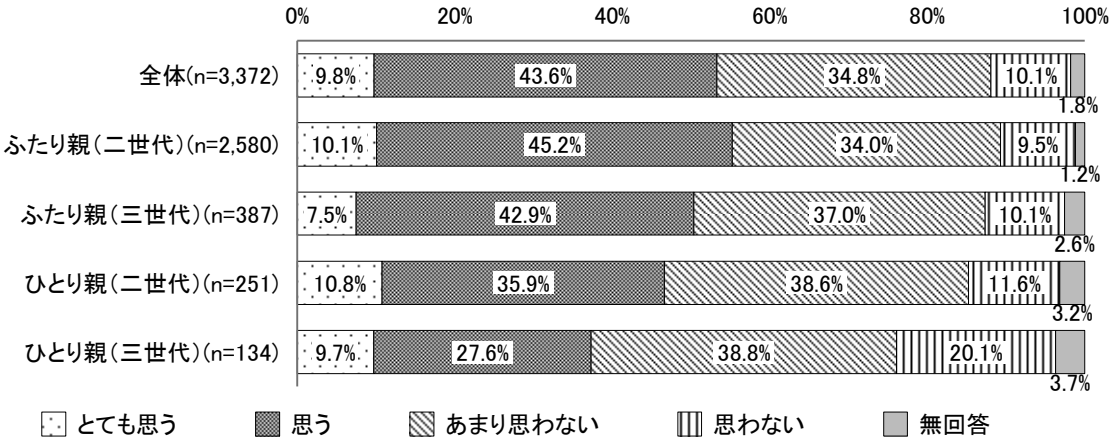
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「思わない」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代）」において「思わない」とする割合が高くなっている。

図表 129　思いや気持ち_自分のことが好きだ：単数回答（Q45H）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



（８）支援の利用状況

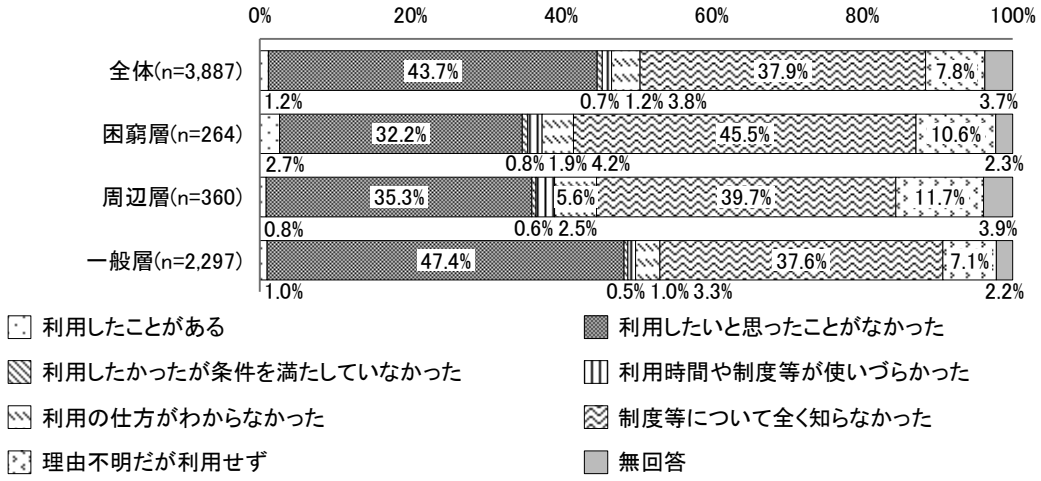
1)　事業や民間の取組_子育て短期支援事業

小学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 43.7%でもっとも割合が高く、次いで「制度等について全く知らなかった」が 37.9%となっている。「困窮層」では、「制度等について全く知らなかった」が 45.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「制度等について全く知らなかった」が 39.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 47.4%でもっとも割合が高くなっている。

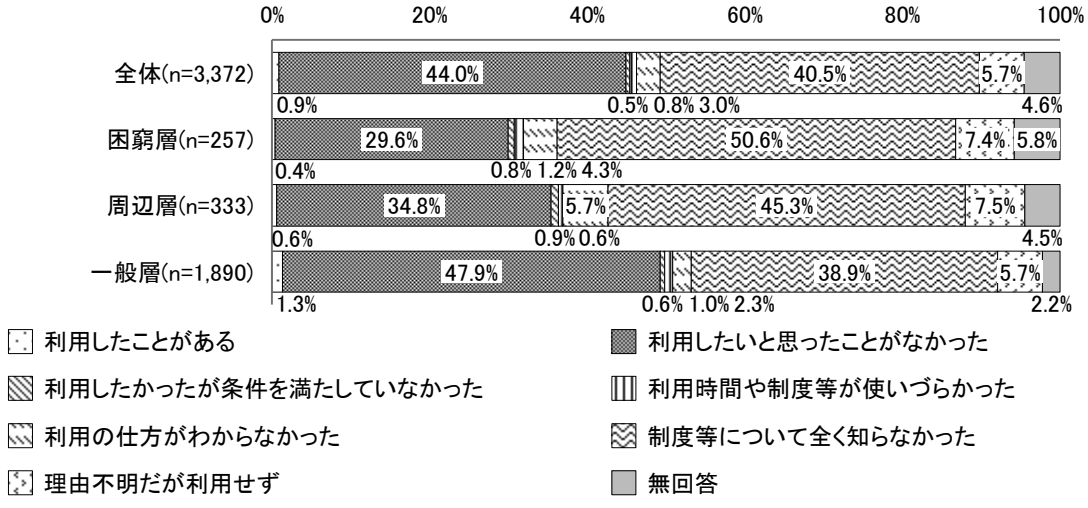
中学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 44.0%でもっとも割合が高く、次いで「制度等について全く知らなかった」が 40.5%となっている。「困窮層」では、「制度等について全く知らなかった」が 50.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「制度等について全く知らなかった」が 45.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 47.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 130　事業や民間の取組_子育て短期支援事業：単数回答（Q46A）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



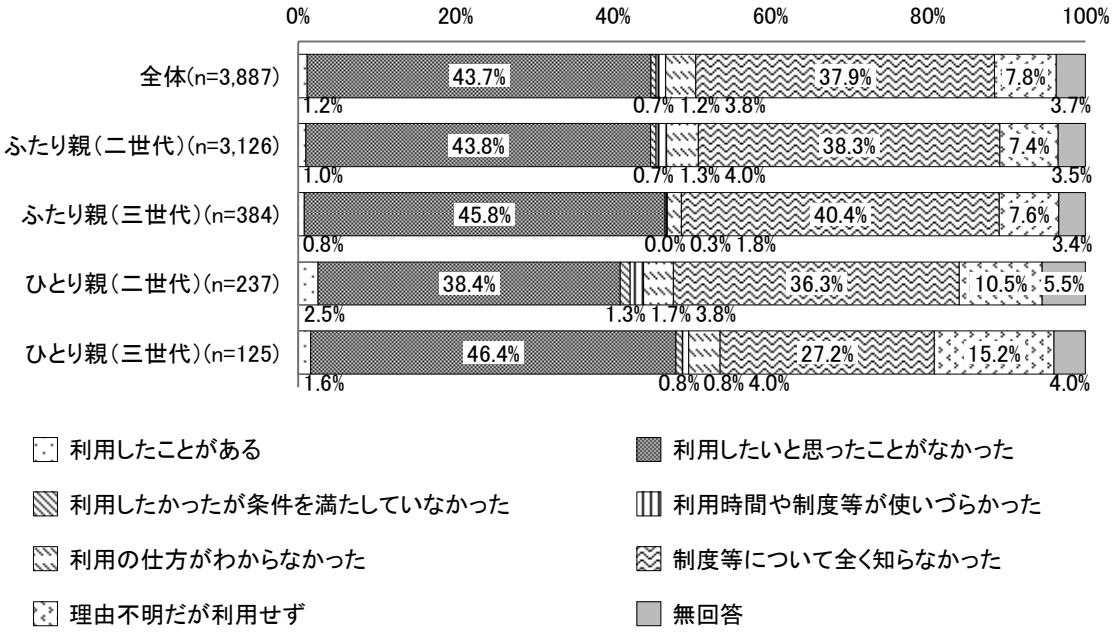
＜中学生＞（p<.01）



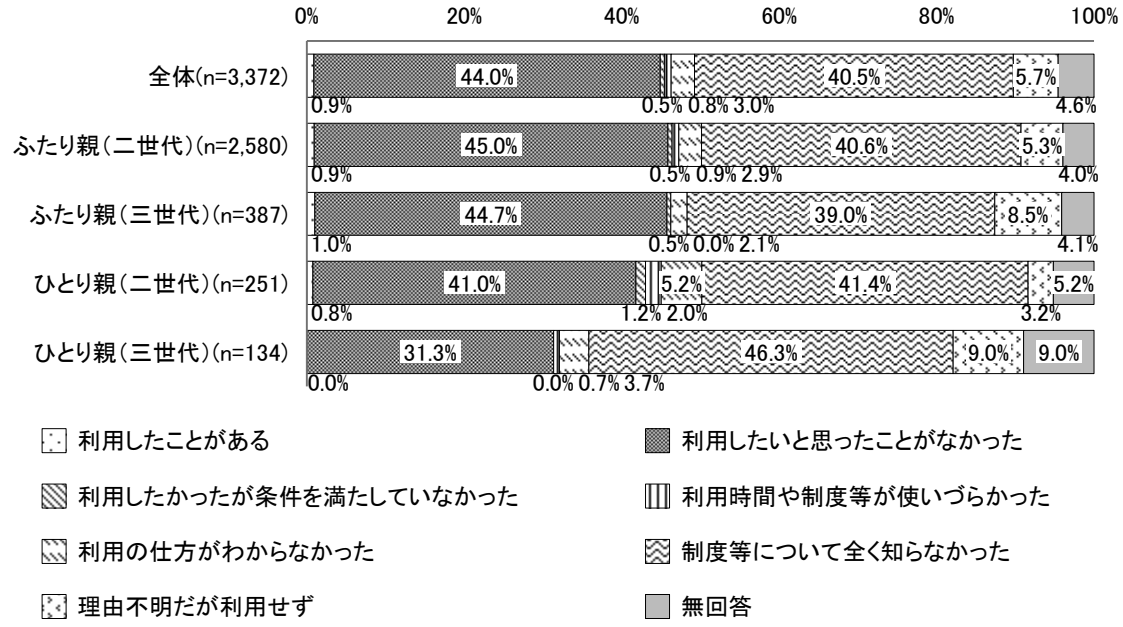
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代）」において「理由不明だが利用せず」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代）」において「利用したいと思ったことがなかった」とする割合が低くなっている。

図表 131　事業や民間の取組_子育て短期支援事業：単数回答（Q46A）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



2)　利用したことはないが興味がある_子育て短期支援事業

小学生の「全体」では、「選択していない」が 88.4%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 11.6%となっている。

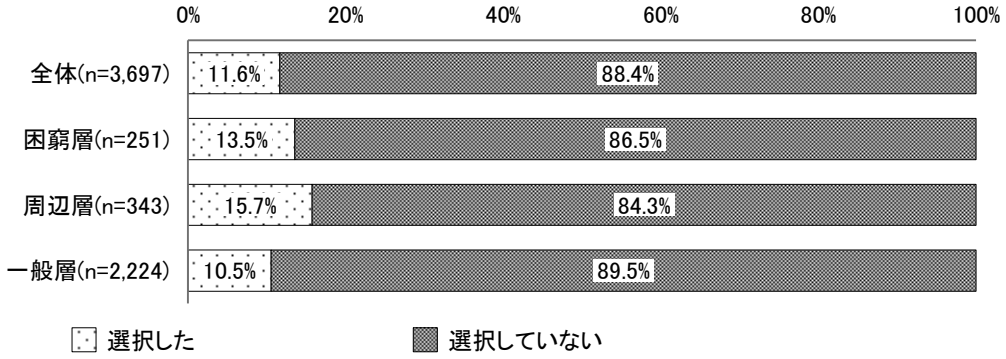
「困窮層」では、「選択していない」が 86.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 84.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 89.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「選択していない」が 91.6%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 8.4%となっている。

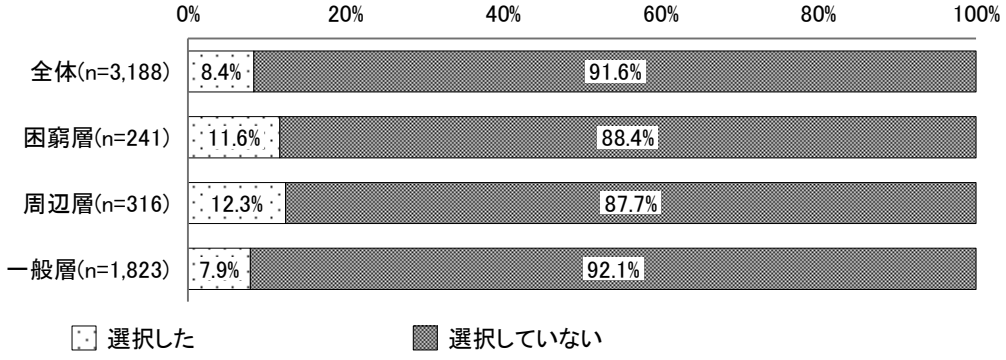
「困窮層」では、「選択していない」が 88.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 87.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 92.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 132　利用したことはないが興味がある_子育て短期支援事業：単数回答（Q46-1A）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）

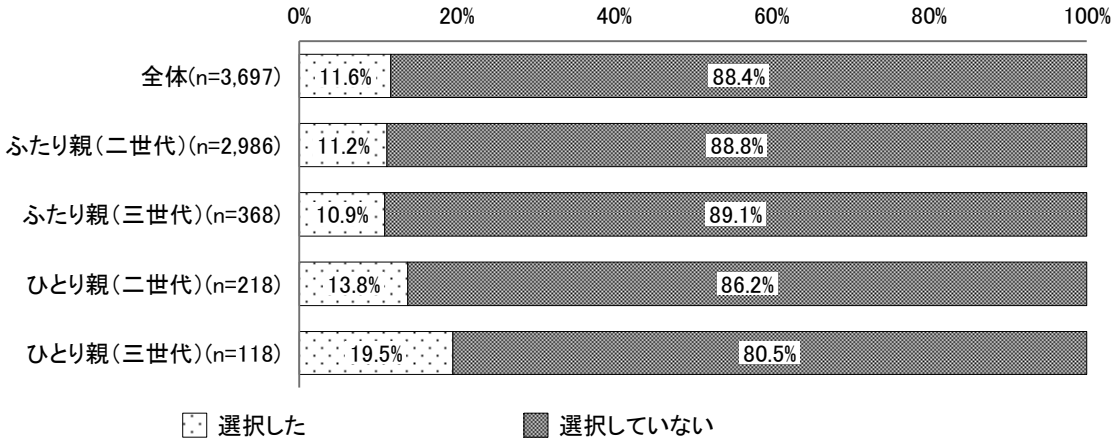


注）対象は Q46A で「利用したことがある」以外を選択した者に限定

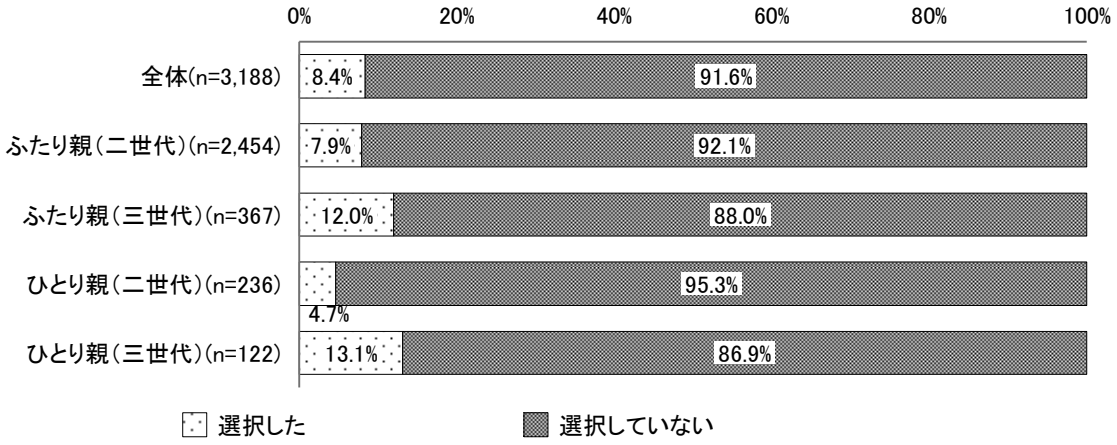
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べてひとり親（三世代)」において「選択した」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ふたり親（三世代)」「ひとり親（三世代)」において「選択した」とする割合が高くなっている。

図表 133　利用したことはないが興味がある_子育て短期支援事業：単数回答（Q46-1A）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（p<.01）



注）対象は Q46A で「利用したことがある」以外を選択した者に限定

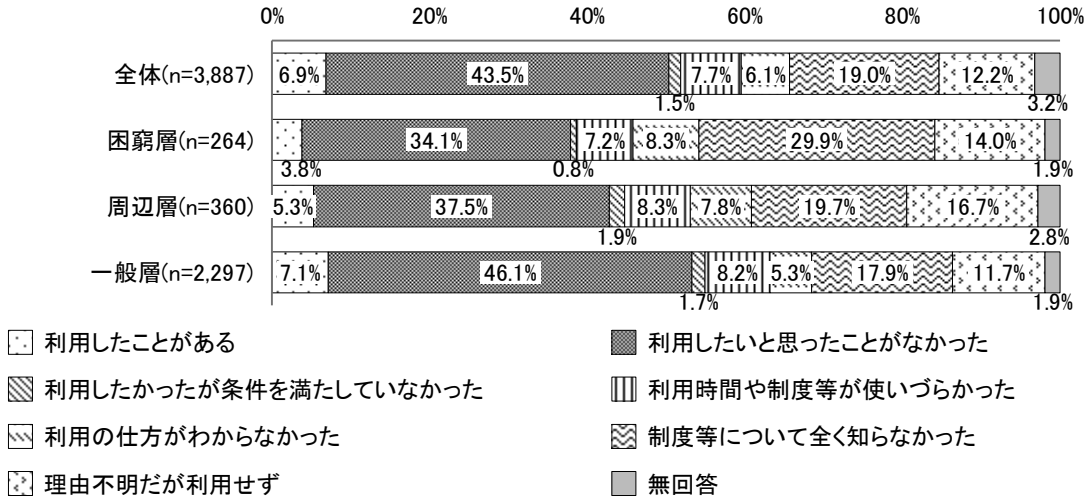
3) 事業や民間の取組_ファミリー・サポート・センター

小学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 43.5%でもっとも割合が高く、次いで「制度等について全く知らなかった」が 19.0%となっている。「困窮層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 34.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 37.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 46.1%でもっとも割合が高くなっている。

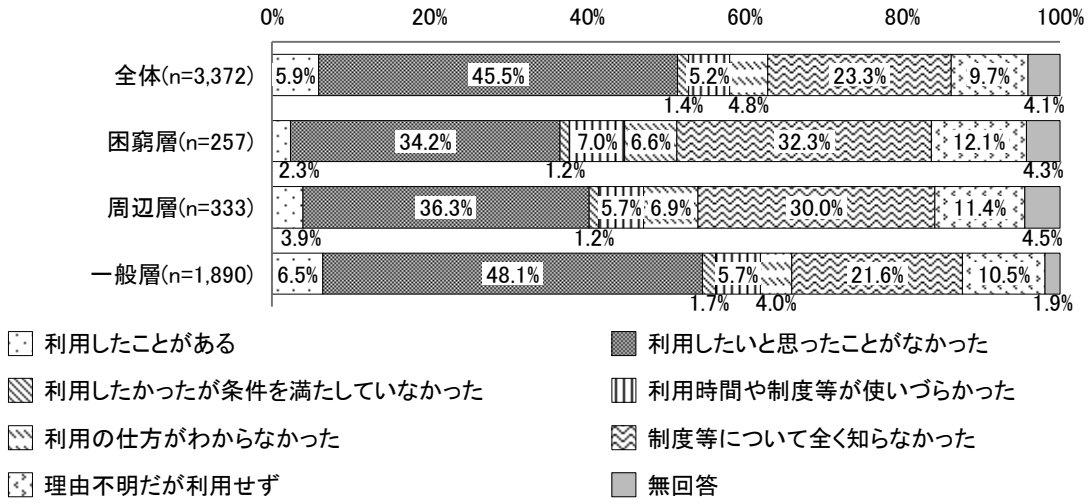
中学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 45.5%でもっとも割合が高く、次いで「制度等について全く知らなかった」が 23.3%となっている。「困窮層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 34.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 36.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 48.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 134 事業や民間の取組_ファミリー・サポート・センター：単数回答（Q46B）
（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



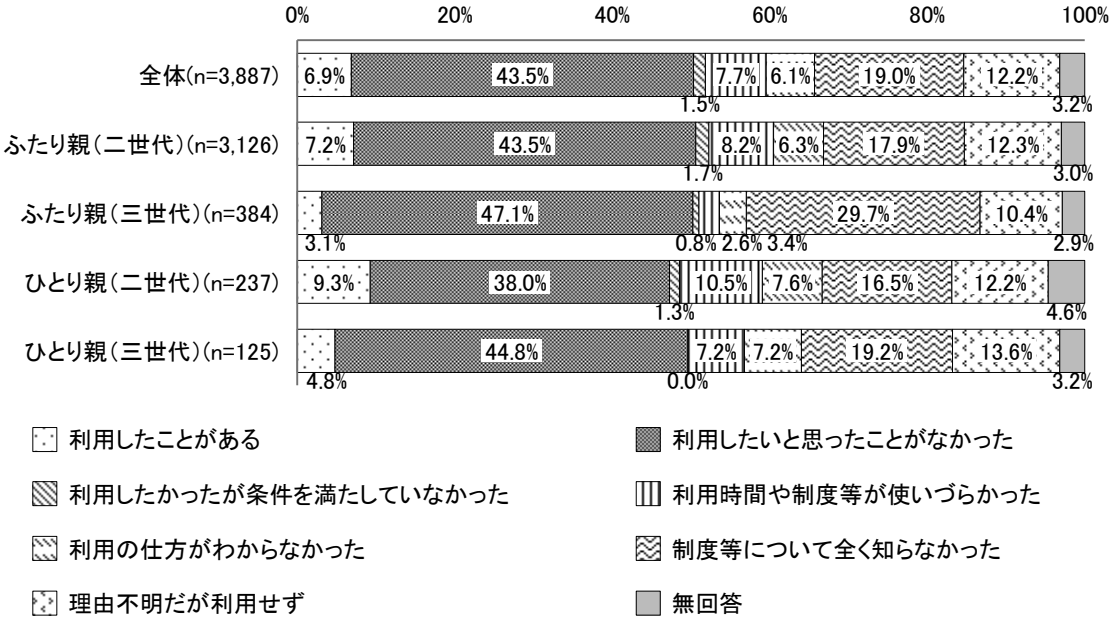
＜中学生＞（p<.01）



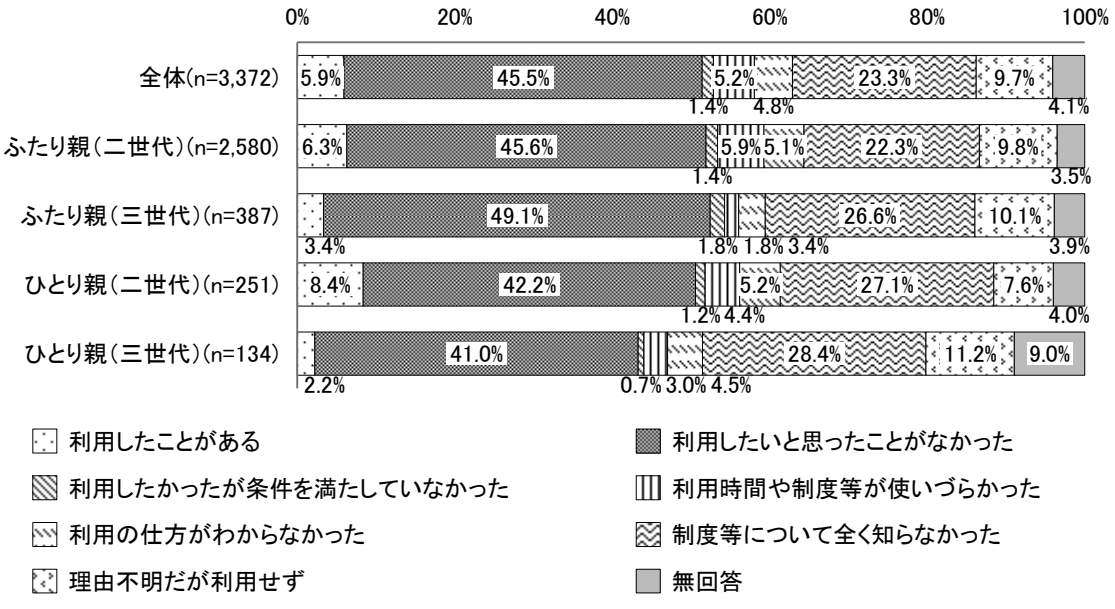
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ふたり親（三世代)」において「制度等について全く知らなかった」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代)」において「制度等について全く知らなかった」とする割合が高くなっている。

図表 135　事業や民間の取組_ファミリー・サポート・センター：単数回答（Q46B）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



4） 利用したことはないが興味がある_ファミリー・サポート・センター

小学生の「全体」では、「選択していない」が 84.3%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 15.7%となっている。

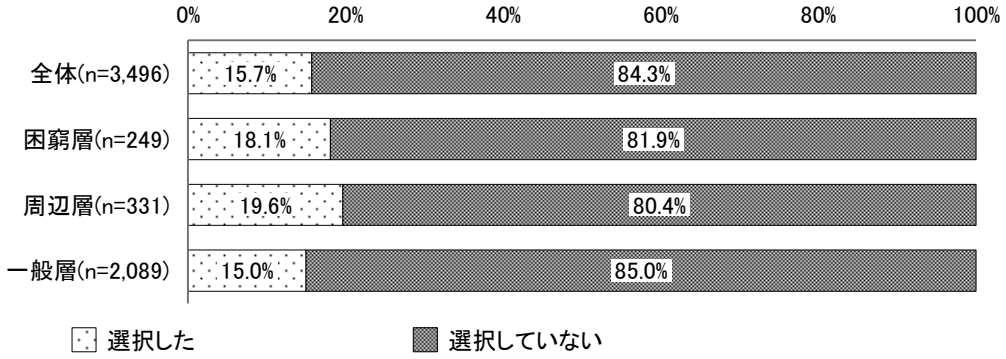
「困窮層」では、「選択していない」が 81.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 80.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 85.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「選択していない」が 87.7%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 12.3%となっている。

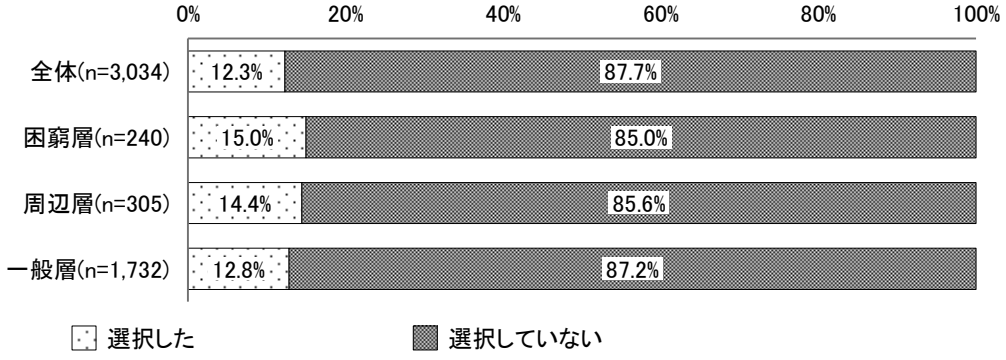
「困窮層」では、「選択していない」が 85.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 85.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 87.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 136 利用したことはないが興味がある_ファミリー・サポート・センター：単数回答（Q46-1B）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



注）対象は Q46B で「利用したことがある」以外を選択した者に限定

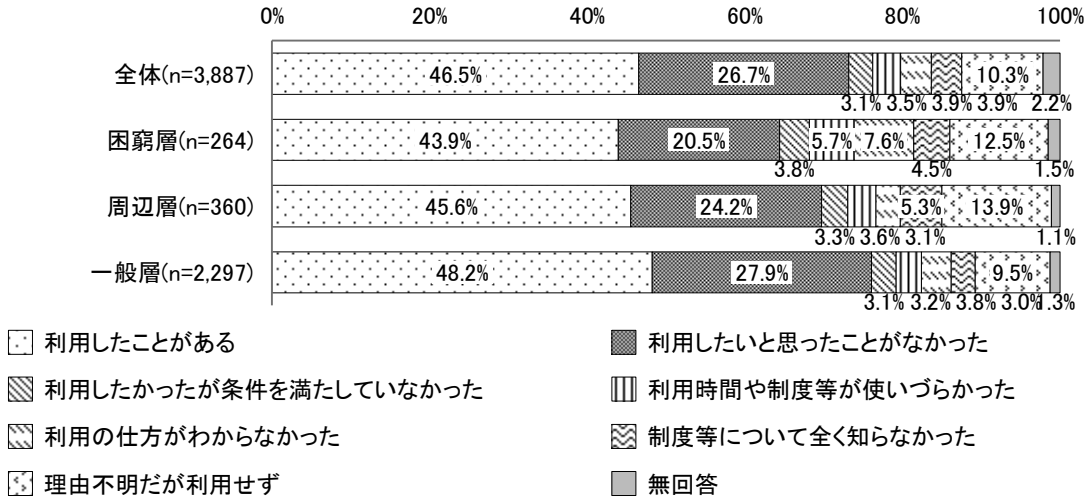
5)　事業や民間の取組_放課後に過ごせる居場所

小学生の「全体」では、「利用したことがある」が 46.5%でもっとも割合が高く、次いで「利用したいと思ったことがなかった」が 26.7%となっている。「困窮層」では、「利用したことがある」が 43.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「利用したことがある」が 45.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「利用したことがある」が 48.2%でもっとも割合が高くなっている。

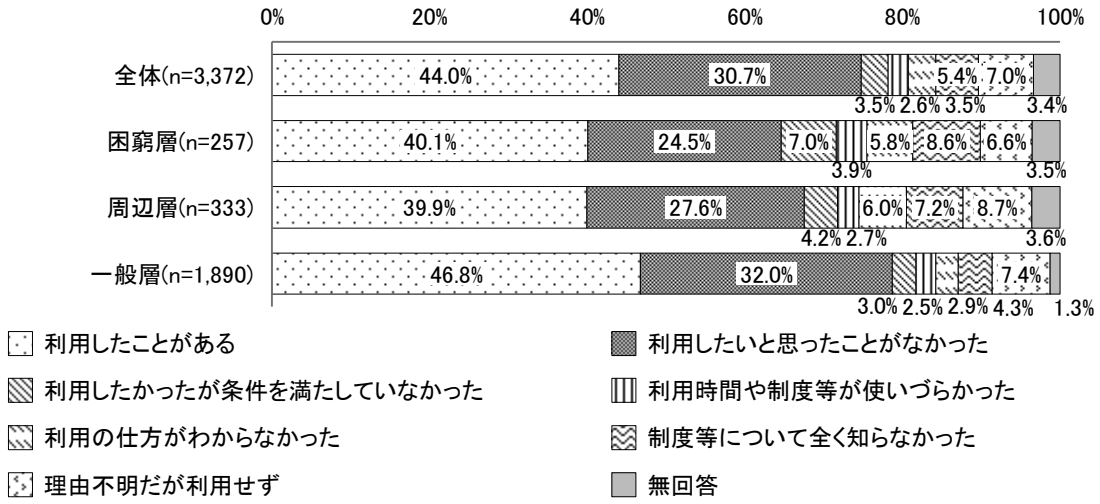
中学生の「全体」では、「利用したことがある」が 44.0%でもっとも割合が高く、次いで「利用したいと思ったことがなかった」が 30.7%となっている。「困窮層」では、「利用したことがある」が 40.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「利用したことがある」が 39.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「利用したことがある」が 46.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 137　事業や民間の取組_放課後に過ごせる居場所：単数回答（Q46C）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



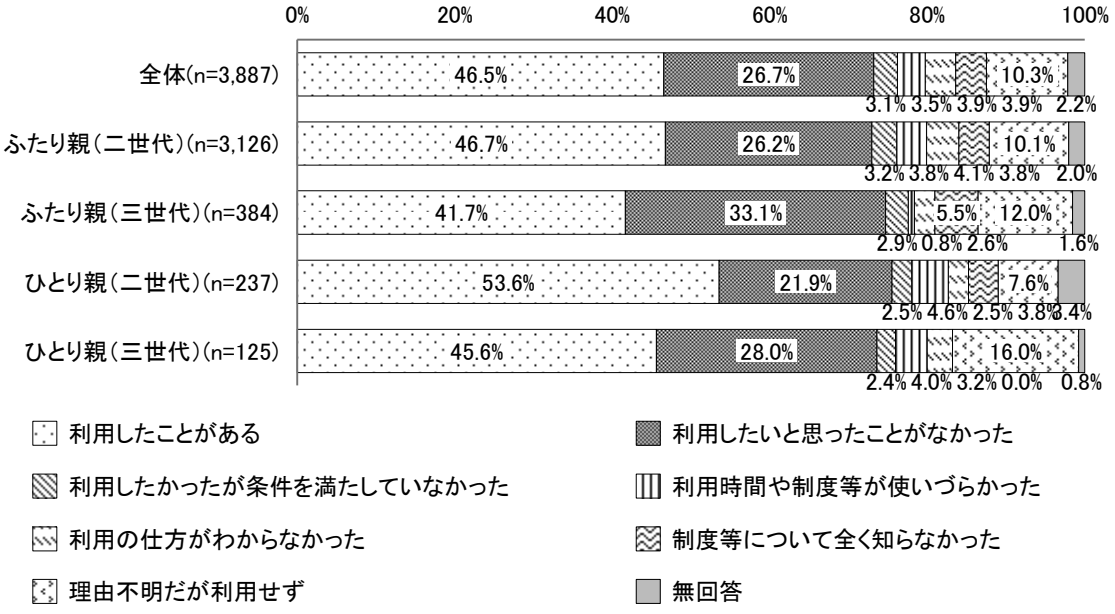
＜中学生＞（p<.01）



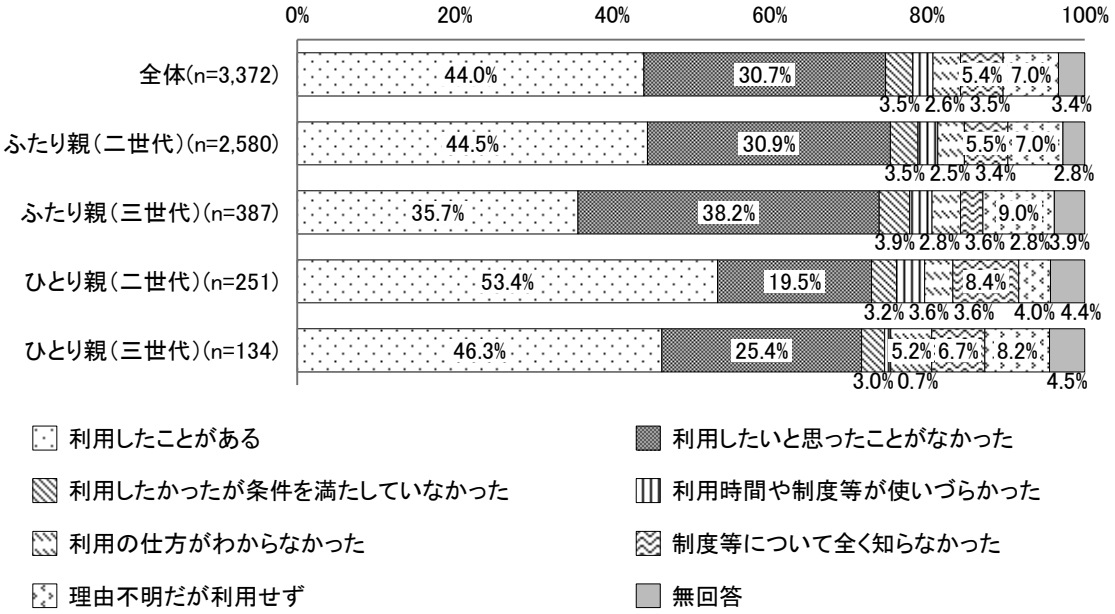
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「利用したことがある」とする割合が高くなっている。

図表 138　事業や民間の取組_放課後に過ごせる居場所：単数回答（Q46C）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



6） 利用したことはないが興味がある_放課後に過ごせる居場所

小学生の「全体」では、「選択していない」が 77.3%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 22.7%となっている。

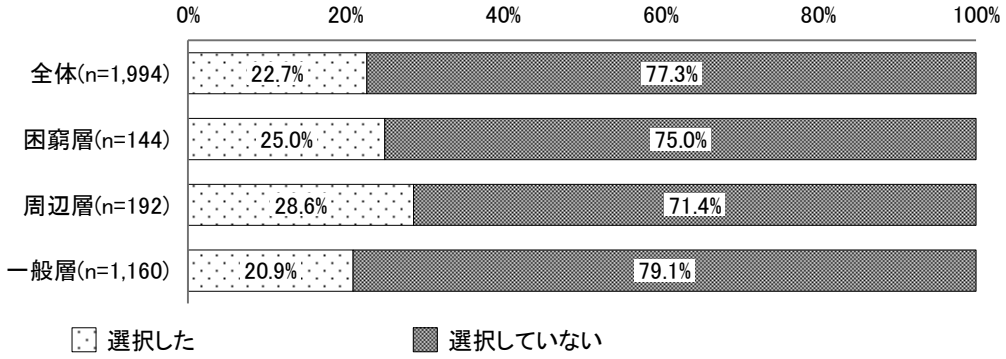
「困窮層」では、「選択していない」が 75.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 71.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 79.1%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「選択していない」が 84.3%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 15.7%となっている。

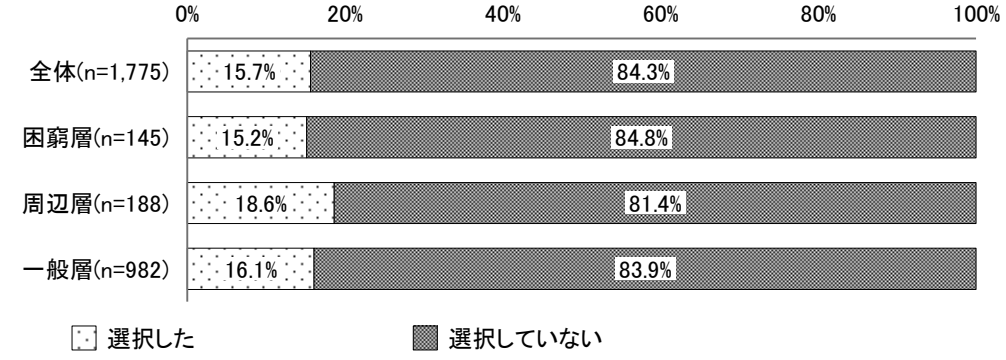
「困窮層」では、「選択していない」が 84.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 81.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 83.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 139 利用したことはないが興味がある_放課後に過ごせる居場所：単数回答（Q46-1C）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（有意差なし）



注）対象は Q46C で「利用したことがある」以外を選択した者に限定

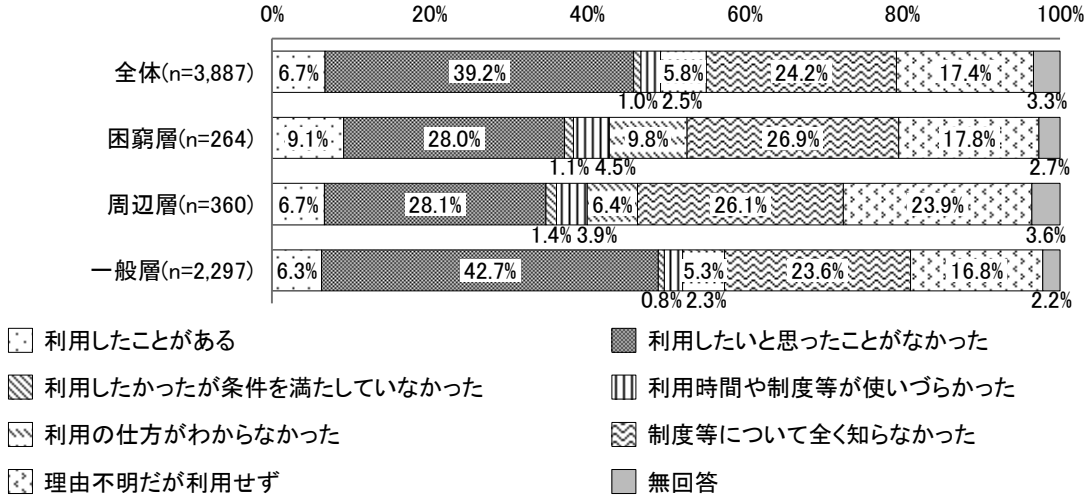
7)　事業や民間の取組_学校以外が実施する学習支援

小学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 39.2%でもっとも割合が高く、次いで「制度等について全く知らなかった」が 24.2%となっている。「困窮層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 28.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 28.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 42.7%でもっとも割合が高くなっている。

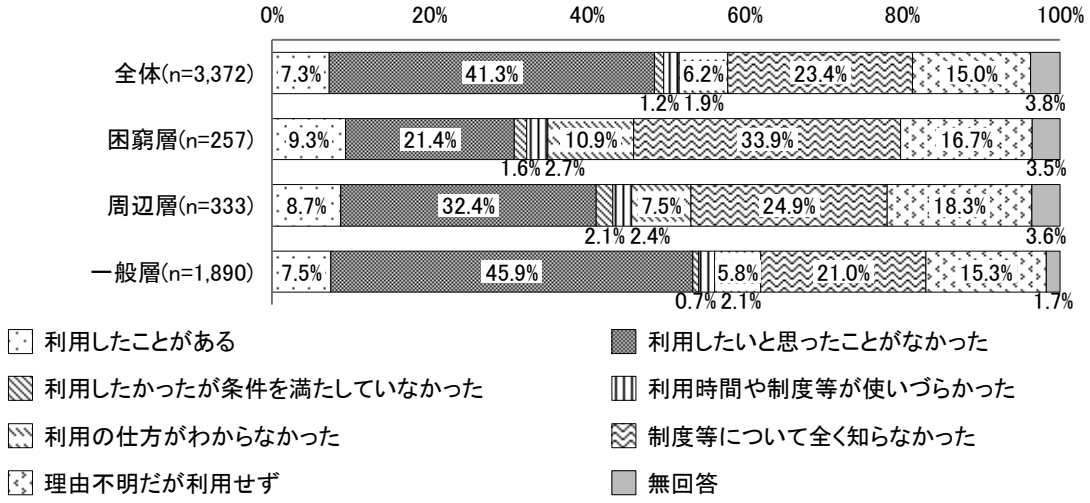
中学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 41.3%でもっとも割合が高く、次いで「制度等について全く知らなかった」が 23.4%となっている。「困窮層」では、「制度等について全く知らなかった」が 33.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 32.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 45.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 140　事業や民間の取組_学校以外が実施する学習支援：単数回答（Q46D）
（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



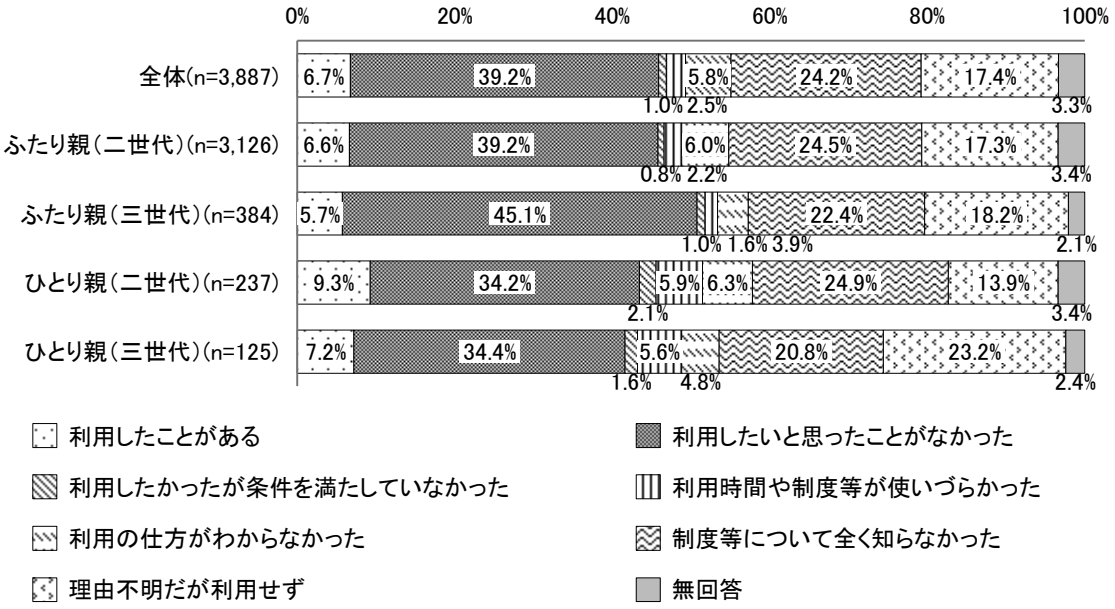
＜中学生＞（p<.01）



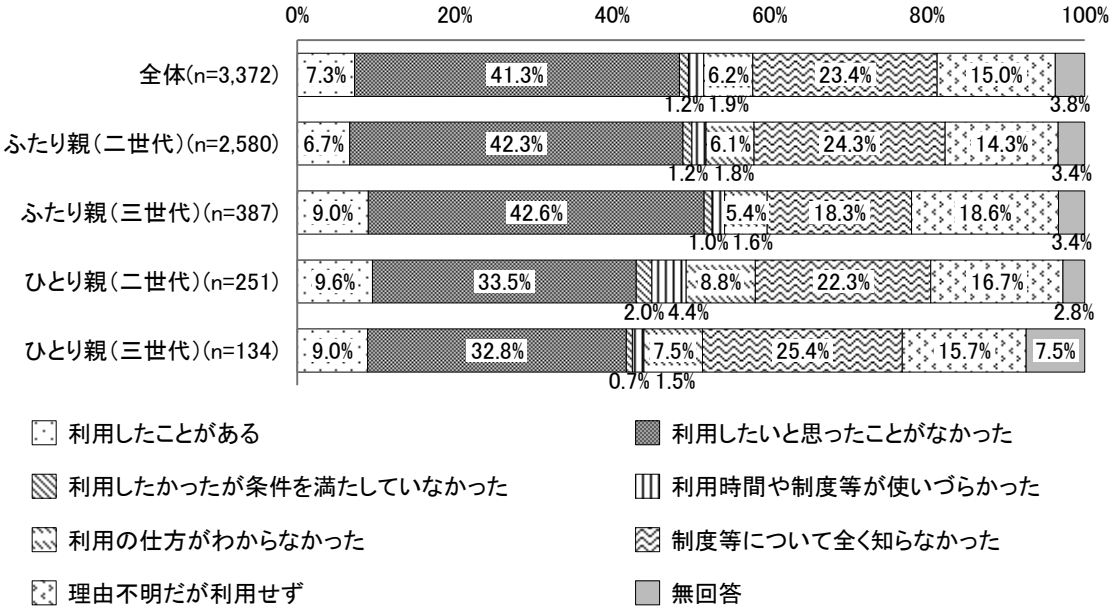
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「利用したいと思ったことがなかった」とする割合が低くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「利用したいと思ったことがなかった」とする割合が低くなっている。

図表 141　事業や民間の取組_学校以外が実施する学習支援：単数回答（Q46D）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



8） 利用したことはないが興味がある_学校以外が実施する学習支援

小学生の「全体」では、「選択していない」が 76.1%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 23.9%となっている。

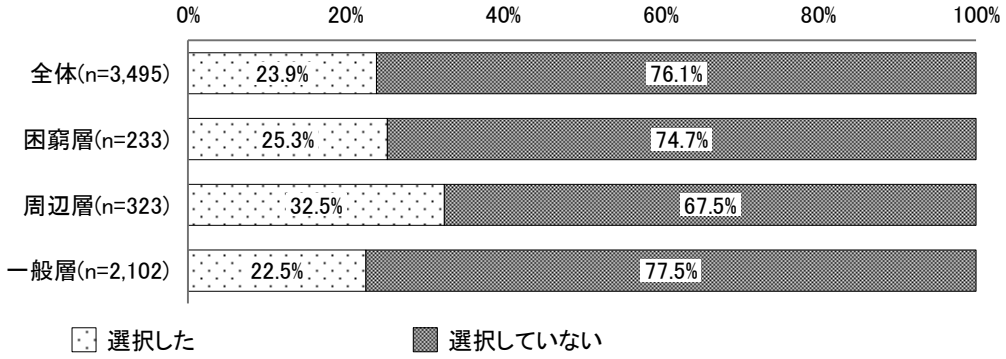
「困窮層」では、「選択していない」が 74.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 67.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 77.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「選択していない」が 79.1%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 20.9%となっている。

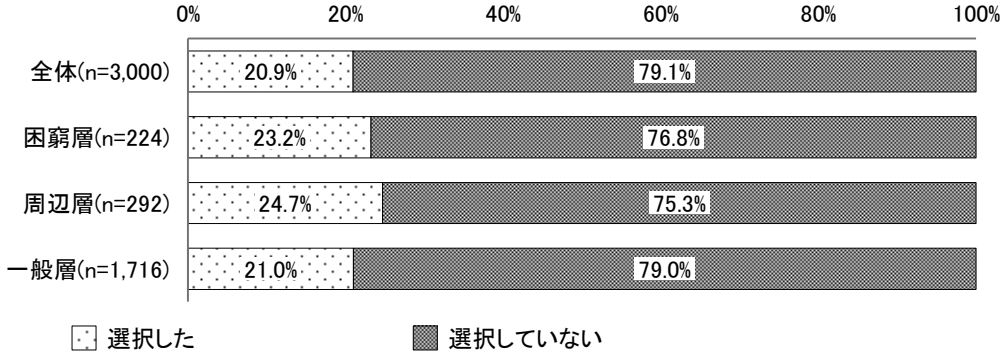
「困窮層」では、「選択していない」が 76.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 75.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 79.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 142 利用したことはないが興味がある_学校以外が実施する学習支援：単数回答（Q46-1D）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（有意差なし）



注）対象は Q46D で「利用したことがある」以外を選択した者に限定

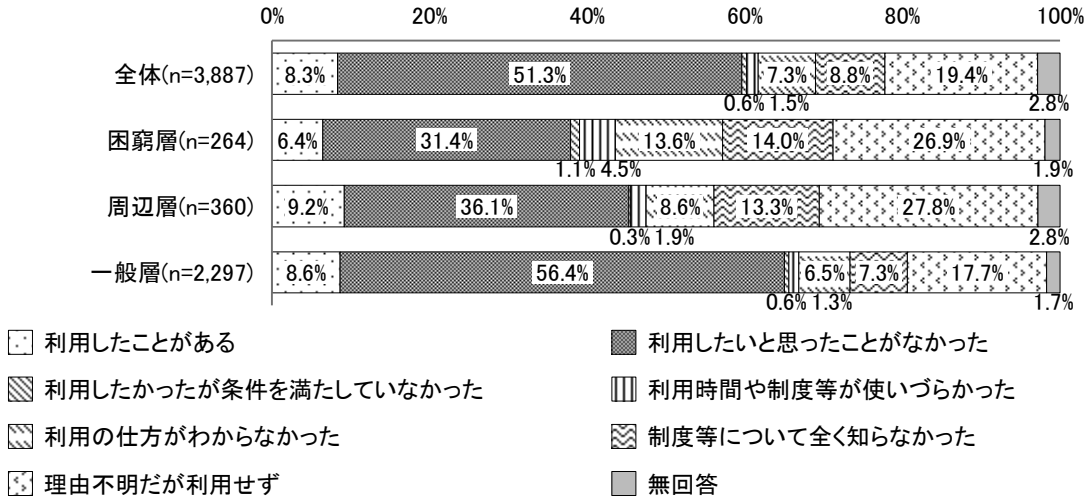
9) 事業や民間の取組_こども食堂

小学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 51.3%でもっとも割合が高く、次いで「理由不明だが利用せず」が 19.4%となっている。「困窮層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 31.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 36.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 56.4%でもっとも割合が高くなっている。

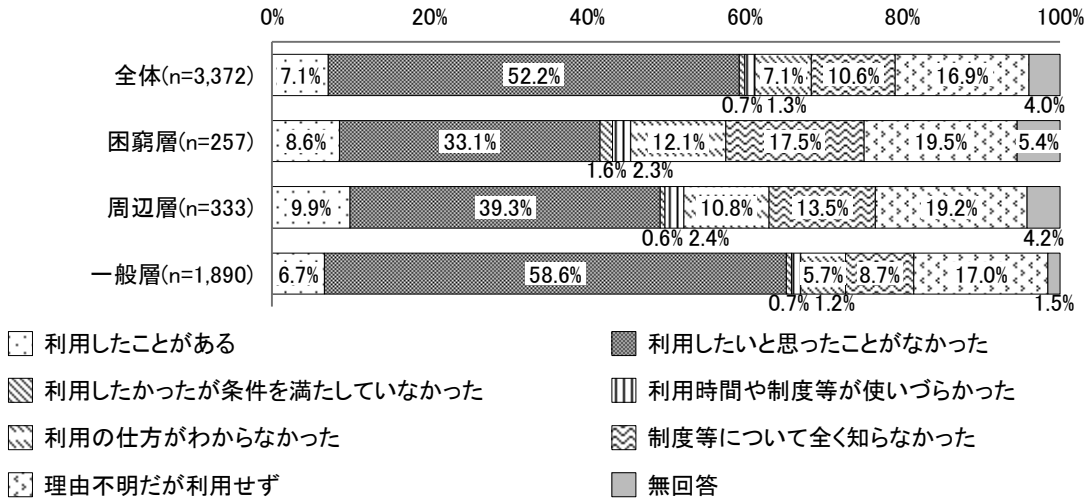
中学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 52.2%でもっとも割合が高く、次いで「理由不明だが利用せず」が 16.9%となっている。「困窮層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 33.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 39.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 58.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 143　事業や民間の取組_こども食堂：単数回答（Q46E）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



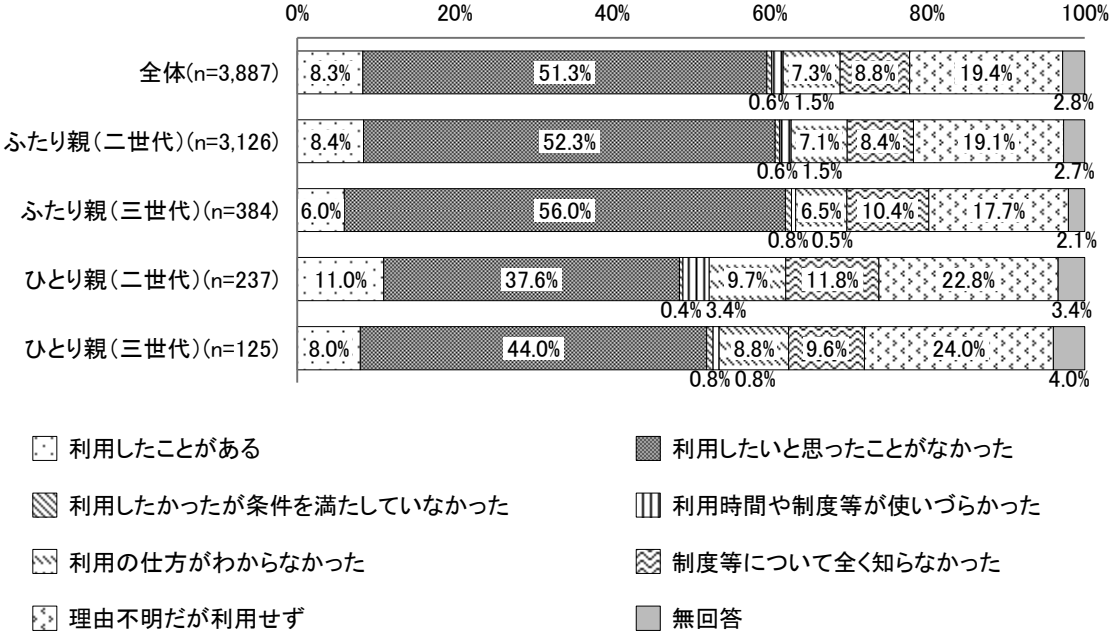
＜中学生＞（p<.01）



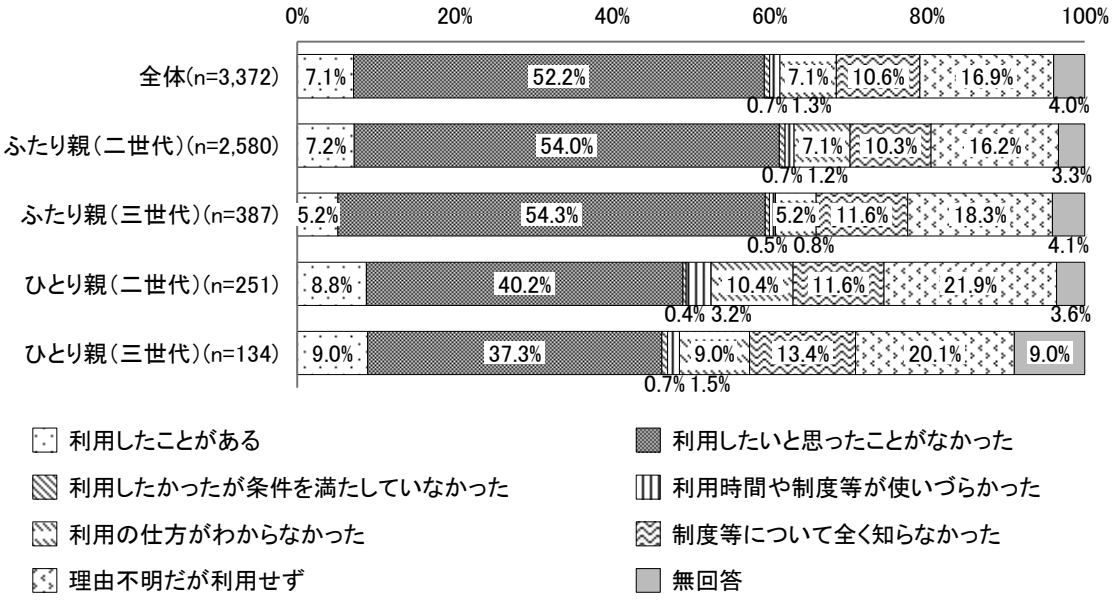
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「理由不明だが利用せず」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「利用したいと思ったことがなかった」とする割合が低くなっている。

図表 144　事業や民間の取組_こども食堂：単数回答（Q46E）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



10）利用したことはないが興味がある_こども食堂

小学生の「全体」では、「選択していない」が 75.2%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 24.8%となっている。

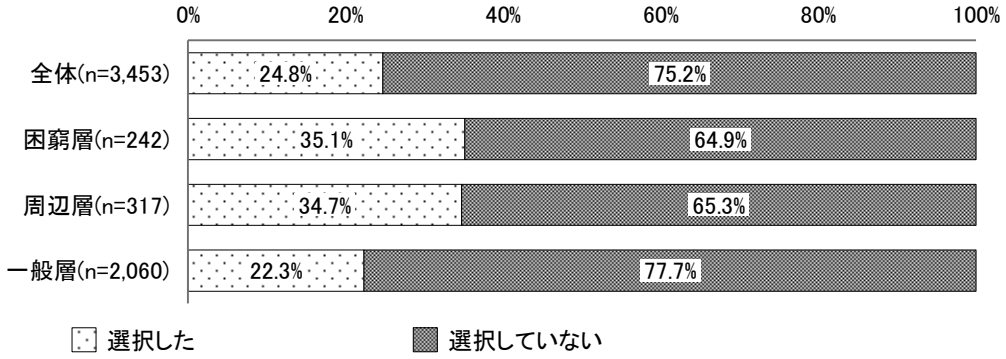
「困窮層」では、「選択していない」が 64.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 65.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 77.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「選択していない」が 78.5%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 21.5%となっている。

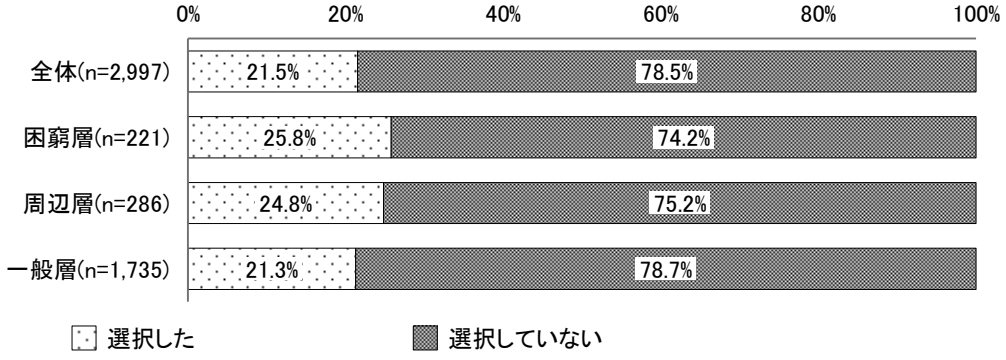
「困窮層」では、「選択していない」が 74.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 75.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 78.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 145　利用したことはないが興味がある_こども食堂：単数回答（Q46-1E）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（有意差なし）

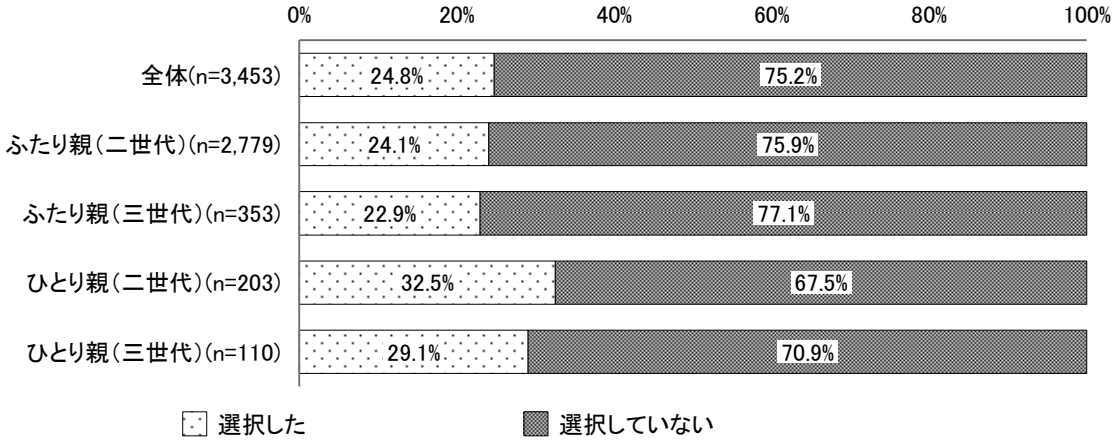


注）対象は Q46E で「利用したことがある」以外を選択した者に限定

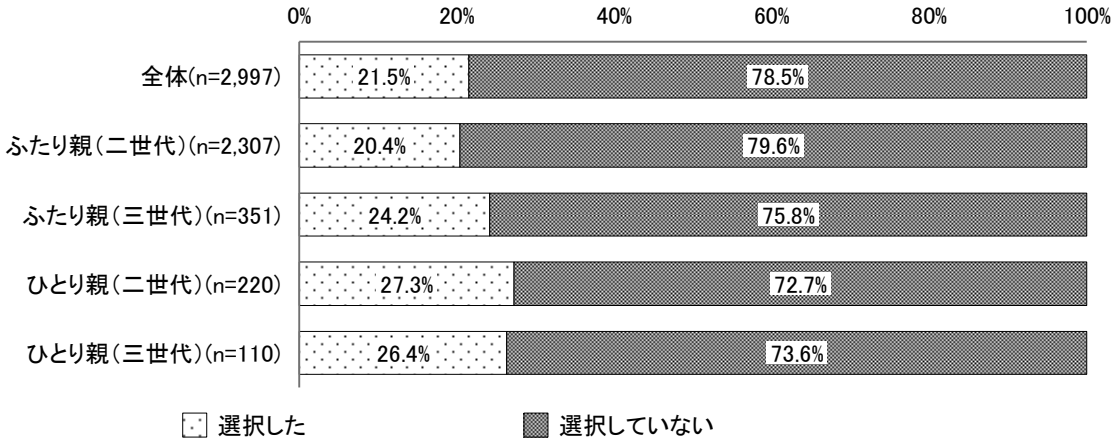
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ひとり親（二世代)」において「選択した」とする割合が高くなっている。

図表 146　利用したことはないが興味がある_こども食堂：単数回答（Q46-1E）
（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（p<.05）



注）対象は Q46E で「利用したことがある」以外を選択した者に限定

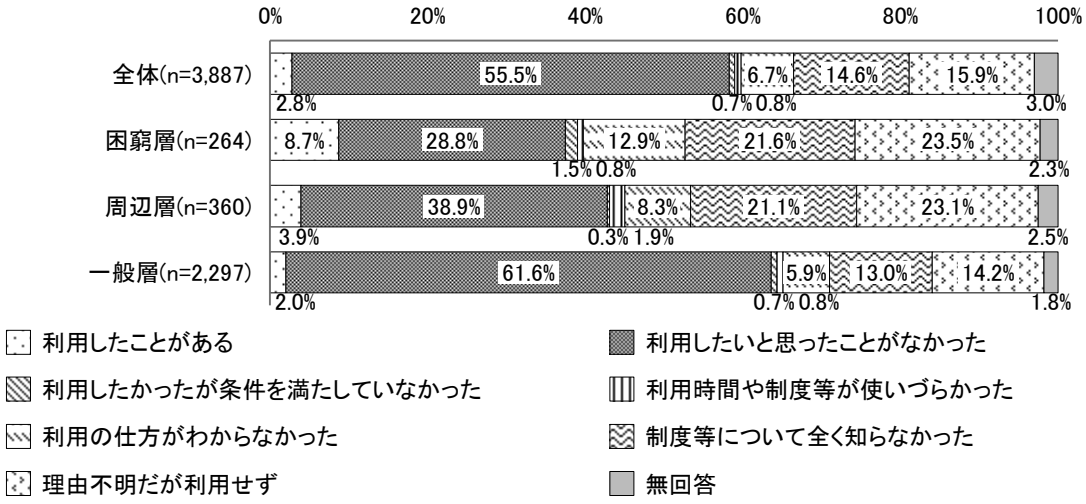
11）事業や民間の取組_フードバンク等の食料支援

小学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 55.5%でもっとも割合が高く、次いで「理由不明だが利用せず」が 15.9%となっている。「困窮層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 28.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 38.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 61.6%でもっとも割合が高くなっている。

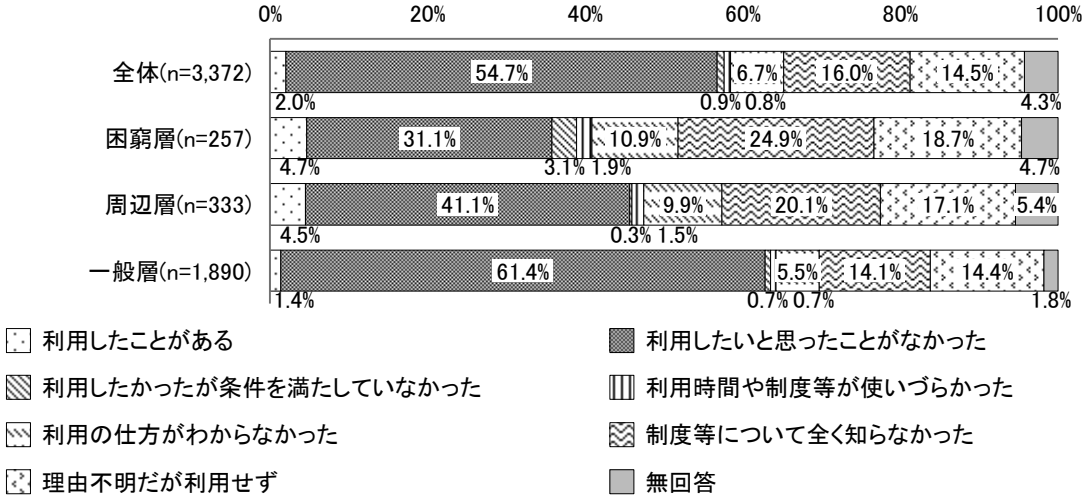
中学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 54.7%でもっとも割合が高く、次いで「制度等について全く知らなかった」が 16.0%となっている。「困窮層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 31.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 41.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 61.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 147　事業や民間の取組_フードバンク等の食料支援：単数回答（Q46F）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



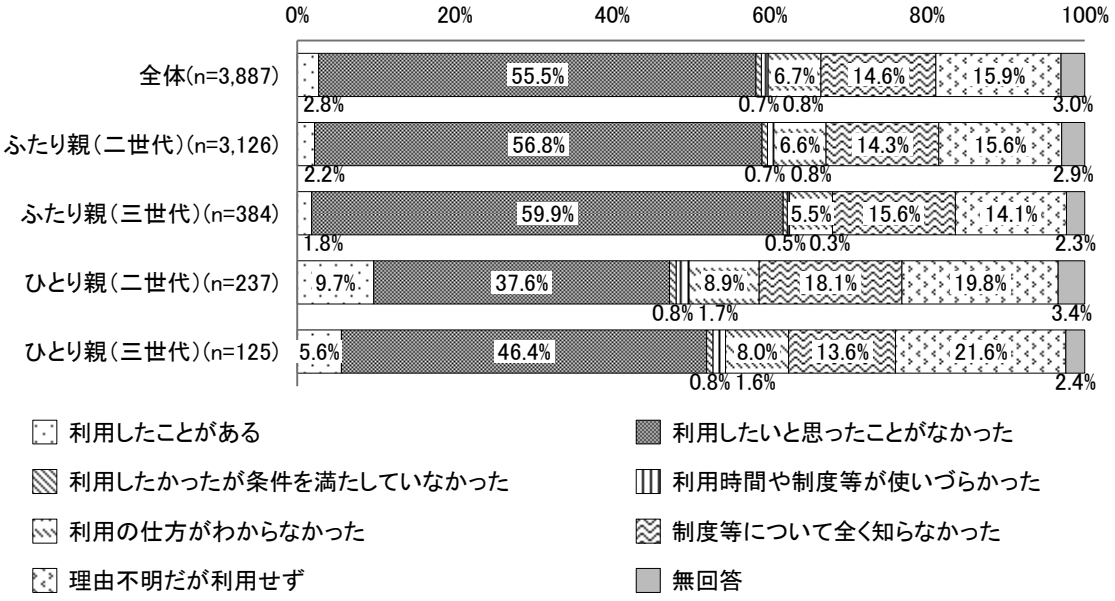
＜中学生＞（p<.01）



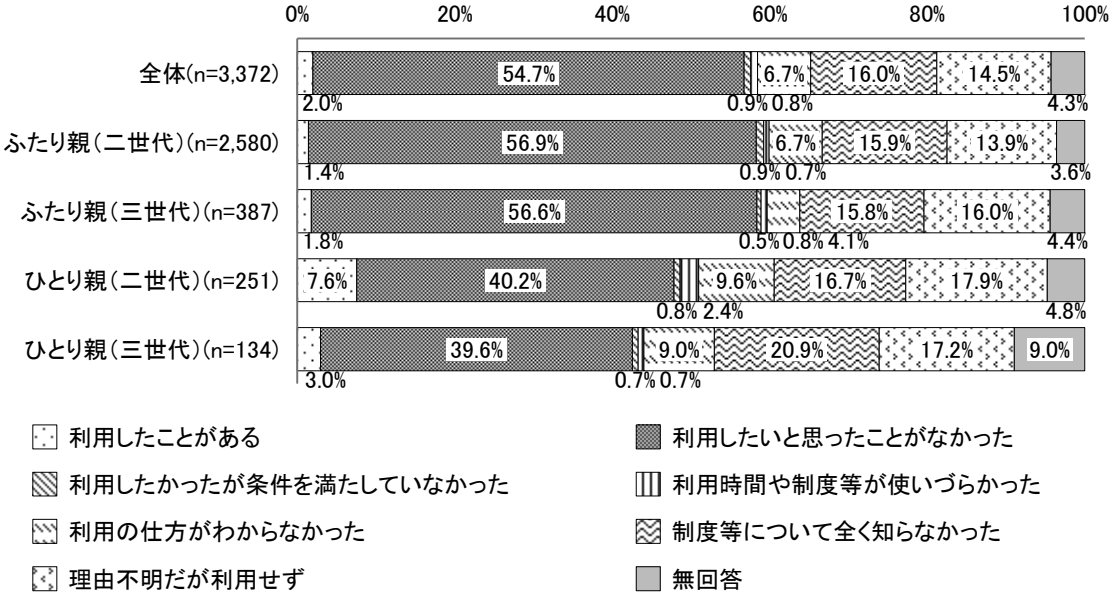
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ひとり親（二世代)」「ひとり親（三世代)」において「利用したいと思ったことがなかった」とする割合が低くなっている。

図表 148　事業や民間の取組_フードバンク等の食料支援：単数回答（Q46F）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



12）利用したことはないが興味がある_フードバンク等の食料支援

小学生の「全体」では、「選択していない」が 80.8%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 19.2%となっている。

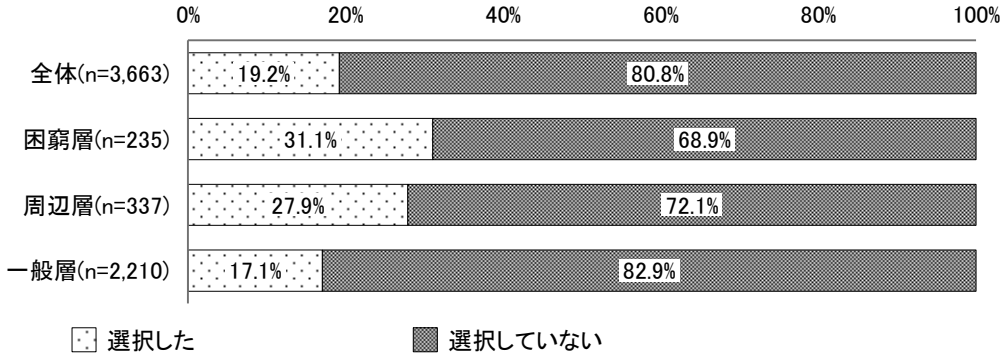
「困窮層」では、「選択していない」が 68.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 72.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 82.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「選択していない」が 82.0%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 18.0%となっている。

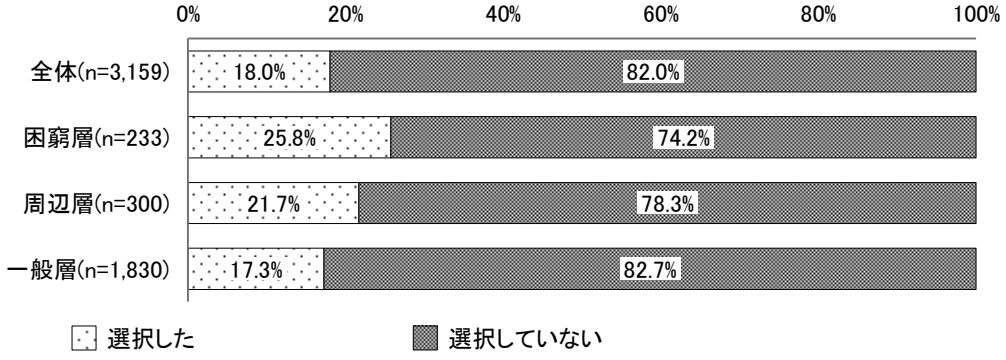
「困窮層」では、「選択していない」が 74.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 78.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 82.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 149　利用したことはないが興味がある_フードバンク等の食料支援：単数回答（Q46-1F）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）

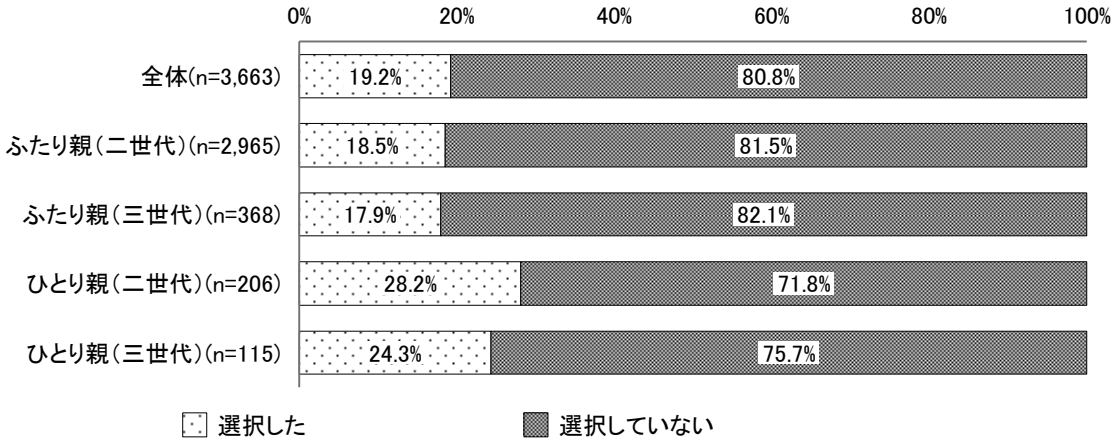


注）対象は Q46F で「利用したことがある」以外を選択した者に限定

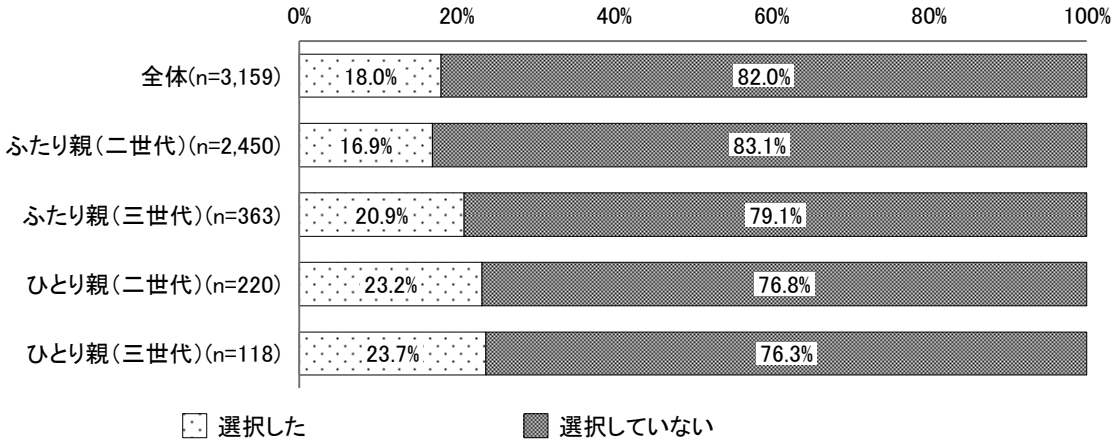
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「選択した」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「選択した」とする割合が高くなっている。

図表 150　利用したことはないが興味がある_フードバンク等の食料支援：単数回答（Q46-1F）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.05）



注）対象は Q46F で「利用したことがある」以外を選択した者に限定

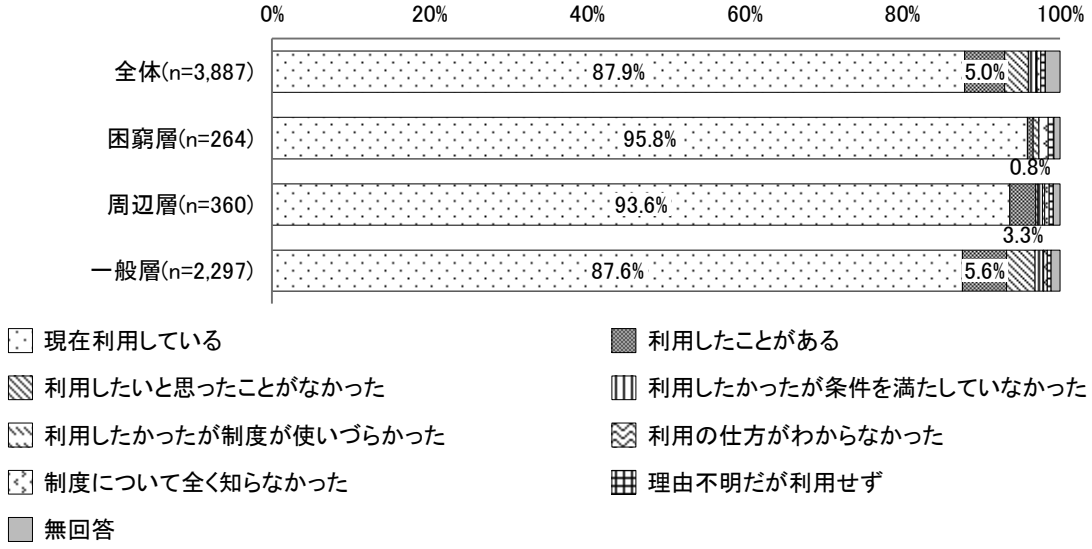
13） 公的扶助、支援制度等_児童手当

小学生の「全体」では、「現在利用している」が 87.9%でもっとも割合が高く、次いで「利用したことがある」が 5.0%となっている。「困窮層」では、「現在利用している」が 95.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「現在利用している」が 93.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「現在利用している」が 87.6%でもっとも割合が高くなっている。

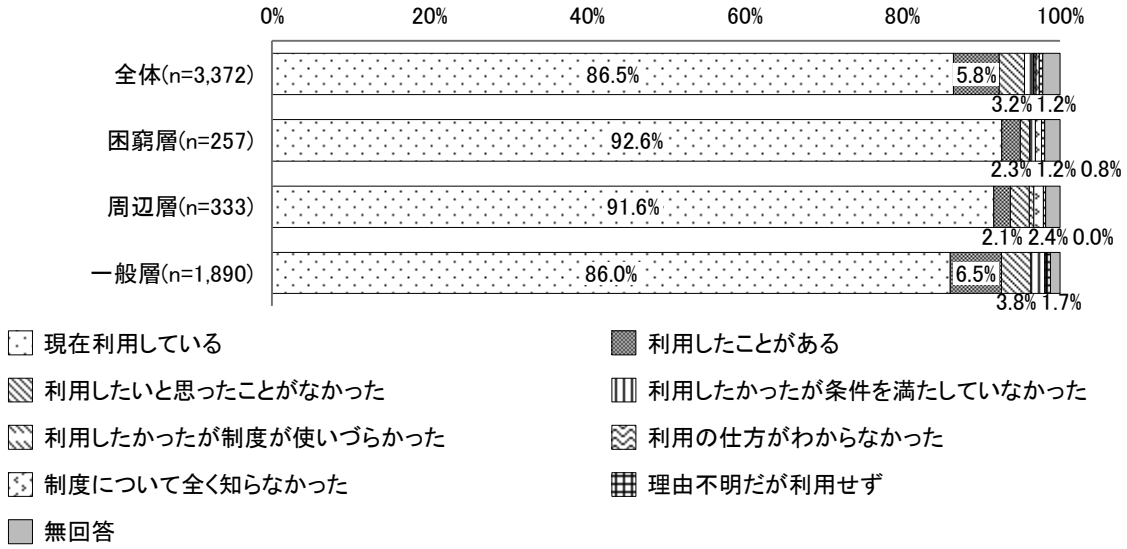
中学生の「全体」では、「現在利用している」が 86.5%でもっとも割合が高く、次いで「利用したことがある」が 5.8%となっている。「困窮層」では、「現在利用している」が 92.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「現在利用している」が 91.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「現在利用している」が 86.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 151　公的扶助、支援制度等_児童手当：単数回答（Q47A）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（検定不可）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q47A 公的扶助、支援制度等_児童手当								
		現在利用している	利用したことがある	利用したいと思ったことがなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用したかったが制度が使いづらかった	利用の仕方がわからなかった	制度について全く知らなかった	理由不明だが利用せず	無回答
全体	3,887	87.9	5.0	3.0	1.0	0.0	0.1	0.5	0.5	1.9
困窮層	264	95.8	0.8	0.8	0.0	0.0	0.0	1.1	0.8	0.8
周辺層	360	93.6	3.3	0.3	0.6	0.0	0.3	0.6	0.6	0.8
一般層	2,297	87.6	5.6	3.7	1.0	0.0	0.0	0.4	0.5	1.1

＜数値表：中学生＞

	合計	Q47A 公的扶助、支援制度等_児童手当								
		現在利用している	利用したことがある	利用したいと思ったことがなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用したかったが制度が使いづらかった	利用の仕方がわからなかった	制度について全く知らなかった	理由不明だが利用せず	無回答
全体	3,372	86.5	5.8	3.2	1.2	0.1	0.3	0.4	0.4	2.2
困窮層	257	92.6	2.3	1.2	0.8	0.0	0.0	0.8	0.4	1.9
周辺層	333	91.6	2.1	2.4	0.0	0.0	0.6	1.2	0.3	1.8
一般層	1,890	86.0	6.5	3.8	1.7	0.0	0.2	0.2	0.4	1.2

14）利用したことはないが興味がある_児童手当

小学生の「全体」では、「選択していない」が 89.1%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 10.9%となっている。

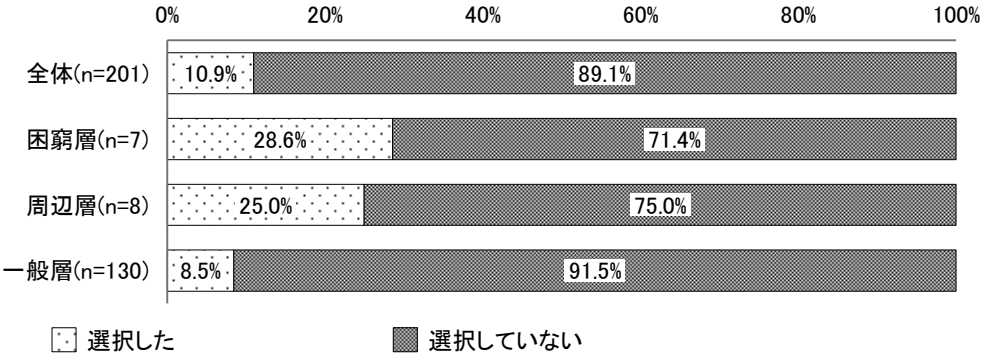
「困窮層」では、「選択していない」が 71.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 75.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 91.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「選択していない」が 92.0%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 8.0%となっている。

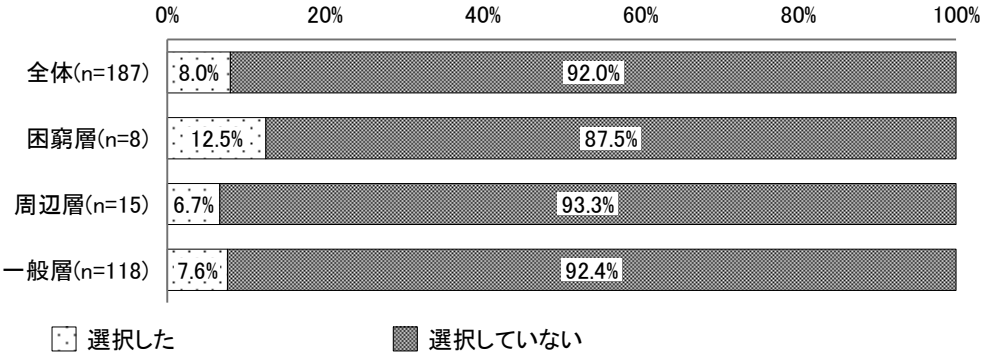
「困窮層」では、「選択していない」が 87.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 93.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 92.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 152　利用したことはないが興味がある_児童手当：単数回答（Q47-1A）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



注）対象は Q47A で「現在利用している」「利用したことがある」以外を選択した者に限定

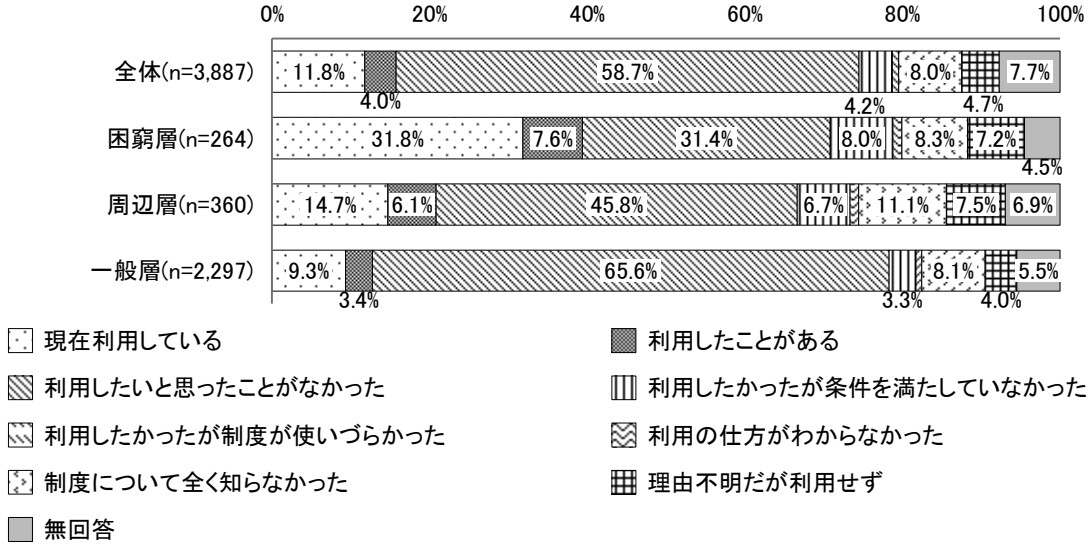
15） 公的扶助、支援制度等_児童扶養手当

小学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 58.7%でもっとも割合が高く、次いで「現在利用している」が 11.8%となっている。「困窮層」では、「現在利用している」が 31.8%、「周辺層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 45.8%、「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 65.6%でそれぞれもっとも割合が高くなっている。

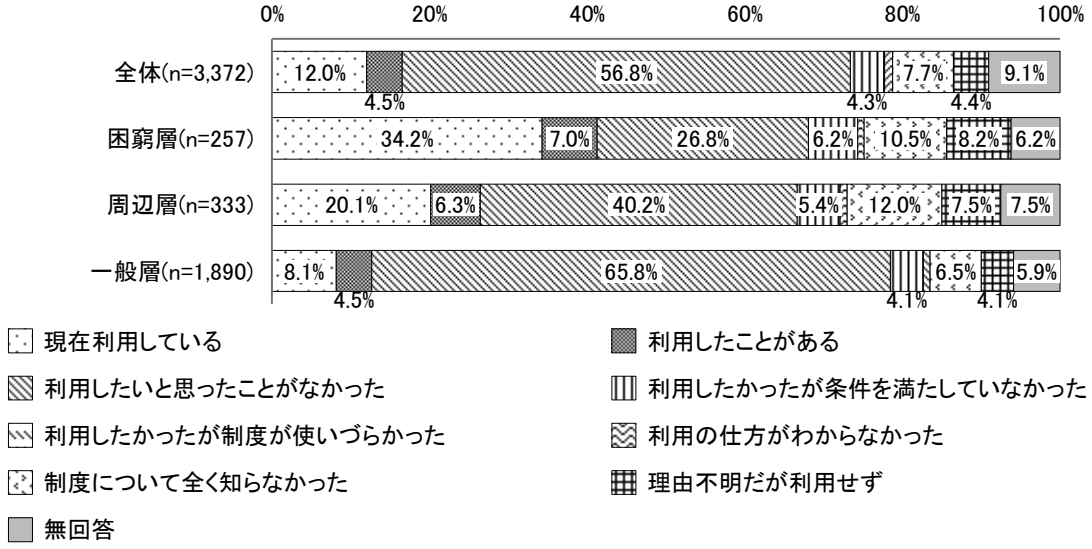
中学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 56.8%でもっとも割合が高く、次いで「現在利用している」が 12.0%となっている。「困窮層」では、「現在利用している」が 34.2%、「周辺層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 40.2%、「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 65.8%でそれぞれもっとも割合が高くなっている。

図表 153　公的扶助、支援制度等_児童扶養手当：単数回答（Q47B）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q47B 公的扶助、支援制度等_児童扶養手当								
		現在利用している	利用したことがある	利用したいと思ったことがなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用したかったが制度が使いづらかった	利用の仕方がわからなかった	制度について全く知らなかった	理由不明だが利用せず	無回答
全体	3,887	11.8	4.0	58.7	4.2	0.1	0.8	8.0	4.7	7.7
困窮層	264	31.8	7.6	31.4	8.0	0.0	1.1	8.3	7.2	4.5
周辺層	360	14.7	6.1	45.8	6.7	0.0	1.1	11.1	7.5	6.9
一般層	2,297	9.3	3.4	65.6	3.3	0.1	0.7	8.1	4.0	5.5

＜数値表：中学生＞

	合計	Q47B 公的扶助、支援制度等_児童扶養手当								
		現在利用している	利用したことがある	利用したいと思ったことがなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用したかったが制度が使いづらかった	利用の仕方がわからなかった	制度について全く知らなかった	理由不明だが利用せず	無回答
全体	3,372	12.0	4.5	56.8	4.3	0.1	1.0	7.7	4.4	9.1
困窮層	257	34.2	7.0	26.8	6.2	0.0	0.8	10.5	8.2	6.2
周辺層	333	20.1	6.3	40.2	5.4	0.0	0.9	12.0	7.5	7.5
一般層	1,890	8.1	4.5	65.8	4.1	0.1	0.8	6.5	4.1	5.9

16）利用したことはないが興味がある_児童扶養手当

小学生の「全体」では、「選択していない」が 93.4%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 6.6%となっている。

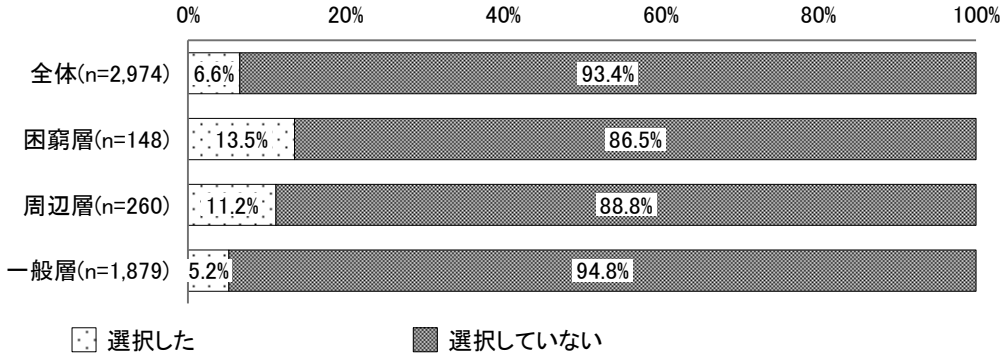
「困窮層」では、「選択していない」が 86.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 88.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 94.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「選択していない」が 93.5%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 6.5%となっている。

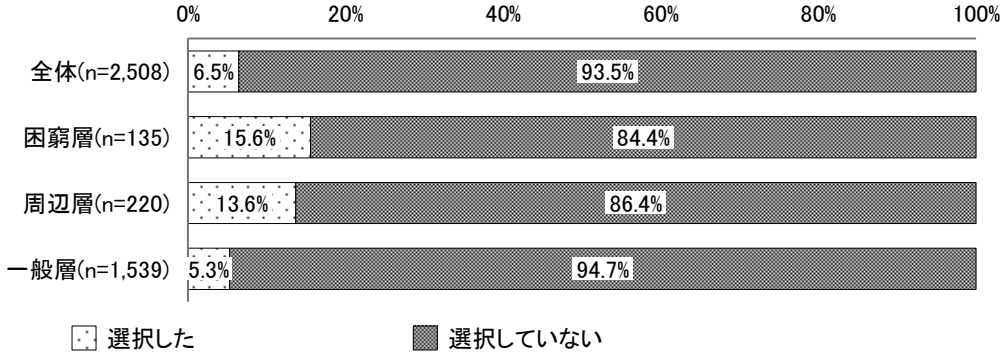
「困窮層」では、「選択していない」が 84.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 86.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 94.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 154　利用したことはないが興味がある_児童扶養手当：単数回答（Q47-1B）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



注）対象は Q47B で「現在利用している」「利用したことがある」以外を選択した者に限定

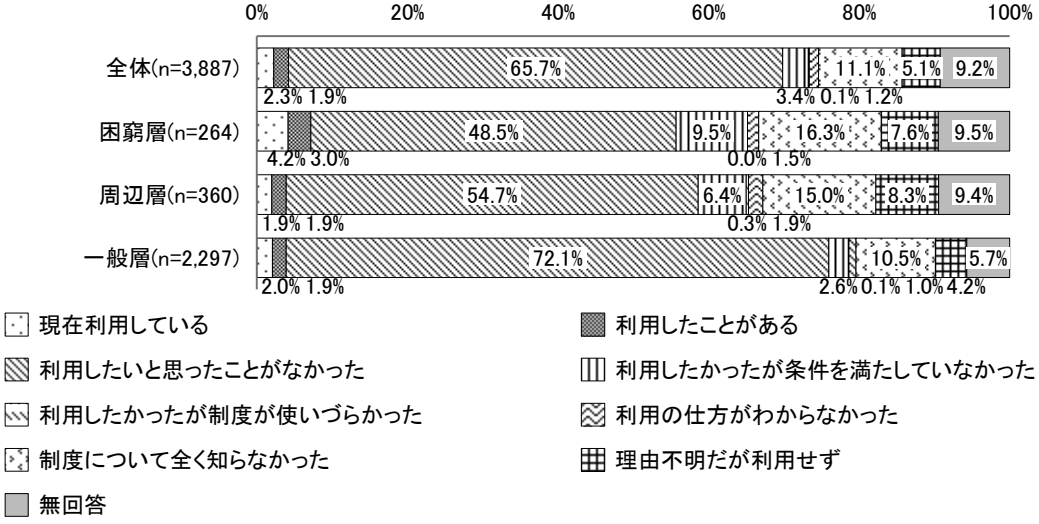
17） 公的扶助、支援制度等_特別児童扶養手当

小学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 65.7%でもっとも割合が高く、次いで「制度について全く知らなかった」が 11.1%となっている。「困窮層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 48.5%、「周辺層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 54.7%、「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 72.1%でそれぞれもっとも割合が高くなっている。

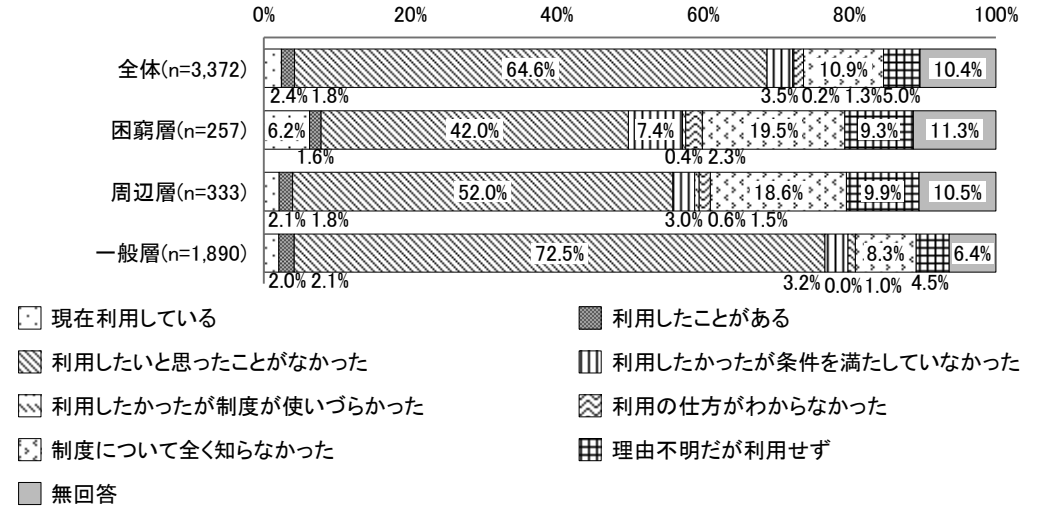
中学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 64.6%でもっとも割合が高く、次いで「制度について全く知らなかった」が 10.9%となっている。「困窮層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 42.0%、「周辺層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 52.0%、「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 72.5%でそれぞれもっとも割合が高くなっている。

図表 155　公的扶助、支援制度等_特別児童扶養手当：単数回答（Q47C）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



18）利用したことはないが興味がある_特別児童扶養手当

小学生の「全体」では、「選択していない」が 93.8%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 6.2%となっている。

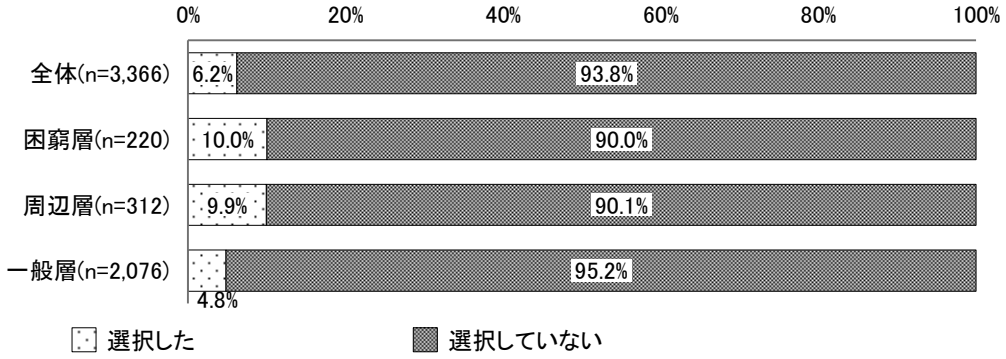
「困窮層」では、「選択していない」が 90.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 90.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 95.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「選択していない」が 93.7%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 6.3%となっている。

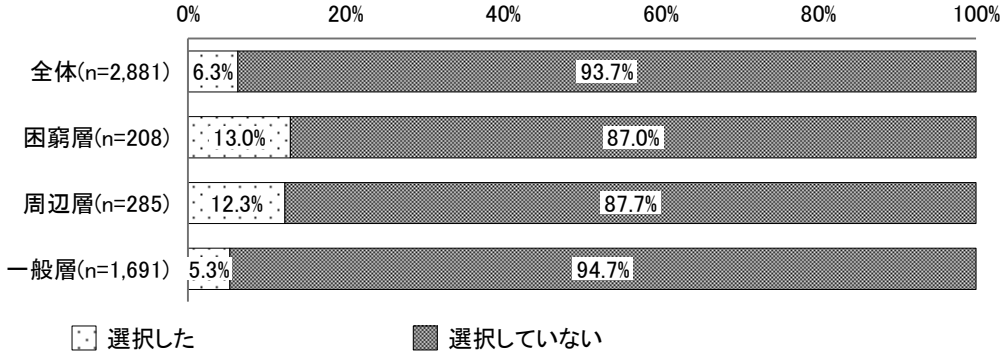
「困窮層」では、「選択していない」が 87.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 87.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 94.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 156　利用したことはないが興味がある_特別児童扶養手当：単数回答（Q47-1C）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



注）対象は Q47C で「現在利用している」「利用したことがある」以外を選択した者に限定

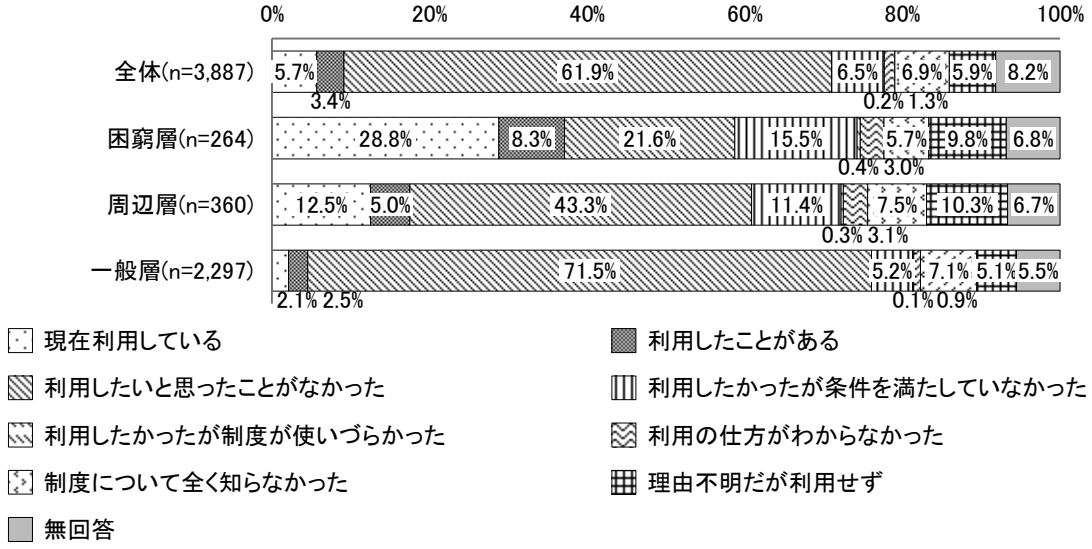
19） 公的扶助、支援制度等_就学援助費

小学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 61.9%でもっとも割合が高く、次いで「制度について知らなかった」が 6.9%となっている。「困窮層」では、「現在利用している」が 28.8%、「周辺層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 43.3%、「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 71.5%でそれぞれもっとも割合が高くなっている。

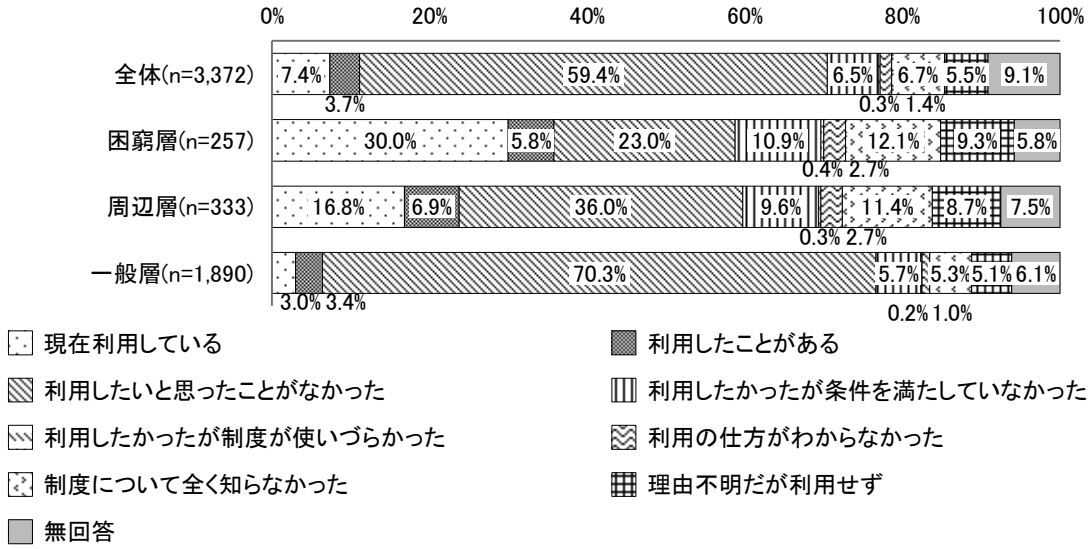
中学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 59.4%でもっとも割合が高く、次いで「現在利用している」が 7.4%となっている。「困窮層」では、「現在利用している」が 30.0%、「周辺層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 36.0%、「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 70.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 157　公的扶助、支援制度等_就学援助費：単数回答（Q47D）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



20）利用したことはないが興味がある_就学援助費

小学生の「全体」では、「選択していない」が 92.2%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 7.8%となっている。

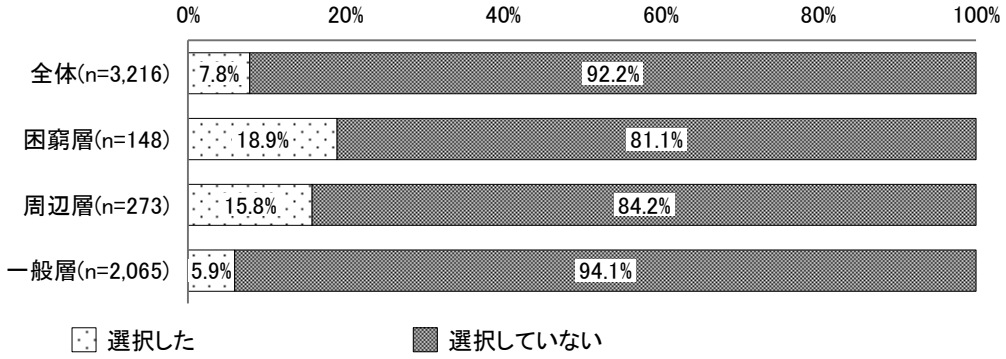
「困窮層」では、「選択していない」が 81.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 84.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 94.1%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「選択していない」が 92.5%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 7.5%となっている。

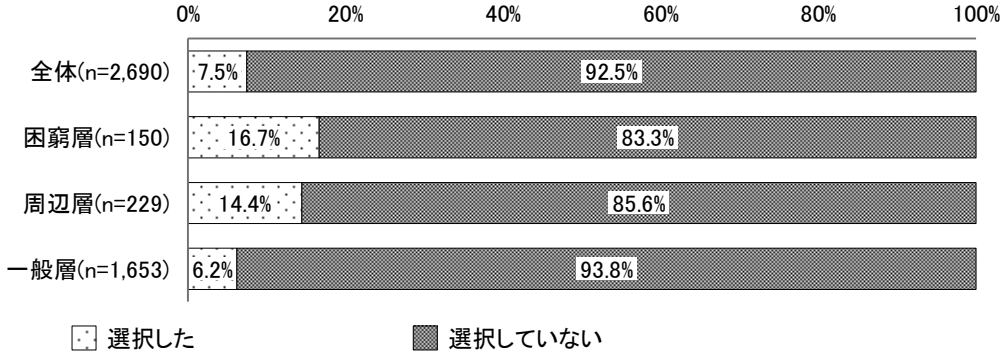
「困窮層」では、「選択していない」が 83.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 85.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 93.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 158　利用したことはないが興味がある_就学援助費：単数回答（Q47-1D）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



注）対象は Q47D で「現在利用している」「利用したことがある」以外を選択した者に限定

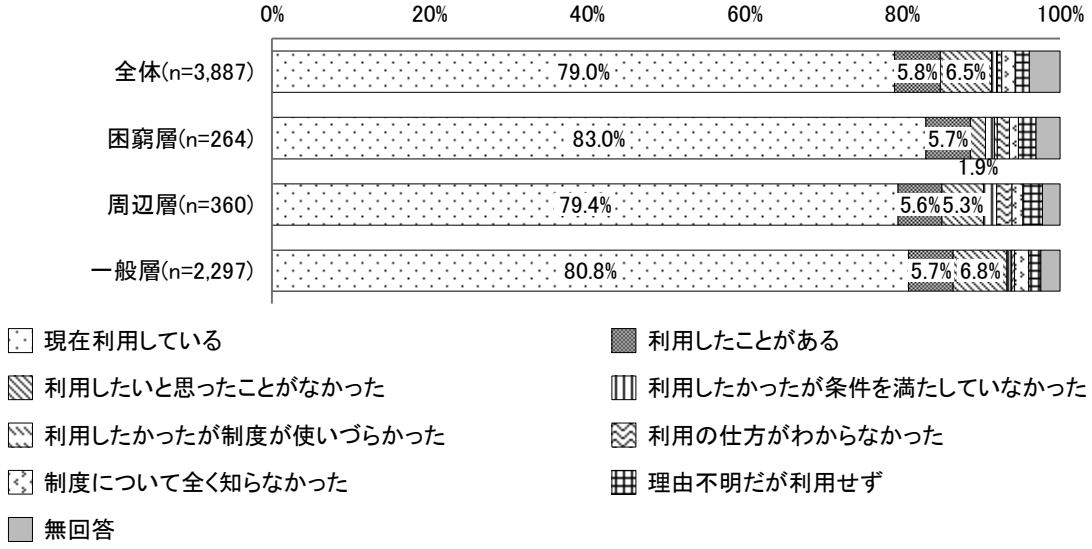
21） 公的扶助、支援制度等_子ども医療費助成

小学生の「全体」では、「現在利用している」が 79.0%でもっとも割合が高く、次いで「利用したいと思ったことがなかった」が 6.5%となっている。「困窮層」では、「現在利用している」が 83.0%、「周辺層」では、「現在利用している」が 79.4%、「一般層」では、「現在利用している」が 80.8%でそれぞれもっとも割合が高くなっている。

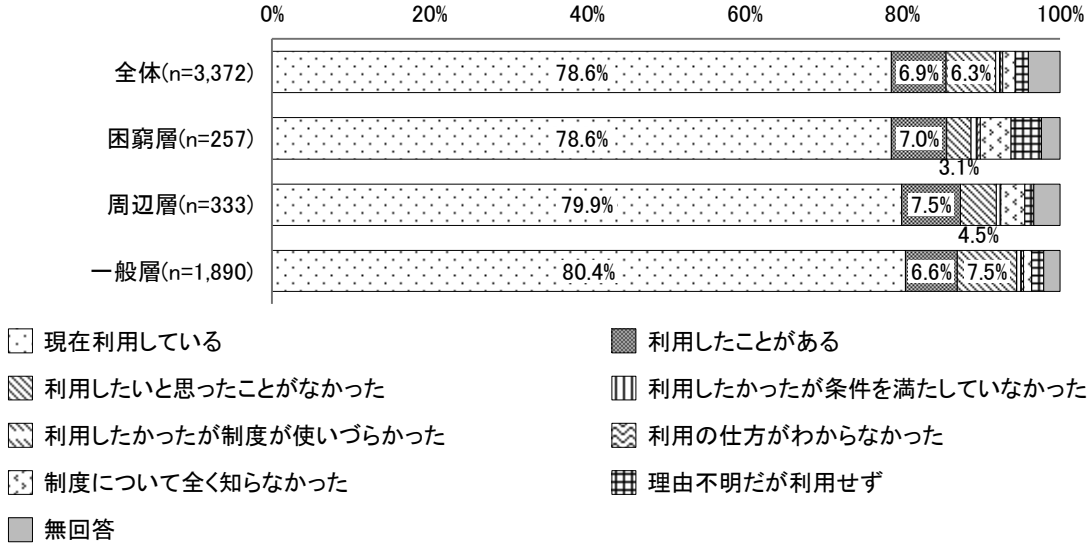
中学生の「全体」では、「現在利用している」が 78.6%でもっとも割合が高く、次いで「利用したことがある」が 6.9%となっている。「困窮層」では、「現在利用している」が 78.6%、「周辺層」では、「現在利用している」が 79.9%、「一般層」では、「現在利用している」が 80.4%でそれぞれもっとも割合が高くなっている。

図表 159　公的扶助、支援制度等_子ども医療費助成：単数回答（Q47E）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q47E 公的扶助、支援制度等_子ども医療費助成								
		現在利用している	利用したことがある	利用したいと思ったことがなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用したかったが制度が使いづらかった	利用の仕方がわからなかった	制度について全く知らなかった	理由不明だが利用せず	無回答
全体	3,887	79.0	5.8	6.5	0.6	0.1	0.6	1.7	1.8	3.9
困窮層	264	83.0	5.7	1.9	1.1	0.4	1.5	1.1	2.3	3.0
周辺層	360	79.4	5.6	5.3	1.7	0.0	1.9	1.4	2.5	2.2
一般層	2,297	80.8	5.7	6.8	0.5	0.1	0.3	1.8	1.6	2.4

＜数値表：中学生＞

	合計	Q47E 公的扶助、支援制度等_子ども医療費助成								
		現在利用している	利用したことがある	利用したいと思ったことがなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用したかったが制度が使いづらかった	利用の仕方がわからなかった	制度について全く知らなかった	理由不明だが利用せず	無回答
全体	3,372	78.6	6.9	6.3	0.5	0.1	0.3	1.6	1.6	4.1
困窮層	257	78.6	7.0	3.1	0.8	0.0	0.4	3.9	3.9	2.3
周辺層	333	79.9	7.5	4.5	0.6	0.0	0.0	3.0	1.2	3.3
一般層	1,890	80.4	6.6	7.5	0.6	0.1	0.3	1.1	1.5	2.1

22）利用したことはないが興味がある_子ども医療費助成

小学生の「全体」では、「選択していない」が 82.7%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 17.3%となっている。

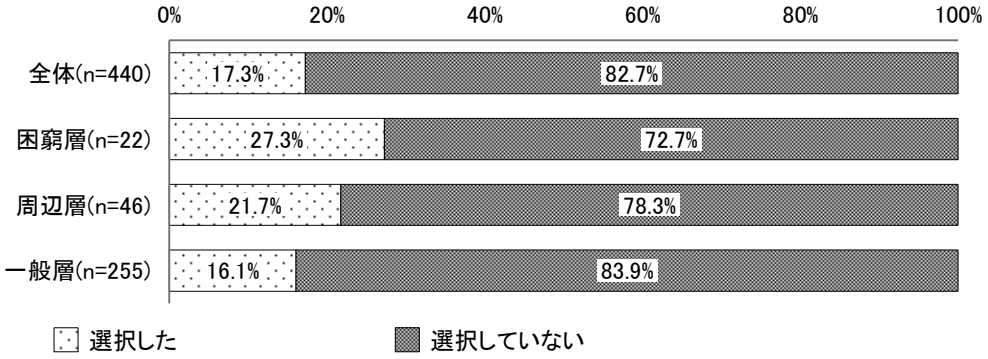
「困窮層」では、「選択していない」が 72.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 78.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 83.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「選択していない」が 82.9%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 17.1%となっている。

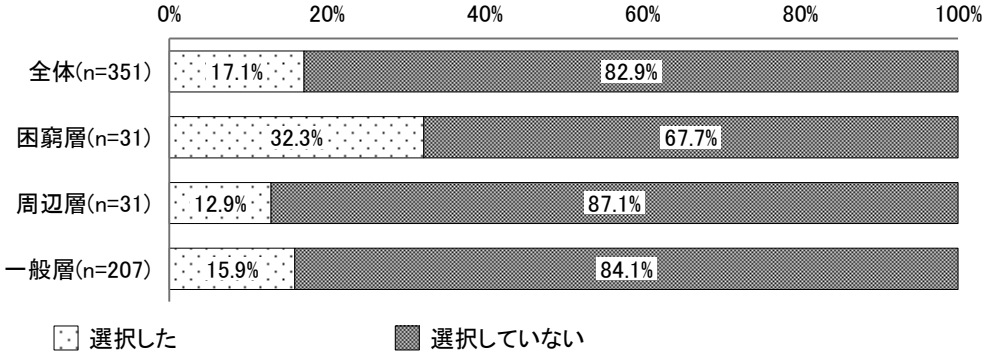
「困窮層」では、「選択していない」が 67.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 87.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 84.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 160　利用したことはないが興味がある_子ども医療費助成：単数回答（Q47-1E）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



注）対象は Q47E で「現在利用している」「利用したことがある」以外を選択した者に限定

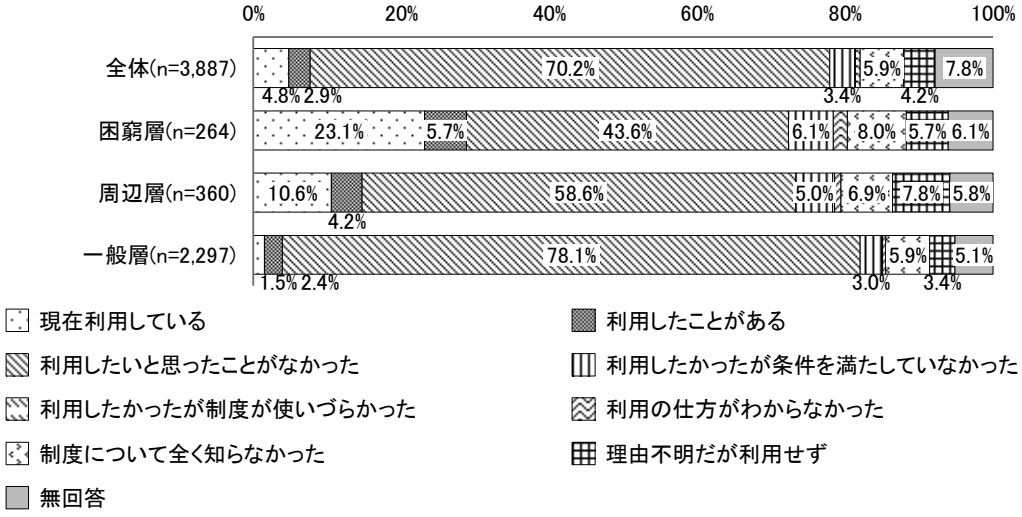
23）公的扶助、支援制度等_ひとり親家庭等医療費等助成

小学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 70.2%でもっとも割合が高く、次いで「制度について全く知らなかった」が 5.9%となっている。「困窮層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 43.6%、「周辺層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 58.6%、「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 78.1%でそれぞれもっとも割合が高くなっている。

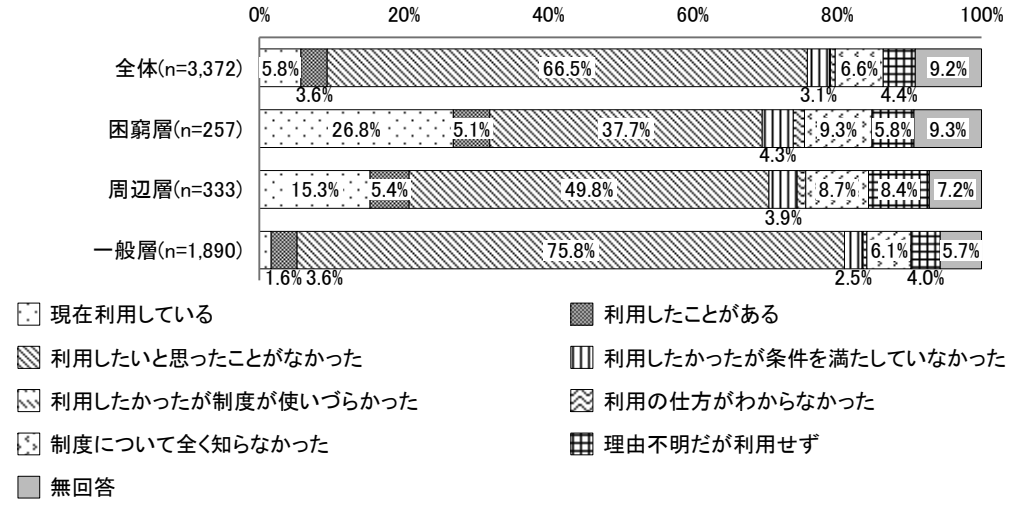
中学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 66.5%でもっとも割合が高く、次いで「制度について全く知らなかった」が 6.6%となっている。「困窮層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 37.7%、「周辺層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 49.8%、「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 75.8%でそれぞれもっとも割合が高くなっている。

図表 161　公的扶助、支援制度等_ひとり親家庭等医療費等助成：単数回答（Q47F）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q47F 公的扶助、支援制度等_ひとり親家庭等医療費等助成								
		現在利用している	利用したことがある	利用したいと思ったことがなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用したかったが制度が使いづらかった	利用の仕方がわからなかった	制度について全く知らなかった	理由不明だが利用せず	無回答
全体	3,887	4.8	2.9	70.2	3.4	0.1	0.6	5.9	4.2	7.8
困窮層	264	23.1	5.7	43.6	6.1	0.0	1.9	8.0	5.7	6.1
周辺層	360	10.6	4.2	58.6	5.0	0.3	0.8	6.9	7.8	5.8
一般層	2,297	1.5	2.4	78.1	3.0	0.1	0.4	5.9	3.4	5.1

＜数値表：中学生＞

	合計	Q47F 公的扶助、支援制度等_ひとり親家庭等医療費等助成								
		現在利用している	利用したことがある	利用したいと思ったことがなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用したかったが制度が使いづらかった	利用の仕方がわからなかった	制度について全く知らなかった	理由不明だが利用せず	無回答
全体	3,372	5.8	3.6	66.5	3.1	0.1	0.7	6.6	4.4	9.2
困窮層	257	26.8	5.1	37.7	4.3	0.0	1.6	9.3	5.8	9.3
周辺層	333	15.3	5.4	49.8	3.9	0.0	1.2	8.7	8.4	7.2
一般層	1,890	1.6	3.6	75.8	2.5	0.1	0.5	6.1	4.0	5.7

24）利用したことはないが興味がある_ひとり親家庭等医療費等助成

小学生の「全体」では、「選択していない」が 94.8%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 5.2%となっている。

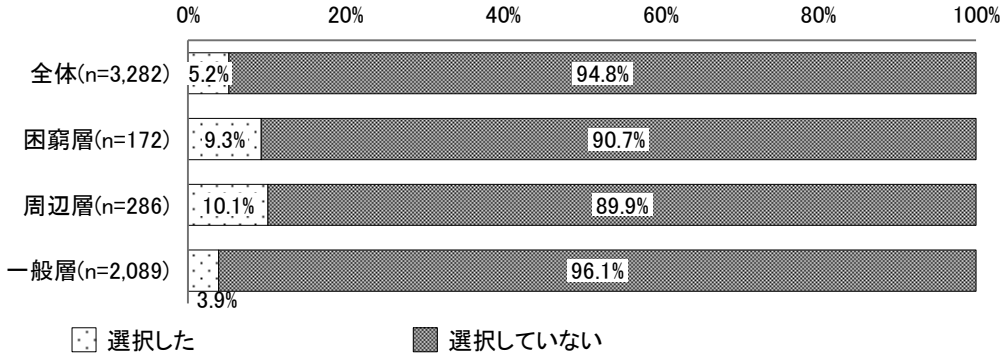
「困窮層」では、「選択していない」が 90.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 89.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 96.1%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「選択していない」が 94.2%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 5.8%となっている。

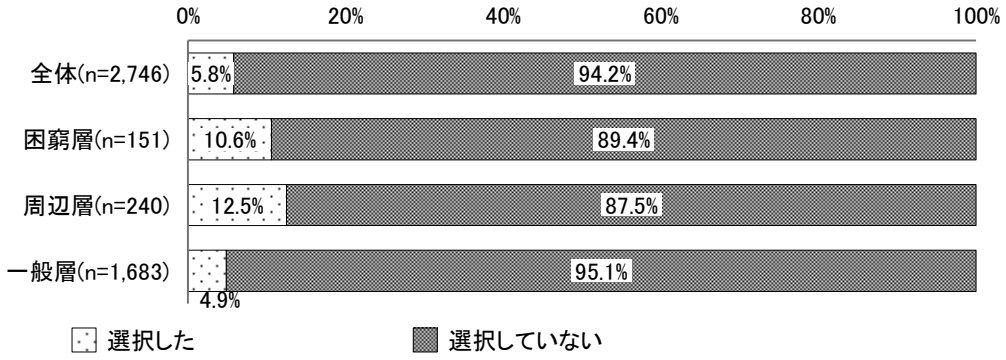
「困窮層」では、「選択していない」が 89.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 87.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 95.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 162　利用したことはないが興味がある_ひとり親家庭等医療費等助成：単数回答（Q47-1F）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



注）対象は Q47F で「現在利用している」「利用したことがある」以外を選択した者に限定

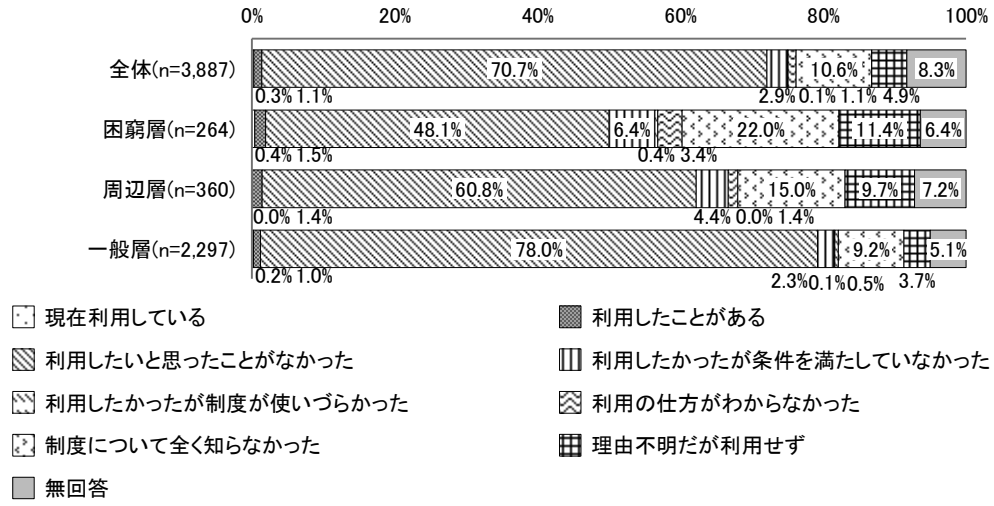
25）公的扶助、支援制度等_母子・父子・寡婦福祉資金

小学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 70.7%でもっとも割合が高く、次いで「制度について全く知らなかった」が 10.6%となっている。「困窮層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 48.1%、「周辺層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 60.8%、「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 78.0%でそれぞれもっとも割合が高くなっている。

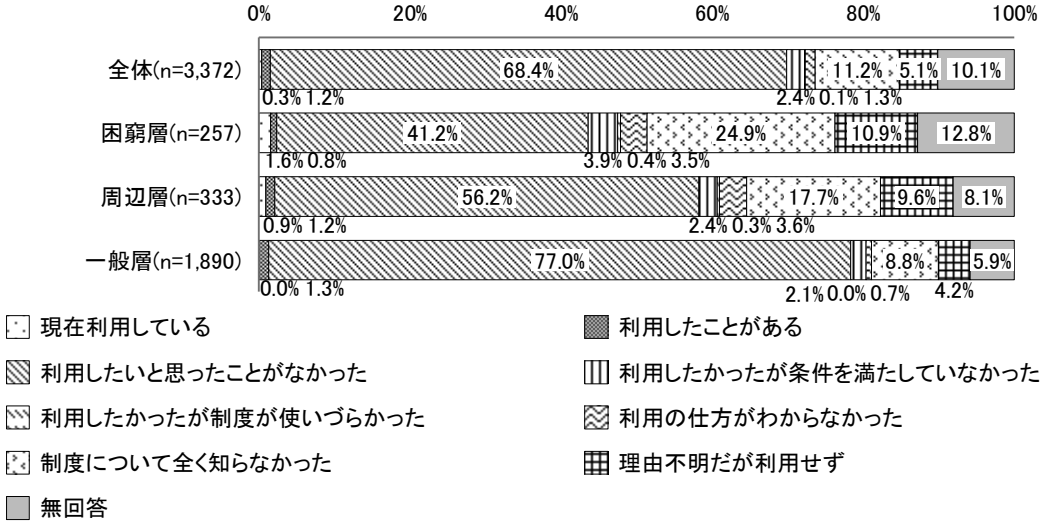
中学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 68.4%でもっとも割合が高く、次いで「制度について全く知らなかった」が 11.2%となっている。「困窮層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 41.2%、「周辺層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 56.2%、「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 77.0%でそれぞれもっとも割合が高くなっている。

図表 163　公的扶助、支援制度等_母子・父子・寡婦福祉資金：単数回答（Q47G）
（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



26）利用したことはないが興味がある_母子・父子・寡婦福祉資金

小学生の「全体」では、「選択していない」が 94.2%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 5.8%となっている。

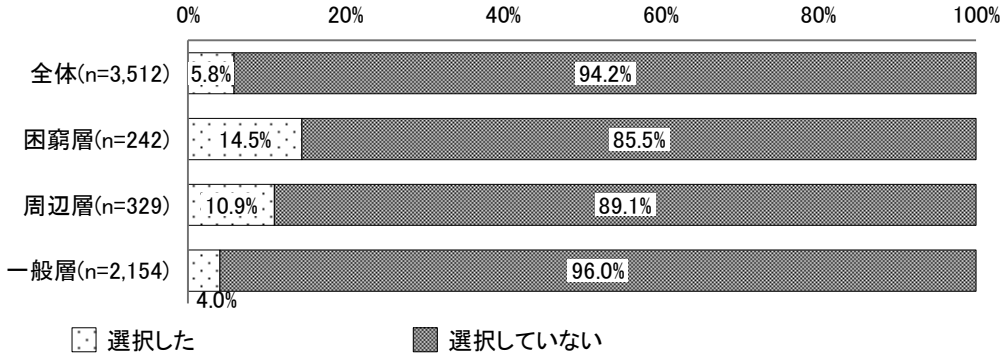
「困窮層」では、「選択していない」が 85.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 89.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 96.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「選択していない」が 93.9%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 6.1%となっている。

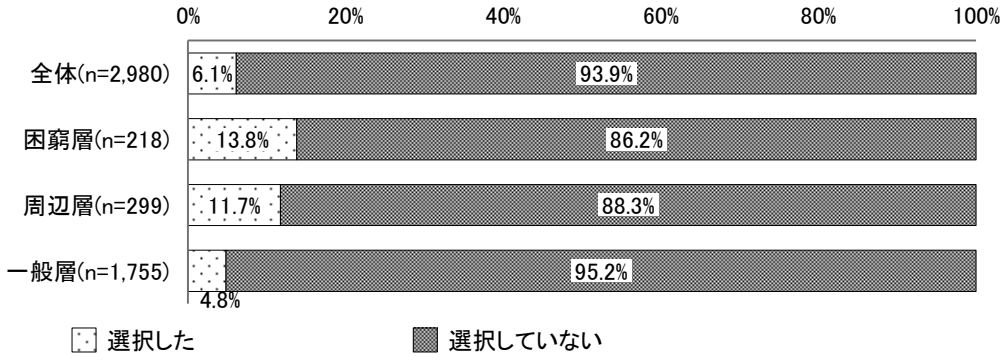
「困窮層」では、「選択していない」が 86.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 88.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 95.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 164　利用したことはないが興味がある_母子・父子・寡婦福祉資金：単数回答（Q47-1G）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



注）対象は Q47G で「現在利用している」「利用したことがある」以外を選択した者に限定

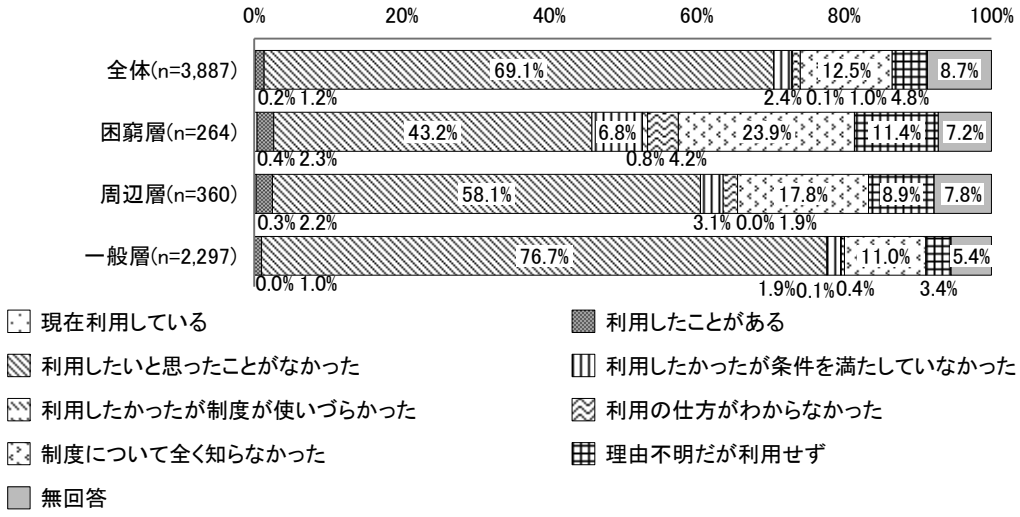
27） 公的扶助、支援制度等_生活福祉資金

小学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 69.1%でもっとも割合が高く、次いで「制度について全く知らなかった」が 12.5%となっている。「困窮層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 43.2%、「周辺層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 58.1%、「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 76.7%でそれぞれもっとも割合が高くなっている。

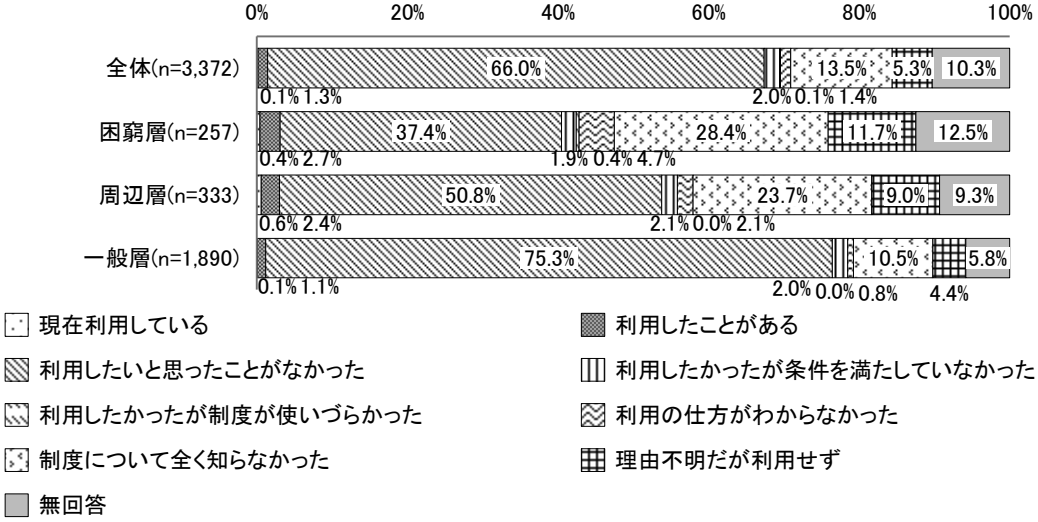
中学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 66.0%でもっとも割合が高く、次いで「制度について全く知らなかった」が 13.5%となっている。「困窮層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 37.4%、「周辺層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 50.8%、「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 75.3%でそれぞれもっとも割合が高くなっている。

図表 165　公的扶助、支援制度等_生活福祉資金：単数回答（Q47H）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



28）利用したことはないが興味がある_生活福祉資金

小学生の「全体」では、「選択していない」が 94.2%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 5.8%となっている。

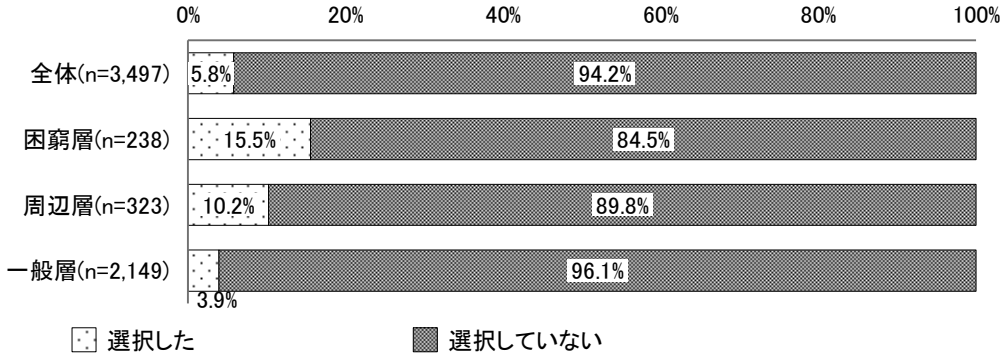
「困窮層」では、「選択していない」が 84.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 89.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 96.1%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「選択していない」が 93.4%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 6.6%となっている。

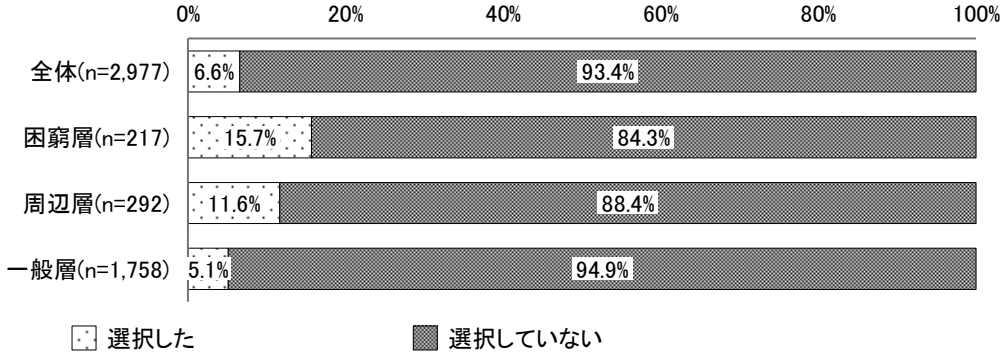
「困窮層」では、「選択していない」が 84.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 88.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 94.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 166　利用したことはないが興味がある_生活福祉資金：単数回答（Q47-1H）
（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



注）対象は Q47H で「現在利用している」「利用したことがある」以外を選択した者に限定

29） 公的扶助、支援制度等_生活保護

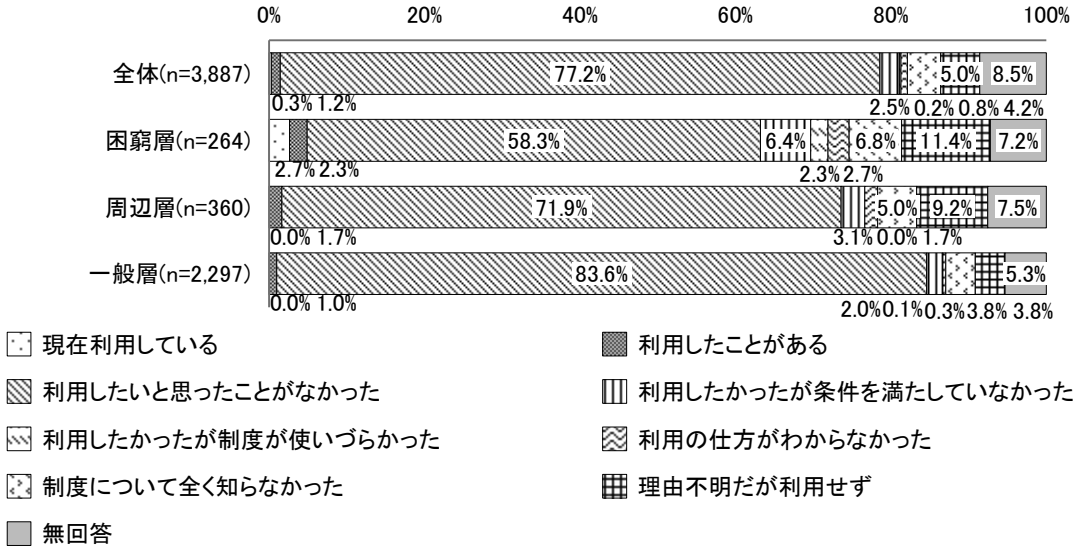
小学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 77.2%でもっとも割合が高く、次いで「理由不明だが利用せず」が 5.0%となっている。

「困窮層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 58.3%、「周辺層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 71.9%、「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 83.6%でそれぞれもっとも割合が高くなっている。

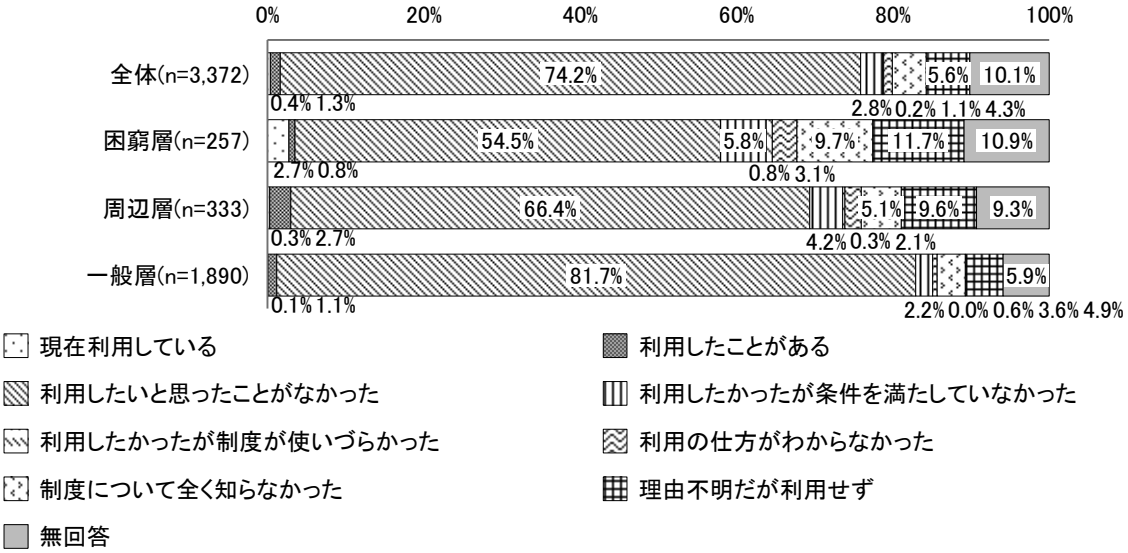
中学生の「全体」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 74.2%でもっとも割合が高く、次いで「理由不明だが利用せず」が 5.6%となっている。「困窮層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 54.5%、「周辺層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 66.4%、「一般層」では、「利用したいと思ったことがなかった」が 81.7%でそれぞれもっとも割合が高くなっている。

図表 167　公的扶助、支援制度等_生活保護：単数回答（Q47I）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



30）利用したことはないが興味がある_生活保護

小学生の「全体」では、「選択していない」が 94.2%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 5.8%となっている。

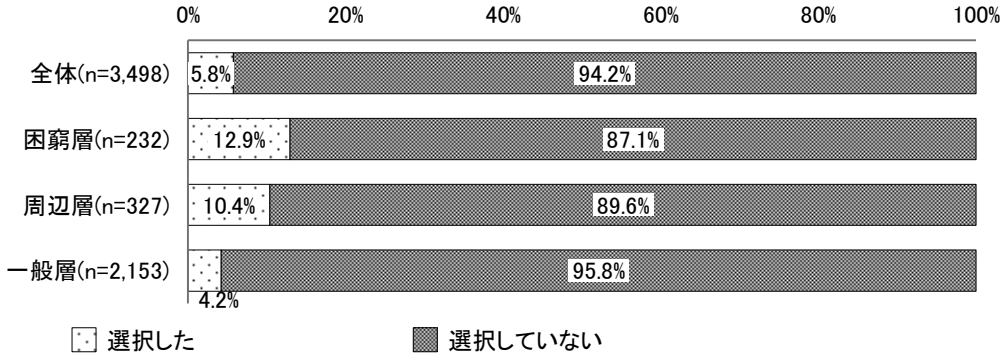
「困窮層」では、「選択していない」が 87.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 89.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 95.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「選択していない」が 93.4%でもっとも割合が高く、次いで「選択した」が 6.6%となっている。

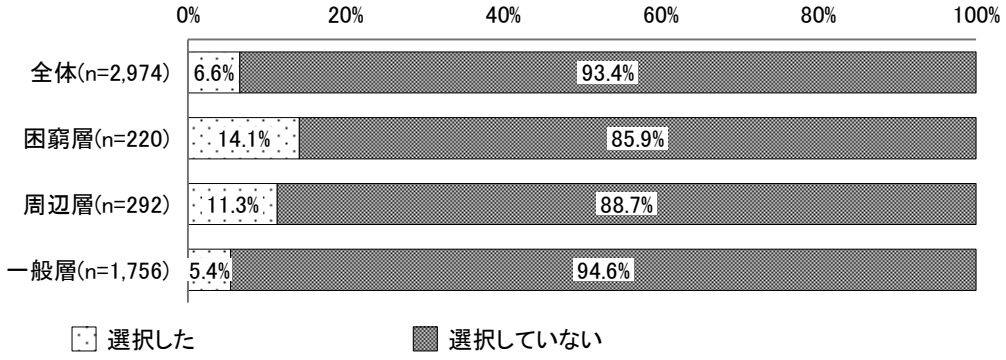
「困窮層」では、「選択していない」が 85.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「選択していない」が 88.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「選択していない」が 94.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 168　利用したことはないが興味がある_生活保護：単数回答（Q47-1I）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



注）対象は Q47I で「現在利用している」「利用したことがある」以外を選択した者に限定

31） 公的機関への相談状況_市役所、町村役場の窓口

小学生の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 61.1%でもっとも割合が高く、次いで「相談したことがある」が 25.5%となっている。

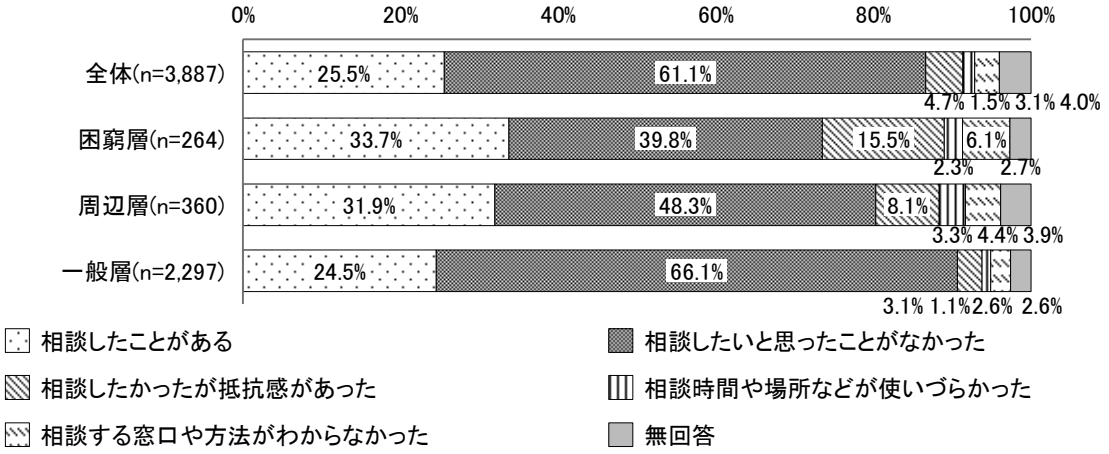
「困窮層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 39.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 48.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 66.1%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 61.7%でもっとも割合が高く、次いで「相談したことがある」が 24.4%となっている。

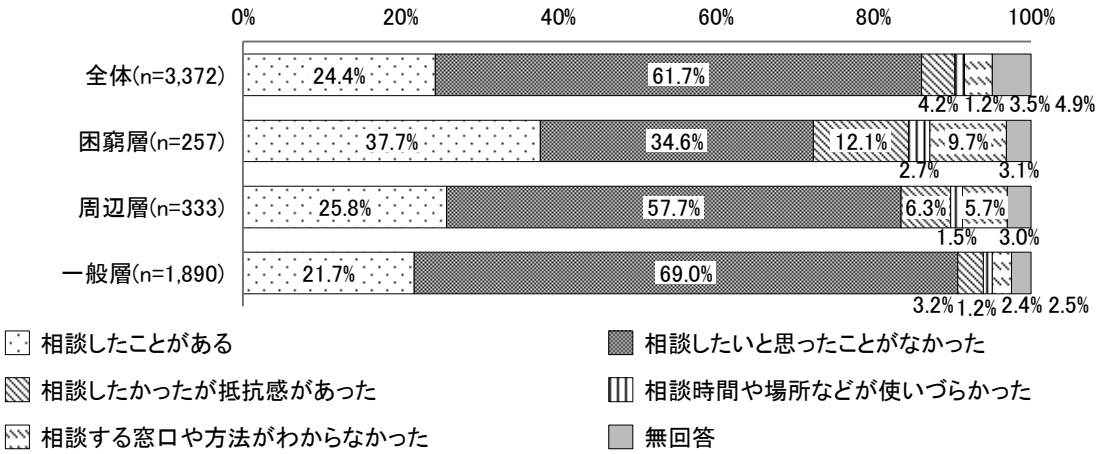
「困窮層」では、「相談したことがある」が 37.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 57.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 69.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 169　公的機関への相談状況_市役所、町村役場の窓口：単数回答（Q48A）
（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



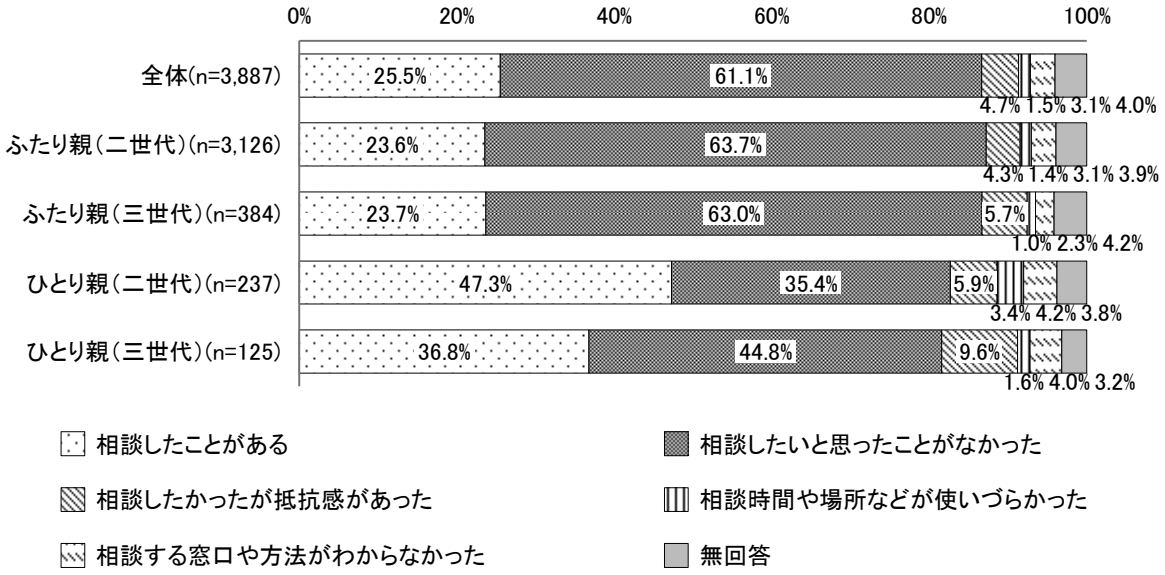
＜中学生＞（p<.01）



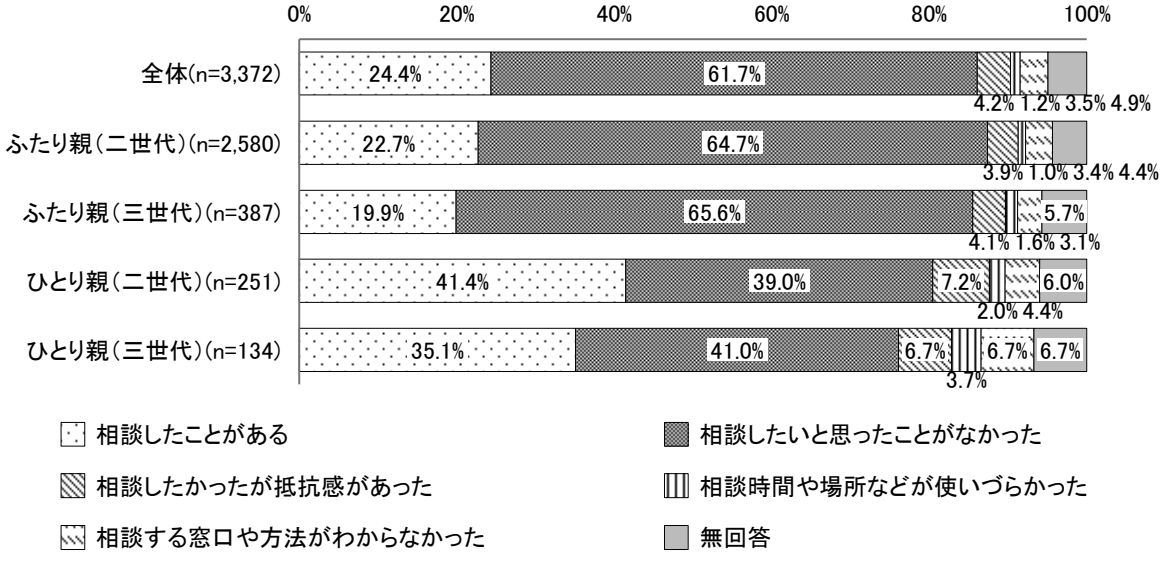
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ひとり親（二世代)」「ひとり親（三世代)」において「相談したことがある」とする割合が高くなっている。

図表 170　公的機関への相談状況_市役所、町村役場の窓口：単数回答（Q48A）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



32）公的機関への相談状況_学校・保育所・幼稚園の先生

小学生の「全体」では、「相談したことがある」が 59.3%でもっとも割合が高く、次いで「相談したいと思ったことがなかった」が 31.7%となっている。

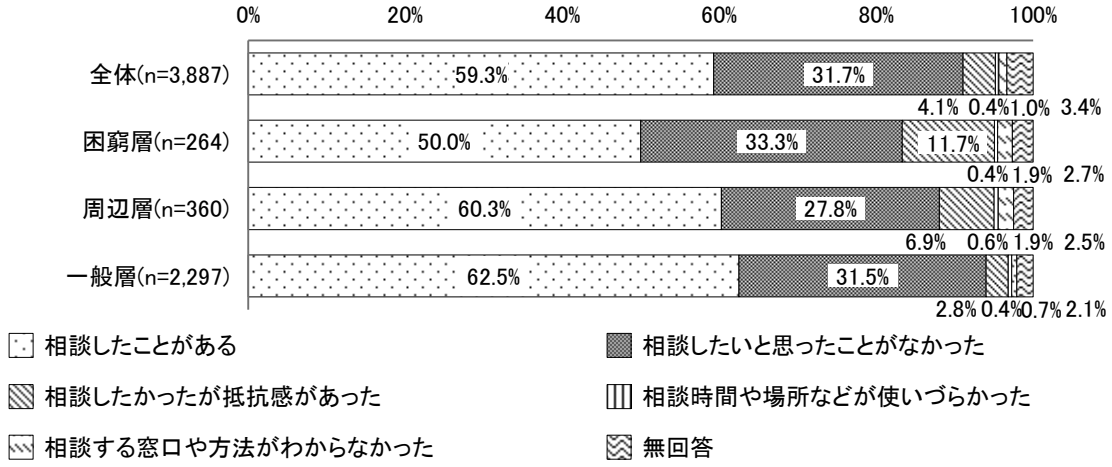
「困窮層」では、「相談したことがある」が 50.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「相談したことがある」が 60.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「相談したことがある」が 62.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「相談したことがある」が 53.9%でもっとも割合が高く、次いで「相談したいと思ったことがなかった」が 35.3%となっている。

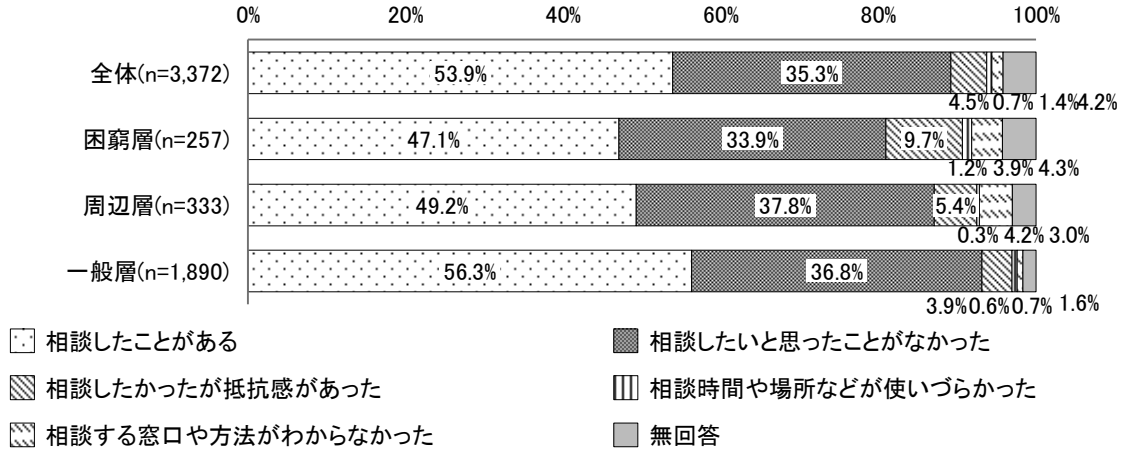
「困窮層」では、「相談したことがある」が 47.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「相談したことがある」が 49.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「相談したことがある」が 56.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 171　公的機関への相談状況_学校・保育所・幼稚園の先生：単数回答（Q48B）
（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



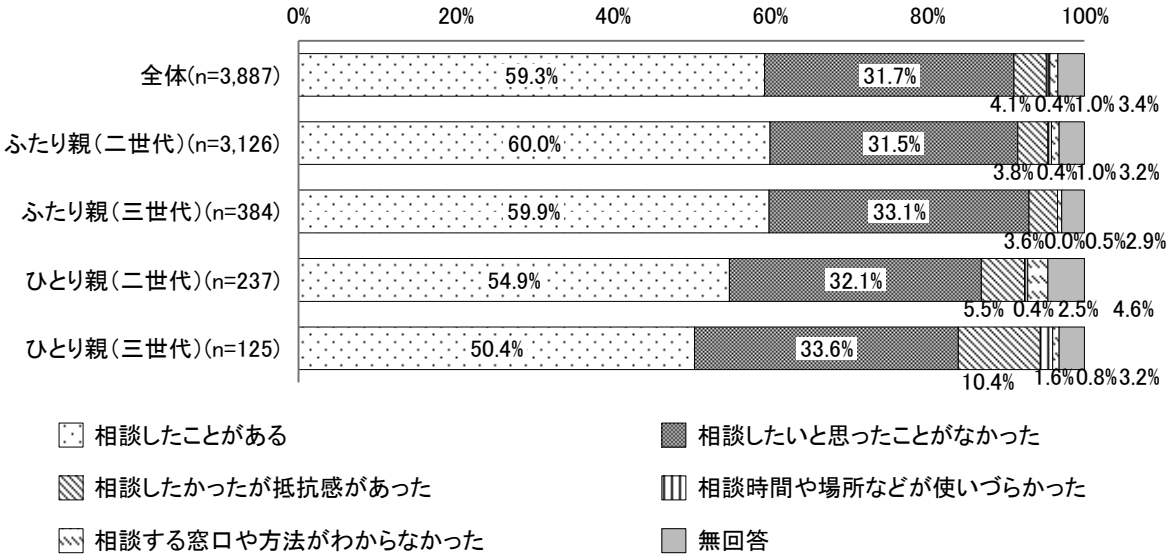
＜中学生＞（p<.01）



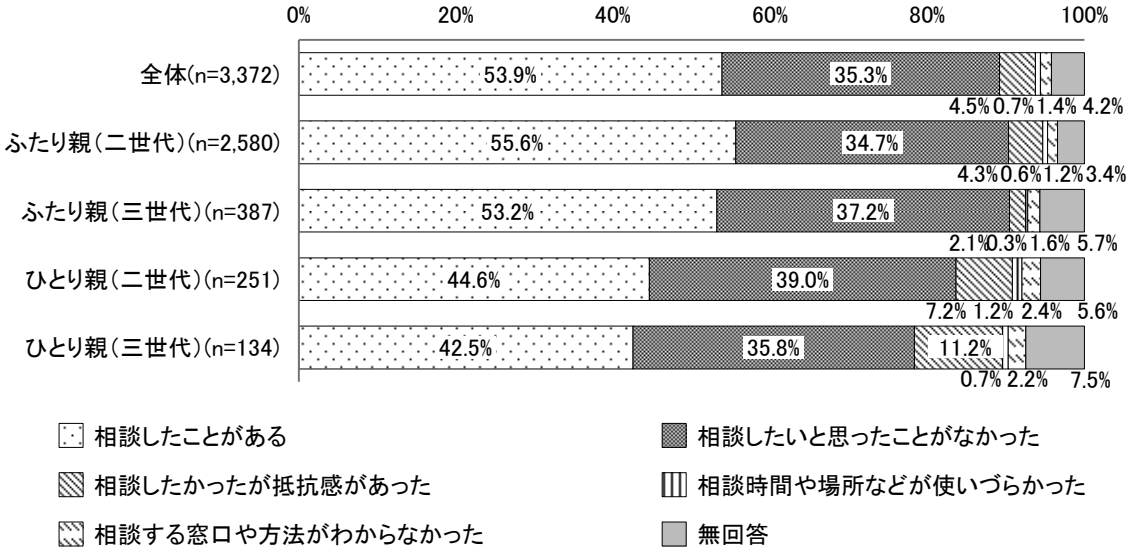
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代）」において「相談したことがある」とする割合が低くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「相談したことがある」とする割合が低くなっている。

図表 172　公的機関への相談状況_学校・保育所・幼稚園の先生：単数回答（Q48B）
（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



33）公的機関への相談状況_スクールカウンセラー

小学生の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 70.5%でもっとも割合が高く、次いで「相談したことがある」が 12.5%となっている。

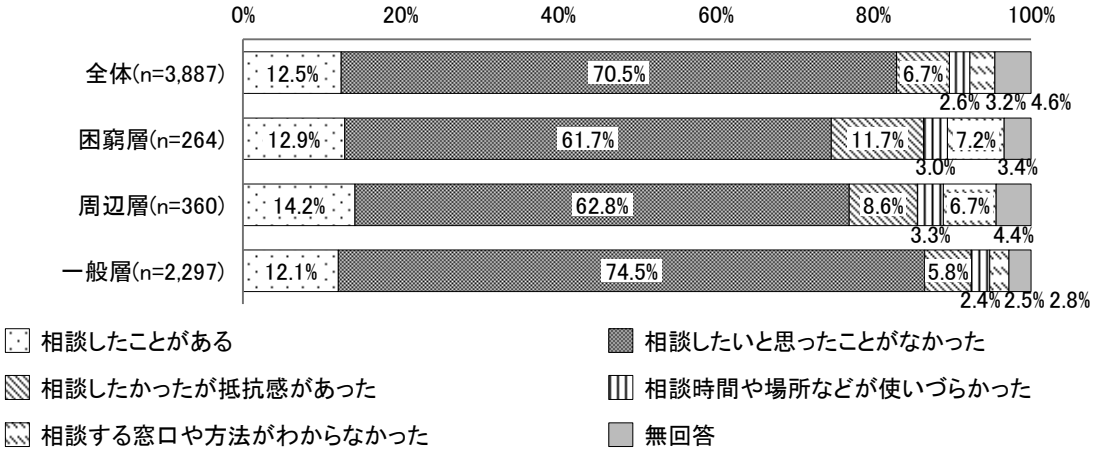
「困窮層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 61.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 62.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 74.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 67.8%でもっとも割合が高く、次いで「相談したことがある」が 13.3%となっている。

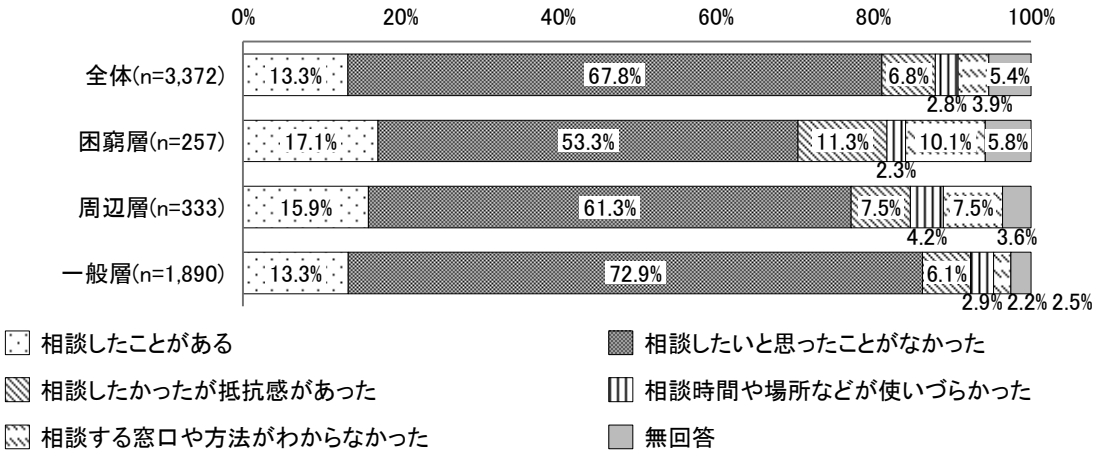
「困窮層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 53.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 61.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 72.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 173　公的機関への相談状況_スクールカウンセラー：単数回答（Q48C）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



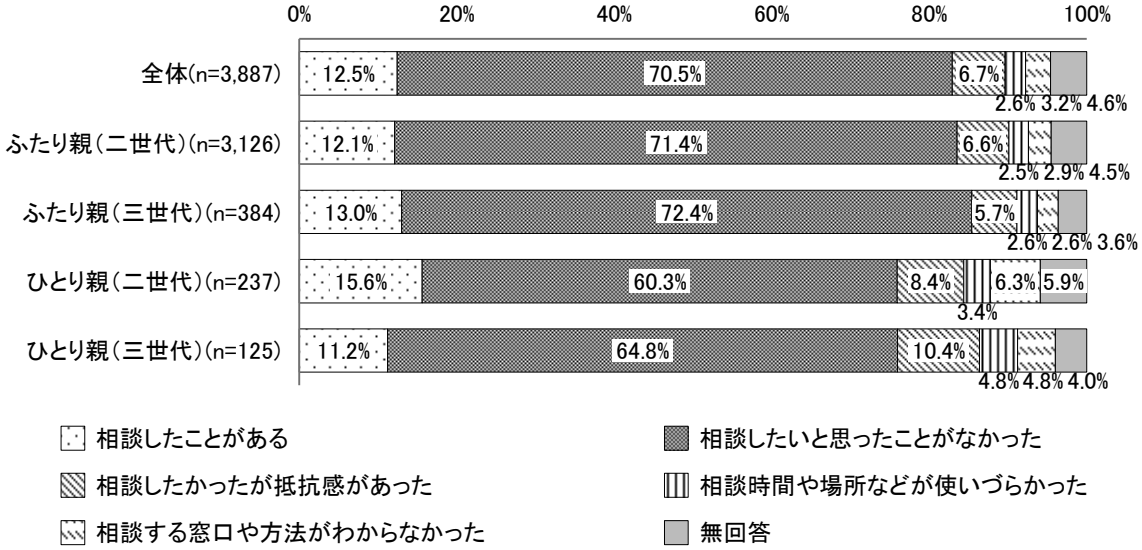
＜中学生＞（p<.01）



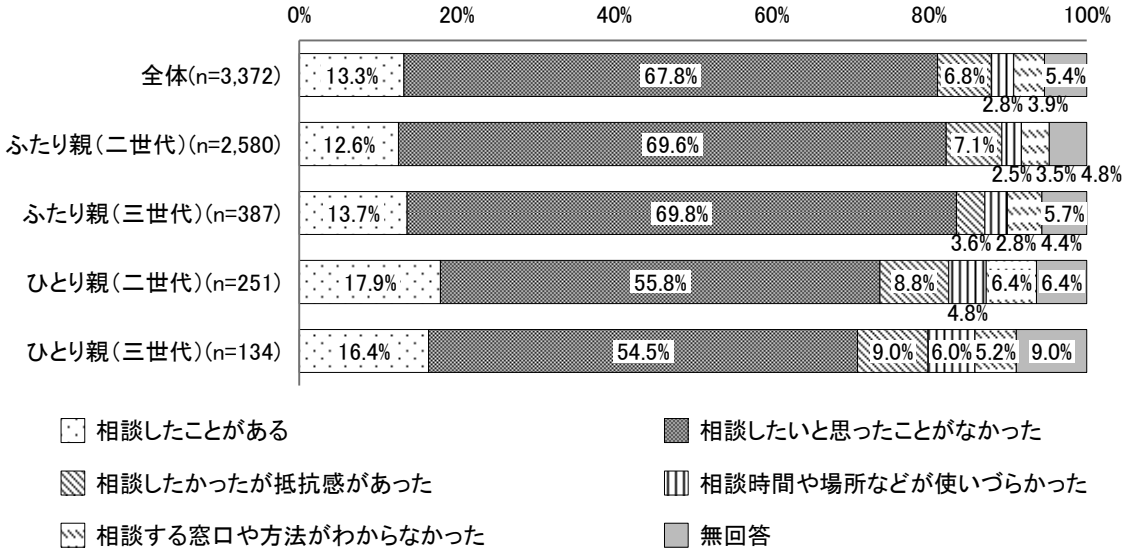
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「相談したいと思ったことがなかった」とする割合が低くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「相談したいと思ったことがなかった」とする割合が低くなっている。

図表 174　公的機関への相談状況_スクールカウンセラー：単数回答（Q48C）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（p<.01）



34） 公的機関への相談状況_スクールソーシャルワーカー

小学生の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 80.5%でもっとも割合が高く、次いで「相談する窓口や方法がわからなかった」が 6.6%となっている。

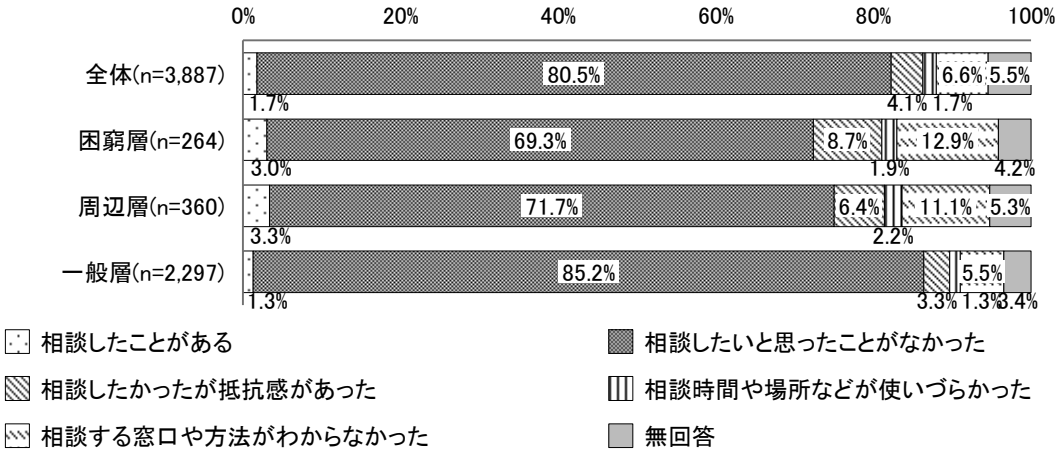
「困窮層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 69.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 71.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 85.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 78.6%でもっとも割合が高く、次いで「相談する窓口や方法がわからなかった」が 6.8%となっている。

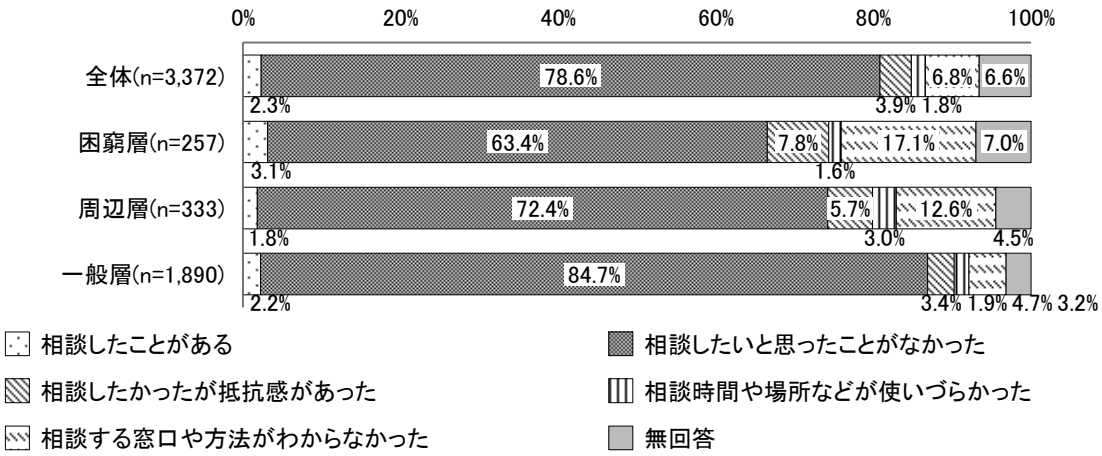
「困窮層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 63.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 72.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 84.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 175　公的機関への相談状況_スクールソーシャルワーカー：単数回答（Q48D）
（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



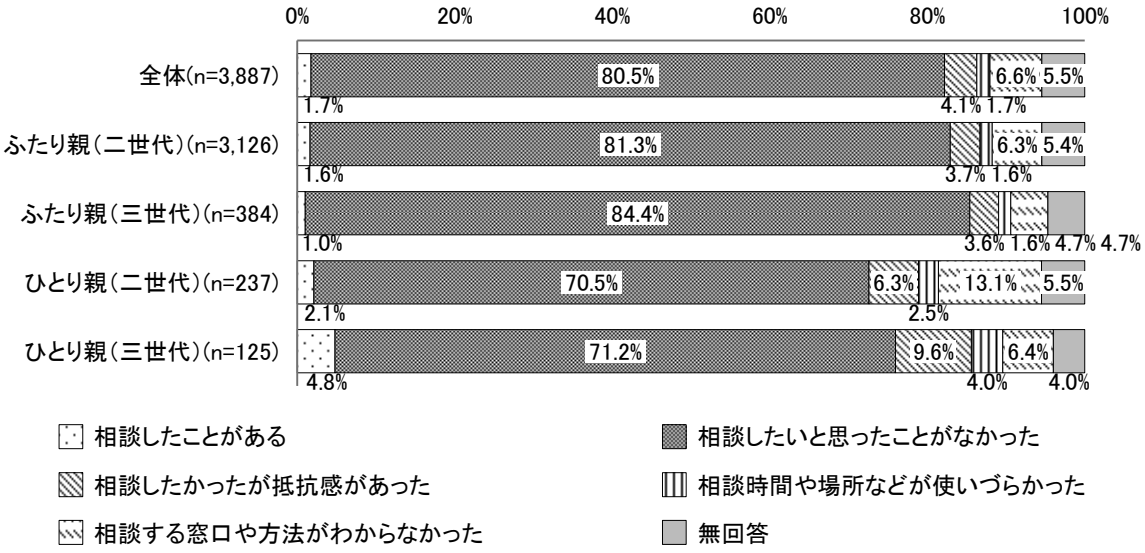
＜中学生＞（p<.01）



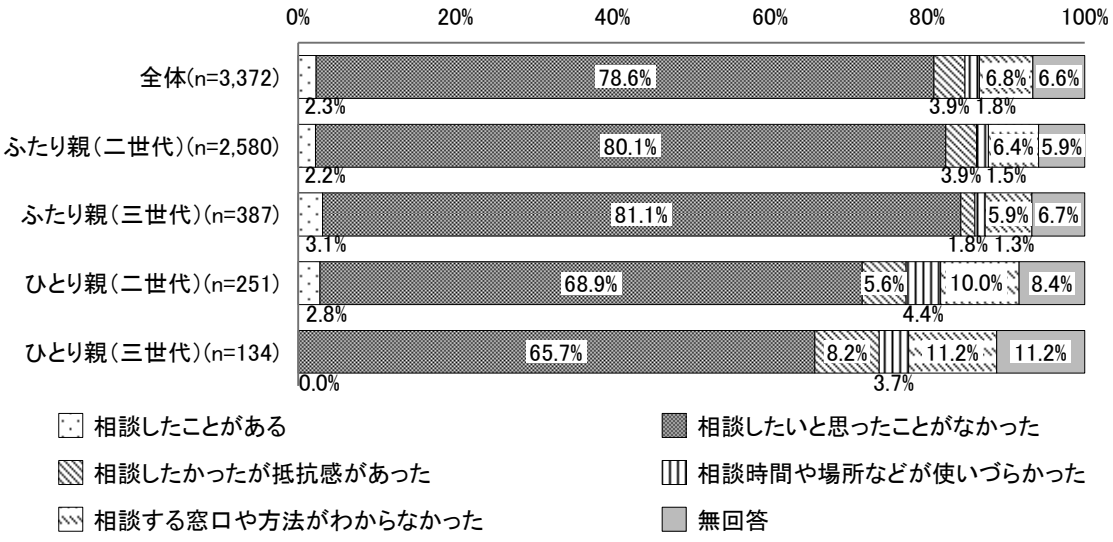
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ひとり親（二世代)」「ひとり親（三世代)」において「相談したいと思ったことがなかった」とする割合が低くなっている。また、小学生では「ひとり親（二世代)」において、「相談する窓口や方法がわからなかった」とする割合が高くなっている。

図表 176　公的機関への相談状況_スクールソーシャルワーカー：単数回答（Q48D）（世帯タイプ別)

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



35） 公的機関への相談状況_民生委員・児童委員

小学生の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 84.0%でもっとも割合が高く、次いで「相談する窓口や方法がわからなかった」が 6.9%となっている。

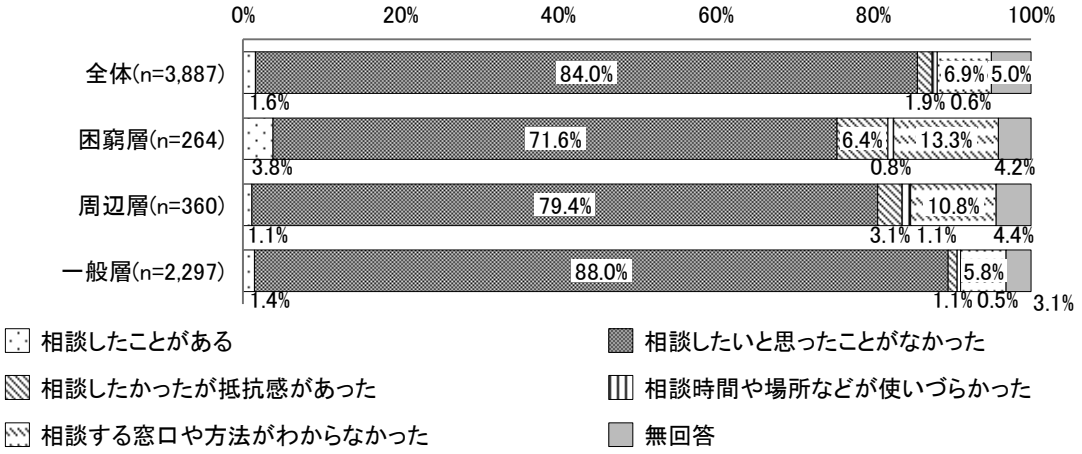
「困窮層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 71.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 79.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 88.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 83.0%でもっとも割合が高く、次いで「相談する窓口や方法がわからなかった」が 6.8%となっている。

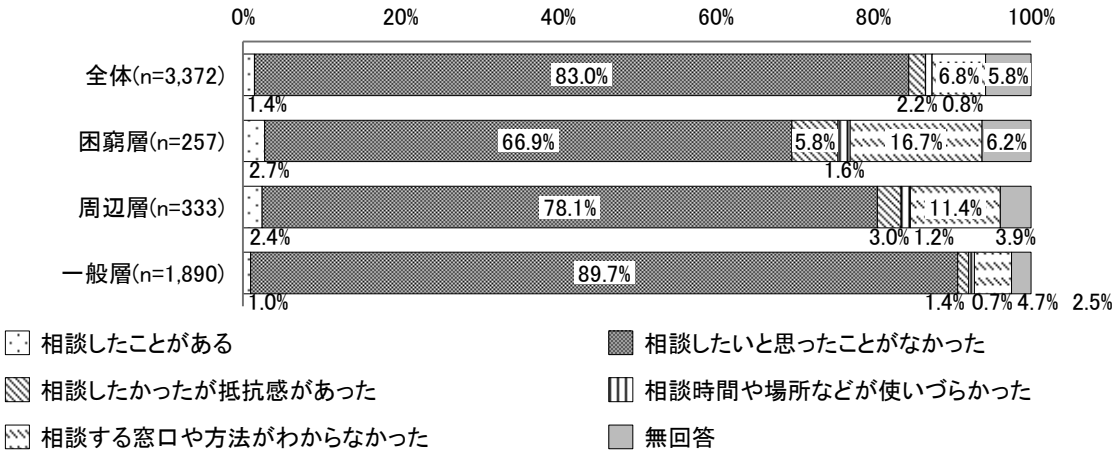
「困窮層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 66.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 78.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 89.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 177　公的機関への相談状況_民生委員・児童委員：単数回答（Q48E）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



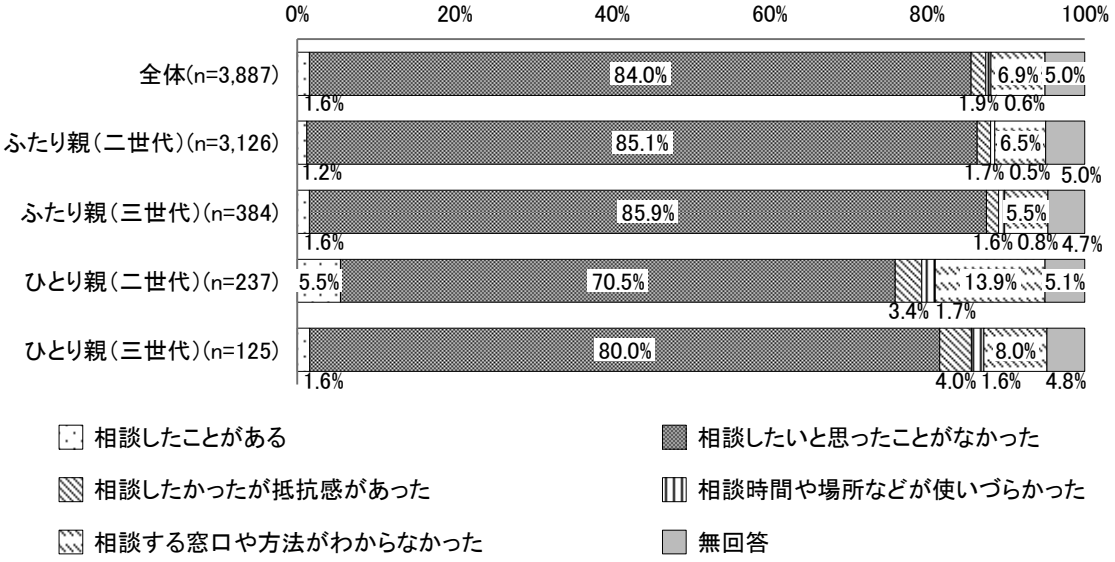
＜中学生＞（p<.01）



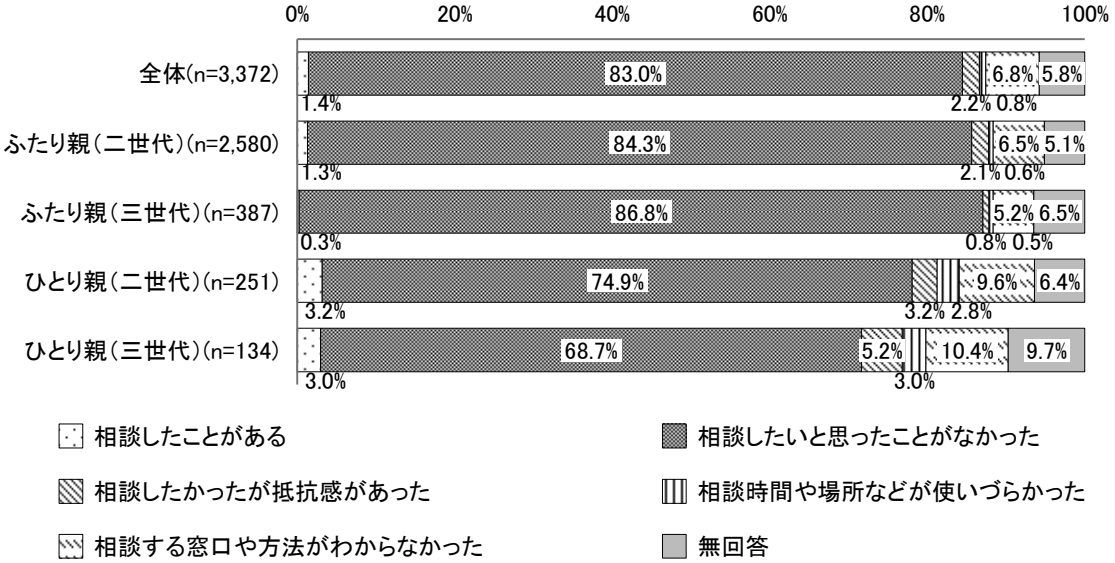
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「相談したいと思ったことがなかった」とする割合が低く、「相談する窓口や方法がわからなかった」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「相談したいと思ったことがなかった」とする割合が低くなっている。

図表 178　公的機関への相談状況_民生委員・児童委員：単数回答（Q48E）（世帯タイプ別）」

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



36） 公的機関への相談状況_保健所

小学生の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 70.7%でもっとも割合が高く、次いで「相談したことがある」が 17.1%となっている。

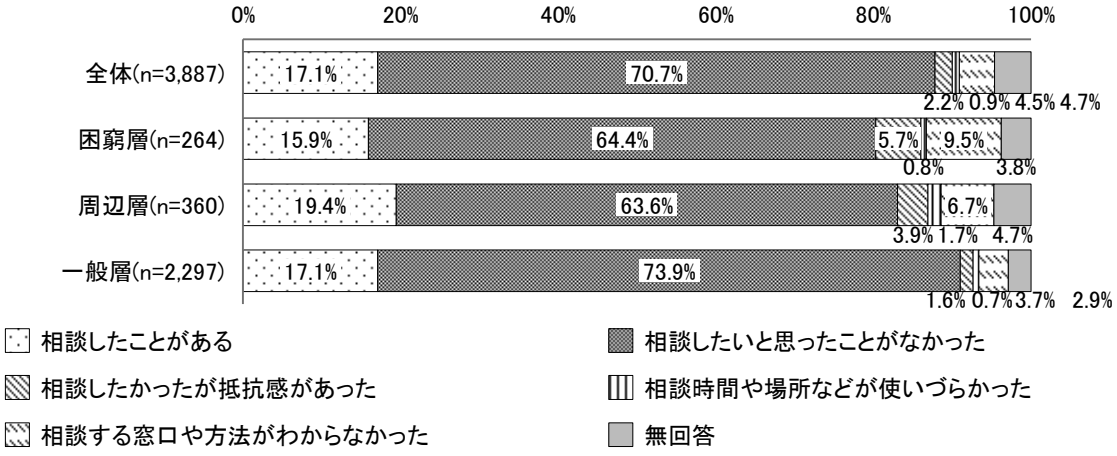
「困窮層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 64.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 63.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 73.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 69.9%でもっとも割合が高く、次いで「相談したことがある」が 17.0%となっている。

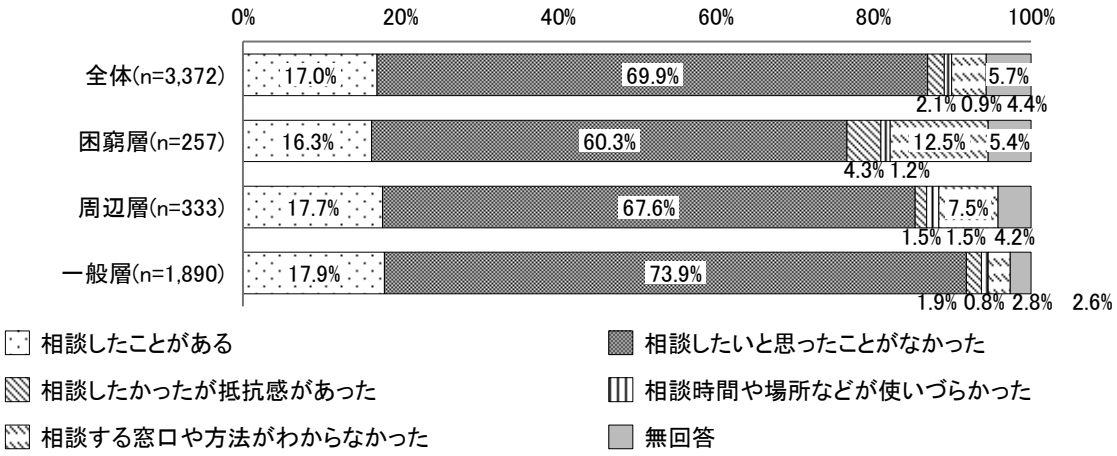
「困窮層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 60.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 67.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 73.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 179　公的機関への相談状況_保健所：単数回答（Q48F）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



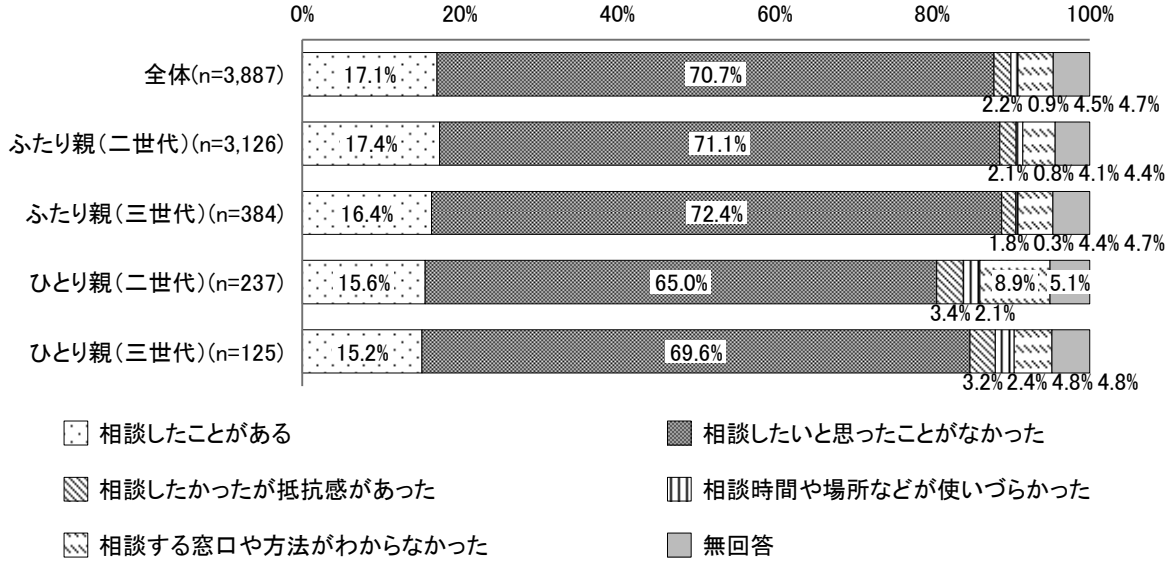
＜中学生＞（p<.01）



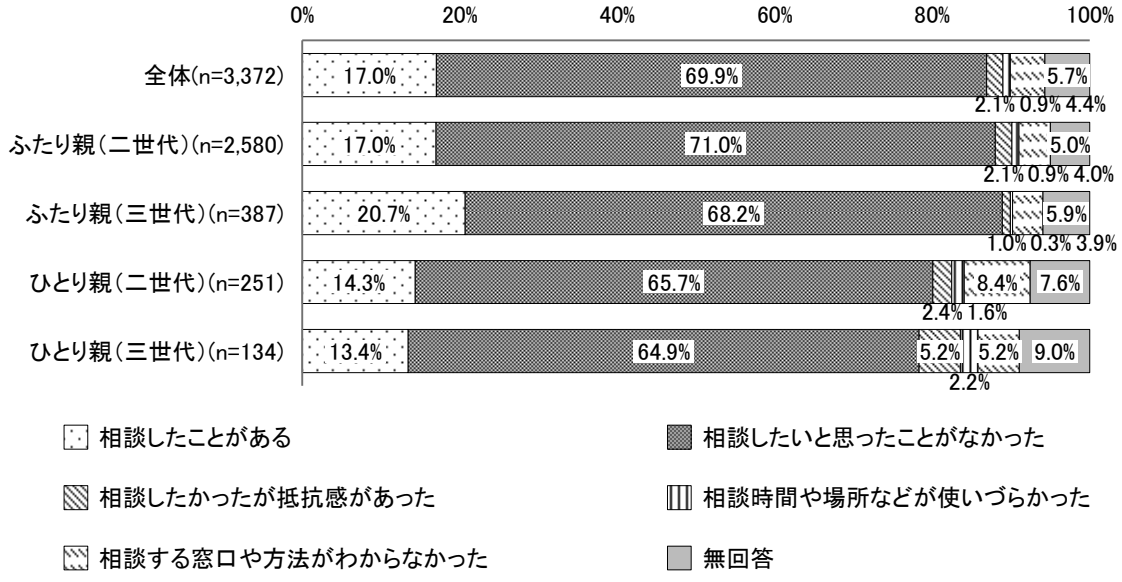
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「相談する窓口や方法がわからなかった」とする割合が高くなっている。

図表 180　公的機関への相談状況_保健所：単数回答（Q48F）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（p<.01）



37） 公的機関への相談状況_中核地域生活支援センター

小学生の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 84.9%でもっとも割合が高く、次いで「相談する窓口や方法がわからなかった」が 7.5%となっている。

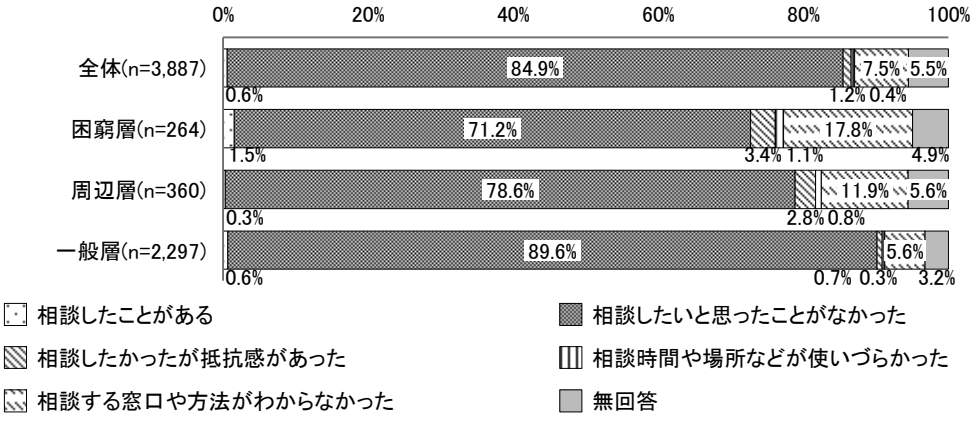
「困窮層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 71.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 78.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 89.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 83.7%でもっとも割合が高く、次いで「相談する窓口や方法がわからなかった」が 7.4%となっている。

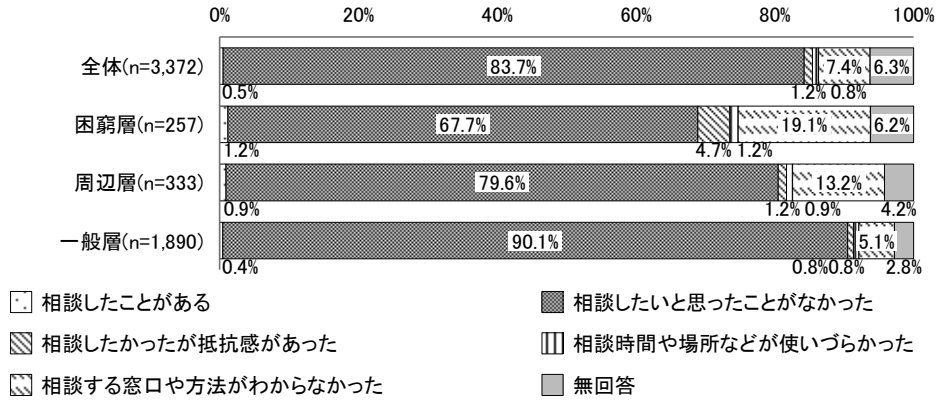
「困窮層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 67.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 79.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 90.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 181　公的機関への相談状況_中核地域生活支援センター：単数回答（Q48G）
（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



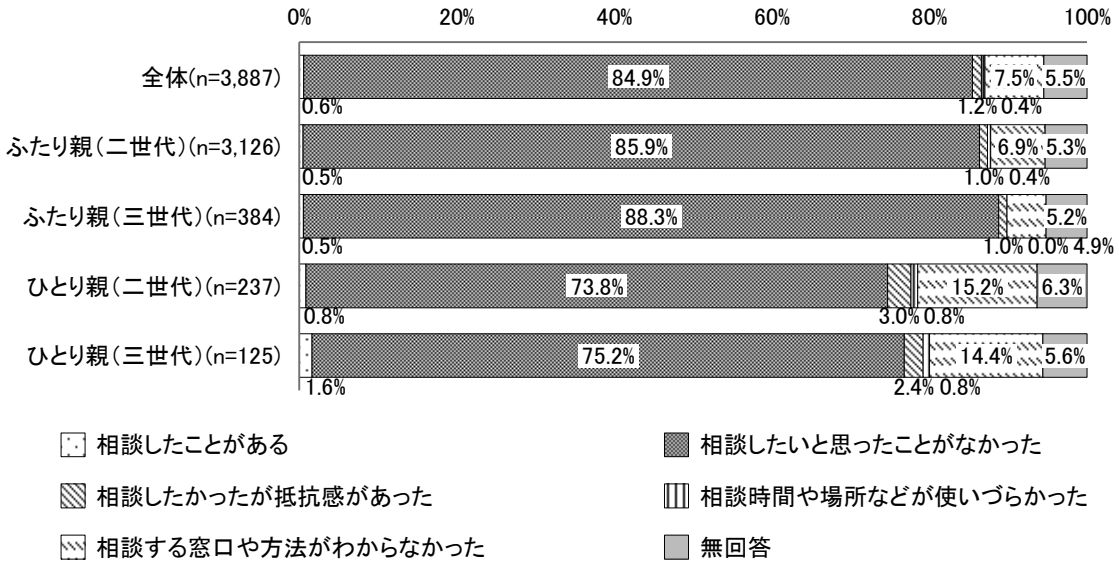
＜中学生＞（p<.01）



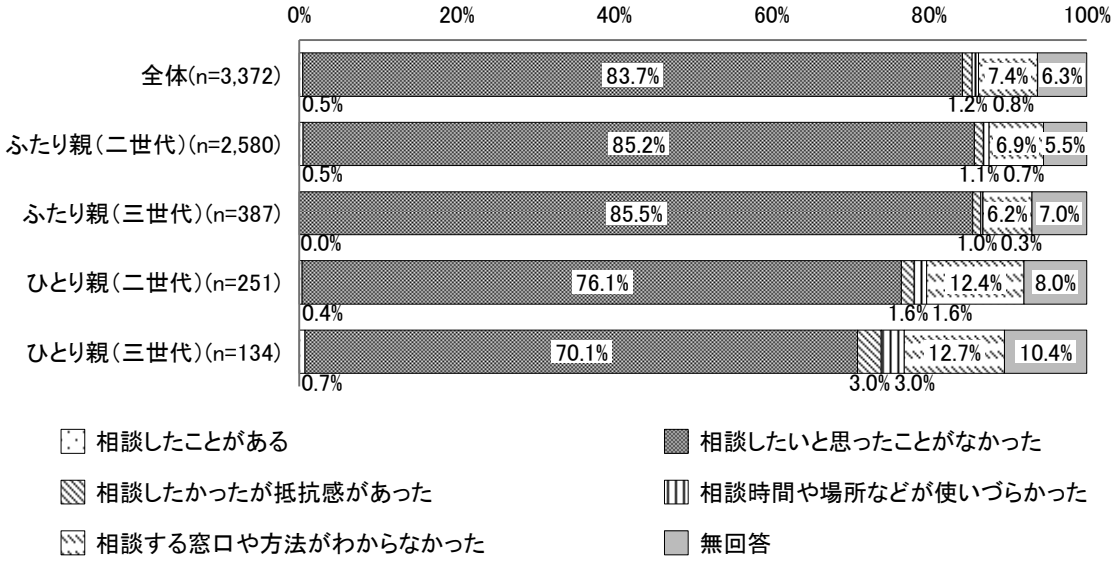
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ひとり親（二世代)」「ひとり親（三世代)」において「相談する窓口や方法がわからなかった」とする割合が高くなっている。

図表 182　公的機関への相談状況_中核地域生活支援センター：単数回答（Q48G）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



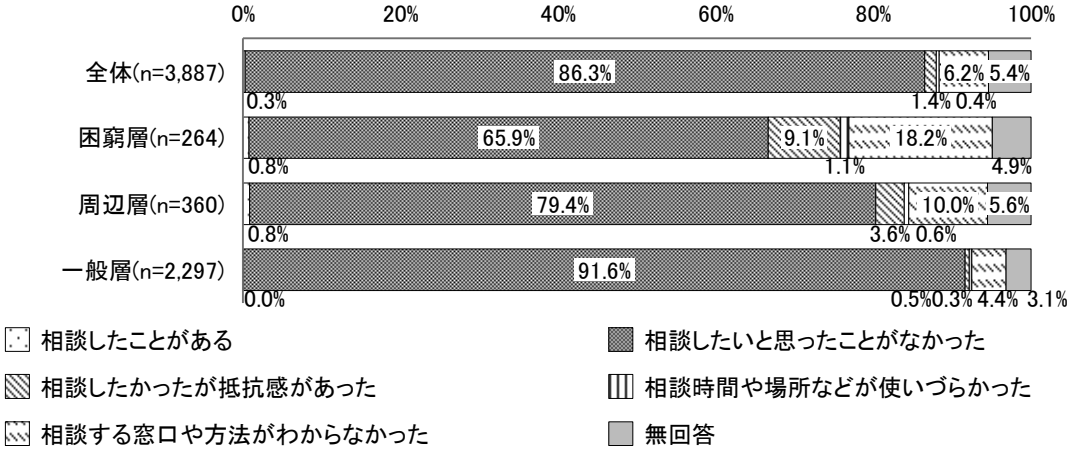
38） 公的機関への相談状況_生活困窮者自立支援制度に基づく相談窓口

小学生の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 86.3%でもっとも割合が高く、次いで「相談する窓口や方法がわからなかった」が 6.2%となっている。「困窮層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 65.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 79.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 91.6%でもっとも割合が高くなっている。

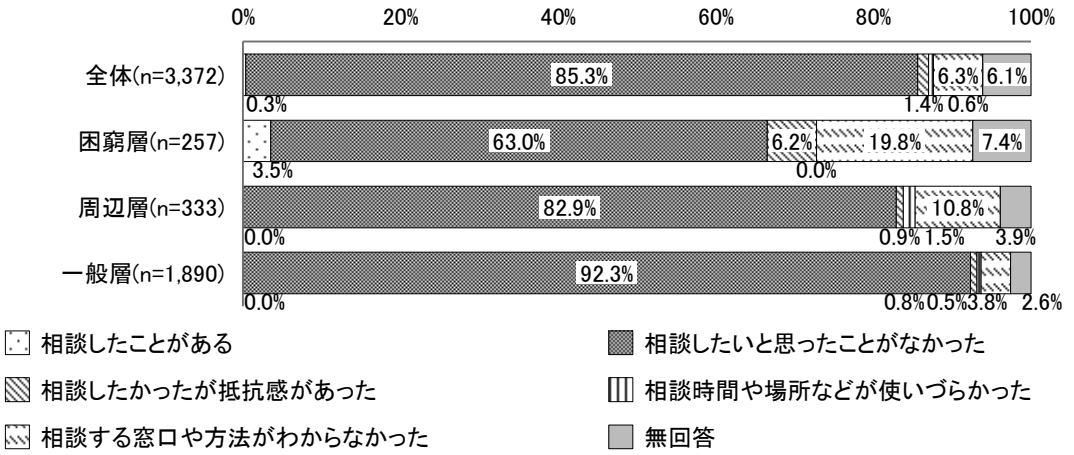
中学生の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 85.3%でもっとも割合が高く、次いで「相談する窓口や方法がわからなかった」が 6.3%となっている。「困窮層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 63.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 82.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 92.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 183　公的機関への相談状況_生活困窮者自立支援制度に基づく相談窓口：単数回答（Q48H）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



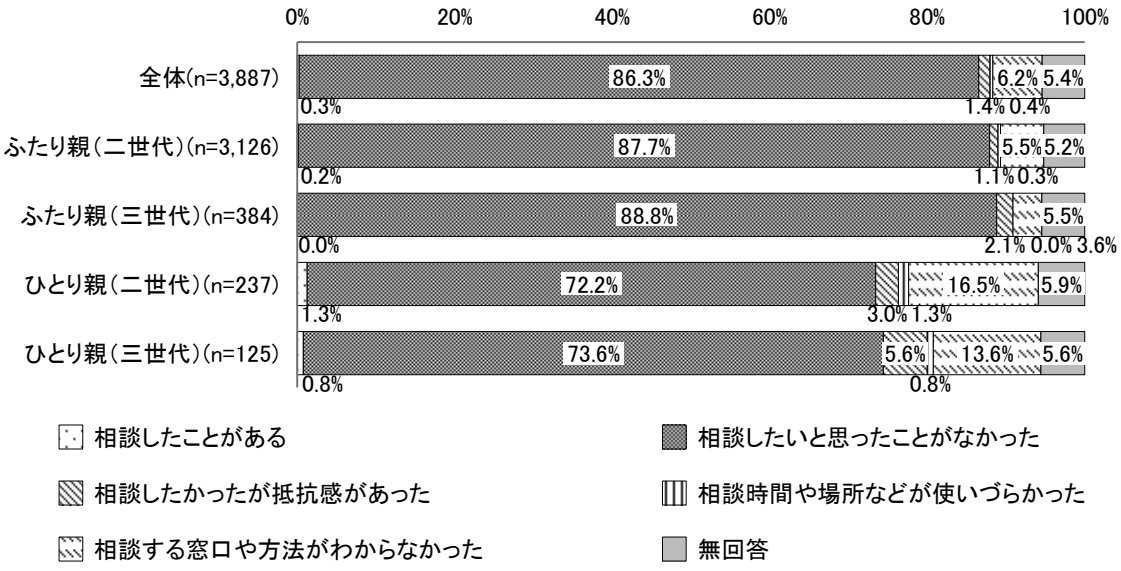
＜中学生＞（p<.01）



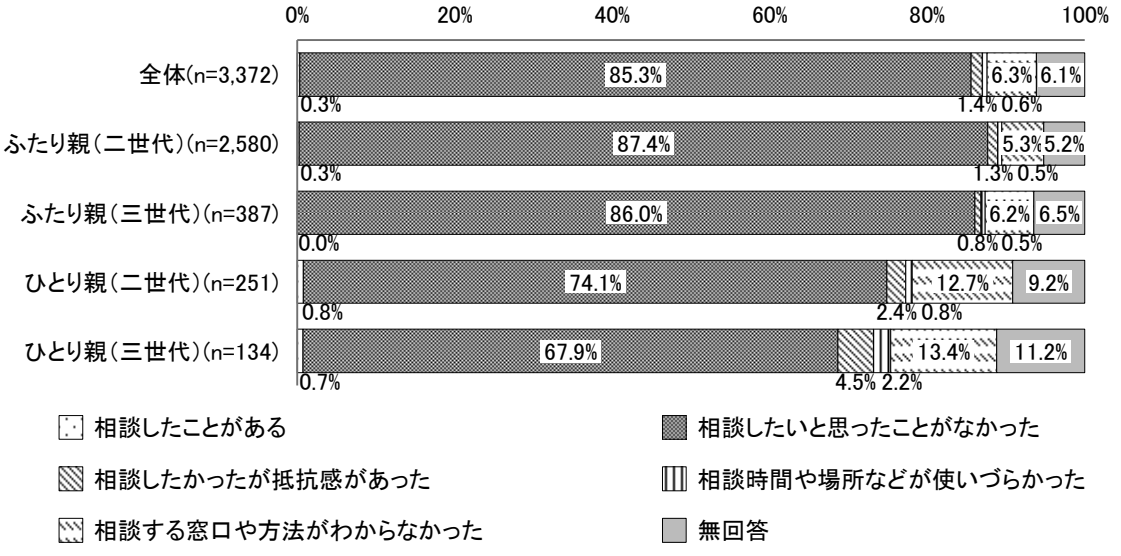
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ひとり親（二世代)」「ひとり親（三世代)」において「相談する窓口や方法がわからなかった」とする割合が高くなっている。

図表 184　公的機関への相談状況_生活困窮者自立支援制度に基づく相談窓口：単数回答（Q48H）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



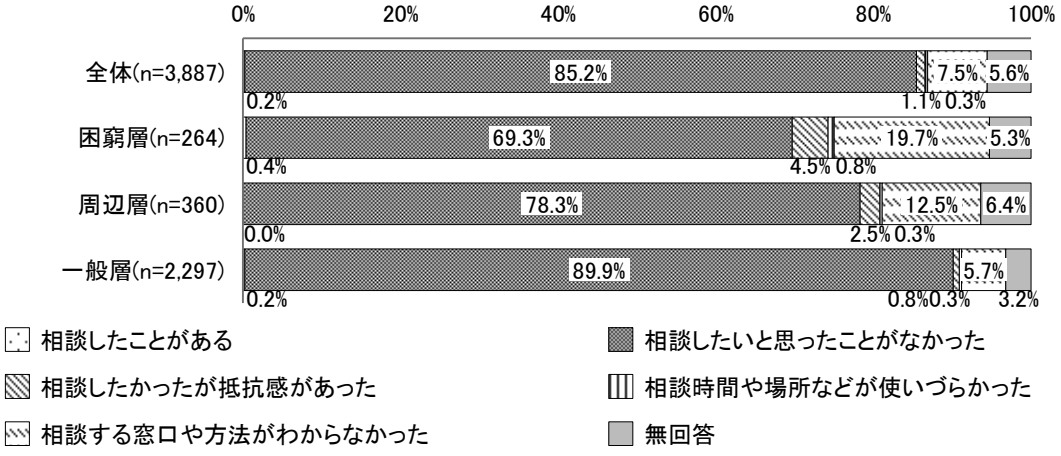
39）公的機関への相談状況_千葉県子ども・若者総合相談センター「ライトハウスちば」

小学生の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 85.2%でもっとも割合が高く、次いで「相談する窓口や方法がわからなかった」が 7.5%となっている。「困窮層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 69.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 78.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 89.9%でもっとも割合が高くなっている。

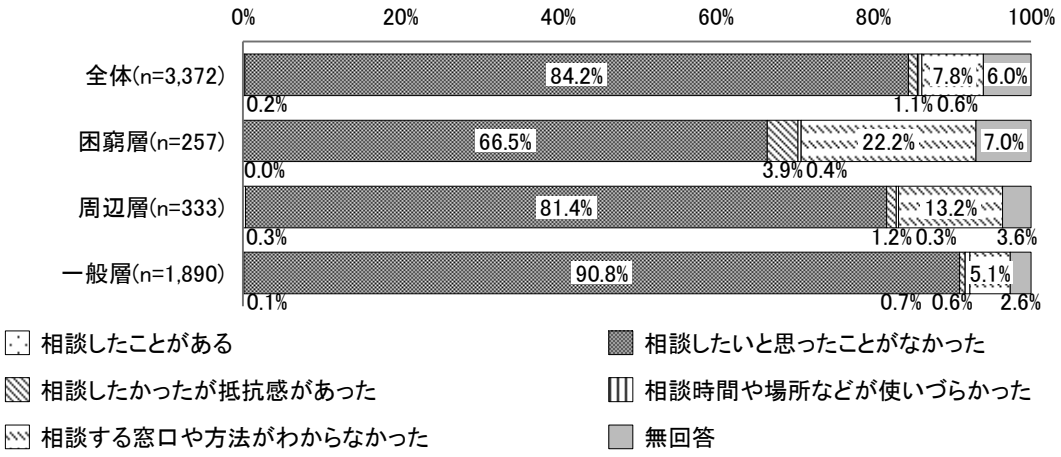
中学生の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 84.2%でもっとも割合が高く、次いで「相談する窓口や方法がわからなかった」が 7.8%となっている。「困窮層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 66.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 81.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 90.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 185　公的機関への相談状況_千葉県子ども・若者総合相談センター「ライトハウスちば」：単数回答（Q48I）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



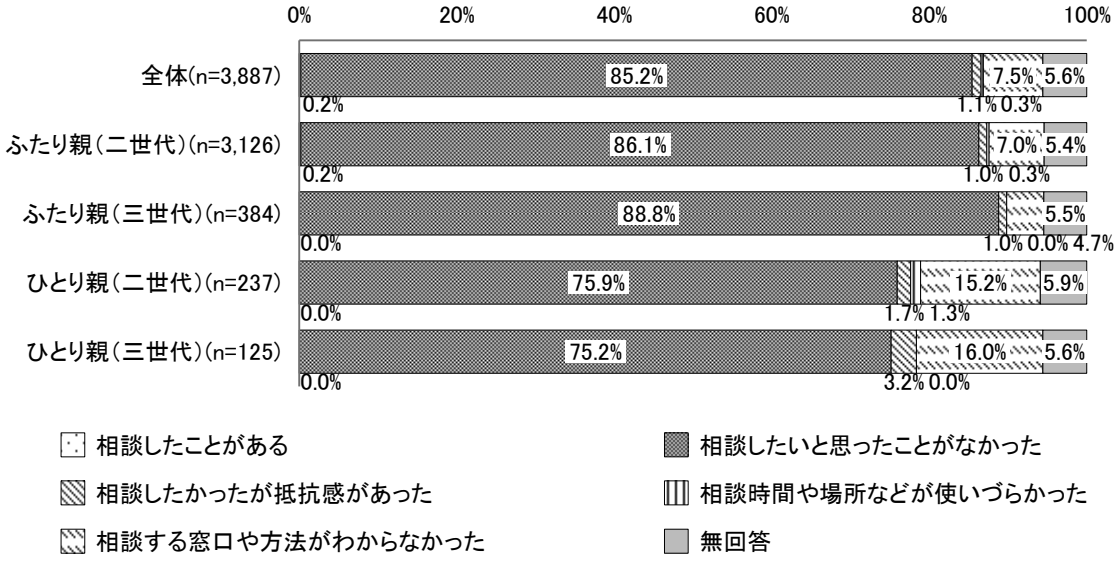
＜中学生＞（p<.01）



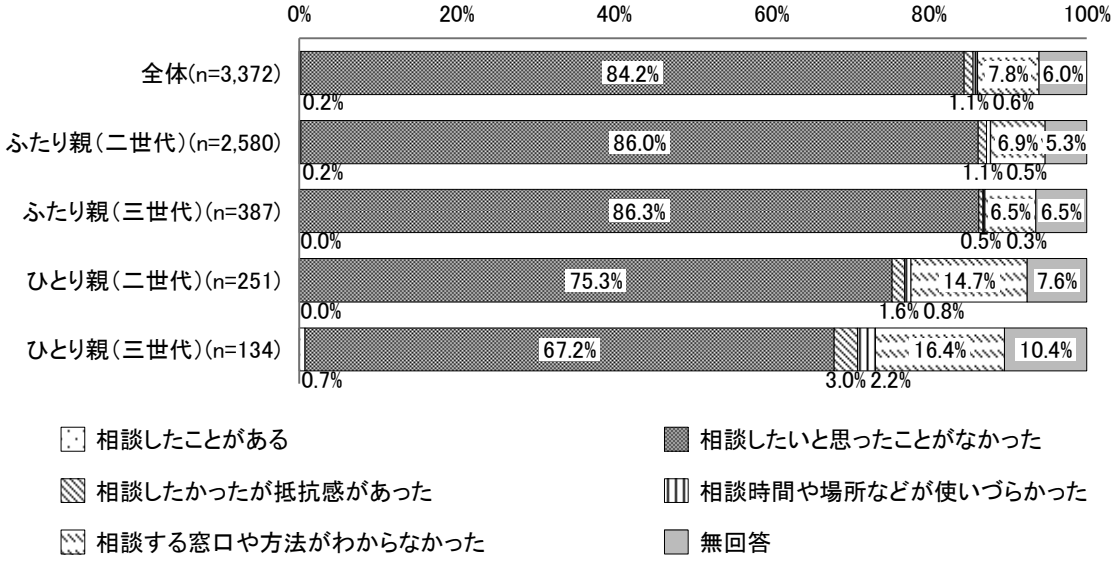
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「相談する窓口や方法がわからなかった」とする割合が高くなっている。

図表 186　公的機関への相談状況_千葉県子ども・若者総合相談センター「ライトハウスちば」：単数回答（Q48I）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



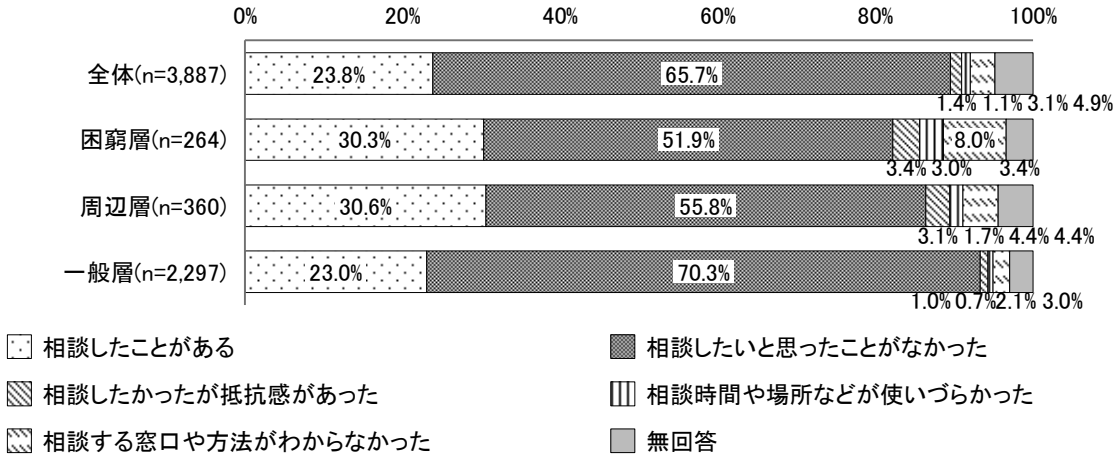
40） 公的機関への相談状況_ハローワーク

小学生の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 65.7%でもっとも割合が高く、次いで「相談したことがある」が 23.8%となっている。「困窮層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 51.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 55.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 70.3%でもっとも割合が高くなっている。

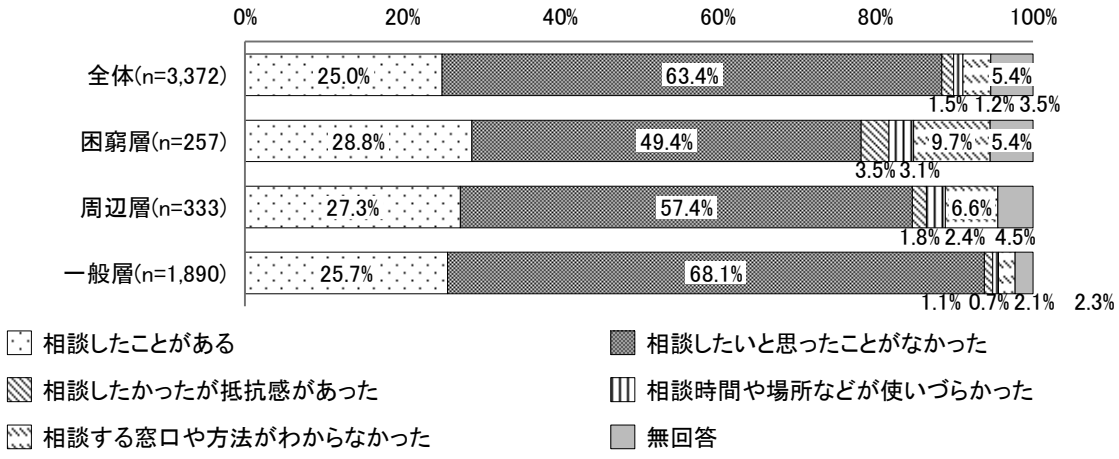
中学生の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 63.4%でもっとも割合が高く、次いで「相談したことがある」が 25.0%となっている。「困窮層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 49.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 57.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 68.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 187　公的機関への相談状況_ハローワーク：単数回答（Q48J）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



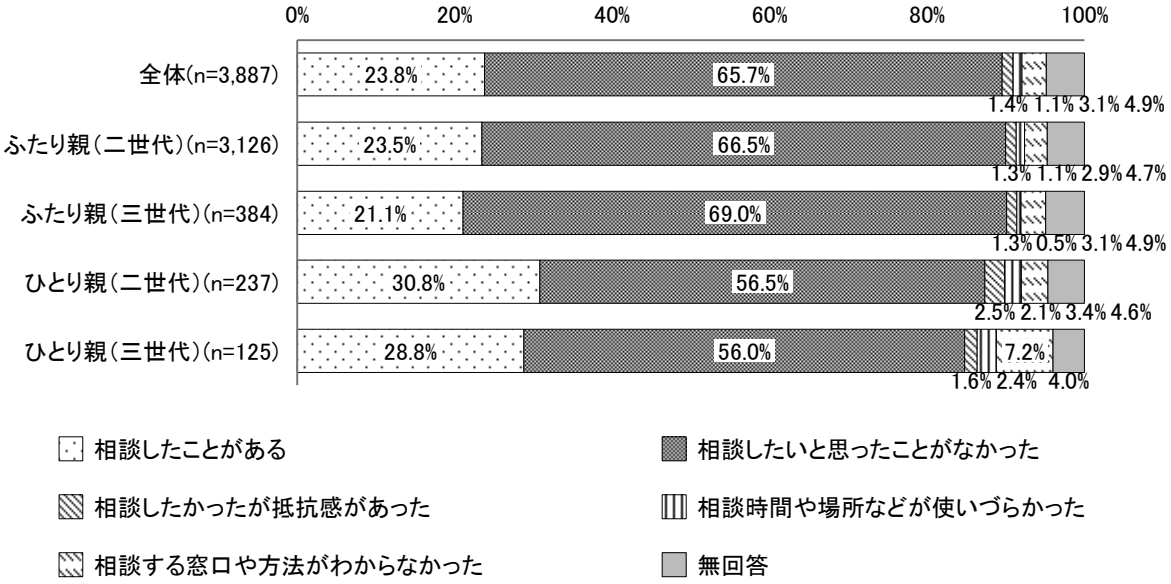
＜中学生＞（p<.01）



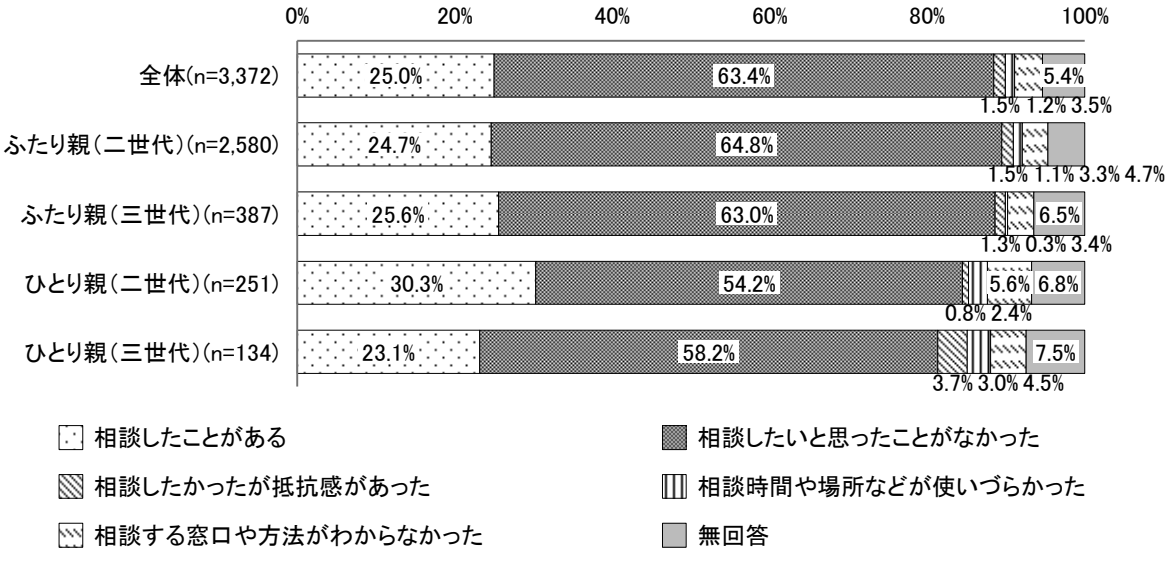
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ひとり親（二世代)」において「相談したことがある」とする割合が高くなっている。

図表 188　公的機関への相談状況_ハローワーク：単数回答（Q48J）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



41） 公的機関への相談状況_上記以外の公的機関

小学生の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 79.7%でもっとも割合が高く、次いで「相談する窓口や方法がわからなかった」が 6.5%となっている。

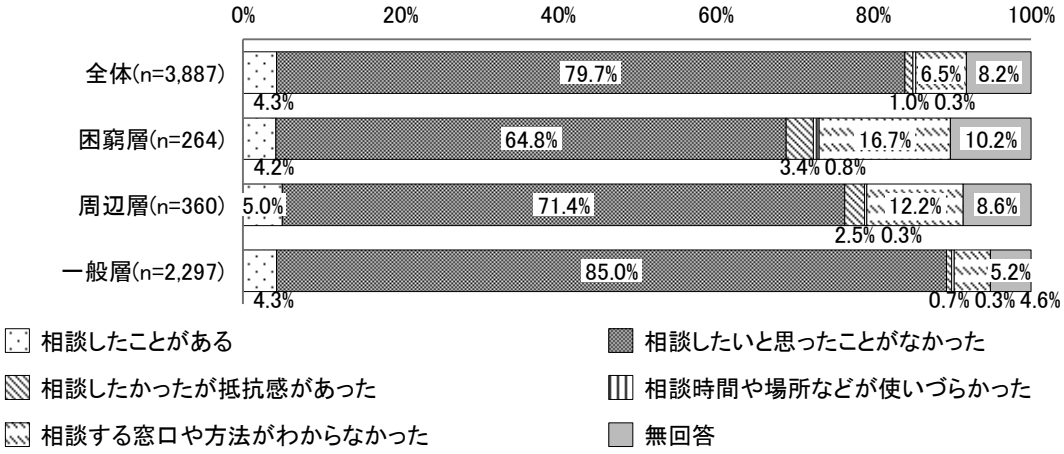
「困窮層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 64.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 71.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 85.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 78.9%でもっとも割合が高く、次いで「相談する窓口や方法がわからなかった」が 7.0%となっている。

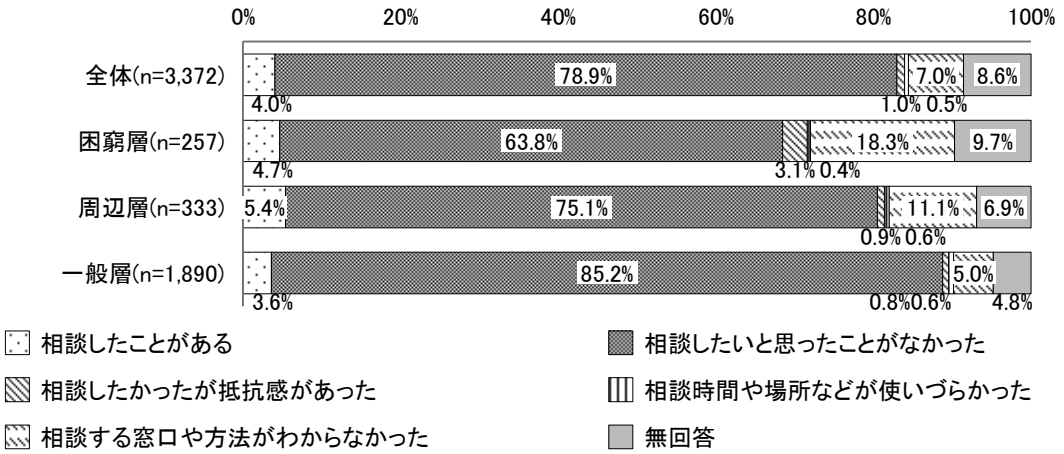
「困窮層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 63.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 75.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「相談したいと思ったことがなかった」が 85.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 189　公的機関への相談状況_上記以外の公的機関：単数回答（Q48K）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



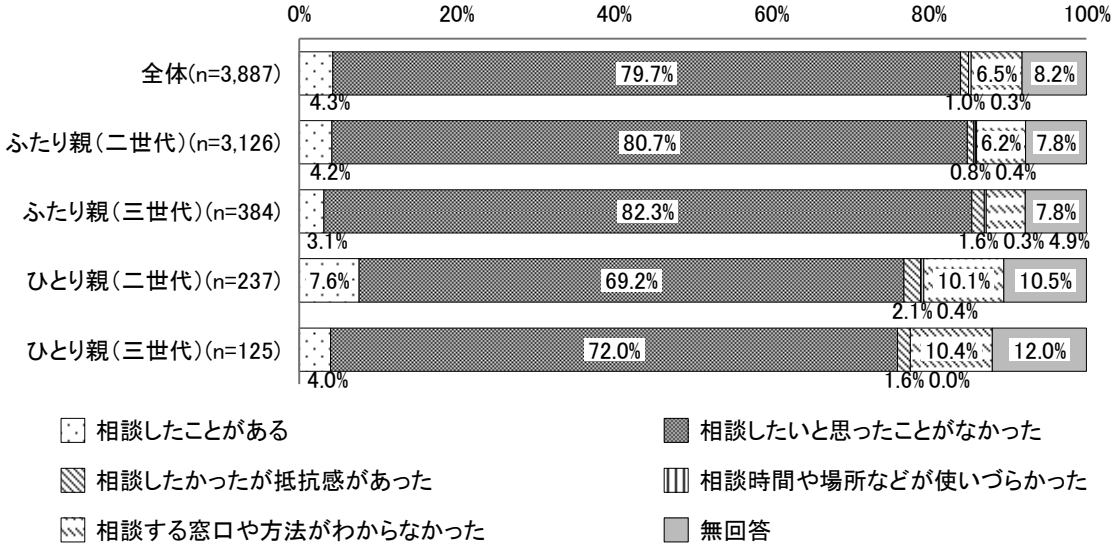
＜中学生＞（p<.01）



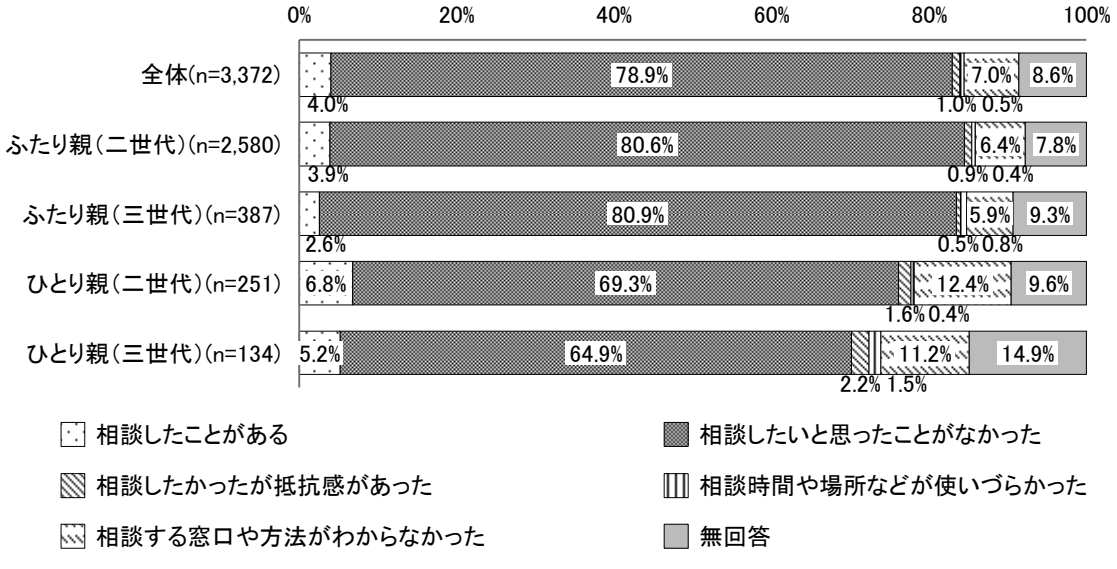
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ひとり親（二世代)」「ひとり親（三世代)」において「相談する窓口や方法がわからなかった」とする割合が高くなっている。

図表 190　公的機関への相談状況_上記以外の公的機関：単数回答（Q48K）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



42）こどもに関する支援制度等の情報_現在の受け取り方法

小学生の「全体」では、「学校からのお便り」が 73.5%でもっとも割合が高く、次いで「学校からのメール」が 56.4%となっている。

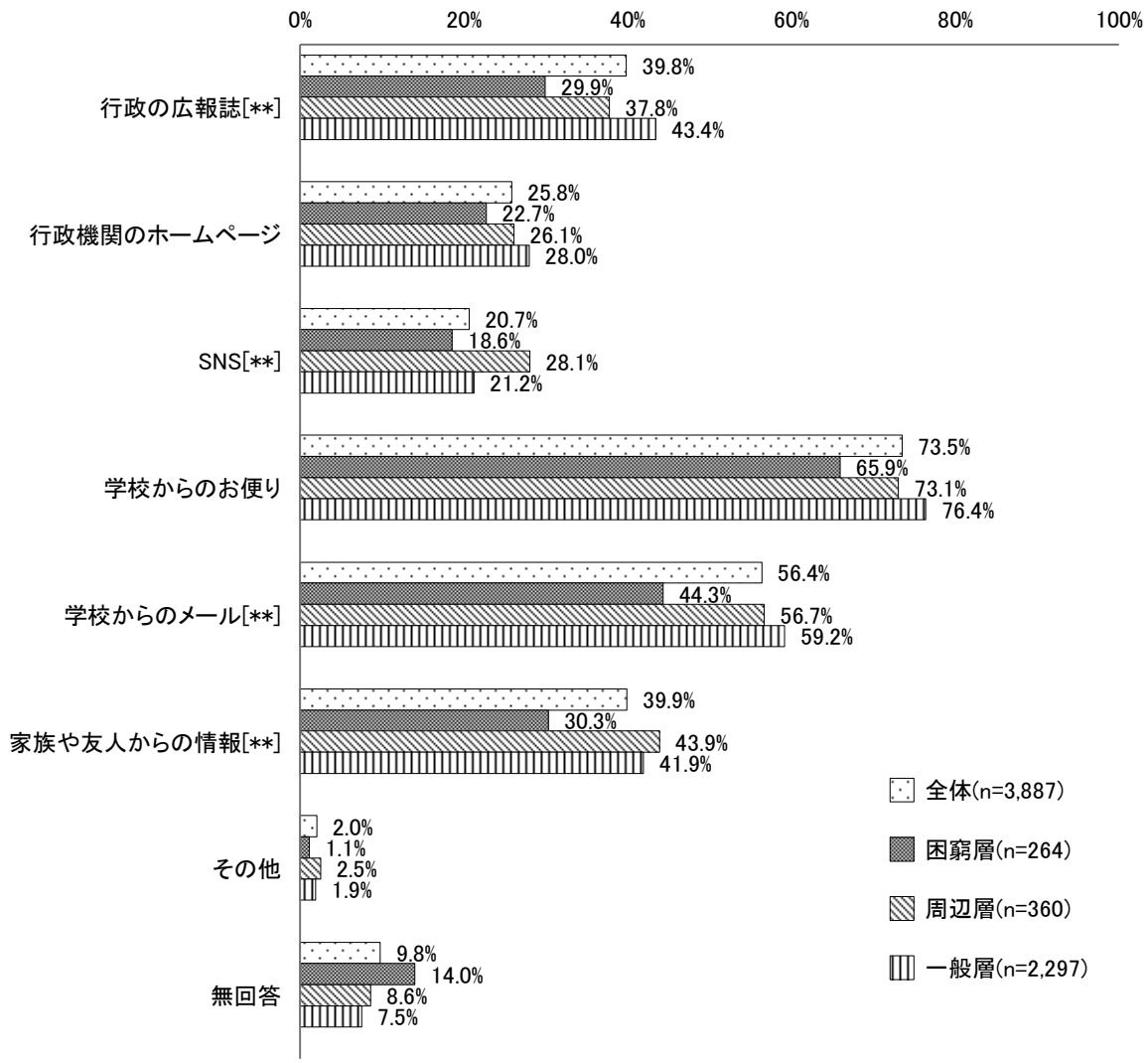
「困窮層」では、「学校からのお便り」が 65.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「学校からのお便り」が 73.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「学校からのお便り」が 76.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「学校からのお便り」が 72.6%でもっとも割合が高く、次いで「学校からのメール」が 59.3%となっている。

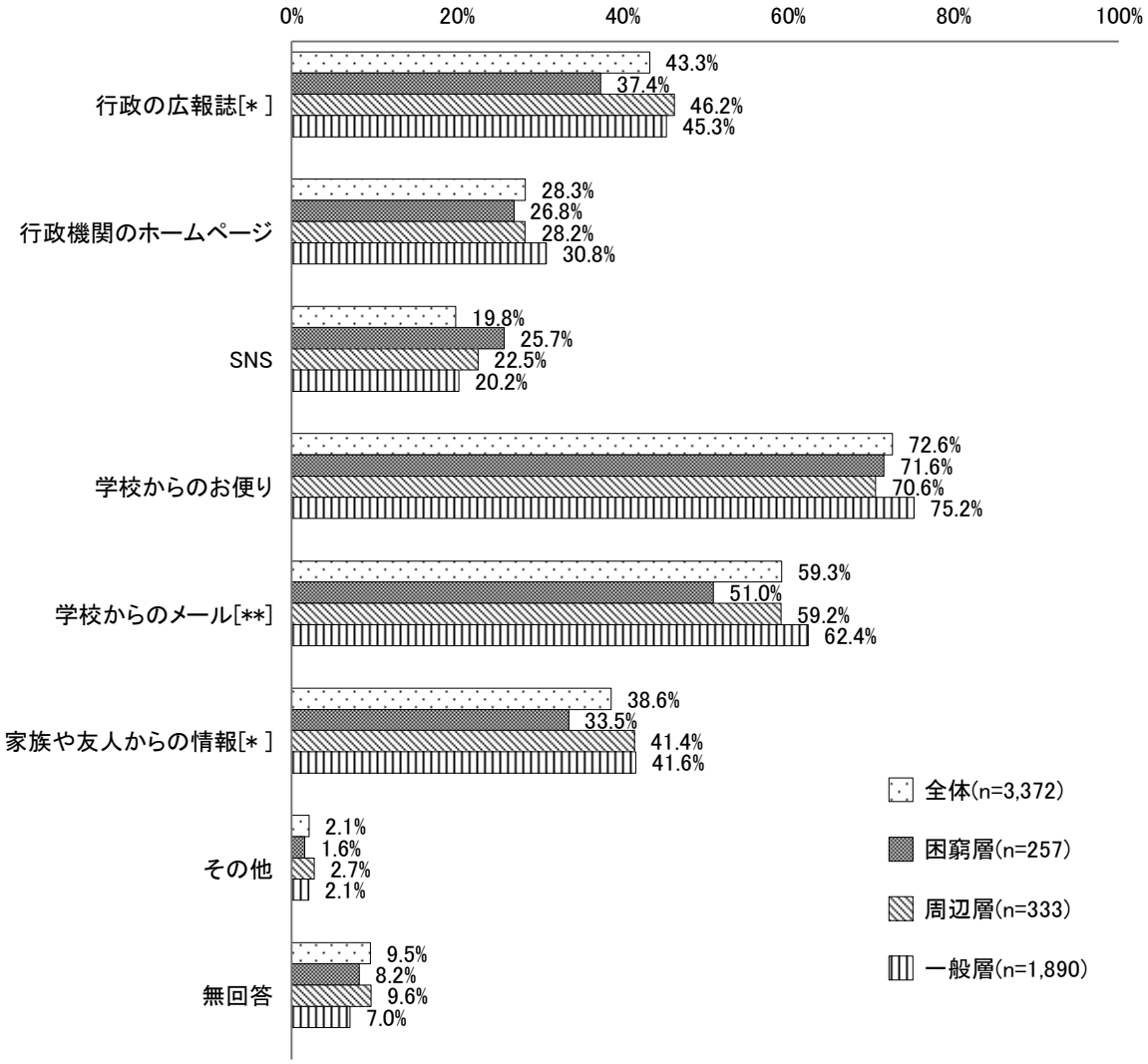
「困窮層」では、「学校からのお便り」が 71.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「学校からのお便り」が 70.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「学校からのお便り」が 75.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 191　こどもに関する支援制度等の情報_現在の受け取り方法：複数回答（Q49_1）（生活困難度別）

＜小学生＞



＜中学生＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
行政の広報誌[＊]
43.3%
37.4%
46.2%
45.3%
行政機関のホームページ
28.3%
26.8%
28.2%
30.8%
SNS
19.8%
25.7%
22.5%
20.2%
学校からのお便り
72.6%
71.6%
70.6%
75.2%
学校からのメール[**]
59.3%
51.0%
59.2%
62.4%
家族や友人からの情報[＊]
38.6%
33.5%
41.4%
41.6%
その他
2.1%
1.6%
2.7%
2.1%
無回答
9.5%
8.2%
9.6%
7.0%
全体(n=3,372)
困窮層(n=257)
周辺層(n=333)
一般層(n=1,890)

43）こどもに関する支援制度等の情報_今後、受け取りたい方法

小学生の「全体」では、「学校からのメール」が 49.9%でもっとも割合が高く、次いで「学校からのお便り」が 48.7%となっている。

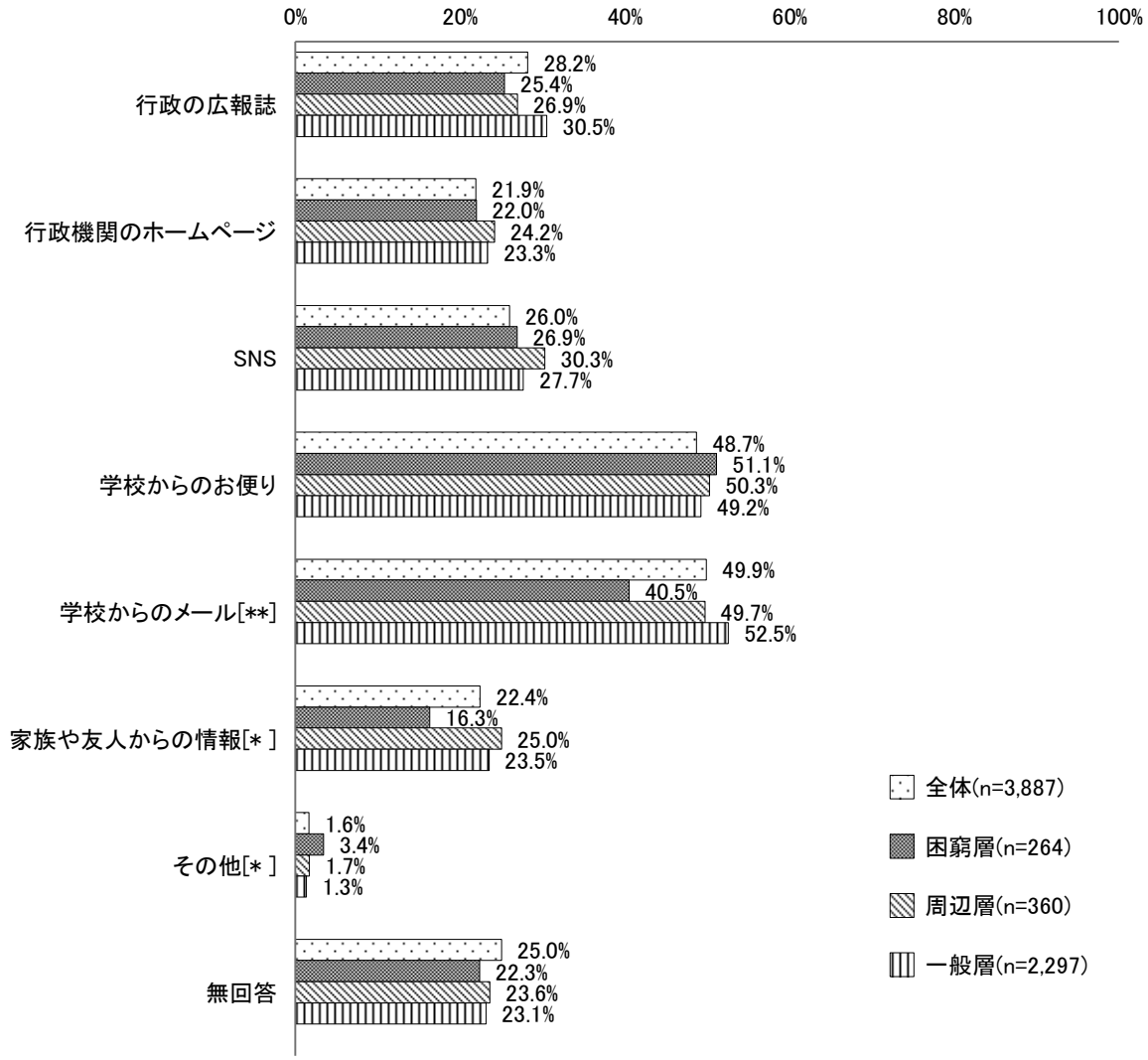
「困窮層」では、「学校からのお便り」が 51.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「学校からのお便り」が 50.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「学校からのメール」が 52.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「学校からのメール」が 47.2%でもっとも割合が高く、次いで「学校からのお便り」が 45.8%となっている。

「困窮層」では、「学校からのお便り」が 49.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「学校からのメール」が 47.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「学校からのメール」が 49.7%でもっとも割合が高くなっている。

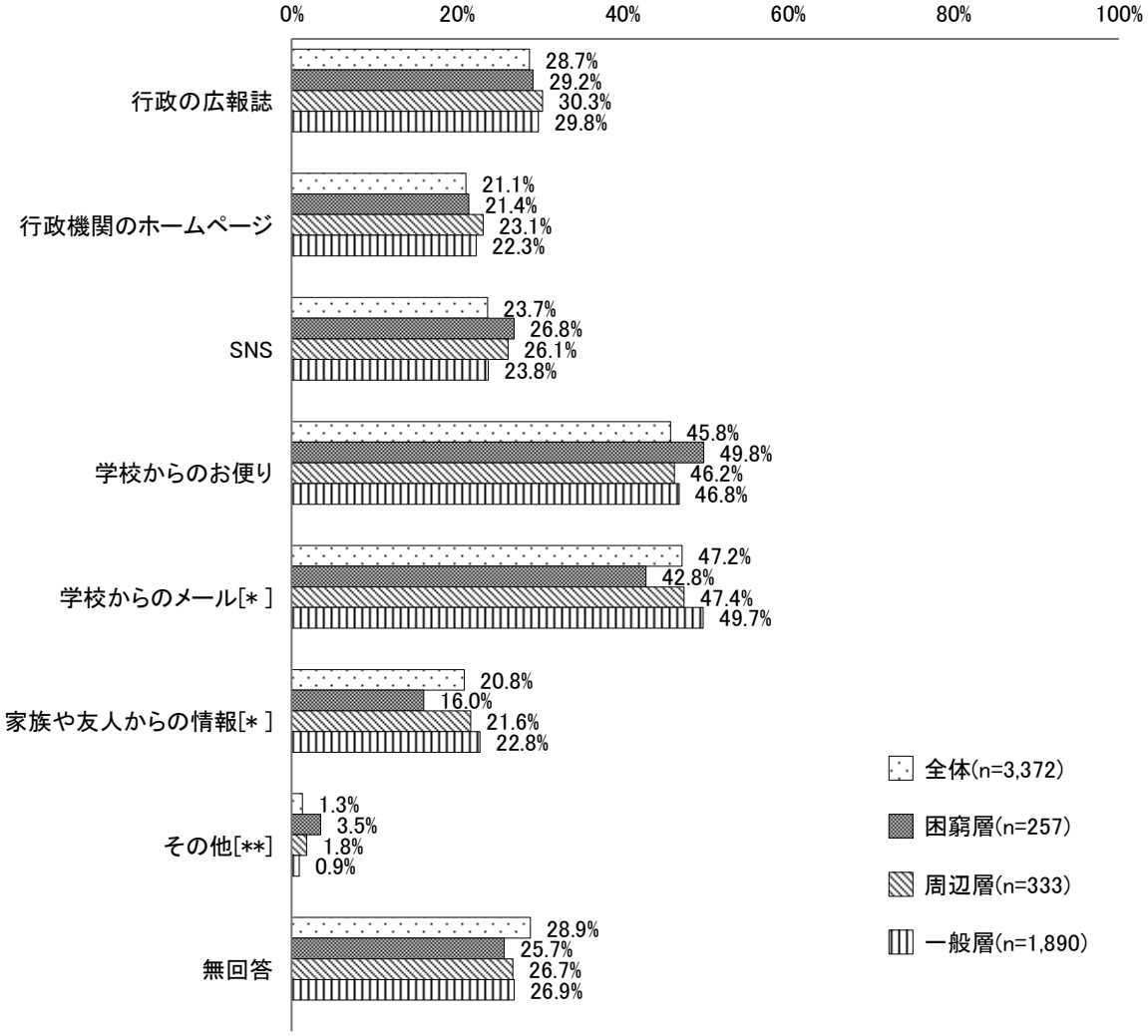
図表 192　こどもに関する支援制度等の情報_今後、受け取りたい方法：複数回答（Q49_2）（生活困難度別）

＜小学生＞



＜中学生＞

図表 193　こどもに関する支援制度等の情報_今後、受け取りたい方法：複数回答（Q49_2）



２．こどもアンケート集計結果

（１）学校・勉強について

1)　学校生活_算数/数学の授業

小学生の「全体」では、「楽しみ」が 30.1%でもっとも割合が高く、次いで「少し楽しみ」が 29.3%となっている。

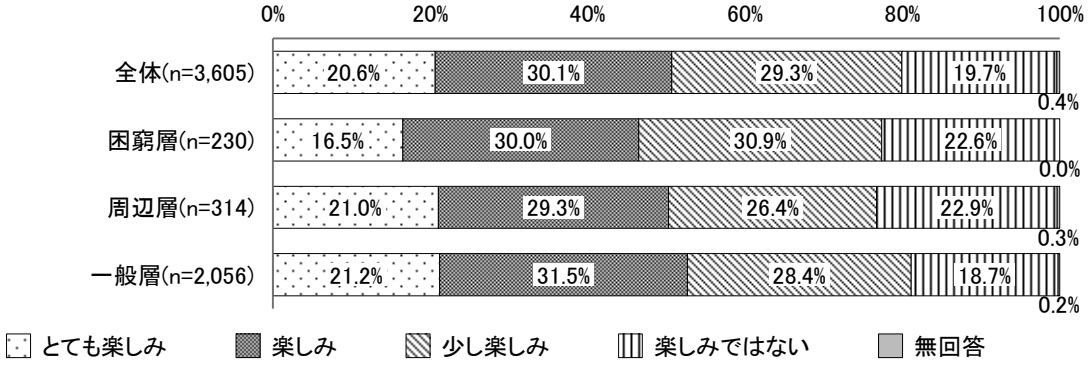
「困窮層」では、「少し楽しみ」が 30.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「楽しみ」が 29.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「楽しみ」が 31.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「少し楽しみ」が 30.1%でもっとも割合が高く、次いで「楽しみ」が 28.9%となっている。

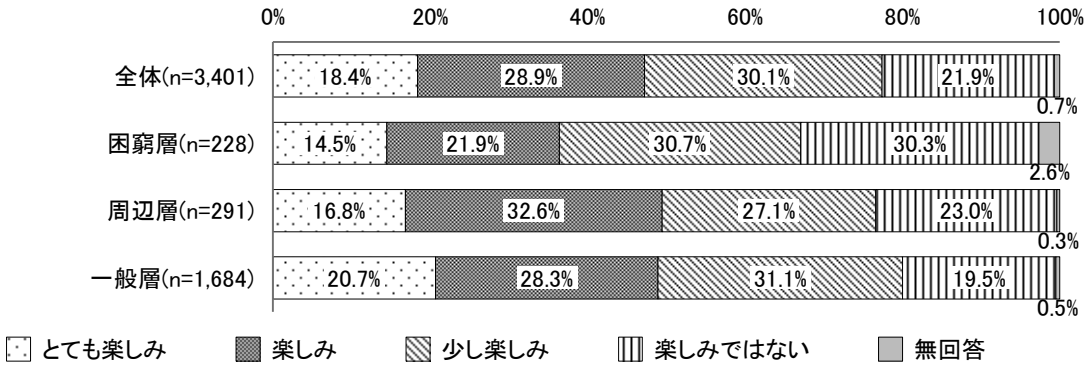
「困窮層」では、「少し楽しみ」が 30.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「楽しみ」が 32.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「少し楽しみ」が 31.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 194　学校生活_算数/数学の授業：単数回答（Q3A）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.01）



2) 学校生活_国語の授業

小学生の「全体」では、「楽しみ」が 36.1%でもっとも割合が高く、次いで「少し楽しみ」が 32.7%となっている。

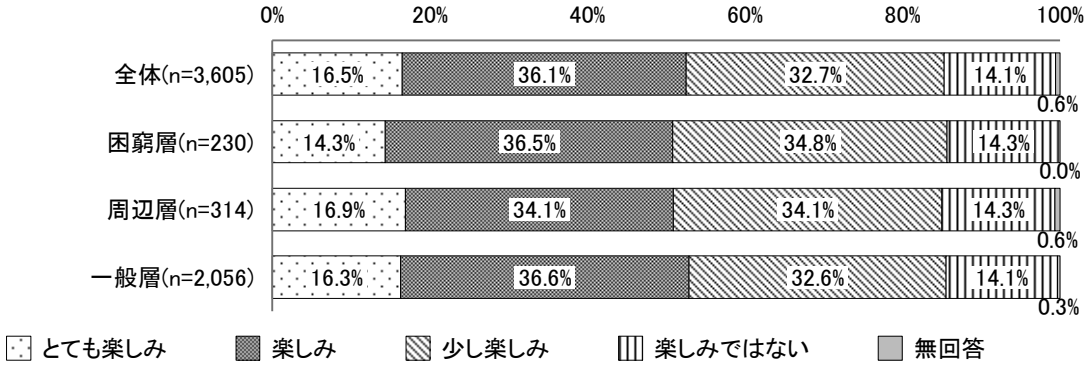
「困窮層」では、「楽しみ」が 36.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「楽しみ」「少し楽しみ」が 34.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「楽しみ」が 36.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「楽しみ」が 35.2%でもっとも割合が高く、次いで「少し楽しみ」が 31.7%となっている。

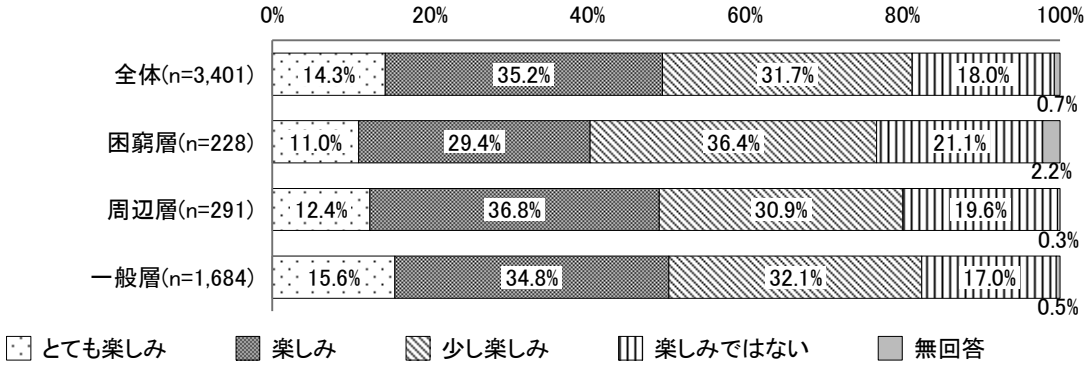
「困窮層」では、「少し楽しみ」が 36.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「楽しみ」が 36.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「楽しみ」が 34.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 195　学校生活_国語の授業：単数回答（Q3B）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



3) 学校生活_理科の授業

小学生の「全体」では、「とても楽しみ」が 38.4%でもっとも割合が高く、次いで「楽しみ」が 35.9%となっている。

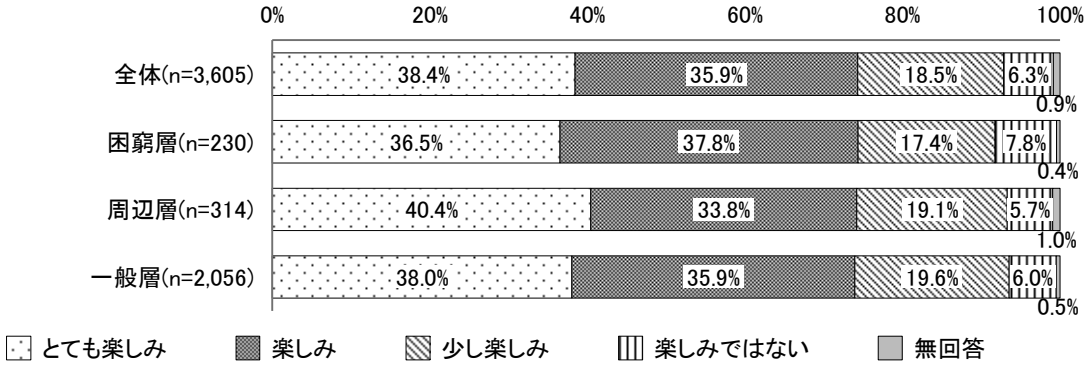
「困窮層」では、「楽しみ」が 37.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても楽しみ」が 40.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても楽しみ」が 38.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「楽しみ」が 36.4%でもっとも割合が高く、次いで「少し楽しみ」が 26.9%となっている。

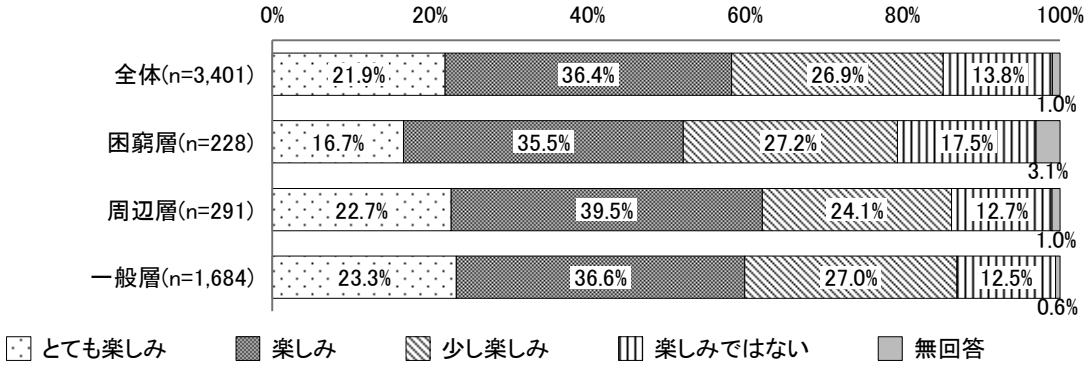
「困窮層」では、「楽しみ」が 35.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「楽しみ」が 39.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「楽しみ」が 36.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 196　学校生活_理科の授業：単数回答（Q3C）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



4） 学校生活_社会の授業

小学生の「全体」では、「楽しみ」が 31.7%でもっとも割合が高く、次いで「とても楽しみ」が 29.8%となっている。

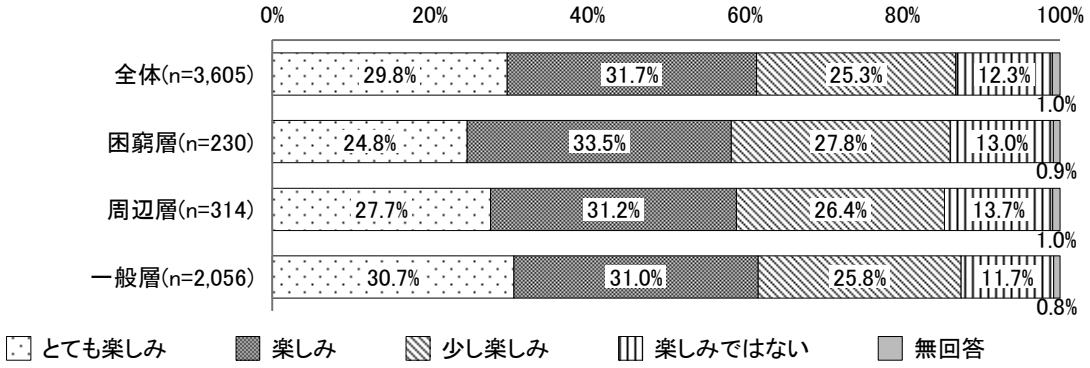
「困窮層」では、「楽しみ」が 33.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「楽しみ」が 31.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「楽しみ」が 31.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「楽しみ」が 31.6%でもっとも割合が高く、次いで「少し楽しみ」が 27.3%となっている。

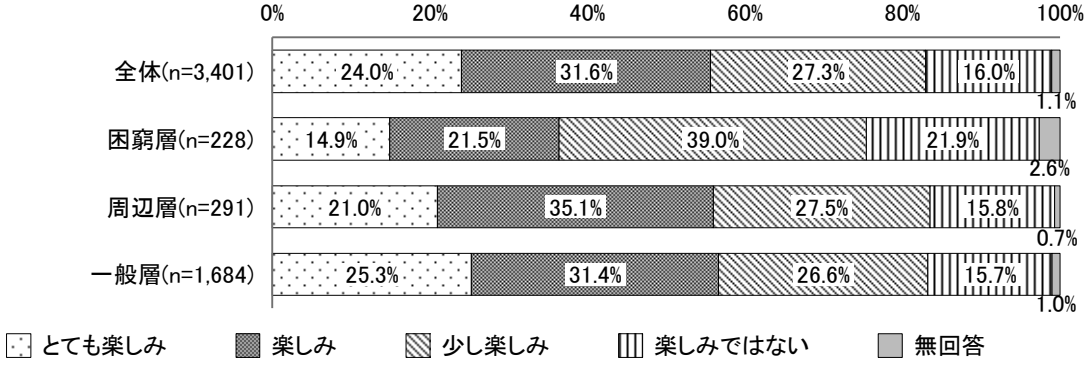
「困窮層」では、「少し楽しみ」が 39.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「楽しみ」が 35.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「楽しみ」が 31.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 197　学校生活_社会の授業：単数回答（Q3D）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.01）



5)　学校生活_音楽の授業

小学生の「全体」では、「とても楽しみ」が 39.3%でもっとも割合が高く、次いで「楽しみ」が 31.7%となっている。

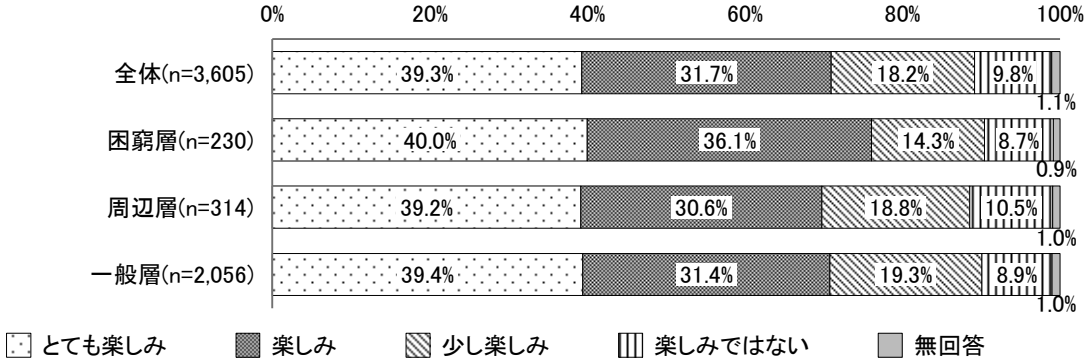
「困窮層」では、「とても楽しみ」が 40.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても楽しみ」が 39.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても楽しみ」が 39.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「楽しみ」が 31.8%でもっとも割合が高く、次いで「とても楽しみ」が 28.1%となっている。

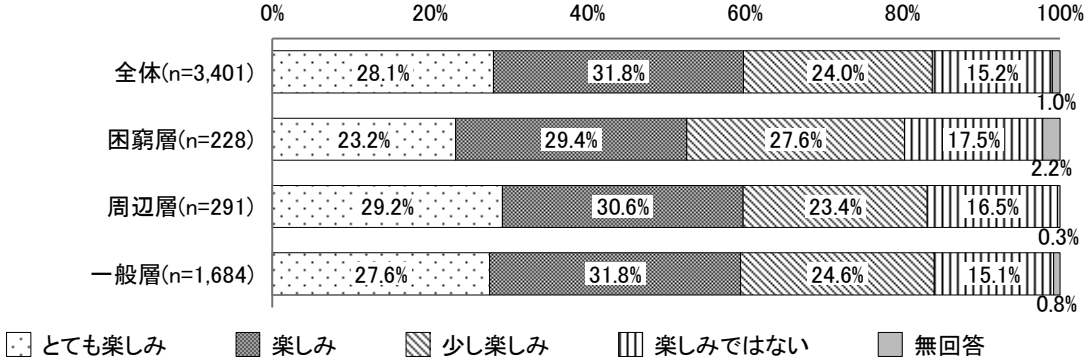
「困窮層」では、「楽しみ」が 29.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「楽しみ」が 30.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「楽しみ」が 31.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 198　学校生活_音楽の授業：単数回答（Q3E）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



6） 学校生活_図工・美術の授業

小学生の「全体」では、「とても楽しみ」が 62.6%でもっとも割合が高く、次いで「楽しみ」が 23.0%となっている。

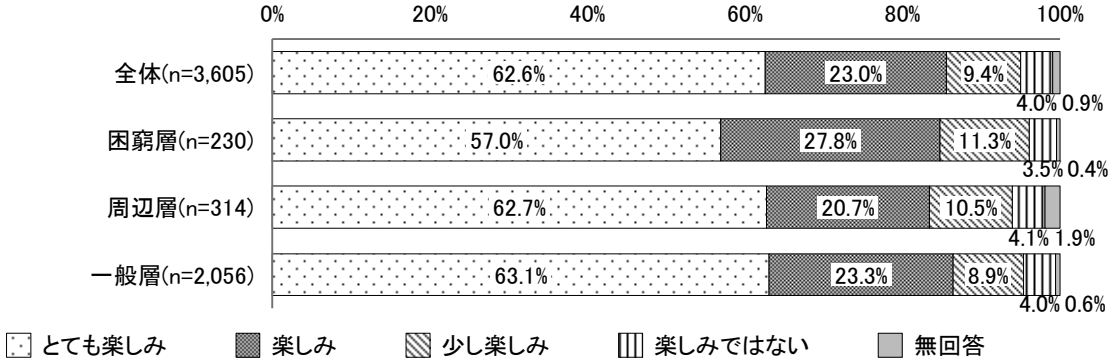
「困窮層」では、「とても楽しみ」が 57.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても楽しみ」が 62.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても楽しみ」が 63.1%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「楽しみ」が 32.7%でもっとも割合が高く、次いで「とても楽しみ」が 31.7%となっている。

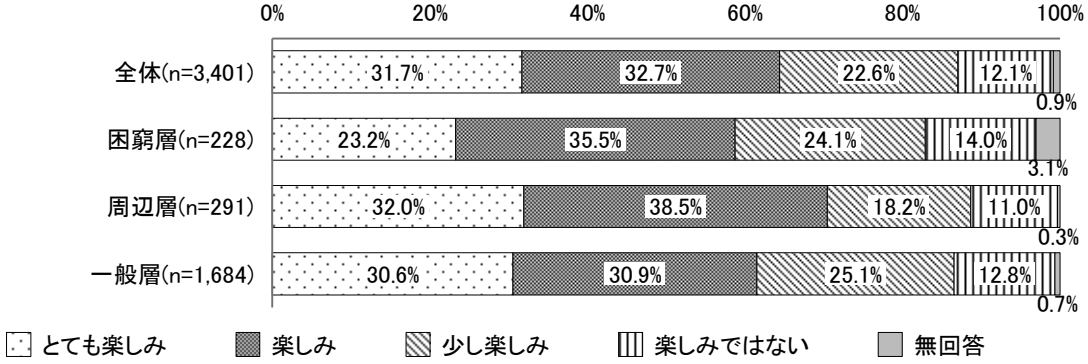
「困窮層」では、「楽しみ」が 35.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「楽しみ」が 38.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「楽しみ」が 30.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 199　学校生活_図工・美術の授業：単数回答（Q3F）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.05）



7)　学校生活_技術・家庭科の授業

小学生の「全体」では、「とても楽しみ」が 64.9%でもっとも割合が高く、次いで「楽しみ」が 21.7%となっている。

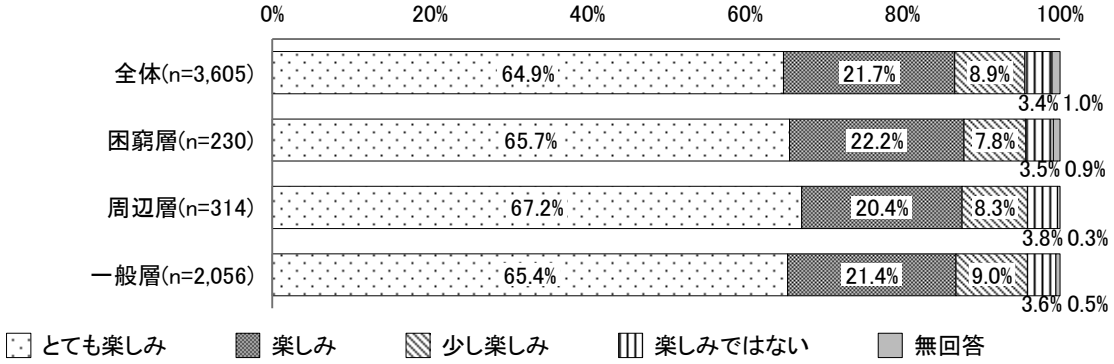
「困窮層」では、「とても楽しみ」が 65.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても楽しみ」が 67.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても楽しみ」が 65.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「楽しみ」が 34.5%でもっとも割合が高く、次いで「とても楽しみ」が 29.4%となっている。

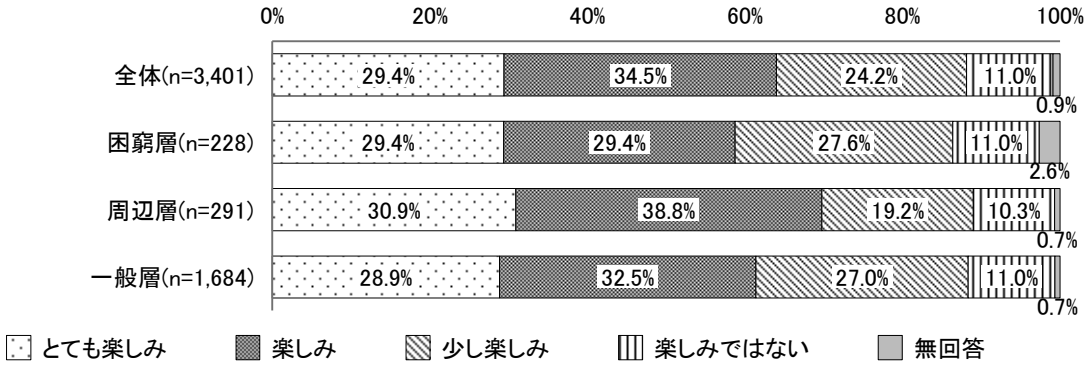
「困窮層」では、「とても楽しみ」「楽しみ」が 29.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「楽しみ」が 38.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「楽しみ」が 32.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 200　学校生活_技術・家庭科の授業：単数回答（Q3G）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



8） 学校生活_体育の授業

小学生の「全体」では、「とても楽しみ」が 62.0%でもっとも割合が高く、次いで「楽しみ」が 19.6%となっている。

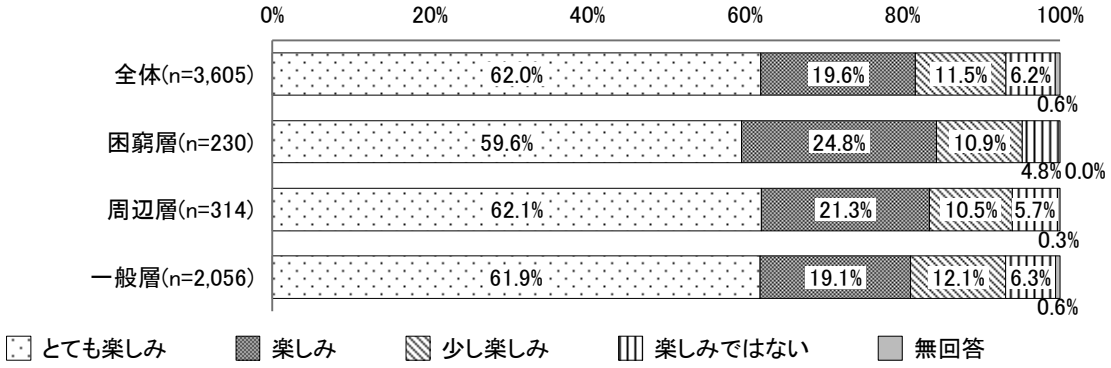
「困窮層」では、「とても楽しみ」が 59.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても楽しみ」が 62.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても楽しみ」が 61.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「とても楽しみ」が 41.9%でもっとも割合が高く、次いで「楽しみ」が 25.9%となっている。

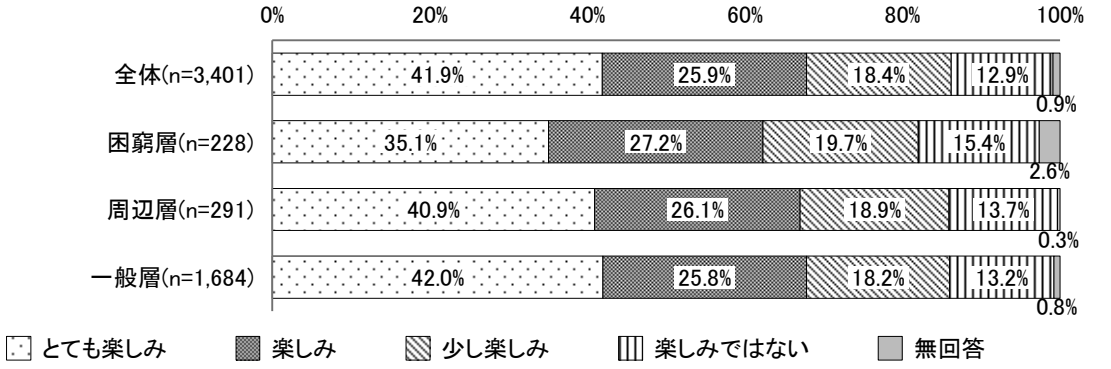
「困窮層」では、「とても楽しみ」が 35.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても楽しみ」が 40.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても楽しみ」が 42.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 201　学校生活_体育の授業：単数回答（Q3H）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



9） 学校生活_英語の授業

小学生の「全体」では、「とても楽しみ」が 35.5%でもっとも割合が高く、次いで「楽しみ」が 34.5%となっている。

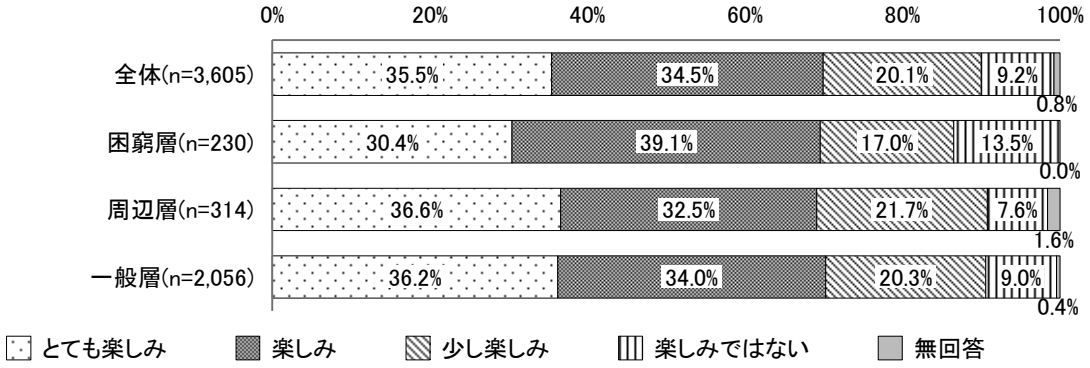
「困窮層」では、「楽しみ」が 39.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても楽しみ」が 36.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても楽しみ」が 36.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「楽しみ」が 31.2%でもっとも割合が高く、次いで「少し楽しみ」が 29.9%となっている。

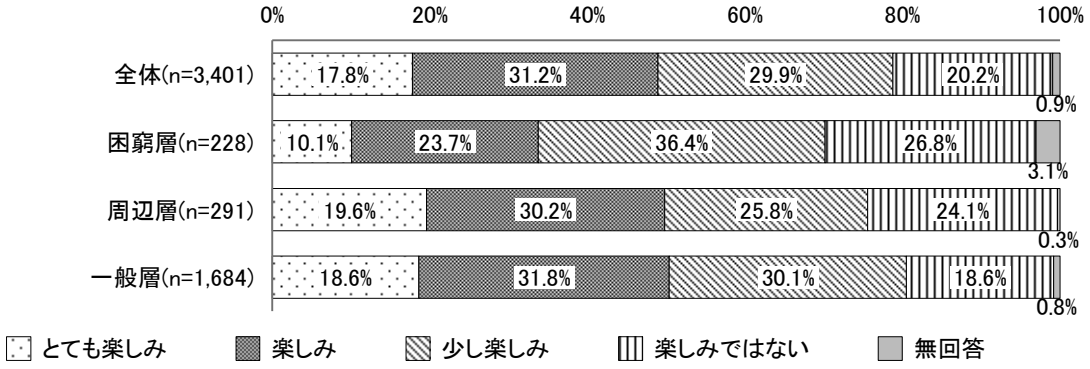
「困窮層」では、「少し楽しみ」が 36.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「楽しみ」が 30.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「楽しみ」が 31.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 202　学校生活_英語の授業：単数回答（Q3I）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.01）



10） 学校生活_先生に会うこと

小学生の「全体」では、「とても楽しみ」が 43.7%でもっとも割合が高く、次いで「楽しみ」が 32.5%となっている。

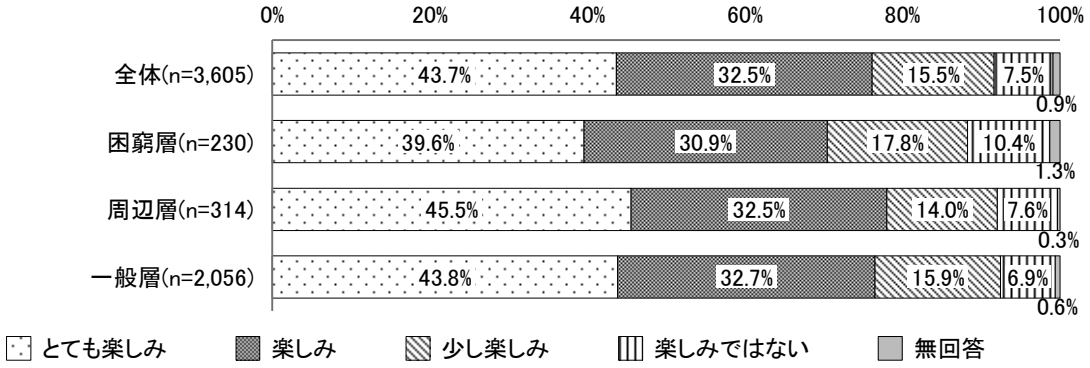
「困窮層」では、「とても楽しみ」が 39.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても楽しみ」が 45.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても楽しみ」が 43.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「楽しみ」が 35.7%でもっとも割合が高く、次いで「少し楽しみ」が 28.8%となっている。

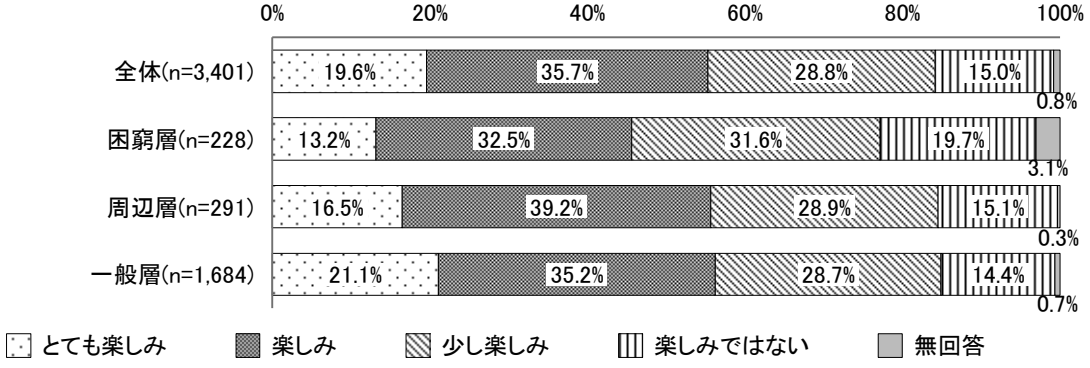
「困窮層」では、「楽しみ」が 32.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「楽しみ」が 39.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「楽しみ」が 35.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 203　学校生活_先生に会うこと：単数回答（Q3J）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.05）



11）学校生活_友だちに会うこと

小学生の「全体」では、「とても楽しみ」が 80.2%でもっとも割合が高く、次いで「楽しみ」が 14.3%となっている。

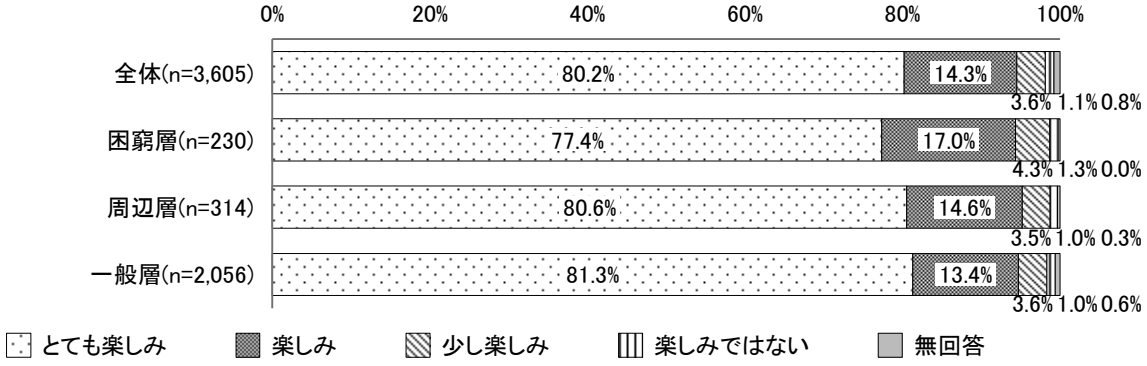
「困窮層」では、「とても楽しみ」が 77.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても楽しみ」が 80.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても楽しみ」が 81.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「とても楽しみ」が 69.2%でもっとも割合が高く、次いで「楽しみ」が 21.2%となっている。

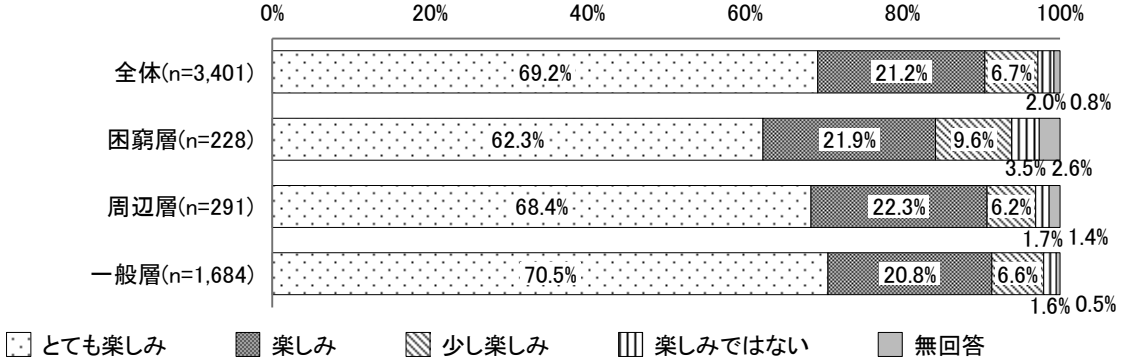
「困窮層」では、「とても楽しみ」が 62.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても楽しみ」が 68.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても楽しみ」が 70.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 204　学校生活_友だちに会うこと：単数回答（Q3K）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



12）学校生活_学校の部活動・クラブ活動

小学生の「全体」では、「とても楽しみ」が 68.5%でもっとも割合が高く、次いで「楽しみ」が 20.9%となっている。

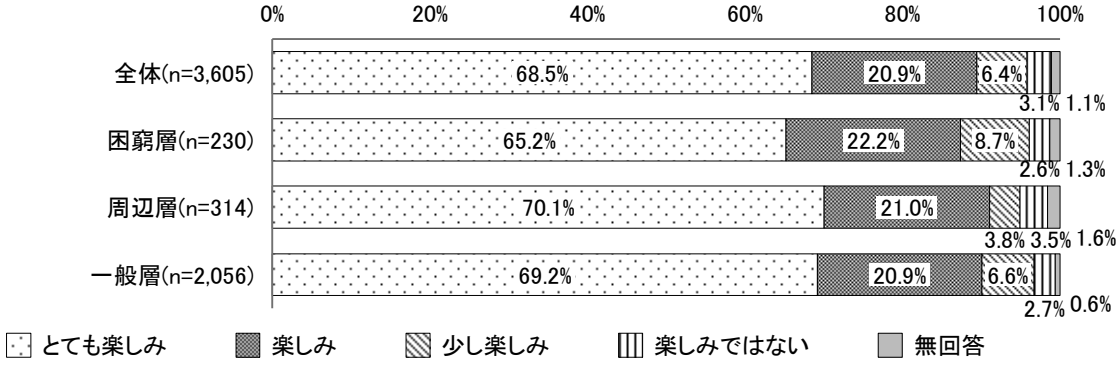
「困窮層」では、「とても楽しみ」が 65.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても楽しみ」が 70.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても楽しみ」が 69.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「とても楽しみ」が 47.5%でもっとも割合が高く、次いで「楽しみ」が 24.7%となっている。

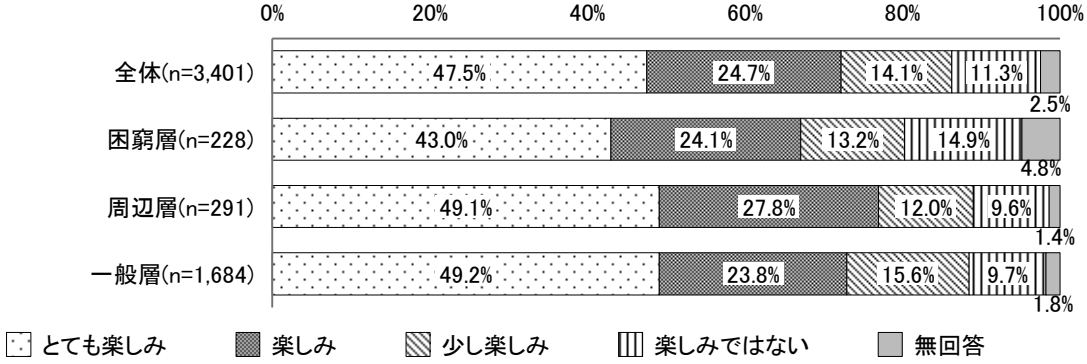
「困窮層」では、「とても楽しみ」が 43.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても楽しみ」が 49.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても楽しみ」が 49.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 205　学校生活_学校の部活動・クラブ活動：単数回答（Q3L）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



13） 学校生活_休み時間

小学生の「全体」では、「とても楽しみ」が 77.8%でもっとも割合が高く、次いで「楽しみ」が 15.6%となっている。

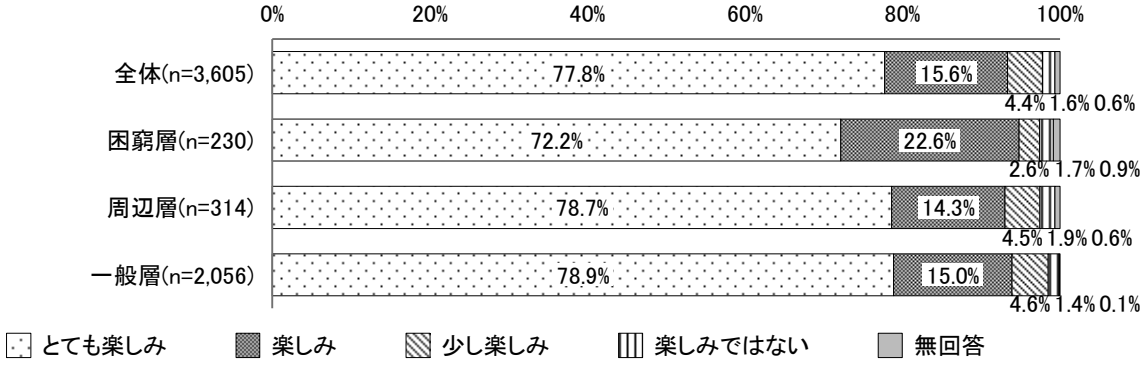
「困窮層」では、「とても楽しみ」が 72.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても楽しみ」が 78.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても楽しみ」が 78.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「とても楽しみ」が 63.4%でもっとも割合が高く、次いで「楽しみ」が 24.3%となっている。

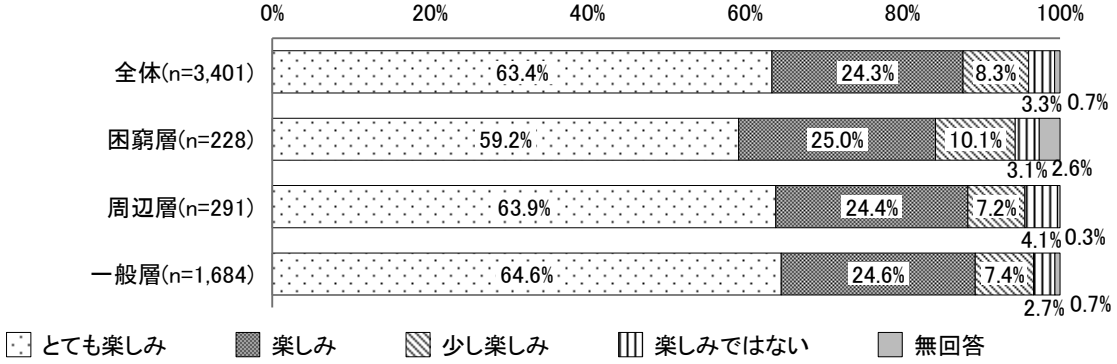
「困窮層」では、「とても楽しみ」が 59.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても楽しみ」が 63.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても楽しみ」が 64.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 206　学校生活_休み時間：単数回答（Q3M）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



14）学校生活_給食

小学生の「全体」では、「とても楽しみ」が 68.4%でもっとも割合が高く、次いで「楽しみ」が 20.1%となっている。

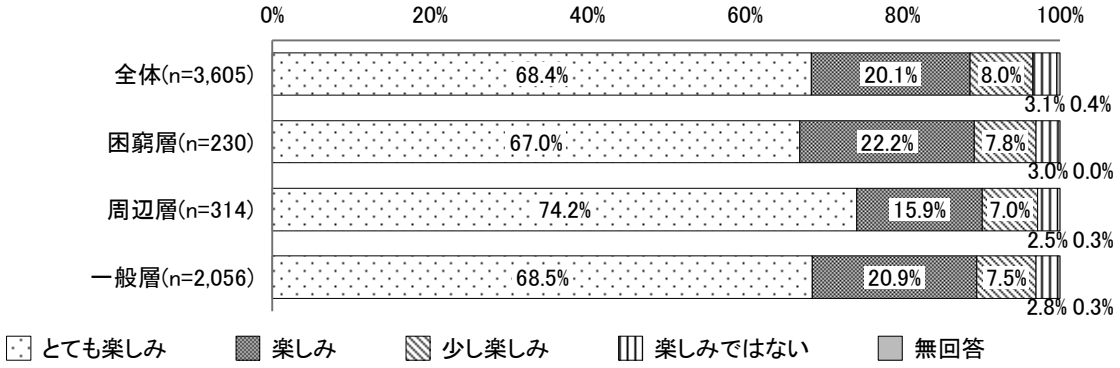
「困窮層」では、「とても楽しみ」が 67.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても楽しみ」が 74.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても楽しみ」が 68.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「とても楽しみ」が 49.3%でもっとも割合が高く、次いで「楽しみ」が 29.3%となっている。

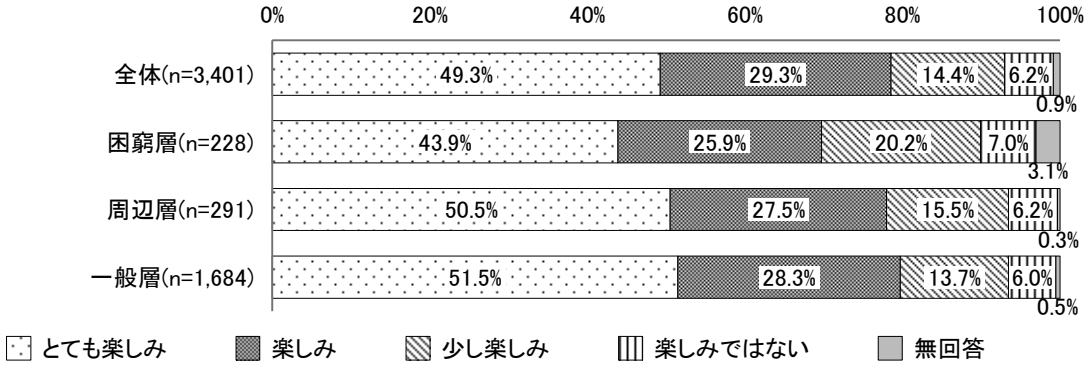
「困窮層」では、「とても楽しみ」が 43.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても楽しみ」が 50.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても楽しみ」が 51.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 207　学校生活_給食：単数回答（Q3N）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



15）授業の理解度

小学生の「全体」では、「だいたいわかる」が 56.0%でもっとも割合が高く、次いで「いつもわかる」が 29.3%となっている。

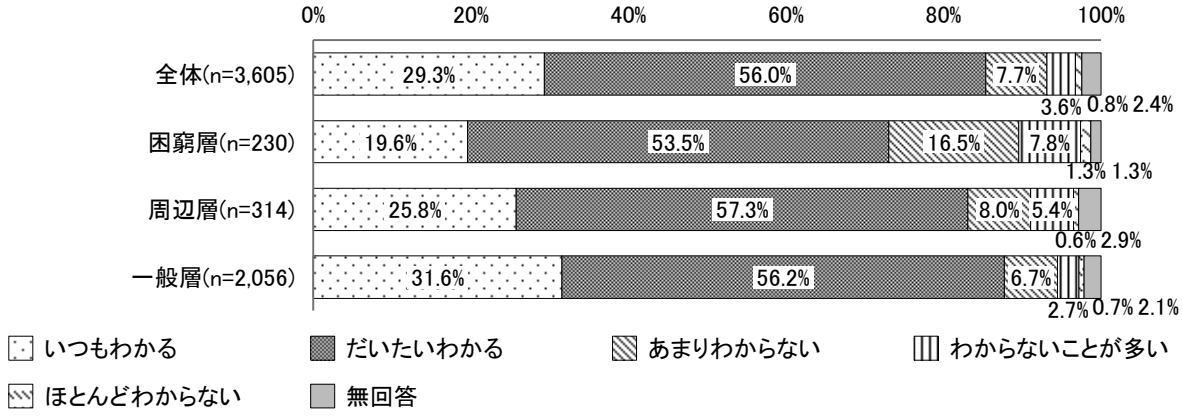
「困窮層」では、「だいたいわかる」が 53.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「だいたいわかる」が 57.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「だいたいわかる」が 56.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「だいたいわかる」が 60.0%でもっとも割合が高く、次いで「いつもわかる」が 17.0%となっている。

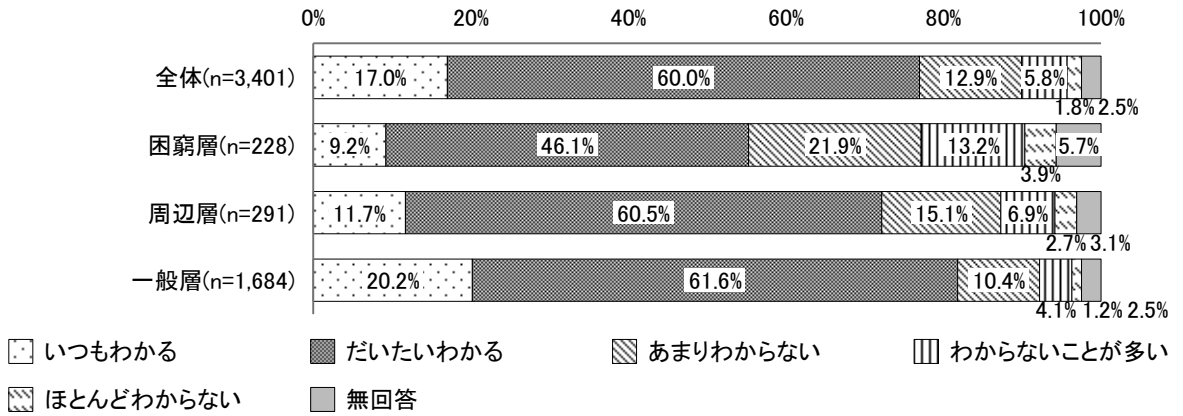
「困窮層」では、「だいたいわかる」が 46.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「だいたいわかる」が 60.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「だいたいわかる」が 61.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 208　授業の理解度：単数回答（Q4）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



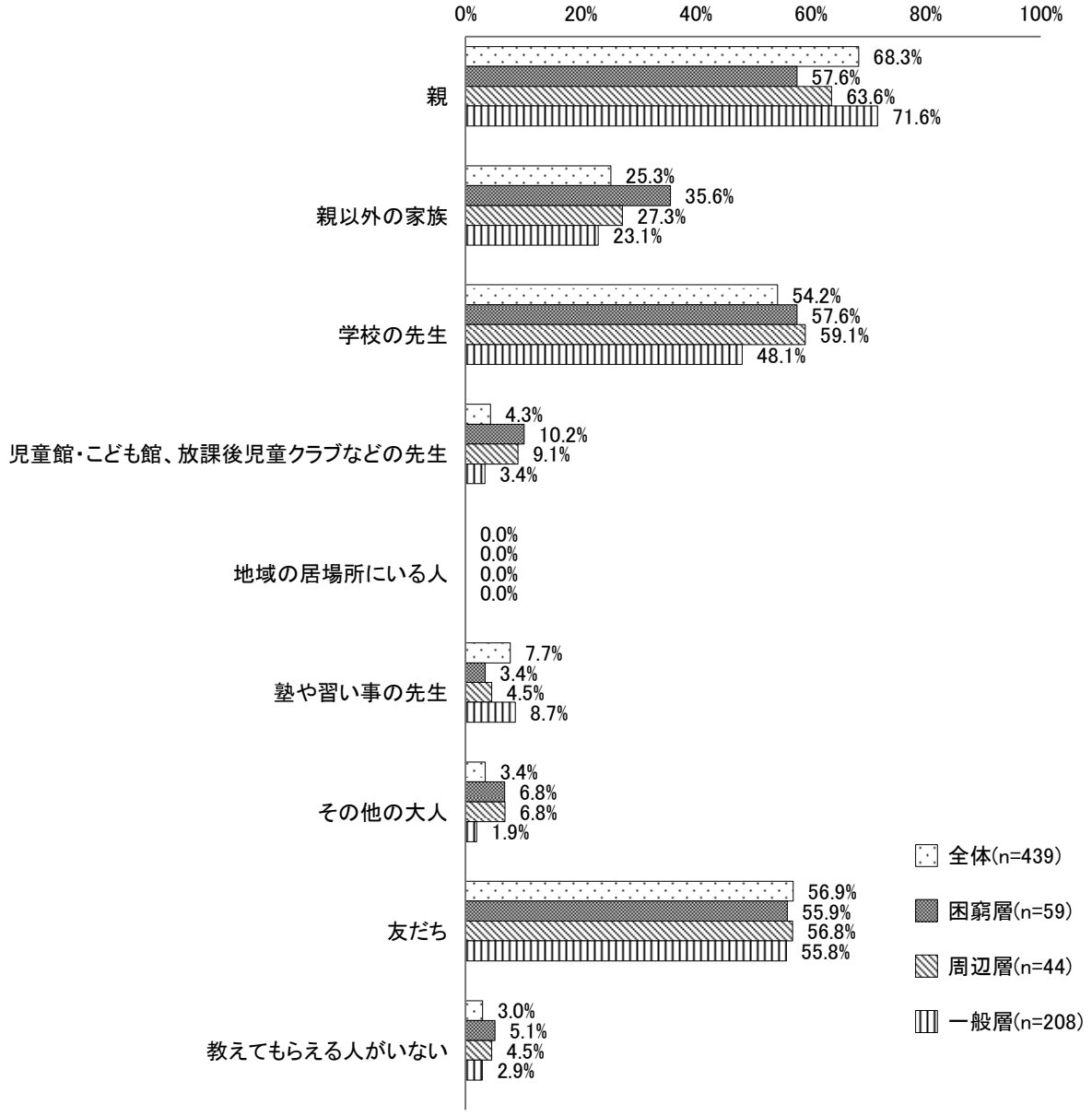
16）勉強を教えてもらう人

授業が「あまりわからない」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」と回答した場合について、勉強を教えてもらう人をみると、小学生の「全体」では、「親」が 68.3%でもっとも割合が高く、次いで「友だち」が 56.9%となっている。「困窮層」では、「親」「学校の先生」が 57.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「親」が 63.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「親」が 71.6%でもっとも割合が高くなっている。

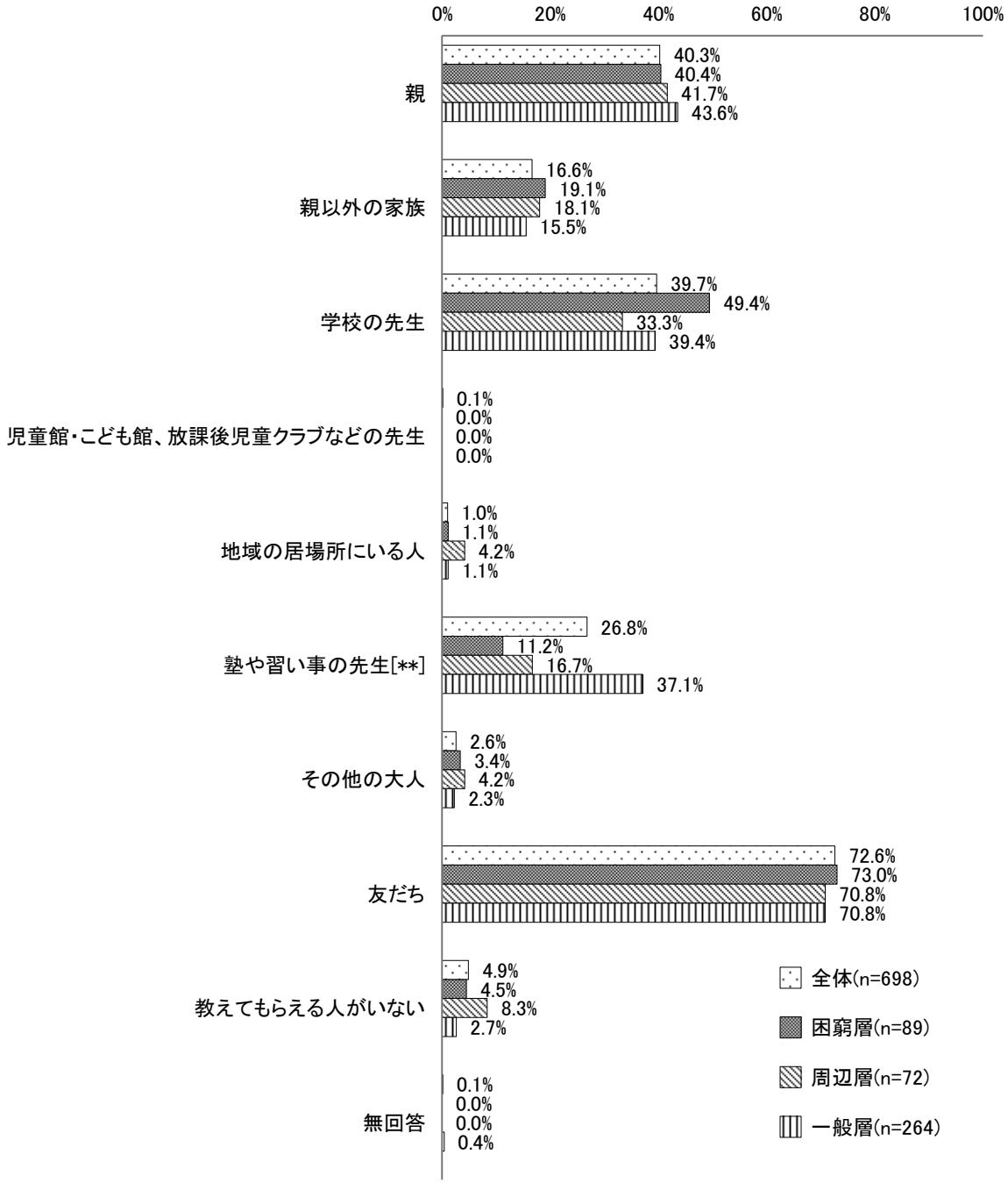
中学生の「全体」では、「友だち」が 72.6%でもっとも割合が高く、次いで「親」が 40.3%となっている。「困窮層」では、「友だち」が 73.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「友だち」が 70.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「友だち」が 70.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 209　勉強を教えてもらう人：複数回答（Q5）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞

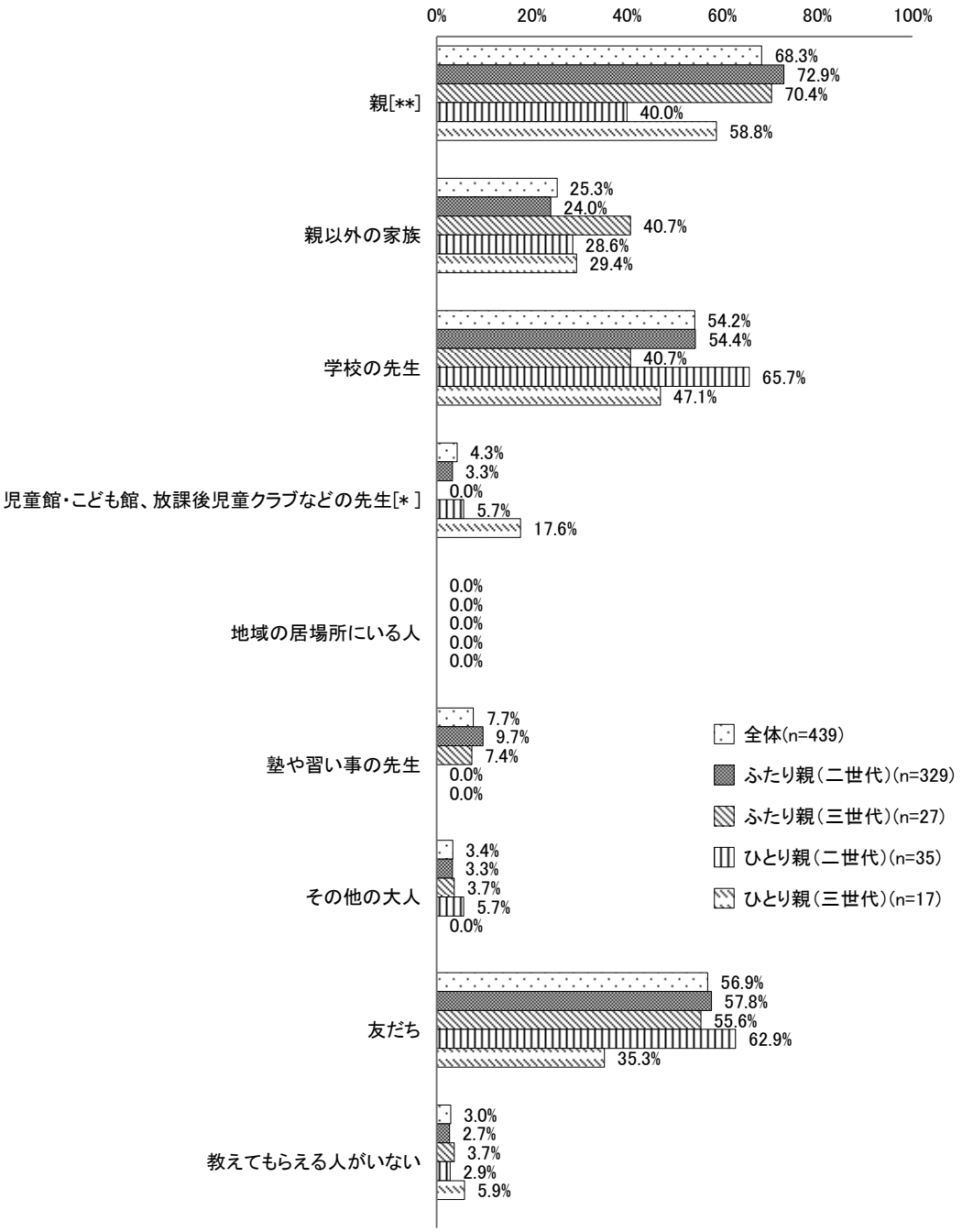


注）対象は Q4 で「あまりわからない」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」と回答した者に限定

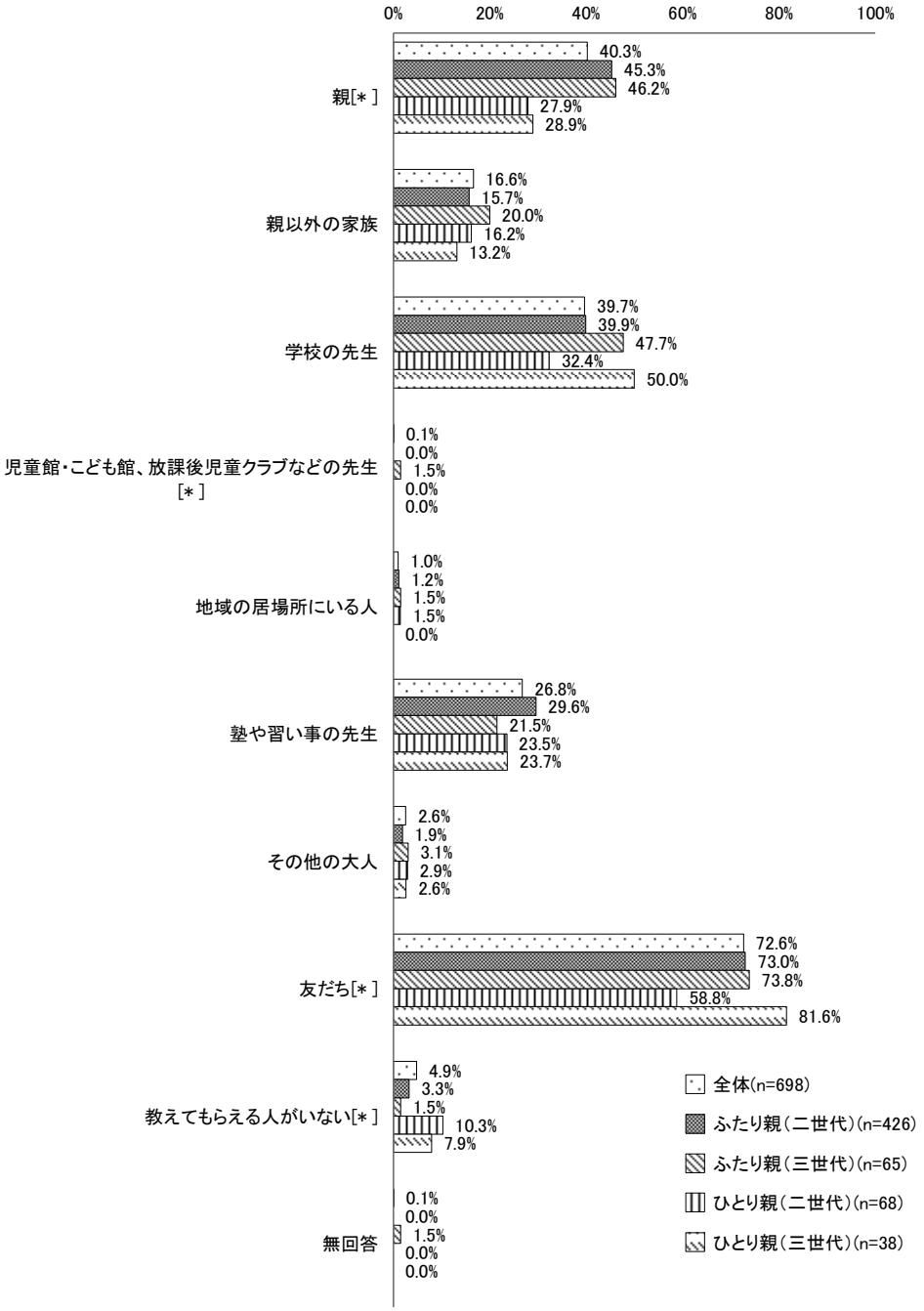
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ひとり親（二世代)」「ひとり親（三世代)」において「親」とする割合が低くなっている。また、中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代)」「ひとり親（三世代)」において「教えてもらえる人がいない」とする割合が高くなっている。

図表 210　勉強を教えてもらう人：複数回答（Q5）（世帯タイプ別）

＜小学生＞



＜中学生＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
親[＊]
40.3%
45.3%
46.2%
27.9%
28.9%
親以外の家族
16.6%
15.7%
20.0%
16.2%
13.2%
学校の先生
39.7%
39.9%
47.7%
32.4%
50.0%
児童館・こども館、放課後児童クラブなどの先生[＊]
0.1%
0.0%
1.5%
0.0%
0.0%
地域の居場所にいる人
1.0%
1.2%
1.5%
1.5%
0.0%
塾や習い事の先生
26.8%
29.6%
21.5%
23.5%
23.7%
その他の大人
2.6%
1.9%
3.1%
2.9%
2.6%
友だち[＊]
72.6%
73.0%
73.8%
58.8%
81.6%
教えてもらえる人がいない[＊]
4.9%
3.3%
1.5%
10.3%
7.9%
無回答
0.1%
0.0%
1.5%
0.0%
0.0%
全体(n=698)
ふたり親（二世代）(n=426)
ふたり親（三世代）(n=65)
ひとり親（二世代）(n=68)
ひとり親（三世代）(n=38)

17）クラスの中での成績

小学生の「全体」では、「真ん中のあたり」が 32.9%でもっとも割合が高く、次いで「やや上のほう」が 22.0%となっている。

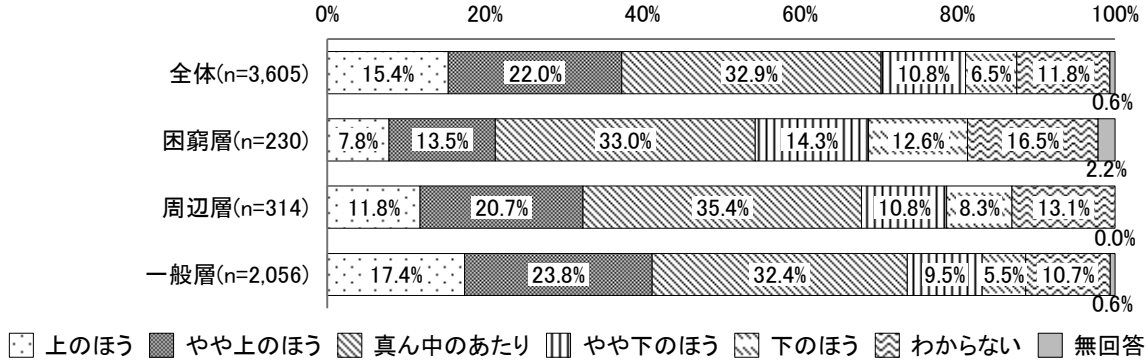
「困窮層」では、「真ん中のあたり」が 33.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「真ん中のあたり」が 35.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「真ん中のあたり」が 32.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「真ん中のあたり」が 30.5%でもっとも割合が高く、次いで「やや上のほう」が 20.0%となっている。

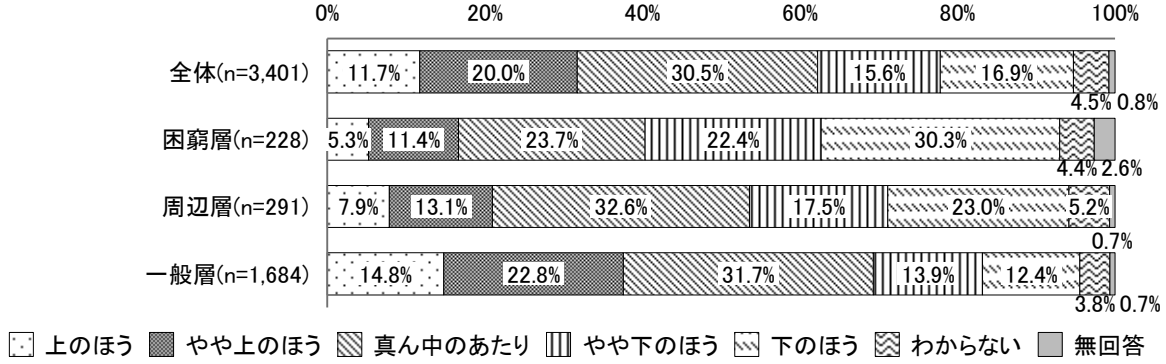
「困窮層」では、「下のほう」が 30.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「真ん中のあたり」が 32.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「真ん中のあたり」が 31.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 211　クラスの中での成績：単数回答（Q6）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



18）授業以外での１日あたりの勉強時間

小学生の「全体」では、「30 分以上、1 時間より少ない」が 37.5%でもっとも割合が高く、次いで「30 分より少ない」が 22.7%となっている。

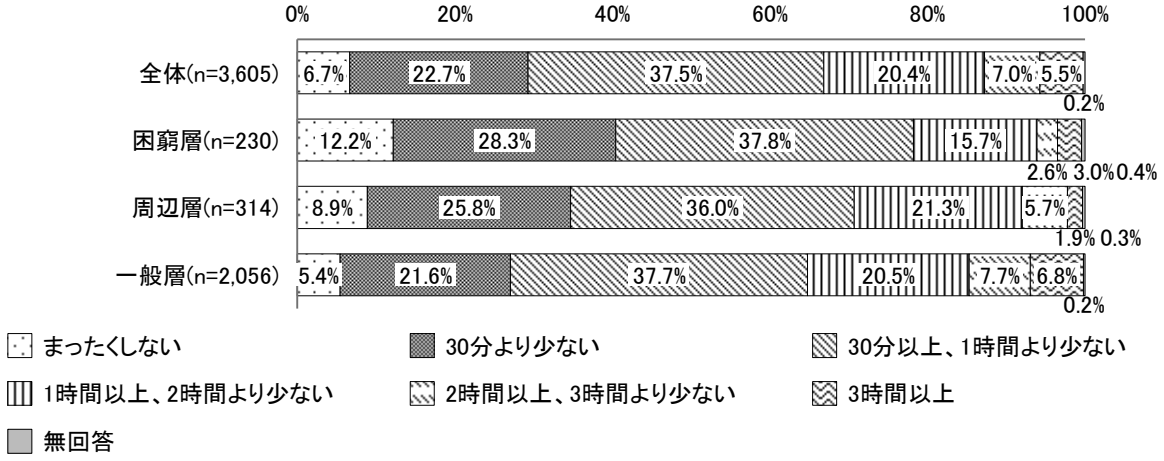
「困窮層」では、「30 分以上、1 時間より少ない」が 37.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「30 分以上、1 時間より少ない」が 36.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「30 分以上、1 時間より少ない」が 37.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「1 時間以上、2 時間より少ない」が 31.3%でもっとも割合が高く、次いで「30 分以上、1 時間より少ない」が 25.4%となっている。

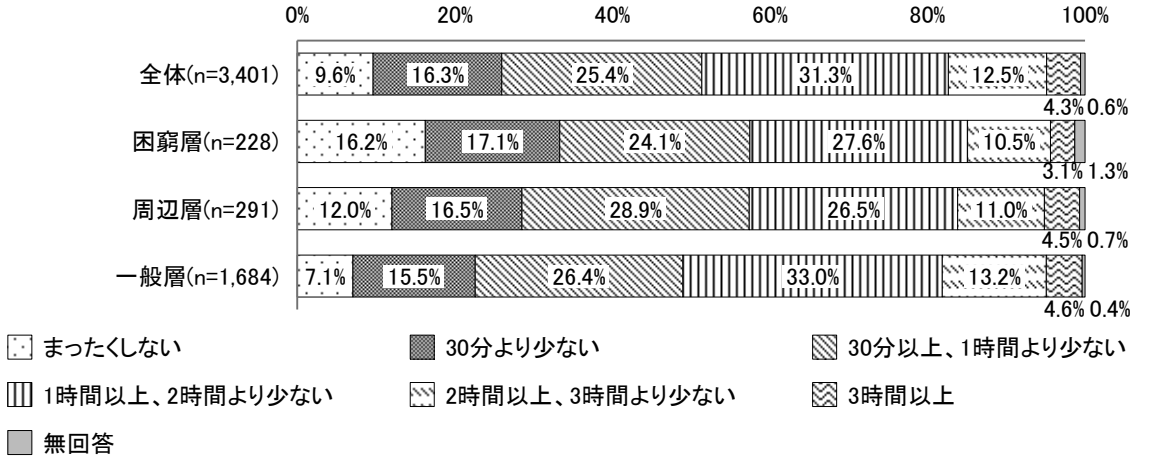
「困窮層」では、「1 時間以上、2 時間より少ない」が 27.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「30 分以上、1 時間より少ない」が 28.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「1 時間以上、2 時間より少ない」が 33.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 212　授業以外での１日あたりの勉強時間：単数回答（Q7）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



19） 自宅で使う教材

小学生の「全体」では、「学校で配られるドリルなど」が 66.5%でもっとも割合が高く、次いで「本屋で売っているドリルや参考書」が 30.4%となっている。

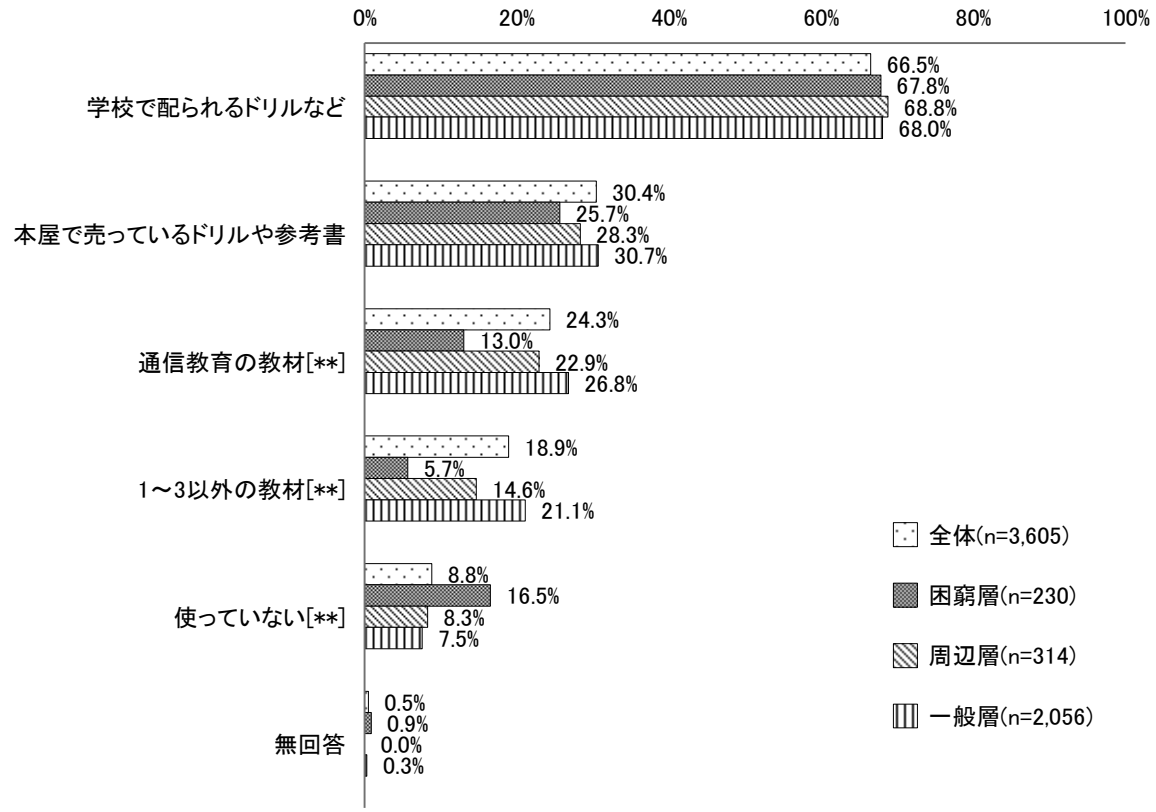
「困窮層」では、「学校で配られるドリルなど」が 67.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「学校で配られるドリルなど」が 68.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「学校で配られるドリルなど」が 68.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「学校で配られるドリルなど」が 78.0%でもっとも割合が高く、次いで「本屋で売っているドリルや参考書」が 29.0%となっている。

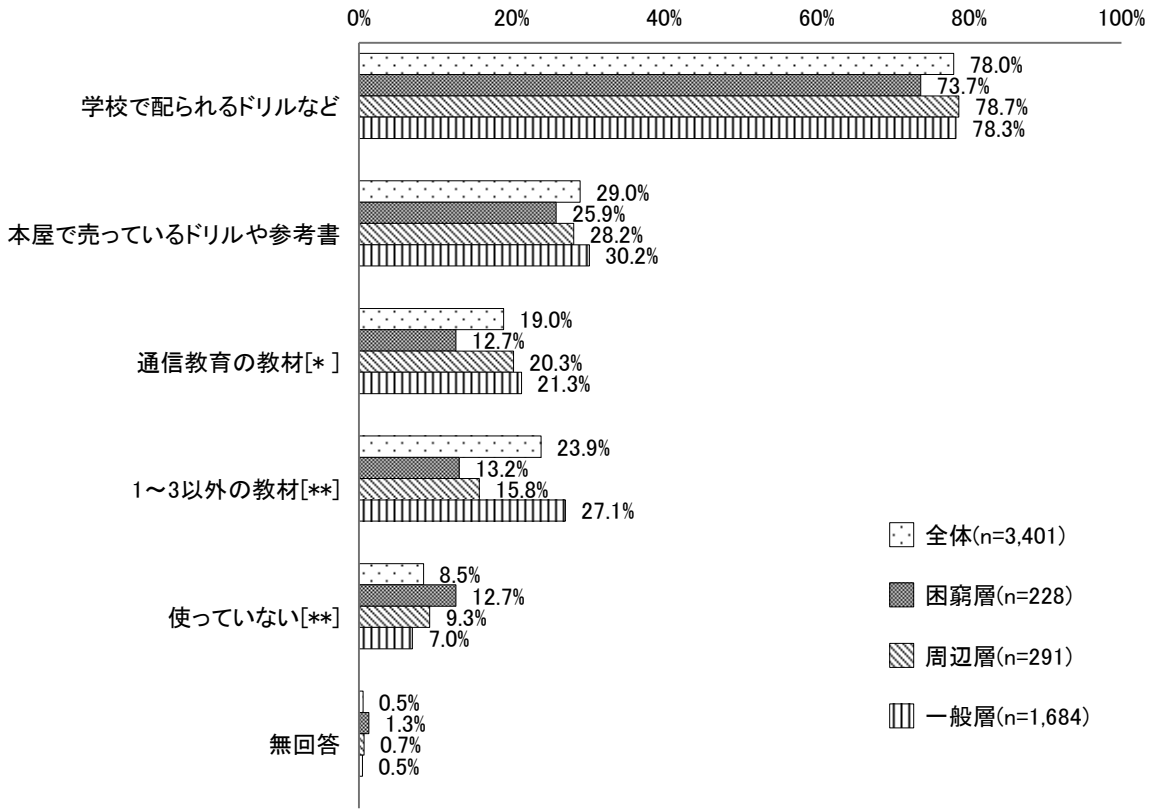
「困窮層」では、「学校で配られるドリルなど」が 73.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「学校で配られるドリルなど」が 78.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「学校で配られるドリルなど」が 78.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 213　自宅で使う教材：複数回答（Q8）（生活困難度別）

＜小学生＞



＜中学生＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
学校で配られるドリルなど
78.0%
73.7%
78.7%
78.3%
本屋で売っているドリルや参考書
29.0%
25.9%
28.2%
30.2%
通信教育の教材[＊]
19.0%
12.7%
20.3%
21.3%
1～3以外の教材[**]
23.9%
13.2%
15.8%
27.1%
使っていない[**]
8.5%
12.7%
9.3%
7.0%
無回答
0.5%
1.3%
0.7%
0.5%
全体(n=3,401)
困窮層(n=228)
周辺層(n=291)
一般層(n=1,684)

20）学習塾に通ったり、家庭教師に来てもらう頻度

小学生の「全体」では、「通っていない」が 63.9%でもっとも割合が高く、次いで「週に 2 日」が 14.4%となっている。

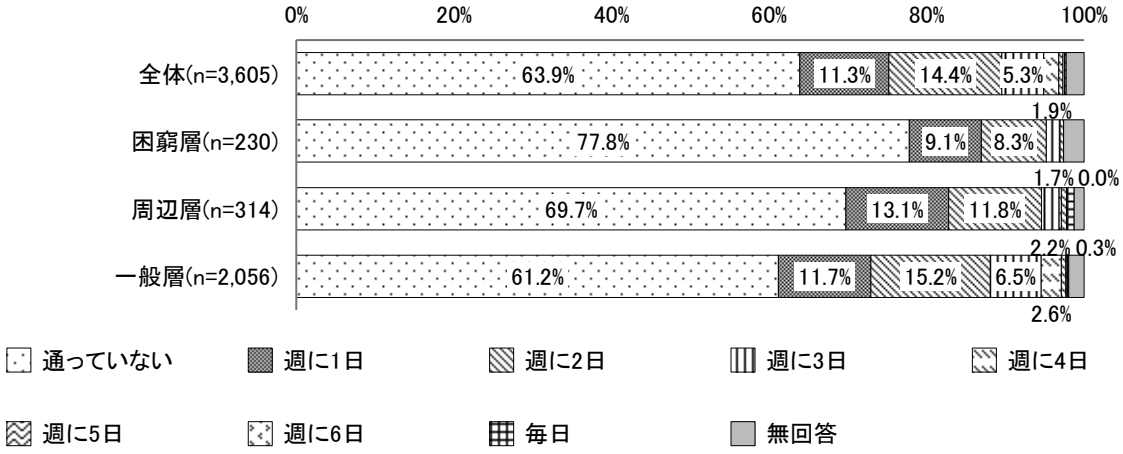
「困窮層」では、「通っていない」が 77.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「通っていない」が 69.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「通っていない」が 61.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「通っていない」が 51.6%でもっとも割合が高く、次いで「週に 2 日」が 23.3%となっている。

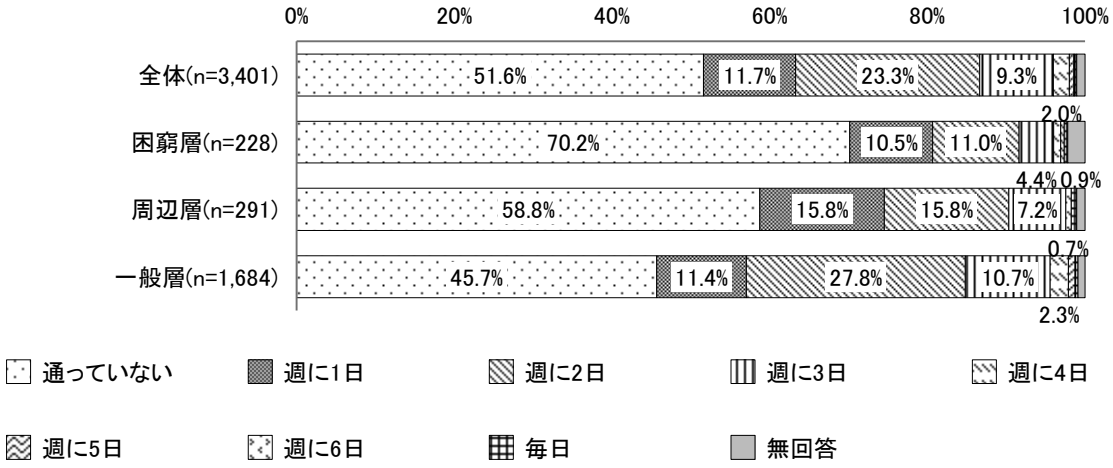
「困窮層」では、「通っていない」が 70.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「通っていない」が 58.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「通っていない」が 45.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 214　学習塾に通ったり、家庭教師に来てもらう頻度：単数回答（Q9）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q9 学習塾に通ったり、家庭教師に来てもらう頻度								
		通っていない	週に1日	週に2日	週に3日	週に4日	週に5日	週に6日	毎日	無回答
全体	3,605	63.9	11.3	14.4	5.3	1.9	0.5	0.2	0.2	2.3
困窮層	230	77.8	9.1	8.3	1.7	0.0	0.4	0.0	0.0	2.6
周辺層	314	69.7	13.1	11.8	2.2	0.3	0.6	0.0	1.0	1.3
一般層	2,056	61.2	11.7	15.2	6.5	2.6	0.5	0.2	0.2	1.9

＜数値表：中学生＞

	合計	Q9 学習塾に通ったり、家庭教師に来てもらう頻度								
		通っていない	週に1日	週に2日	週に3日	週に4日	週に5日	週に6日	毎日	無回答
全体	3,401	51.6	11.7	23.3	9.3	2.0	0.6	0.1	0.3	1.0
困窮層	228	70.2	10.5	11.0	4.4	0.9	0.4	0.0	0.4	2.2
周辺層	291	58.8	15.8	15.8	7.2	0.7	0.0	0.0	0.7	1.0
一般層	1,684	45.7	11.4	27.8	10.7	2.3	0.8	0.1	0.3	0.9

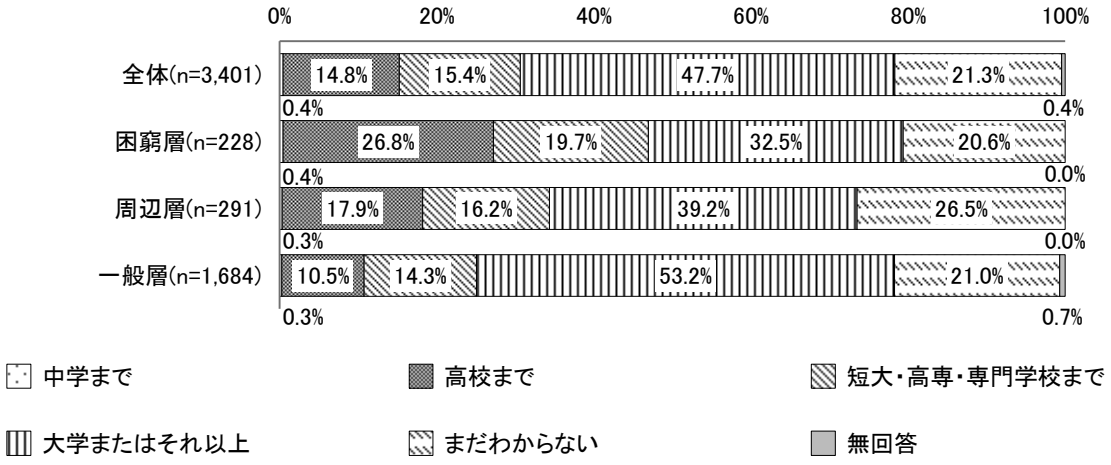
21）進学したい段階

中学生の「全体」では、「大学またはそれ以上」が 47.7%でもっとも割合が高く、次いで「まだわからない」が 21.3%となっている。

「困窮層」では、「大学またはそれ以上」が 32.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「大学またはそれ以上」が 39.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「大学またはそれ以上」が 53.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 215　進学したい段階：単数回答（Q10）（生活困難度別）

＜中学生＞（p<.01）



22）将来の夢や目標

小学生の「全体」では、「ある」が 81.8%でもっとも割合が高く、次いで「ない」が 15.5%となっている。

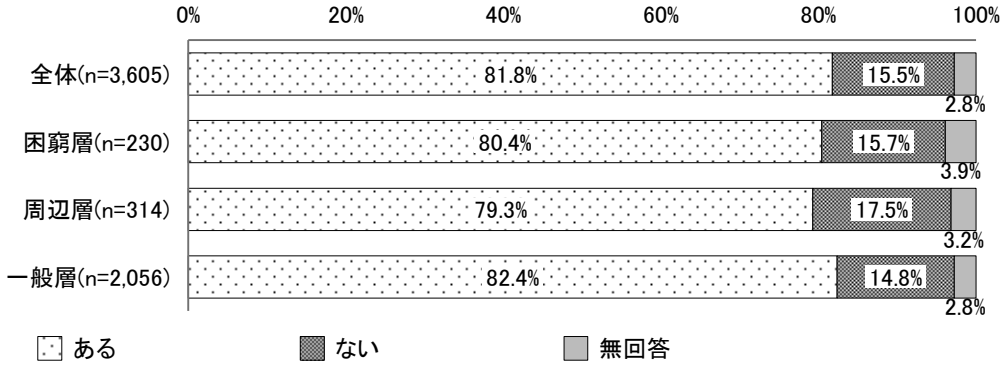
「困窮層」では、「ある」が 80.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 79.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 82.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ある」が 60.6%でもっとも割合が高く、次いで「ない」が 38.2%となっている。

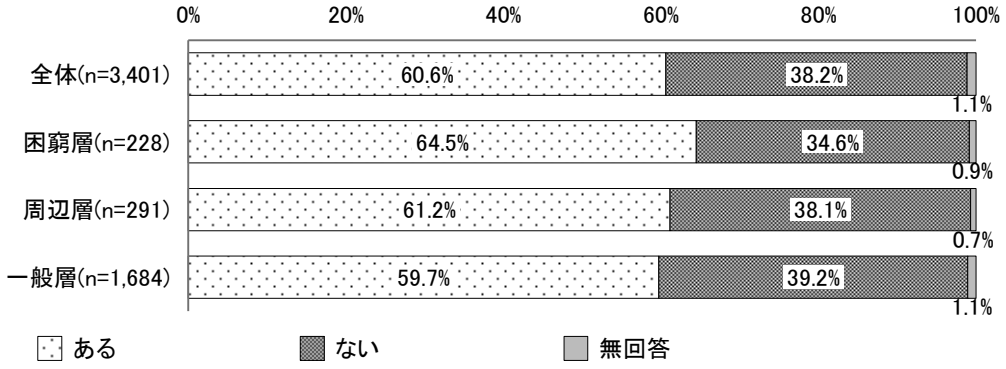
「困窮層」では、「ある」が 64.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 61.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 59.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 216　将来の夢や目標：単数回答（Q11）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



23） ない理由

小学生の「全体」では、「何も思いうかばないから」が 63.7%でもっとも割合が高く、次いで「わからない」が 21.9%となっている。

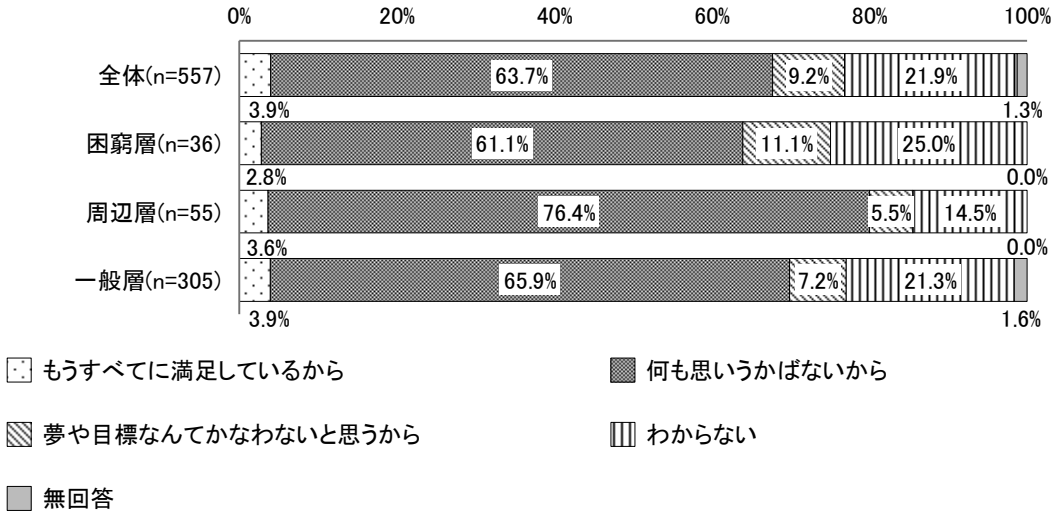
「困窮層」では、「何も思いうかばないから」が 61.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「何も思いうかばないから」が 76.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「何も思いうかばないから」が 65.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「何も思いうかばないから」が 73.5%でもっとも割合が高く、次いで「わからない」が 15.5%となっている。

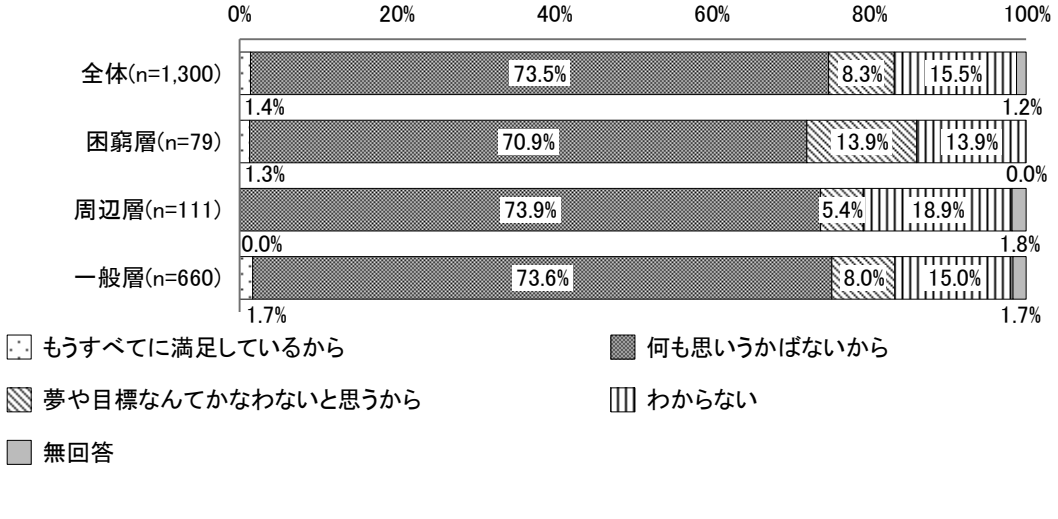
「困窮層」では、「何も思いうかばないから」が 70.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「何も思いうかばないから」が 73.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「何も思いうかばないから」が 73.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 217　ない理由：単数回答（Q12）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



24）将来のために、今頑張りたいと思うか

小学生の「全体」では、「そう思う」が 61.0%でもっとも割合が高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が 28.9%となっている。

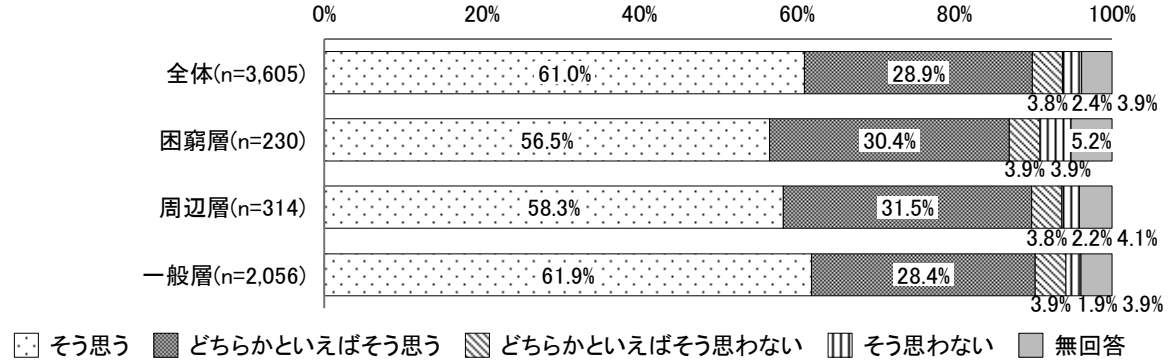
「困窮層」では、「そう思う」が 56.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「そう思う」が 58.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「そう思う」が 61.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「そう思う」が 50.0%でもっとも割合が高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が 39.9%となっている。

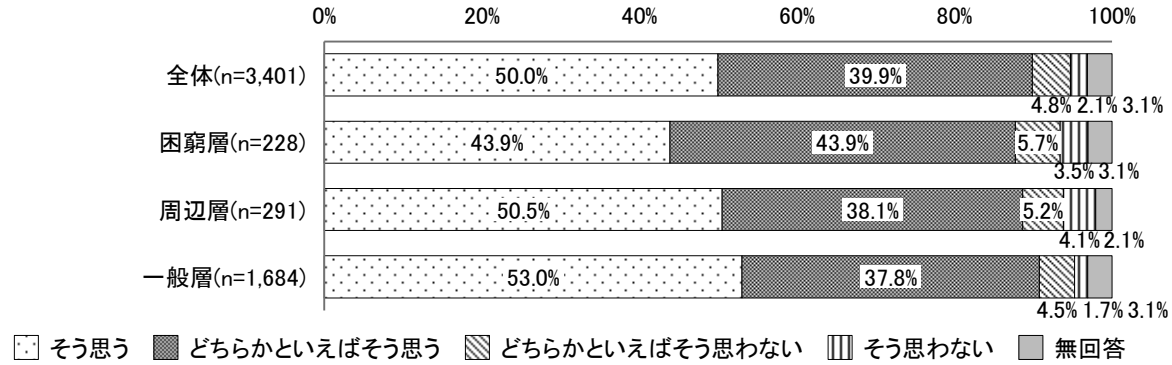
「困窮層」では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が 43.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「そう思う」が 50.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「そう思う」が 53.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 218　将来のために、今頑張りたいと思うか：単数回答（Q13）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.05）



（2）生活習慣について

1） 平日の就寝時間

小学生の「全体」では、「午後 9 時台」が 43.7%でもっとも割合が高く、次いで「午後 10 時台」が 36.5%となっている。

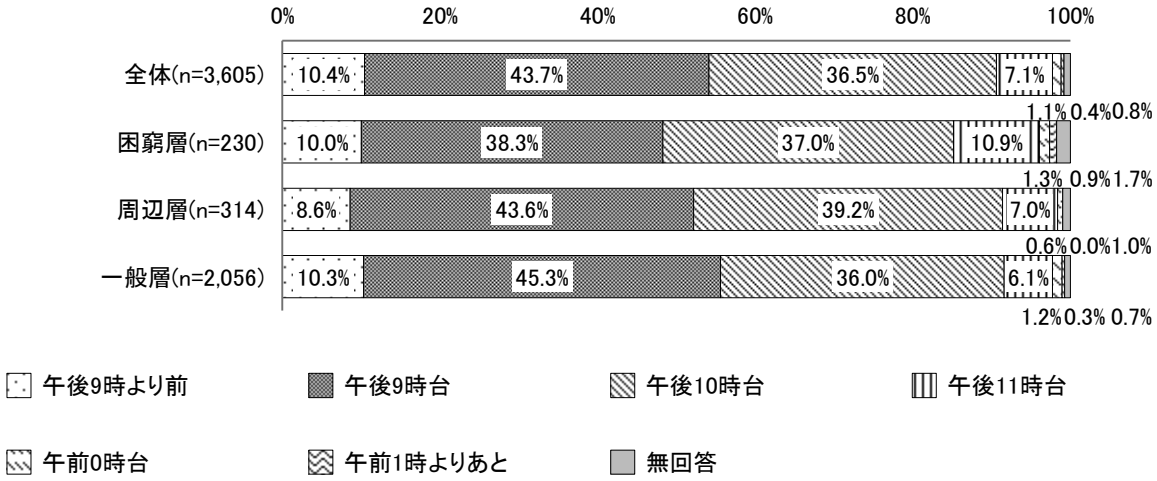
「困窮層」では、「午後 9 時台」が 38.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「午後 9 時台」が 43.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「午後 9 時台」が 45.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「午後 10 時台」が 39.3%でもっとも割合が高く、次いで「午後 11 時台」が 31.3%となっている。

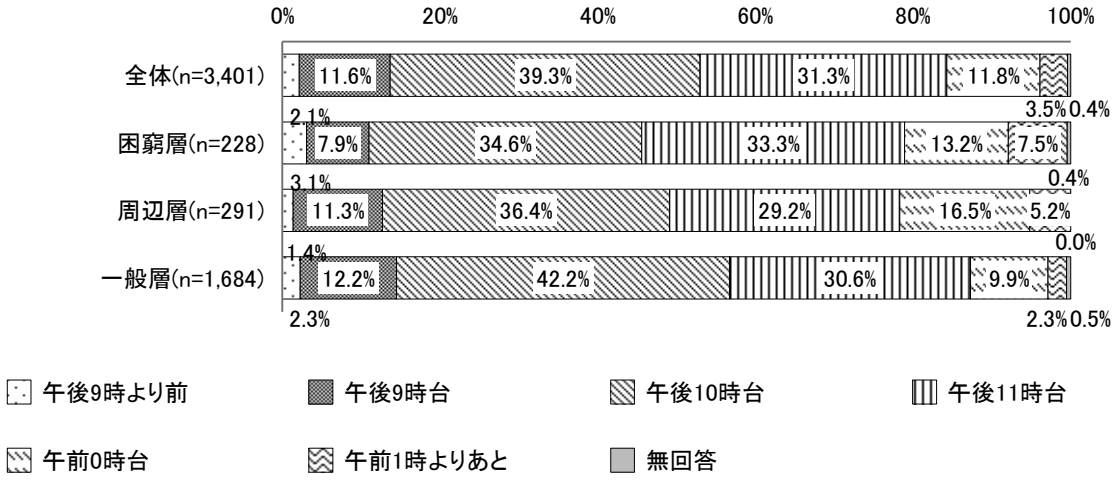
「困窮層」では、「午後 10 時台」が 34.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「午後 10 時台」が 36.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「午後 10 時台」が 42.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 219 平日の就寝時間：単数回答（Q14）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.01）



2)　平日の朝ごはん摂取状況

小学生の「全体」では、「いつも食べる」が 90.6%でもっとも割合が高く、次いで「食べるほうが多い」が 5.1%となっている。

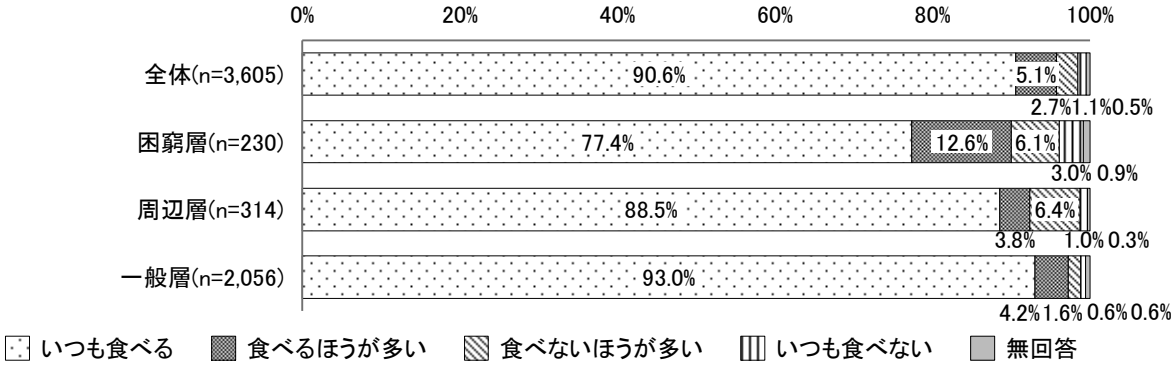
「困窮層」では、「いつも食べる」が 77.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いつも食べる」が 88.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いつも食べる」が 93.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「いつも食べる」が 83.9%でもっとも割合が高く、次いで「食べるほうが多い」が 7.9%となっている。

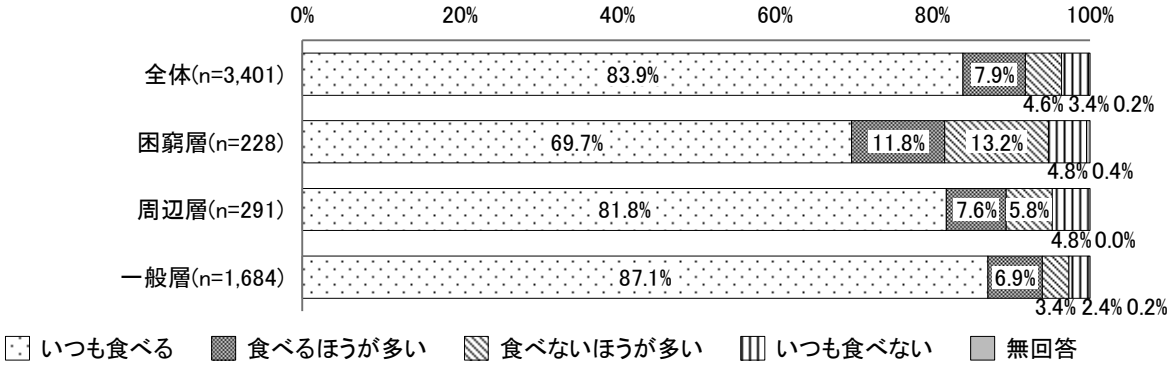
「困窮層」では、「いつも食べる」が 69.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いつも食べる」が 81.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いつも食べる」が 87.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 220　平日の朝ごはん摂取状況：単数回答（Q15）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



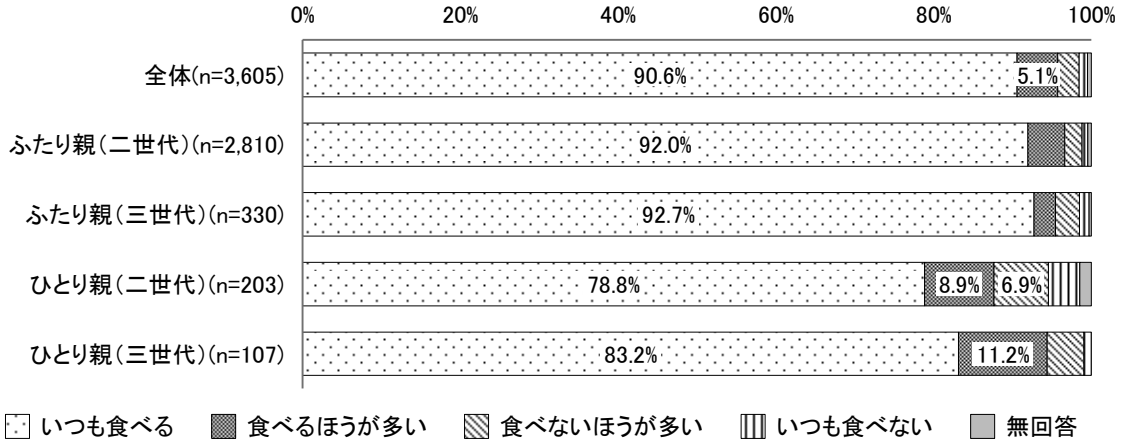
＜中学生＞（p<.01）



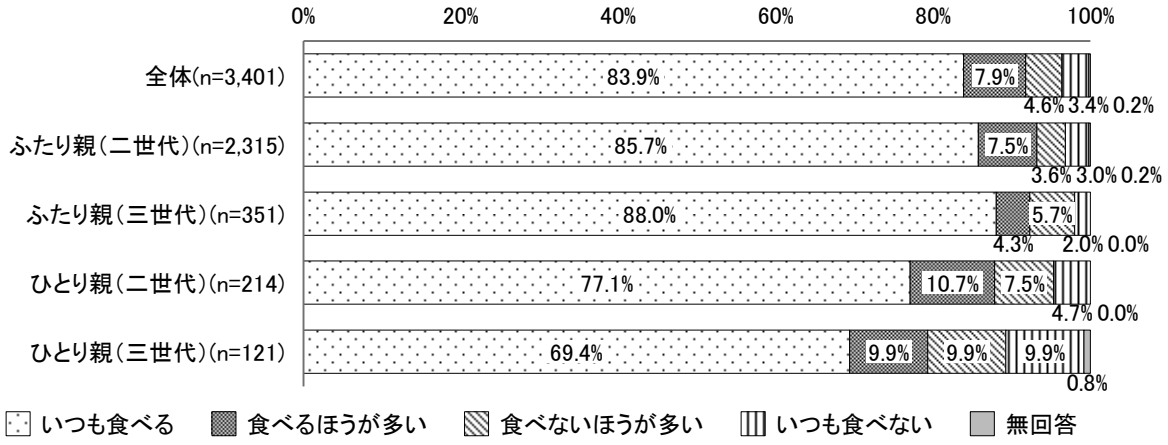
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ひとり親（二世代)」「ひとり親（三世代)」において「いつも食べる」とする割合が低くなっている。

図表 221　平日の朝ごはん摂取状況：単数回答（Q15）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q15 平日の朝ごはん摂取状況				
		いつも食べる	食べるほうが多い	食べないほうが多い	いつも食べない	無回答
全体	3,605	90.6	5.1	2.7	1.1	0.5
ふたり親（二世代）	2,810	92.0	4.7	2.2	0.7	0.5
ふたり親（三世代）	330	92.7	2.7	3.0	1.2	0.3
ひとり親（二世代）	203	78.8	8.9	6.9	3.9	1.5
ひとり親（三世代）	107	83.2	11.2	4.7	0.9	0.0

3)　長期休暇中の昼ごはんの摂取状況

小学生の「全体」では、「いつも食べる」が 90.7%でもっとも割合が高く、次いで「食べるほうが多い」が 5.9%となっている。

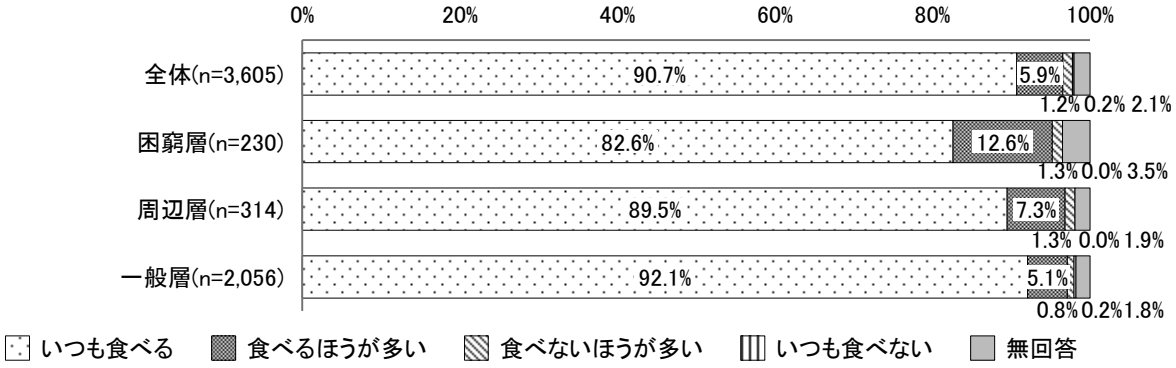
「困窮層」では、「いつも食べる」が 82.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いつも食べる」が 89.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いつも食べる」が 92.1%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「いつも食べる」が 82.8%でもっとも割合が高く、次いで「食べるほうが多い」が 12.6%となっている。

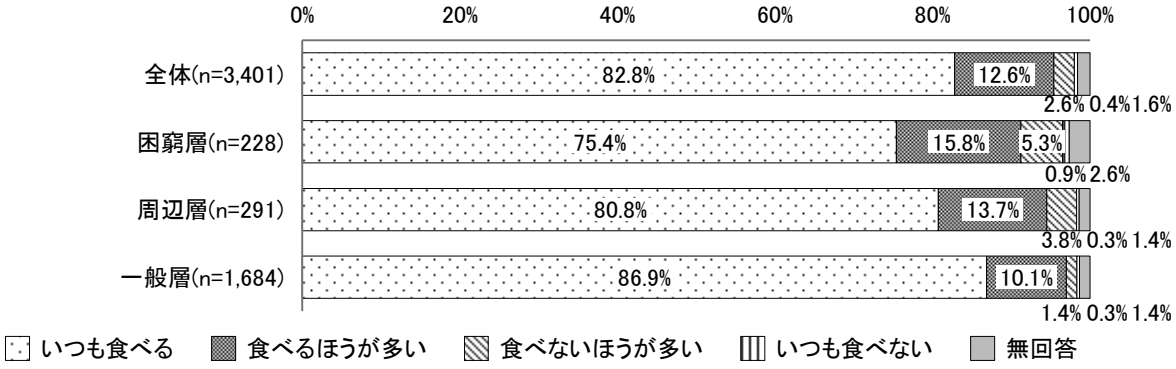
「困窮層」では、「いつも食べる」が 75.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いつも食べる」が 80.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いつも食べる」が 86.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 222　長期休暇中の昼ごはんの摂取状況：単数回答（Q16）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



4) 給食以外での摂取状況_野菜

小学生の「全体」では、「毎日食べる」が 67.0%でもっとも割合が高く、次いで「1 週間に 4～5 日」が 17.4%となっている。

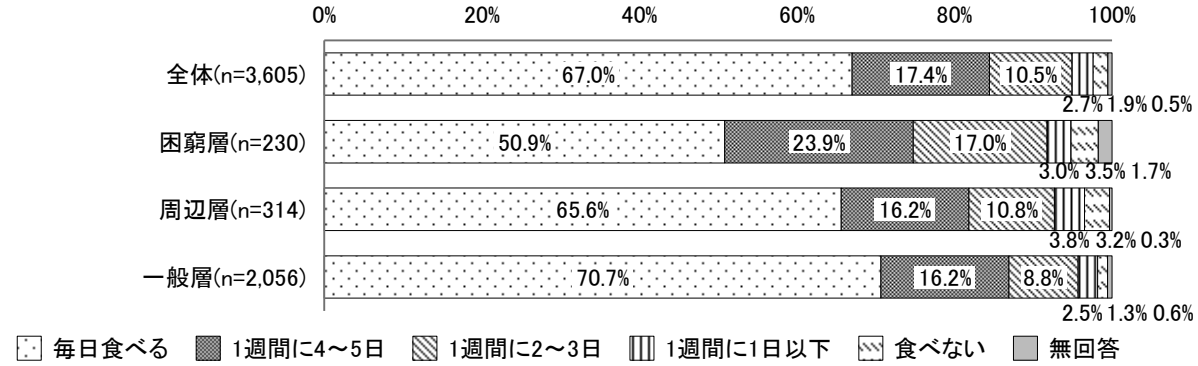
「困窮層」では、「毎日食べる」が 50.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「毎日食べる」が 65.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「毎日食べる」が 70.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「毎日食べる」が 65.6%でもっとも割合が高く、次いで「1 週間に 4～5 日」が 19.7%となっている。

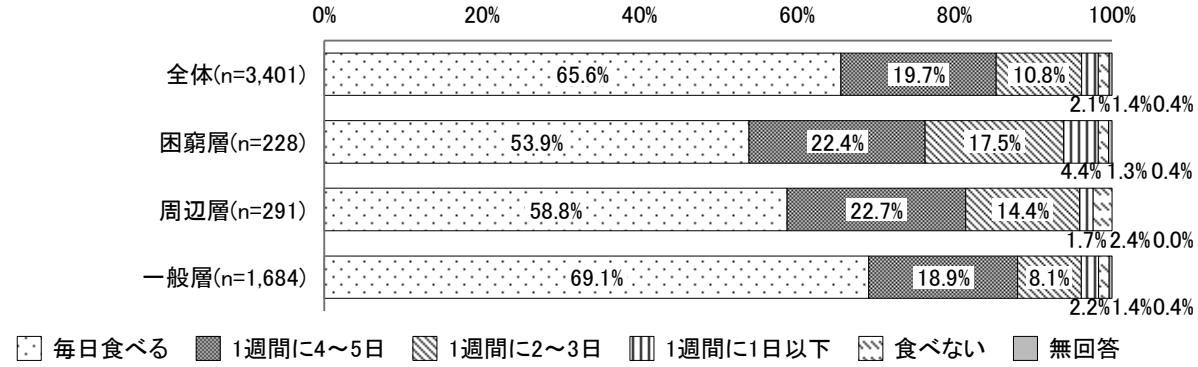
「困窮層」では、「毎日食べる」が 53.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「毎日食べる」が 58.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「毎日食べる」が 69.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 223　給食以外での摂取状況_野菜：単数回答（Q17A）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



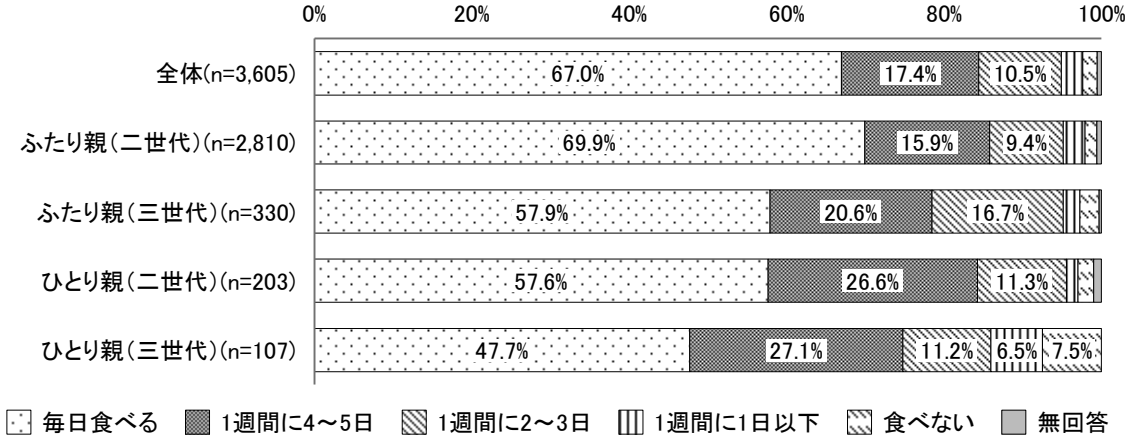
＜中学生＞（p<.01）



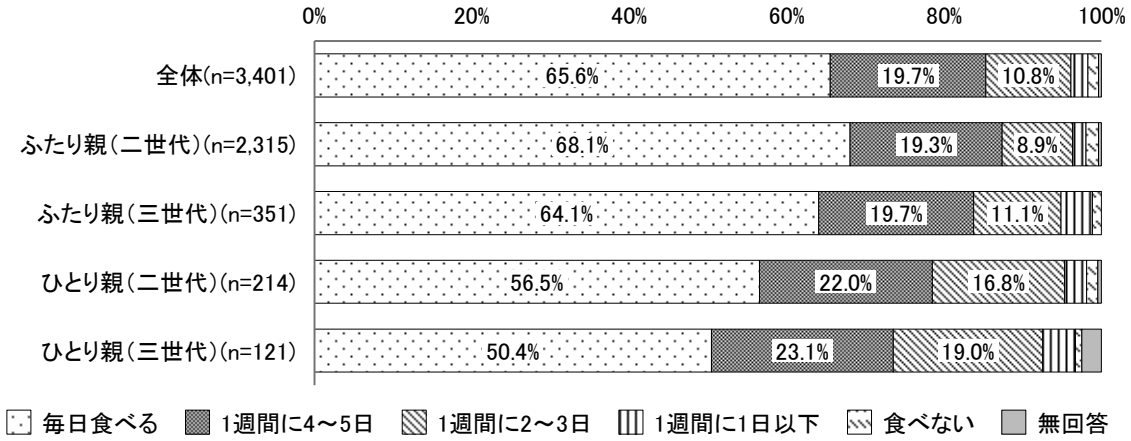
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「毎日食べる」とする割合が低くなっている。小学生では「ふたり親（三世代）」についても、全体に比べて「毎日食べる」とする割合が低い。

図表 224　給食以外での摂取状況_野菜：単数回答（Q17A）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q17A 給食以外での摂取状況_野菜					
		毎日食べる	1週間に4～5日	1週間に2～3日	1週間に1日以下	食べない	無回答
全体	3,605	67.0	17.4	10.5	2.7	1.9	0.5
ふたり親（二世代）	2,810	69.9	15.9	9.4	2.8	1.5	0.6
ふたり親（三世代）	330	57.9	20.6	16.7	2.1	2.4	0.3
ひとり親（二世代）	203	57.6	26.6	11.3	1.5	2.0	1.0
ひとり親（三世代）	107	47.7	27.1	11.2	6.5	7.5	0.0

＜数値表：中学生＞

	合計	Q17A 給食以外での摂取状況_野菜					
		毎日食べる	1週間に4～5日	1週間に2～3日	1週間に1日以下	食べない	無回答
全体	3,401	65.6	19.7	10.8	2.1	1.4	0.4
ふたり親（二世代）	2,315	68.1	19.3	8.9	1.7	1.6	0.4
ふたり親（三世代）	351	64.1	19.7	11.1	4.0	1.1	0.0
ひとり親（二世代）	214	56.5	22.0	16.8	2.8	1.4	0.5
ひとり親（三世代）	121	50.4	23.1	19.0	4.1	0.8	2.5

5) 給食以外での摂取状況_くだもの

小学生の「全体」では、「1 週間に 2～3 日」が 29.9%でもっとも割合が高く、次いで「毎日食べる」が 22.1%となっている。

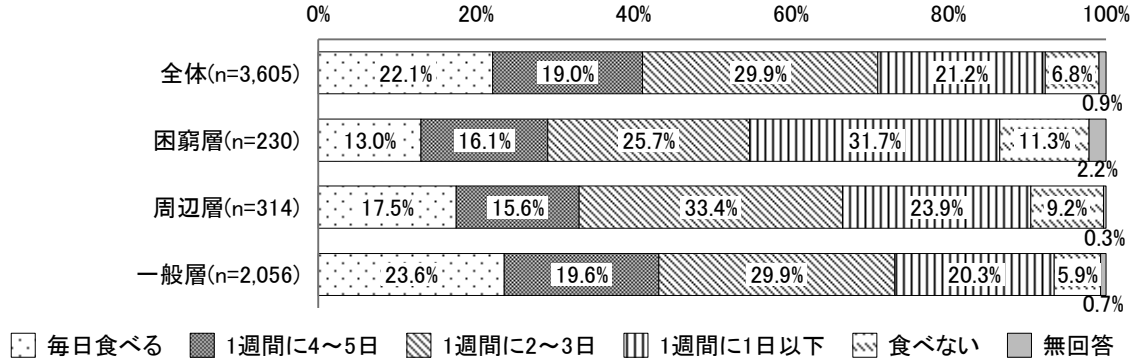
「困窮層」では、「1 週間に 1 日以下」が 31.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「1 週間に 2～3 日」が 33.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「1 週間に 2～3 日」が 29.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「1 週間に 2～3 日」が 30.6%でもっとも割合が高く、次いで「1 週間に 1 日以下」が 22.6%となっている。

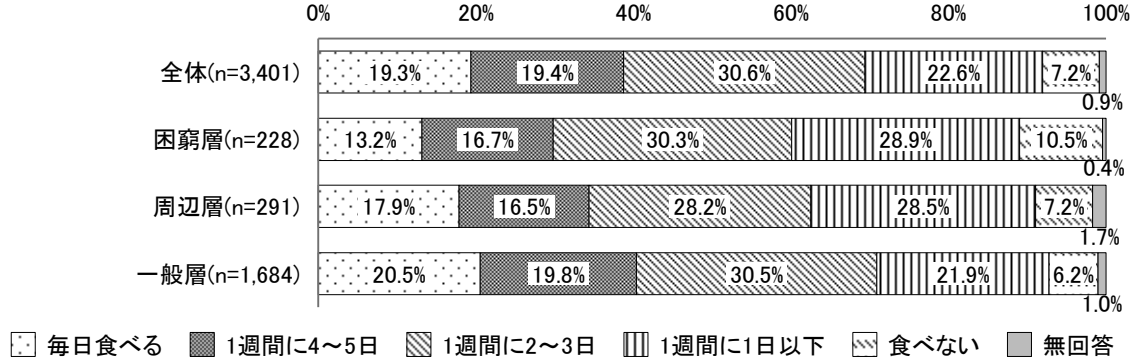
「困窮層」では、「1 週間に 2～3 日」が 30.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「1 週間に 1 日以下」が 28.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「1 週間に 2～3 日」が 30.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 225　給食以外での摂取状況_くだもの：単数回答（Q17B）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



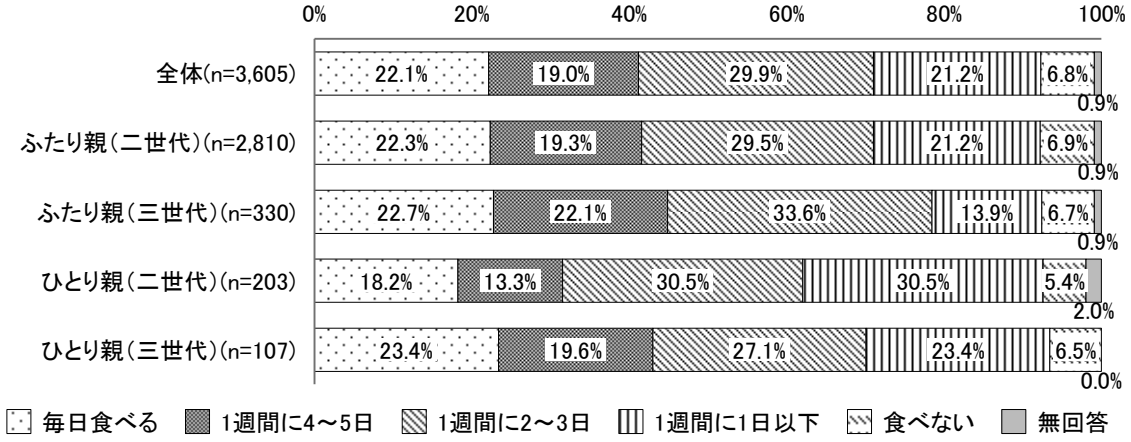
＜中学生＞（p<.01）



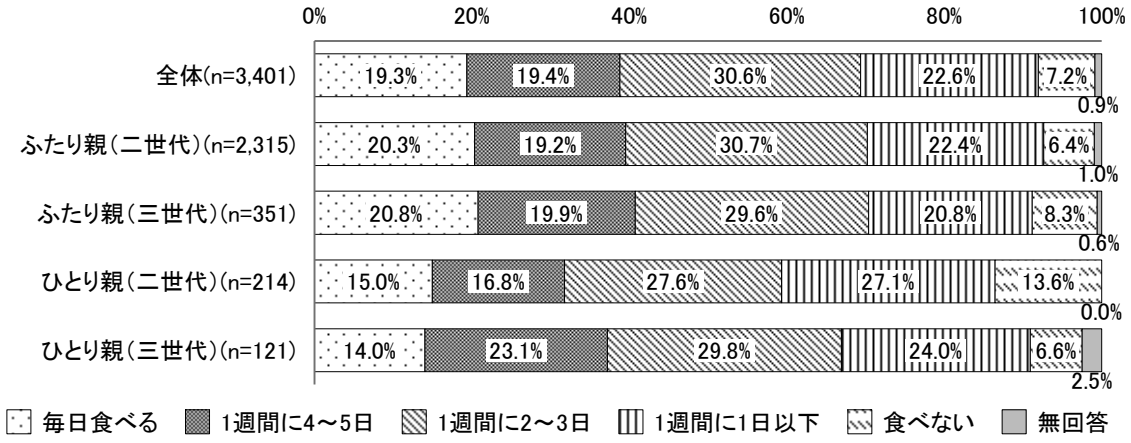
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「毎日食べる」とする割合が低く、「１週間に１日以下」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「毎日食べる」とする割合が低く、「ひとり親（二世代）」では「食べない」とする割合が高くなっている。

図表 226　給食以外での摂取状況_くだもの：単数回答（Q17B）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.05）



6) 給食以外での摂取状況_肉か魚

小学生の「全体」では、「毎日食べる」が 61.6%でもっとも割合が高く、次いで「1 週間に 4～5 日」が 22.6%となっている。

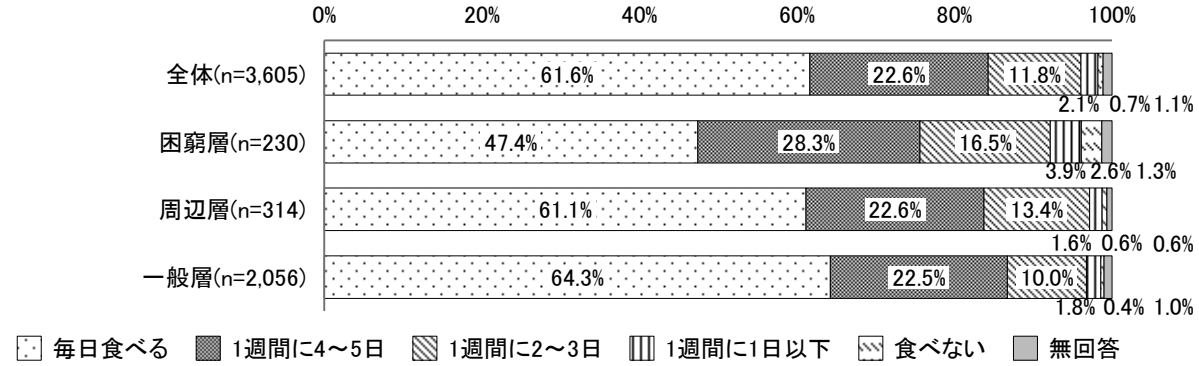
「困窮層」では、「毎日食べる」が 47.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「毎日食べる」が 61.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「毎日食べる」が 64.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「毎日食べる」が 63.8%でもっとも割合が高く、次いで「1 週間に 4～5 日」が 23.6%となっている。

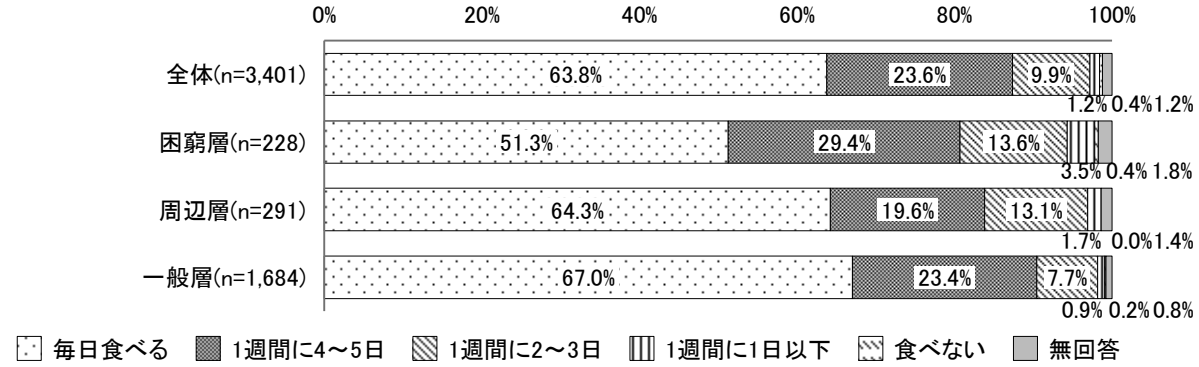
「困窮層」では、「毎日食べる」が 51.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「毎日食べる」が 64.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「毎日食べる」が 67.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 227　給食以外での摂取状況_肉か魚：単数回答（Q17C）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



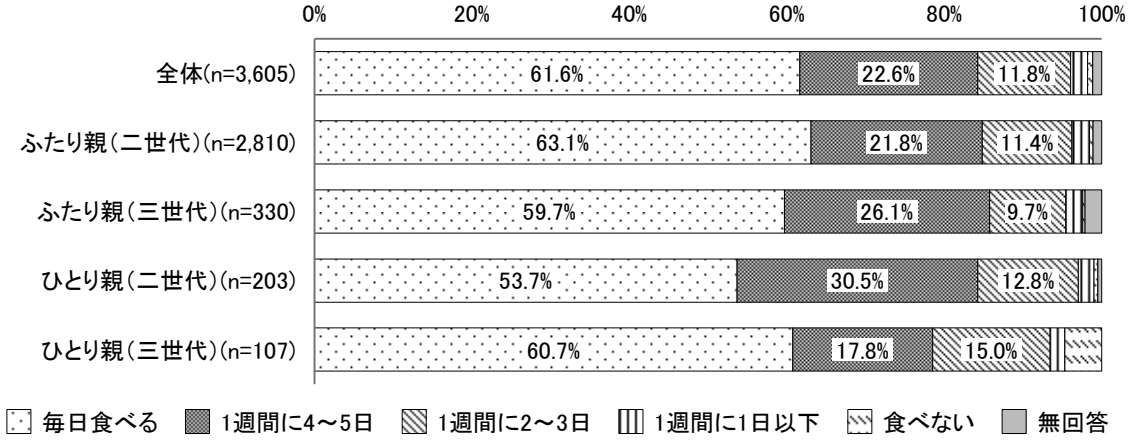
＜中学生＞（p<.01）



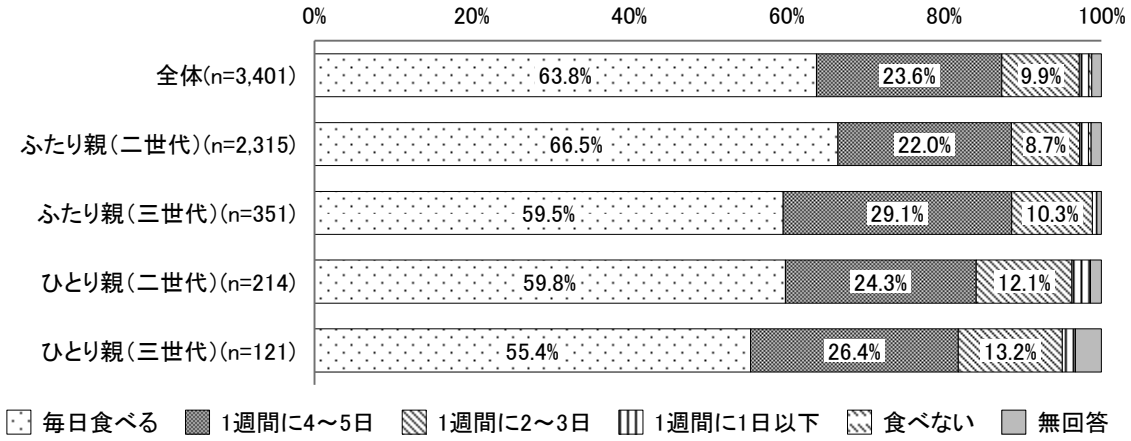
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「毎日食べる」とする割合が低く、「１週間に４～５日」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代）」において「毎日食べる」とする割合が低くなっている。

図表 228　給食以外での摂取状況_肉か魚：単数回答（Q17C）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.05）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q17C 給食以外での摂取状況_肉か魚					
		毎日食べる	1週間に4～5日	1週間に2～3日	1週間に1日以下	食べない	無回答
全体	3,605	61.6	22.6	11.8	2.1	0.7	1.1
ふたり親（二世代）	2,810	63.1	21.8	11.4	2.2	0.5	1.1
ふたり親（三世代）	330	59.7	26.1	9.7	2.1	0.3	2.1
ひとり親（二世代）	203	53.7	30.5	12.8	2.0	0.5	0.5
ひとり親（三世代）	107	60.7	17.8	15.0	1.9	4.7	0.0

＜数値表：中学生＞

	合計	Q17C 給食以外での摂取状況_肉か魚					
		毎日食べる	1週間に4～5日	1週間に2～3日	1週間に1日以下	食べない	無回答
全体	3,401	63.8	23.6	9.9	1.2	0.4	1.2
ふたり親（二世代）	2,315	66.5	22.0	8.7	1.1	0.3	1.3
ふたり親（三世代）	351	59.5	29.1	10.3	0.6	0.0	0.6
ひとり親（二世代）	214	59.8	24.3	12.1	2.3	0.0	1.4
ひとり親（三世代）	121	55.4	26.4	13.2	1.7	0.0	3.3

7)　給食以外での摂取状況_カップめん・インスタントめん

小学生の「全体」では、「1 週間に 1 日以下」が 58.0%でもっとも割合が高く、次いで「食べない」が 26.7%となっている。

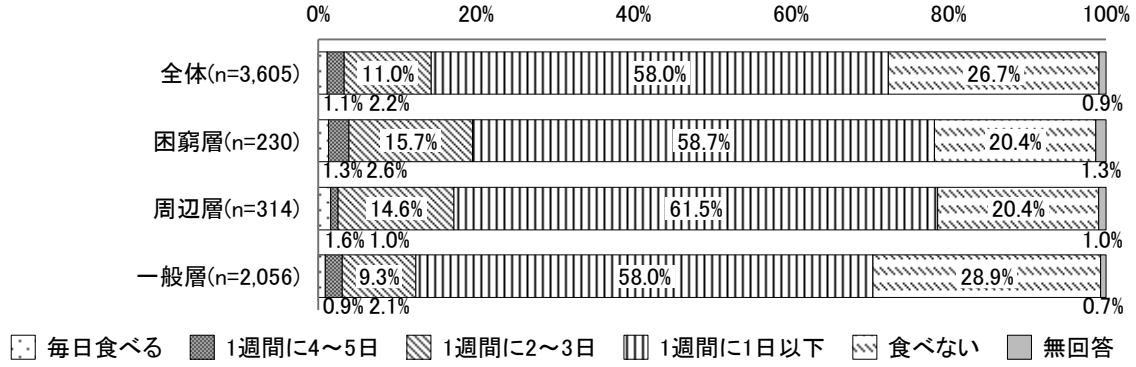
「困窮層」では、「1 週間に 1 日以下」が 58.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「1 週間に 1 日以下」が 61.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「1 週間に 1 日以下」が 58.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「1 週間に 1 日以下」が 56.9%でもっとも割合が高く、次いで「食べない」が 25.0%となっている。

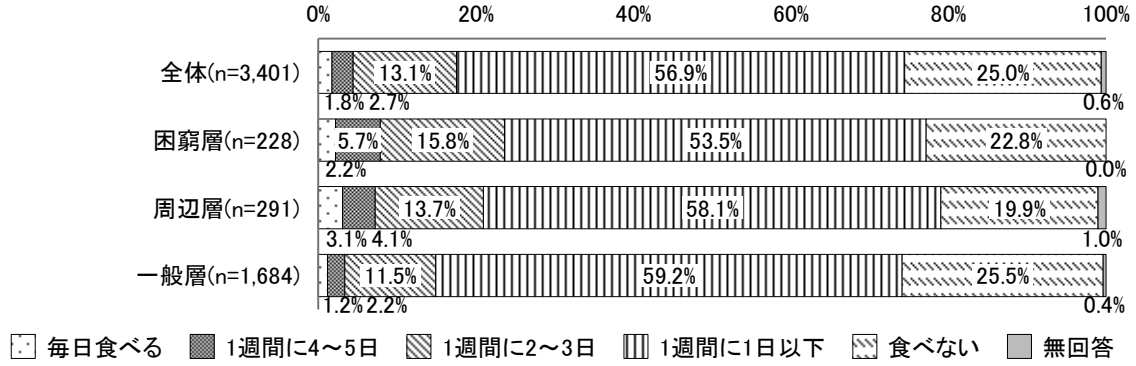
「困窮層」では、「1 週間に 1 日以下」が 53.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「1 週間に 1 日以下」が 58.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「1 週間に 1 日以下」が 59.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 229　給食以外での摂取状況_カップめん・インスタントめん：単数回答（Q17D）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



8） 給食以外での摂取状況_コンビニのおにぎり・お弁当

小学生の「全体」では、「1 週間に 1 日以下」が 53.6%でもっとも割合が高く、次いで「食べない」が 28.9%となっている。

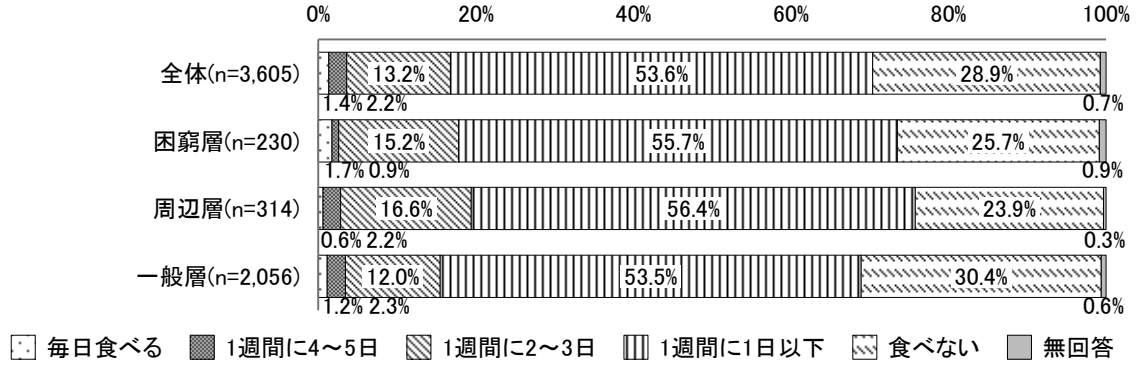
「困窮層」では、「1 週間に 1 日以下」が 55.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「1 週間に 1 日以下」が 56.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「1 週間に 1 日以下」が 53.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「1 週間に 1 日以下」が 53.8%でもっとも割合が高く、次いで「食べない」が 28.3%となっている。

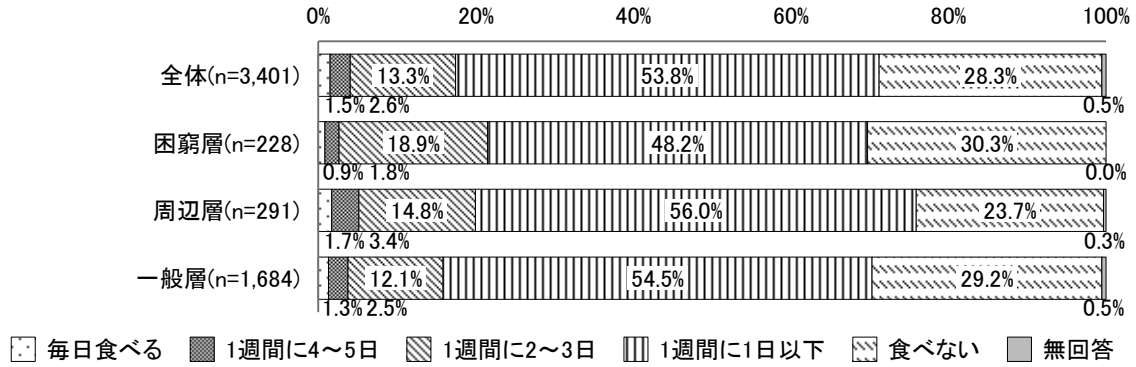
「困窮層」では、「1 週間に 1 日以下」が 48.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「1 週間に 1 日以下」が 56.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「1 週間に 1 日以下」が 54.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 230　給食以外での摂取状況_コンビニのおにぎり・お弁当：単数回答（Q17E）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



9) 給食以外での摂取状況_お菓子

小学生の「全体」では、「毎日食べる」が 49.2%でもっとも割合が高く、次いで「1 週間に 4～5 日」が 26.1%となっている。

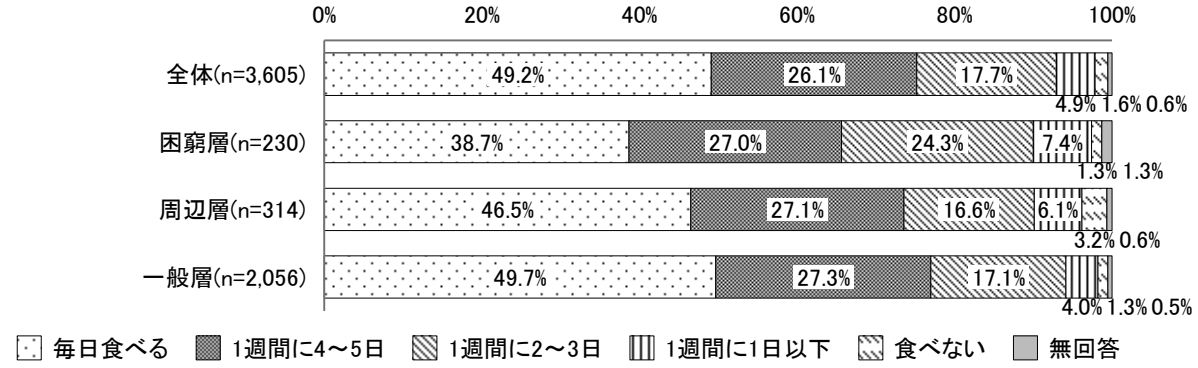
「困窮層」では、「毎日食べる」が 38.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「毎日食べる」が 46.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「毎日食べる」が 49.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「毎日食べる」が 32.5%でもっとも割合が高く、次いで「1 週間に 4～5 日」が 28.8%となっている。

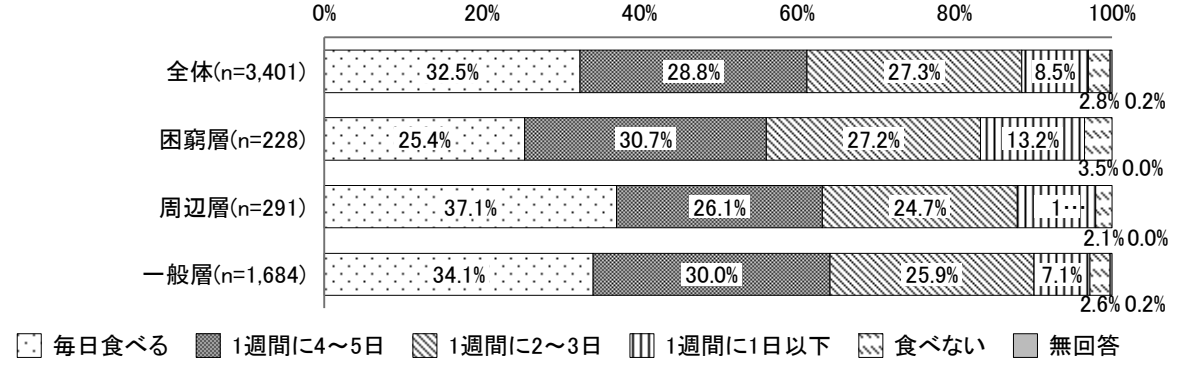
「困窮層」では、「1 週間に 4～5 日」が 30.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「毎日食べる」が 37.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「毎日食べる」が 34.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 231　給食以外での摂取状況_お菓子：単数回答（Q17F）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



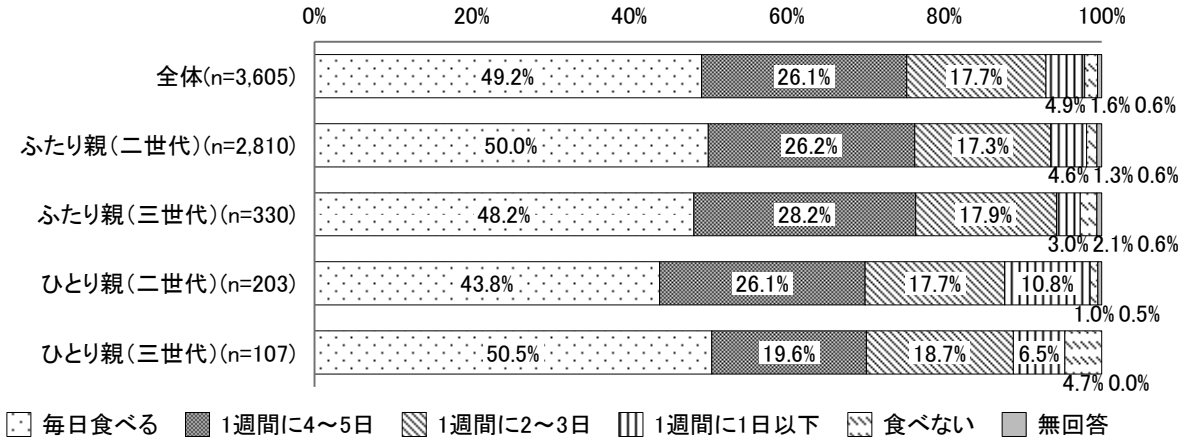
＜中学生＞（p<.05）



世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代)」において「１週間に１日程度」とする割合が高くなっている。中学生では有意な差がみられない。

図表 232　給食以外での摂取状況_お菓子：単数回答（Q17F）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



（3）平日放課後や休日の過ごし方について

1） 平日の放課後に過ごす人

小学生の「全体」では、「家族」が 57.2%でもっとも割合が高く、次いで「学校の友だち」が 24.2%となっている。

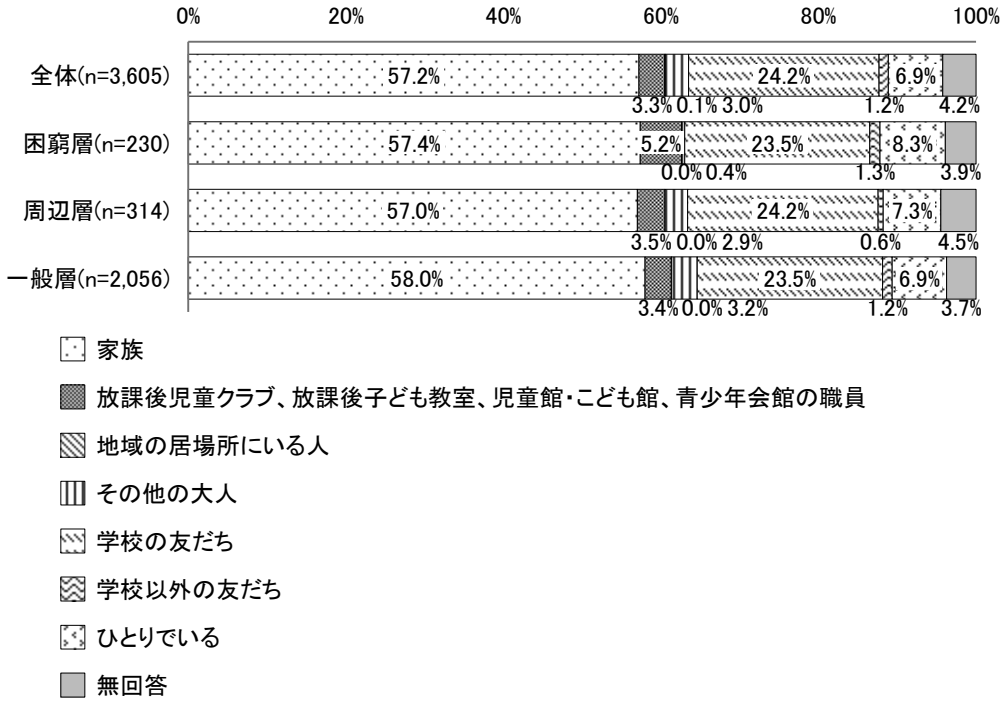
「困窮層」では、「家族」が 57.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「家族」が 57.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「家族」が 58.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「家族」が 49.3%でもっとも割合が高く、次いで「学校の友だち」が 30.5%となっている。

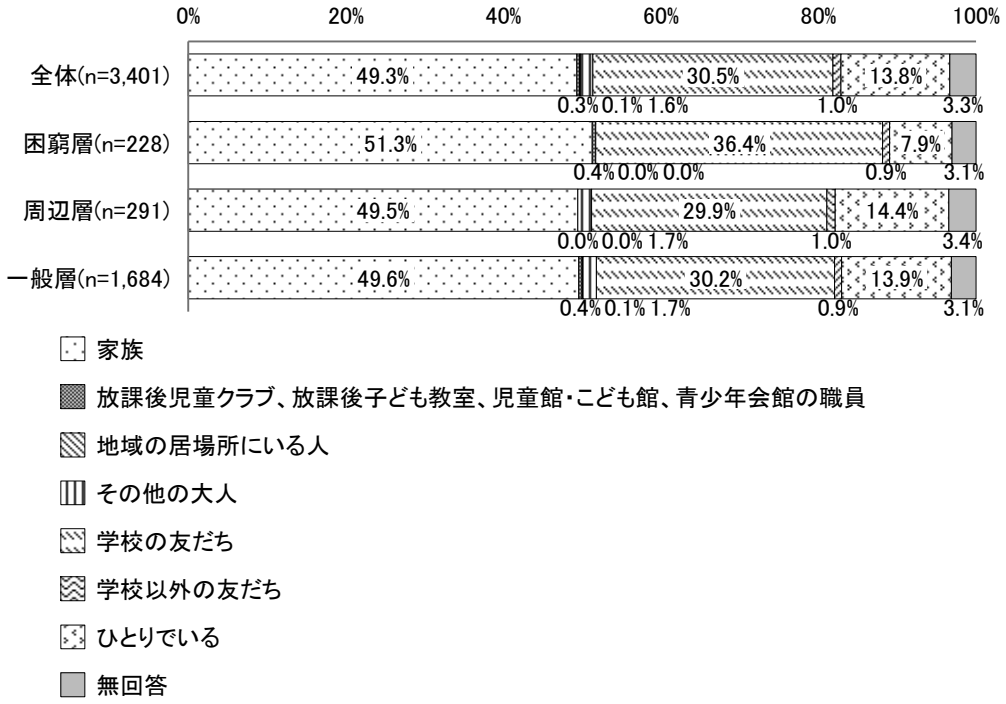
「困窮層」では、「家族」が 51.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「家族」が 49.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「家族」が 49.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 233 平日の放課後に過ごす人：単数回答（Q18）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



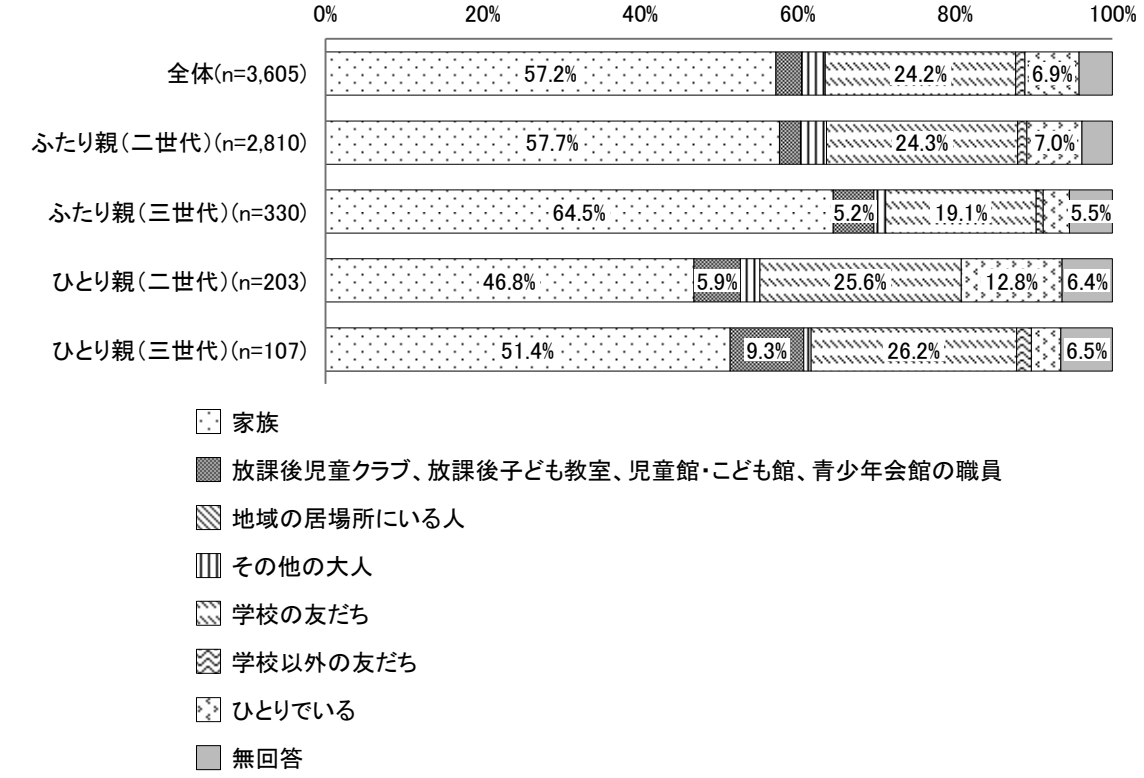
＜中学生＞（有意差なし）


0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体(n=3,401)
49.3%
0.3%
0.1%
1.6%
30.5%
1.0%
13.8%
3.3%
困窮層(n=228)
51.3%
0.4%
0.0%
0.0%
36.4%
0.9%
7.9%
3.1%
周辺層(n=291)
49.5%
0.0%
0.0%
1.7%
29.9%
1.0%
14.4%
3.4%
一般層(n=1,684)
49.6%
0.4%
0.1%
1.7%
30.2%
0.9%
13.9%
3.1%
家族
放課後児童クラブ、放課後子ども教室、児童館・こども館、青少年会館の職員
地域の居場所にいる人
その他の大人
学校の友だち
学校以外の友だち
ひとりでいる
無回答

世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「家族」とする割合が低く、「ひとりでいる」とする割合が高くなっている。中学生では有意な差がみられない。

図表 234　平日の放課後に過ごす人：単数回答（Q18）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q18 平日の放課後に過ごす人							
		家族	放課後児童クラブ、放課後子ども教室、児童館・こども館、青少年会館の職員	地域の居場所にいる人	その他の大人	学校の友だち	学校以外の友だち	ひとりでいる	無回答
全体	3,605	57.2	3.3	0.1	3.0	24.2	1.2	6.9	4.2
ふたり親（二世代）	2,810	57.7	2.7	0.0	3.3	24.3	1.2	7.0	3.9
ふたり親（三世代）	330	64.5	5.2	0.0	1.5	19.1	0.9	3.3	5.5
ひとり親（二世代）	203	46.8	5.9	0.0	2.5	25.6	0.0	12.8	6.4
ひとり親（三世代）	107	51.4	9.3	0.0	0.9	26.2	1.9	3.7	6.5

2)　平日の放課後に過ごす場所_自分の家

小学生の「全体」では、「毎日」が 53.1%でもっとも割合が高く、次いで「週に 3～4 日」が 23.6%となっている。

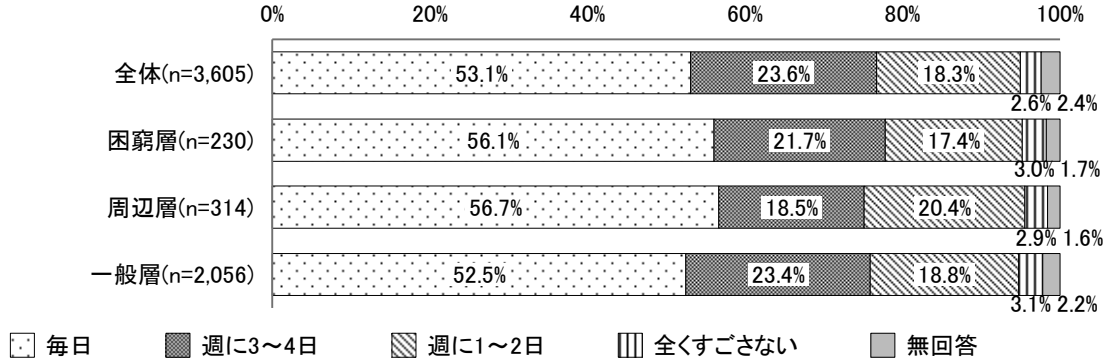
「困窮層」では、「毎日」が 56.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「毎日」が 56.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「毎日」が 52.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「毎日」が 59.6%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 日」が 18.3%となっている。

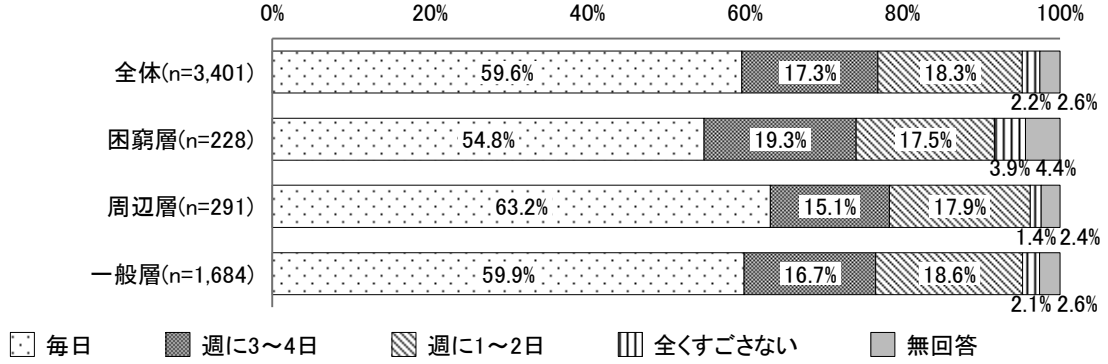
「困窮層」では、「毎日」が 54.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「毎日」が 63.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「毎日」が 59.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 235　平日の放課後に過ごす場所_自分の家：単数回答（Q19A）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



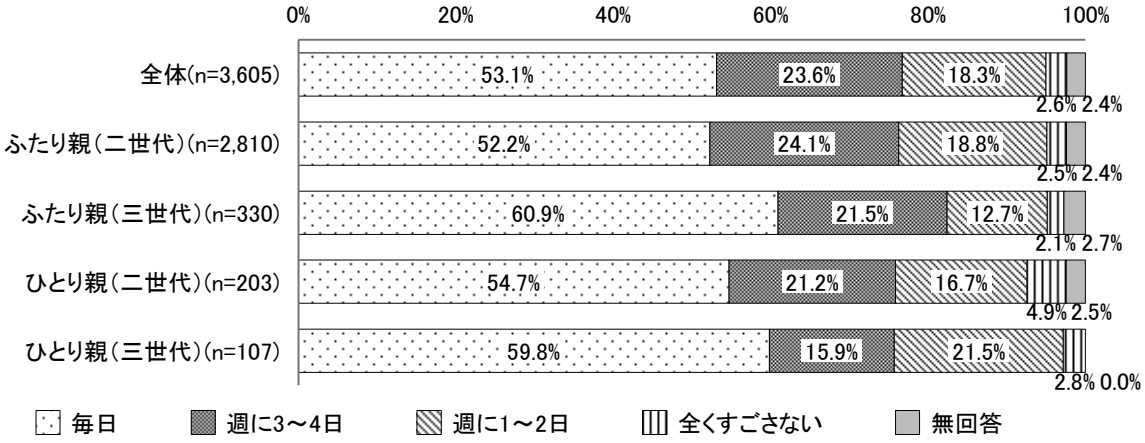
＜中学生＞（有意差なし）



世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代)」において「毎日」とする割合が高くなっている。中学生では、有意な差がみられなかった。

図表 236　平日の放課後に過ごす場所_自分の家：単数回答（Q19A）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.05）



3)　平日の放課後に過ごす場所_友だちの家

小学生の「全体」では、「全くすごさない」が 56.8%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 日」が 29.1%となっている。

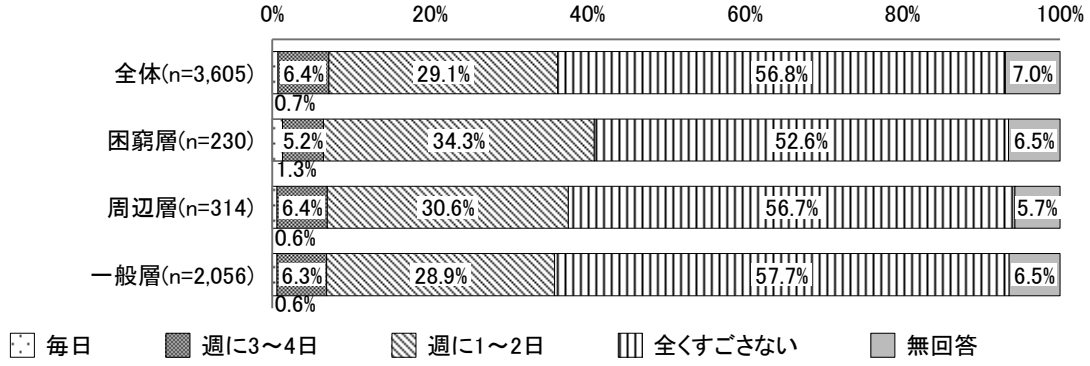
「困窮層」では、「全くすごさない」が 52.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 56.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 57.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「全くすごさない」が 70.2%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 日」が 17.7%となっている。

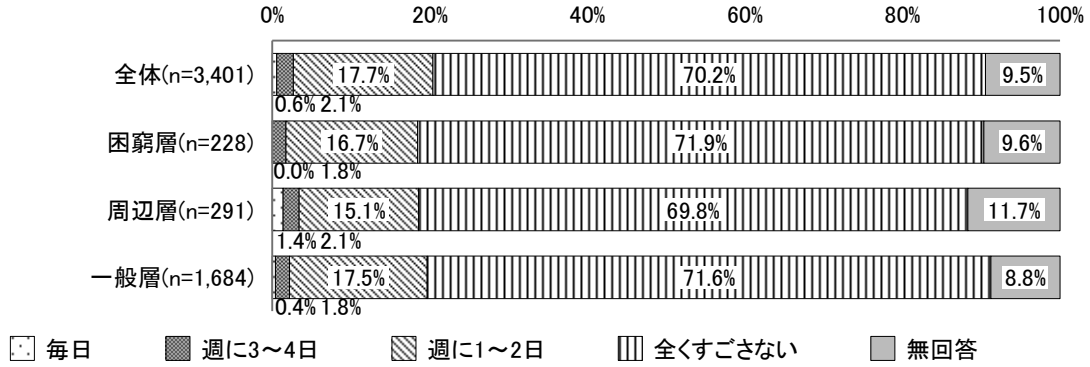
「困窮層」では、「全くすごさない」が 71.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 69.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 71.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 237　平日の放課後に過ごす場所_友だちの家：単数回答（Q19B）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）

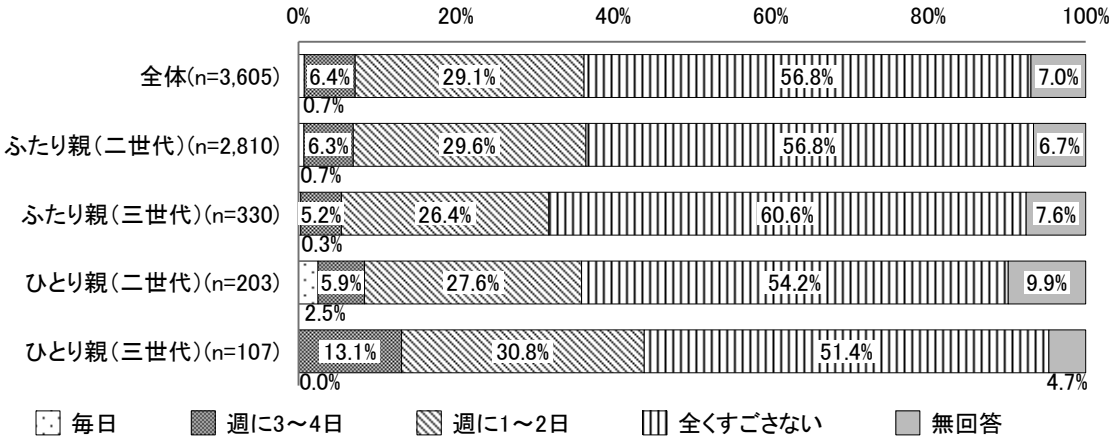


＜中学生＞（有意差なし）



世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代）」において「週に３｜４日」とする割合が高くなっている。中学生では、有意な差がみられなかった。

図表 238　平日の放課後に過ごす場所_友だちの家：単数回答（Q19B）（世帯タイプ別）
＜小学生＞（p<.05）



4)　平日の放課後に過ごす場所_塾や習い事

小学生の「全体」では、「週に 1～2 日」が 40.8%でもっとも割合が高く、次いで「全くすごさない」が 30.7%となっている。

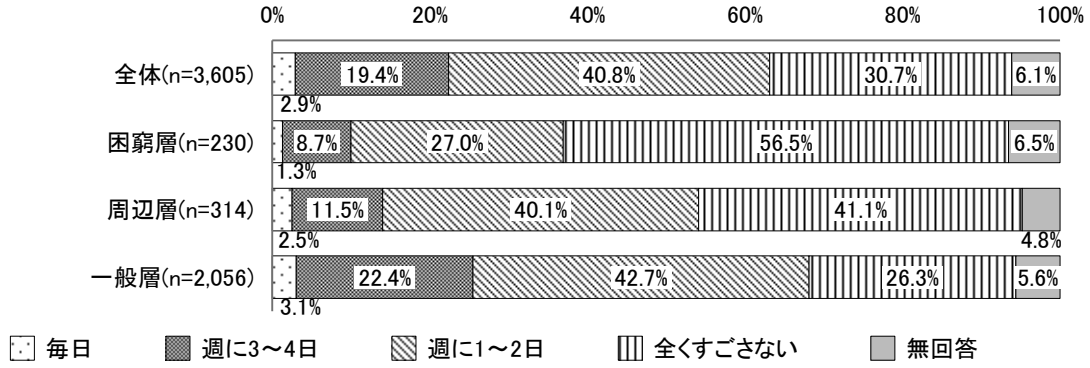
「困窮層」では、「全くすごさない」が 56.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 41.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「週に 1～2 日」が 42.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「全くすごさない」が 47.5%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 日」が 32.2%となっている。

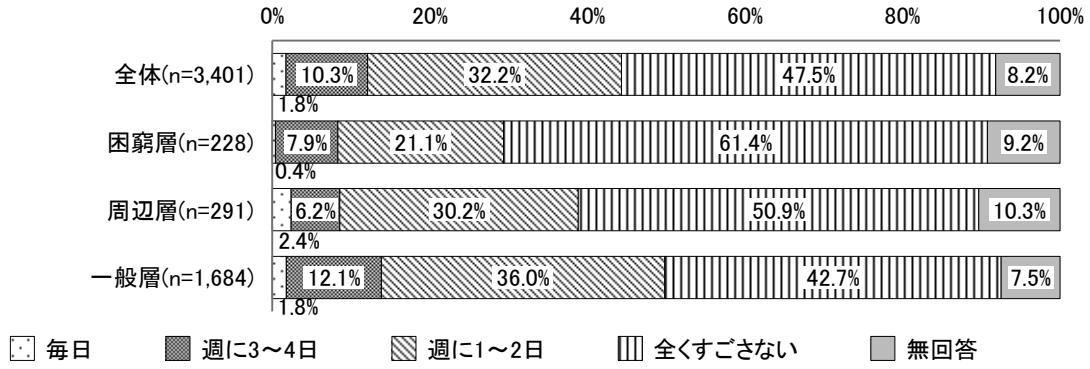
「困窮層」では、「全くすごさない」が 61.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 50.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 42.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 239　平日の放課後に過ごす場所_塾や習い事：単数回答（Q19C）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



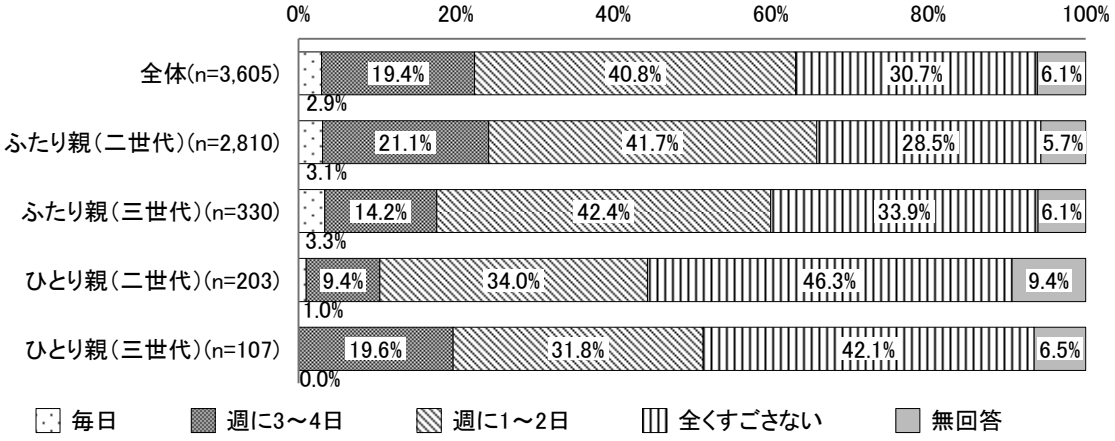
＜中学生＞（p<.01）



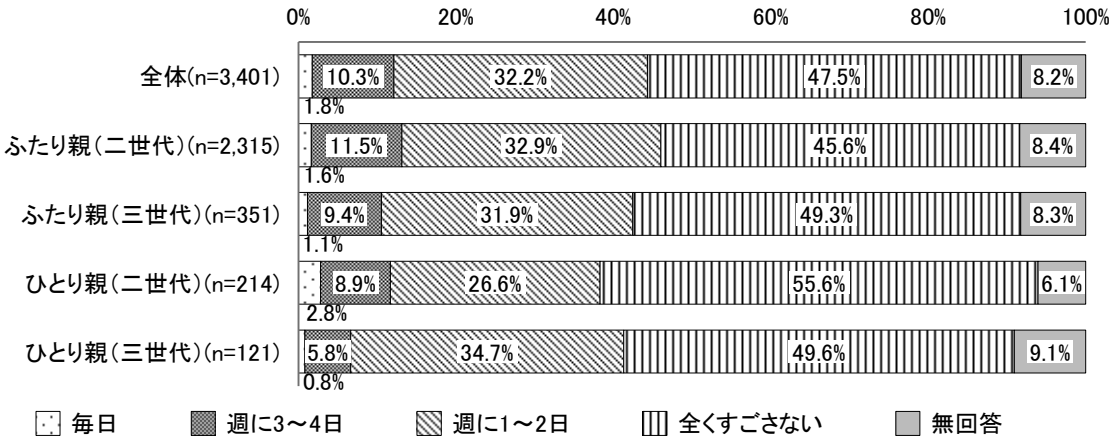
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「全くすごさない」とする割合が高くなっている。中学生では、有意な差がみられなかった。

図表 240　平日の放課後に過ごす場所_塾や習い事：単数回答（Q19C）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（有意差なし）



5)　平日の放課後に過ごす場所_放課後児童クラブ、放課後子ども教室

小学生の「全体」では、「全くすごさない」が 83.2%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 日」が 5.2%となっている。

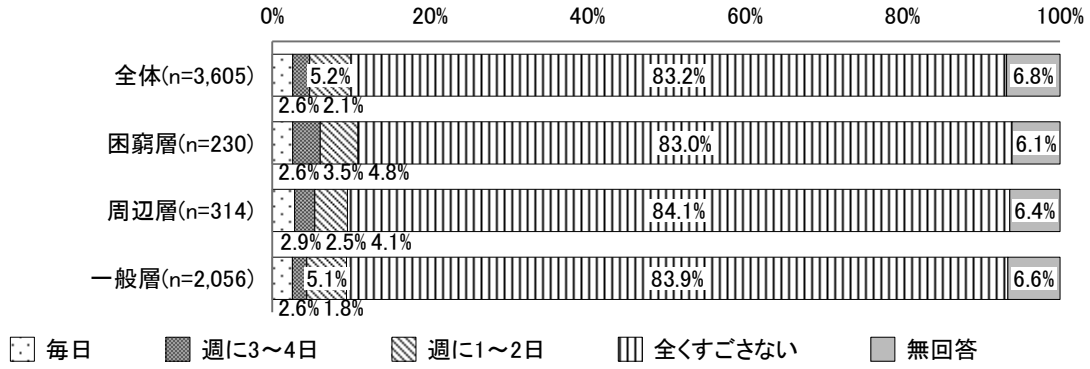
「困窮層」では、「全くすごさない」が 83.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 84.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 83.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「全くすごさない」が 87.9%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 日」が 1.4%となっている。

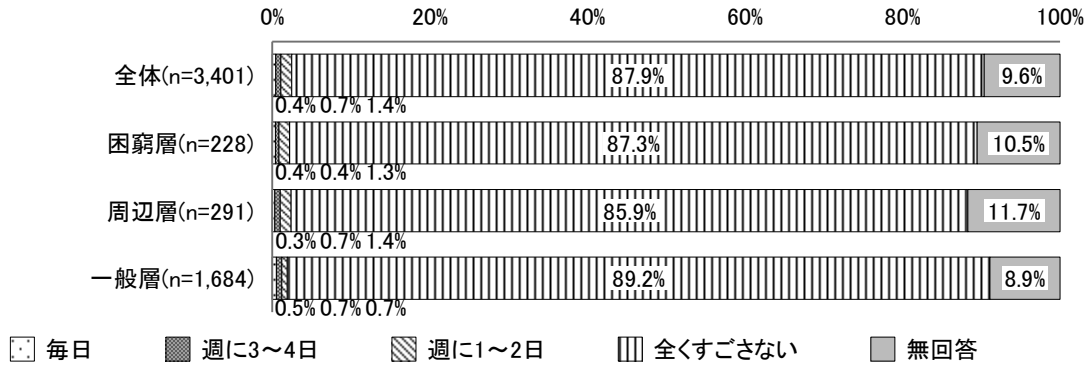
「困窮層」では、「全くすごさない」が 87.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 85.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 89.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 241　平日の放課後に過ごす場所_放課後児童クラブ、放課後子ども教室：単数回答（Q19D）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



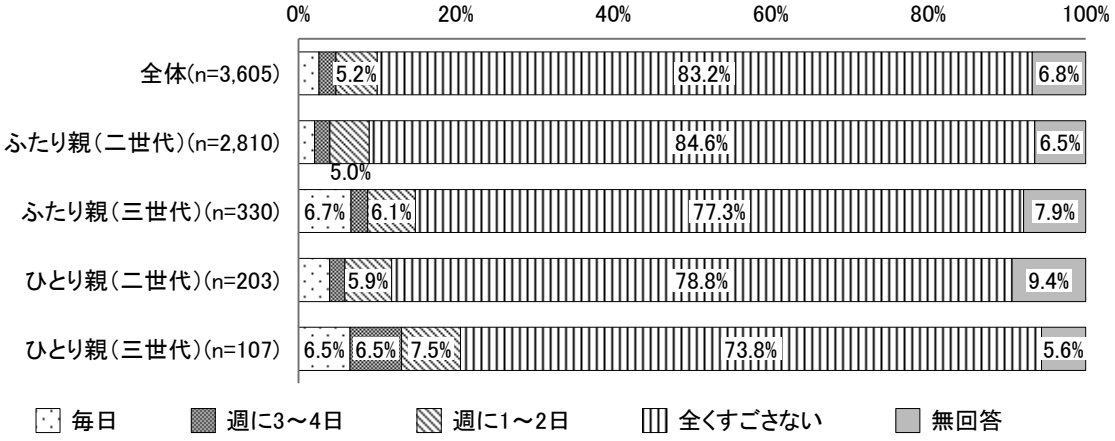
＜中学生＞（有意差なし）



世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代）」において「全く過ごさない」とする割合が低くなっている。中学生では、有意な差がみられなかった。

図表 242　平日の放課後に過ごす場所_放課後児童クラブ、放課後子ども教室：単数回答（Q19D）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q19D 平日の放課後に過ごす場所_放課後児童クラブ、放課後子ども教室				
		毎日	週に3～4日	週に1～2日	全くすごさない	無回答
全体	3,605	2.6	2.1	5.2	83.2	6.8
ふたり親（二世代）	2,810	2.0	2.0	5.0	84.6	6.5
ふたり親（三世代）	330	6.7	2.1	6.1	77.3	7.9
ひとり親（二世代）	203	3.9	2.0	5.9	78.8	9.4
ひとり親（三世代）	107	6.5	6.5	7.5	73.8	5.6

6） 平日の放課後に過ごす場所_学校の部活動

小学生の「全体」では、「全くすごさない」が 72.4%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 日」が 13.1%となっている。

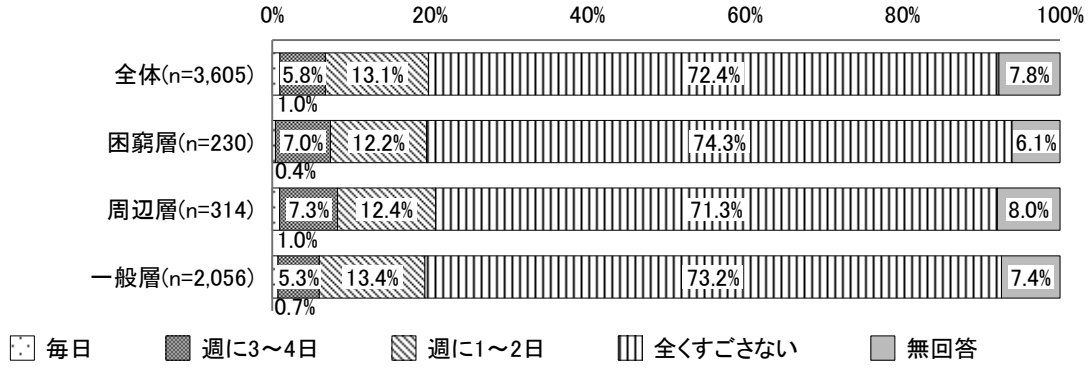
「困窮層」では、「全くすごさない」が 74.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 71.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 73.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「週に 3～4 日」が 46.5%でもっとも割合が高く、次いで「毎日」が 22.1%となっている。

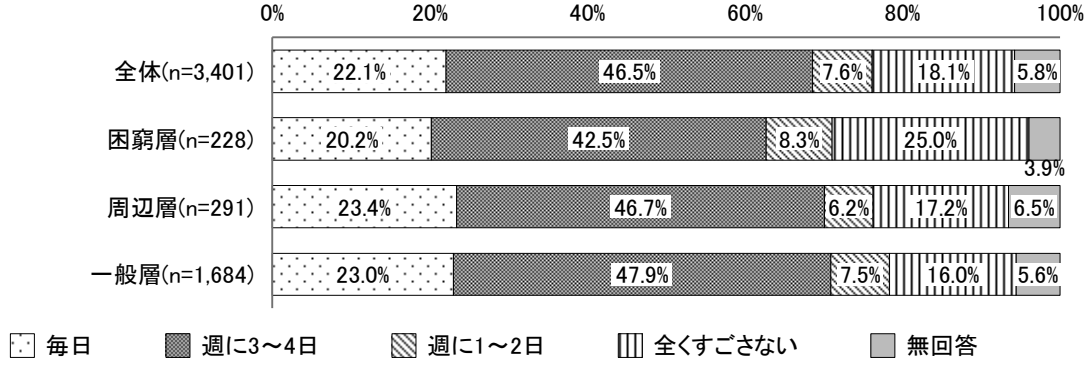
「困窮層」では、「週に 3～4 日」が 42.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「週に 3～4 日」が 46.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「週に 3～4 日」が 47.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 243　平日の放課後に過ごす場所_学校の部活動：単数回答（Q19E）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



7)　平日の放課後に過ごす場所_D、E 以外で、学校の図書館、教室、校庭

小学生の「全体」では、「全くすごさない」が 77.6%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 日」が 8.0%となっている。

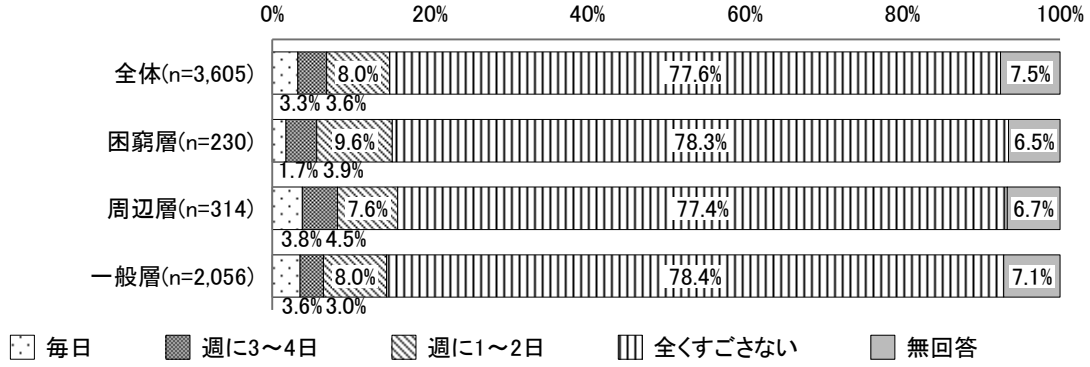
「困窮層」では、「全くすごさない」が 78.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 77.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 78.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「全くすごさない」が 82.4%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 日」が 3.7%となっている。

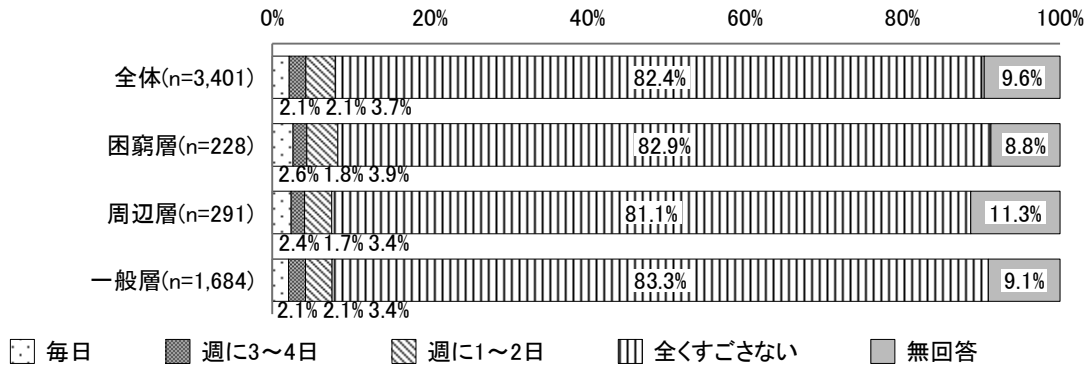
「困窮層」では、「全くすごさない」が 82.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 81.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 83.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 244　平日の放課後に過ごす場所_D、E 以外で、学校の図書館、教室、校庭：単数回答（Q19F）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



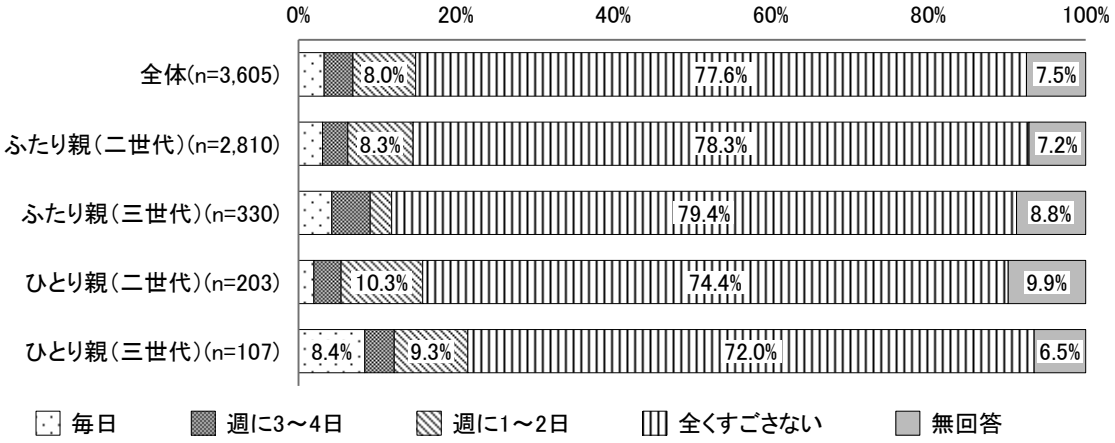
＜中学生＞（有意差なし）



世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代)」において「毎日」とする割合が高くなっている。中学生では、有意な差がみられなかった。

図表 245　平日の放課後に過ごす場所_D、E 以外で、学校の図書館、教室、校庭：単数回答（Q19F）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q19F 平日の放課後に過ごす場所_D、E以外で、学校の図書館、教室、校庭				
		毎日	週に3～4日	週に1～2日	全くすごさない	無回答
全体	3,605	3.3	3.6	8.0	77.6	7.5
ふたり親（二世代）	2,810	3.1	3.2	8.3	78.3	7.2
ふたり親（三世代）	330	4.2	4.8	2.7	79.4	8.8
ひとり親（二世代）	203	2.0	3.4	10.3	74.4	9.9
ひとり親（三世代）	107	8.4	3.7	9.3	72.0	6.5

8)　平日の放課後に過ごす場所_地域の居場所

小学生の「全体」では、「全くすごさない」が 88.5%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 日」が 3.5%となっている。

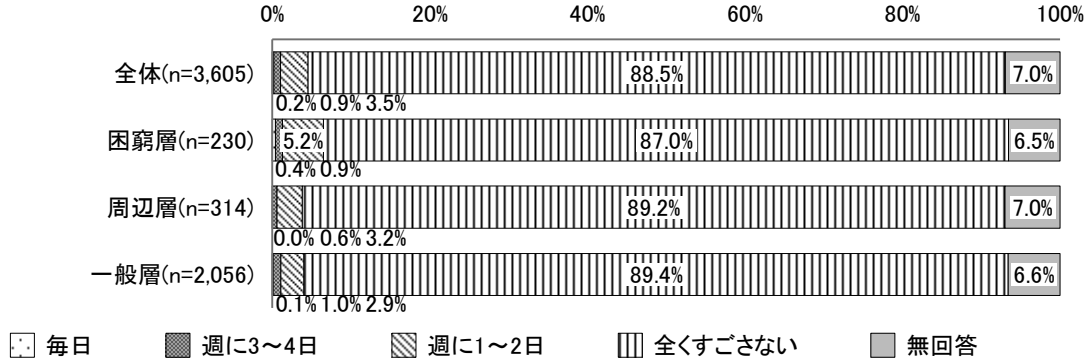
「困窮層」では、「全くすごさない」が 87.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 89.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 89.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「全くすごさない」が 88.0%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 日」が 2.0%となっている。

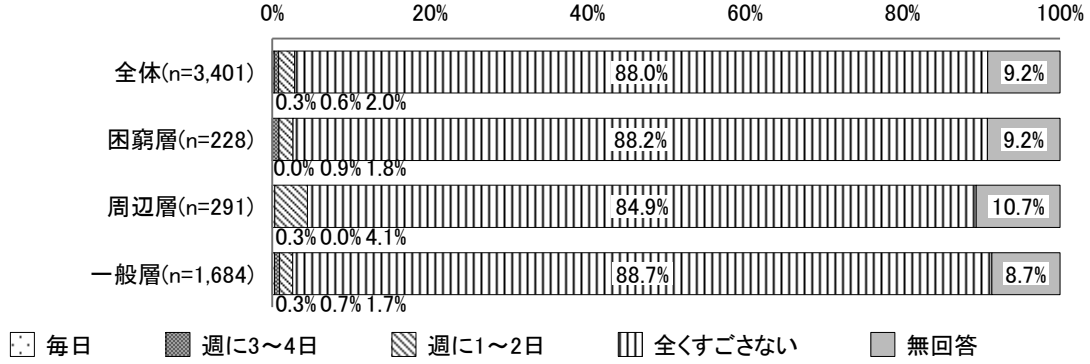
「困窮層」では、「全くすごさない」が 88.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 84.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 88.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 246　平日の放課後に過ごす場所_地域の居場所：単数回答（Q19G）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



9)　平日の放課後に過ごす場所_学校外のスポーツクラブの活動の場

小学生の「全体」では、「全くすごさない」が 72.7%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 日」が 13.4%となっている。

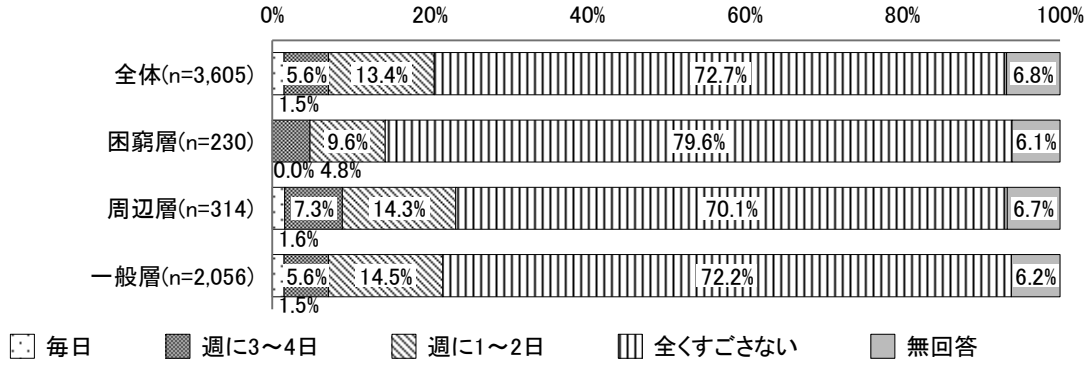
「困窮層」では、「全くすごさない」が 79.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 70.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 72.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「全くすごさない」が 77.3%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 日」が 7.7%となっている。

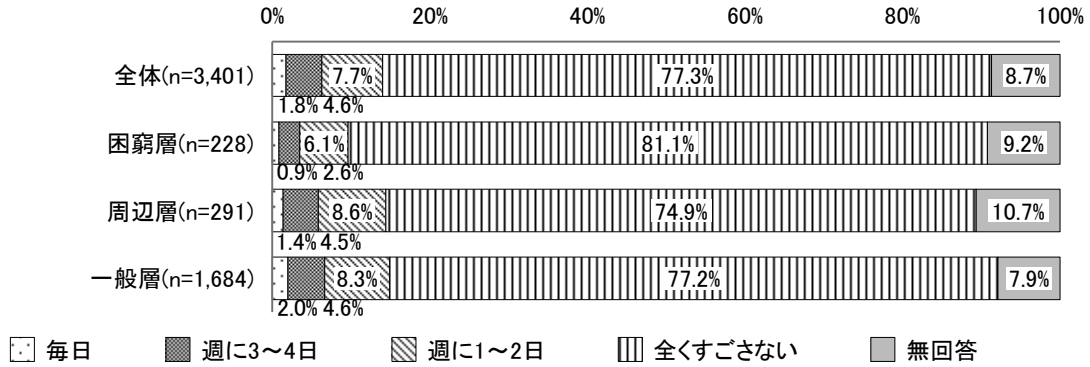
「困窮層」では、「全くすごさない」が 81.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 74.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 77.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 247　平日の放課後に過ごす場所_学校外のスポーツクラブの活動の場：単数回答（Q19H）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



10） 平日の放課後に過ごす場所_公園

小学生の「全体」では、「全くすごさない」が 37.1%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 日」が 34.3%となっている。

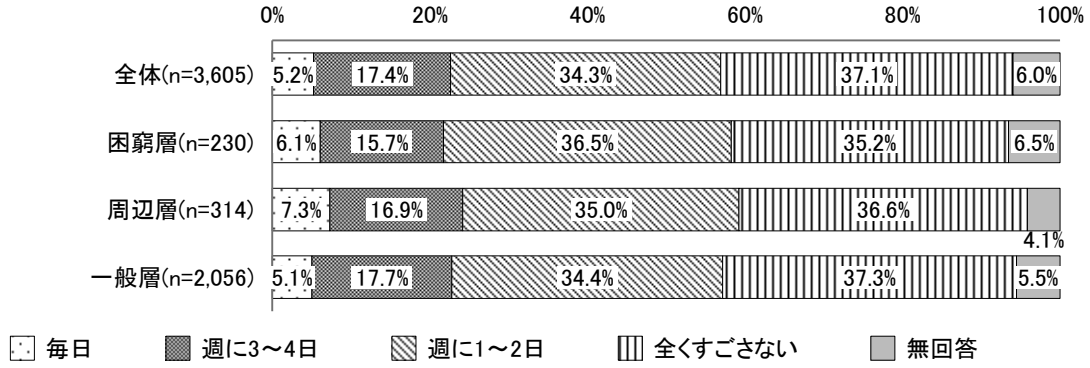
「困窮層」では、「週に 1～2 日」が 36.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 36.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 37.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「全くすごさない」が 66.2%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 日」が 19.1%となっている。

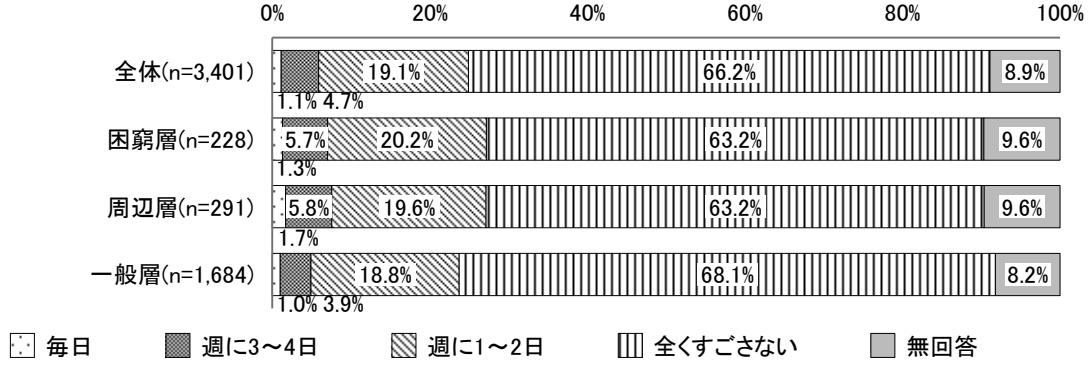
「困窮層」では、「全くすごさない」が 63.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 63.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 68.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 248　平日の放課後に過ごす場所_公園：単数回答（Q19I）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



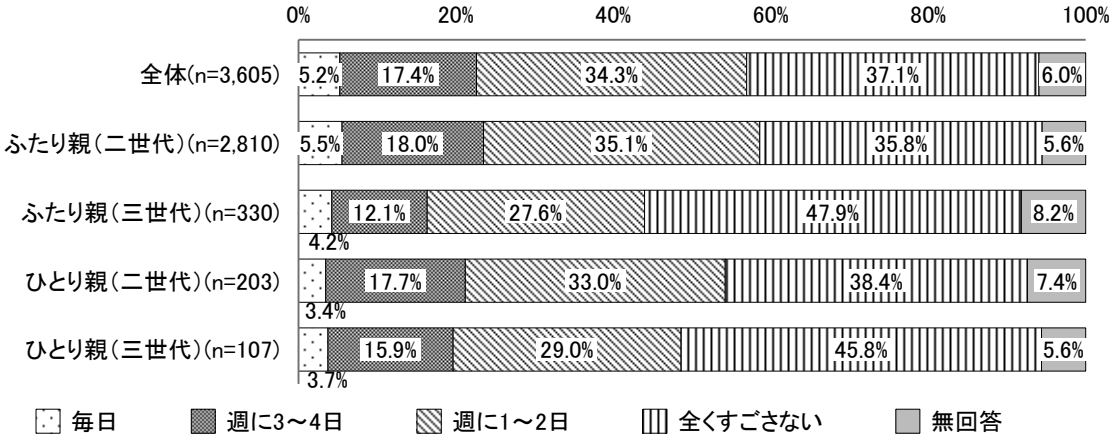
＜中学生＞（有意差なし）



世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ふたり親（三世代)」において「全く過ごさない」とする割合が高くなっている。中学生では、有意な差がみられなかった。

図表 249　平日の放課後に過ごす場所_公園：単数回答（Q19I）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



11） 平日の放課後に過ごす場所_図書館

小学生の「全体」では、「全くすごさない」が 85.0%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 日」が 7.1%となっている。

「困窮層」では、「全くすごさない」が 88.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 86.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 85.2%でもっとも割合が高くなっている。

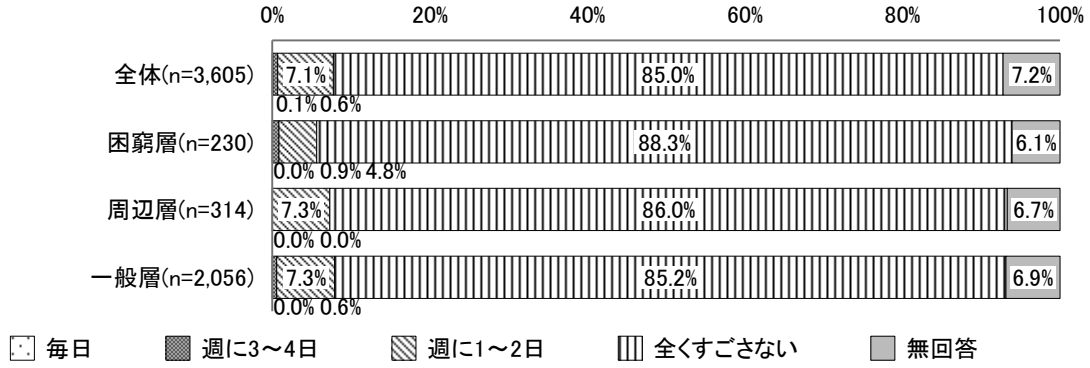
中学生の「全体」では、「全くすごさない」が 86.6%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 日」が 3.4%となっている。

「困窮層」では、「全くすごさない」が 86.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 83.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 87.4%でもっとも割合が高くなっている。

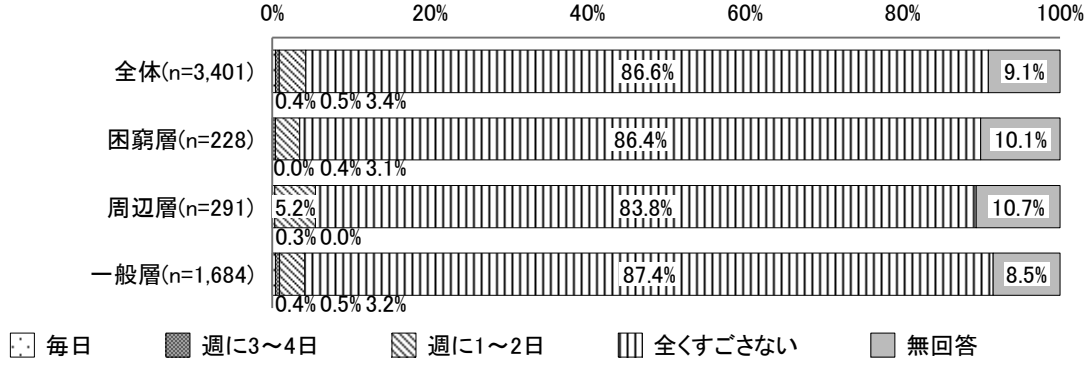
f

図表 250　平日の放課後に過ごす場所_図書館：単数回答（Q19J）（生活困難度別）

＜小学生＞（検定不可）



＜中学生＞（有意差なし）



12） 平日の放課後に過ごす場所_公民館

小学生の「全体」では、「全くすごさない」が 88.7%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 日」が 3.5%となっている。

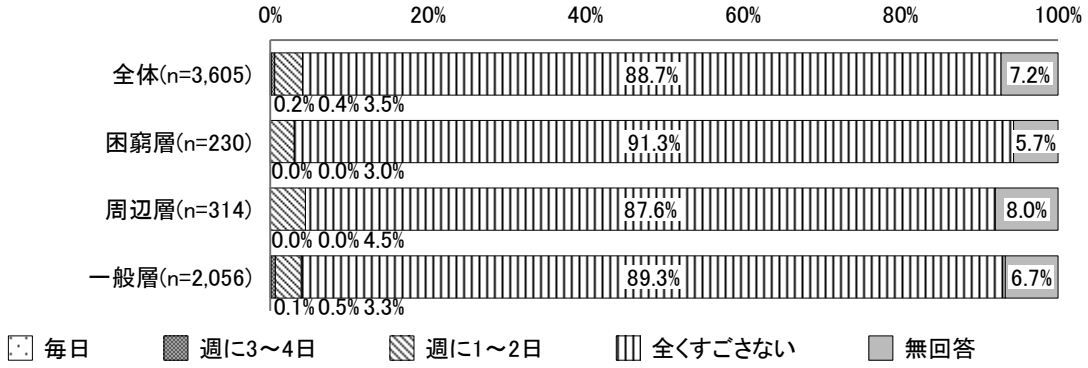
「困窮層」では、「全くすごさない」が 91.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 87.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 89.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「全くすごさない」が 88.0%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 日」が 2.1%となっている。

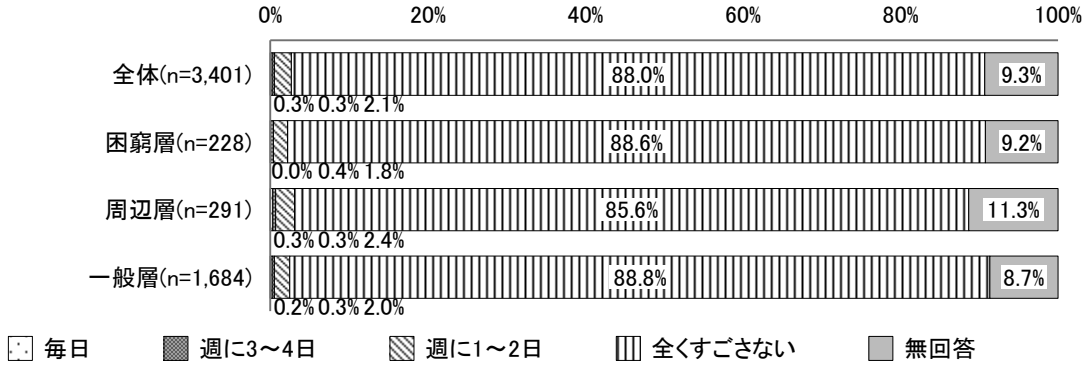
「困窮層」では、「全くすごさない」が 88.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 85.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 88.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 251　平日の放課後に過ごす場所_公民館：単数回答（Q19K）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



13） 平日の放課後に過ごす場所_児童館・こども館、青少年会館

小学生の「全体」では、「全くすごさない」が 87.5%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 回」が 4.7%となっている。

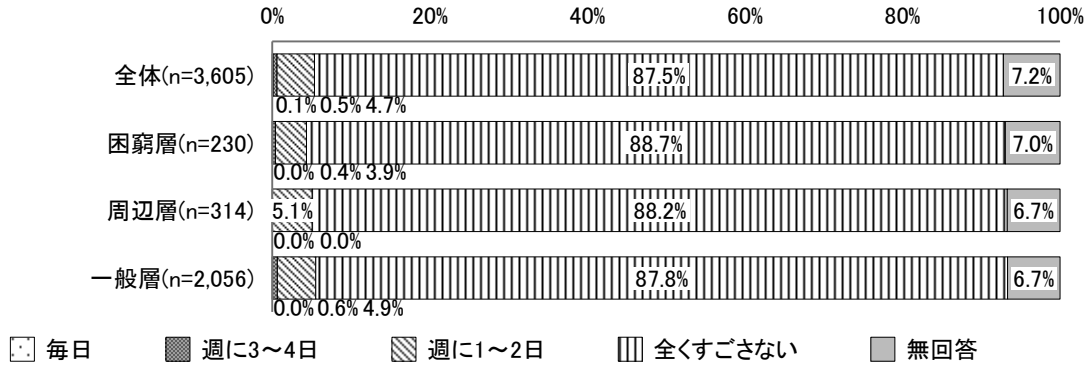
「困窮層」では、「全くすごさない」が 88.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 88.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 87.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「全くすごさない」が 88.7%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 回」が 1.3%となっている。

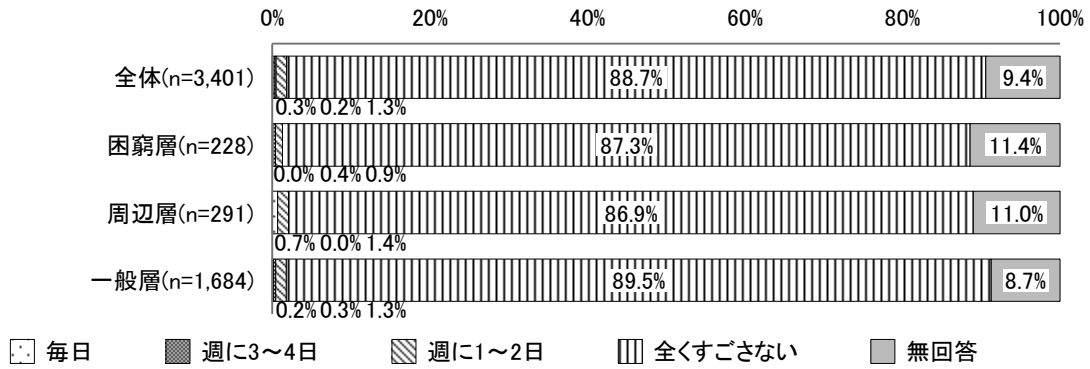
「困窮層」では、「全くすごさない」が 87.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 86.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 89.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 252　平日の放課後に過ごす場所_児童館・こども館、青少年会館：単数回答（Q19L）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



14）平日の放課後に過ごす場所_ファストフード店、ショッピングモール、ゲームセンター

小学生の「全体」では、「全くすごさない」が 71.3%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 日」が 18.4%となっている。

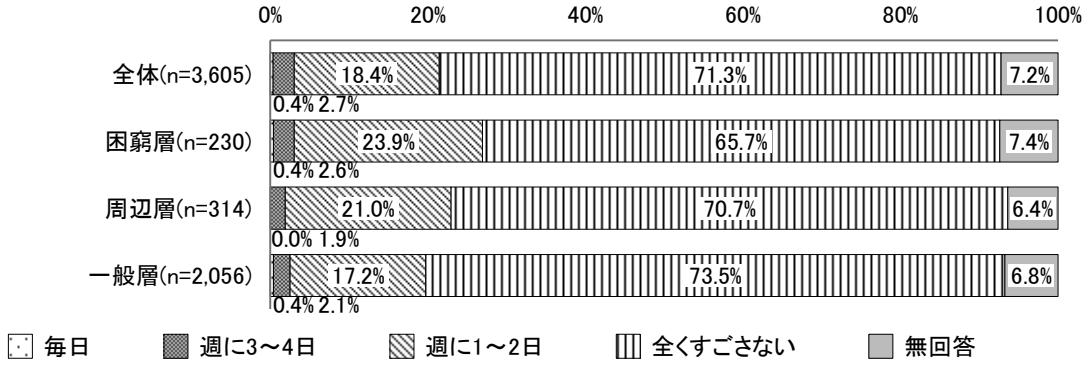
「困窮層」では、「全くすごさない」が 65.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 70.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 73.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「全くすごさない」が 65.7%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 日」が 21.5%となっている。

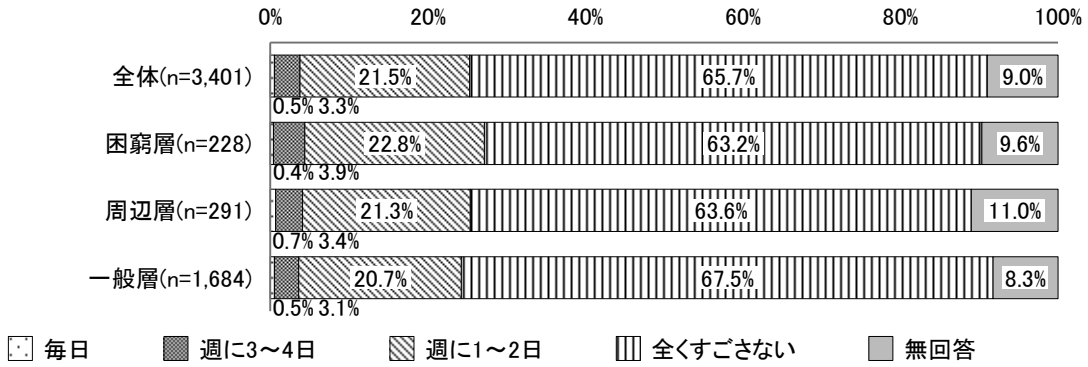
「困窮層」では、「全くすごさない」が 63.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 63.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 67.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 253　平日の放課後に過ごす場所_ファストフード店、ショッピングモール、ゲームセンター：単数回答（Q19M）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



15） 平日の放課後に過ごす場所_その他

小学生の「全体」では、「全くすごさない」が 51.9%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 回」が 3.1%となっている。

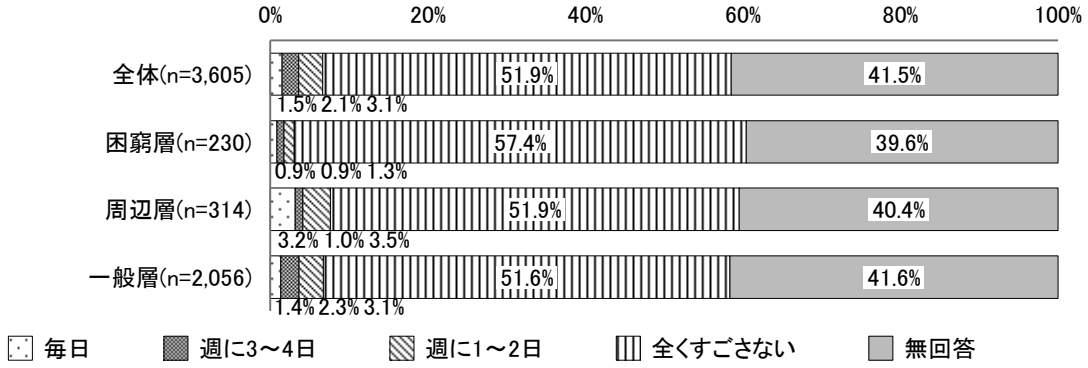
「困窮層」では、「全くすごさない」が 57.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 51.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 51.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「全くすごさない」が 49.5%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 回」が 1.3%となっている。

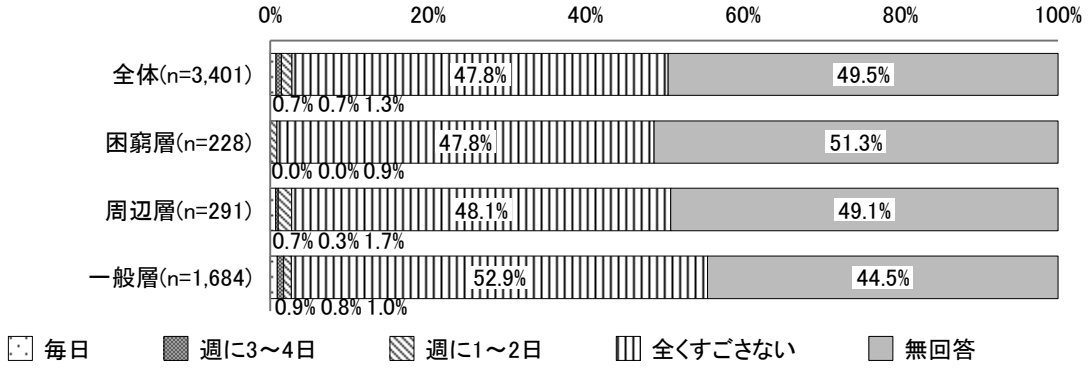
「困窮層」では、「全くすごさない」が 47.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「全くすごさない」が 48.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「全くすごさない」が 52.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 254　平日の放課後に過ごす場所_その他：単数回答（Q19N）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（有意差なし）



16）一番ほっとできる居場所

小学生の「全体」では、「A_自分の家」が 81.0%でもっとも割合が高く、次いで「I_公園」が 3.7%となっている。

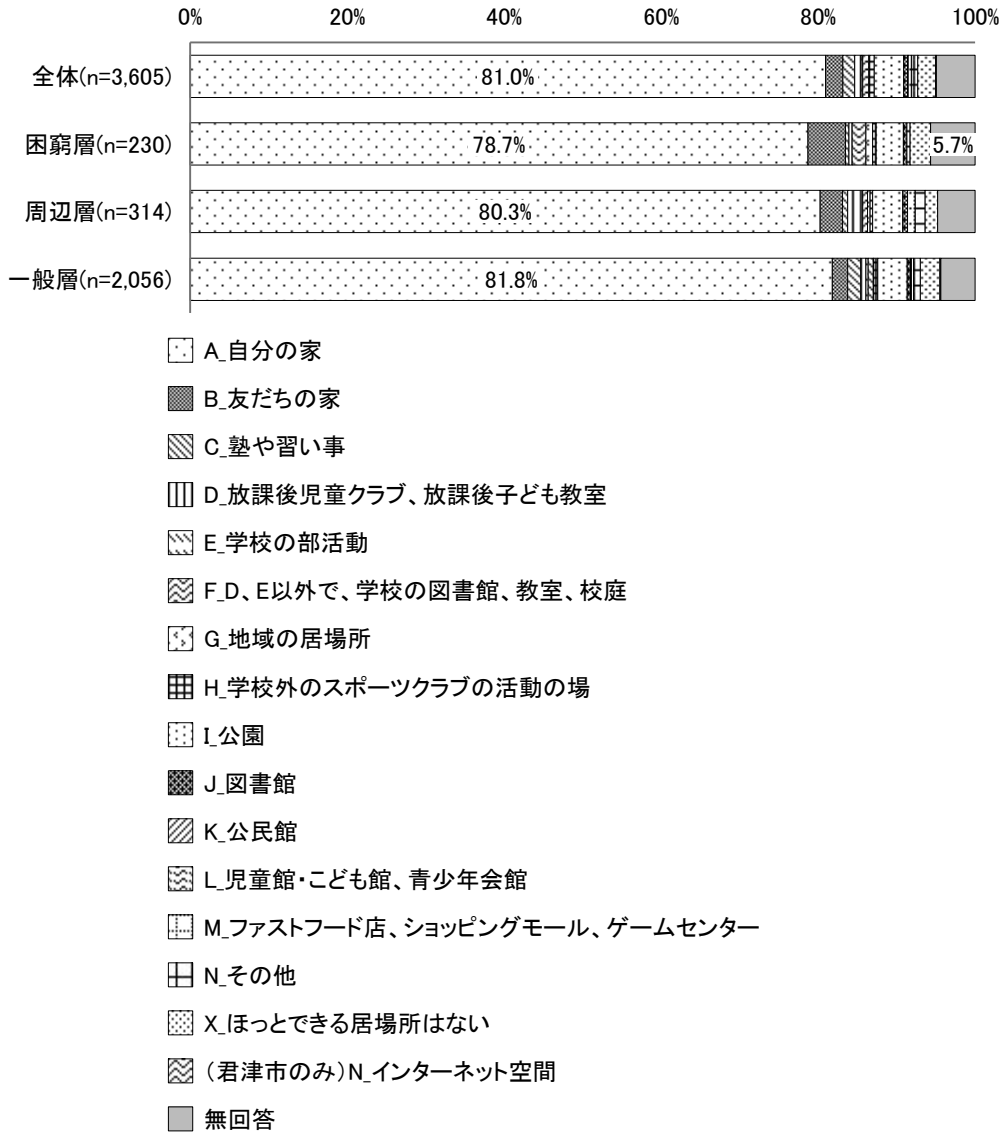
「困窮層」では、「A_自分の家」が 78.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「A_自分の家」が 80.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「A_自分の家」が 81.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「A_自分の家」が 82.5%でもっとも割合が高く、次いで「E_学校の部活動」が 4.0%となっている。

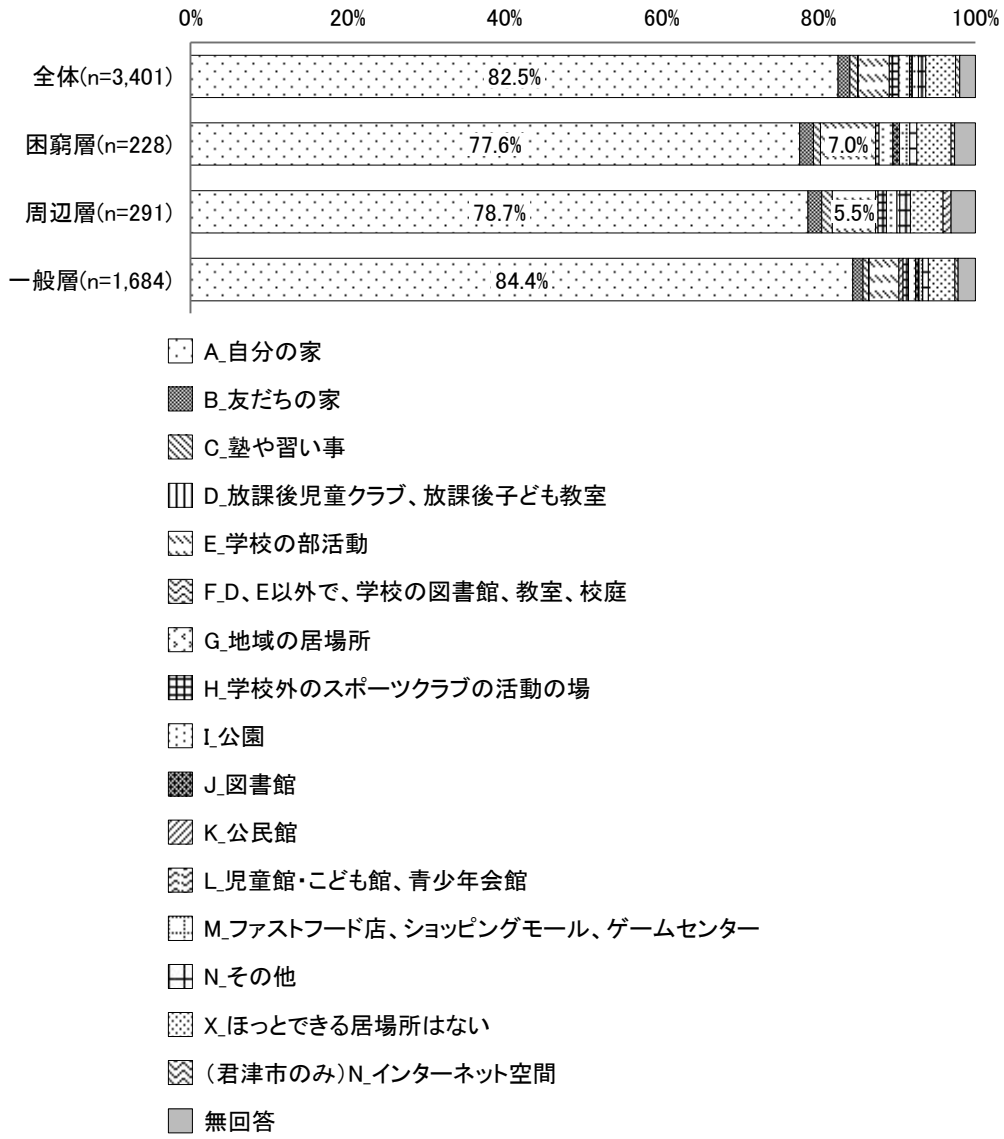
「困窮層」では、「A_自分の家」が 77.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「A_自分の家」が 78.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「A_自分の家」が 84.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 255　一番ほっとできる居場所：単数回答（Q20）（生活困難度別）

＜小学生＞（検定不可）



＜中学生＞（検定不可）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q20 一番ほっとできる居場所																
		A_自分の家	B_友だちの家	C_塾や習い事	D_放課後児童クラブ、放課後子ども教室	E_学校の部活動	F_D、E以外で、学校の図書館、教室、校庭	G_地域の居場所	H_学校外のスポーツクラブの活動の場	I_公園	J_図書館	K_公民館	L_児童館・こども館、青少年会館	M_ファストフード店、ショッピングモール、ゲームセンター	N_その他	X_ほっとできる居場所はない	（君津市のみ）N_インターネット空間	無回答
全体	3,605	81.0	2.2	1.5	0.8	0.2	0.8	0.1	0.6	3.7	0.5	0.0	0.1	0.4	0.8	2.3	0.1	4.9
困窮層	230	78.7	4.8	0.4	0.4	0.0	1.7	0.9	0.4	3.5	0.4	0.0	0.0	0.0	0.4	2.6	0.0	5.7
周辺層	314	80.3	2.9	0.6	1.9	0.0	0.6	0.3	0.3	3.8	0.6	0.0	0.0	1.0	1.3	1.6	0.0	4.8
一般層	2,056	81.8	1.9	1.7	0.6	0.3	0.6	0.0	0.5	3.7	0.4	0.0	0.1	0.3	0.9	2.5	0.1	4.4

＜数値表：中学生＞

	合計	Q20 一番ほっとできる居場所																
		A_自分の家	B_友だちの家	C_塾や習い事	D_放課後児童クラブ、放課後子ども教室	E_学校の部活動	F_D、E以外で、学校の図書館、教室、校庭	G_地域の居場所	H_学校外のスポーツクラブの活動の場	I_公園	J_図書館	K_公民館	L_児童館・こども館、青少年会館	M_ファストフード店、ショッピングモール、ゲームセンター	N_その他	X_ほっとできる居場所はない	（君津市のみ）N_インターネット空間	無回答
全体	3,401	82.5	1.5	1.0	0.1	4.0	0.4	0.1	0.8	1.3	0.4	0.0	0.0	0.8	1.0	3.8	0.5	2.0
困窮層	228	77.6	1.8	0.9	0.0	7.0	0.0	0.0	0.4	1.8	0.9	0.0	0.0	1.3	0.9	4.4	0.4	2.6
周辺層	291	78.7	1.7	1.4	0.0	5.5	0.3	0.0	1.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.3	1.4	4.1	1.0	3.1
一般層	1,684	84.4	1.3	0.7	0.1	3.8	0.5	0.0	0.7	0.9	0.4	0.1	0.0	0.5	0.7	3.4	0.4	2.2

17）休日に過ごす人

小学生の「全体」では、「家族」が 86.5%でもっとも割合が高く、次いで「学校の友だち」が 3.9%となっている。

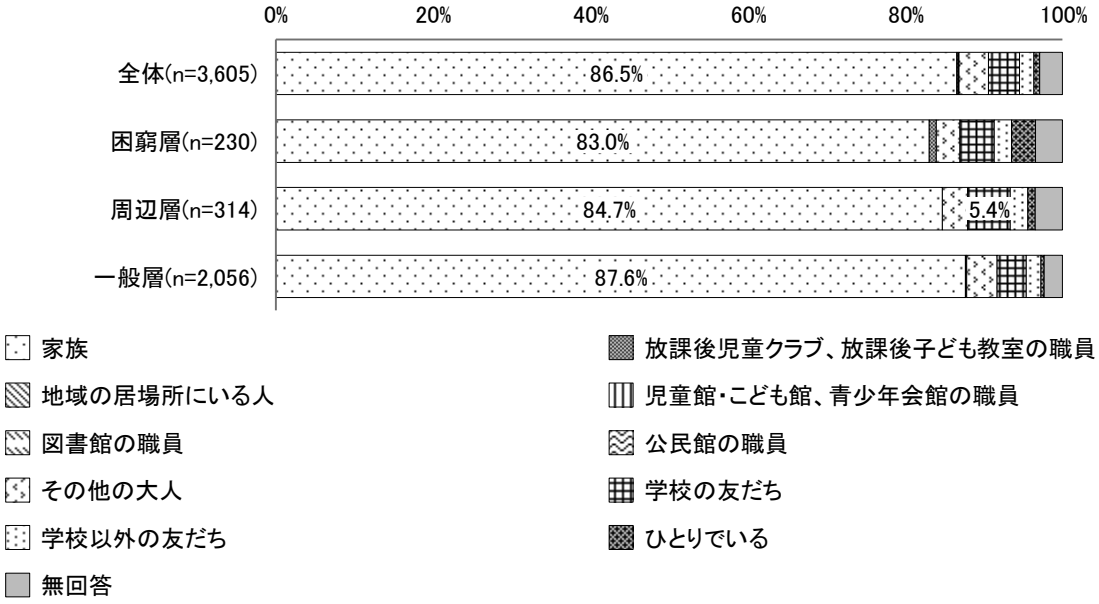
「困窮層」では、「家族」が 83.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「家族」が 84.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「家族」が 87.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「家族」が 70.6%でもっとも割合が高く、次いで「学校の友だち」が 15.6%となっている。

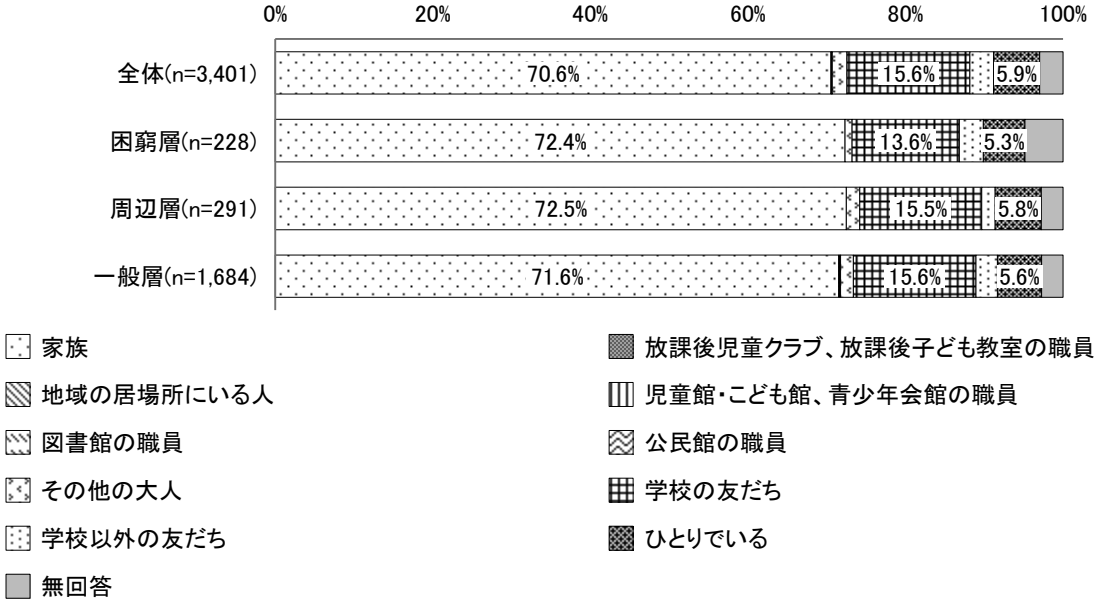
「困窮層」では、「家族」が 72.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「家族」が 72.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「家族」が 71.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 256　休日に過ごす人：単数回答（Q21）（生活困難度別）

＜小学生＞（検定不可）



＜中学生＞（検定不可）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q21 休日に過ごす人										
		家族	放課後児童クラブ、放課後子ども教室の職員	地域の居場所にいる人	児童館・こども館、青少年会館の職員	図書館の職員	公民館の職員	その他の大人	学校の友だち	学校以外の友だち	ひとりでいる	無回答
全体	3,605	86.5	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	3.7	3.9	1.8	0.7	2.9
困窮層	230	83.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	4.3	2.2	3.0	3.5
周辺層	314	84.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	5.4	2.2	1.0	3.5
一般層	2,056	87.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	3.7	1.9	0.4	2.3

＜数値表：中学生＞

	合計	Q21 休日に過ごす人										
		家族	放課後児童クラブ、放課後子ども教室の職員	地域の居場所にいる人	児童館・こども館、青少年会館の職員	図書館の職員	公民館の職員	その他の大人	学校の友だち	学校以外の友だち	ひとりでいる	無回答
全体	3,401	70.6	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	1.9	15.6	3.1	5.9	2.9
困窮層	228	72.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	13.6	3.1	5.3	4.8
周辺層	291	72.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	15.5	1.7	5.8	2.7
一般層	1,684	71.6	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	1.6	15.6	2.7	5.6	2.7

18）休日に過ごす場所

小学生の「全体」では、「自分の家」が 78.6%でもっとも割合が高く、次いで「学校外のスポーツクラブの活動の場」が 7.2%となっている。

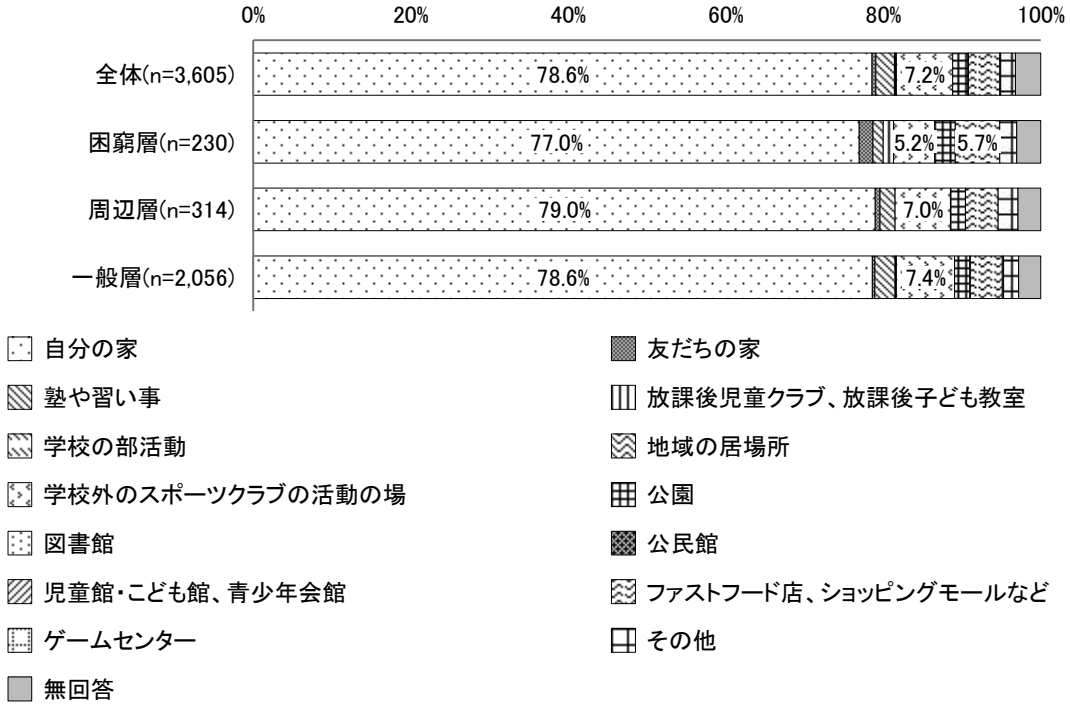
「困窮層」では、「自分の家」が 77.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「自分の家」が 79.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「自分の家」が 78.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「自分の家」が 76.9%でもっとも割合が高く、次いで「学校の部活動」が 6.6%となっている。

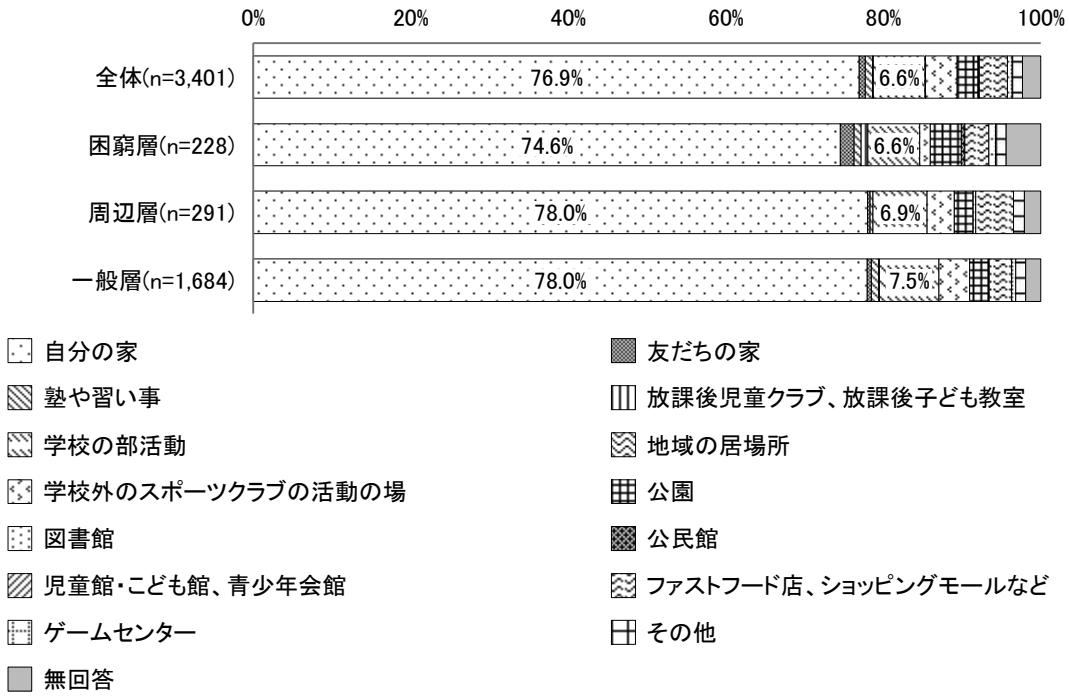
「困窮層」では、「自分の家」が 74.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「自分の家」が 78.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「自分の家」が 78.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 257　休日に過ごす場所：単数回答（Q22）（生活困難度別）

＜小学生＞（検定不可）



＜中学生＞（検定不可）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q22 休日に過ごす場所														
		自分の家	友だちの家	塾や習い事	放課後児童クラブ、放課後子ども教室	学校の部活動	地域の居場所	学校外のスポーツクラブの活動の場	公園	図書館	公民館	児童館・こども館、青少年会館	ファストフード店、ショッピングモールなど	ゲームセンター	その他	無回答
全体	3,605	78.6	0.5	2.4	0.1	0.1	0.1	7.2	1.9	0.0	0.0	0.0	4.0	0.1	1.9	3.2
困窮層	230	77.0	1.7	1.3	1.3	0.0	0.0	5.2	2.6	0.0	0.0	0.0	5.7	0.0	2.2	3.0
周辺層	314	79.0	0.6	1.9	0.0	0.0	0.0	7.0	1.9	0.0	0.0	0.0	4.1	0.0	2.5	2.9
一般層	2,056	78.6	0.3	2.6	0.0	0.1	0.0	7.4	1.9	0.0	0.0	0.0	4.0	0.2	1.9	2.8

＜数値表：中学生＞

	合計	Q22 休日に過ごす場所														
		自分の家	友だちの家	塾や習い事	放課後児童クラブ、放課後子ども教室	学校の部活動	地域の居場所	学校外のスポーツクラブの活動の場	公園	図書館	公民館	児童館・こども館、青少年会館	ファストフード店、ショッピングモールなど	ゲームセンター	その他	無回答
全体	3,401	76.9	0.8	0.9	0.1	6.6	0.1	4.0	2.6	0.1	0.0	0.0	3.6	0.6	1.3	2.3
困窮層	228	74.6	1.8	0.9	0.9	6.6	0.0	1.3	3.9	0.0	0.4	0.0	3.1	0.9	1.3	4.4
周辺層	291	78.0	0.3	0.3	0.0	6.9	0.0	3.4	2.4	0.3	0.0	0.0	4.8	0.0	1.4	2.1
一般層	1,684	78.0	0.5	1.0	0.1	7.5	0.0	3.9	2.4	0.1	0.0	0.0	2.9	0.5	1.2	1.9

（4）普段の活動状況について

1） 一緒に朝食をたべる

小学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が 59.8%でもっとも割合が高く、次いで「ほぼない」が 13.5%となっている。

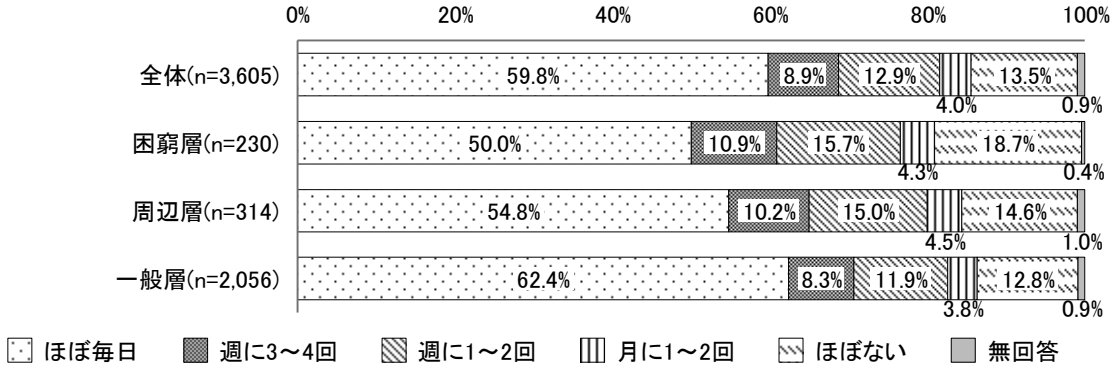
「困窮層」では、「ほぼ毎日」が 50.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼ毎日」が 54.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼ毎日」が 62.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が 40.8%でもっとも割合が高く、次いで「ほぼない」が 26.6%となっている。

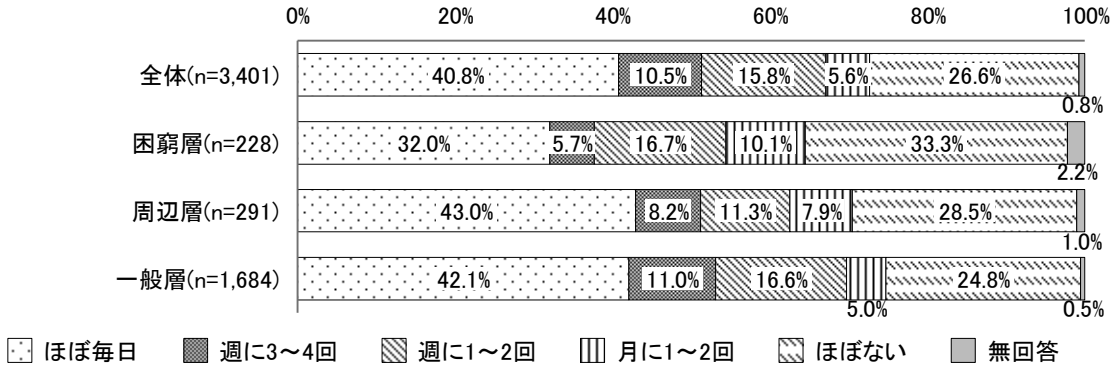
「困窮層」では、「ほぼない」が 33.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼ毎日」が 43.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼ毎日」が 42.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 258 一緒に朝食をたべる：単数回答（Q23A）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.05）



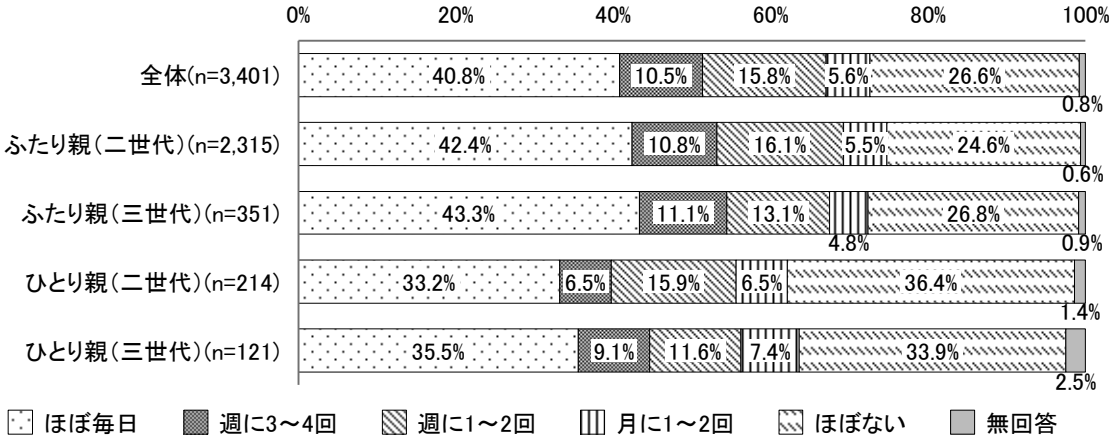
＜中学生＞（p<.01）



世帯タイプ別にみると、小学生では、有意な差がみられなかった。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「ほぼない」とする割合が高くなっている。

図表 259　一緒に朝食をたべる：単数回答（Q23A）（世帯タイプ別）

＜中学生＞（p<.01）



2) 一緒に夕食をたべる

小学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が 86.7%でもっとも割合が高く、次いで「週に 3～4 回」が 6.0%となっている。

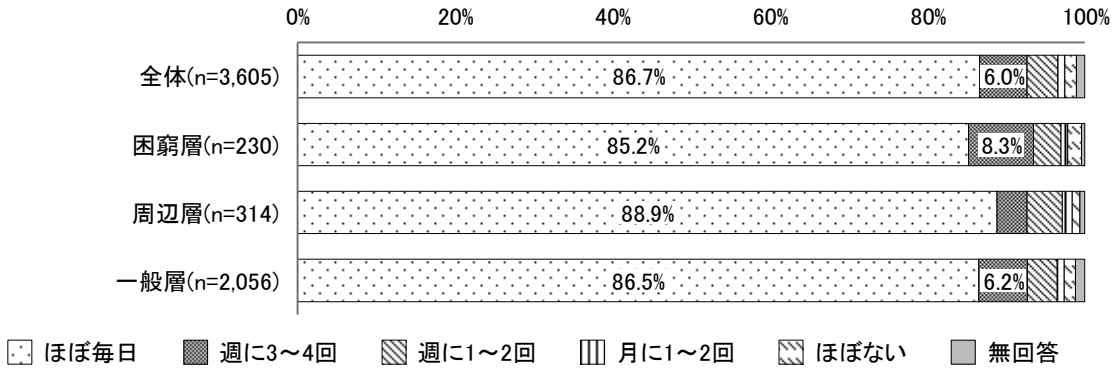
「困窮層」では、「ほぼ毎日」が 85.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼ毎日」が 88.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼ毎日」が 86.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が 74.2%でもっとも割合が高く、次いで「週に 3～4 回」が 13.6%となっている。

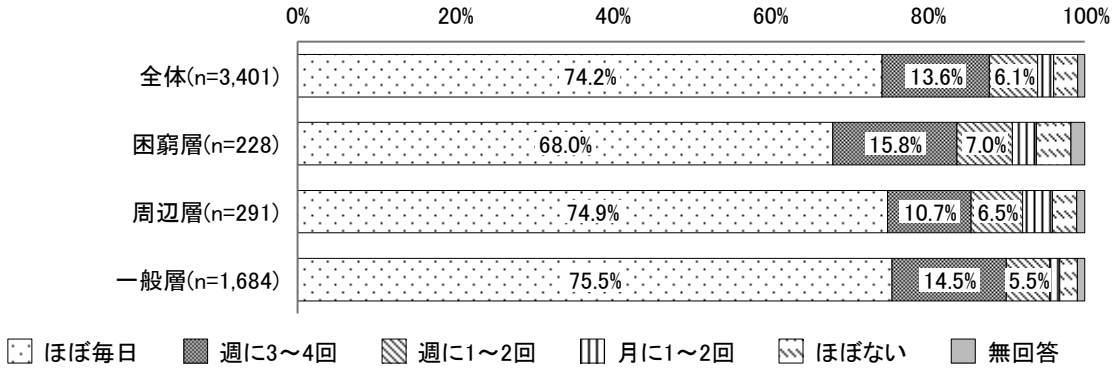
「困窮層」では、「ほぼ毎日」が 68.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼ毎日」が 74.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼ毎日」が 75.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 260　一緒に夕食をたべる：単数回答（Q23B）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.01）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q23B 一緒に夕食をたべる					
		ほぼ毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に1～2回	ほぼない	無回答
全体	3,605	86.7	6.0	3.9	0.9	1.5	1.1
困窮層	230	85.2	8.3	3.5	0.9	1.7	0.4
周辺層	314	88.9	3.8	4.5	1.3	1.0	0.6
一般層	2,056	86.5	6.2	3.8	0.9	1.4	1.2

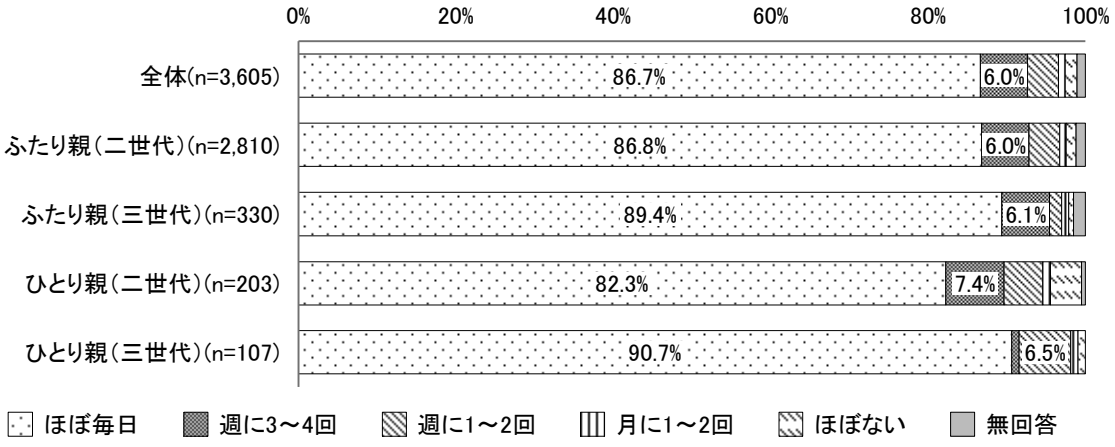
＜数値表：中学生＞

	合計	Q23B 一緒に夕食をたべる					
		ほぼ毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に1～2回	ほぼない	無回答
全体	3,401	74.2	13.6	6.1	2.0	3.1	0.9
困窮層	228	68.0	15.8	7.0	3.1	4.4	1.8
周辺層	291	74.9	10.7	6.5	3.8	3.1	1.0
一般層	1,684	75.5	14.5	5.5	1.2	2.3	1.0

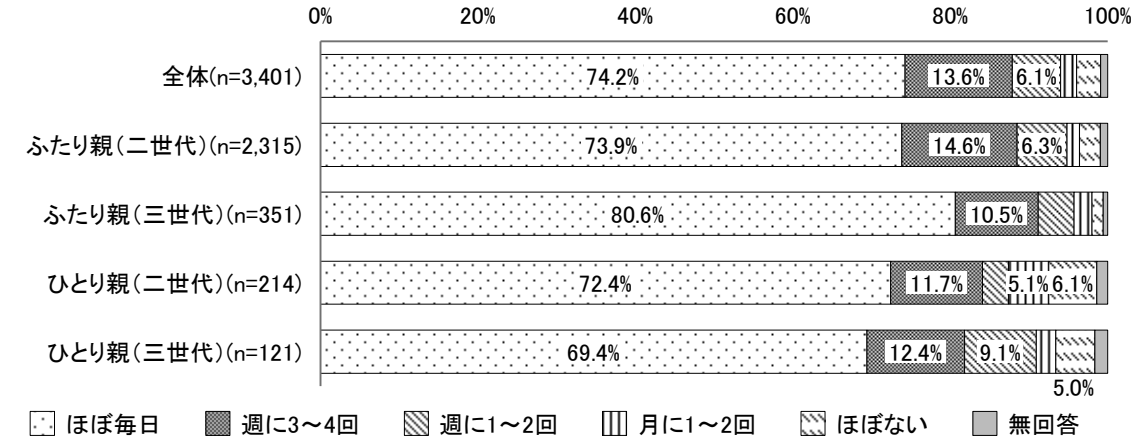
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代）」において「ほぼ毎日」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代）」において「ほぼ毎日」とする割合が低くなっている。

図表 261　一緒に夕食をたべる：単数回答（Q23B）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（p<.01）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q23B 一緒に夕食をたべる					
		ほぼ毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に1～2回	ほぼない	無回答
全体	3,605	86.7	6.0	3.9	0.9	1.5	1.1
ふたり親（二世代）	2,810	86.8	6.0	3.9	0.8	1.3	1.2
ふたり親（三世代）	330	89.4	6.1	1.5	0.9	0.6	1.5
ひとり親（二世代）	203	82.3	7.4	4.9	1.0	3.9	0.5
ひとり親（三世代）	107	90.7	0.9	6.5	0.9	0.9	0.0

＜数値表：中学生＞

	合計	Q23B 一緒に夕食をたべる					
		ほぼ毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に1～2回	ほぼない	無回答
全体	3,401	74.2	13.6	6.1	2.0	3.1	0.9
ふたり親（二世代）	2,315	73.9	14.6	6.3	1.6	2.6	1.0
ふたり親（三世代）	351	80.6	10.5	4.6	2.3	1.4	0.6
ひとり親（二世代）	214	72.4	11.7	3.3	5.1	6.1	1.4
ひとり親（三世代）	121	69.4	12.4	9.1	2.5	5.0	1.7

3) 勉強をみてもらう

小学生の「全体」では、「ほぼない」が 22.4%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 回」が 22.1%となっている。

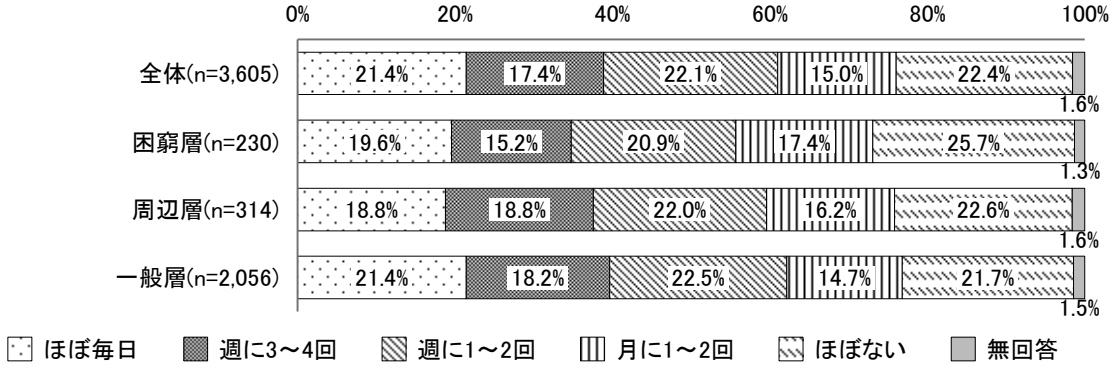
「困窮層」では、「ほぼない」が 25.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼない」が 22.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「週に 1～2 回」が 22.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ほぼない」が 52.5%でもっとも割合が高く、次いで「月に 1～2 回」が 20.2%となっている。

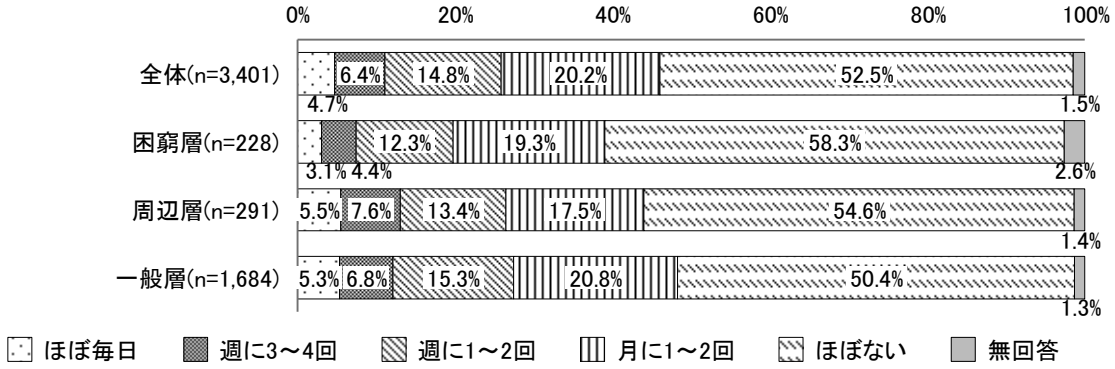
「困窮層」では、「ほぼない」が 58.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼない」が 54.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼない」が 50.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 262　勉強をみてもらう：単数回答（Q23C）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



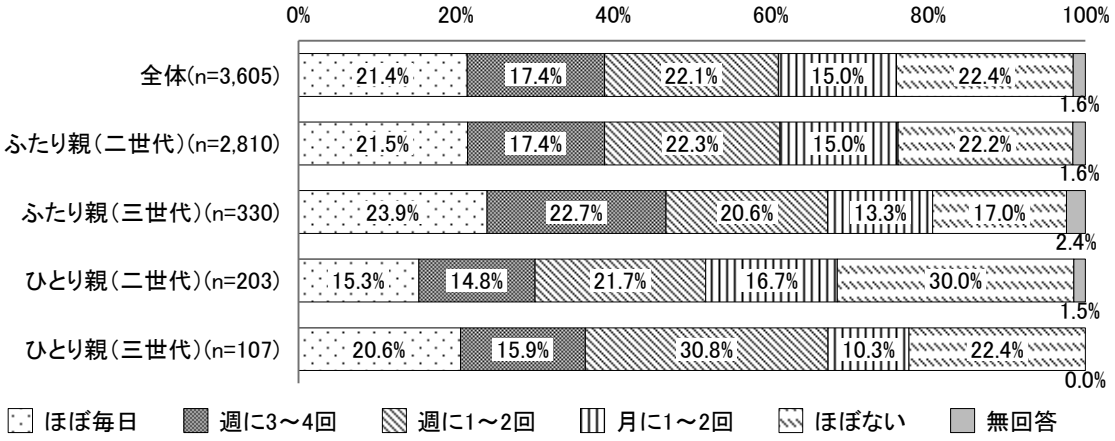
＜中学生＞（有意差なし）



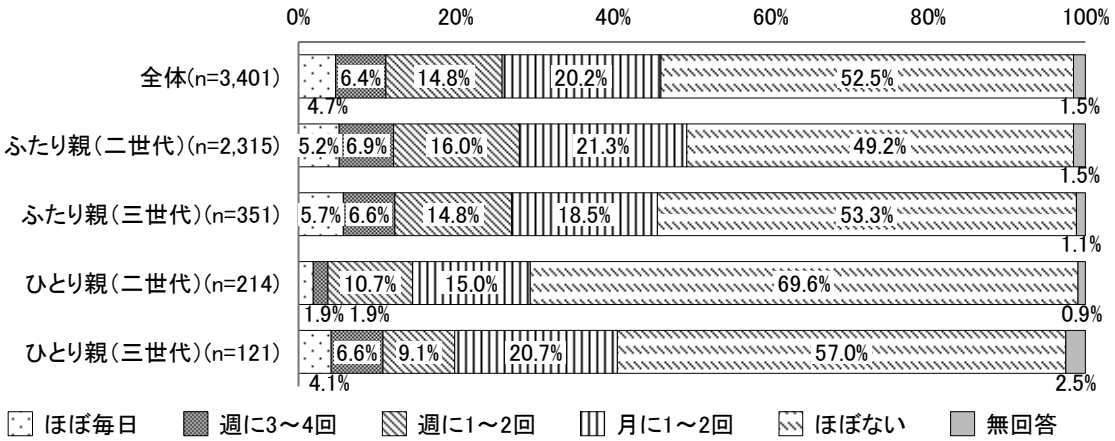
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ひとり親（二世代)」において「ほぼない」とする割合が高くなっている。

図表 263　勉強をみてもらう：単数回答（Q23C）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



4） 一緒に遊んだり体を動かしたりする

小学生の「全体」では、「週に 1～2 回」が 28.8%でもっとも割合が高く、次いで「ほぼない」が 23.9%となっている。

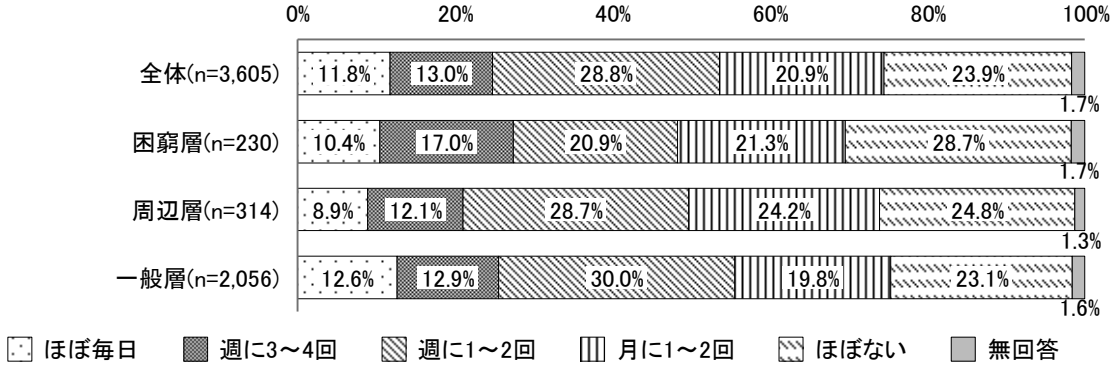
「困窮層」では、「ほぼない」が 28.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「週に 1～2 回」が 28.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「週に 1～2 回」が 30.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ほぼない」が 49.5%でもっとも割合が高く、次いで「月に 1～2 回」が 22.9%となっている。

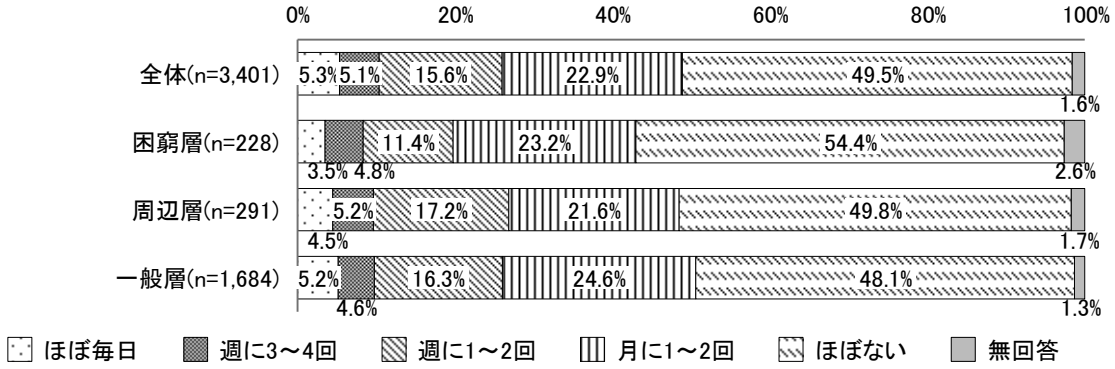
「困窮層」では、「ほぼない」が 54.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼない」が 49.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼない」が 48.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 264　一緒に遊んだり体を動かしたりする：単数回答（Q23D）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.05）

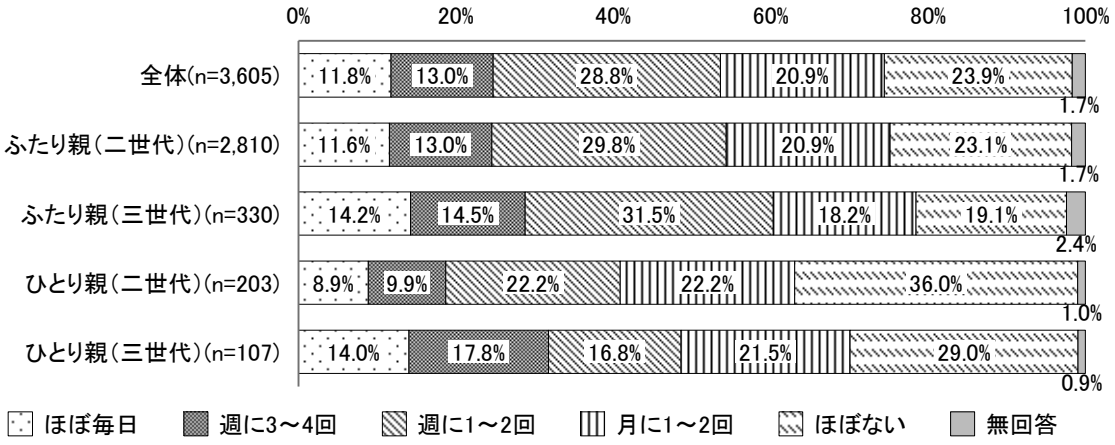


＜中学生＞（有意差なし）



世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「ほぼない」とする割合が高くなっている。中学生では、有意な差がみられなかった。

図表 265　一緒に遊んだり体を動かしたりする：単数回答（Q23D）（世帯タイプ別）
＜小学生＞（p<.01）



5)　学校生活の話をする

小学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が 48.7%でもっとも割合が高く、次いで「週に 3～4 回」が 19.4%となっている。

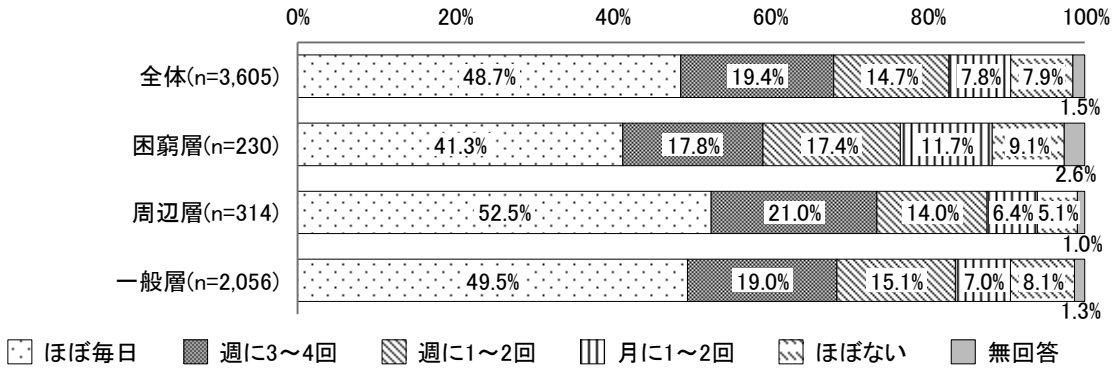
「困窮層」では、「ほぼ毎日」が 41.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼ毎日」が 52.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼ毎日」が 49.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ほぼ毎日」が 39.6%でもっとも割合が高く、次いで「週に 3～4 回」が 22.4%となっている。

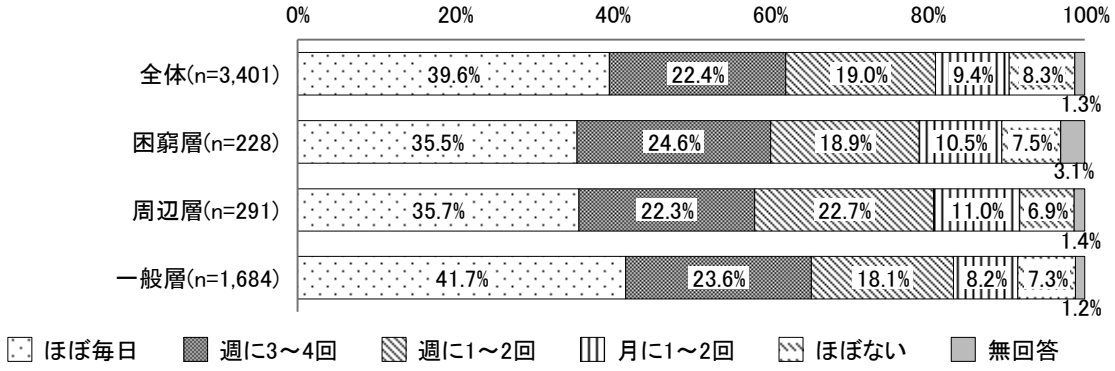
「困窮層」では、「ほぼ毎日」が 35.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼ毎日」が 35.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼ毎日」が 41.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 266　学校生活の話をする：単数回答（Q23E）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.05）



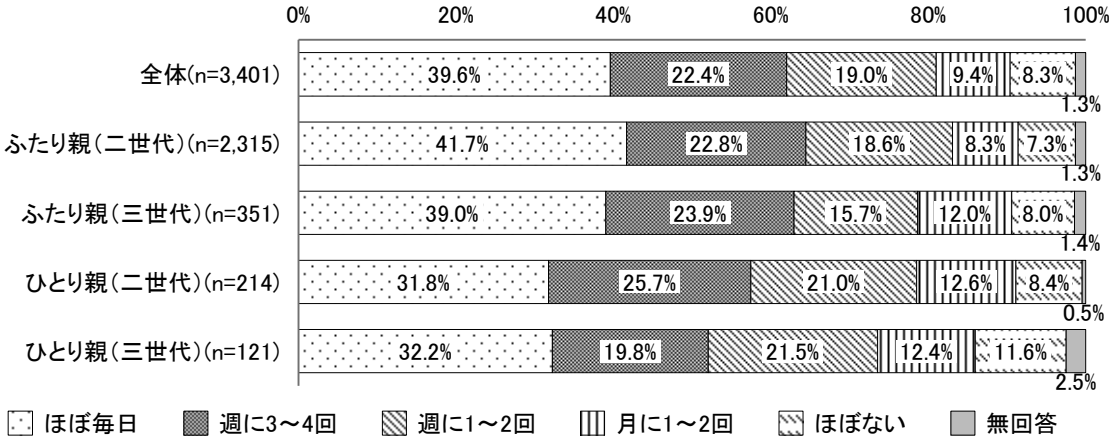
＜中学生＞（有意差なし）



世帯タイプ別にみると、小学生では、有意な差がみられなかった。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「ほぼ毎日」とする割合が低くなっている。

図表 267　学校生活の話をする：単数回答（Q23E）（世帯タイプ別）

＜中学生＞（p<.05）



6) ニュースなど社会のできごとについて話す

小学生の「全体」では、「ほぼない」が 27.0%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 回」が 21.3%となっている。

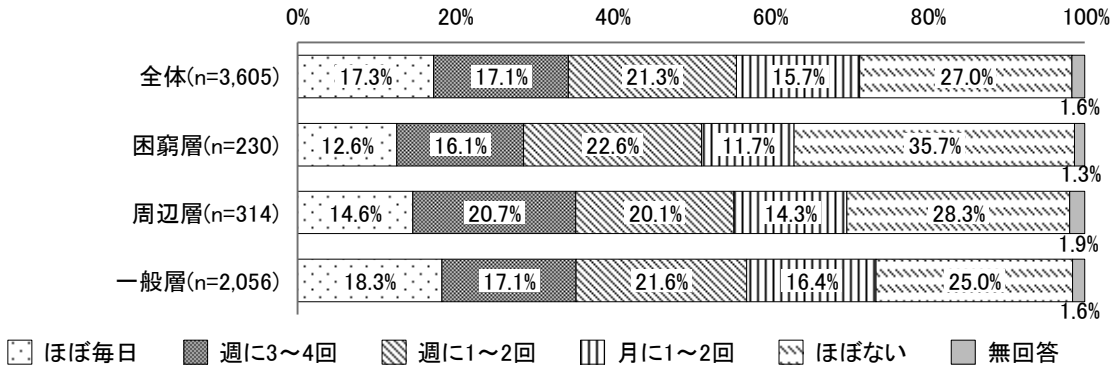
「困窮層」では、「ほぼない」が 35.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼない」が 28.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼない」が 25.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ほぼない」が 28.4%でもっとも割合が高く、次いで「週に 1～2 回」が 23.1%となっている。

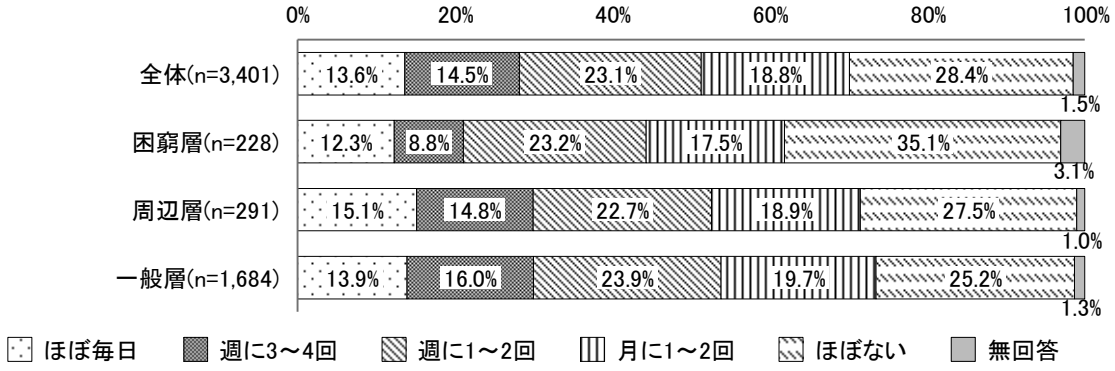
「困窮層」では、「ほぼない」が 35.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼない」が 27.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼない」が 25.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 268　ニュースなど社会のできごとについて話す：単数回答（Q23F）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



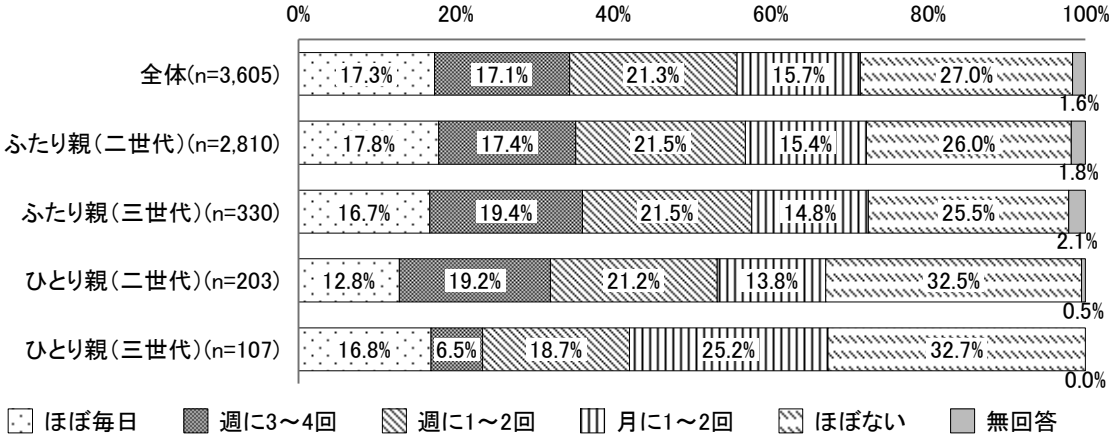
＜中学生＞（p<.05）



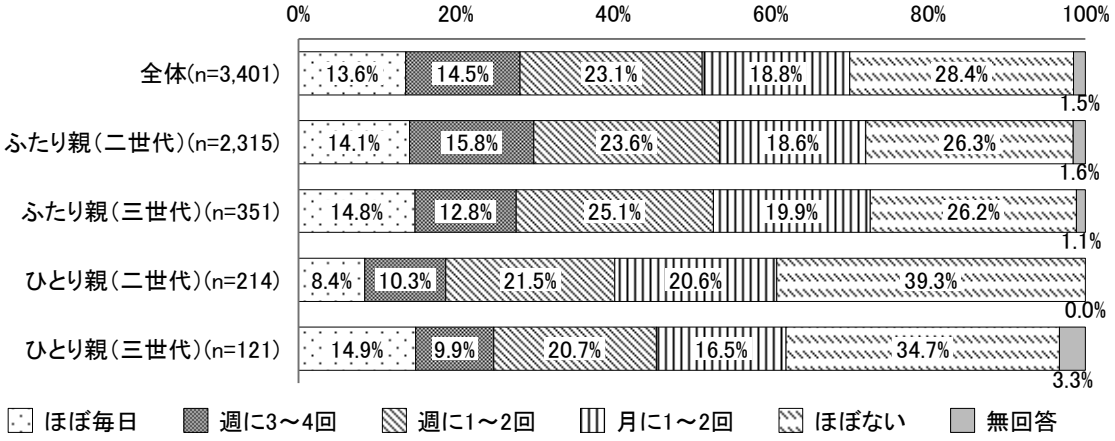
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ひとり親（二世代)」「ひとり親（三世代)」において「ほぼない」とする割合が高くなっている。

図表 269　ニュースなど社会のできごとについて話す：単数回答（Q23F）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（p<.01）



7)　一緒に料理をする

小学生の「全体」では、「月に 1～2 回」が 36.2%でもっとも割合が高く、次いで「ほぼない」が 28.5%となっている。

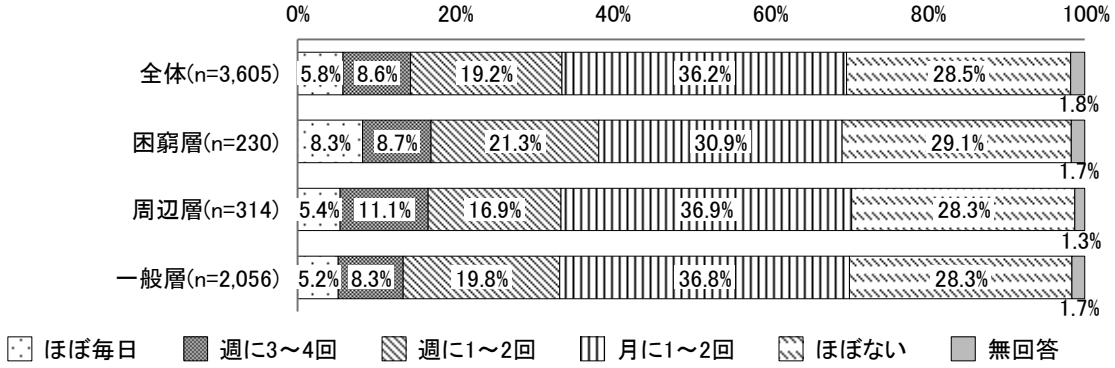
「困窮層」では、「月に 1～2 回」が 30.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「月に 1～2 回」が 36.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「月に 1～2 回」が 36.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ほぼない」が 49.2%でもっとも割合が高く、次いで「月に 1～2 回」が 30.5%となっている。

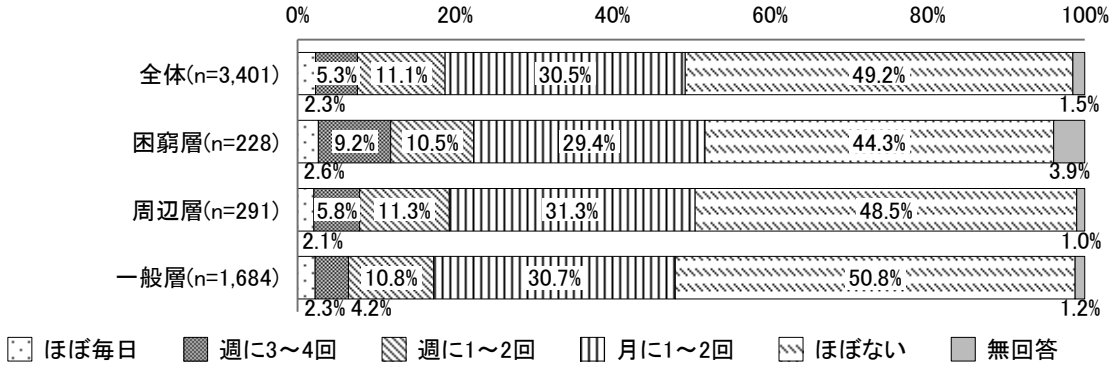
「困窮層」では、「ほぼない」が 44.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ほぼない」が 48.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ほぼない」が 50.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 270　一緒に料理をする：単数回答（Q23G）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



8） 一緒に外出する

小学生の「全体」では、「週に 1～2 回」が 45.5%でもっとも割合が高く、次いで「週に 3～4 回」が 21.1%となっている。

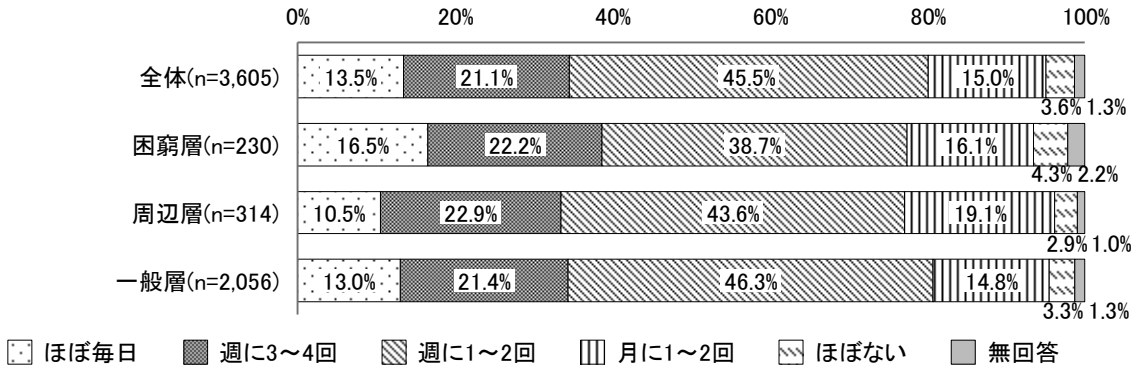
「困窮層」では、「週に 1～2 回」が 38.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「週に 1～2 回」が 43.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「週に 1～2 回」が 46.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「週に 1～2 回」が 42.2%でもっとも割合が高く、次いで「月に 1～2 回」が 29.0%となっている。

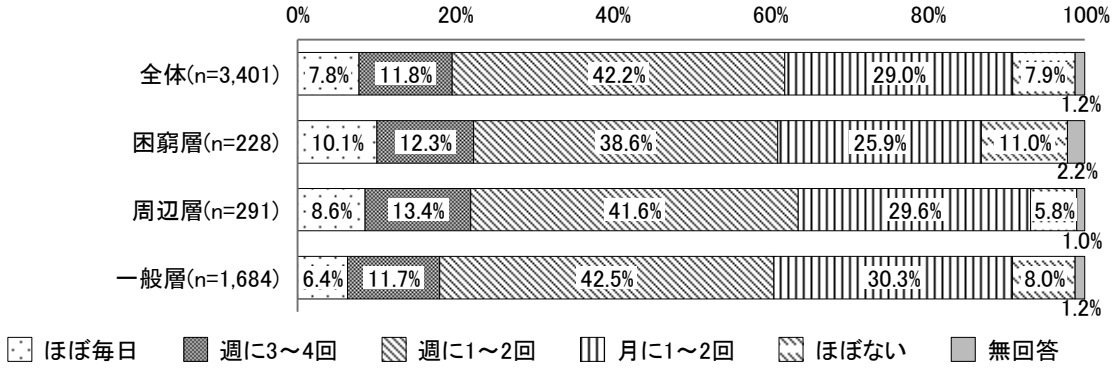
「困窮層」では、「週に 1～2 回」が 38.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「週に 1～2 回」が 41.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「週に 1～2 回」が 42.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 271 一緒に外出する：単数回答（Q23H）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



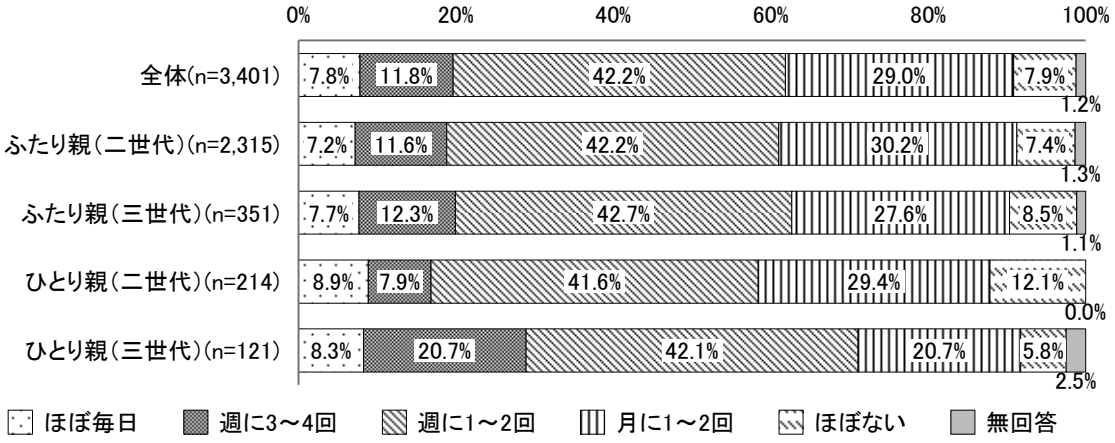
＜中学生＞（有意差なし）



世帯タイプ別にみると、小学生では、有意な差がみられなかった。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代)」において「ほぼない」とする割合が高くなっている。

図表 272　一緒に外出する：単数回答（Q23H）（世帯タイプ別）

＜中学生＞（p<.05）



9) ゲーム機で遊ぶ

小学生の「全体」では、「毎日 1～2 時間」が 25.5%でもっとも割合が高く、次いで「毎日 2 時間以上」が 22.2%となっている。

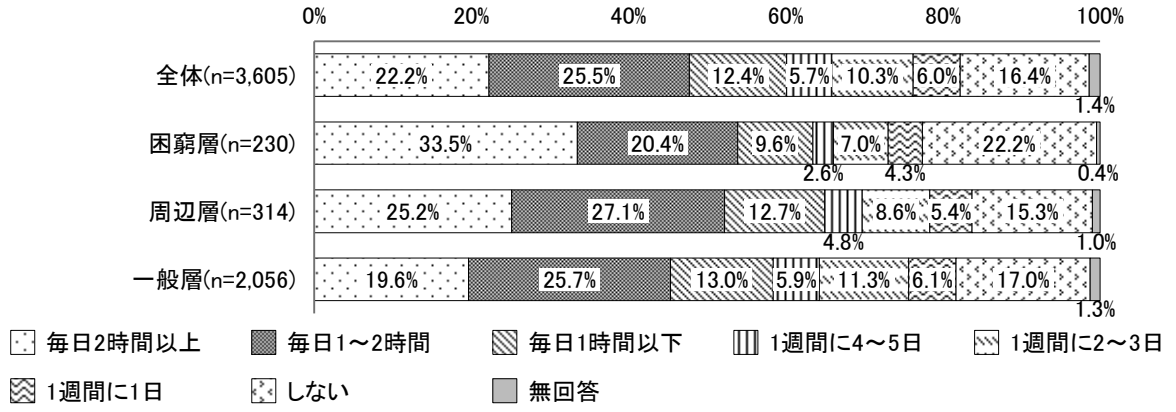
「困窮層」では、「毎日 2 時間以上」が 33.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「毎日 1～2 時間」が 27.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「毎日 1～2 時間」が 25.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「しない」が 25.9%でもっとも割合が高く、次いで「毎日 2 時間以上」が 25.0%となっている。

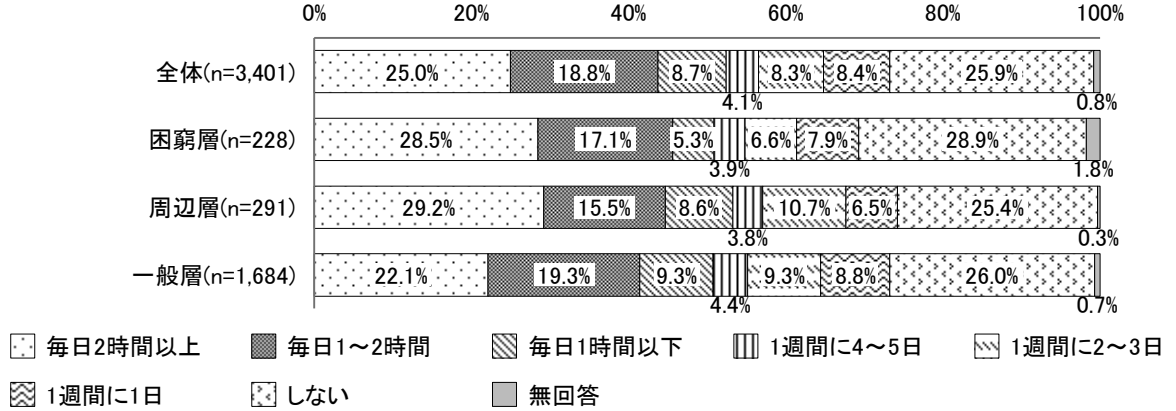
「困窮層」では、「しない」が 28.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「毎日 2 時間以上」が 29.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「しない」が 26.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 273　ゲーム機で遊ぶ：単数回答（Q24A）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（有意差なし）



10）テレビを見る

小学生の「全体」では、「毎日 2 時間以上」が 32.1%でもっとも割合が高く、次いで「毎日 1～2 時間」が 30.7%となっている。

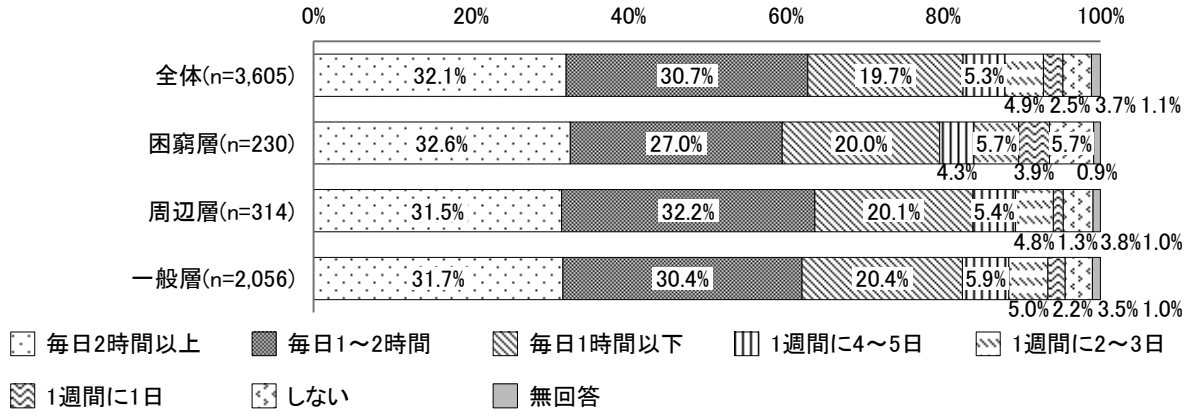
「困窮層」では、「毎日 2 時間以上」が 32.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「毎日 1～2 時間」が 32.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「毎日 2 時間以上」が 31.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「毎日 1～2 時間」が 26.7%でもっとも割合が高く、次いで「毎日 2 時間以上」が 23.3%となっている。

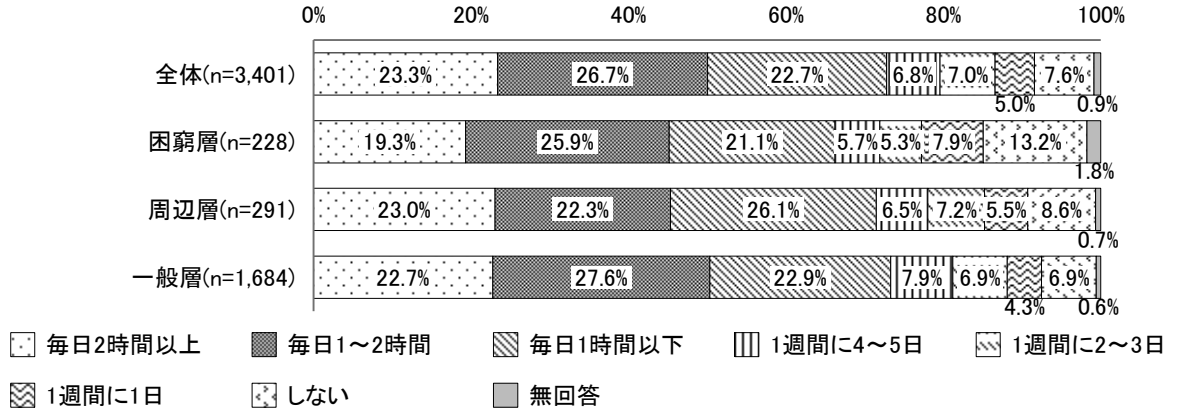
「困窮層」では、「毎日 1～2 時間」が 25.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「毎日 1 時間以下」が 26.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「毎日 1～2 時間」が 27.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 274　テレビを見る：単数回答（Q24B）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.05）



11）インターネットを見る

小学生の「全体」では、「毎日 2 時間以上」が 23.2%でもっとも割合が高く、次いで「毎日 1～2 時間」が 20.2%となっている。

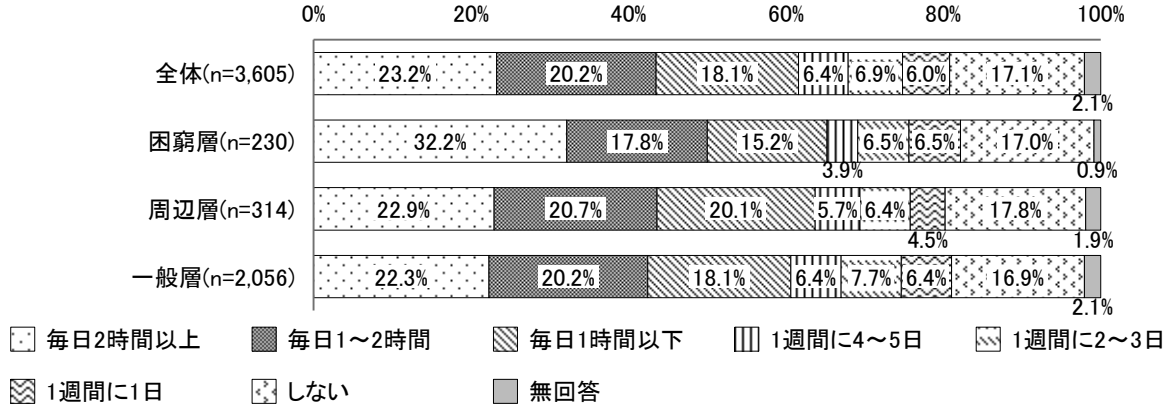
「困窮層」では、「毎日 2 時間以上」が 32.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「毎日 2 時間以上」が 22.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「毎日 2 時間以上」が 22.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「毎日 2 時間以上」が 48.6%でもっとも割合が高く、次いで「毎日 1～2 時間」が 24.2%となっている。

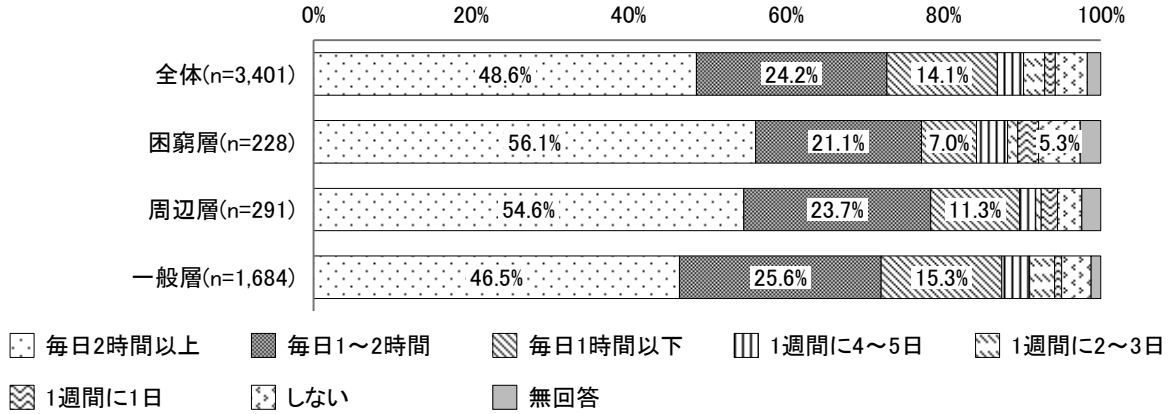
「困窮層」では、「毎日 2 時間以上」が 56.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「毎日 2 時間以上」が 54.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「毎日 2 時間以上」が 46.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 275　インターネットを見る：単数回答（Q24C）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.01）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q24C インターネットを見る							
		毎日2時間以上	毎日1～2時間	毎日1時間以下	1週間に4～5日	1週間に2～3日	1週間に1日	しない	無回答
全体	3,605	23.2	20.2	18.1	6.4	6.9	6.0	17.1	2.1
困窮層	230	32.2	17.8	15.2	3.9	6.5	6.5	17.0	0.9
周辺層	314	22.9	20.7	20.1	5.7	6.4	4.5	17.8	1.9
一般層	2,056	22.3	20.2	18.1	6.4	7.7	6.4	16.9	2.1

＜数値表：中学生＞

	合計	Q24C インターネットを見る							
		毎日2時間以上	毎日1～2時間	毎日1時間以下	1週間に4～5日	1週間に2～3日	1週間に1日	しない	無回答
全体	3,401	48.6	24.2	14.1	3.3	2.7	1.4	4.1	1.7
困窮層	228	56.1	21.1	7.0	3.9	1.3	2.6	5.3	2.6
周辺層	291	54.6	23.7	11.3	2.1	0.7	2.1	3.1	2.4
一般層	1,684	46.5	25.6	15.3	3.6	3.1	0.9	3.7	1.2

12）スマートフォン、けいたい電話でメールやLINEをする

小学生の「全体」では、「しない」が43.9%でもっとも割合が高く、次いで「毎日1時間以下」が16.8%となっている。

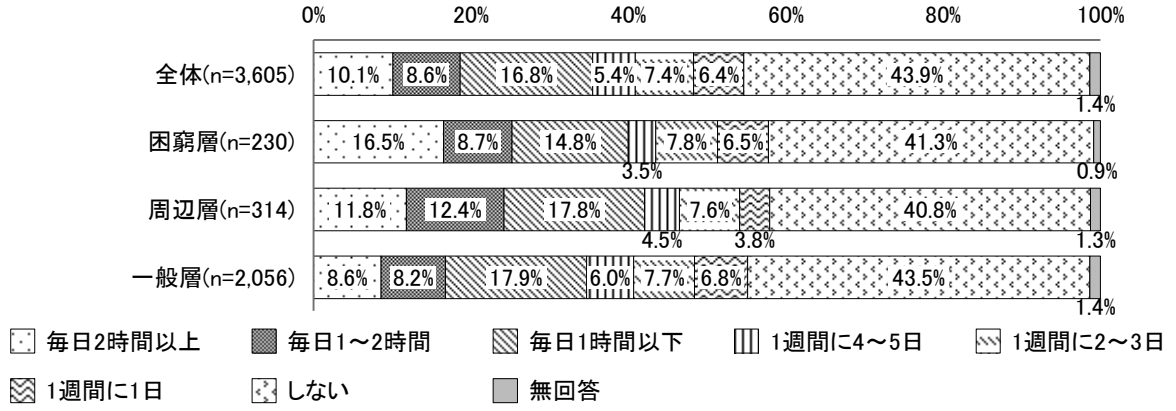
「困窮層」では、「しない」が41.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「しない」が40.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「しない」が43.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「毎日2時間以上」が33.7%でもっとも割合が高く、次いで「毎日1時間以下」が28.1%となっている。

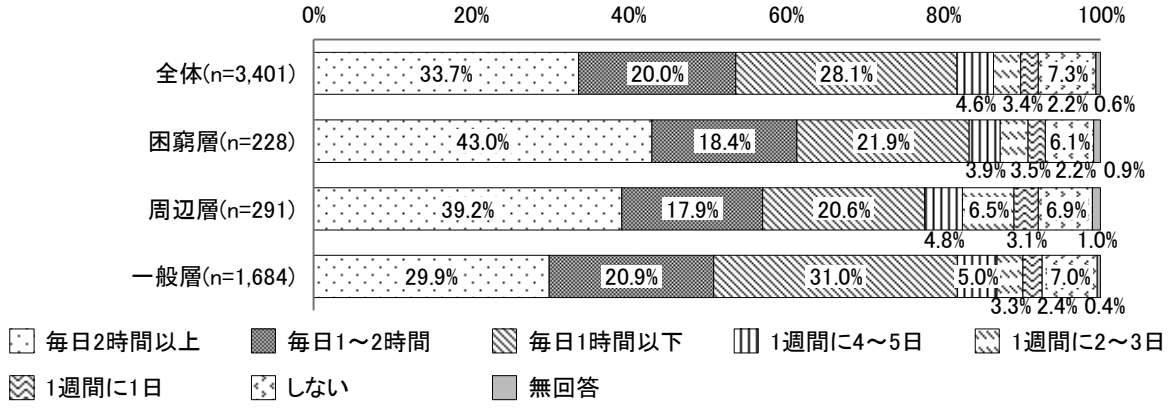
「困窮層」では、「毎日2時間以上」が43.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「毎日2時間以上」が39.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「毎日1時間以下」が31.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 276　スマートフォン、けいたい電話でメールやLINEをする：単数回答（Q24D）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



13）室内でのほかの活動

小学生の「全体」では、「毎日 1 時間以下」が 19.3%でもっとも割合が高く、次いで「しない」が 19.1%となっている。

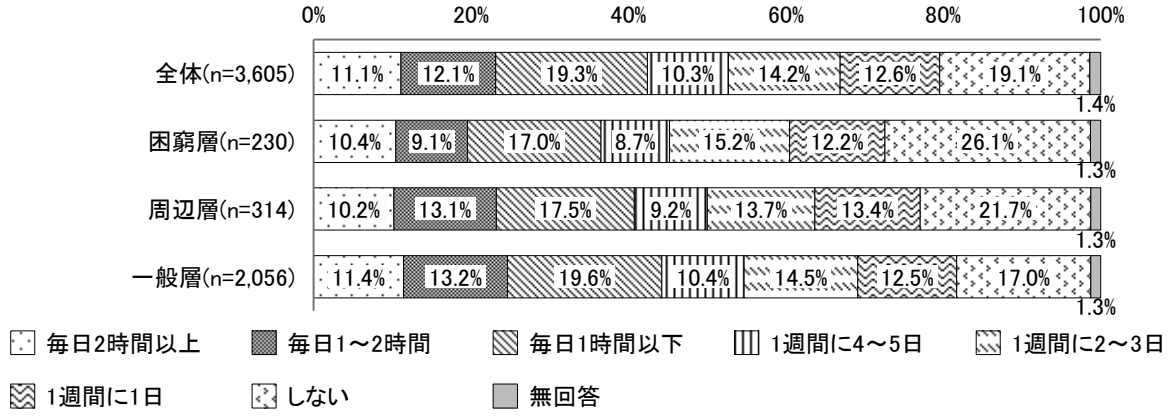
「困窮層」では、「しない」が 26.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「しない」が 21.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「毎日 1 時間以下」が 19.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「しない」が 32.0%でもっとも割合が高く、次いで「毎日 1 時間以下」が 14.2%となっている。

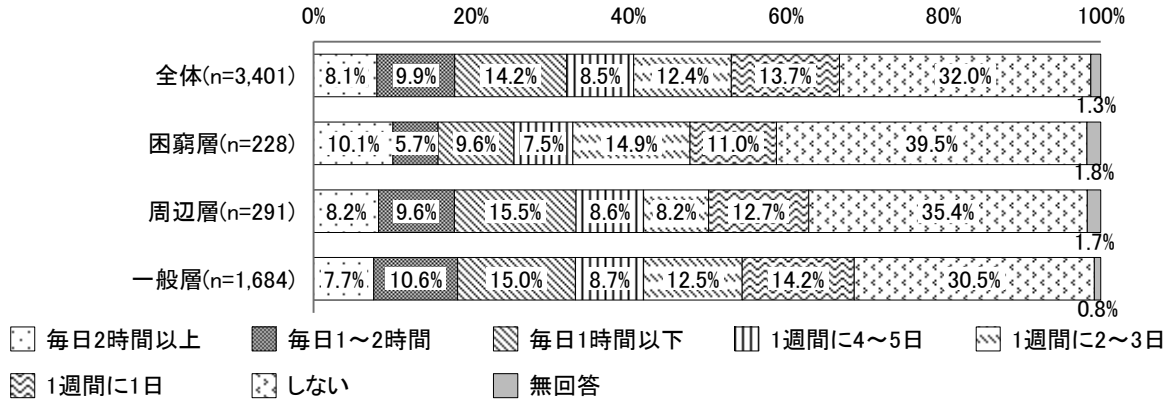
「困窮層」では、「しない」が 39.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「しない」が 35.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「しない」が 30.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 277　室内でのほかの活動：単数回答（Q24E）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.05）



14）公園で遊ぶ

小学生の「全体」では、「しない」が 29.0%でもっとも割合が高く、次いで「1 週間に 1 日」が 20.9%となっている。

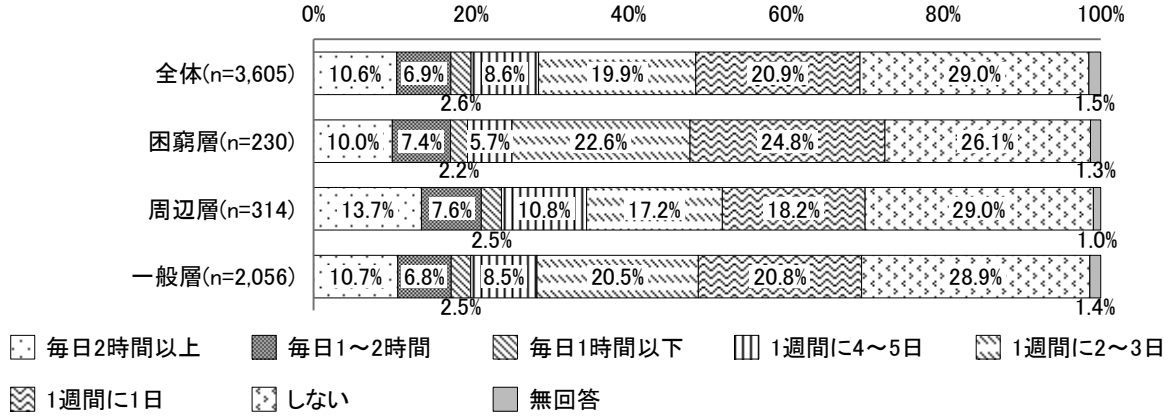
「困窮層」では、「しない」が 26.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「しない」が 29.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「しない」が 28.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「しない」が 59.2%でもっとも割合が高く、次いで「1 週間に 1 日」が 17.1%となっている。

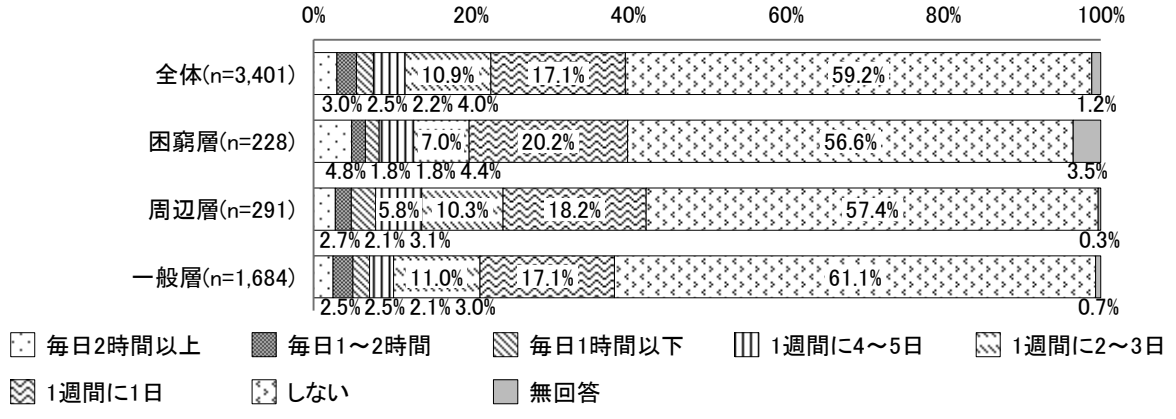
「困窮層」では、「しない」が 56.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「しない」が 57.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「しない」が 61.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 278　公園で遊ぶ：単数回答（Q24F）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



15）塾や習い事

小学生の「全体」では、「1 週間に 2～3 日」が 32.3%でもっとも割合が高く、次いで「しない」が 20.6%となっている。

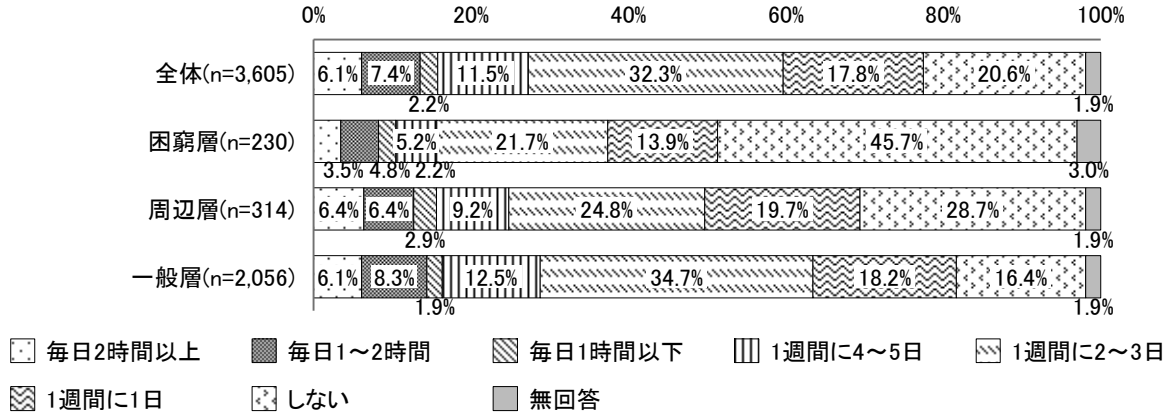
「困窮層」では、「しない」が 45.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「しない」が 28.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「1 週間に 2～3 日」が 34.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「しない」が 34.7%でもっとも割合が高く、次いで「1 週間に 2～3 日」が 32.2%となっている。

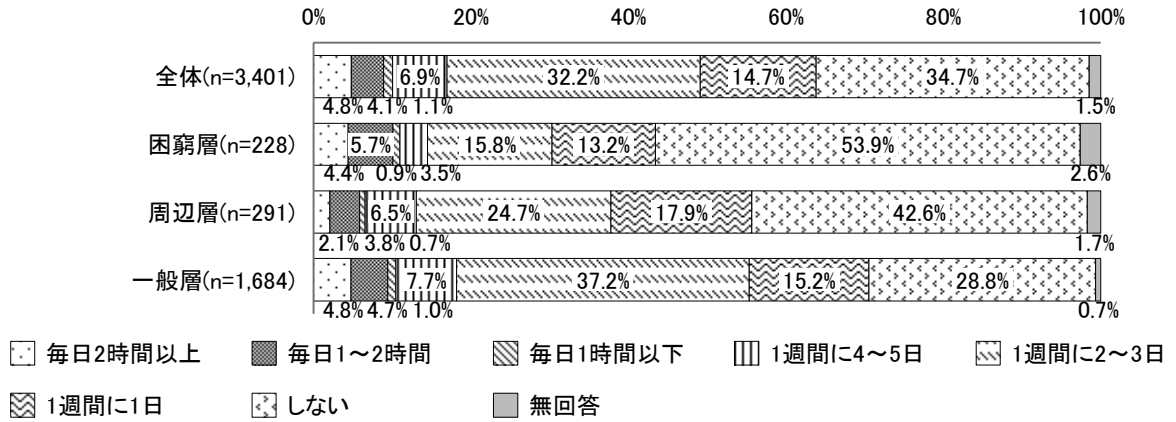
「困窮層」では、「しない」が 53.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「しない」が 42.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「1 週間に 2～3 日」が 37.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 279　塾や習い事：単数回答（Q24G）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



16）家事

小学生の「全体」では、「しない」が 26.2%でもっとも割合が高く、次いで「1 週間に 1 日」が 23.1%となっている。

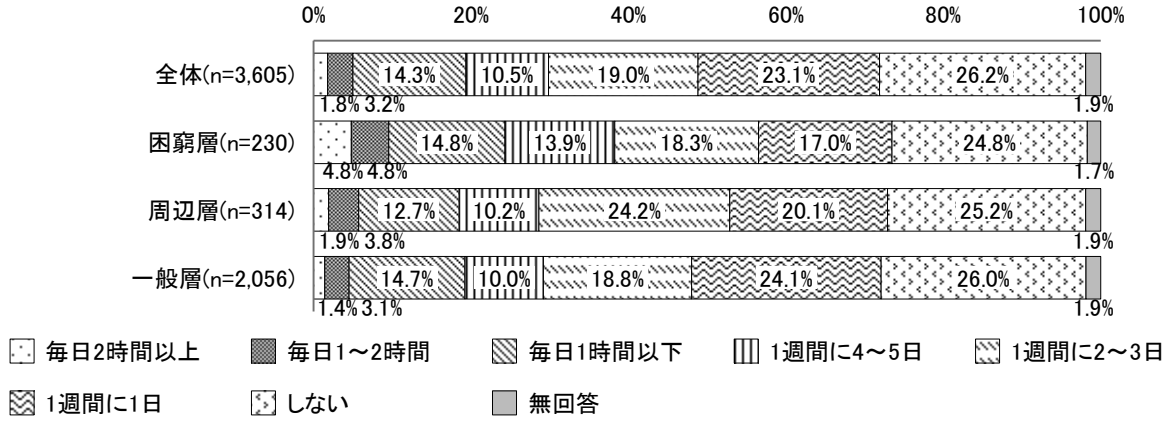
「困窮層」では、「しない」が 24.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「しない」が 25.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「しない」が 26.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「しない」が 27.7%でもっとも割合が高く、次いで「1 週間に 1 日」が 20.9%となっている。

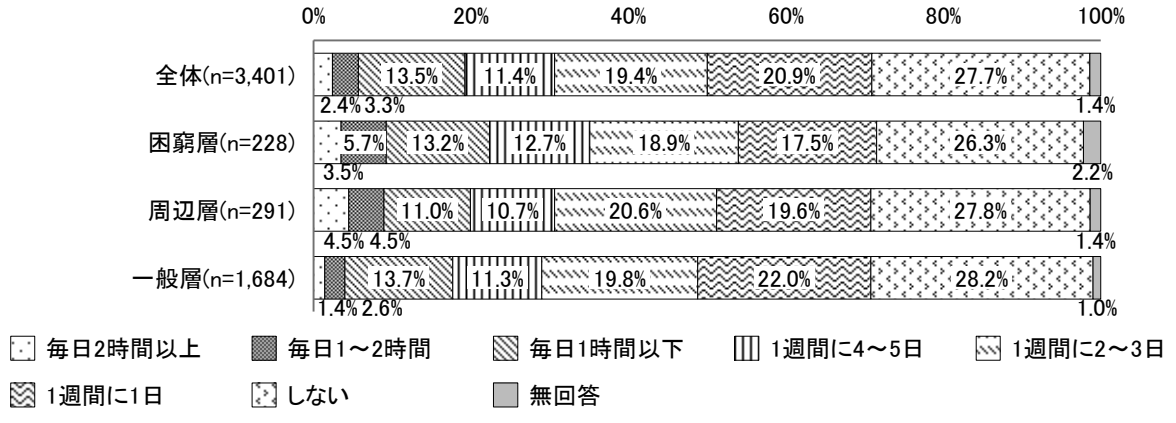
「困窮層」では、「しない」が 26.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「しない」が 27.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「しない」が 28.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 280　家事：単数回答（Q24H）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



17） 兄弟姉妹のお世話

小学生の「全体」では、「しない」が 61.8%でもっとも割合が高く、次いで「毎日 1 時間以下」が 7.8%となっている。

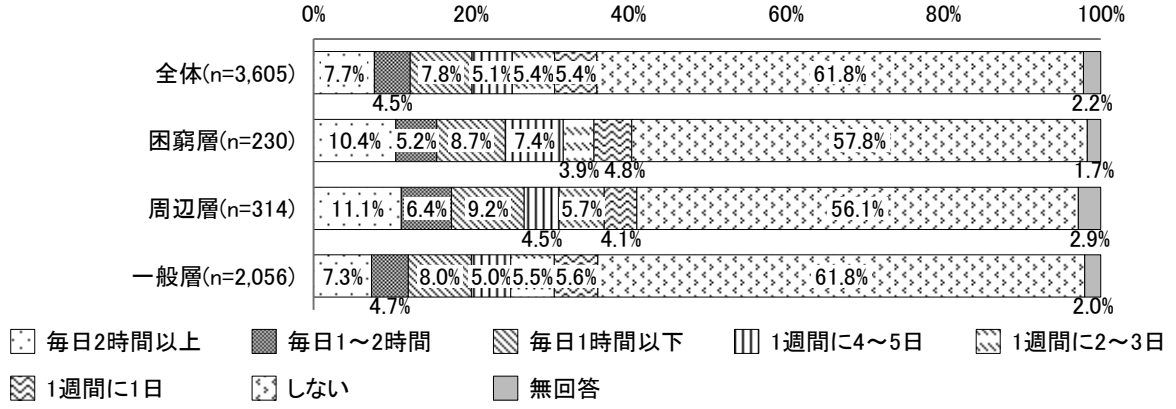
「困窮層」では、「しない」が 57.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「しない」が 56.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「しない」が 61.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「しない」が 69.0%でもっとも割合が高く、次いで「1 週間に 2～3 日」が 6.2%となっている。

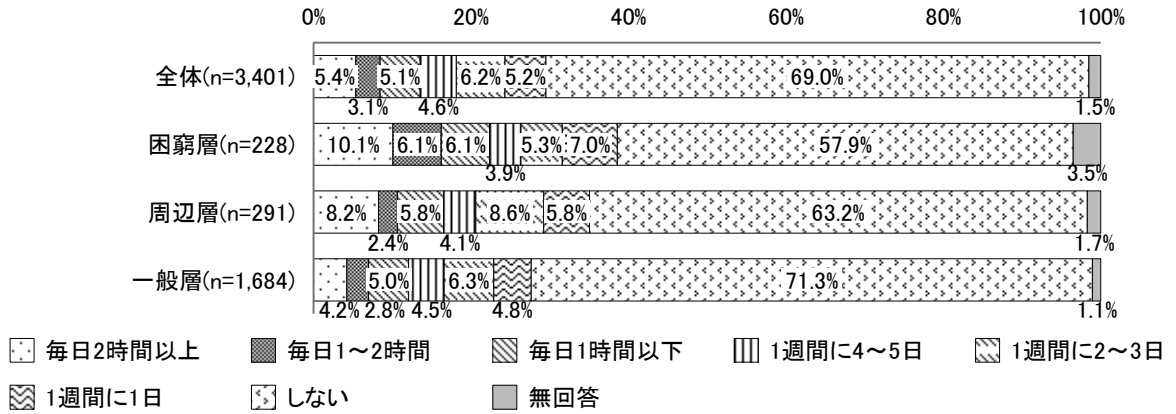
「困窮層」では、「しない」が 57.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「しない」が 63.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「しない」が 71.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 281　兄弟姉妹のお世話：単数回答（Q24I）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.01）



18）おじいちゃん、おばあちゃんのお世話

小学生の「全体」では、「しない」が 86.2%でもっとも割合が高く、次いで「1 週間に 1 日」が 4.0%となっている。

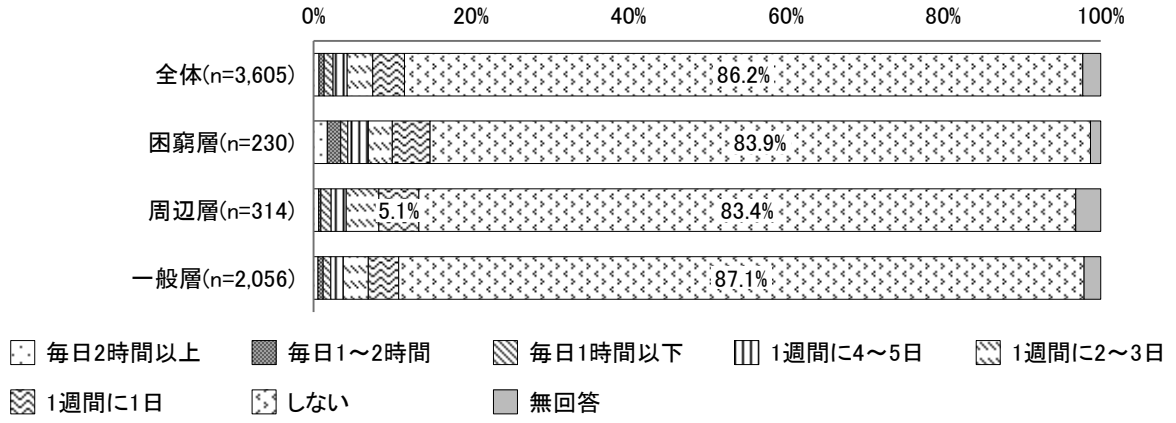
「困窮層」では、「しない」が 83.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「しない」が 83.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「しない」が 87.1%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「しない」が 88.6%でもっとも割合が高く、次いで「1 週間に 1 日」が 2.9%となっている。

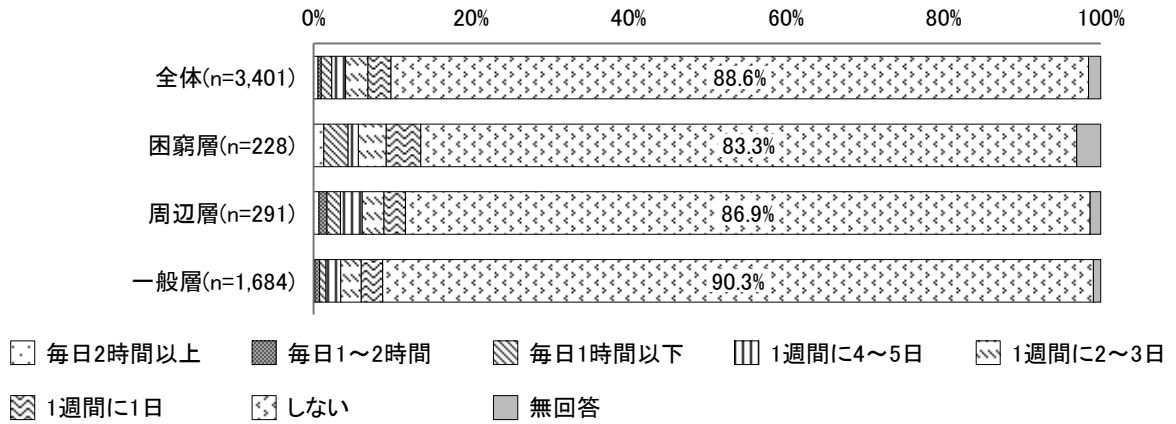
「困窮層」では、「しない」が 83.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「しない」が 86.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「しない」が 90.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 282　おじいちゃん、おばあちゃんのお世話：単数回答（Q24J）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.05）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q24J おじいちゃん、おばあちゃんのお世話							
		毎日2時間以上	毎日1～2時間	毎日1時間以下	1週間に4～5日	1週間に2～3日	1週間に1日	しない	無回答
全体	3,605	0.7	0.7	1.1	1.8	3.2	4.0	86.2	2.3
困窮層	230	1.7	1.7	0.9	2.6	3.0	4.8	83.9	1.3
周辺層	314	0.6	0.3	1.3	1.9	4.1	5.1	83.4	3.2
一般層	2,056	0.6	0.6	1.0	1.6	3.2	3.8	87.1	2.1

＜数値表：中学生＞

	合計	Q24J おじいちゃん、おばあちゃんのお世話							
		毎日2時間以上	毎日1～2時間	毎日1時間以下	1週間に4～5日	1週間に2～3日	1週間に1日	しない	無回答
全体	3,401	0.6	0.4	1.3	1.8	2.8	2.9	88.6	1.6
困窮層	228	1.3	0.0	3.1	1.3	3.5	4.4	83.3	3.1
周辺層	291	0.7	1.0	1.7	2.7	2.7	2.7	86.9	1.4
一般層	1,684	0.2	0.6	0.8	1.8	2.6	2.7	90.3	1.0

19）読んだ本の冊数

小学生の「全体」では、「2～3 冊」が 23.4%でもっとも割合が高く、次いで「4～7 冊」が 19.6%となっている。

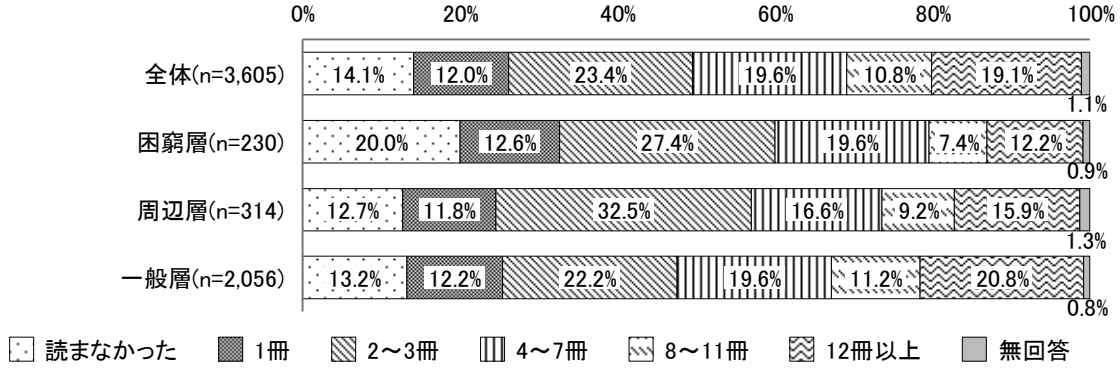
「困窮層」では、「2～3 冊」が 27.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「2～3 冊」が 32.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「2～3 冊」が 22.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「2～3 冊」が 28.4%でもっとも割合が高く、次いで「1 冊」が 26.4%となっている。

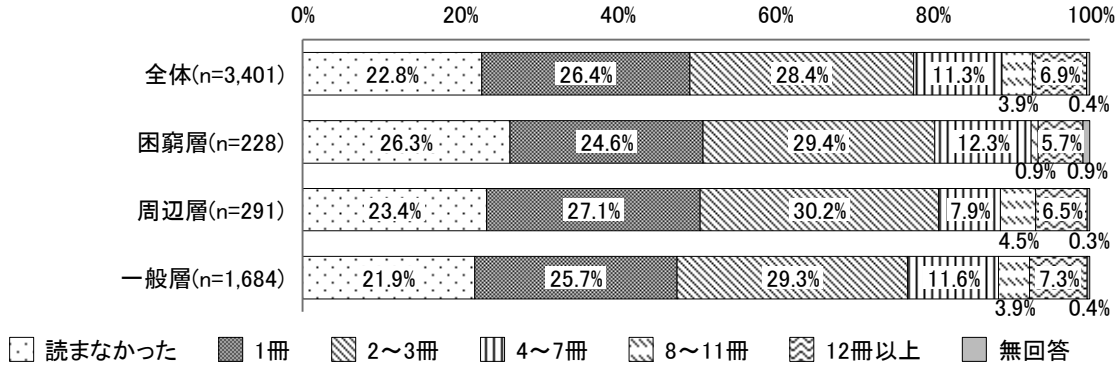
「困窮層」では、「2～3 冊」が 29.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「2～3 冊」が 30.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「2～3 冊」が 29.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 283　読んだ本の冊数：単数回答（Q25）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（有意差なし）



（５）所有物について

1)　自分だけの本

小学生の「全体」では、「ある」が 66.1%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしくない」が 21.9%となっている。

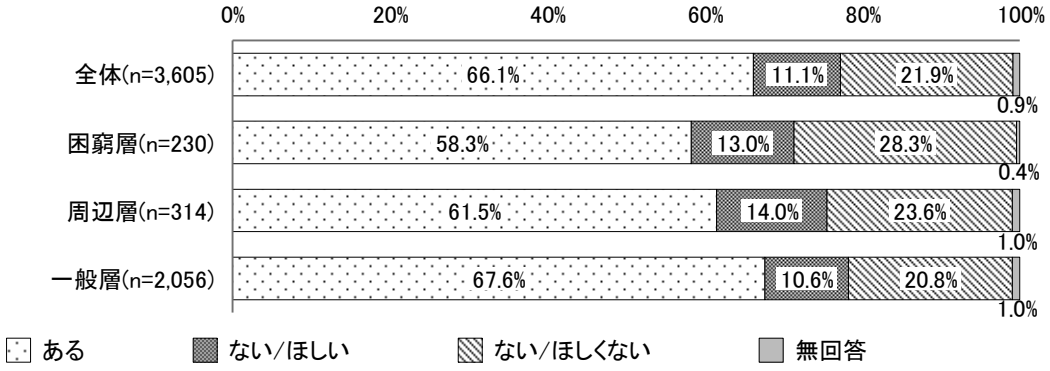
「困窮層」では、「ある」が 58.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 61.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 67.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ある」が 75.1%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしくない」が 18.1%となっている。

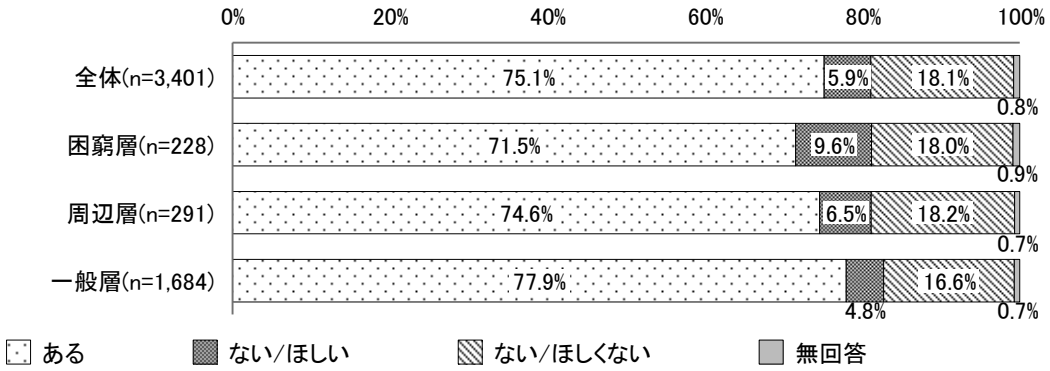
「困窮層」では、「ある」が 71.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 74.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 77.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 284　自分だけの本：単数回答（Q26A）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（p<.05）



2)　こども部屋

小学生の「全体」では、「ある」が 63.2%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしい」が 25.7%となっている。

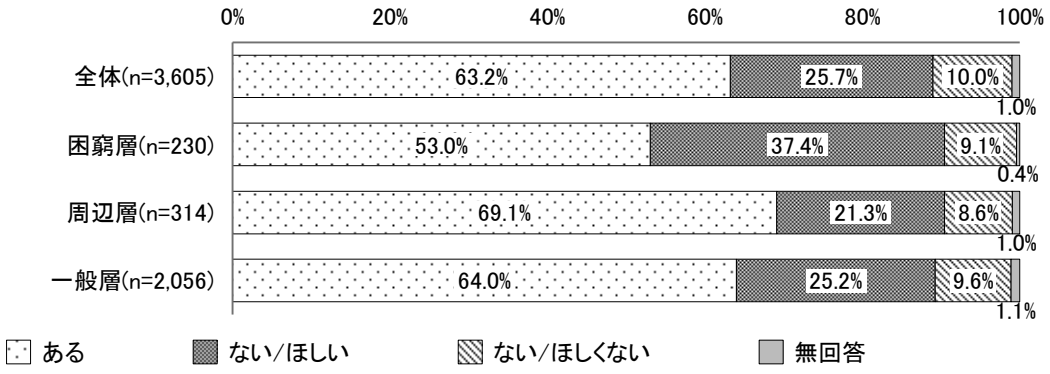
「困窮層」では、「ある」が 53.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 69.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 64.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ある」が 76.7%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしい」が 15.0%となっている。

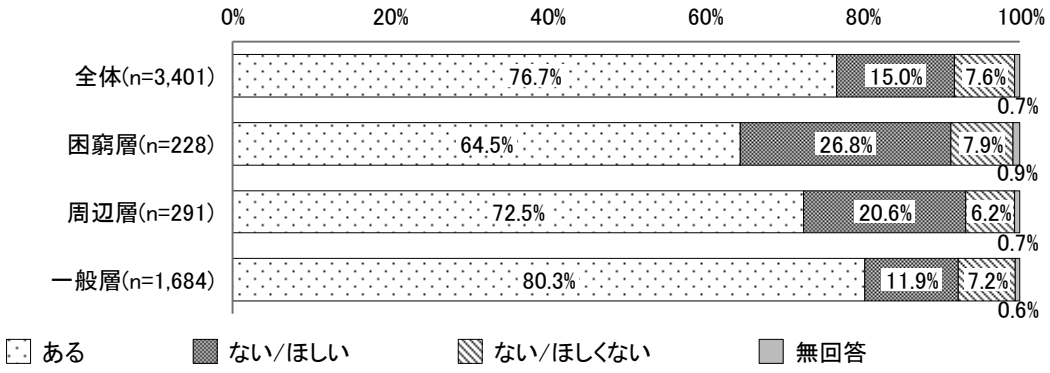
「困窮層」では、「ある」が 64.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 72.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 80.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 285　こども部屋：単数回答（Q26B）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



3) インターネットにつながるパソコン、タブレット

小学生の「全体」では、「ある」が 63.4%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしい」が 24.4%となっている。

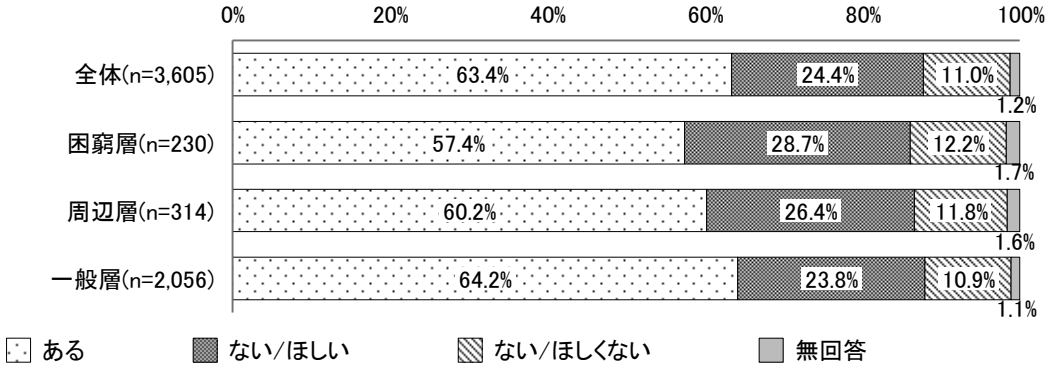
「困窮層」では、「ある」が 57.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 60.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 64.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ある」が 72.0%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしい」が 17.4%となっている。

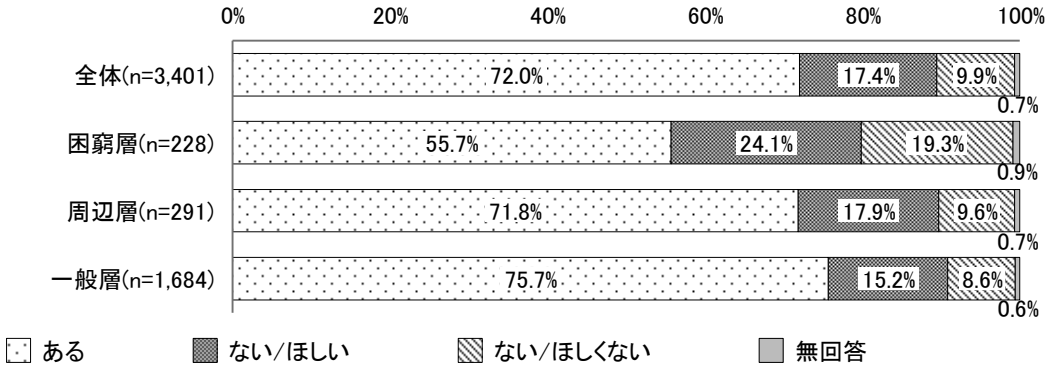
「困窮層」では、「ある」が 55.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 71.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 75.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 286　インターネットにつながるパソコン、タブレット：単数回答（Q26C）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.01）



4)　自宅で宿題をすることができる場所

小学生の「全体」では、「ある」が 85.0%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしい」が 8.1%となっている。

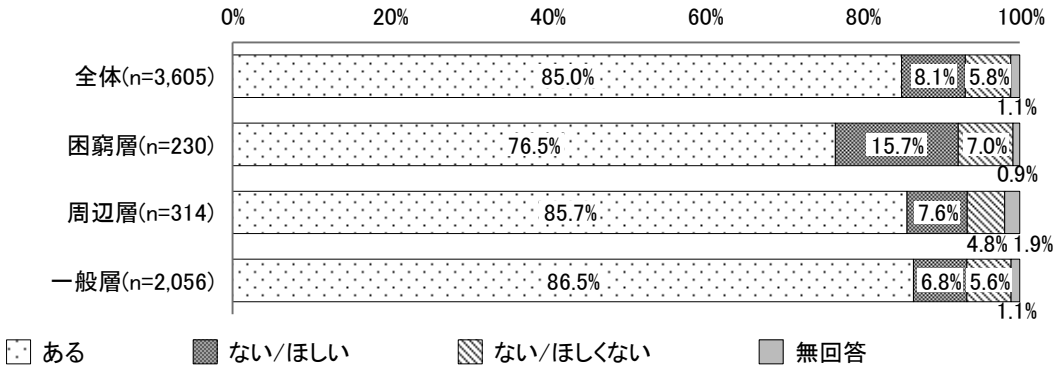
「困窮層」では、「ある」が 76.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 85.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 86.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ある」が 88.7%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしい」が 6.5%となっている。

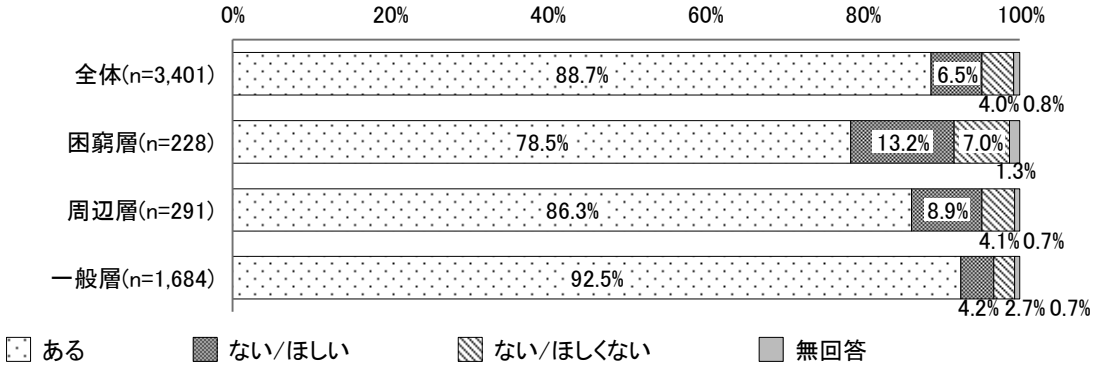
「困窮層」では、「ある」が 78.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 86.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 92.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 287　自宅で宿題をすることができる場所：単数回答（Q26D）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



5)　自分専用の勉強机

小学生の「全体」では、「ある」が 64.1%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしい」が 20.1%となっている。

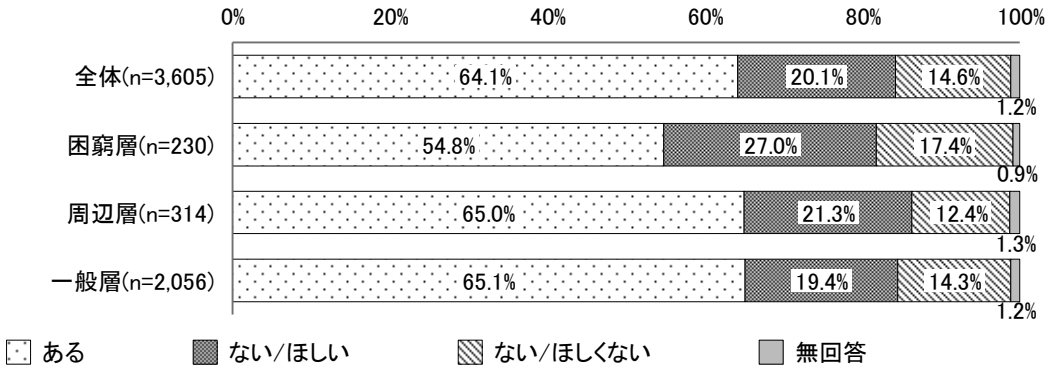
「困窮層」では、「ある」が 54.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 65.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 65.1%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ある」が 80.8%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしい」が 10.7%となっている。

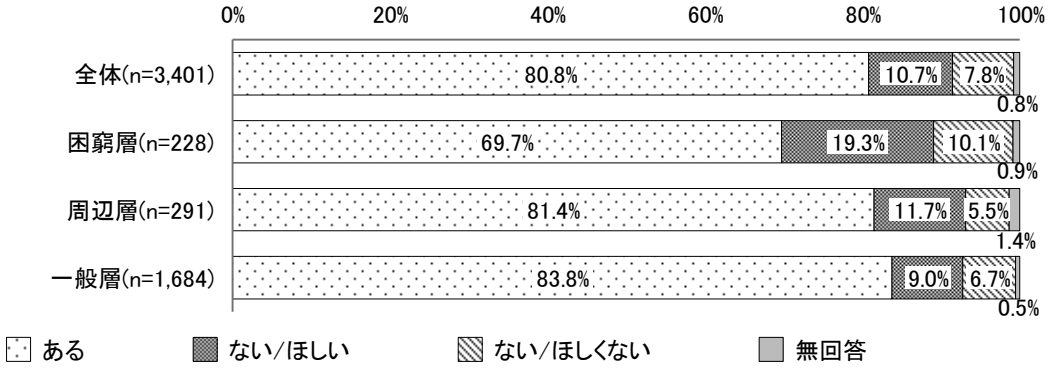
「困窮層」では、「ある」が 69.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 81.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 83.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 288　自分専用の勉強机：単数回答（Q26E）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（p<.01）



6) スポーツ用品

小学生の「全体」では、「ある」が 66.7%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしくない」が 22.6%となっている。

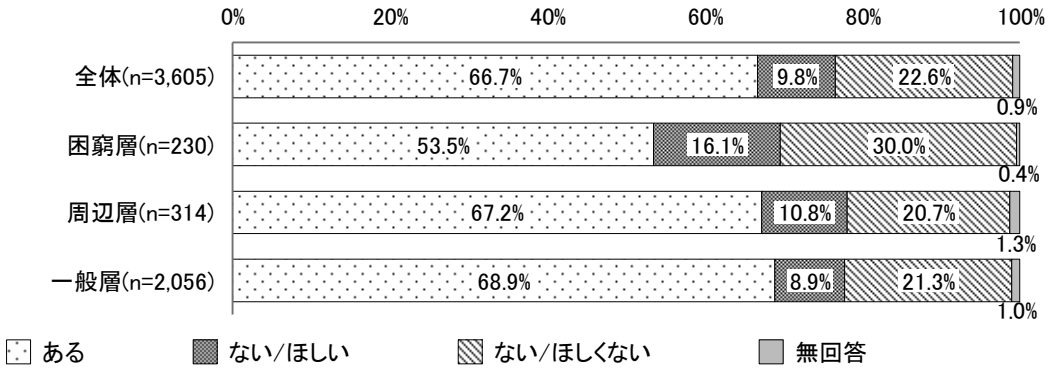
「困窮層」では、「ある」が 53.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 67.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 68.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ある」が 72.3%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしくない」が 21.8%となっている。

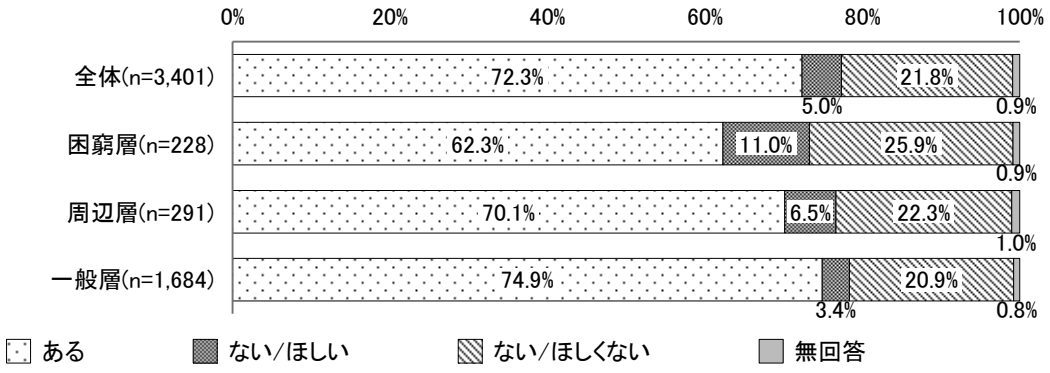
「困窮層」では、「ある」が 62.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 70.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 74.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 289　スポーツ用品：単数回答（Q26F）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



7) ゲーム機

小学生の「全体」では、「ある」が 84.1%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしくない」が 7.8%となっている。

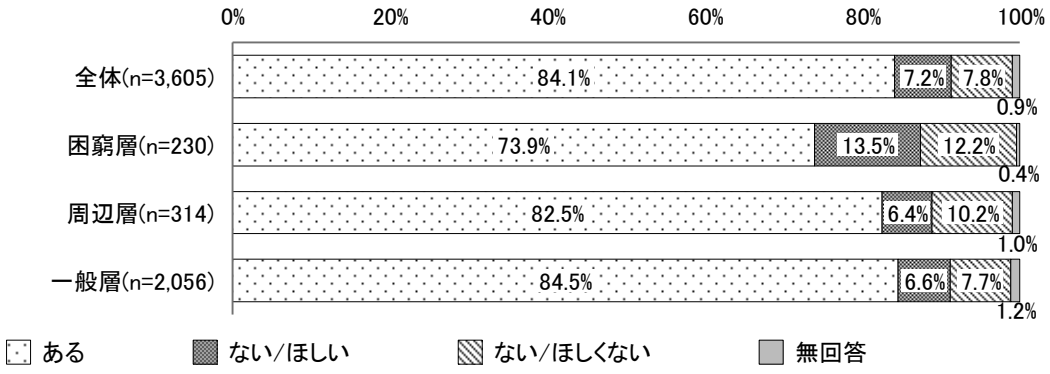
「困窮層」では、「ある」が 73.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 82.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 84.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ある」が 82.2%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしくない」が 11.8%となっている。

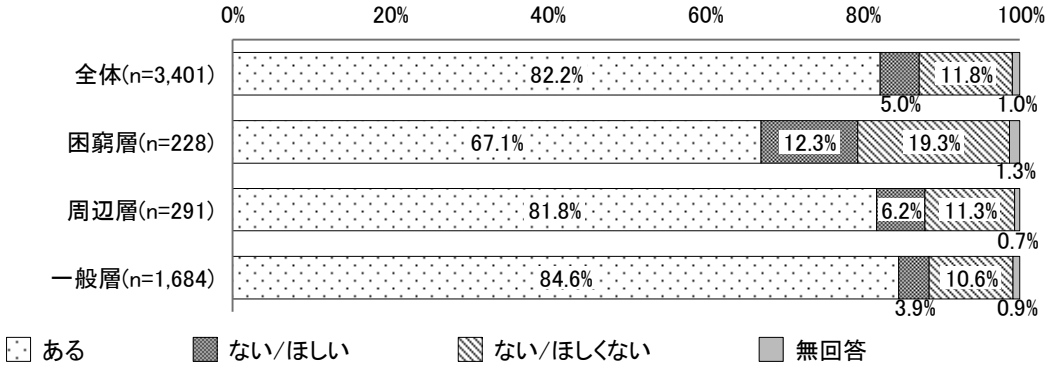
「困窮層」では、「ある」が 67.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 81.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 84.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 290　ゲーム機：単数回答（Q26G）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



8） 多くの友だちが持っているおもちゃ

小学生の「全体」では、「ある」が 44.0%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしくない」が 37.5%となっている。

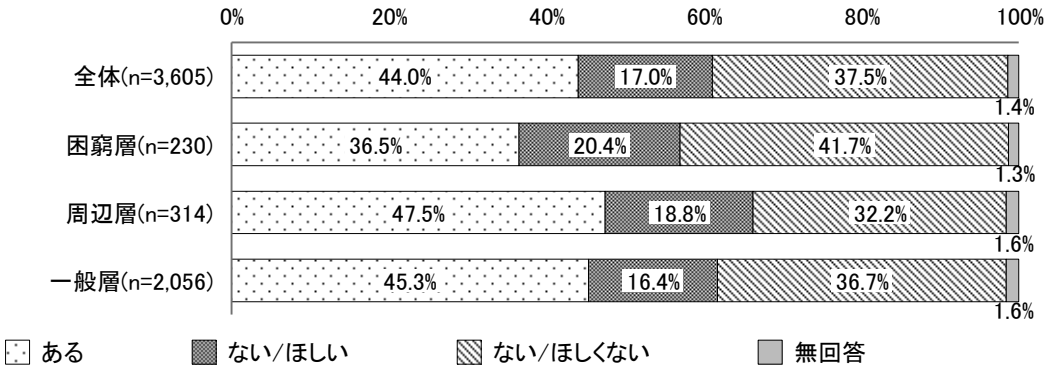
「困窮層」では、「ない/ほしくない」が 41.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 47.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 45.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ない/ほしくない」が 46.7%でもっとも割合が高く、次いで「ある」が 44.3%となっている。

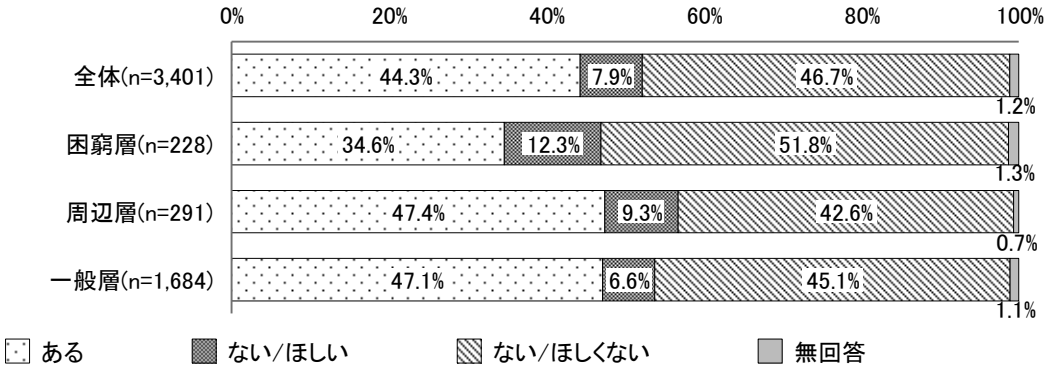
「困窮層」では、「ない/ほしくない」が 51.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 47.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 47.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 291 多くの友だちが持っているおもちゃ：単数回答（Q26H）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（p<.01）



9) 自転車

小学生の「全体」では、「ある」が 86.3%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしい」が 7.5%となっている。

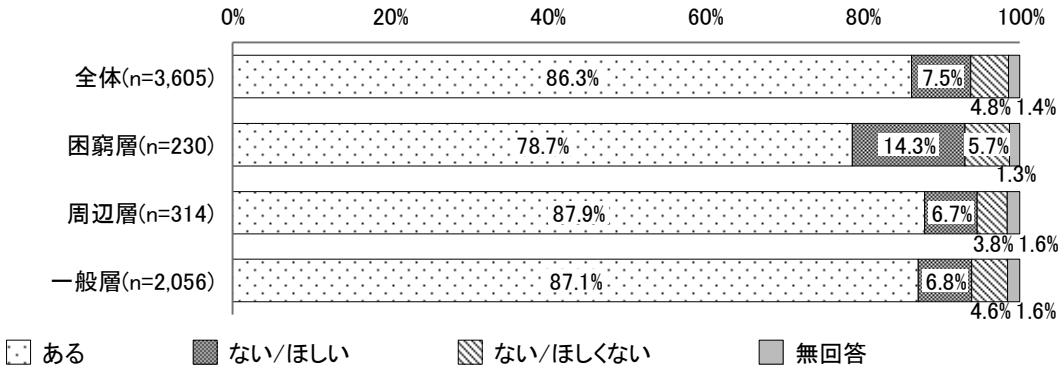
「困窮層」では、「ある」が 78.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 87.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 87.1%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ある」が 86.4%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしくない」が 6.9%となっている。

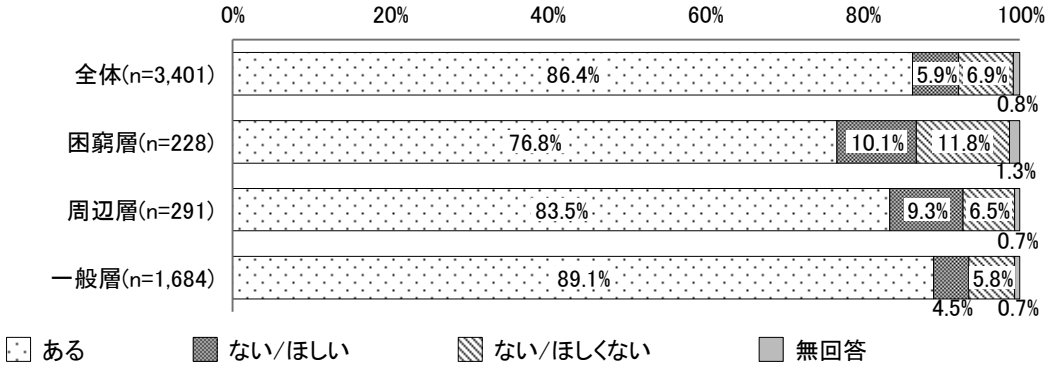
「困窮層」では、「ある」が 76.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 83.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 89.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 292　自転車：単数回答（Q26I）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



10）おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい

小学生の「全体」では、「ある」が 73.5%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしい」が 17.9%となっている。

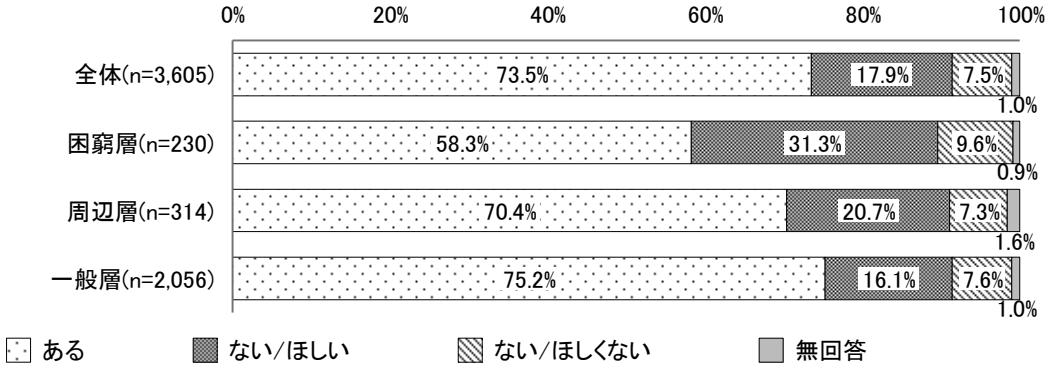
「困窮層」では、「ある」が 58.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 70.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 75.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ある」が 74.7%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしい」が 16.6%となっている。

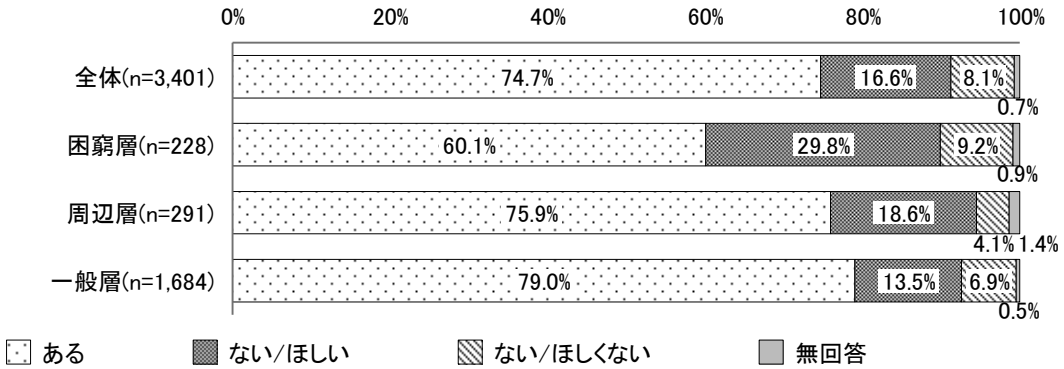
「困窮層」では、「ある」が 60.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 75.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 79.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 293　おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい：単数回答（Q26J）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



11）友だちが着ているのと同じような服

小学生の「全体」では、「ある」が 45.9%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしくない」が 41.1%となっている。

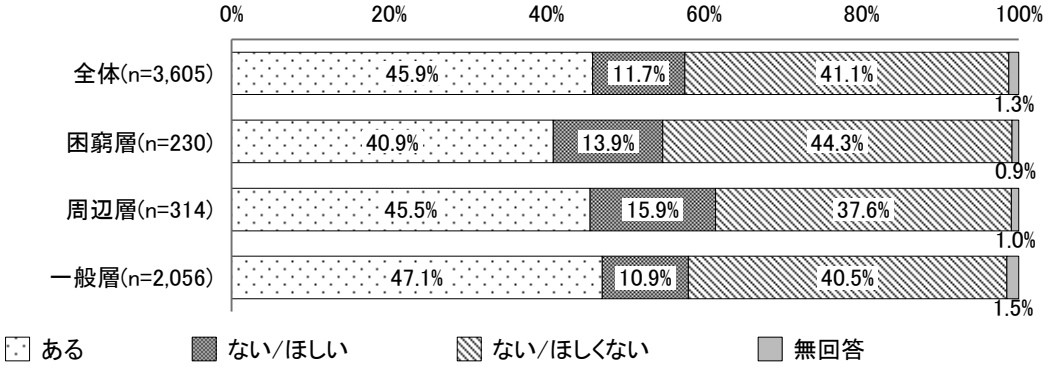
「困窮層」では、「ない/ほしくない」が 44.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 45.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 47.1%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ある」が 44.4%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしくない」が 41.6%となっている。

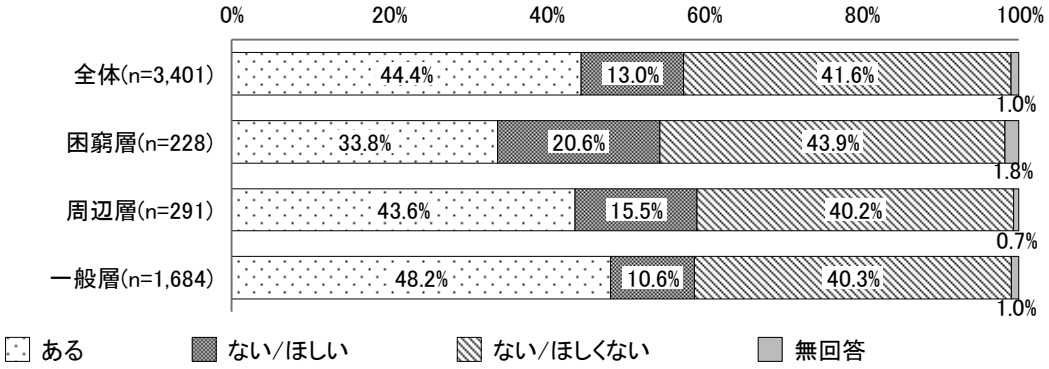
「困窮層」では、「ない/ほしくない」が 43.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 43.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 48.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 294　友だちが着ているのと同じような服：単数回答（Q26K）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（p<.01）



12）2 足以上のサイズのあった靴

小学生の「全体」では、「ある」が 75.2%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしくない」が 14.6%となっている。

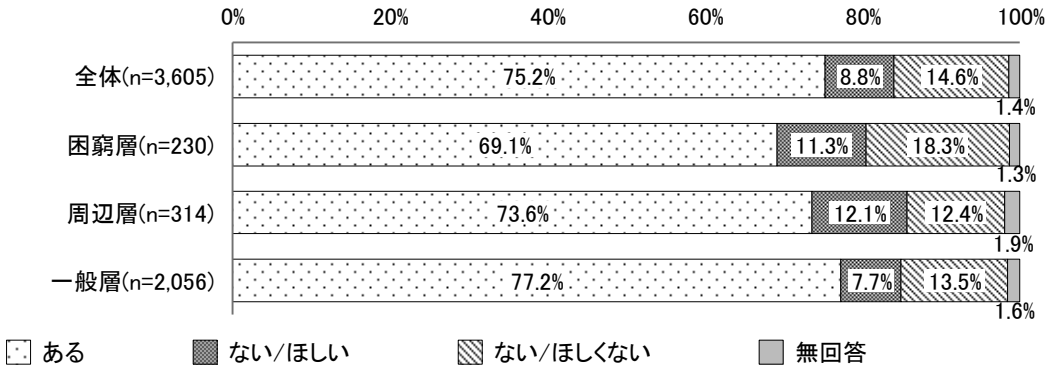
「困窮層」では、「ある」が 69.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 73.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 77.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ある」が 79.1%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしくない」が 11.5%となっている。

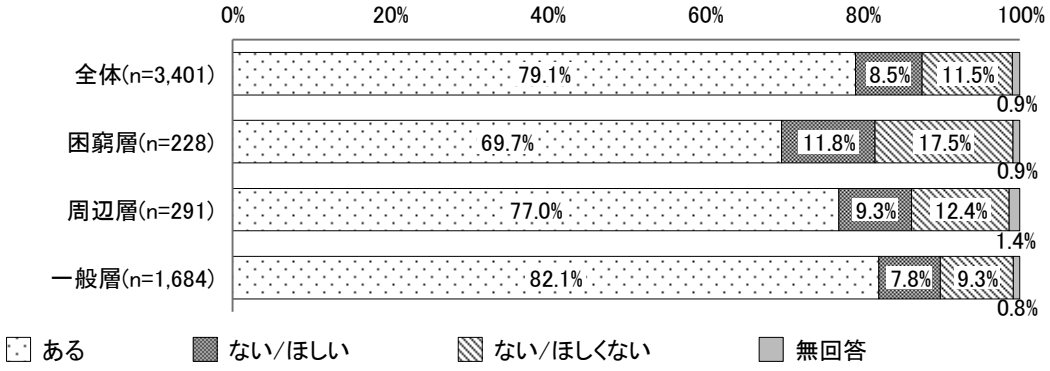
「困窮層」では、「ある」が 69.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 77.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 82.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 295　2 足以上のサイズのあった靴：単数回答（Q26L）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



13）けいたい電話、スマートフォン

小学生の「全体」では、「ある」が 52.4%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしい」が 35.6%となっている。

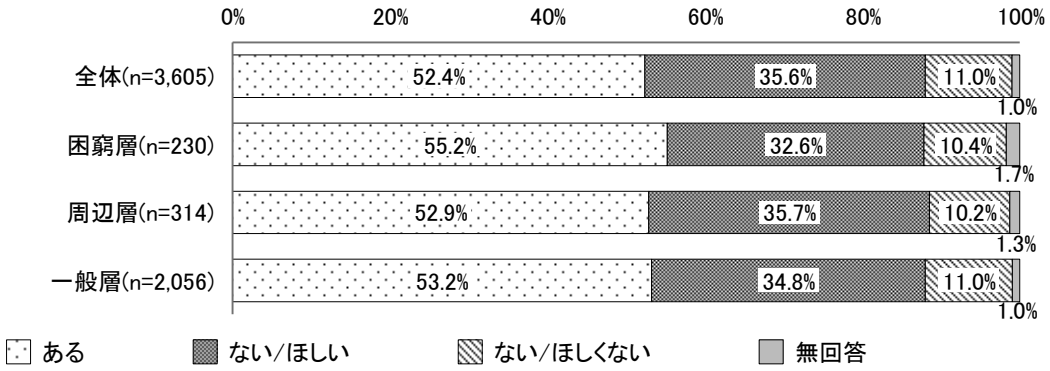
「困窮層」では、「ある」が 55.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 52.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 53.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ある」が 89.1%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしい」が 6.9%となっている。

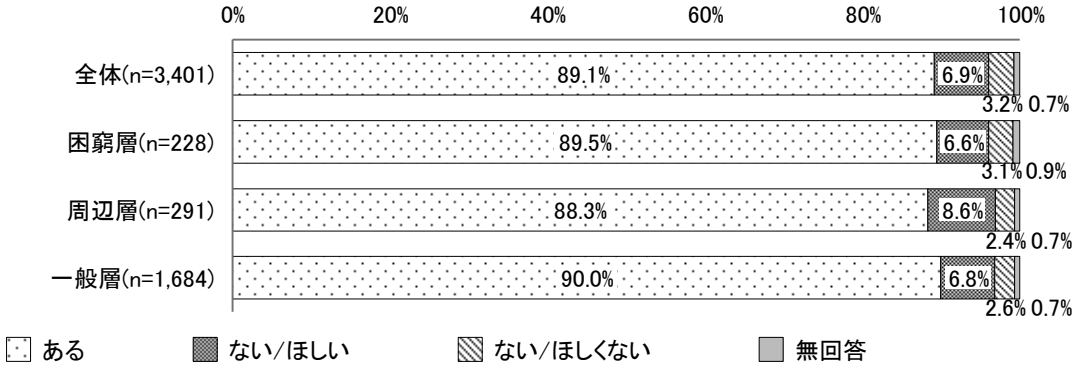
「困窮層」では、「ある」が 89.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 88.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 90.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 296　けいたい電話、スマートフォン：単数回答（Q26M）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



14） けいたい音楽プレーヤー

小学生の「全体」では、「ない/ほしくない」が 50.7%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしい」が 29.9%となっている。

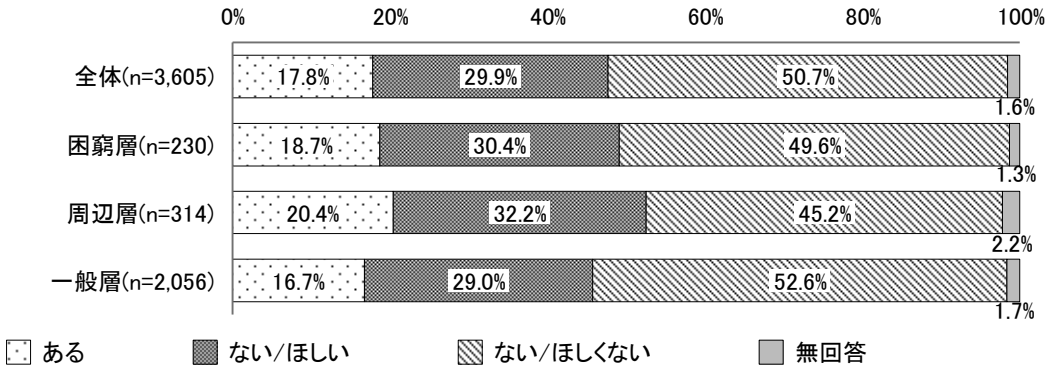
「困窮層」では、「ない/ほしくない」が 49.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ない/ほしくない」が 45.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ない/ほしくない」が 52.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ある」が 40.0%でもっとも割合が高く、次いで「ない/ほしくない」が 36.8%となっている。

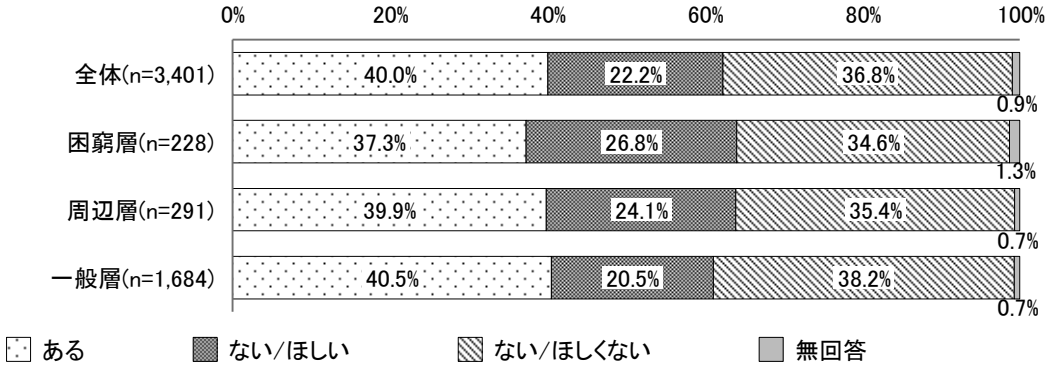
「困窮層」では、「ある」が 37.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ある」が 39.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ある」が 40.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 297　けいたい音楽プレーヤー：単数回答（Q26N）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



（６）周囲との関わりについて

1）　一番仲が良い友だち

小学生の「全体」では、「学校の友だち」が 86.0%でもっとも割合が高く、次いで「学校外のスポーツチームやクラブの友だち」が 3.4%となっている。

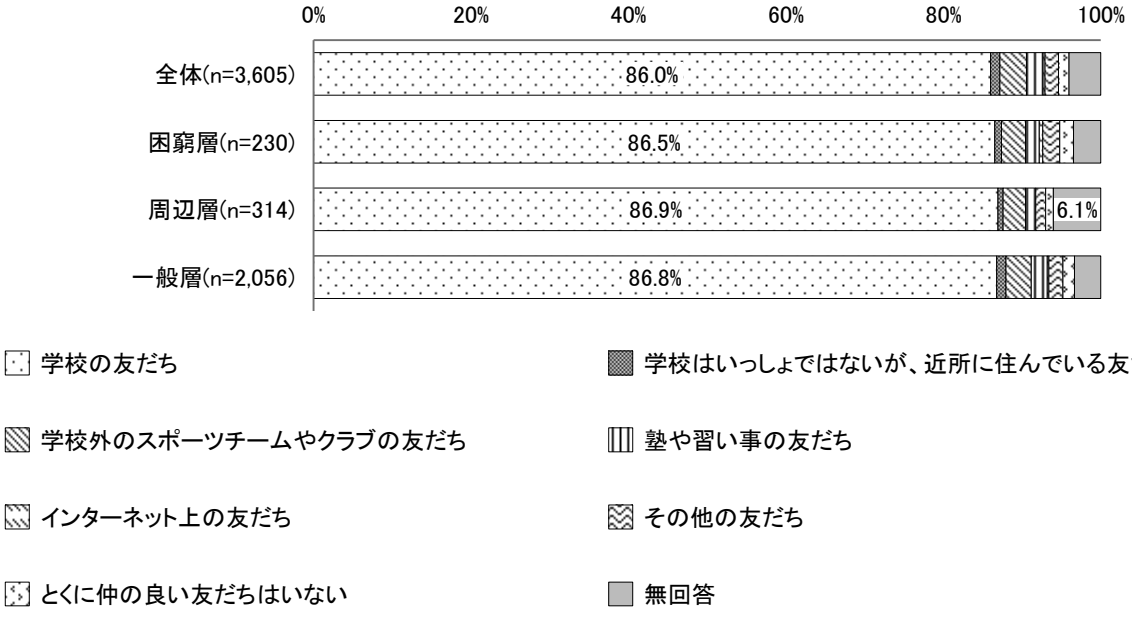
「困窮層」では、「学校の友だち」が 86.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「学校の友だち」が 86.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「学校の友だち」が 86.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「学校の友だち」が 86.9%でもっとも割合が高く、次いで「学校外のスポーツチームやクラブの友だち」が 2.2%となっている。

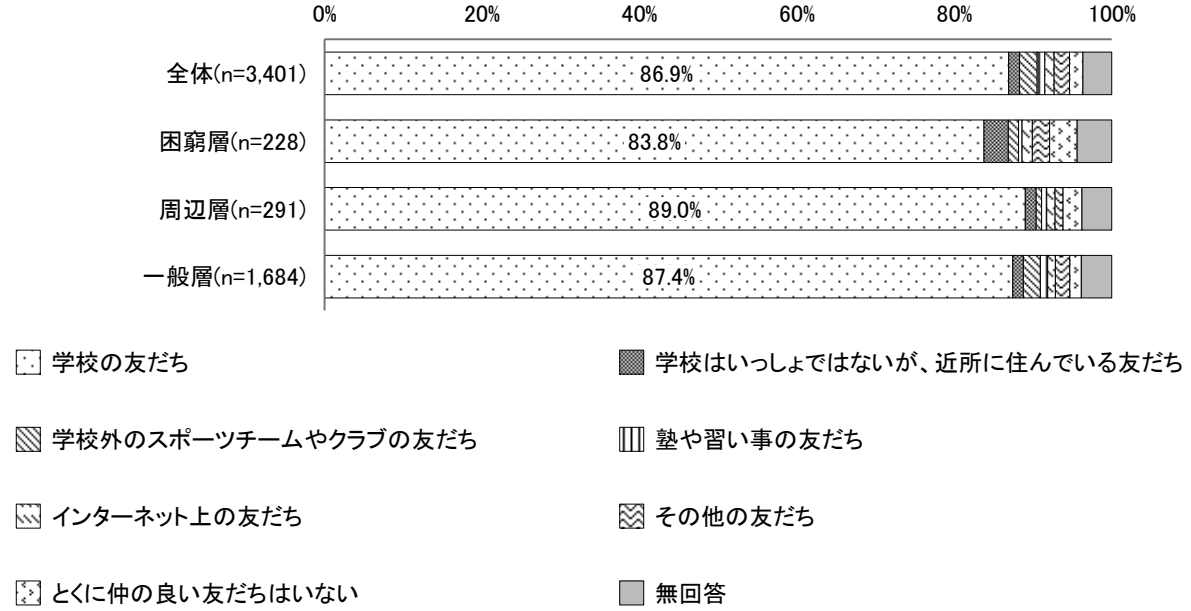
「困窮層」では、「学校の友だち」が 83.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「学校の友だち」が 89.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「学校の友だち」が 87.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 298　一番仲が良い友だち：単数回答（Q27）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q27 一番仲が良い友だち							
		学校の友だち	学校はいっしょではないが、近所に住んでいる友だち	学校外のスポーツチームやクラブの友だち	塾や習い事の友だち	インターネット上の友だち	その他の友だち	とくに仲の良い友だちはいない	無回答
全体	3,605	86.0	1.2	3.4	2.1	0.3	1.7	1.3	4.0
困窮層	230	86.5	0.9	3.0	1.7	0.4	2.2	1.7	3.5
周辺層	314	86.9	0.6	2.9	1.3	0.0	1.3	1.0	6.1
一般層	2,056	86.8	1.2	3.2	2.0	0.2	1.8	1.5	3.4

＜数値表：中学生＞

	合計	Q27 一番仲が良い友だち							
		学校の友だち	学校はいっしょではないが、近所に住んでいる友だち	学校外のスポーツチームやクラブの友だち	塾や習い事の友だち	インターネット上の友だち	その他の友だち	とくに仲の良い友だちはいない	無回答
全体	3,401	86.9	1.4	2.2	0.9	1.2	2.0	1.7	3.7
困窮層	228	83.8	3.1	1.3	0.4	1.3	2.2	3.5	4.4
周辺層	291	89.0	1.4	0.7	0.7	1.0	1.0	2.4	3.8
一般層	1,684	87.4	1.4	2.1	1.0	1.0	1.8	1.5	3.9

2) 親

小学生の「全体」では、「よく話す」が 57.0%でもっとも割合が高く、次いで「時々話す」が 25.6%となっている。

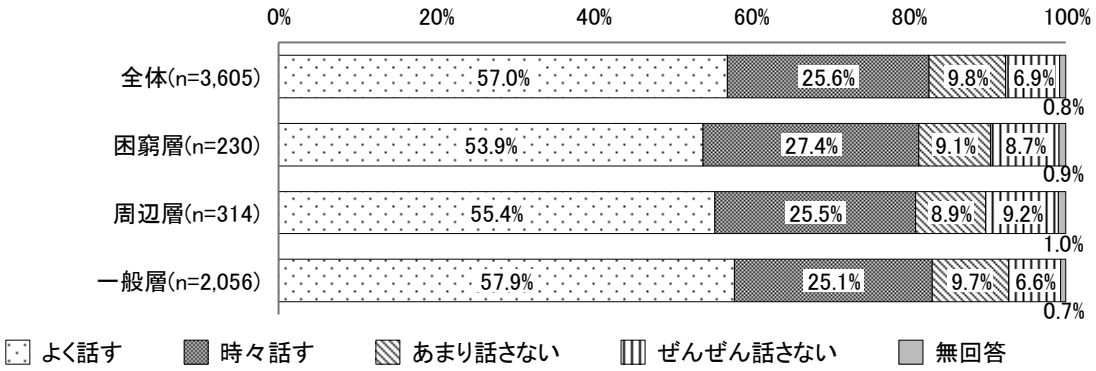
「困窮層」では、「よく話す」が 53.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「よく話す」が 55.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「よく話す」が 57.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「よく話す」が 43.5%でもっとも割合が高く、次いで「時々話す」が 29.8%となっている。

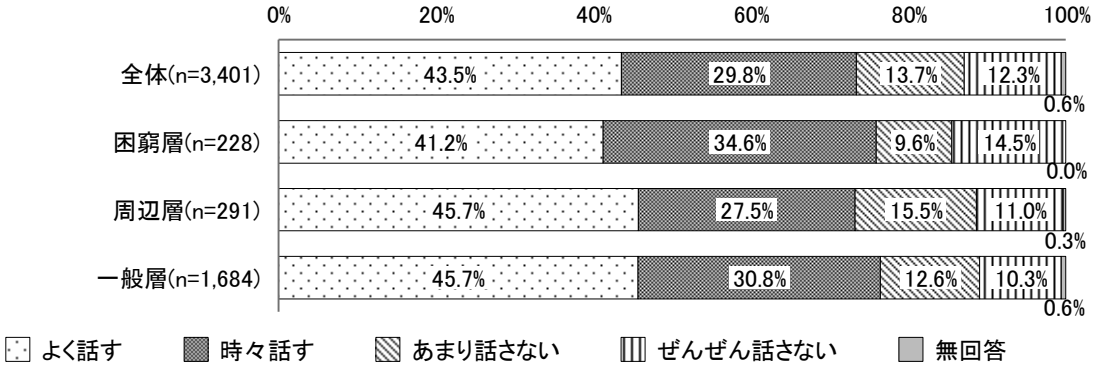
「困窮層」では、「よく話す」が 41.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「よく話す」が 45.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「よく話す」が 45.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 299 親：単数回答（Q28A）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



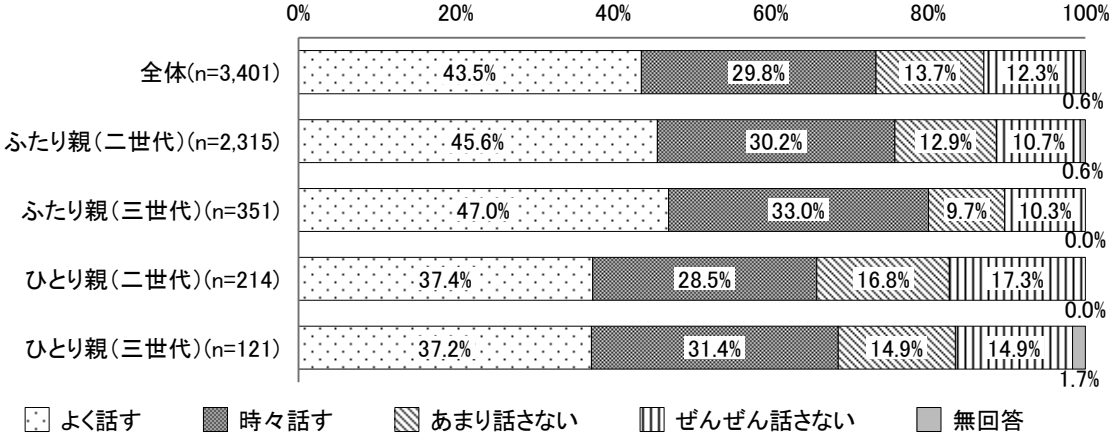
＜中学生＞（有意差なし）



世帯タイプ別にみると、小学生では、有意な結果がみられなかった。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「よく話す」とする割合が低くなっている。

図表 300　親：単数回答（Q28A）（世帯タイプ別）

＜中学生＞（p<.05）



3) 兄弟姉妹

小学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 39.8%でもっとも割合が高く、次いで「よく話す」が 23.2%となっている。

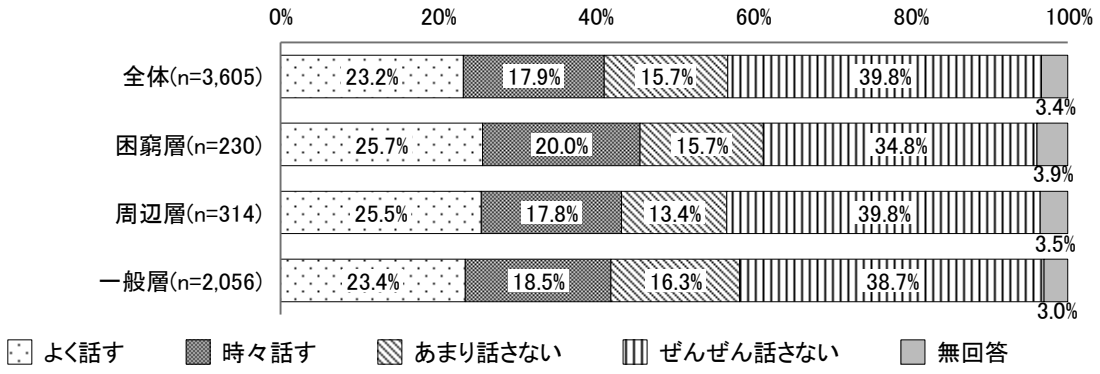
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 34.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 39.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 38.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 44.8%でもっとも割合が高く、次いで「時々話す」が 18.8%となっている。

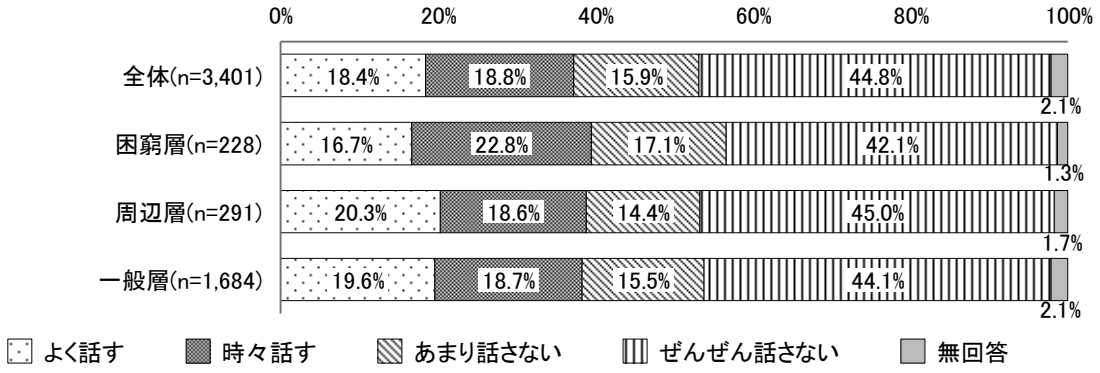
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 42.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 45.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 44.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 301　兄弟姉妹：単数回答（Q28B）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



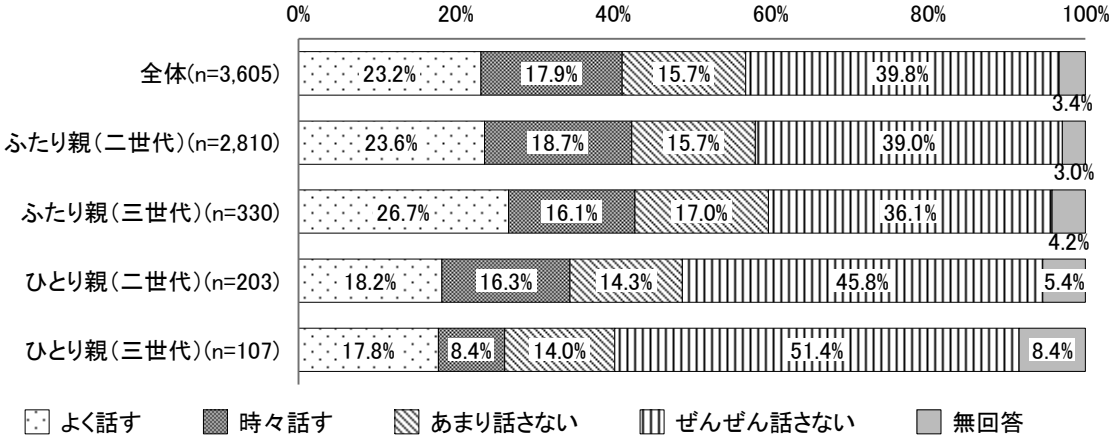
＜中学生＞（有意差なし）



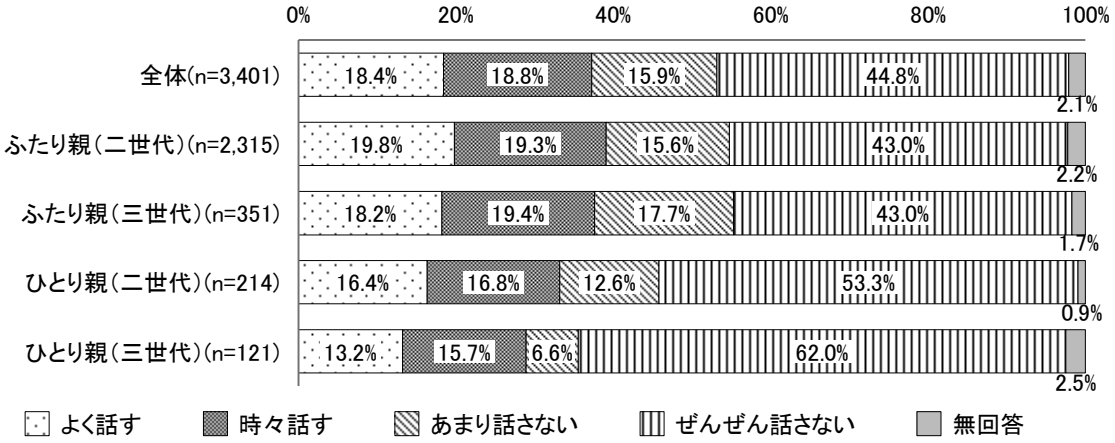
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ひとり親（二世代)」「ひとり親（三世代)」において「ぜんぜん話さない」とする割合が高くなっている。

図表 302　兄弟姉妹：単数回答（Q28B）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（p<.01）



4) おじいちゃん、おばあちゃんなど

小学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 45.0%でもっとも割合が高く、次いで「時々話す」が 20.9%となっている。

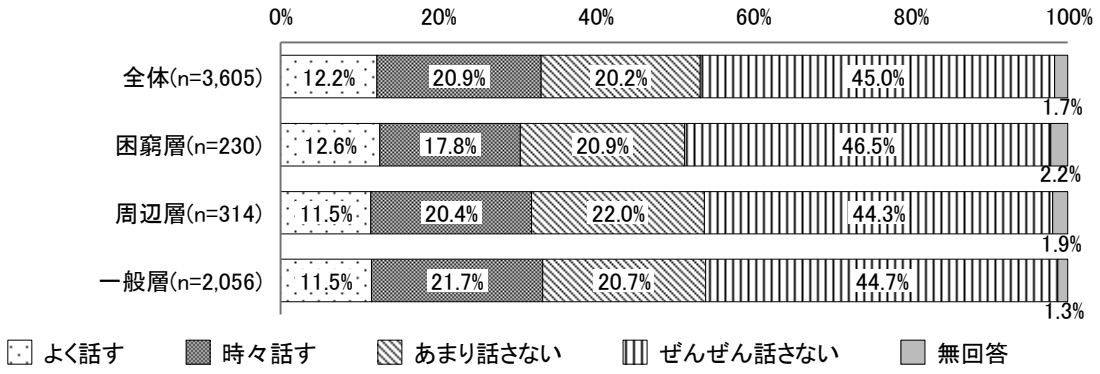
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 46.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 44.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 44.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 56.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまり話さない」が 20.0%となっている。

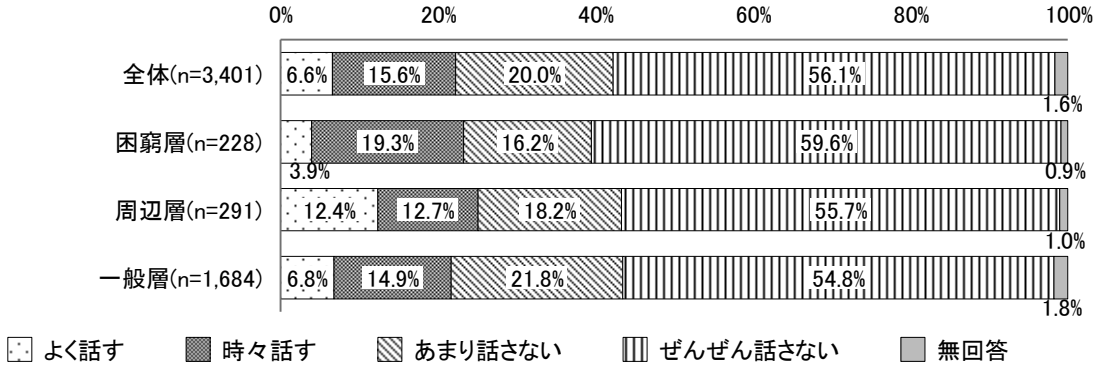
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 59.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 55.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 54.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 303　おじいちゃん、おばあちゃんなど：単数回答（Q28C）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



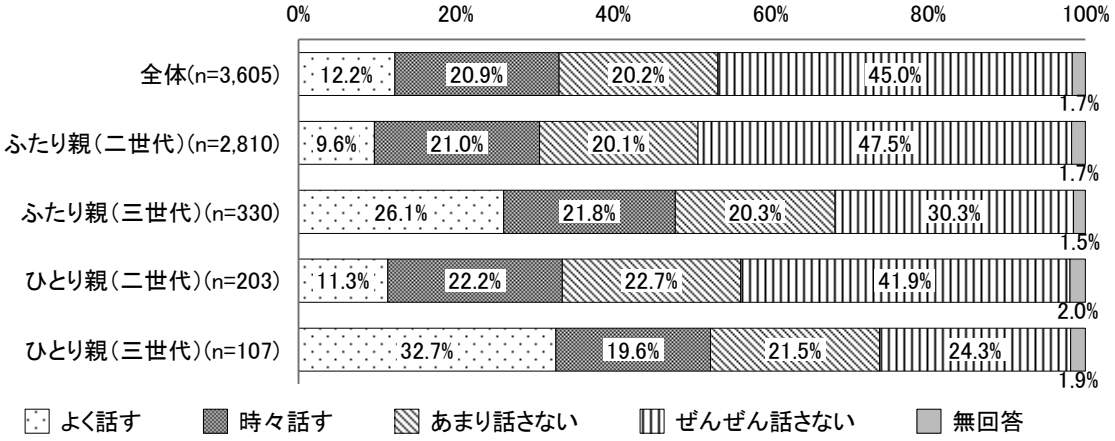
＜中学生＞（p<.01）



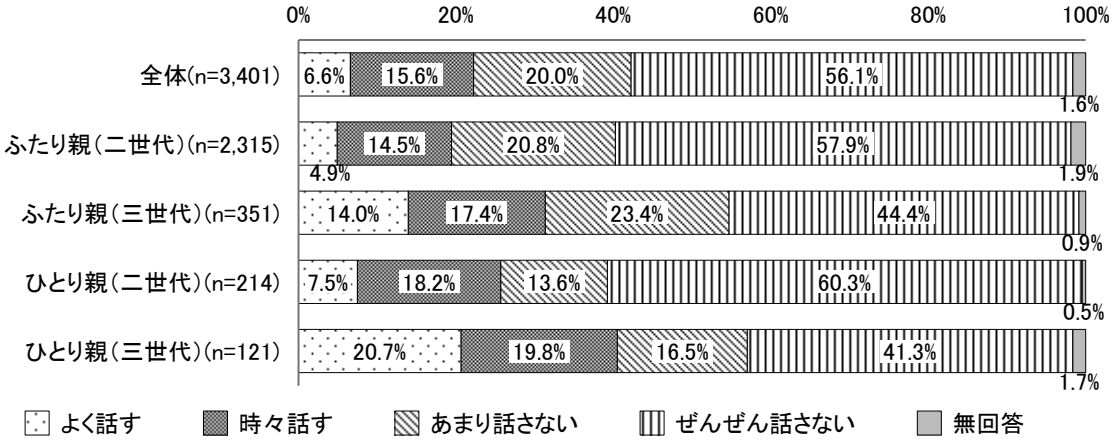
世帯タイプ別にみると、小中学生ともに、全体に比べて「ふたり親（三世代)」「ひとり親（三世代)」において「よく話す」とする割合が高くなっている。

図表 304　おじいちゃん、おばあちゃんなど：単数回答（Q28C）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



5) 学校の先生

小学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 31.7%でもっとも割合が高く、次いで「時々話す」が 26.1%となっている。

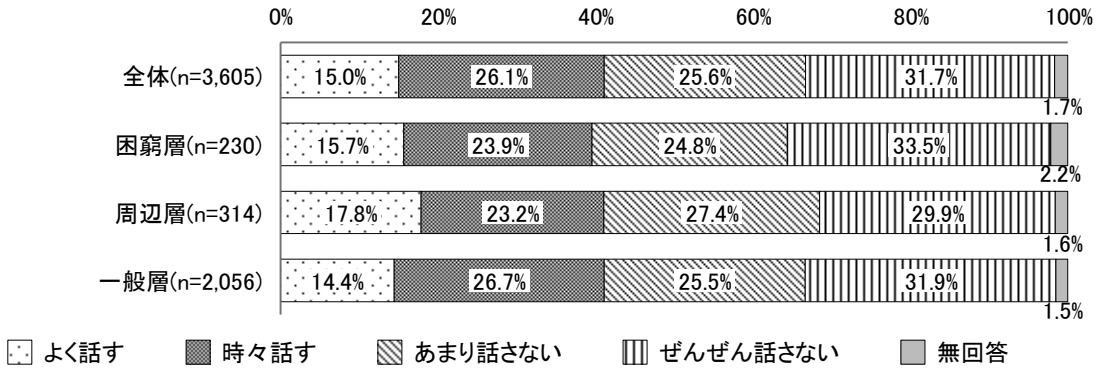
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 33.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 29.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 31.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 41.7%でもっとも割合が高く、次いで「あまり話さない」が 26.1%となっている。

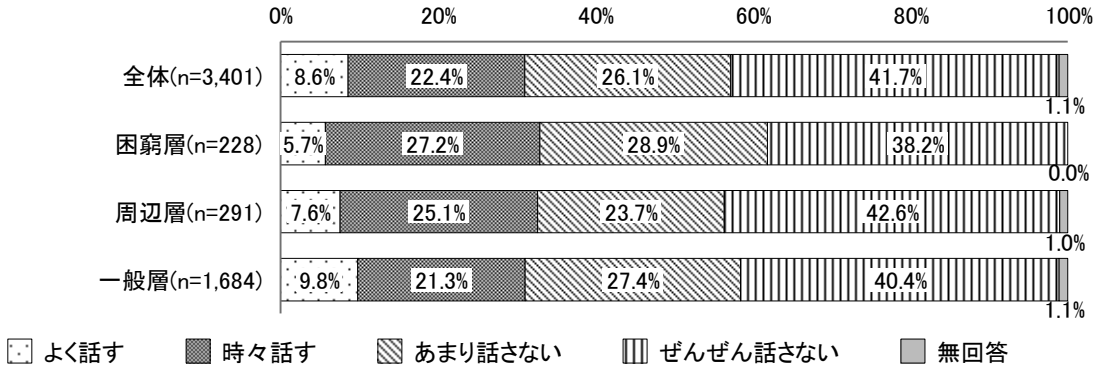
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 38.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 42.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 40.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 305　学校の先生：単数回答（Q28D）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



6) スクールカウンセラー

小学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 86.4%でもっとも割合が高く、次いで「あまり話さない」が 7.4%となっている。

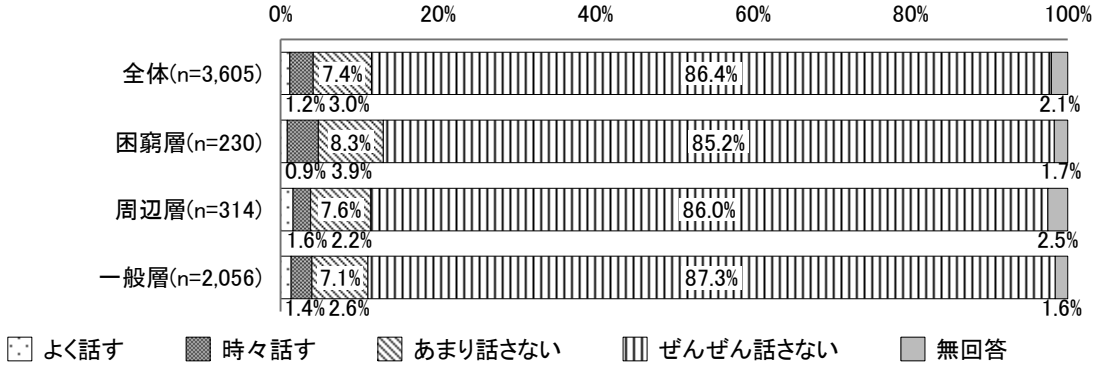
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 85.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 86.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 87.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 88.0%でもっとも割合が高く、次いで「あまり話さない」が 6.9%となっている。

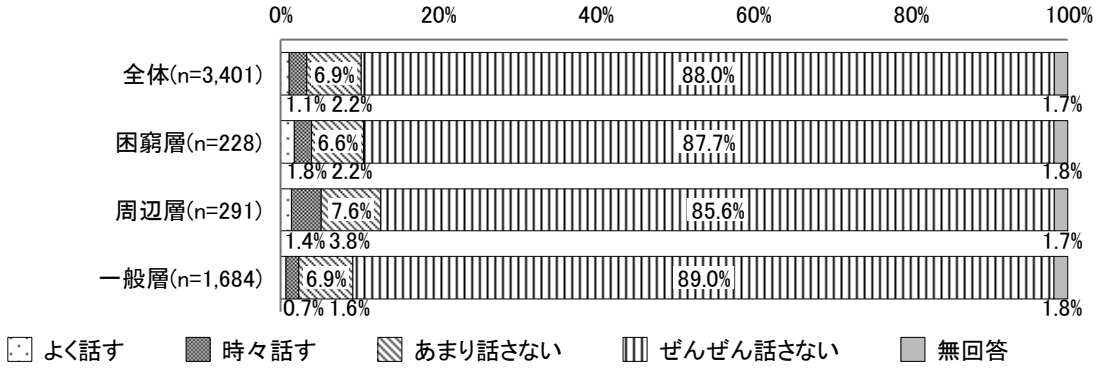
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 87.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 85.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 89.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 306　スクールカウンセラー：単数回答（Q28E）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



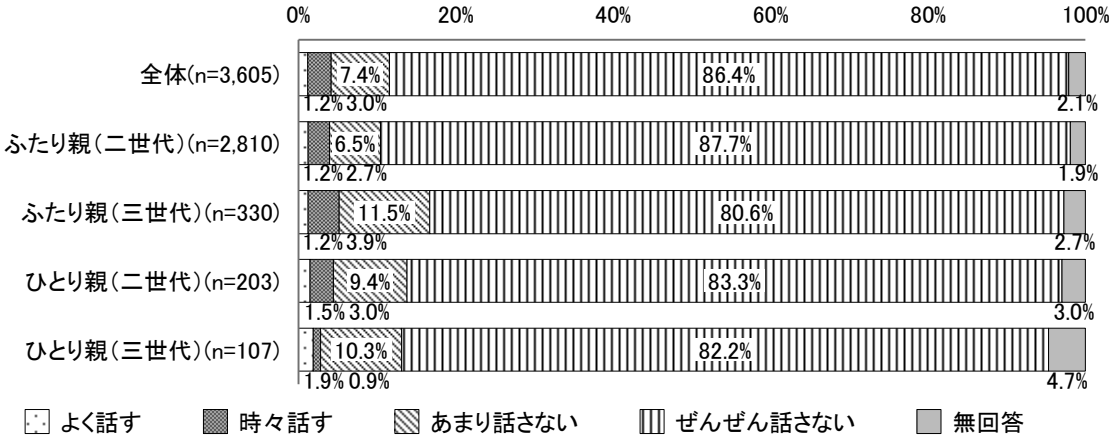
＜中学生＞（有意差なし）



世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ふたり親（三世代)」において「あまり話さない」とする割合が高くなっている。中学生では、有意な差がみられなかった。

図表 307　スクールカウンセラー：単数回答（Q28E）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.05）



7) スクールソーシャルワーカー

小学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 91.0%でもっとも割合が高く、次いで「あまり話さない」が 4.6%となっている。

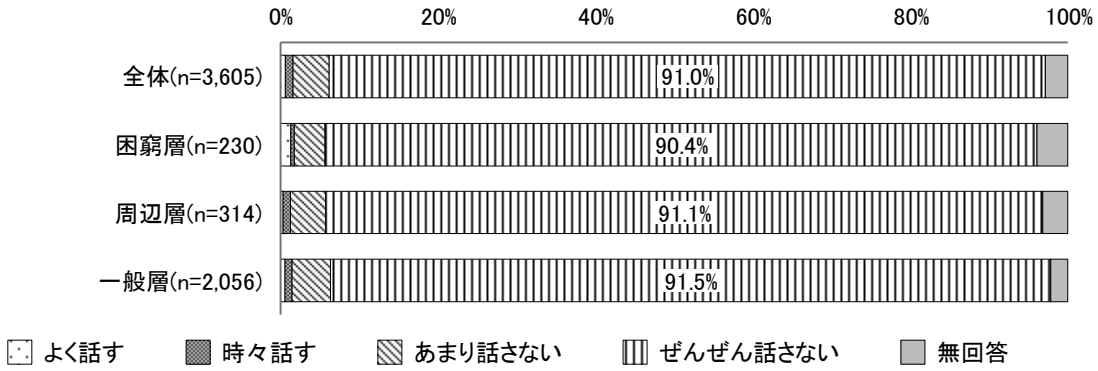
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 90.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 91.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 91.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 92.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまり話さない」が 4.6%となっている。

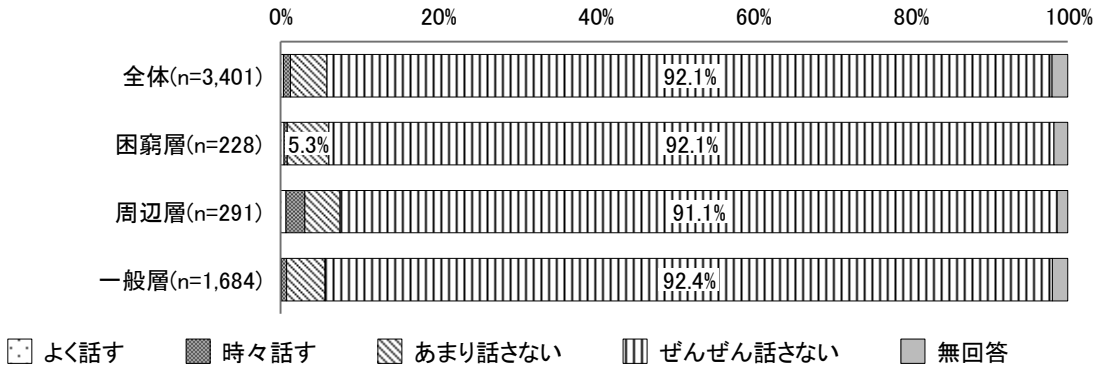
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 92.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 91.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 92.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 308　スクールソーシャルワーカー：単数回答（Q28F）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.05）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q28F スクールソーシャルワーカー				
		よく話す	時々話す	あまり話さない	ぜんぜん話さない	無回答
全体	3,605	0.6	1.0	4.6	91.0	2.9
困窮層	230	1.3	0.4	3.9	90.4	3.9
周辺層	314	0.3	1.0	4.5	91.1	3.2
一般層	2,056	0.6	0.9	4.9	91.5	2.2

＜数値表：中学生＞

	合計	Q28F スクールソーシャルワーカー				
		よく話す	時々話す	あまり話さない	ぜんぜん話さない	無回答
全体	3,401	0.4	0.9	4.6	92.1	2.0
困窮層	228	0.4	0.4	5.3	92.1	1.8
周辺層	291	0.7	2.4	4.5	91.1	1.4
一般層	1,684	0.1	0.7	4.9	92.4	2.0

8） 放課後児童クラブ、放課後子ども教室

小学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 87.2%でもっとも割合が高く、次いで「あまり話さない」が 4.4%となっている。

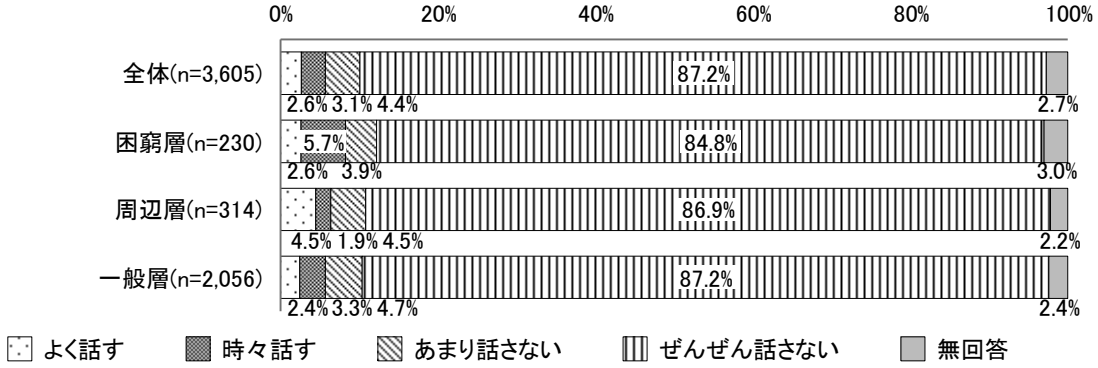
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 84.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 86.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 87.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 93.2%でもっとも割合が高く、次いで「あまり話さない」が 2.8%となっている。

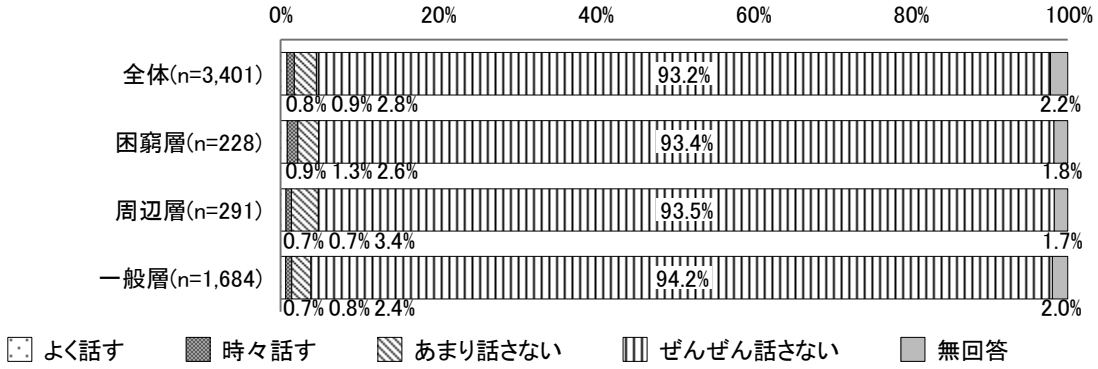
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 93.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 93.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 94.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 309 放課後児童クラブ、放課後子ども教室：単数回答（Q28G）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



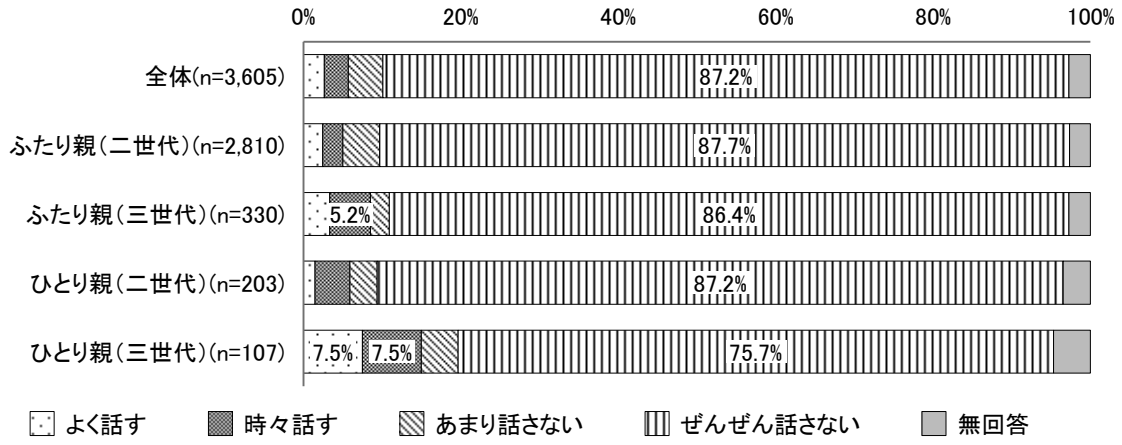
＜中学生＞（有意差なし）



世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代）」において「よく話す」とする割合が高くなっている。中学生では、有意な差がみられなかった。

図表 310　放課後児童クラブ、放課後子ども教室：単数回答（Q28G）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜数値表：小学生＞

	合計	Q28G 放課後児童クラブ、放課後子ども教室				
		よく話す	時々話す	あまり話さない	ぜんぜん話さない	無回答
全体	3,605	2.6	3.1	4.4	87.2	2.7
ふたり親（二世代）	2,810	2.5	2.5	4.7	87.7	2.6
ふたり親（三世代）	330	3.3	5.2	2.4	86.4	2.7
ひとり親（二世代）	203	1.5	4.4	3.4	87.2	3.4
ひとり親（三世代）	107	7.5	7.5	4.7	75.7	4.7

9） 地域の居場所にいる人

小学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 92.3%でもっとも割合が高く、次いで「あまり話さない」が 3.2%となっている。

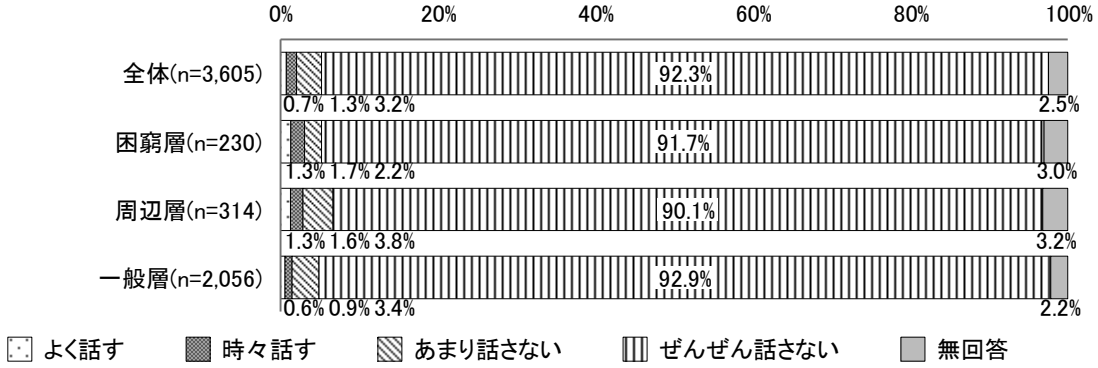
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 91.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 90.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 92.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 93.7%でもっとも割合が高く、次いで「あまり話さない」が 3.0%となっている。

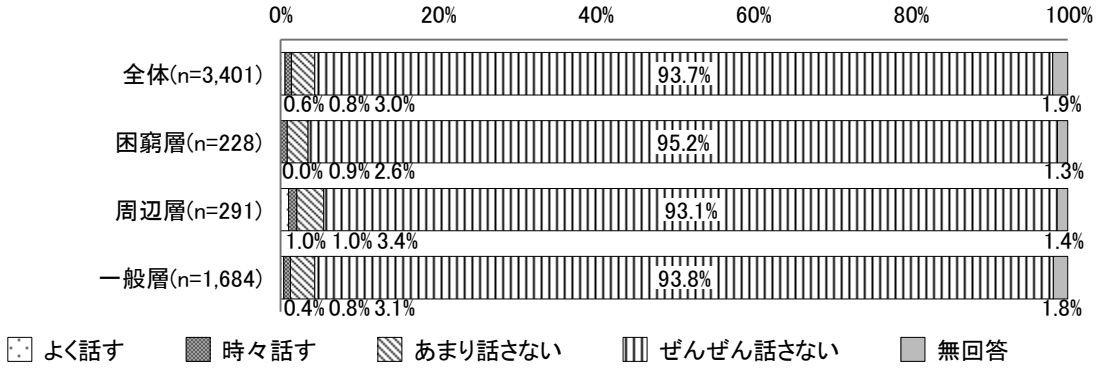
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 95.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 93.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 93.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 311　地域の居場所にいる人：単数回答（Q28H）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



10）児童館・こども館、青少年会館の職員

小学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 93.8%でもっとも割合が高く、次いで「あまり話さない」が 2.4%となっている。

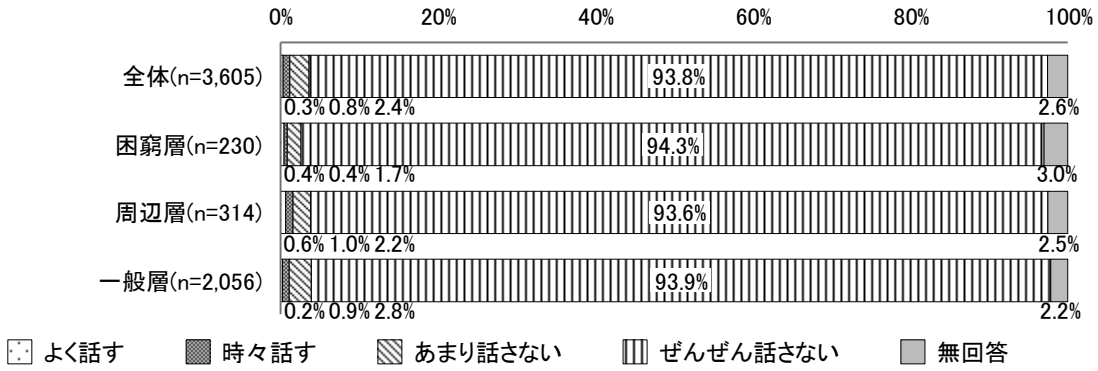
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 94.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 93.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 93.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 95.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまり話さない」が 2.1%となっている。

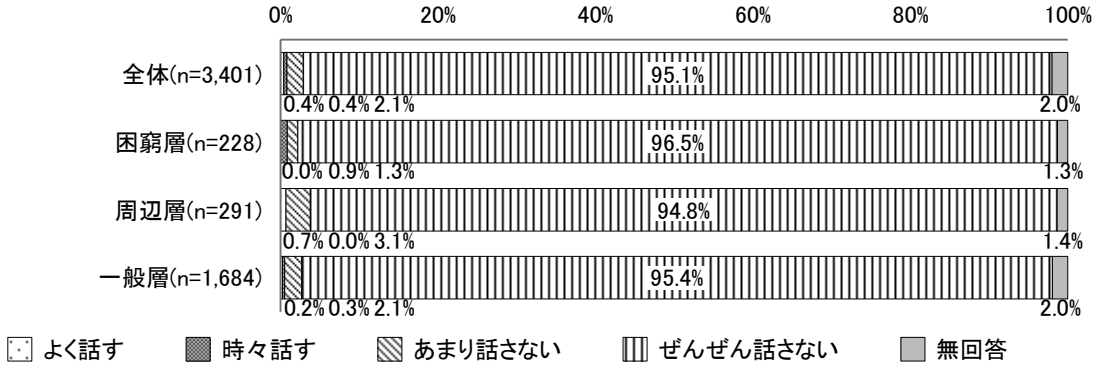
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 96.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 94.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 95.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 312　児童館・こども館、青少年会館の職員：単数回答（Q28I）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



11）図書館の職員

小学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 93.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまり話さない」が 3.0%となっている。

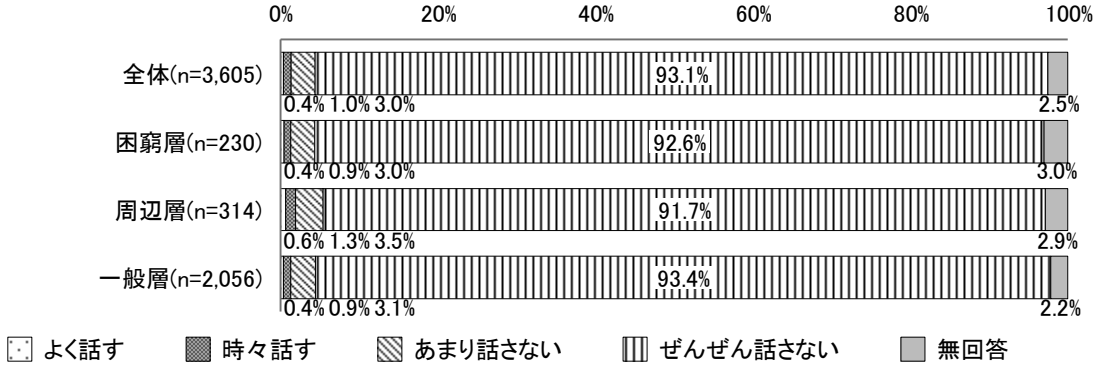
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 92.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 91.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 93.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 94.6%でもっとも割合が高く、次いで「あまり話さない」が 2.2%となっている。

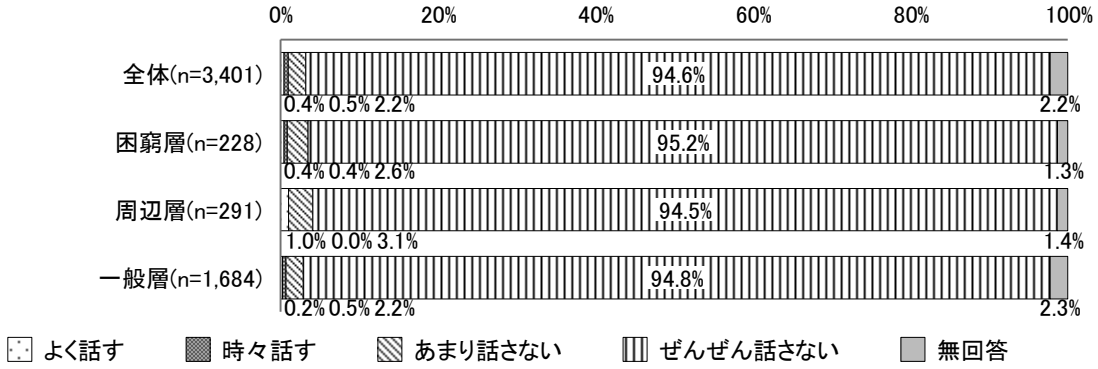
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 95.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 94.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 94.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 313　図書館の職員：単数回答（Q28J）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



12） 公民館の職員

小学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 93.4%でもっとも割合が高く、次いで「あまり話さない」が 2.4%となっている。

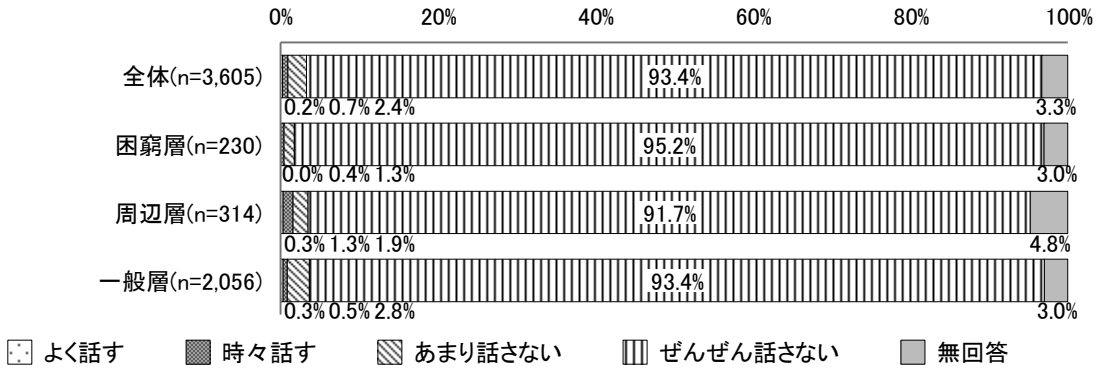
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 95.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 91.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 93.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 94.4%でもっとも割合が高く、次いで「あまり話さない」が 2.1%となっている。

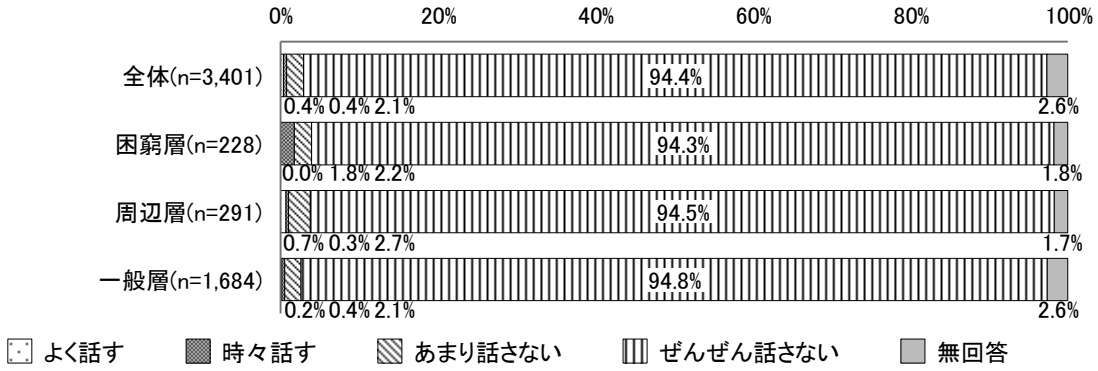
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 94.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 94.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 94.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 314　公民館の職員：単数回答（Q28K）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



13）その他の大人

小学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 65.8%でもっとも割合が高く、次いで「時々話す」が 14.3%となっている。

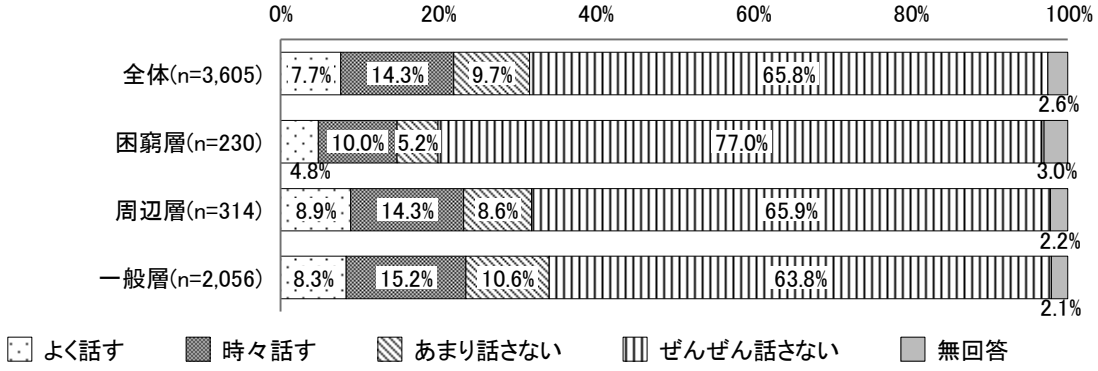
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 77.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 65.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 63.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 72.7%でもっとも割合が高く、次いで「時々話す」が 10.8%となっている。

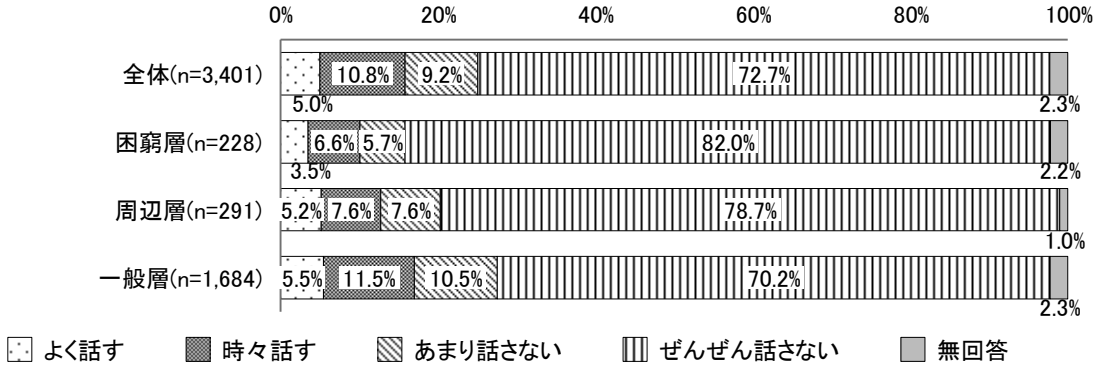
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 82.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 78.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 70.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 315　その他の大人：単数回答（Q28L）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



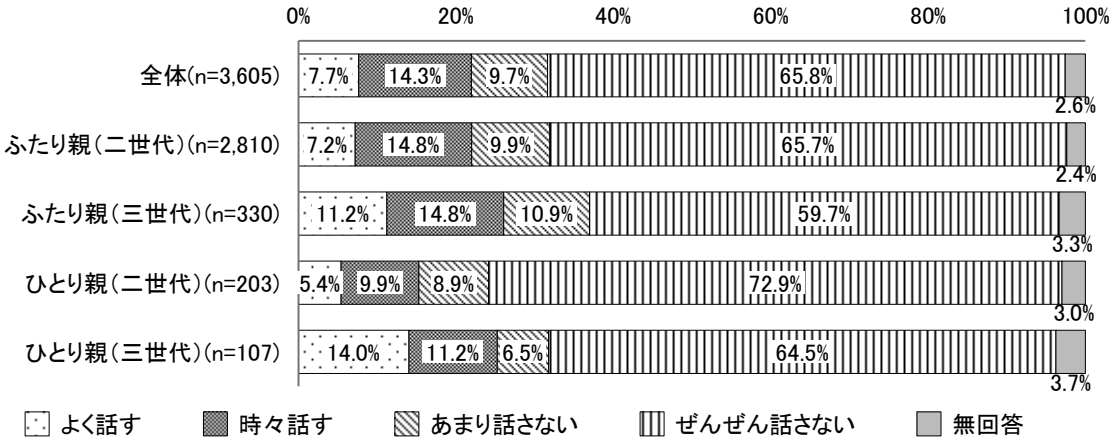
＜中学生＞（p<.01）



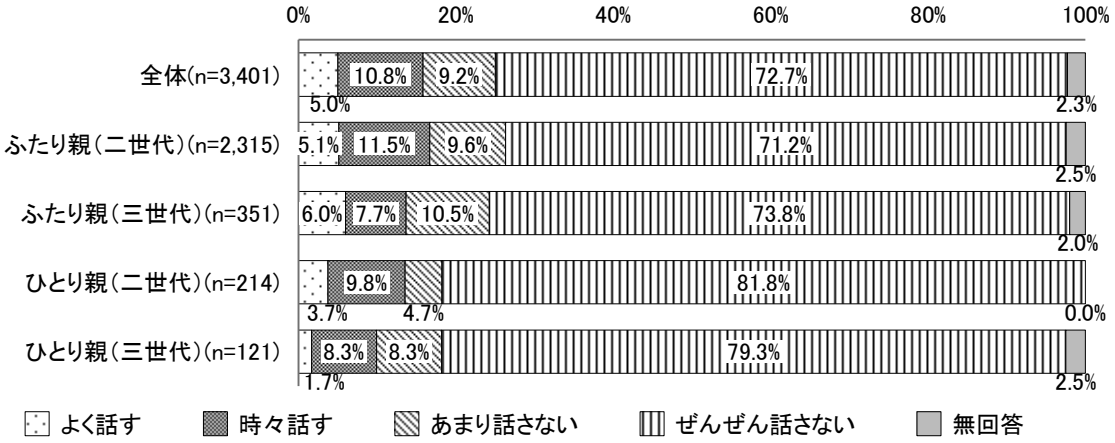
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代）」において「よく話す」とする割合が高く、「ひとり親（二世代）」において「ぜんぜん話さない」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「ぜんぜん話さない」とする割合が高くなっている。

図表 316　その他の大人：単数回答（Q28L）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.05）



14）学校の友だち

小学生の「全体」では、「よく話す」が 48.7%でもっとも割合が高く、次いで「時々話す」が 26.3%となっている。

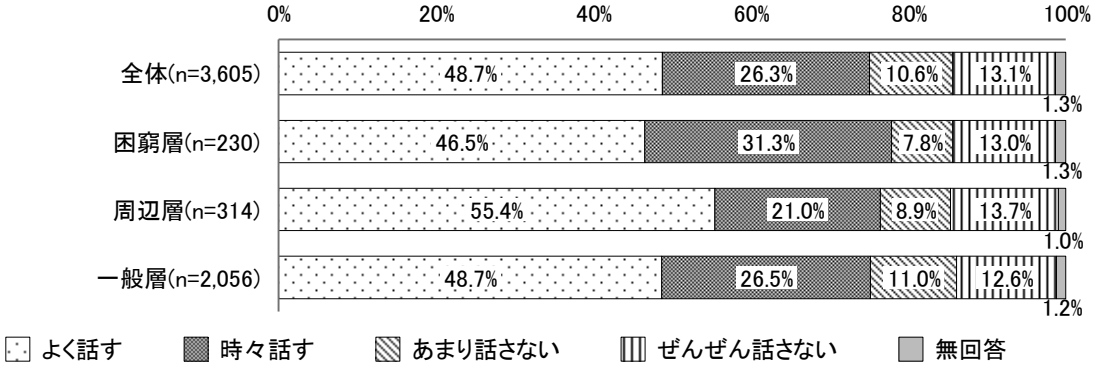
「困窮層」では、「よく話す」が 46.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「よく話す」が 55.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「よく話す」が 48.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「よく話す」が 49.0%でもっとも割合が高く、次いで「時々話す」が 27.0%となっている。

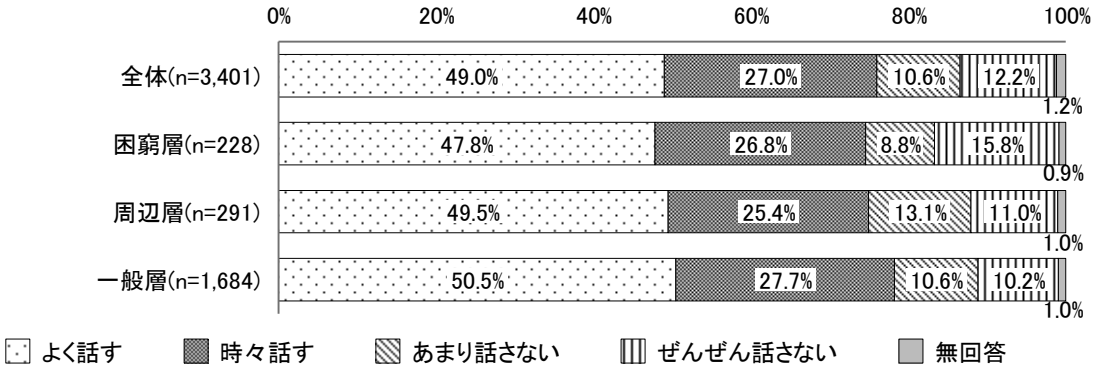
「困窮層」では、「よく話す」が 47.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「よく話す」が 49.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「よく話す」が 50.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 317　学校の友だち：単数回答（Q28M）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



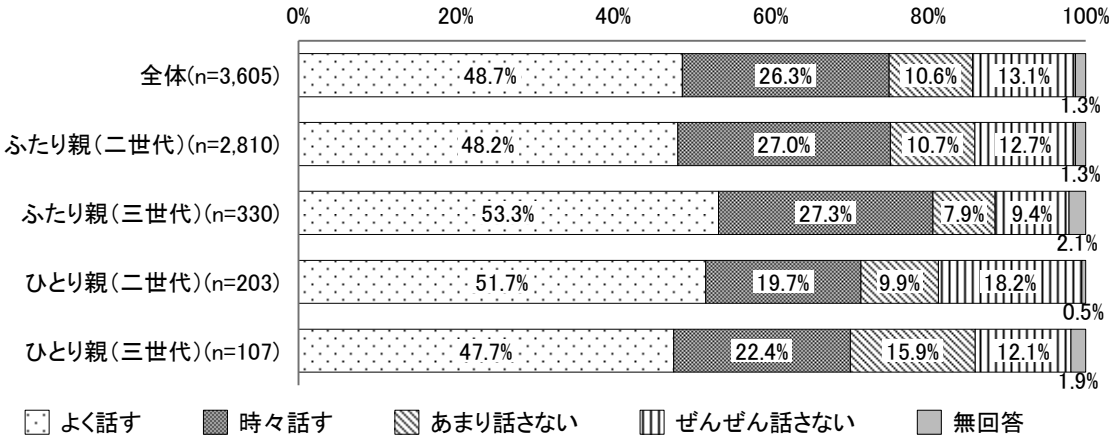
＜中学生＞（有意差なし）



世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「時々話す」とする割合が低く、「ぜんぜん話さない」とする割合が高くなっている。中学生では、有意な差がみられなかった。

図表 318　学校の友だち：単数回答（Q28M）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.05）



15）学校以外の友だち

小学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 51.2%でもっとも割合が高く、次いで「時々話す」が 17.2%となっている。

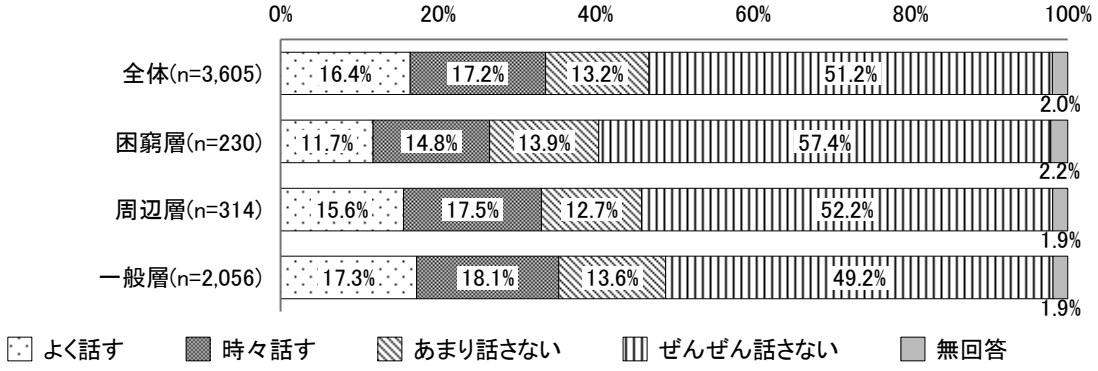
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 57.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 52.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 49.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ぜんぜん話さない」が 54.9%でもっとも割合が高く、次いで「時々話す」が 16.2%となっている。

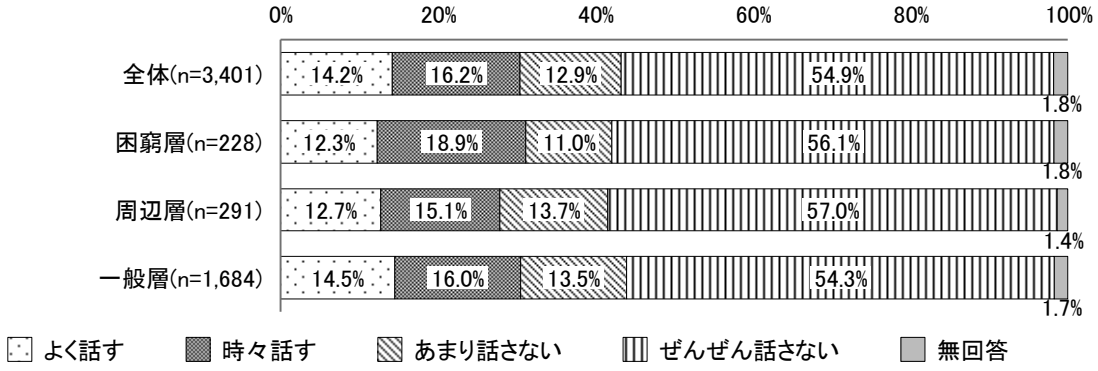
「困窮層」では、「ぜんぜん話さない」が 56.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ぜんぜん話さない」が 57.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ぜんぜん話さない」が 54.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 319　学校以外の友だち：単数回答（Q28N）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



（7）学校生活に関する悩み

1） 学校に行きたくないと思った

小学生の「全体」では、「時々あった」が 33.0%でもっとも割合が高く、次いで「なかった」が 25.2%となっている。

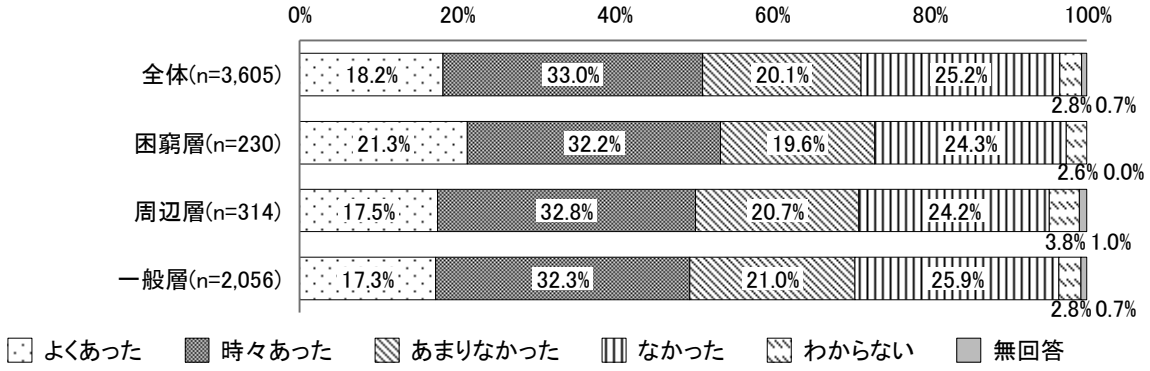
「困窮層」では、「時々あった」が 32.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「時々あった」が 32.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「時々あった」が 32.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「時々あった」が 34.5%でもっとも割合が高く、次いで「あまりなかった」が 22.1%となっている。

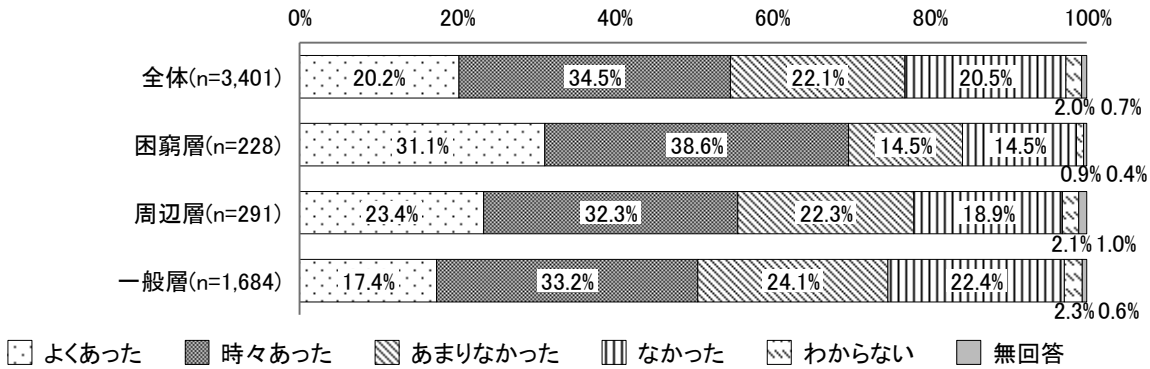
「困窮層」では、「時々あった」が 38.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「時々あった」が 32.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「時々あった」が 33.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 320 学校に行きたくないと思った：単数回答（Q29A）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



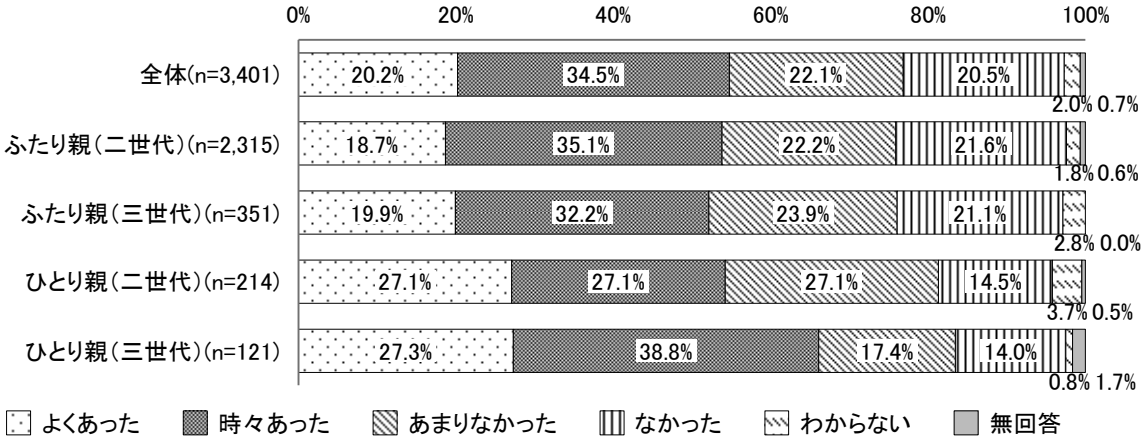
＜中学生＞（p<.01）



世帯タイプ別にみると、小学生では、有意な差がみられなかった。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「よくあった」とする割合が高くなっている。

図表 321　学校に行きたくないと思った：単数回答（Q29A）（世帯タイプ別）

＜中学生＞（p<.01）



2)　1か月以上学校を休んだ

小学生の「全体」では、「なかった」が 91.5%でもっとも割合が高く、次いで「わからない」が 3.3%となっている。

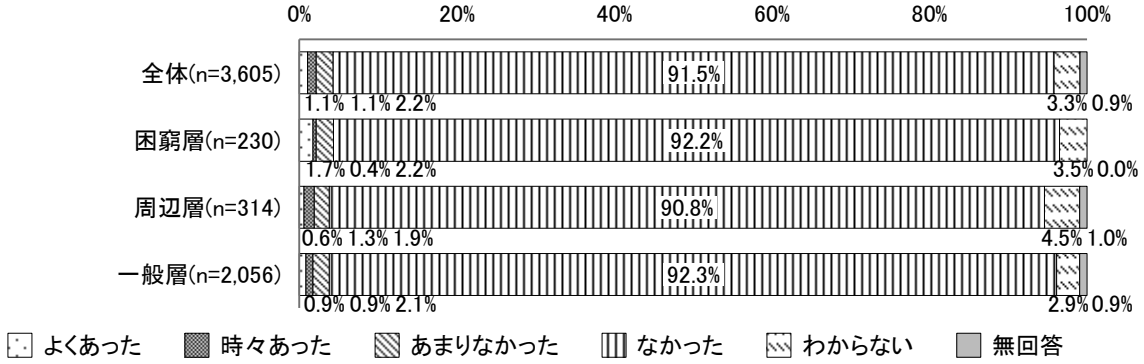
「困窮層」では、「なかった」が 92.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 90.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 92.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が 89.9%でもっとも割合が高く、次いで「よくあった」が 3.0%となっている。

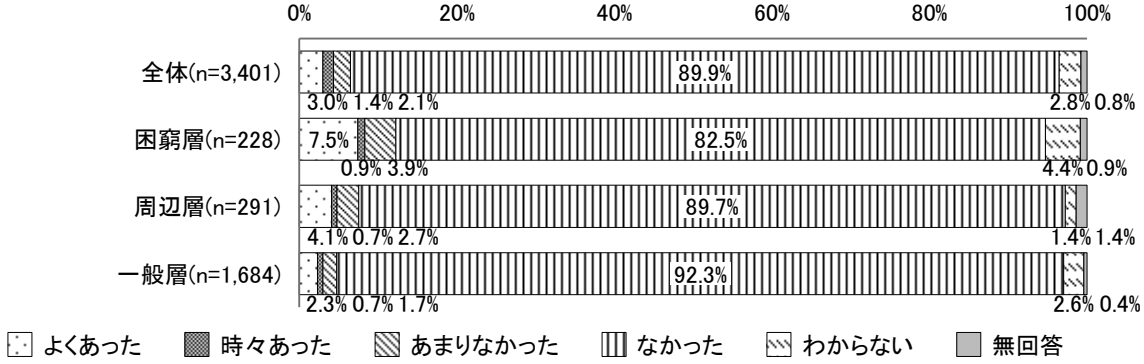
「困窮層」では、「なかった」が 82.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 89.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 92.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 322　1か月以上学校を休んだ：単数回答（Q29B）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



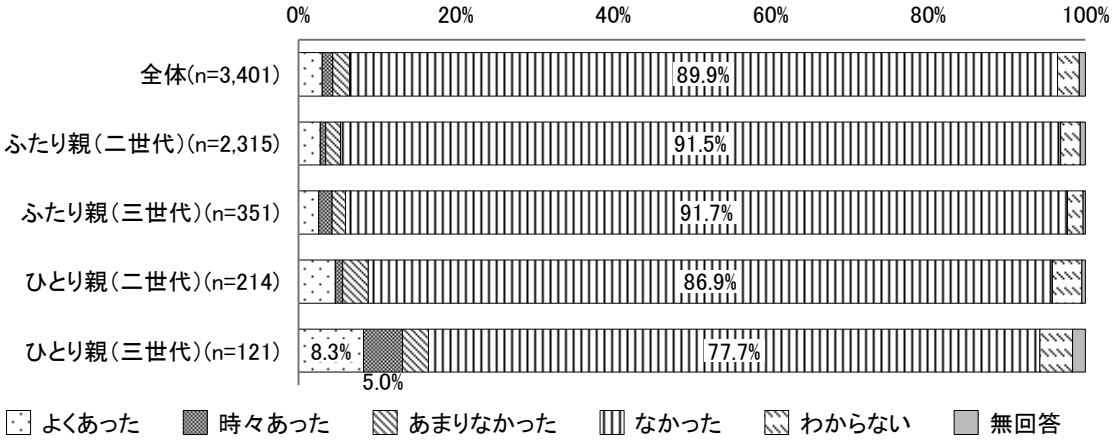
＜中学生＞（p<.01）



世帯タイプ別にみると、小学生では、有意な差がみられなかった。中学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代)」において「よくあった」とする割合が低くなっている。

図表 323　1か月以上学校を休んだ：単数回答（Q29B）（世帯タイプ別）

＜中学生＞（p<.01）



＜数値表：中学生＞

	合計	Q29B 1か月以上学校を休んだ					
		よくあった	時々あった	あまりなかった	なかった	わからない	無回答
全体	3,401	3.0	1.4	2.1	89.9	2.8	0.8
ふたり親（二世代)	2,315	2.8	0.7	1.9	91.5	2.5	0.6
ふたり親（三世代)	351	2.6	1.7	1.7	91.7	2.0	0.3
ひとり親（二世代)	214	4.7	0.9	3.3	86.9	3.7	0.5
ひとり親（三世代)	121	8.3	5.0	3.3	77.7	4.1	1.7

3) いじめられた

小学生の「全体」では、「なかった」が 59.7%でもっとも割合が高く、次いで「あまりなかった」が 15.1%となっている。

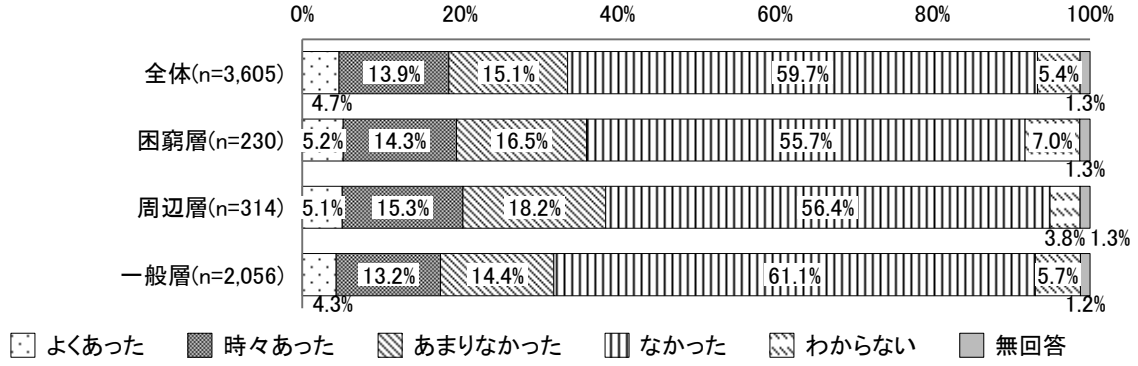
「困窮層」では、「なかった」が 55.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 56.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 61.1%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が 71.5%でもっとも割合が高く、次いで「あまりなかった」が 10.2%となっている。

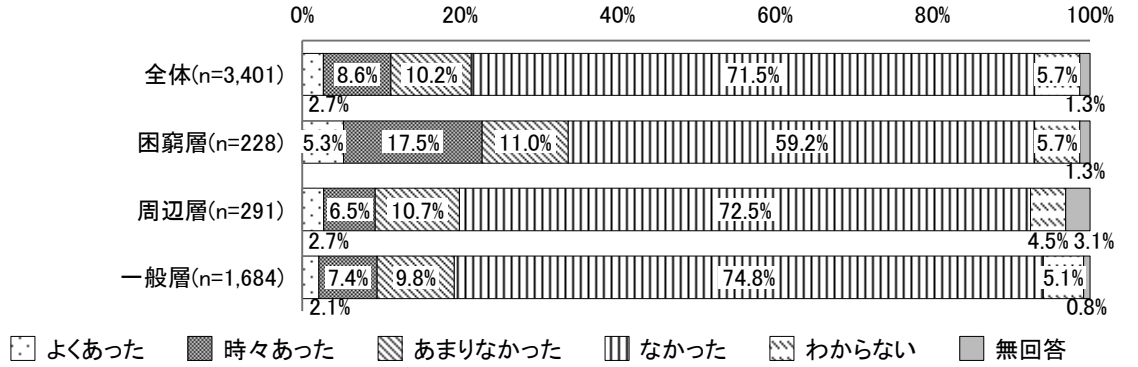
「困窮層」では、「なかった」が 59.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 72.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 74.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 324　いじめられた：単数回答（Q29C）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



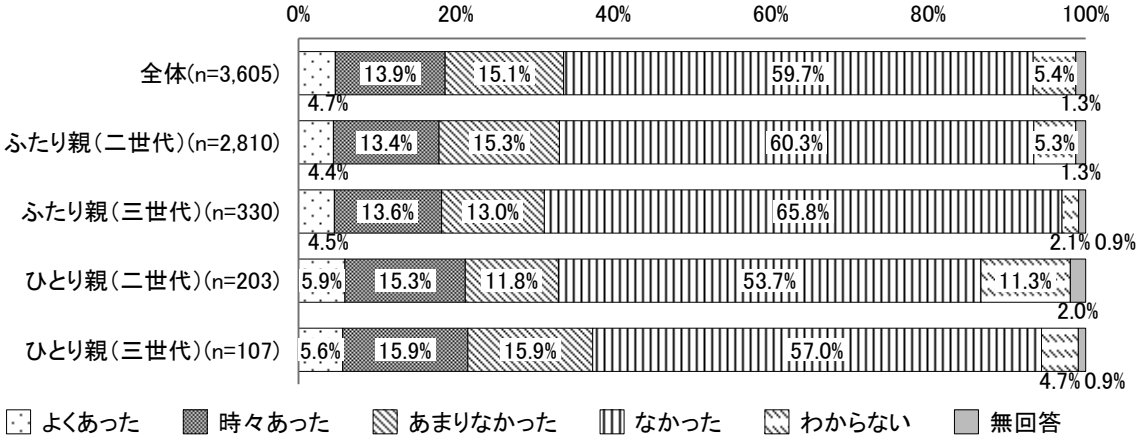
＜中学生＞（p<.01）



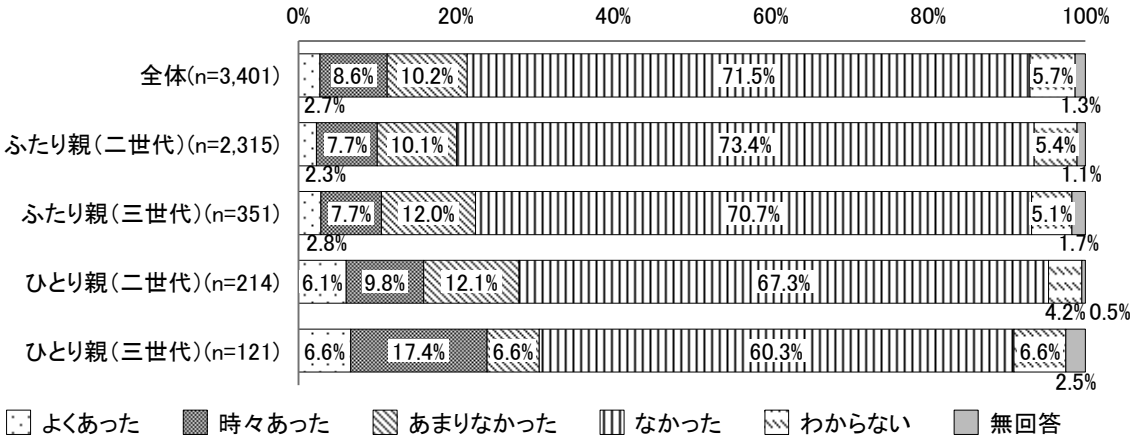
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「わからない」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代）」において「時々あった」とする割合が高くなっている。

図表 325　いじめられた：単数回答（Q29C）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



4)　夜遅くまでこどもだけで過ごした

小学生の「全体」では、「なかった」が 82.5%でもっとも割合が高く、次いで「あまりなかった」が 7.0%となっている。

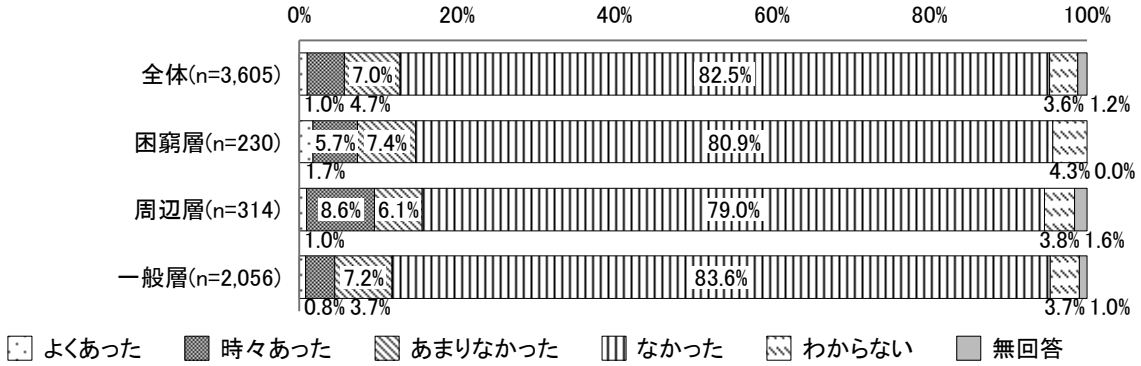
「困窮層」では、「なかった」が 80.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 79.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 83.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が 65.5%でもっとも割合が高く、次いで「あまりなかった」が 18.1%となっている。

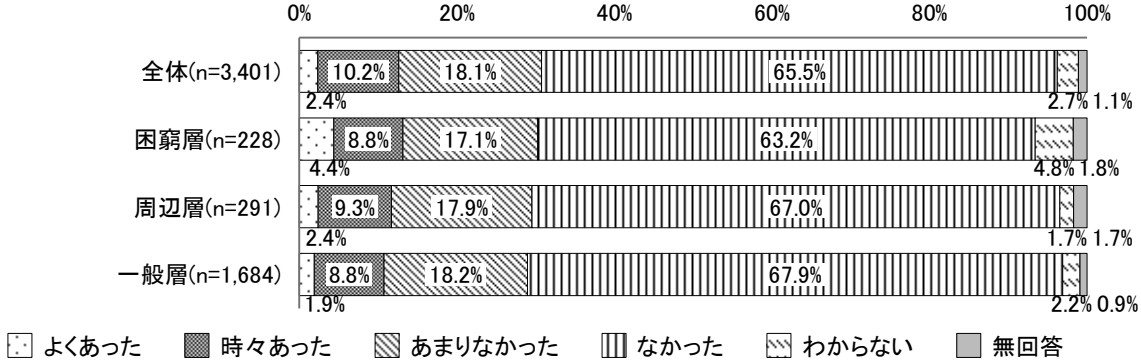
「困窮層」では、「なかった」が 63.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 67.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 67.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 326　夜遅くまでこどもだけで過ごした：単数回答（Q29D）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.05）



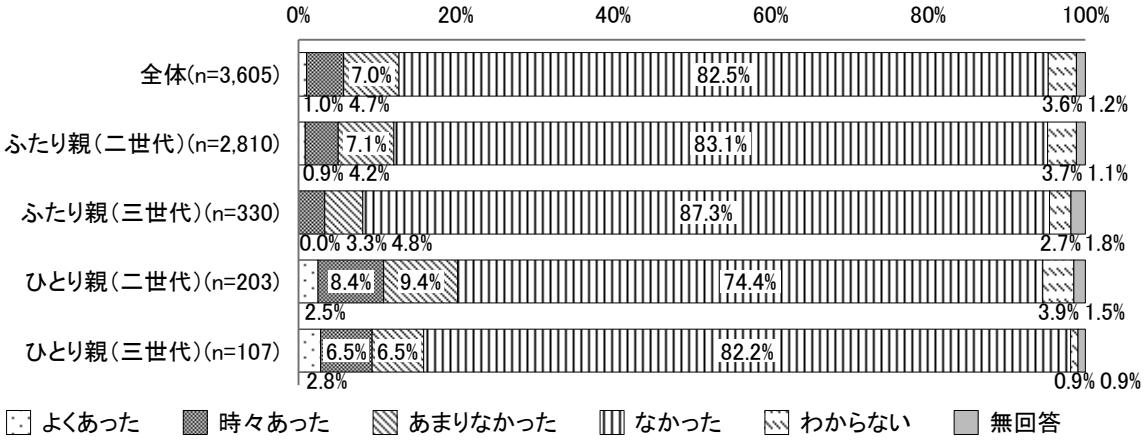
＜中学生＞（有意差なし）



世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代)」において「時々あった」とする割合が高くなっている。中学生では、有意な差がみられなかった。

図表 327　夜遅くまでこどもだけで過ごした：単数回答（Q29D）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



5)　学校に遅刻した

小学生の「全体」では、「なかった」が 62.6%でもっとも割合が高く、次いで「あまりなかった」が 17.7%となっている。

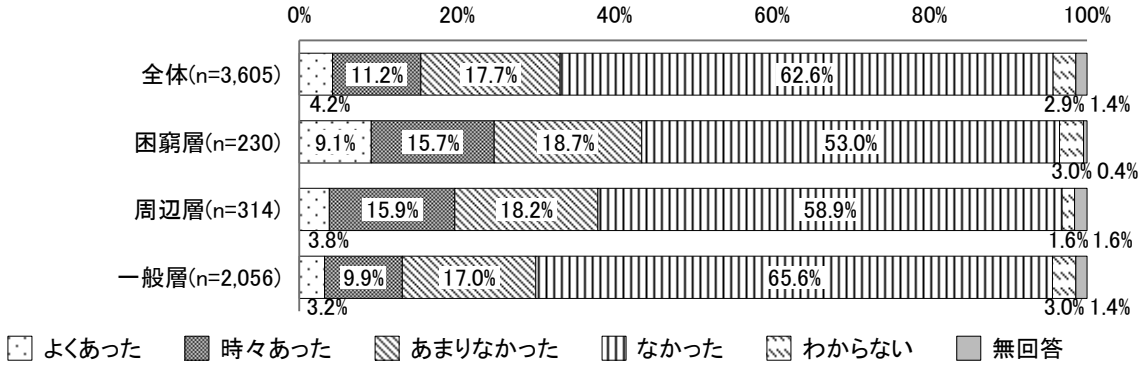
「困窮層」では、「なかった」が 53.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 58.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 65.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が 58.8%でもっとも割合が高く、次いで「あまりなかった」が 20.8%となっている。

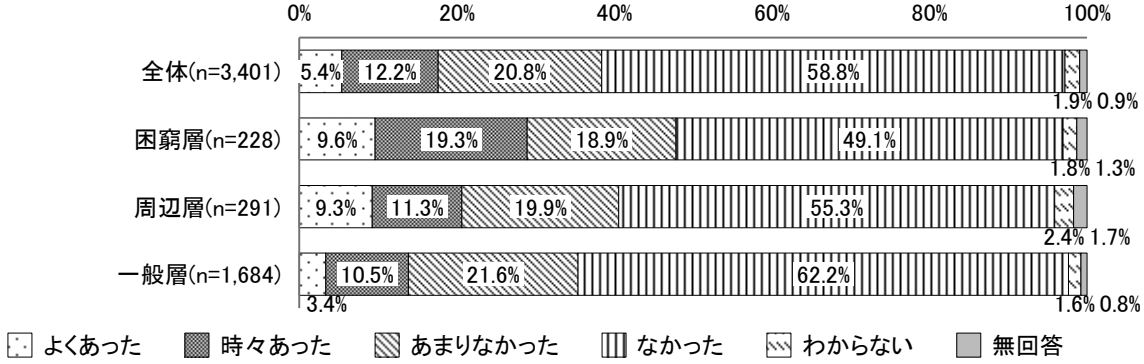
「困窮層」では、「なかった」が 49.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 55.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 62.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 328　学校に遅刻した：単数回答（Q29E）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



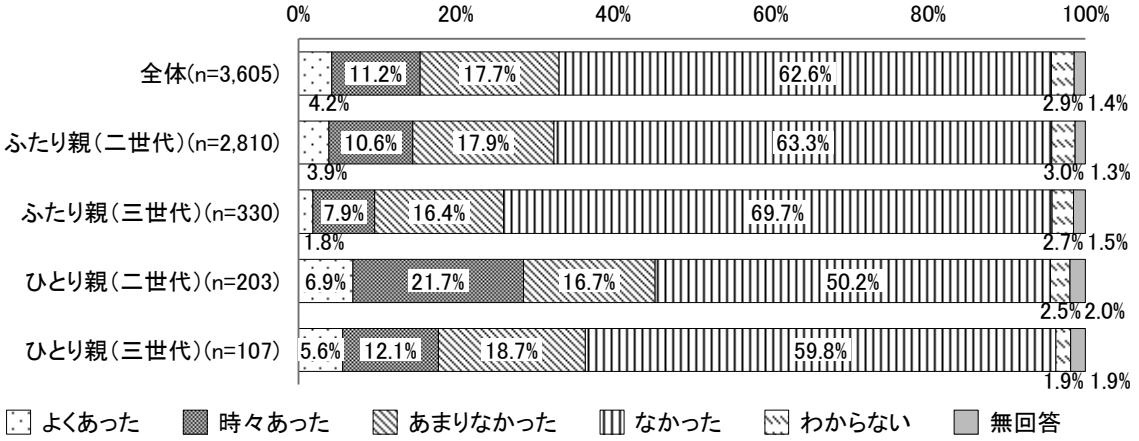
＜中学生＞（p<.01）



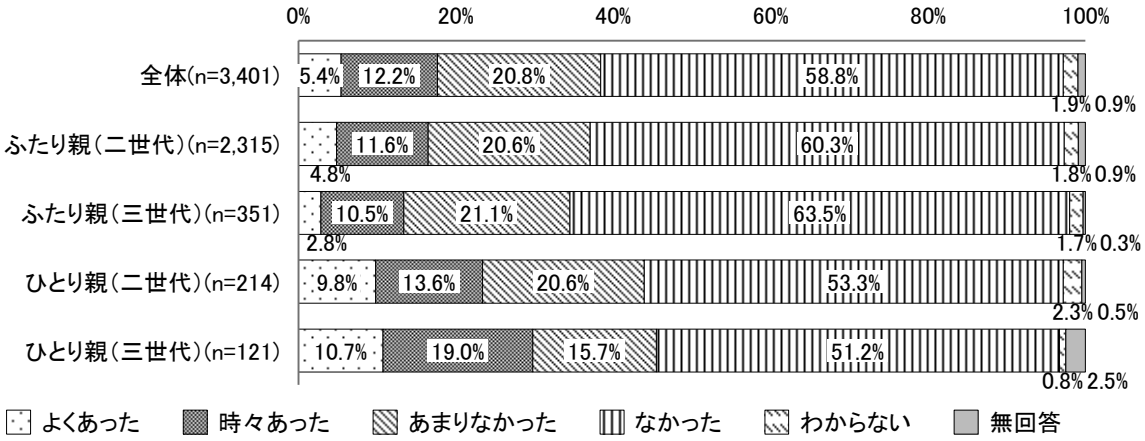
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「時々あった」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代）」において「時々あった」とする割合が高くなっている。

図表 329　学校に遅刻した：単数回答（Q29E）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



6） 家事や家族の世話で勉強する時間がとれなかった

小学生の「全体」では、「なかった」が 80.7%でもっとも割合が高く、次いで「あまりなかった」が 8.4%となっている。

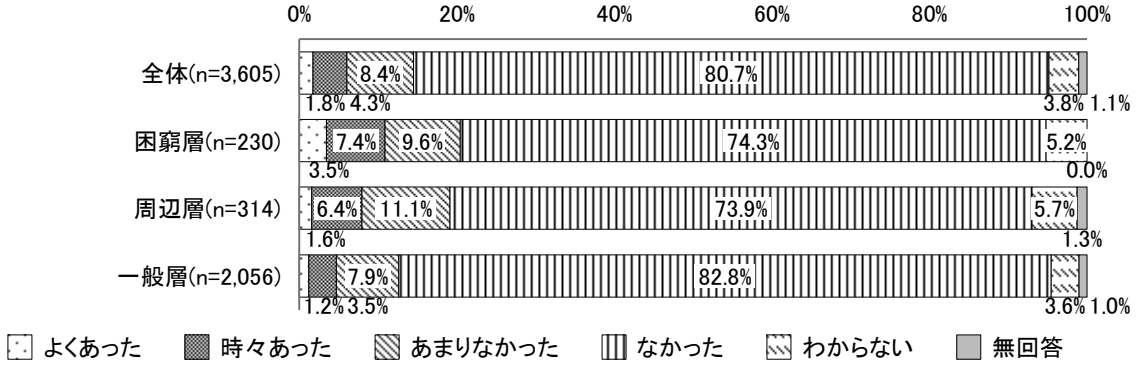
「困窮層」では、「なかった」が 74.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 73.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 82.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が 80.6%でもっとも割合が高く、次いで「あまりなかった」が 10.4%となっている。

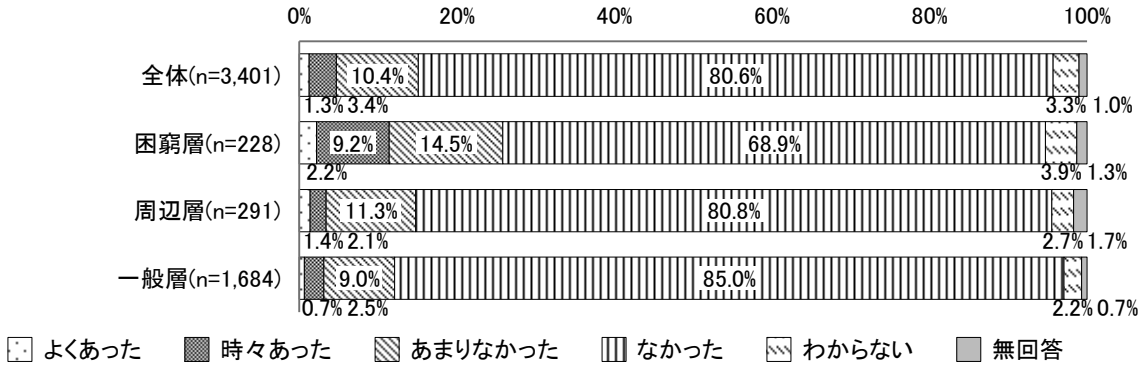
「困窮層」では、「なかった」が 68.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 80.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 85.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 330 家事や家族の世話で勉強する時間がとれなかった：単数回答（Q29F）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



7)　家事や家族の世話で遊ぶ時間がとれなかった

小学生の「全体」では、「なかった」が 78.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまりなかった」が 9.1%となっている。

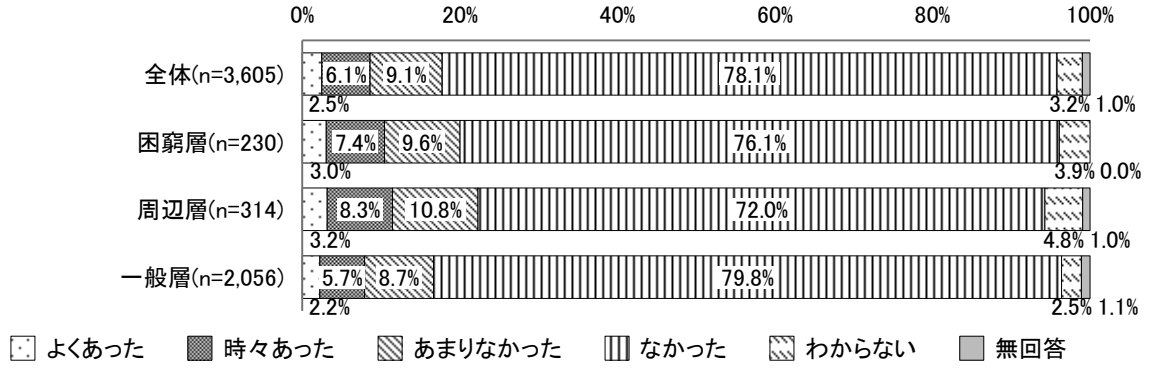
「困窮層」では、「なかった」が 76.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 72.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 79.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が 79.7%でもっとも割合が高く、次いで「あまりなかった」が 10.1%となっている。

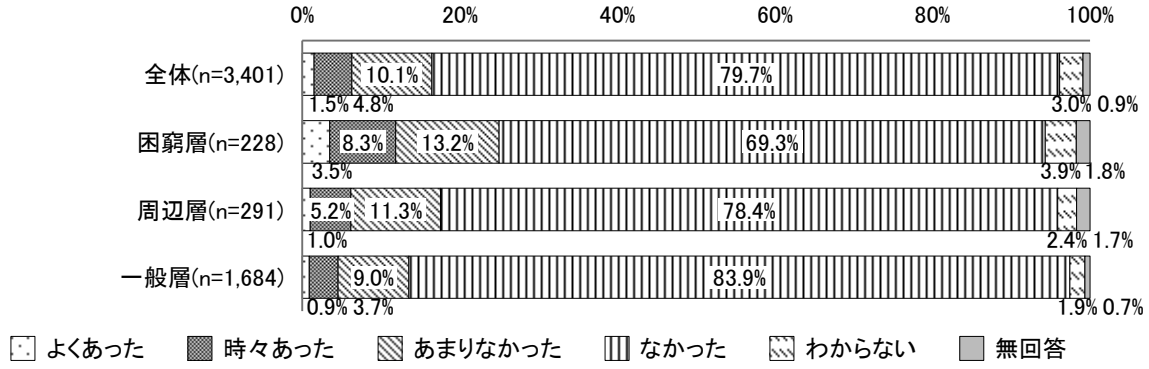
「困窮層」では、「なかった」が 69.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 78.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 83.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 331　家事や家族の世話で遊ぶ時間がとれなかった：単数回答（Q29G）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.01）



8） 学校に持っていかなければならない持ち物を用意できなかった

小学生の「全体」では、「なかった」が 45.9%でもっとも割合が高く、次いで「時々あった」が 24.8%となっている。

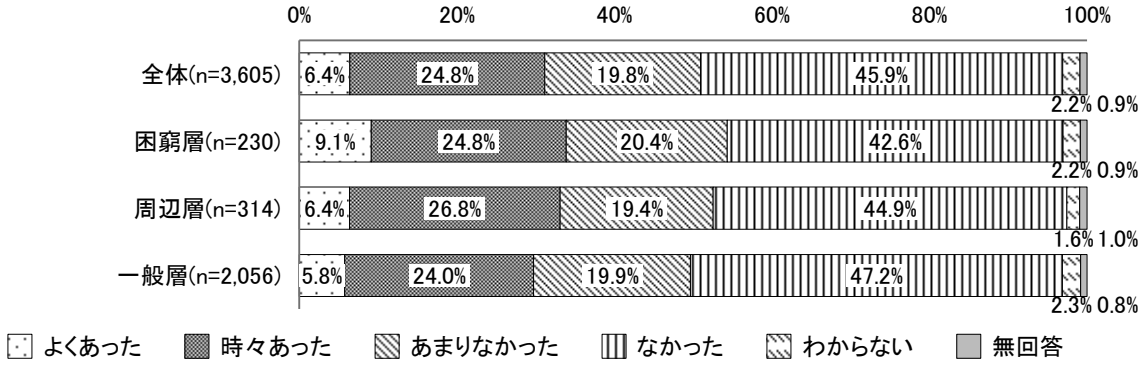
「困窮層」では、「なかった」が 42.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 44.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 47.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「なかった」が 50.0%でもっとも割合が高く、次いで「あまりなかった」が 21.7%となっている。

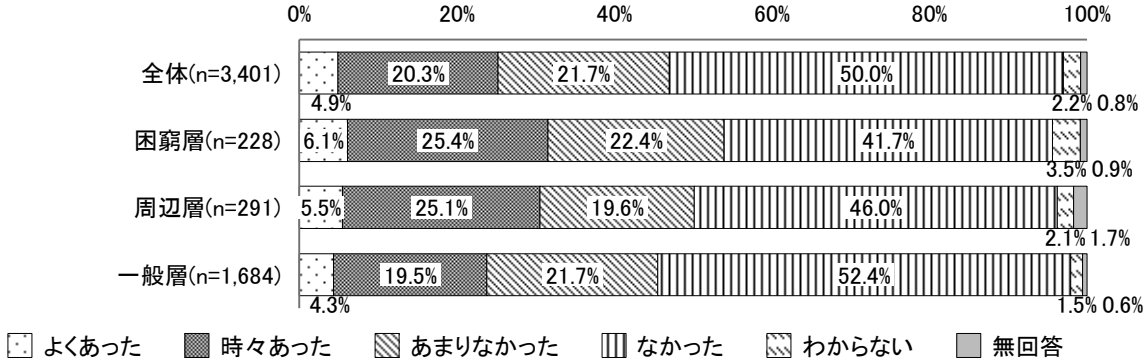
「困窮層」では、「なかった」が 41.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「なかった」が 46.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「なかった」が 52.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 332　学校に持っていかなければならない持ち物を用意できなかった：単数回答（Q29H）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



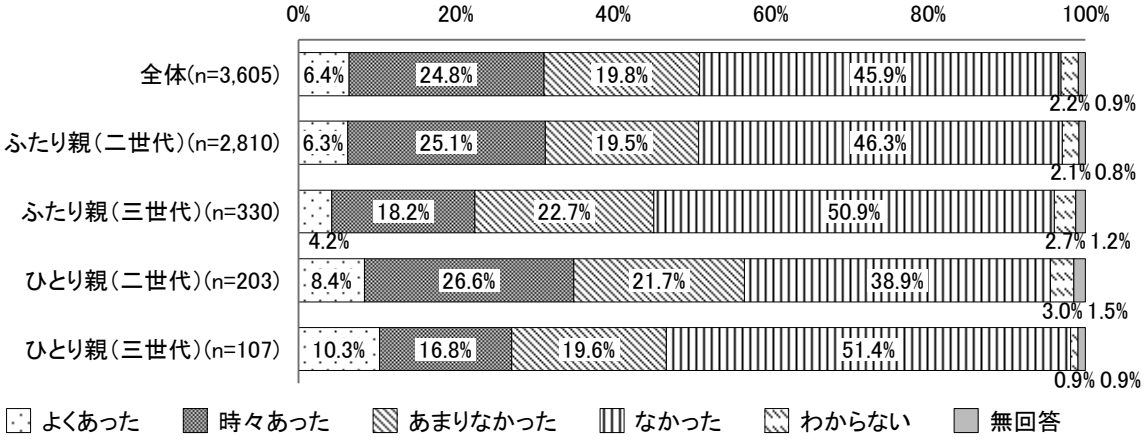
＜中学生＞（p<.05）



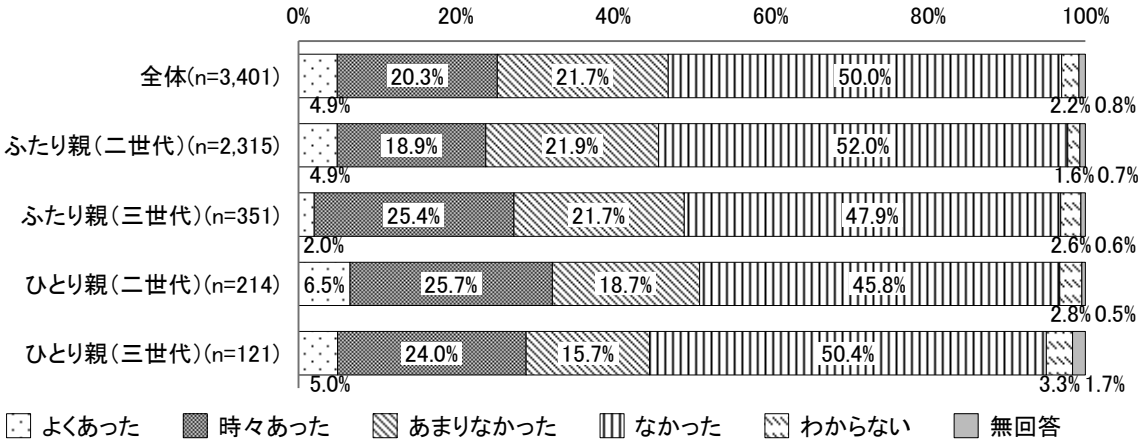
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ふたり親（三世代）」「ひとり親（三世代）」において「なかった」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「なかった」とする割合が低くなっている。

図表 333　学校に持っていかなければならない持ち物を用意できなかった：単数回答（Q29H）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（p<.01）



（8）健康状態について

1） 自分の健康状態

小学生の「全体」では、「よい」が 50.8%でもっとも割合が高く、次いで「ふつう」が 21.5%となっている。

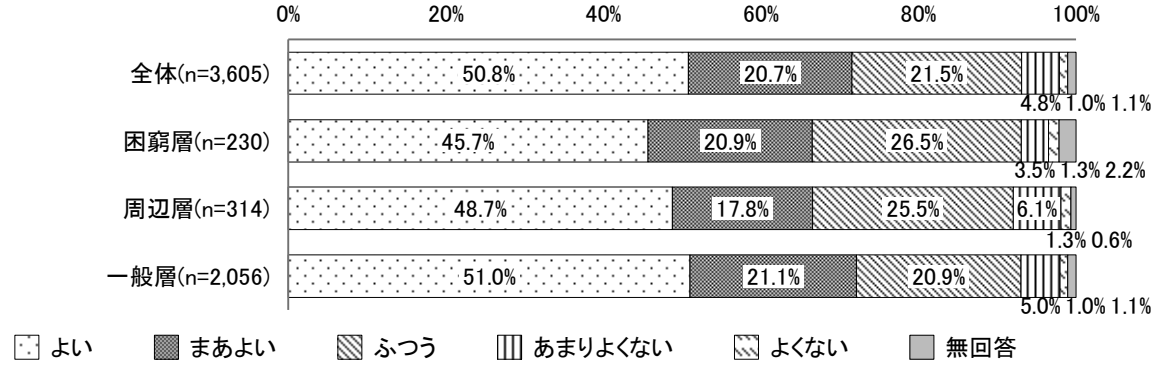
「困窮層」では、「よい」が 45.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「よい」が 48.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「よい」が 51.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「よい」が 41.2%でもっとも割合が高く、次いで「ふつう」が 25.8%となっている。

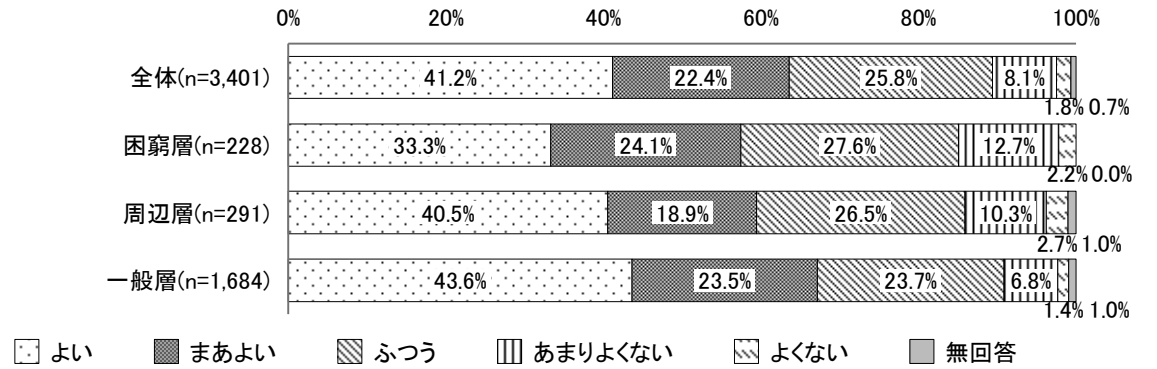
「困窮層」では、「よい」が 33.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「よい」が 40.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「よい」が 43.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 334　自分の健康状態：単数回答（Q30）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



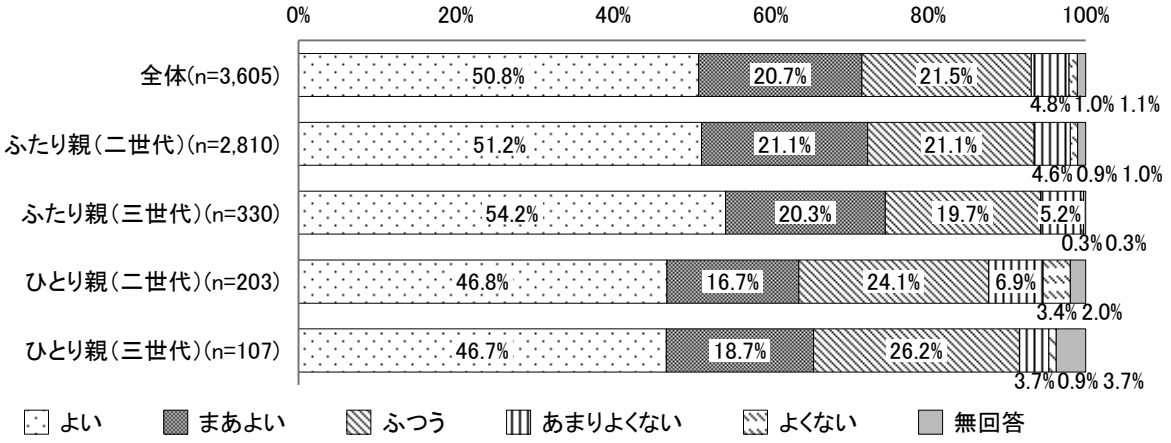
＜中学生＞（p<.01）



世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「よい」とする割合が低くなっている。中学生では、有意な差はみられなかった。

図表 335　自分の健康状態：単数回答（Q30）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.05）



2)　自分の体で気になること

小学生の「全体」では、「とくに気になることはない」が 42.8%でもっとも割合が高く、次いで「よくかゆくなる」が 22.3%となっている。

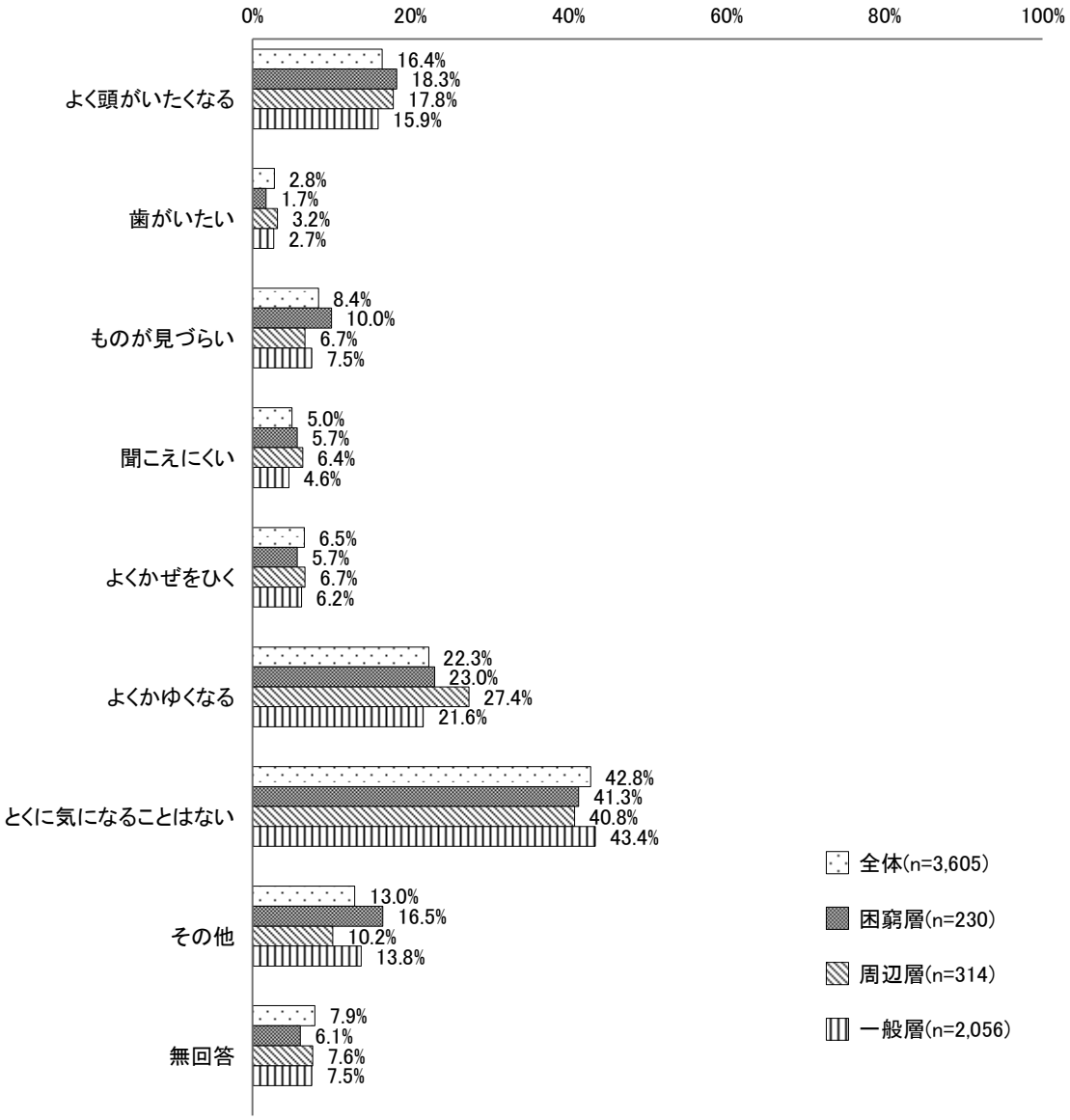
「困窮層」では、「とくに気になることはない」が 41.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とくに気になることはない」が 40.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とくに気になることはない」が 43.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「とくに気になることはない」が 42.3%でもっとも割合が高く、次いで「よく頭がいたくなる」が 24.0%となっている。

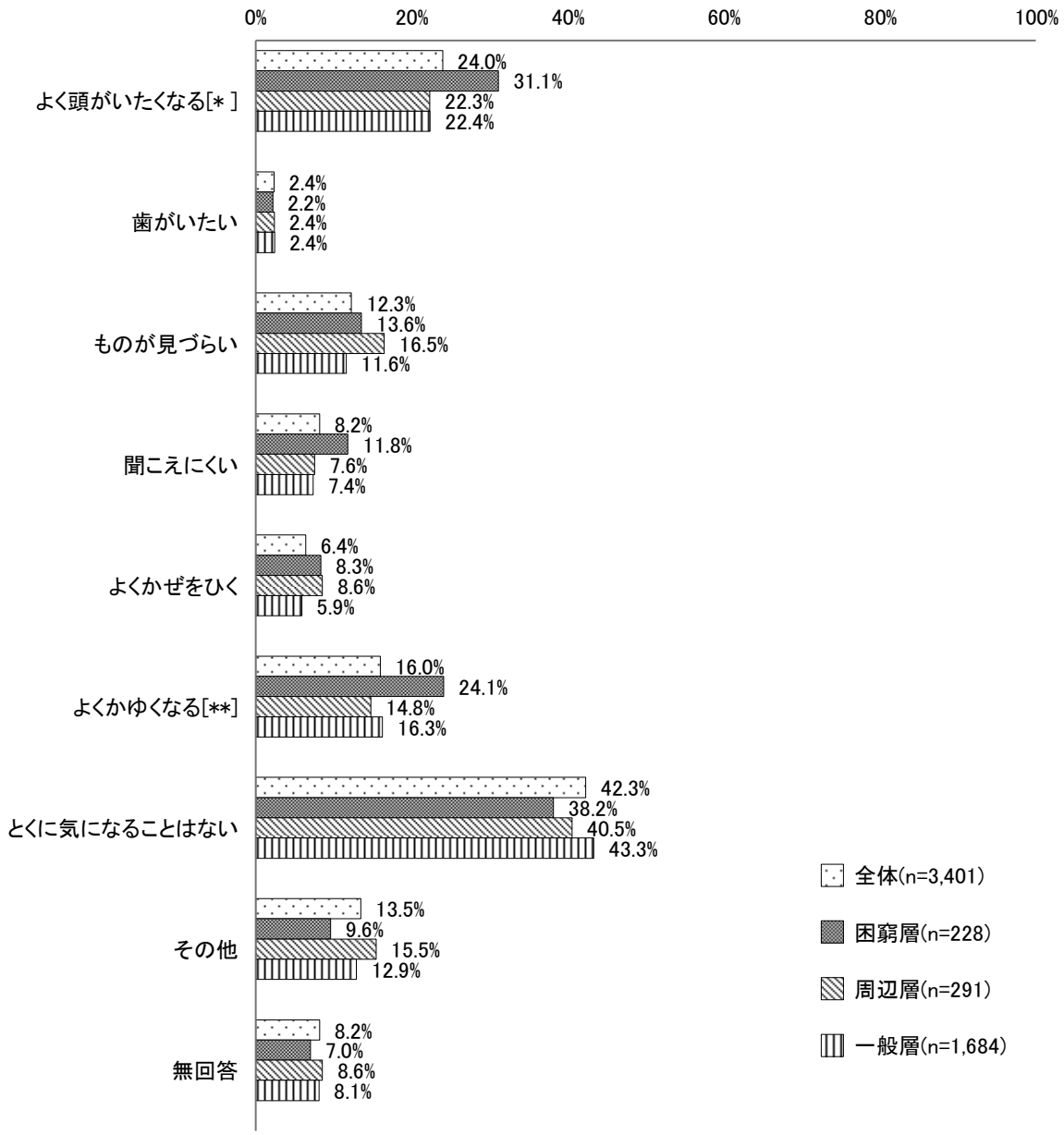
「困窮層」では、「とくに気になることはない」が 38.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とくに気になることはない」が 40.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とくに気になることはない」が 43.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 336　自分の体で気になること：複数回答（Q31）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
よく頭がいたくなる[＊]
24.0%
31.1%
22.3%
22.4%
歯がいたい
2.4%
2.2%
2.4%
2.4%
ものが見づらい
12.3%
13.6%
16.5%
11.6%
聞こえにくい
8.2%
11.8%
7.6%
7.4%
よくかぜをひく
6.4%
8.3%
8.6%
5.9%
よくかゆくなる[**]
16.0%
24.1%
14.8%
16.3%
とくに気になることはない
42.3%
38.2%
40.5%
43.3%
その他
13.5%
9.6%
15.5%
12.9%
無回答
8.2%
7.0%
8.6%
8.1%
全体(n=3,401)
困窮層(n=228)
周辺層(n=291)
一般層(n=1,684)

3)　楽しみにしていることがたくさんある

小学生の「全体」では、「いつもそうだ」が 50.6%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 45.5%となっている。

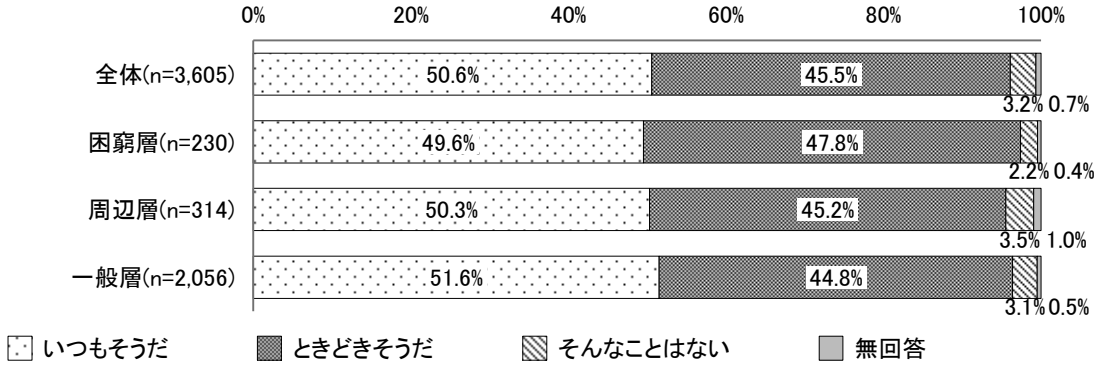
「困窮層」では、「いつもそうだ」が 49.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いつもそうだ」が 50.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いつもそうだ」が 51.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ときどきそうだ」が 48.0%でもっとも割合が高く、次いで「いつもそうだ」が 45.0%となっている。

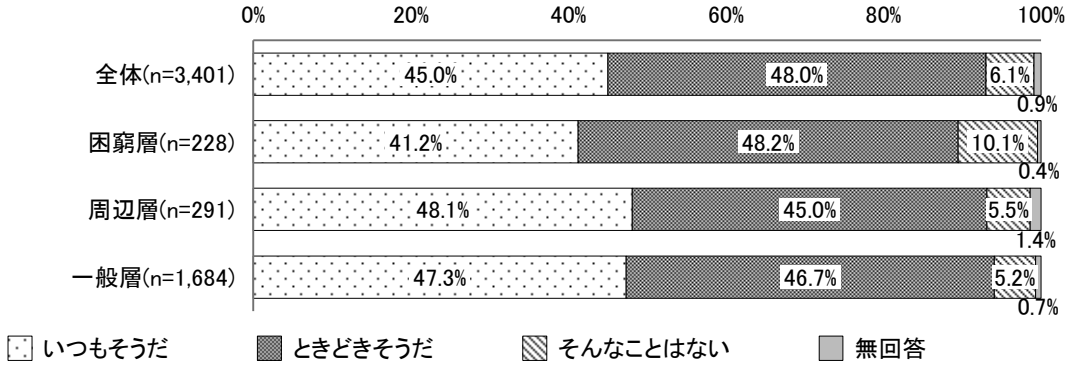
「困窮層」では、「ときどきそうだ」が 48.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いつもそうだ」が 48.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いつもそうだ」が 47.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 337　楽しみにしていることがたくさんある：単数回答（Q32A）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.05）



4) とてもよく眠れる

小学生の「全体」では、「いつもそうだ」が 56.5%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 34.9%となっている。

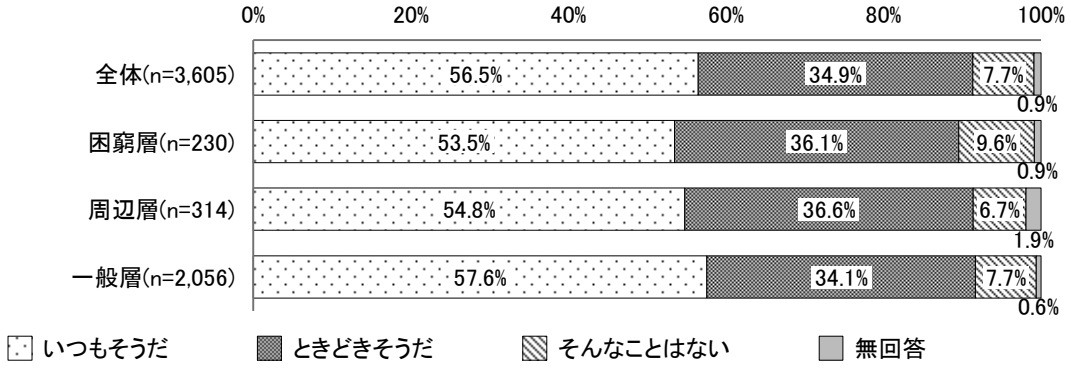
「困窮層」では、「いつもそうだ」が 53.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いつもそうだ」が 54.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いつもそうだ」が 57.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「いつもそうだ」が 43.9%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 41.4%となっている。

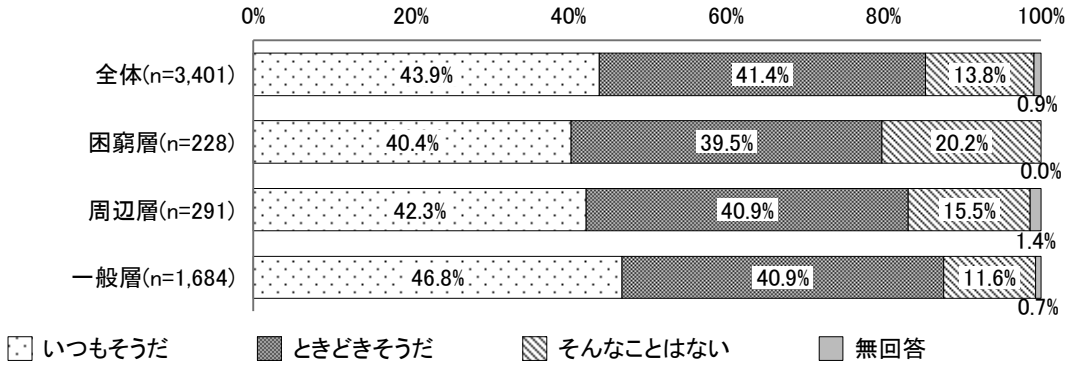
「困窮層」では、「いつもそうだ」が 40.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いつもそうだ」が 42.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いつもそうだ」が 46.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 338　とてもよく眠れる：単数回答（Q32B）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.01）



5)　泣きたいような気がする

小学生の「全体」では、「そんなことはない」が 52.7%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 39.8%となっている。

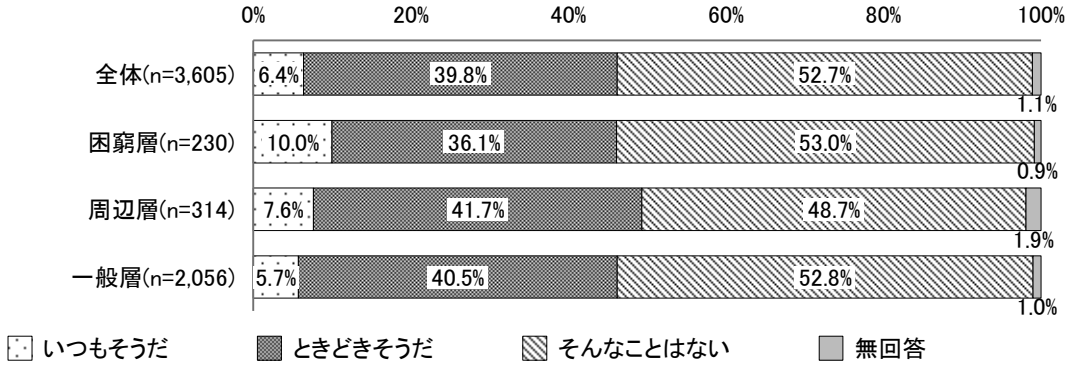
「困窮層」では、「そんなことはない」が 53.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「そんなことはない」が 48.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「そんなことはない」が 52.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「そんなことはない」が 54.3%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 36.4%となっている。

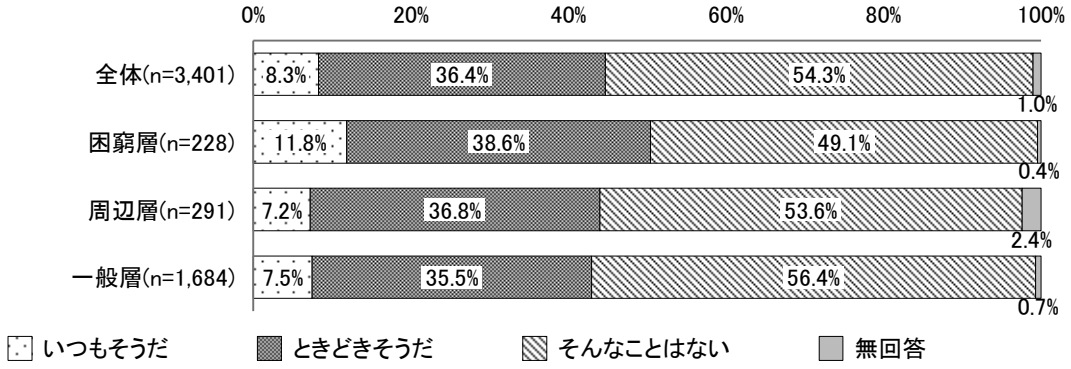
「困窮層」では、「そんなことはない」が 49.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「そんなことはない」が 53.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「そんなことはない」が 56.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 339　泣きたいような気がする：単数回答（Q32C）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



6) 遊びに出かけるのが好きだ

小学生の「全体」では、「いつもそうだ」が 64.5%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 25.7%となっている。

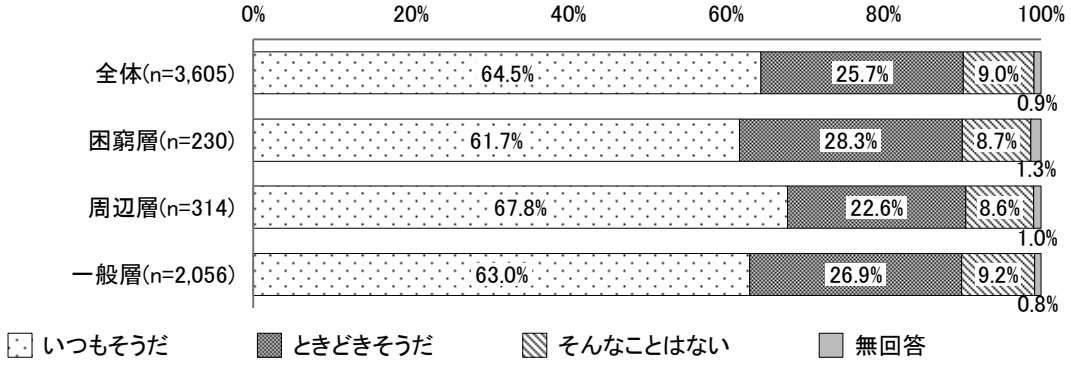
「困窮層」では、「いつもそうだ」が 61.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いつもそうだ」が 67.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いつもそうだ」が 63.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「いつもそうだ」が 54.8%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 28.8%となっている。

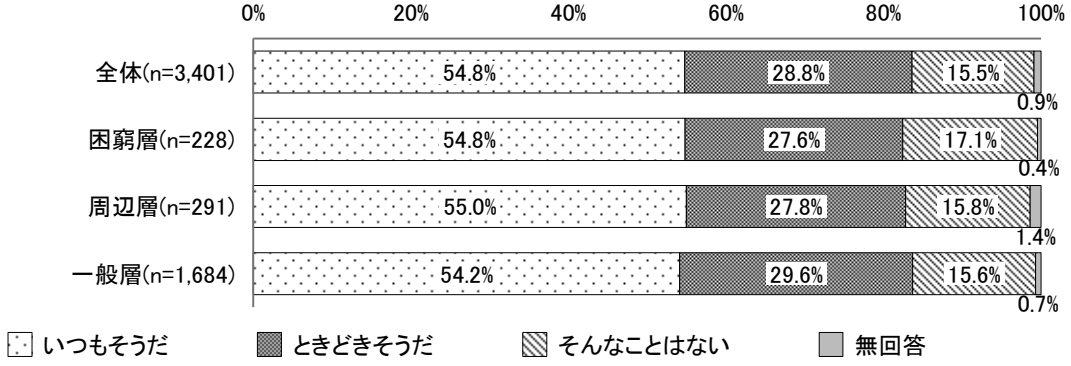
「困窮層」では、「いつもそうだ」が 54.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いつもそうだ」が 55.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いつもそうだ」が 54.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 340　遊びに出かけるのが好きだ：単数回答（Q32D）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



7)　逃げ出したいような気がする

小学生の「全体」では、「そんなことはない」が 68.0%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 25.0%となっている。

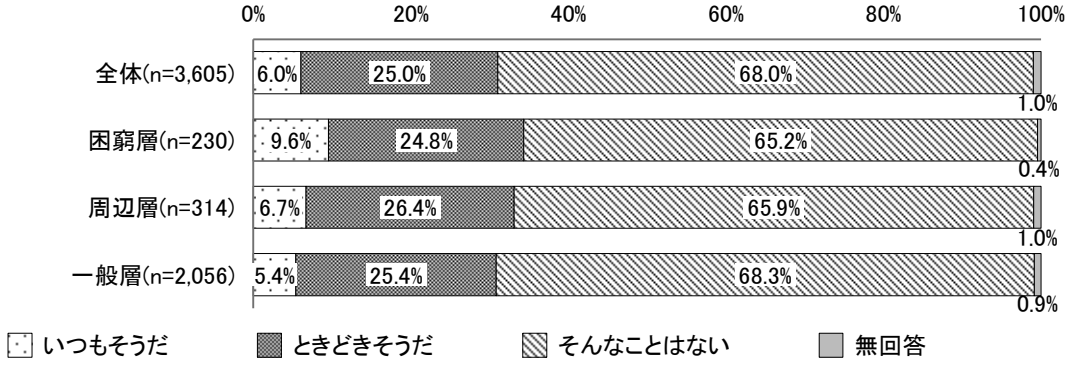
「困窮層」では、「そんなことはない」が 65.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「そんなことはない」が 65.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「そんなことはない」が 68.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「そんなことはない」が 54.9%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 32.4%となっている。

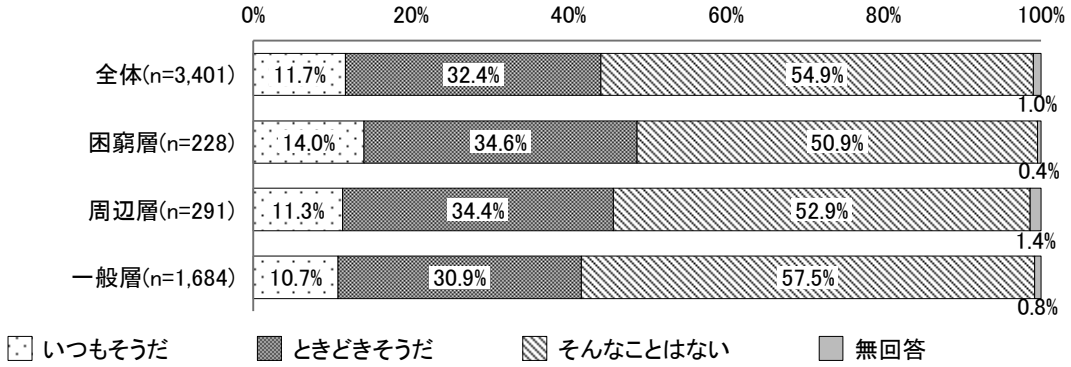
「困窮層」では、「そんなことはない」が 50.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「そんなことはない」が 52.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「そんなことはない」が 57.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 341　逃げ出したいような気がする：単数回答（Q32E）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



8） おなかが痛くなることがある

小学生の「全体」では、「ときどきそうだ」が 48.6%でもっとも割合が高く、次いで「そんなことはない」が 42.4%となっている。

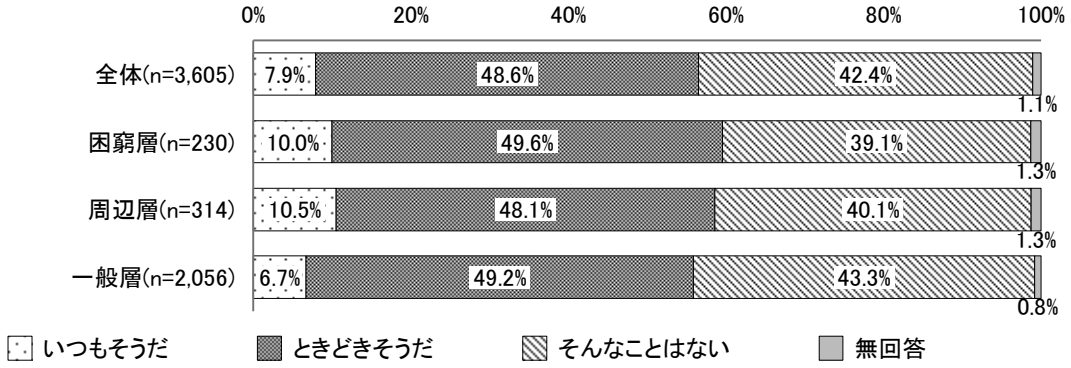
「困窮層」では、「ときどきそうだ」が 49.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ときどきそうだ」が 48.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ときどきそうだ」が 49.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ときどきそうだ」が 46.5%でもっとも割合が高く、次いで「そんなことはない」が 40.5%となっている。

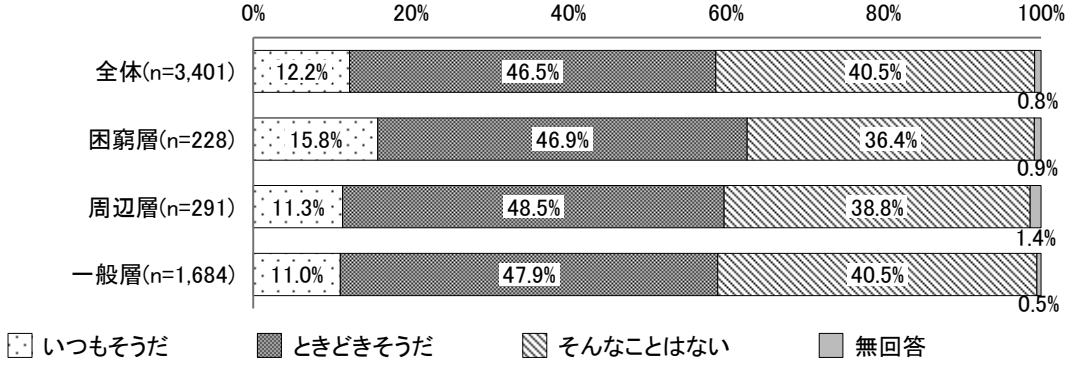
「困窮層」では、「ときどきそうだ」が 46.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ときどきそうだ」が 48.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ときどきそうだ」が 47.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 342　おなかが痛くなることがある：単数回答（Q32F）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



9)　元気いっぱいだ

小学生の「全体」では、「いつもそうだ」が 72.4%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 22.2%となっている。

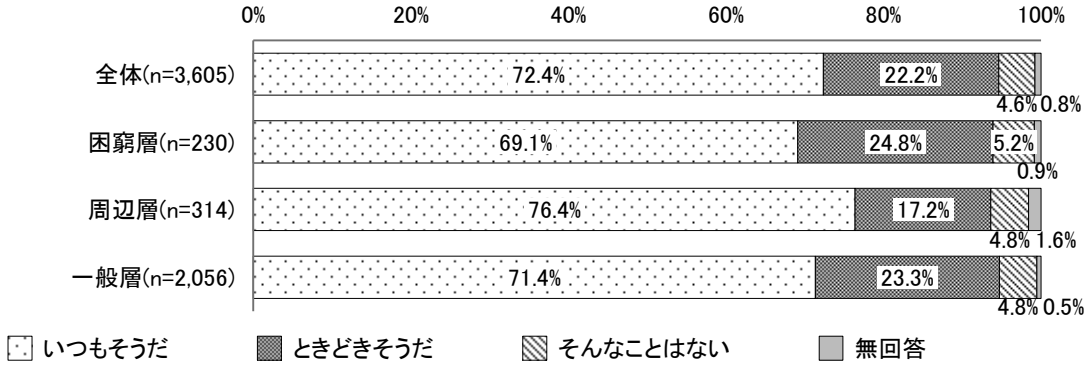
「困窮層」では、「いつもそうだ」が 69.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いつもそうだ」が 76.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いつもそうだ」が 71.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「いつもそうだ」が 53.5%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 34.6%となっている。

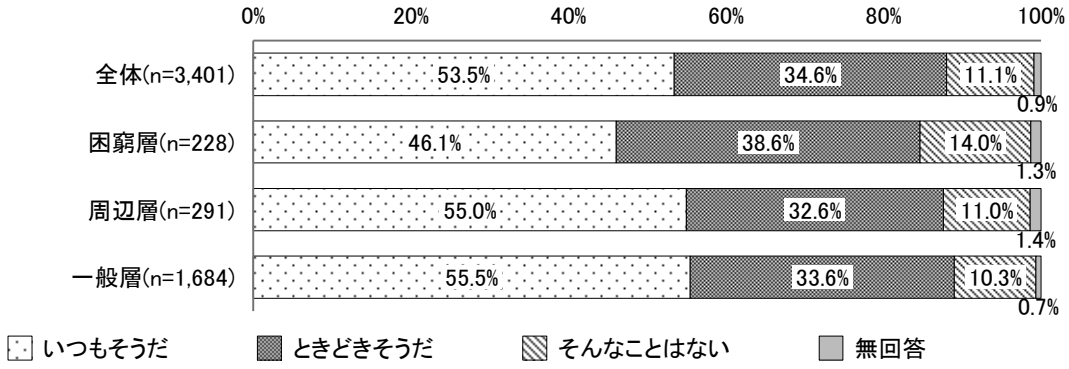
「困窮層」では、「いつもそうだ」が 46.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いつもそうだ」が 55.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いつもそうだ」が 55.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 343　元気いっぱいだ：単数回答（Q32G）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



10）食事が楽しい

小学生の「全体」では、「いつもそうだ」が 74.1%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 20.6%となっている。

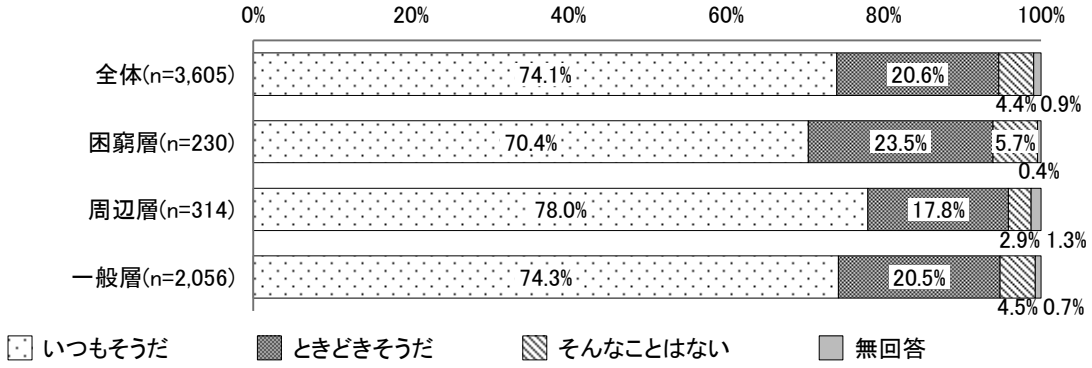
「困窮層」では、「いつもそうだ」が 70.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いつもそうだ」が 78.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いつもそうだ」が 74.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「いつもそうだ」が 63.2%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 27.9%となっている。

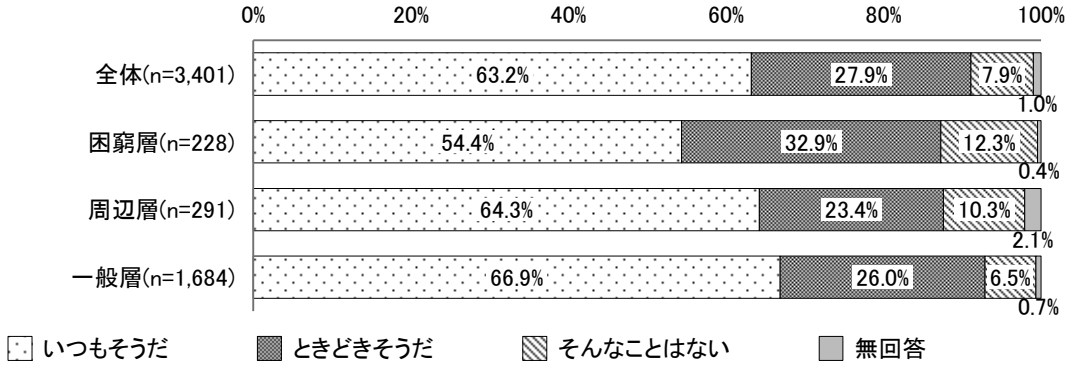
「困窮層」では、「いつもそうだ」が 54.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いつもそうだ」が 64.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いつもそうだ」が 66.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 344　食事が楽しい：単数回答（Q32H）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.01）



11）いじめられても自分で「やめて」と言える

小学生の「全体」では、「いつもそうだ」が 51.3%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 25.7%となっている。

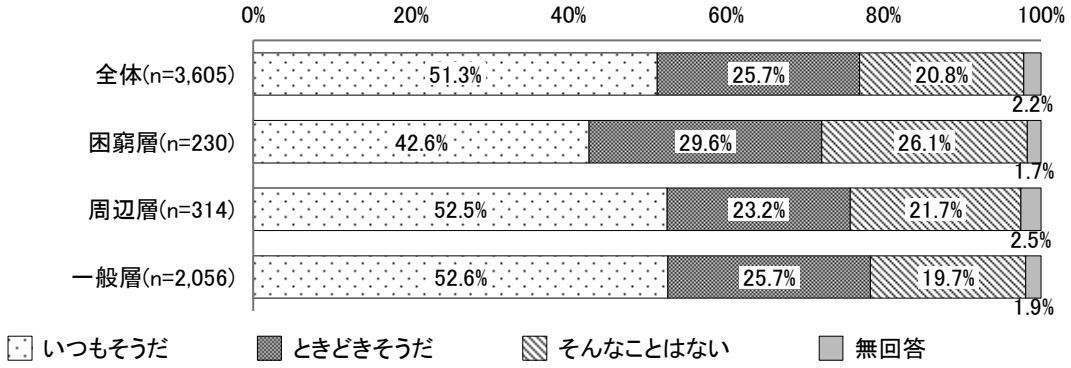
「困窮層」では、「いつもそうだ」が 42.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いつもそうだ」が 52.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いつもそうだ」が 52.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「いつもそうだ」が 47.5%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 25.7%となっている。

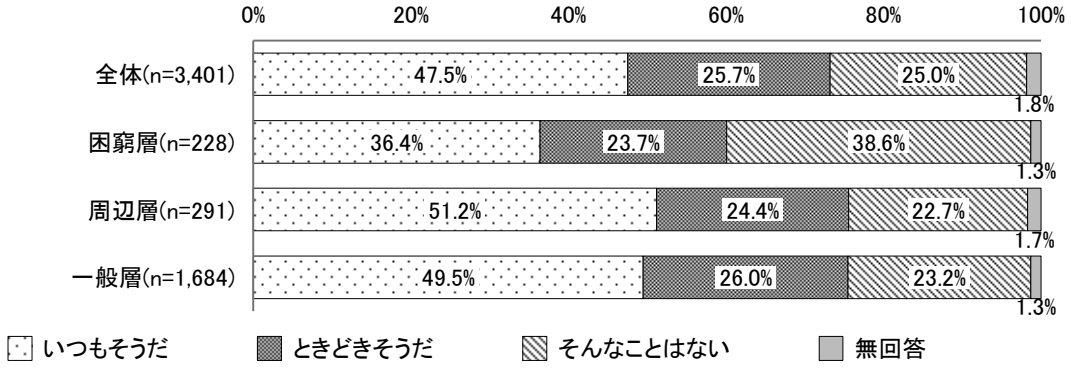
「困窮層」では、「そんなことはない」が 38.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いつもそうだ」が 51.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いつもそうだ」が 49.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 345　いじめられても自分で「やめて」と言える：単数回答（Q32I）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（p<.01）



12）生きていても仕方がないと思う

小学生の「全体」では、「そんなことはない」が 74.6%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 15.6%となっている。

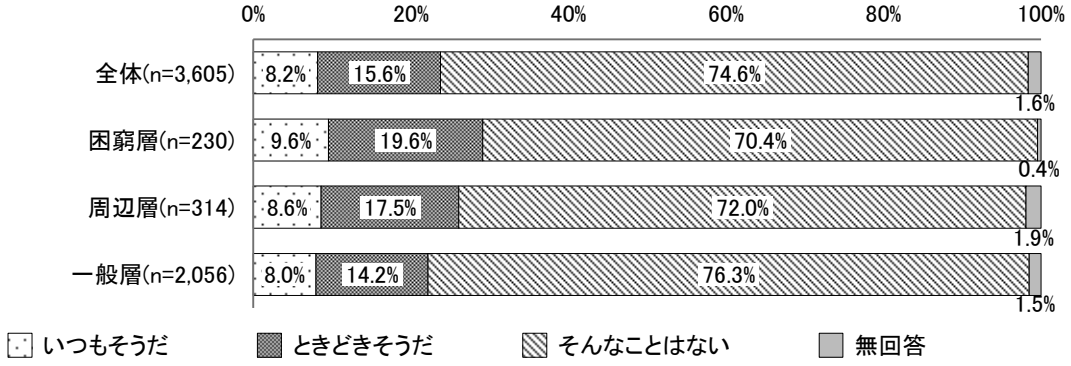
「困窮層」では、「そんなことはない」が 70.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「そんなことはない」が 72.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「そんなことはない」が 76.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「そんなことはない」が 68.2%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 19.9%となっている。

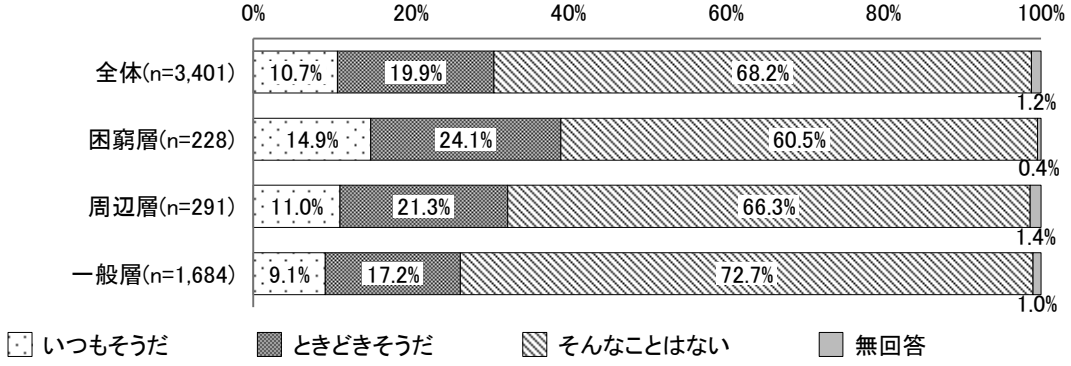
「困窮層」では、「そんなことはない」が 60.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「そんなことはない」が 66.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「そんなことはない」が 72.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 346　生きていても仕方がないと思う：単数回答（Q32J）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.01）



13）やろうと思ったことがうまくできる

小学生の「全体」では、「ときどきそうだ」が 62.5%でもっとも割合が高く、次いで「いつもそうだ」が 22.7%となっている。

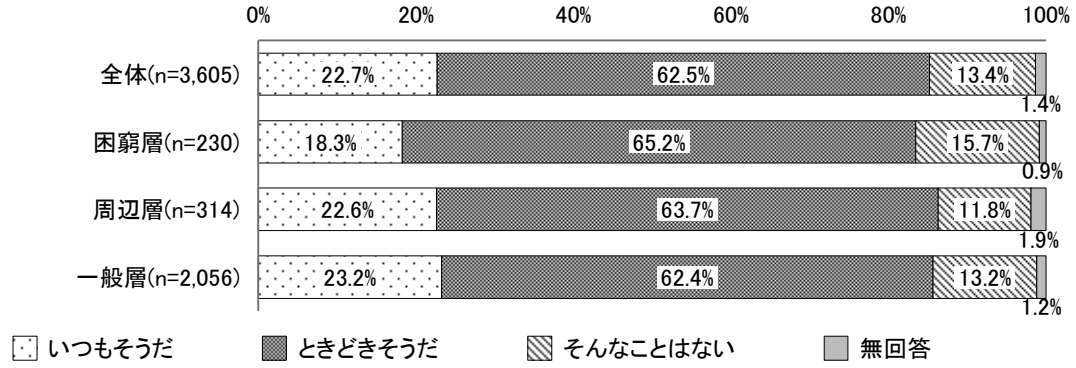
「困窮層」では、「ときどきそうだ」が 65.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ときどきそうだ」が 63.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ときどきそうだ」が 62.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ときどきそうだ」が 57.3%でもっとも割合が高く、次いで「そんなことはない」が 24.6%となっている。

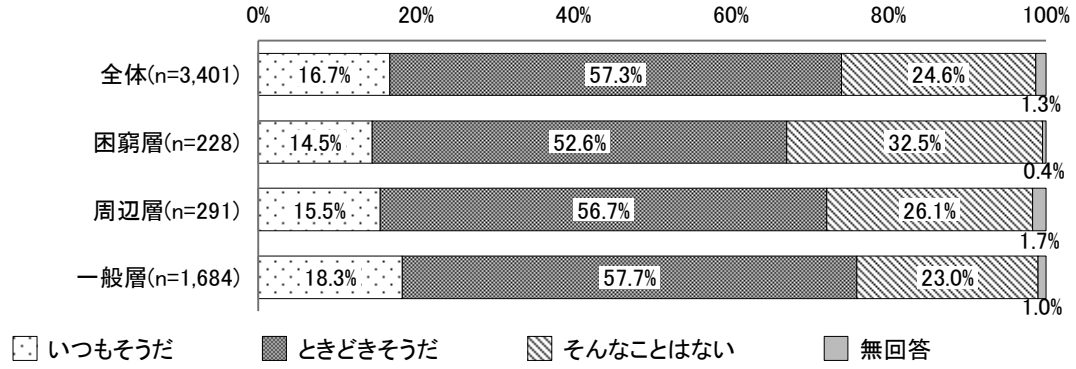
「困窮層」では、「ときどきそうだ」が 52.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ときどきそうだ」が 56.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ときどきそうだ」が 57.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 347　やろうと思ったことがうまくできる：単数回答（Q32K）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.05）



14）いつものように何をしても楽しい

小学生の「全体」では、「いつもそうだ」が 43.9%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 42.2%となっている。

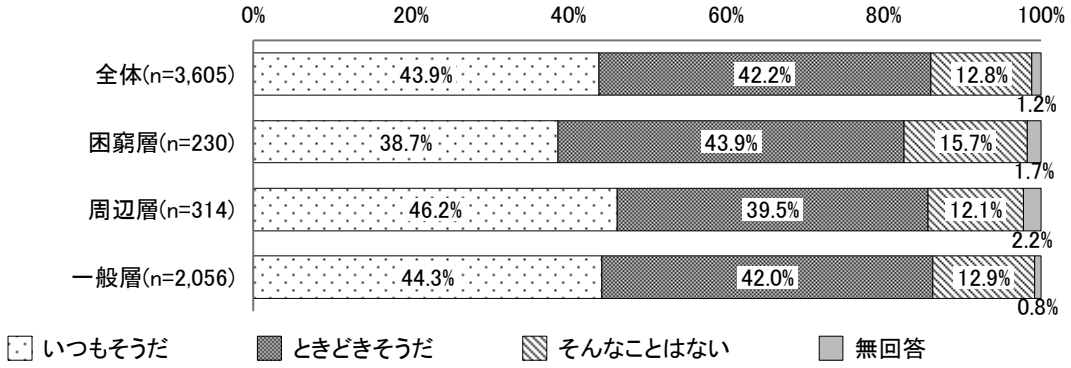
「困窮層」では、「ときどきそうだ」が 43.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いつもそうだ」が 46.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いつもそうだ」が 44.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ときどきそうだ」が 43.1%でもっとも割合が高く、次いで「いつもそうだ」が 35.1%となっている。

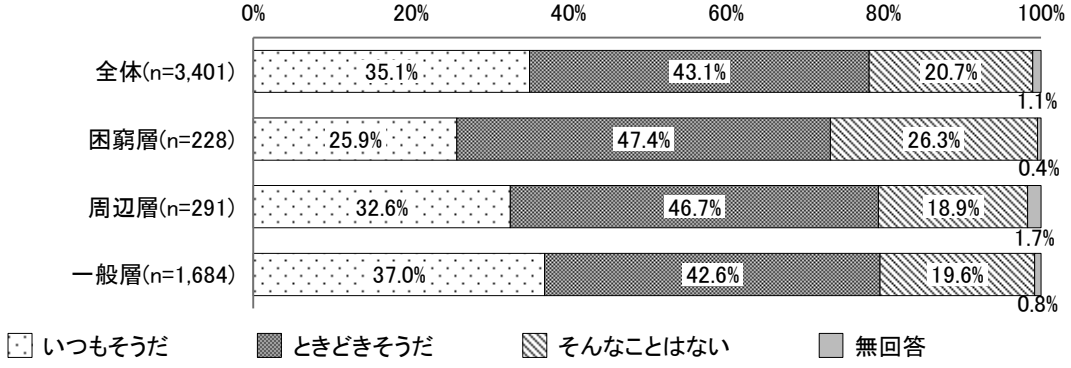
「困窮層」では、「ときどきそうだ」が 47.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ときどきそうだ」が 46.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ときどきそうだ」が 42.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 348　いつものように何をしても楽しい：単数回答（Q32L）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.01）



15）家族と話すのが好きだ

小学生の「全体」では、「いつもそうだ」が 71.9%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 22.6%となっている。

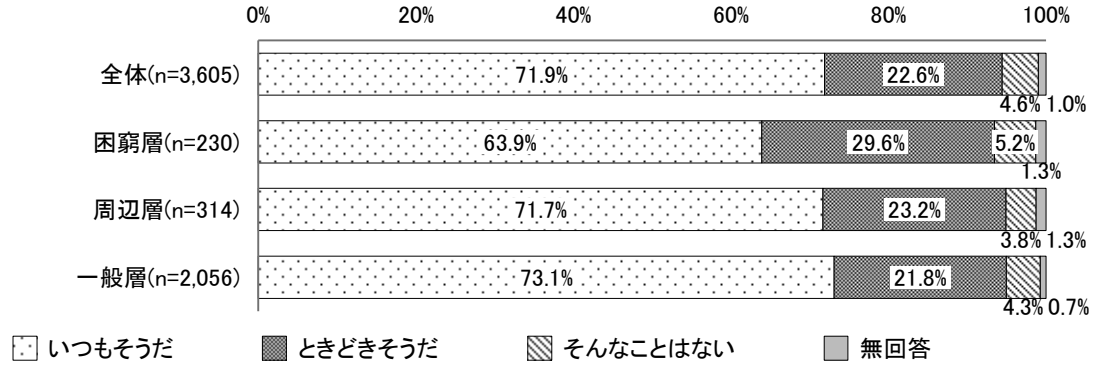
「困窮層」では、「いつもそうだ」が 63.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いつもそうだ」が 71.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いつもそうだ」が 73.1%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「いつもそうだ」が 52.7%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 36.9%となっている。

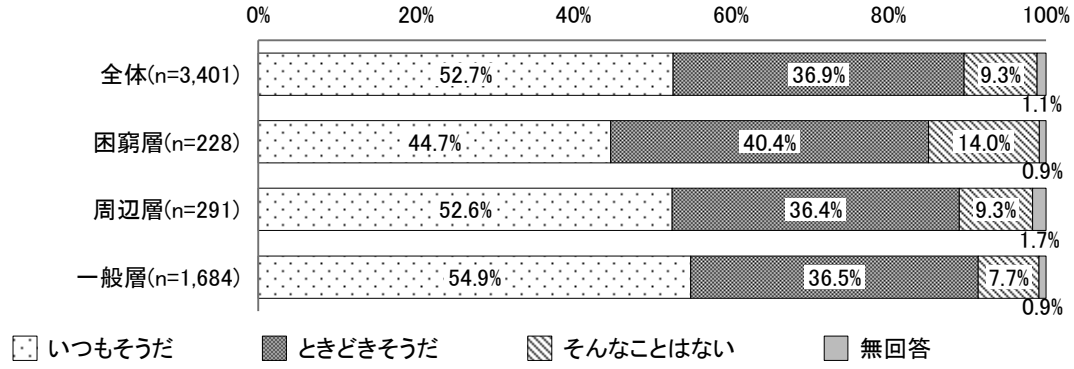
「困窮層」では、「いつもそうだ」が 44.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いつもそうだ」が 52.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いつもそうだ」が 54.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 349　家族と話すのが好きだ：単数回答（Q32M）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.01）



16） こわい夢を見る

小学生の「全体」では、「ときどきそうだ」が 50.0%でもっとも割合が高く、次いで「そんなことはない」が 41.8%となっている。

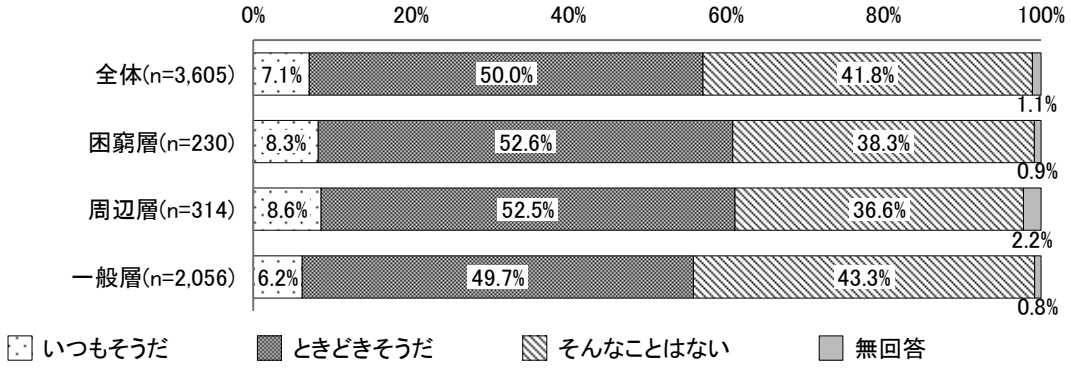
「困窮層」では、「ときどきそうだ」が 52.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ときどきそうだ」が 52.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ときどきそうだ」が 49.7%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「そんなことはない」が 58.8%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 34.5%となっている。

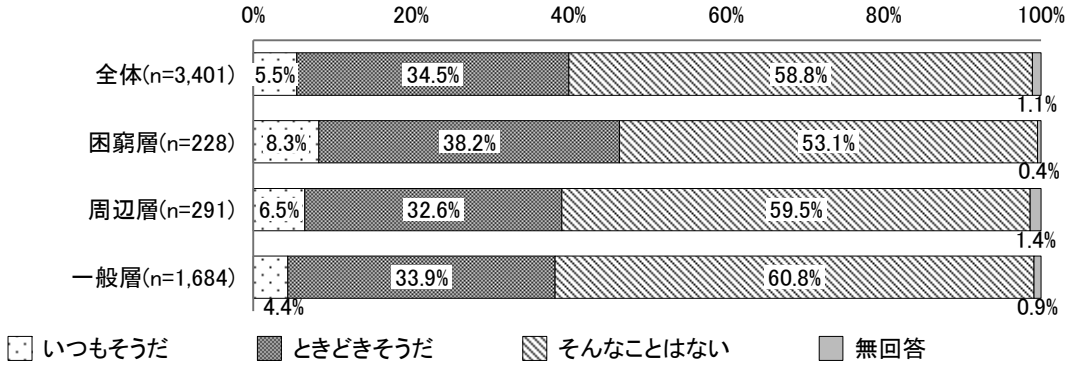
「困窮層」では、「そんなことはない」が 53.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「そんなことはない」が 59.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「そんなことはない」が 60.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 350　こわい夢を見る：単数回答（Q32N）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.05）



17）ひとりぼっちの気がする

小学生の「全体」では、「そんなことはない」が 71.3%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 20.7%となっている。

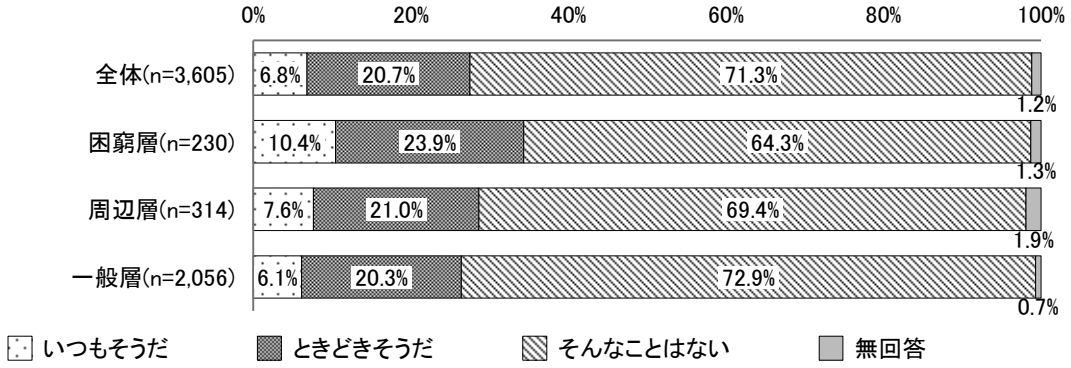
「困窮層」では、「そんなことはない」が 64.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「そんなことはない」が 69.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「そんなことはない」が 72.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「そんなことはない」が 63.1%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 26.2%となっている。

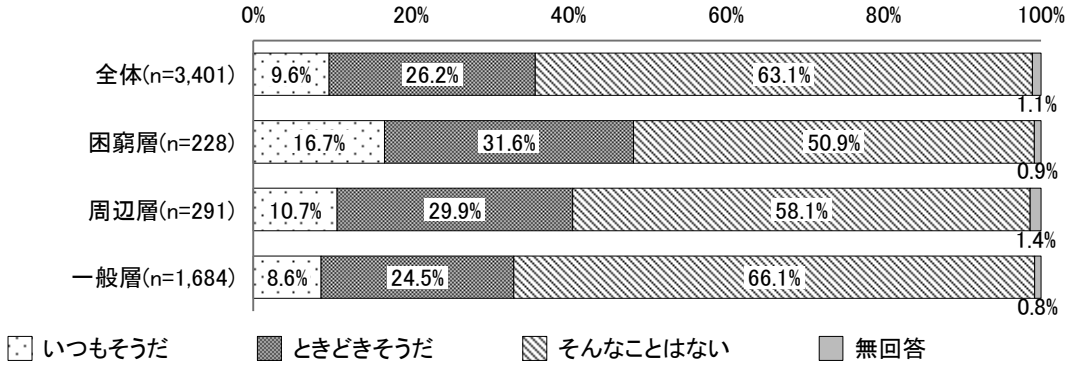
「困窮層」では、「そんなことはない」が 50.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「そんなことはない」が 58.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「そんなことはない」が 66.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 351　ひとりぼっちの気がする：単数回答（Q32O）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（p<.01）



18）落ち込んでいてもすぐに元気になれる

小学生の「全体」では、「いつもそうだ」が 41.4%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 36.9%となっている。

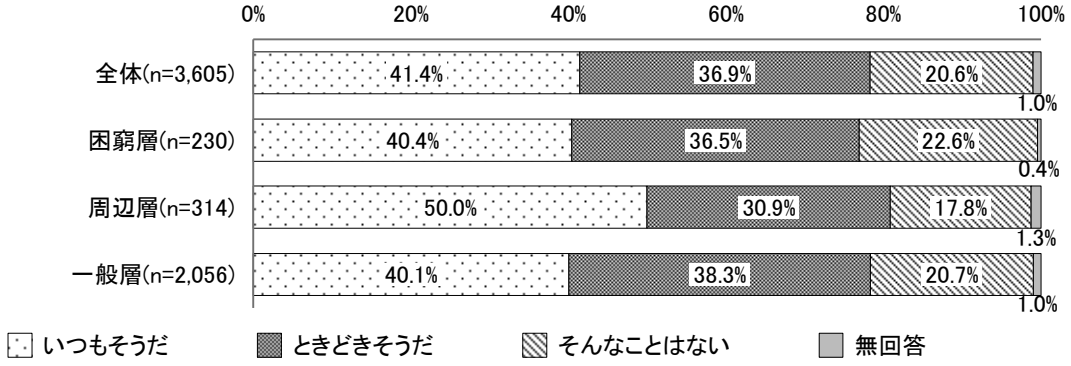
「困窮層」では、「いつもそうだ」が 40.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「いつもそうだ」が 50.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「いつもそうだ」が 40.1%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「ときどきそうだ」が 36.3%でもっとも割合が高く、次いで「いつもそうだ」が 33.0%となっている。

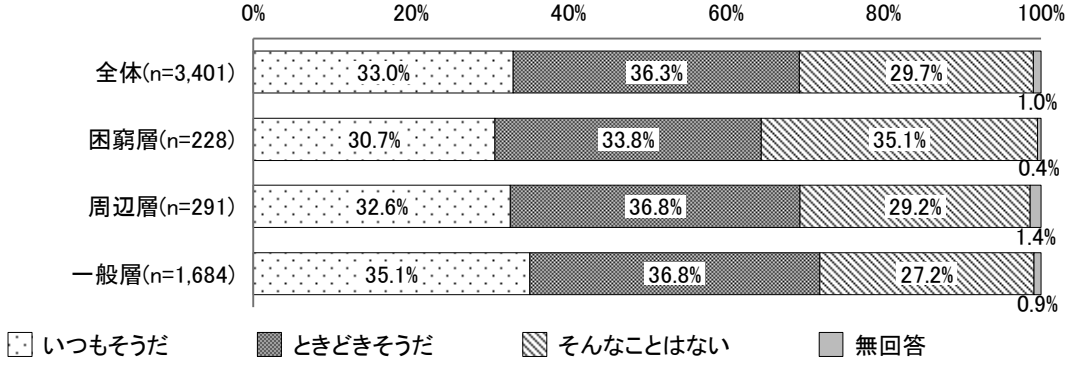
「困窮層」では、「そんなことはない」が 35.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「ときどきそうだ」が 36.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「ときどきそうだ」が 36.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 352　落ち込んでいてもすぐに元気になれる：単数回答（Q32P）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（有意差なし）



19）とても悲しい気がする

小学生の「全体」では、「そんなことはない」が 74.9%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 19.7%となっている。

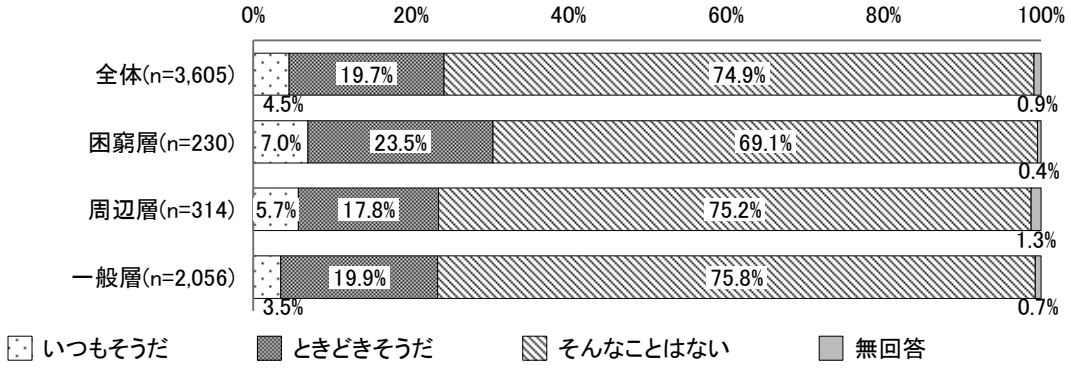
「困窮層」では、「そんなことはない」が 69.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「そんなことはない」が 75.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「そんなことはない」が 75.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「そんなことはない」が 65.0%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 26.5%となっている。

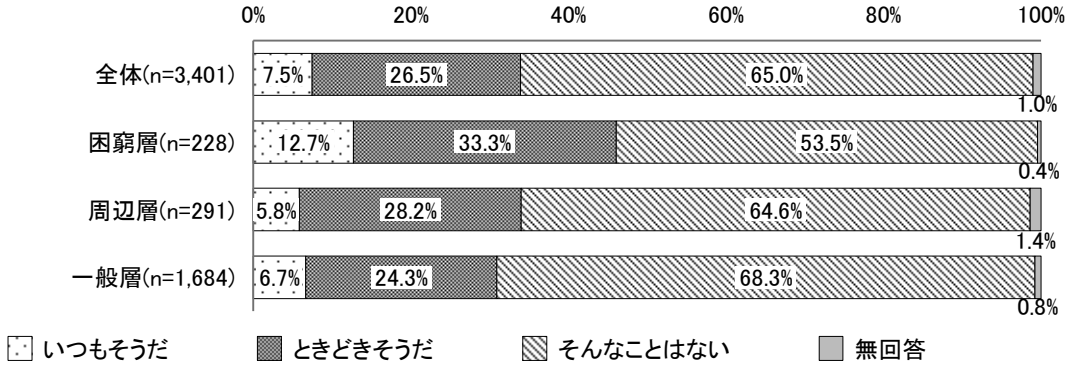
「困窮層」では、「そんなことはない」が 53.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「そんなことはない」が 64.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「そんなことはない」が 68.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 353　とても悲しい気がする：単数回答（Q32Q）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（p<.01）



20）とても退屈な気がする

小学生の「全体」では、「そんなことはない」が 58.8%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 32.5%となっている。

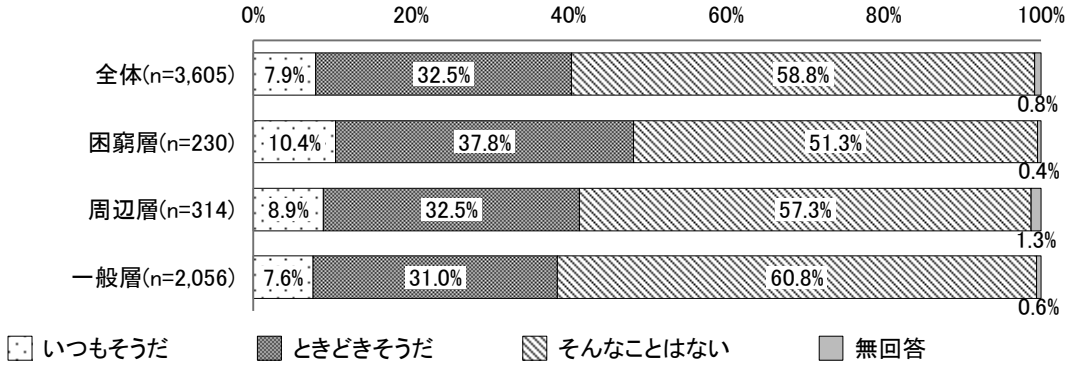
「困窮層」では、「そんなことはない」が 51.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「そんなことはない」が 57.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「そんなことはない」が 60.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「そんなことはない」が 53.6%でもっとも割合が高く、次いで「ときどきそうだ」が 34.1%となっている。

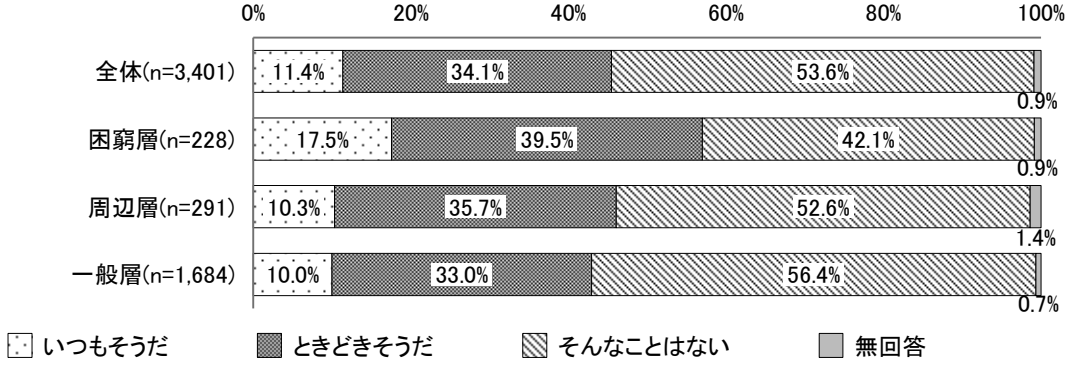
「困窮層」では、「そんなことはない」が 42.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「そんなことはない」が 52.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「そんなことはない」が 56.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 354　とても退屈な気がする：単数回答（Q32R）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.01）



（9）自己肯定感について

1） がんばれば、むくわれる

小学生の「全体」では、「とても思う」が 42.6%でもっとも割合が高く、次いで「思う」が 38.1%となっている。

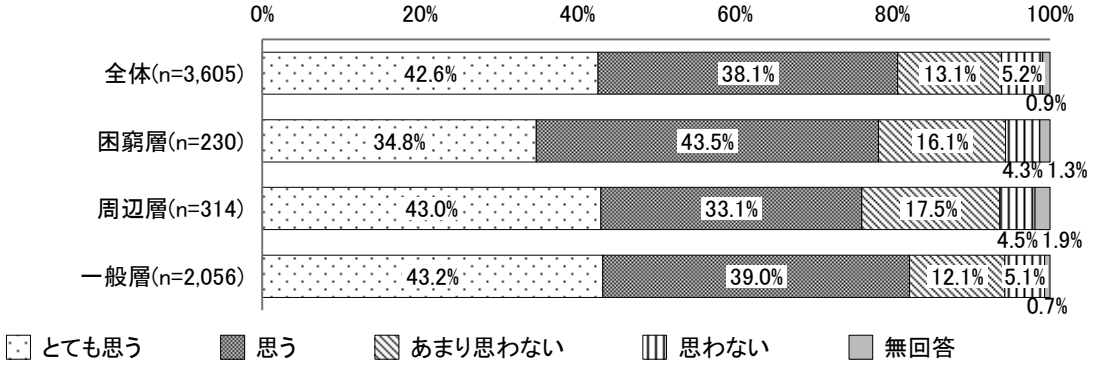
「困窮層」では、「思う」が 43.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても思う」が 43.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても思う」が 43.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「思う」が 39.6%でもっとも割合が高く、次いで「とても思う」が 33.1%となっている。

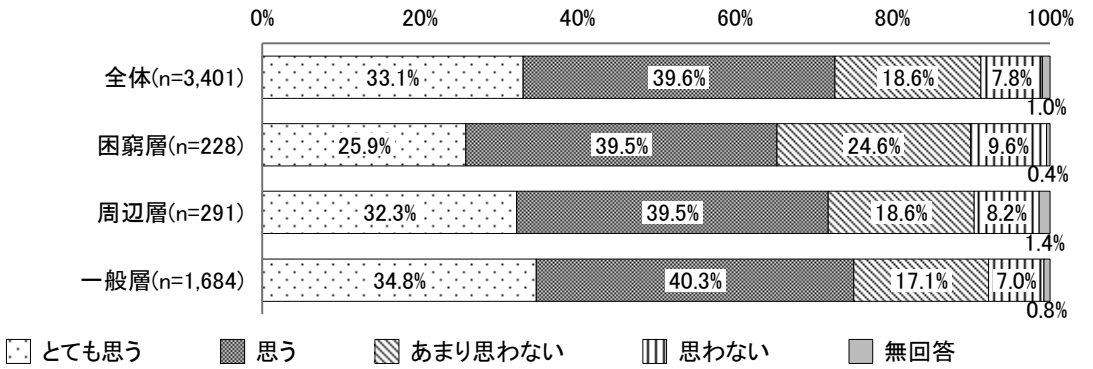
「困窮層」では、「思う」が 39.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 39.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 40.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 355 がんばれば、むくわれる：単数回答（Q33A）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.05）



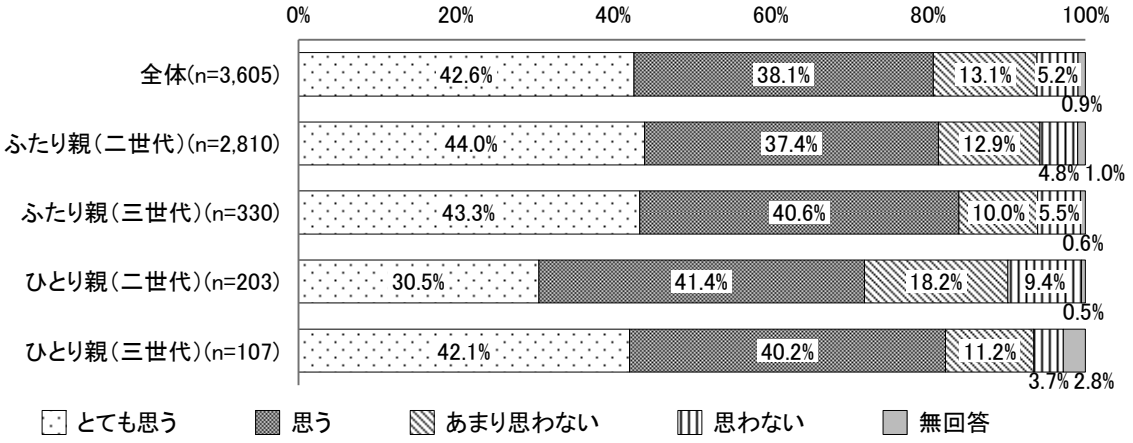
＜中学生＞（p<.05）



世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代)」において「とても思う」とする割合が低くなっている。中学生では、有意な結果がみられなかった。

図表 356　がんばれば、むくわれる：単数回答（Q33A）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



2)　自分は価値のある人間だ

小学生の「全体」では、「思う」が 33.6%でもっとも割合が高く、次いで「とても思う」が 31.5%となっている。

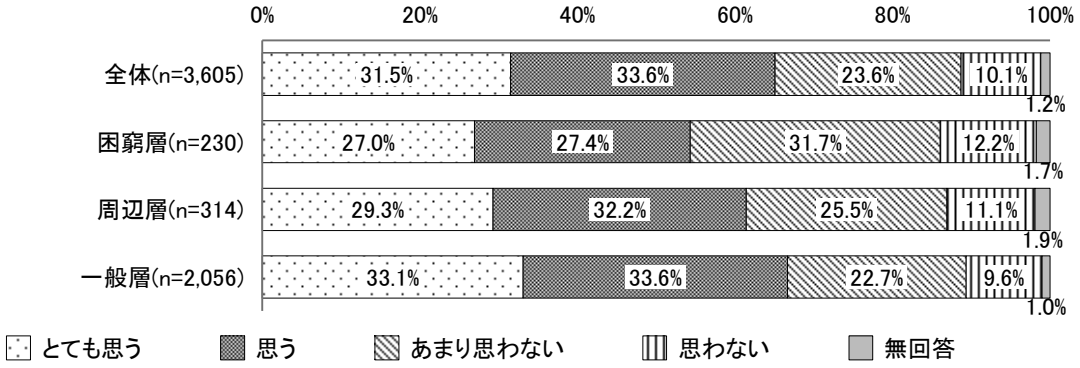
「困窮層」では、「あまり思わない」が 31.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 32.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 33.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「思う」が 35.3%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 28.5%となっている。

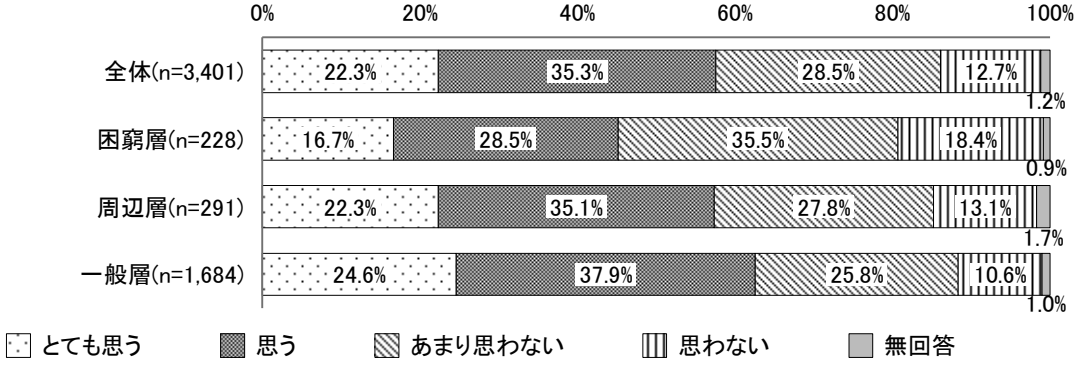
「困窮層」では、「あまり思わない」が 35.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 35.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 37.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 357　自分は価値のある人間だ：単数回答（Q33B）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.05）



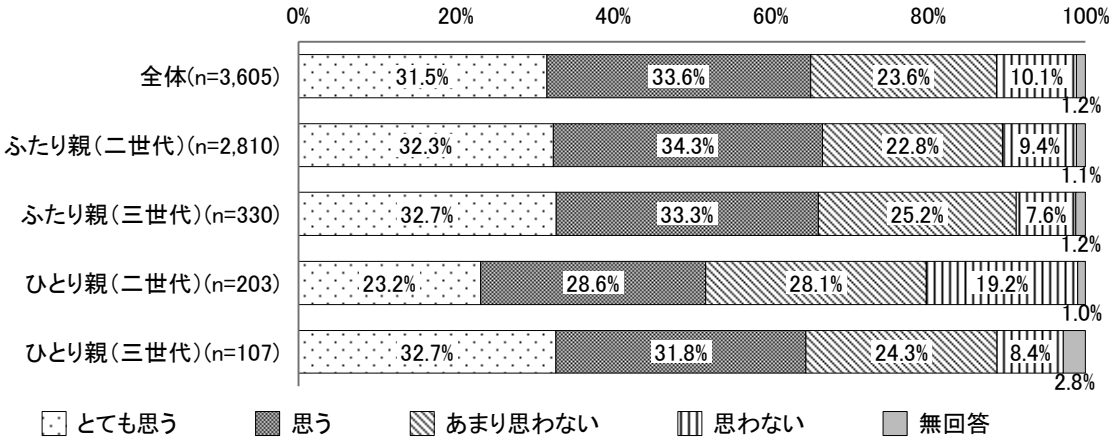
＜中学生＞（p<.01）



世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代)」において「とても思う」とする割合が低くなっている。中学生では、有意な結果がみられなかった。

図表 358　自分は価値のある人間だ：単数回答（Q33B）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



3)　自分は家族に大事にされている

小学生の「全体」では、「とても思う」が 63.9%でもっとも割合が高く、次いで「思う」が 26.9%となっている。

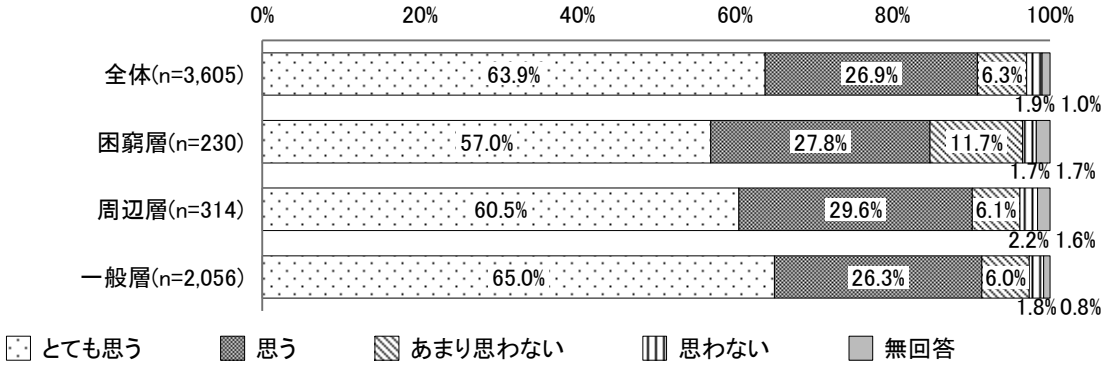
「困窮層」では、「とても思う」が 57.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても思う」が 60.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても思う」が 65.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「とても思う」が 53.7%でもっとも割合が高く、次いで「思う」が 35.3%となっている。

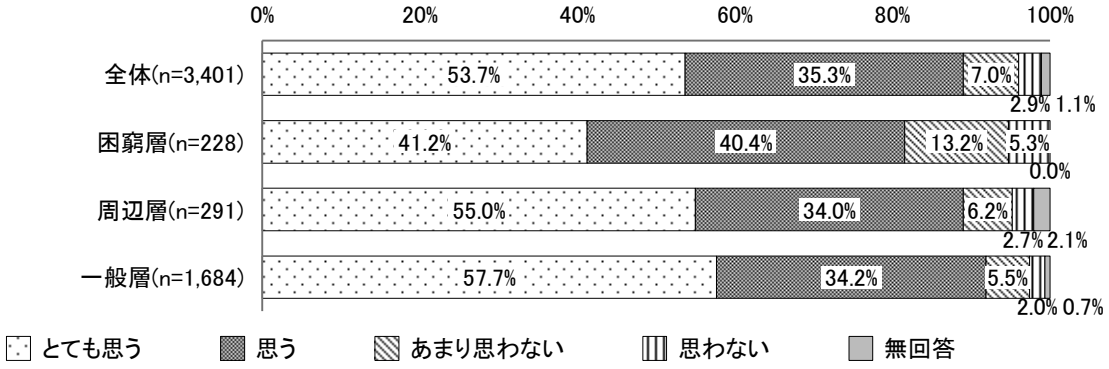
「困窮層」では、「とても思う」が 41.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても思う」が 55.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても思う」が 57.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 359　自分は家族に大事にされている：単数回答（Q33C）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.05）



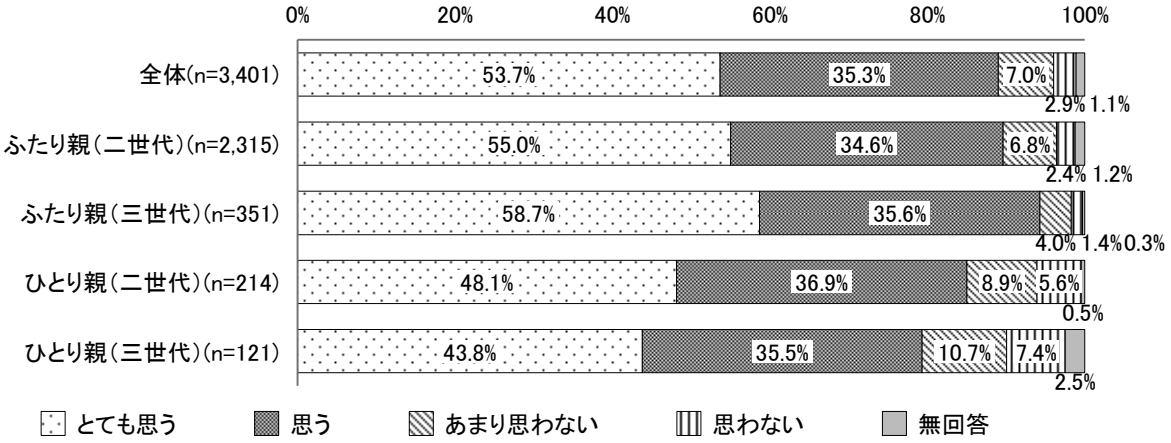
＜中学生＞（p<.01）



世帯タイプ別にみると、小学生では、有意な結果がみられなかった。中学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代)」において「とても思う」とする割合が低くなっている。

図表 360　自分は家族に大事にされている：単数回答（Q33C）（世帯タイプ別）

＜中学生＞（p<.01）



4) 不安に感じることがある

小学生の「全体」では、「思わない」が 31.8%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 31.1%となっている。

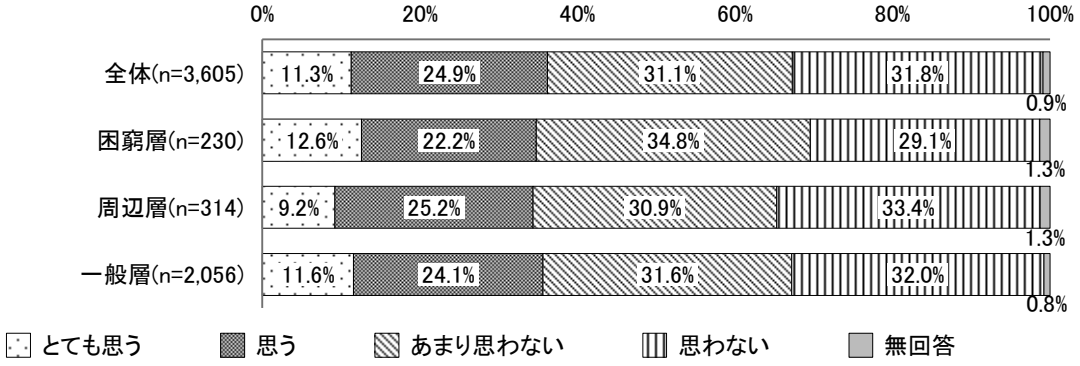
「困窮層」では、「あまり思わない」が 34.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思わない」が 33.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思わない」が 32.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「思う」が 34.6%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 26.9%となっている。

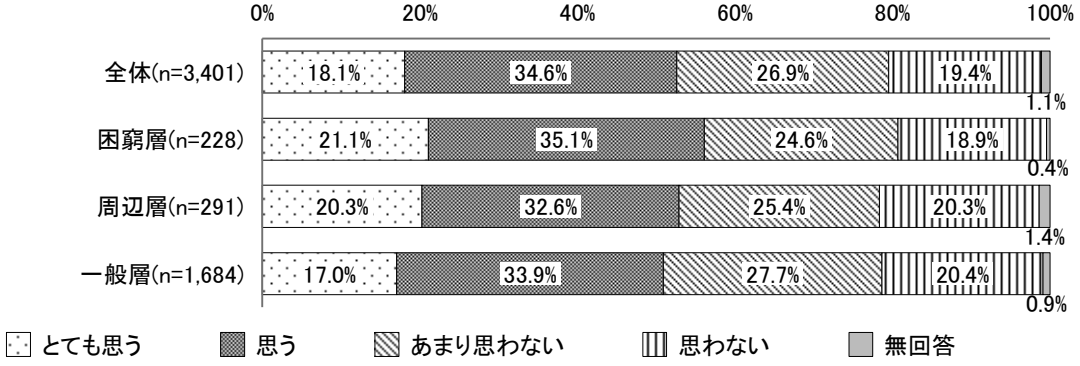
「困窮層」では、「思う」が 35.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 32.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 33.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 361　不安に感じることがある：単数回答（Q33D）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



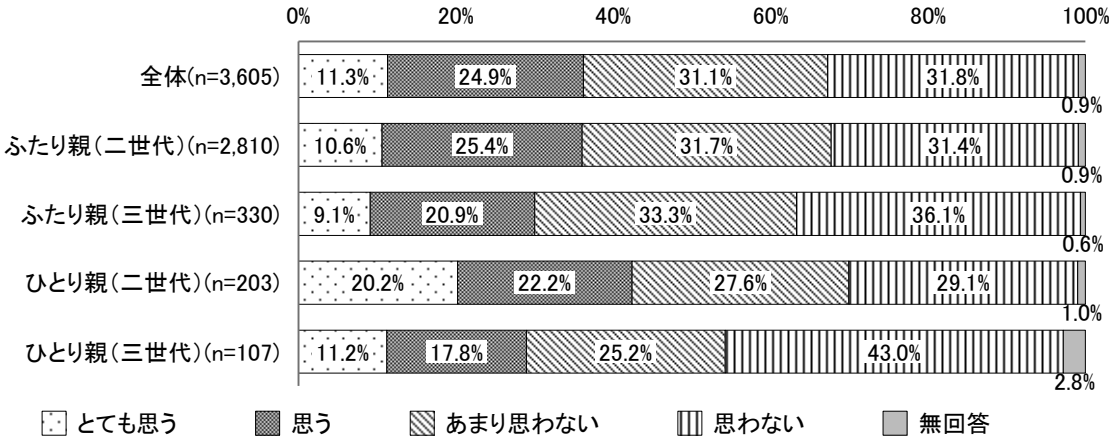
＜中学生＞（有意差なし）



世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代)」において「とても思う」とする割合が高くなっている。中学生では、有意な結果がみられなかった。

図表 362　不安に感じることがある：単数回答（Q33D）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



5) 孤独を感じることがある

小学生の「全体」では、「思わない」が 54.4%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 26.2%となっている。

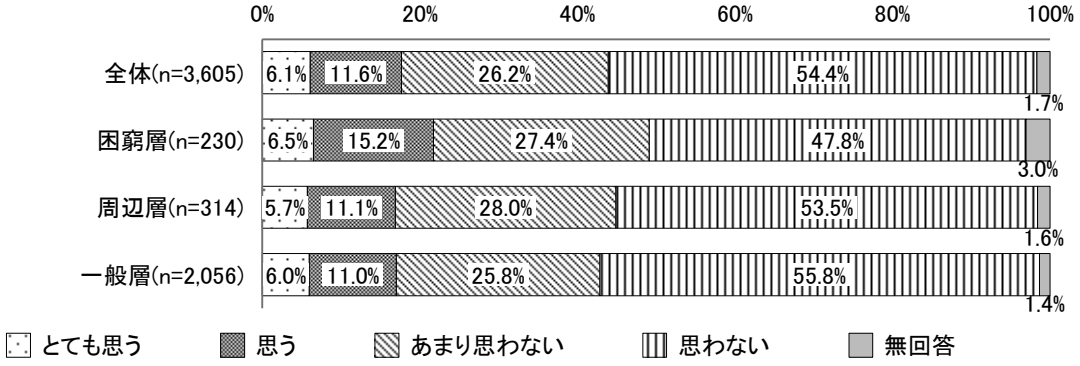
「困窮層」では、「思わない」が 47.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思わない」が 53.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思わない」が 55.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「思わない」が 35.0%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 33.1%となっている。

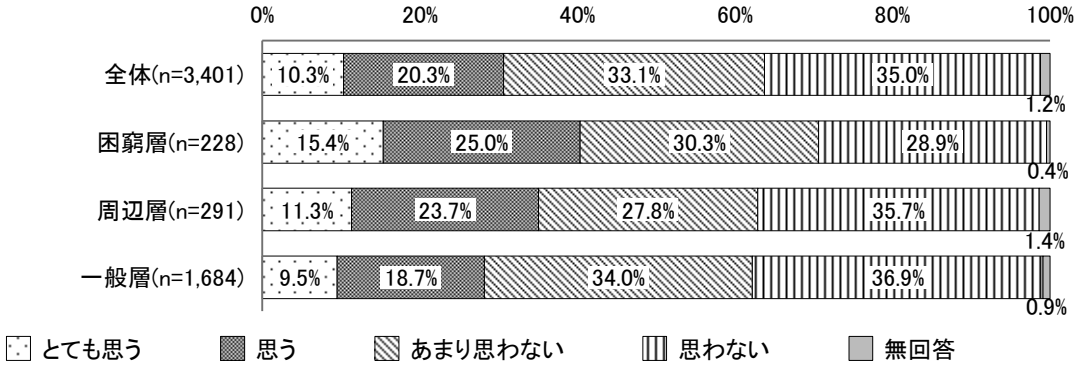
「困窮層」では、「あまり思わない」が 30.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思わない」が 35.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思わない」が 36.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 363　孤独を感じることがある：単数回答（Q33E）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



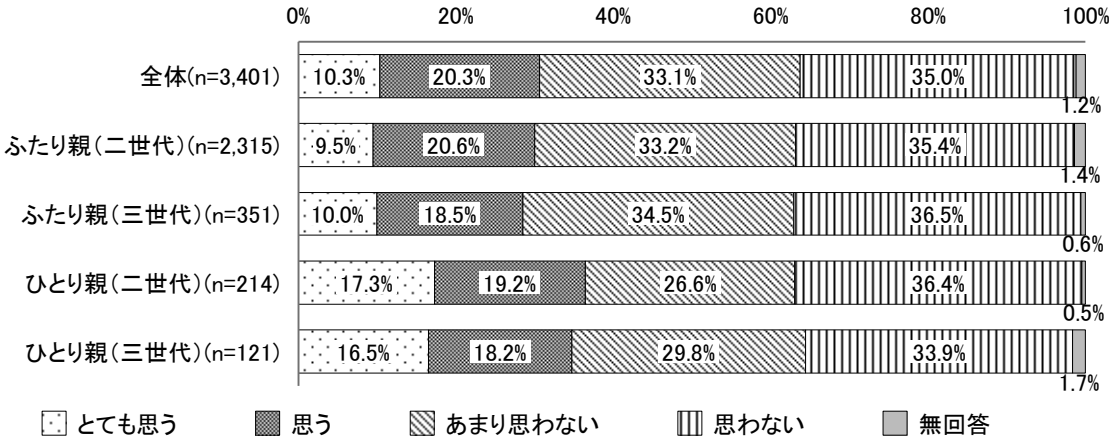
＜中学生＞（p<.01）



世帯タイプ別にみると、小学生では、有意な結果がみられなかった。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「とても思う」とする割合が高くなっている。

図表 364　孤独を感じることがある：単数回答（Q33E）（世帯タイプ別）

＜中学生＞（p<.05）



6） 自分は友達に好かれている

小学生の「全体」では、「思う」が 45.0%でもっとも割合が高く、次いで「とても思う」が 26.6%となっている。

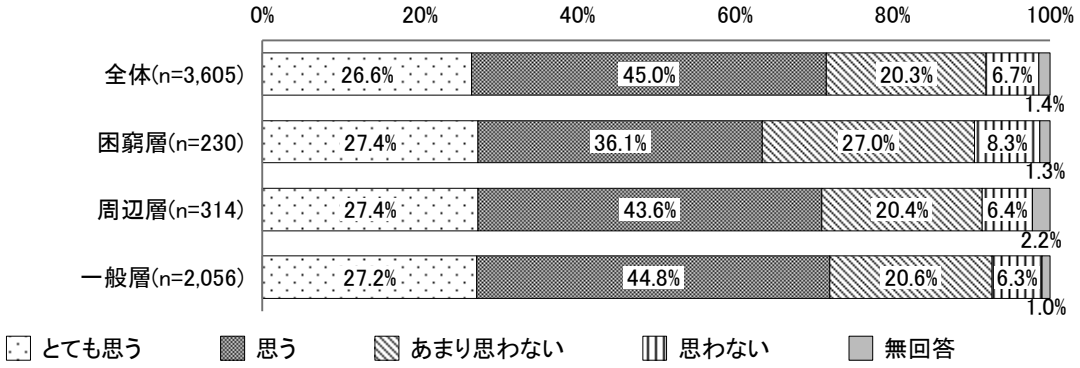
「困窮層」では、「思う」が 36.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 43.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 44.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「思う」が 52.0%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 20.8%となっている。

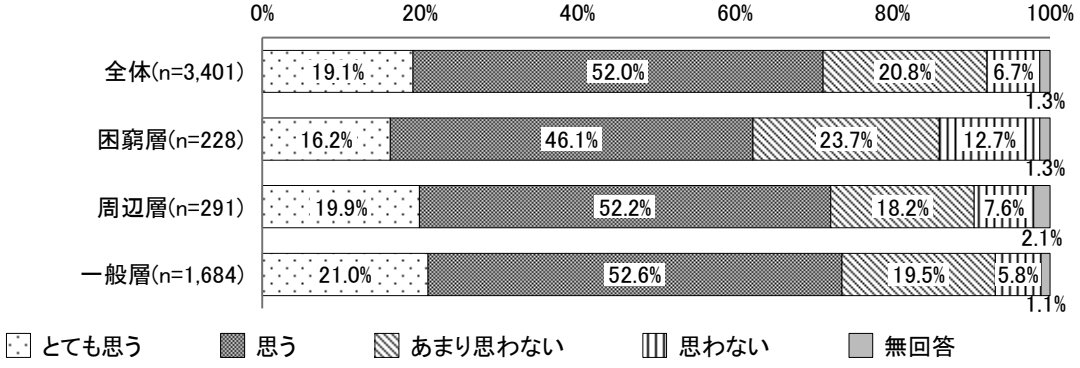
「困窮層」では、「思う」が 46.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 52.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 52.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 365　自分は友達に好かれている：単数回答（Q33F）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



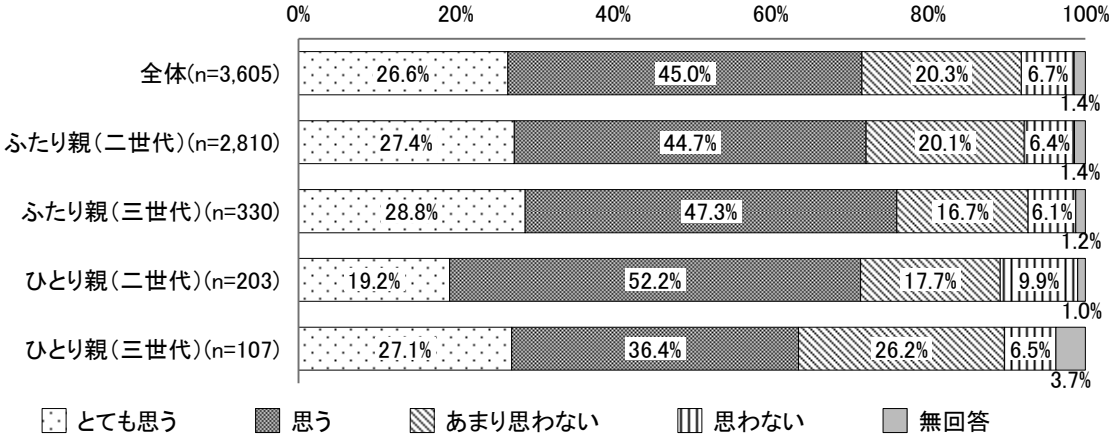
＜中学生＞（p<.01）



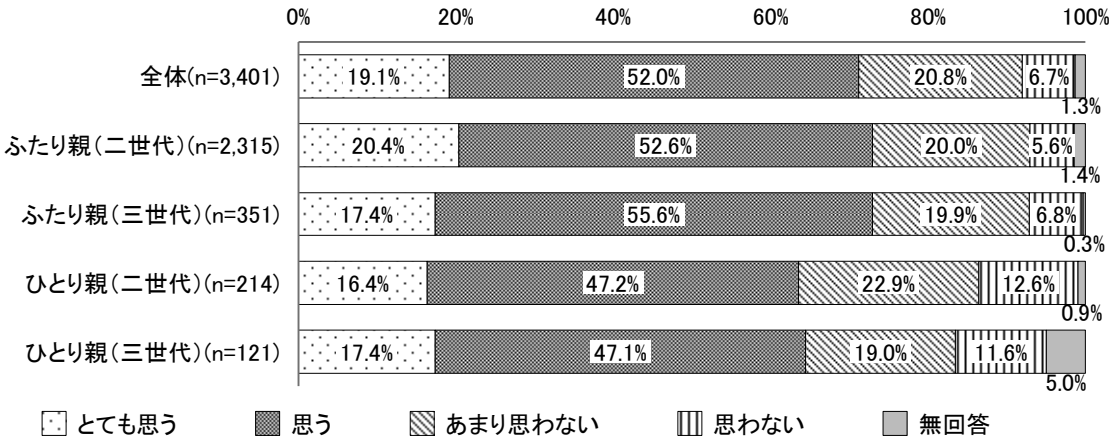
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「とても思う」とする割合が低くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「思わない」とする割合が高くなっている。

図表 366　自分は友達に好かれている：単数回答（Q33F）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（p<.01）



7)　積極的に色々な人と話したい

小学生の「全体」では、「とても思う」が 43.8%でもっとも割合が高く、次いで「思う」が 29.2%となっている。

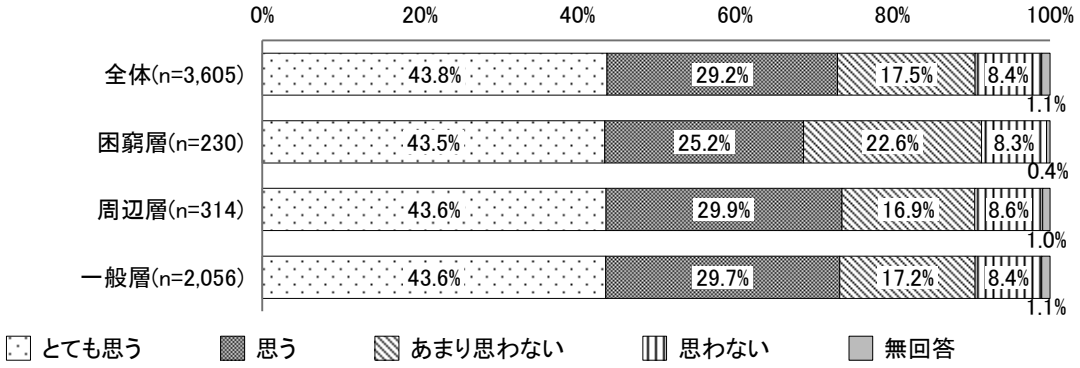
「困窮層」では、「とても思う」が 43.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても思う」が 43.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても思う」が 43.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「とても思う」が 38.7%でもっとも割合が高く、次いで「思う」が 31.3%となっている。

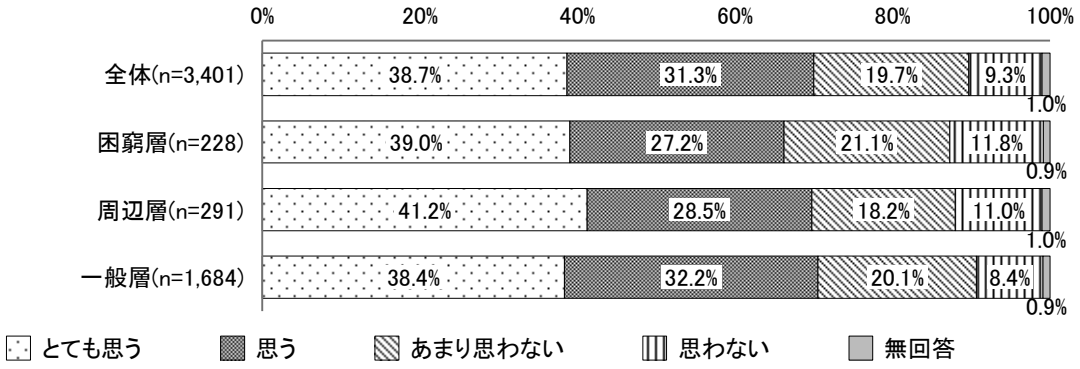
「困窮層」では、「とても思う」が 39.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても思う」が 41.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても思う」が 38.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 367　積極的に色々な人と話したい：単数回答（Q33G）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



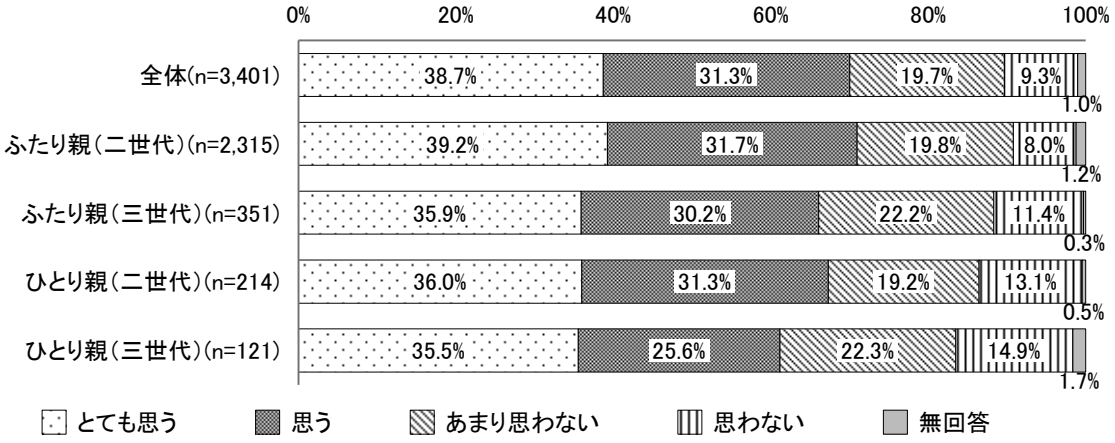
＜中学生＞（有意差なし）



世帯タイプ別にみると、小学生では、有意な結果がみられなかった。中学生では、全体に比べて「ひとり親（三世代)」において「思わない」とする割合が高くなっている。

図表 368　積極的に色々な人と話したい：単数回答（Q33G）（世帯タイプ別）

＜中学生＞（p<.05）



8)　自分の将来が楽しみだ

小学生の「全体」では、「とても思う」が 52.8%でもっとも割合が高く、次いで「思う」が 24.9%となっている。

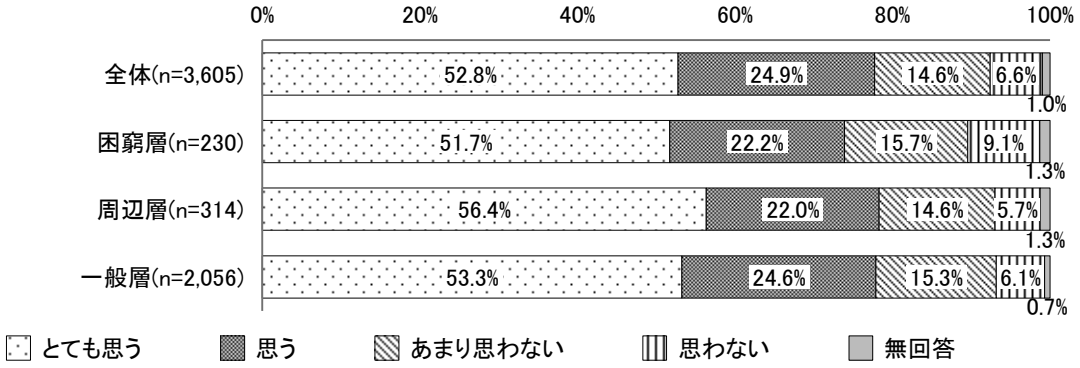
「困窮層」では、「とても思う」が 51.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても思う」が 56.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても思う」が 53.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「思う」が 31.7%でもっとも割合が高く、次いで「とても思う」が 29.0%となっている。

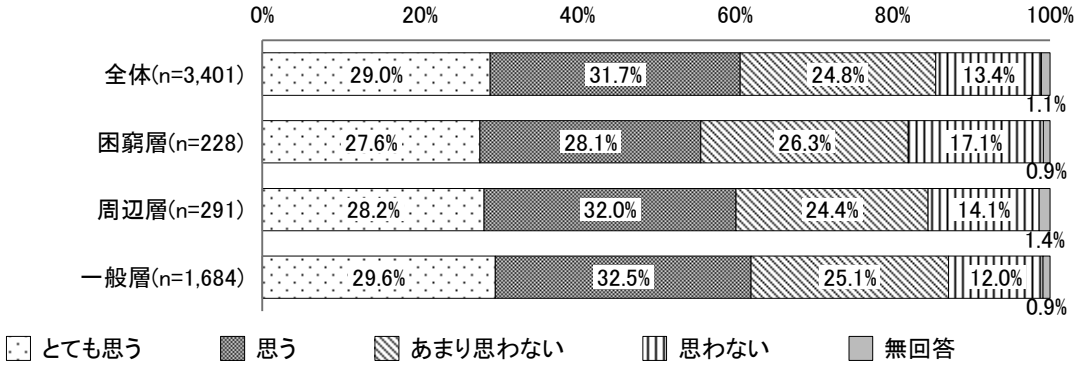
「困窮層」では、「思う」が 28.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 32.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 32.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 369　自分の将来が楽しみだ：単数回答（Q33H）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



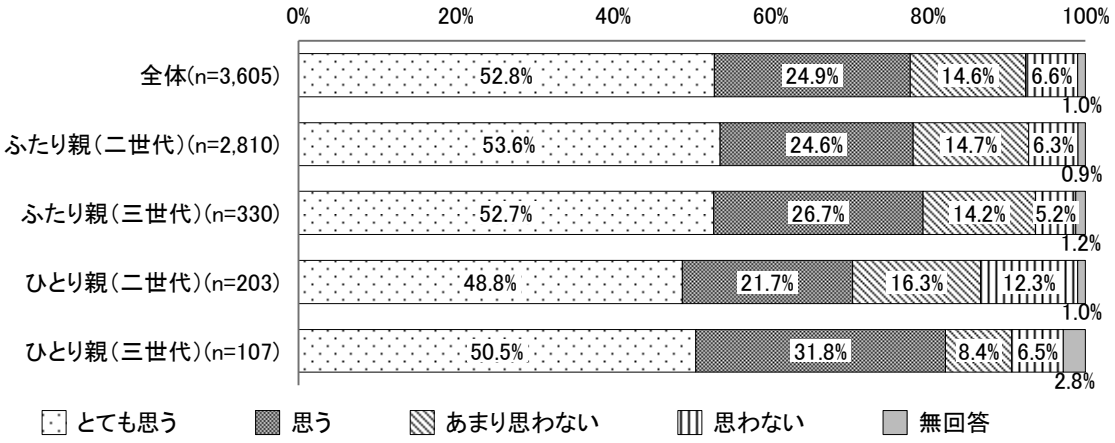
＜中学生＞（有意差なし）



世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「思わない」とする割合が高くなっている。中学生では、有意な結果がみられなかった。

図表 370　自分の将来が楽しみだ：単数回答（Q33H）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.05）



9)　自分のことが好きだ

小学生の「全体」では、「とても思う」が 36.1%でもっとも割合が高く、次いで「思う」が 30.9%となっている。

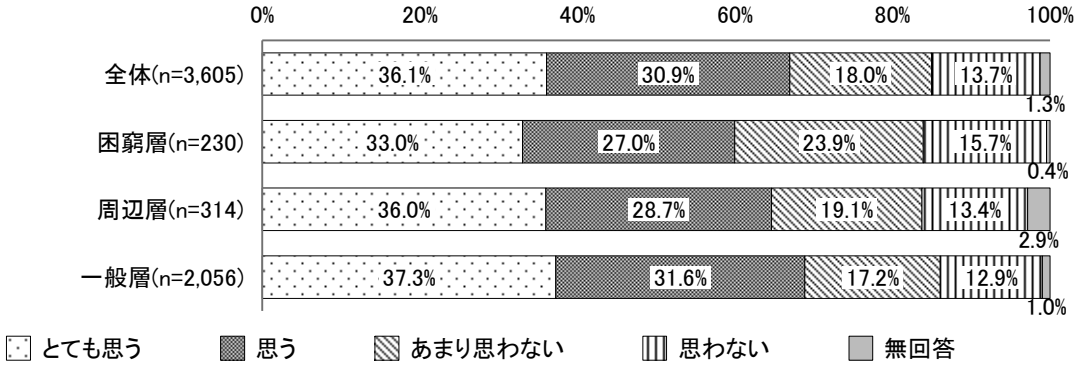
「困窮層」では、「とても思う」が 33.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「とても思う」が 36.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「とても思う」が 37.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「思う」が 31.6%でもっとも割合が高く、次いで「あまり思わない」が 24.8%となっている。

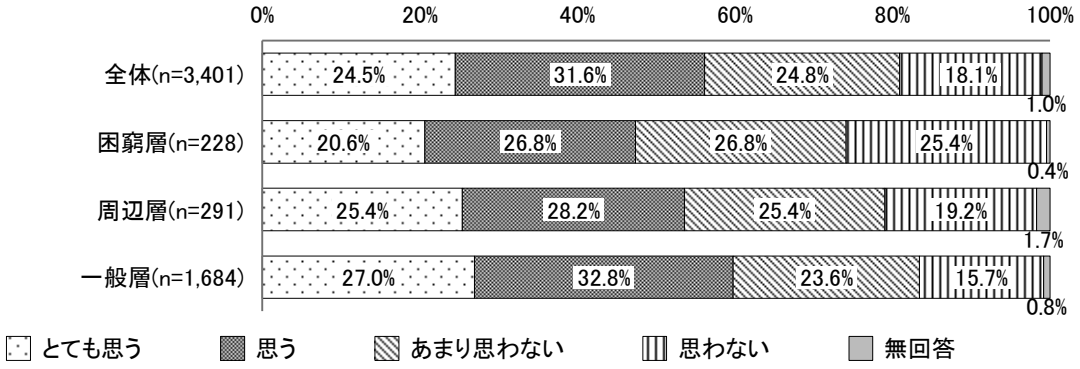
「困窮層」では、「思う」「あまり思わない」が 26.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「思う」が 28.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「思う」が 32.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 371　自分のことが好きだ：単数回答（Q33I）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



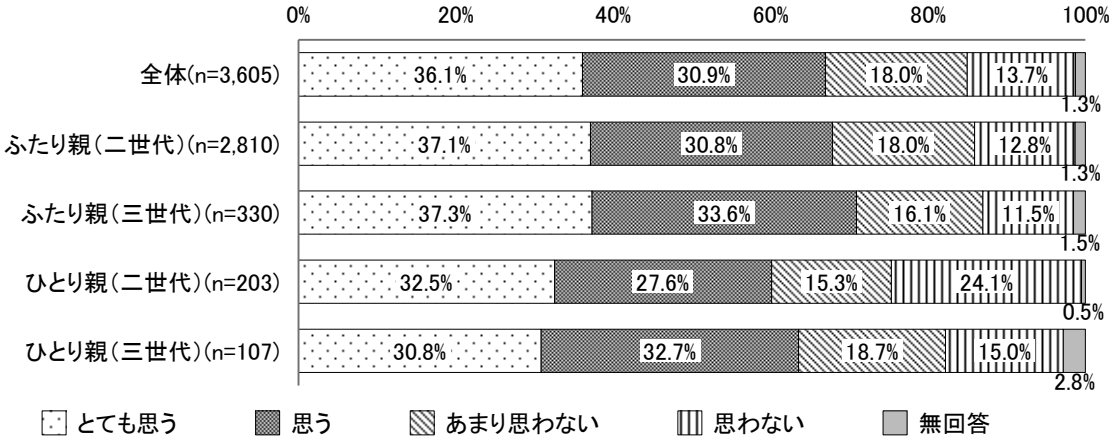
＜中学生＞（p<.01）



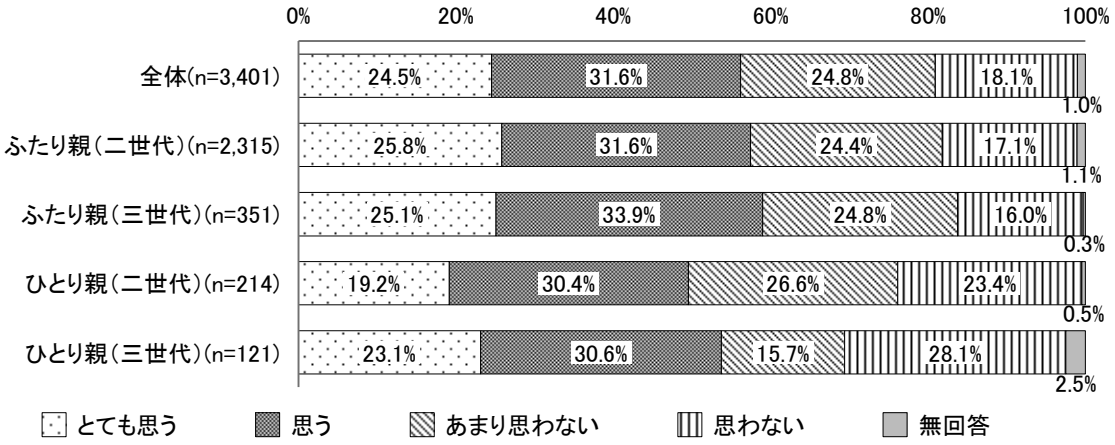
世帯タイプ別にみると、小学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「思わない」とする割合が高くなっている。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」「ひとり親（三世代）」において「思わない」とする割合が高くなっている。

図表 372　自分のことが好きだ：単数回答（Q33I）（世帯タイプ別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.05）



（１０） 支援場所の利用意向

1） 平日の放課後に夜までいることができる場所

小学生の「全体」では、「使う必要はない」が 42.3%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が 22.4%となっている。

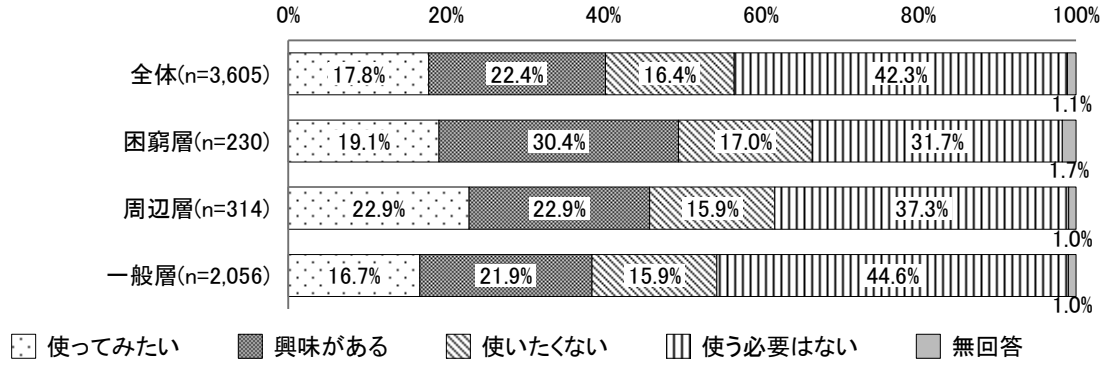
「困窮層」では、「使う必要はない」が 31.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が 37.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が 44.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「使う必要はない」が 38.1%でもっとも割合が高く、次いで「使ってみたい」が 25.8%となっている。

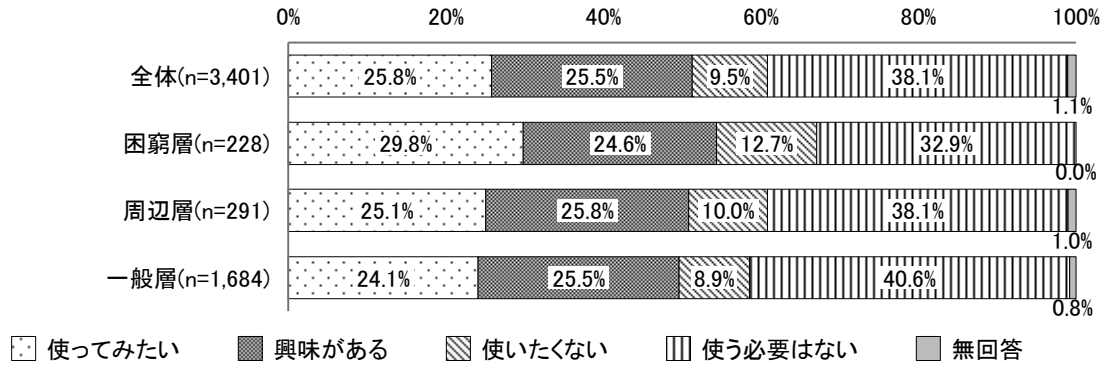
「困窮層」では、「使う必要はない」が 32.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が 38.1%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が 40.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 373 平日の放課後に夜までいることができる場所：単数回答（Q34A）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）

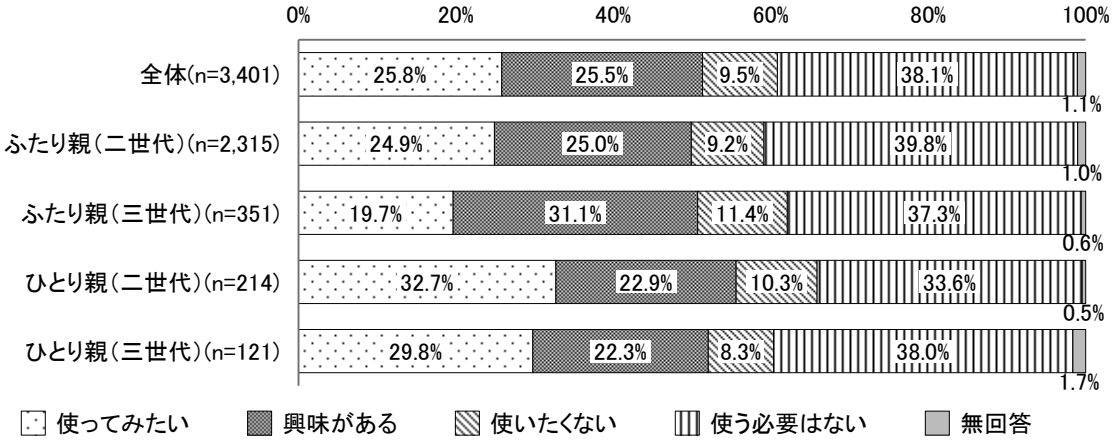


＜中学生＞（有意差なし）



世帯タイプ別にみると、小学生では、有意な差がみられなかった。中学生では、全体に比べて「ひとり親（二世代）」において「使ってみたい」とする割合が高くなっている。

図表 374　平日の放課後に夜までいることができる場所：単数回答（Q34A）（世帯タイプ別）
＜中学生＞（p<.05）



2) 休日にいることができる場所

小学生の「全体」では、「使う必要はない」が 33.6%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が 28.2%となっている。

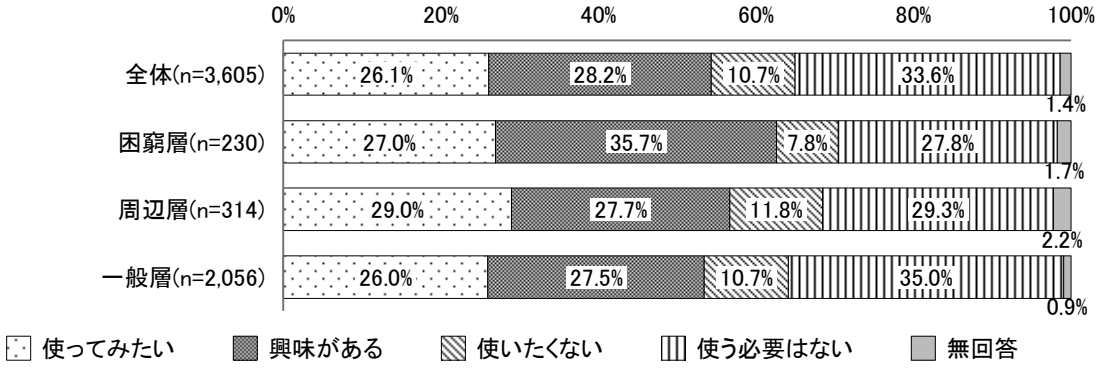
「困窮層」では、「興味がある」が 35.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が 29.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が 35.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「使う必要はない」が 33.3%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が 29.6%となっている。

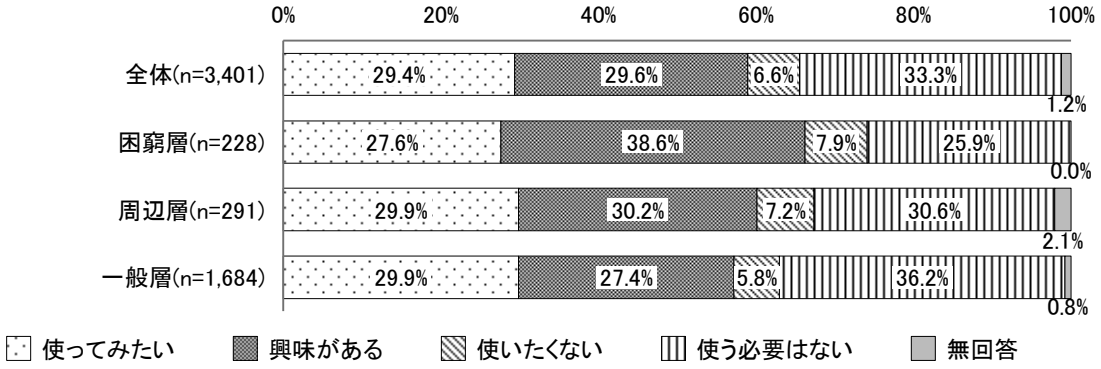
「困窮層」では、「興味がある」が 38.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が 30.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が 36.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 375 休日にいることができる場所：単数回答（Q34B）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（p<.01）



3)　家の人がいない時、夕ごはんをみんなで食べることができる場所

小学生の「全体」では、「使う必要はない」が 36.3%でもっとも割合が高く、次いで「使ってみたい」が 27.2%となっている。

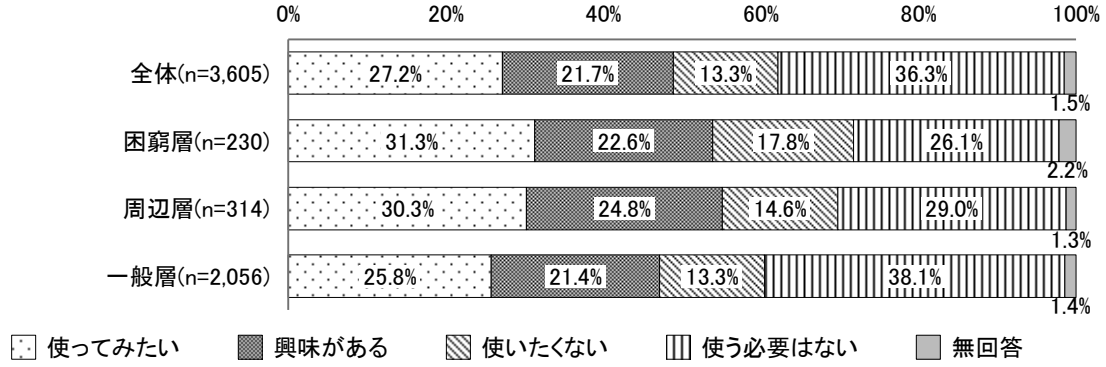
「困窮層」では、「使ってみたい」が 31.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使ってみたい」が 30.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が 38.1%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「使う必要はない」が 45.8%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が 22.1%となっている。

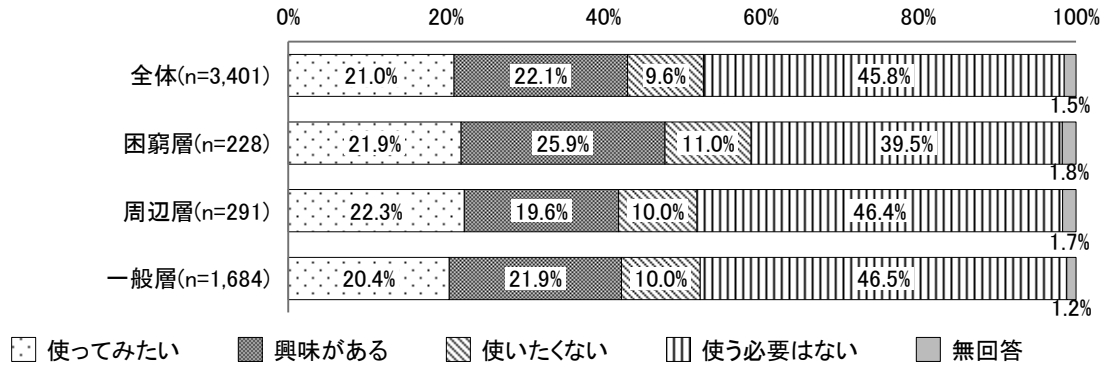
「困窮層」では、「使う必要はない」が 39.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が 46.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が 46.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 376　家の人がいない時、夕ごはんをみんなで食べることができる場所：単数回答（Q34C）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（有意差なし）



4） 家で勉強できない時、静かに勉強できる場所

小学生の「全体」では、「使う必要はない」が 35.7%でもっとも割合が高く、次いで「使ってみたい」が 28.2%となっている。

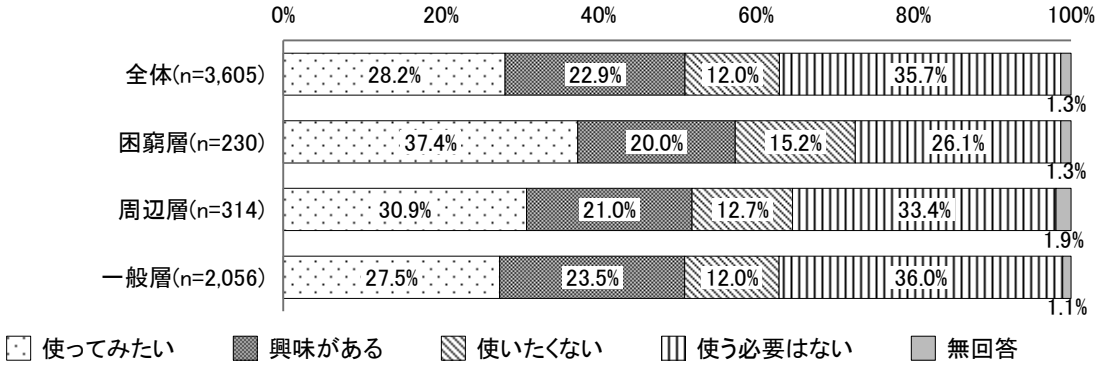
「困窮層」では、「使ってみたい」が 37.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が 33.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が 36.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「使う必要はない」が 33.1%でもっとも割合が高く、次いで「使ってみたい」が 32.8%となっている。

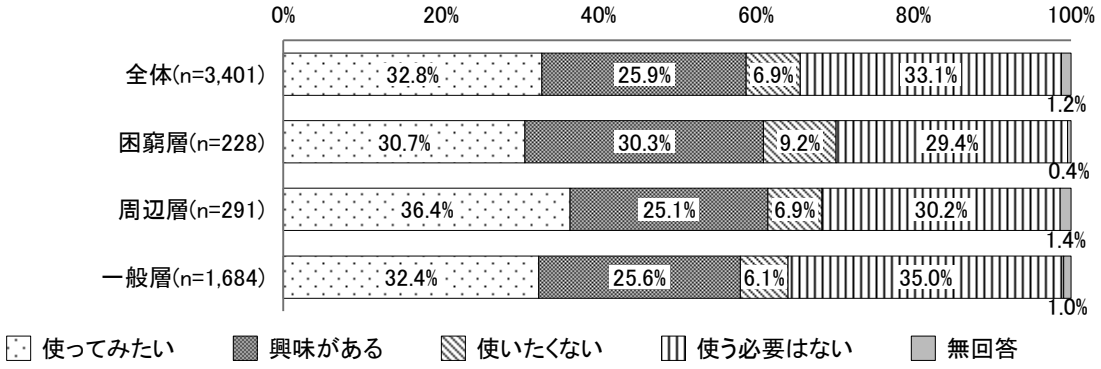
「困窮層」では、「使ってみたい」が 30.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使ってみたい」が 36.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が 35.0%でもっとも割合が高くなっている。

図表 377　家で勉強できない時、静かに勉強できる場所：単数回答（Q34D）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（有意差なし）



5)　大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所

小学生の「全体」では、「使う必要はない」が 42.7%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が 21.4%となっている。

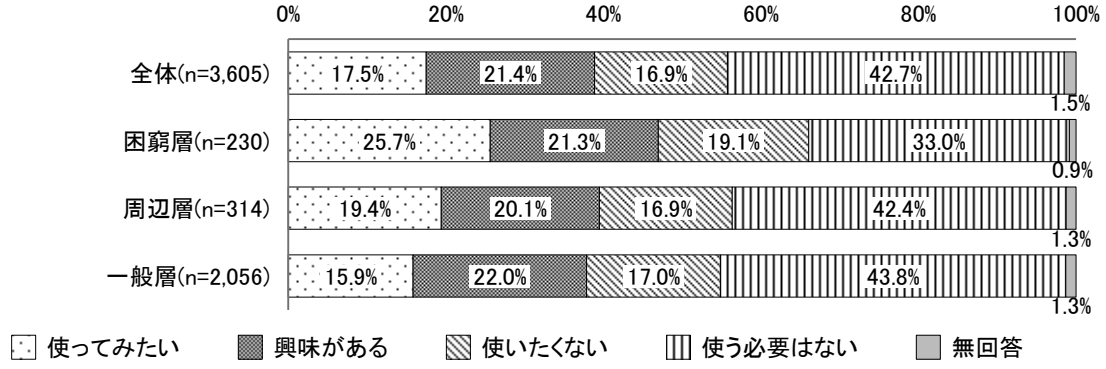
「困窮層」では、「使う必要はない」が 33.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が 42.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が 43.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「使う必要はない」が 43.1%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が 23.3%となっている。

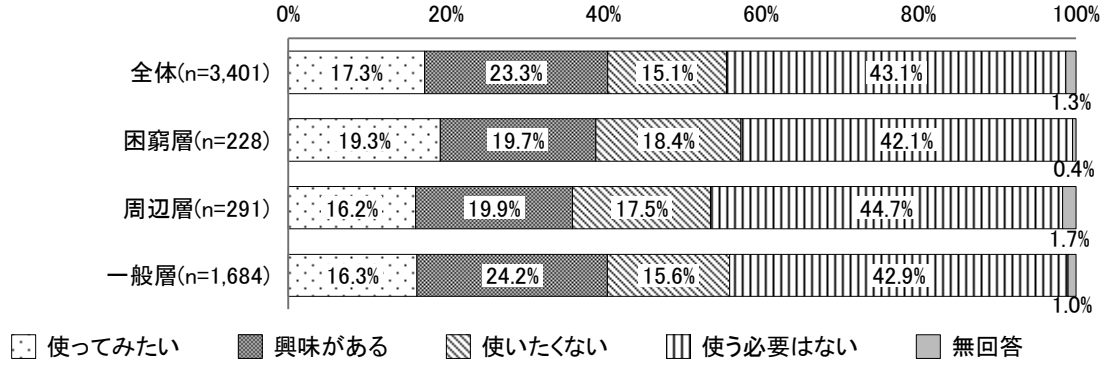
「困窮層」では、「使う必要はない」が 42.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が 44.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が 42.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 378　大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所：単数回答（Q34E）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（有意差なし）



6） なんでも相談できる場所

小学生の「全体」では、「使う必要はない」が 44.5%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が 23.0%となっている。

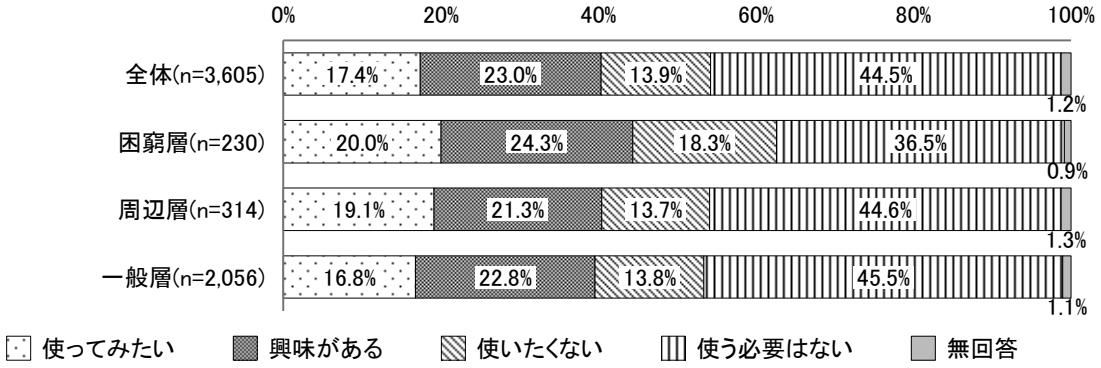
「困窮層」では、「使う必要はない」が 36.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が 44.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が 45.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「使う必要はない」が 51.9%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が 22.3%となっている。

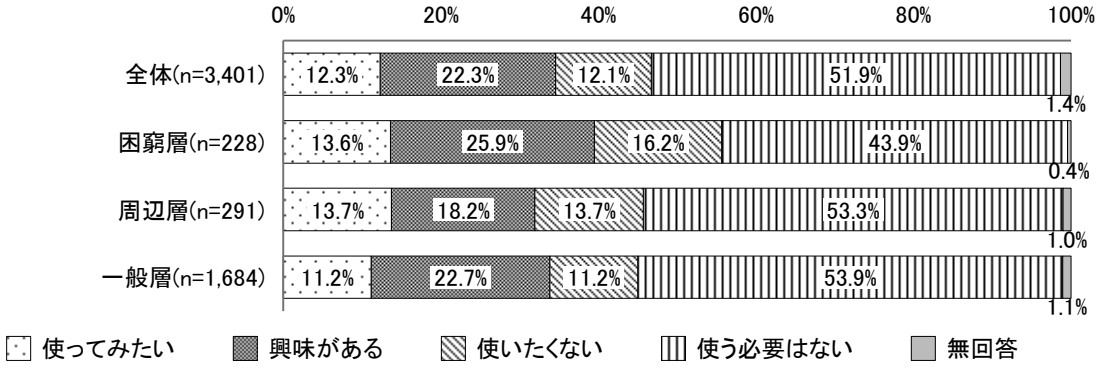
「困窮層」では、「使う必要はない」が 43.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が 53.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が 53.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 379　なんでも相談できる場所：単数回答（Q34F）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.05）



7)　困ったときに自分のところまできて相談にのってくれる人

小学生の「全体」では、「使う必要はない」が 41.1%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が 23.8%となっている。

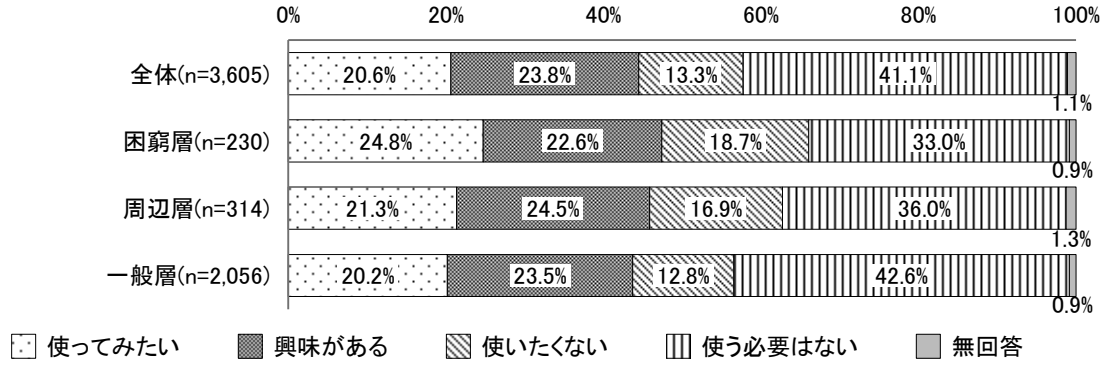
「困窮層」では、「使う必要はない」が 33.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が 36.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が 42.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「使う必要はない」が 50.0%でもっとも割合が高く、次いで「興味がある」が 21.7%となっている。

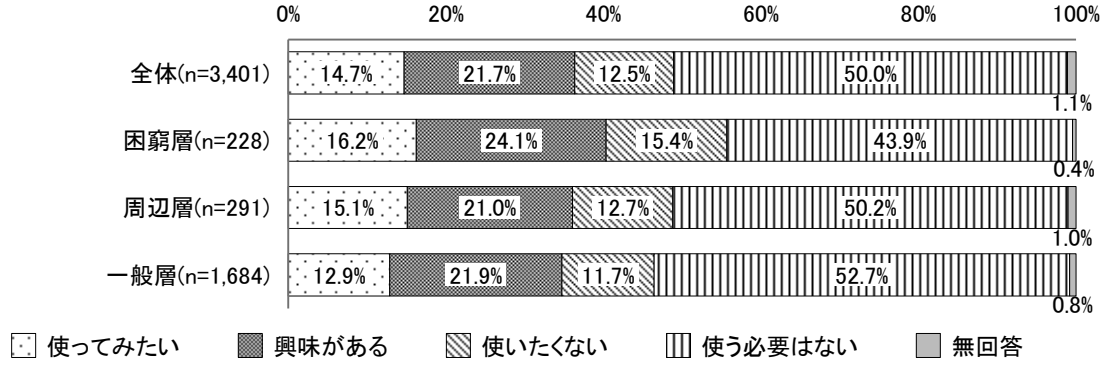
「困窮層」では、「使う必要はない」が 43.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「使う必要はない」が 50.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「使う必要はない」が 52.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 380　困ったときに自分のところまできて相談にのってくれる人：単数回答（Q34G）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.05）



＜中学生＞（有意差なし）



（１１） 新型コロナウイルス感染症の影響

1） コロナ流行頃の生活状況_学校の授業以外で勉強する時間

小学生の「全体」では、「変わらない」が 49.3%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 29.2%となっている。

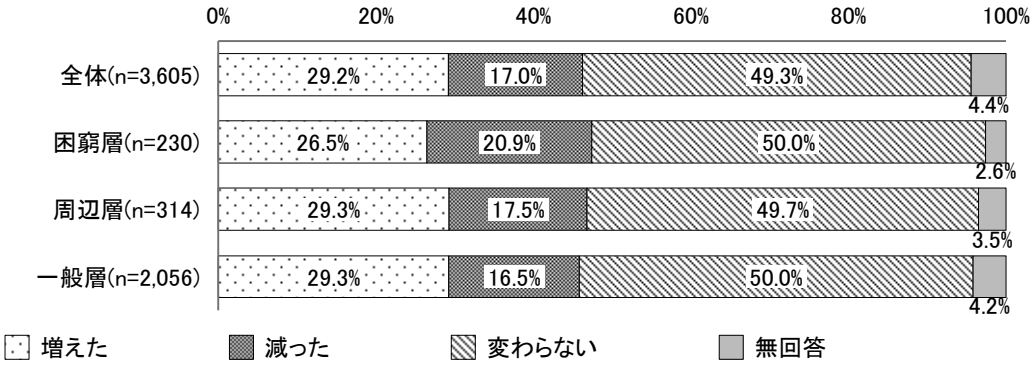
「困窮層」では、「変わらない」が 50.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 49.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 50.0%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 48.1%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 28.2%となっている。

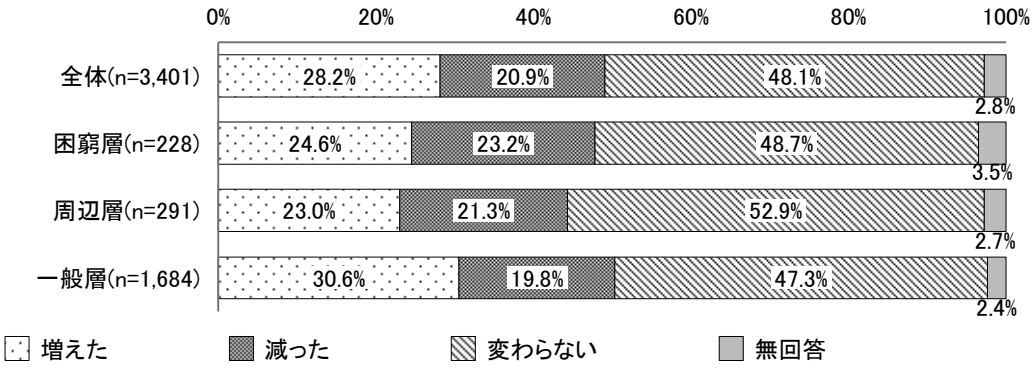
「困窮層」では、「変わらない」が 48.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 52.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 47.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 381 コロナ流行頃の生活状況_学校の授業以外で勉強する時間：単数回答（Q35A）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.05）



2) コロナ流行頃の生活状況_学校の授業がわからないと感じること

小学生の「全体」では、「変わらない」が 56.1%でもっとも割合が高く、次いで「減った」が 21.4%となっている。

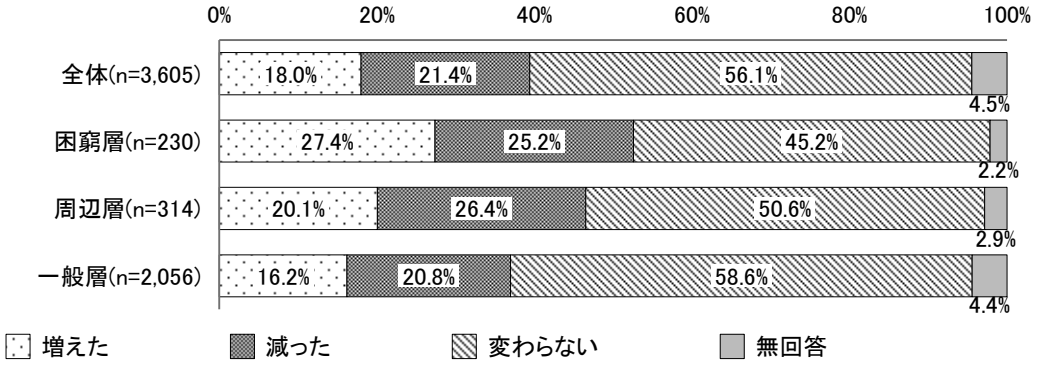
「困窮層」では、「変わらない」が 45.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 50.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 58.6%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 60.4%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 27.8%となっている。

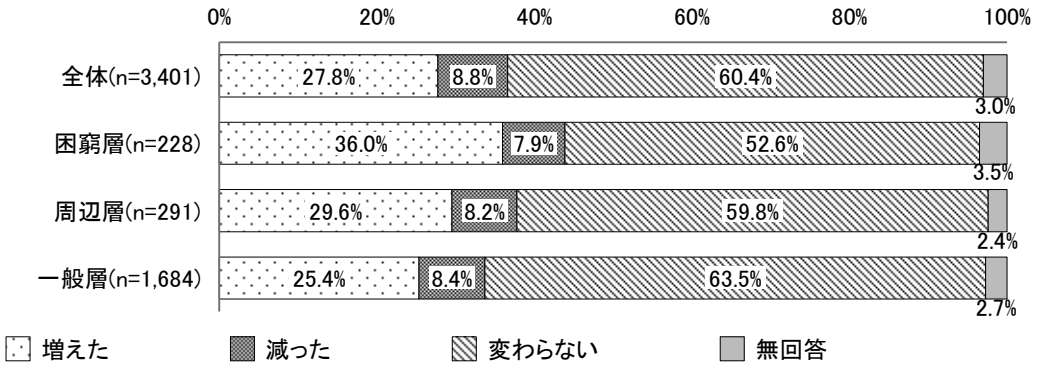
「困窮層」では、「変わらない」が 52.6%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 59.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 63.5%でもっとも割合が高くなっている。

図表 382　コロナ流行頃の生活状況_学校の授業がわからないと感じること：単数回答（Q35B）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



3) コロナ流行頃の生活状況_食事を抜く回数

小学生の「全体」では、「変わらない」が 81.5%でもっとも割合が高く、次いで「減った」が 9.7%となっている。

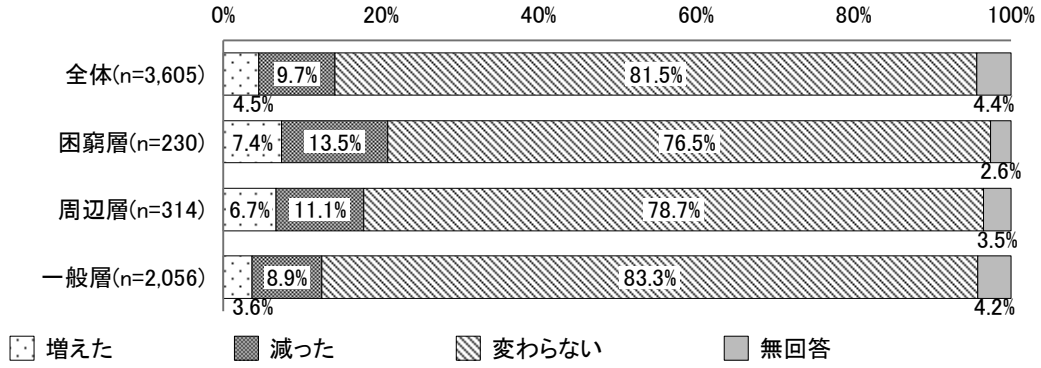
「困窮層」では、「変わらない」が 76.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 78.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 83.3%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 83.8%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 7.6%となっている。

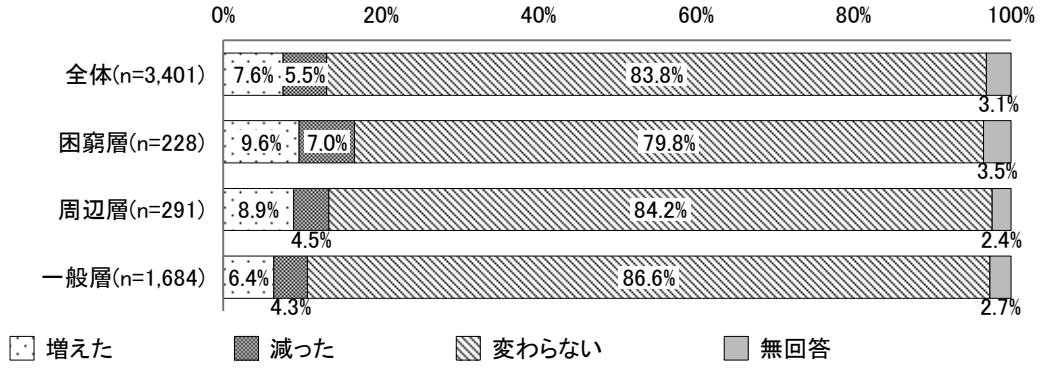
「困窮層」では、「変わらない」が 79.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 84.2%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 86.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 383　コロナ流行頃の生活状況_食事を抜く回数：単数回答（Q35C）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（有意差なし）



4) コロナ流行頃の生活状況_夜遅くまで起きている回数

小学生の「全体」では、「変わらない」が 61.3%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 20.7%となっている。

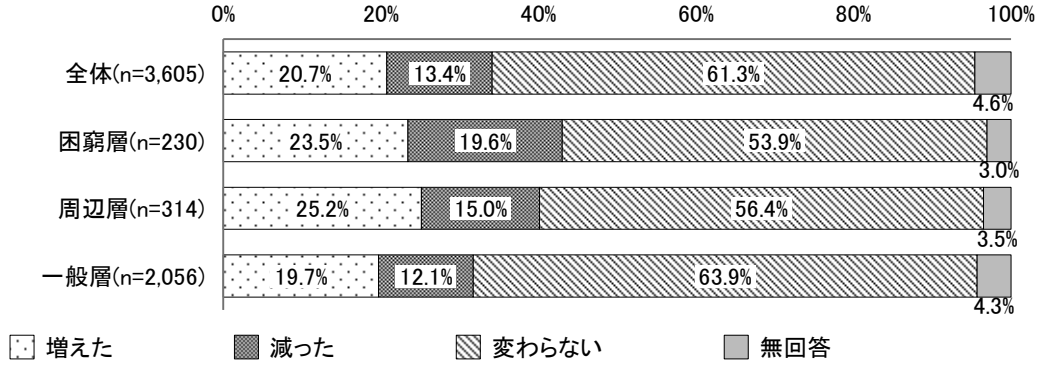
「困窮層」では、「変わらない」が 53.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 56.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 63.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 56.6%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 34.7%となっている。

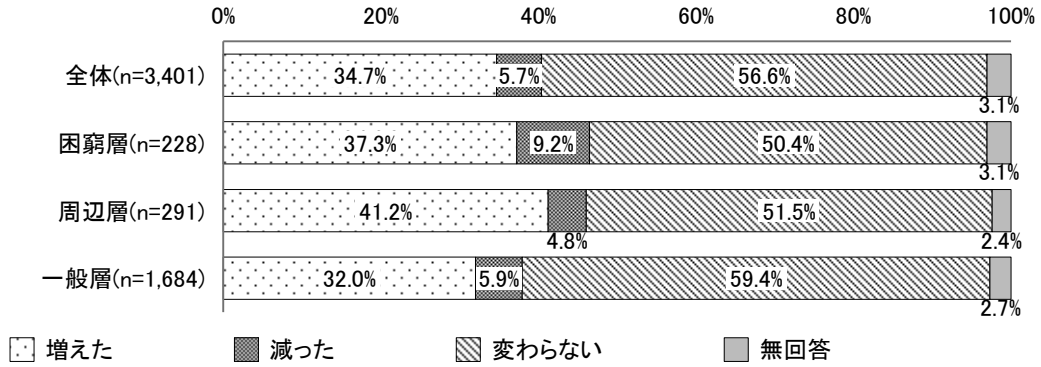
「困窮層」では、「変わらない」が 50.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 51.5%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 59.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 384　コロナ流行頃の生活状況_夜遅くまで起きている回数：単数回答（Q35D）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



5) コロナ流行頃の生活状況_親以外の大人や友達と話をすること

小学生の「全体」では、「変わらない」が 39.6%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 32.6%となっている。

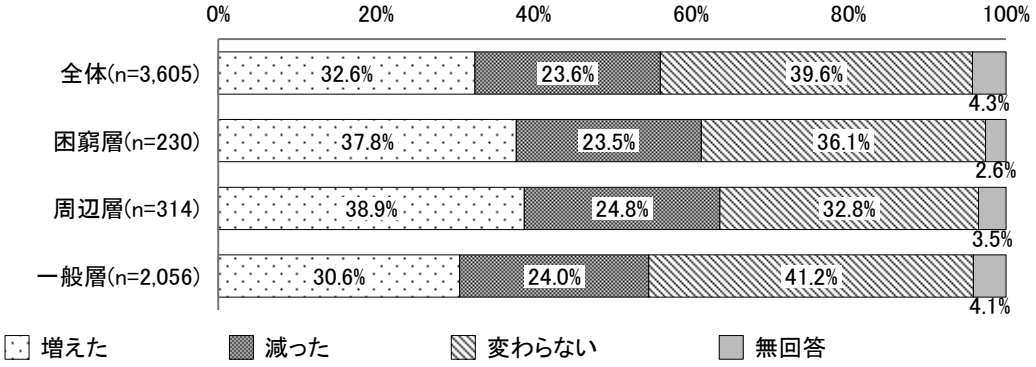
「困窮層」では、「増えた」が 37.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「増えた」が 38.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 41.2%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 48.1%でもっとも割合が高く、次いで「減った」が 27.7%となっている。

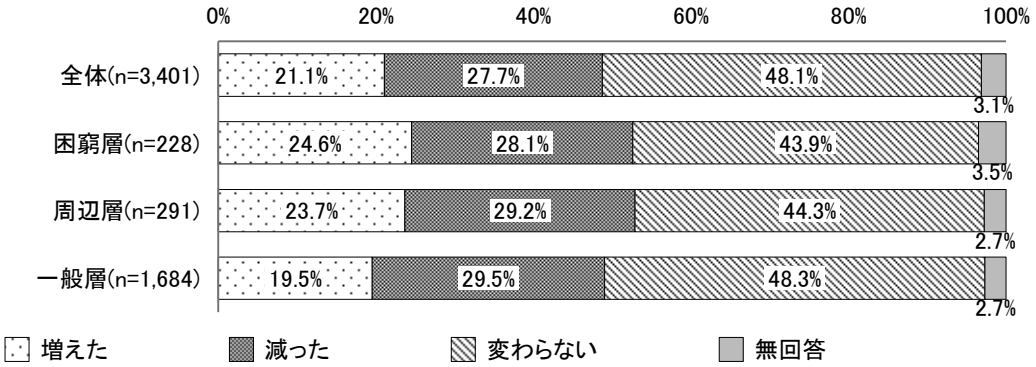
「困窮層」では、「変わらない」が 43.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 44.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 48.3%でもっとも割合が高くなっている。

図表 385　コロナ流行頃の生活状況_親以外の大人や友達と話をすること：単数回答（Q35E）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（有意差なし）



6） コロナ流行頃の生活状況_イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

小学生の「全体」では、「変わらない」が 53.6%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 24.7%となっている。

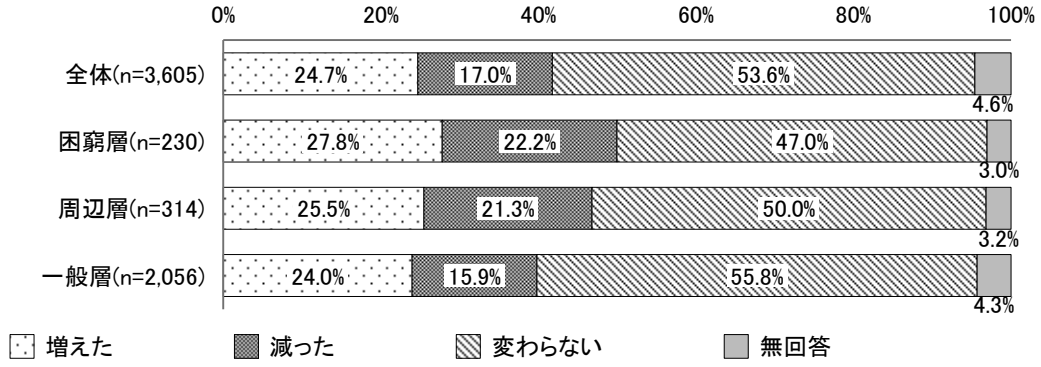
「困窮層」では、「変わらない」が 47.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 50.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 55.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 59.7%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 27.9%となっている。

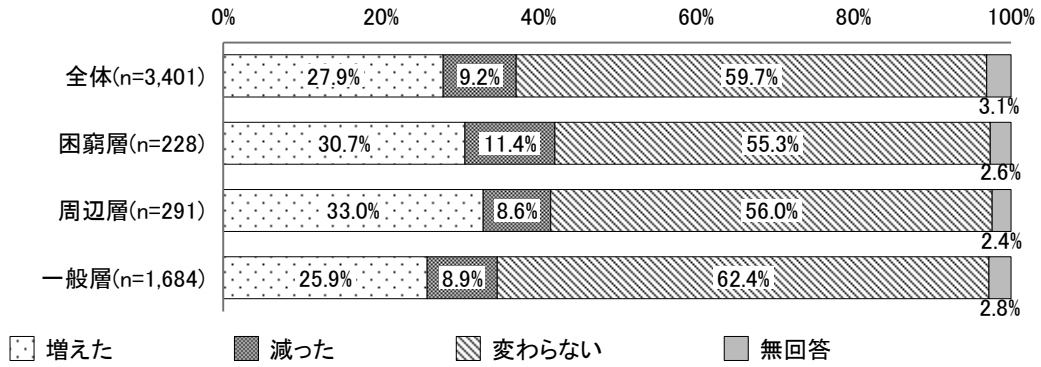
「困窮層」では、「変わらない」が 55.3%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 56.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 62.4%でもっとも割合が高くなっている。

図表 386　コロナ流行頃の生活状況_イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと：単数回答（Q35F）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.05）



7)　現在の生活状況_学校の授業以外で勉強する時間

小学生の「全体」では、「変わらない」が 44.7%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 40.4%となっている。

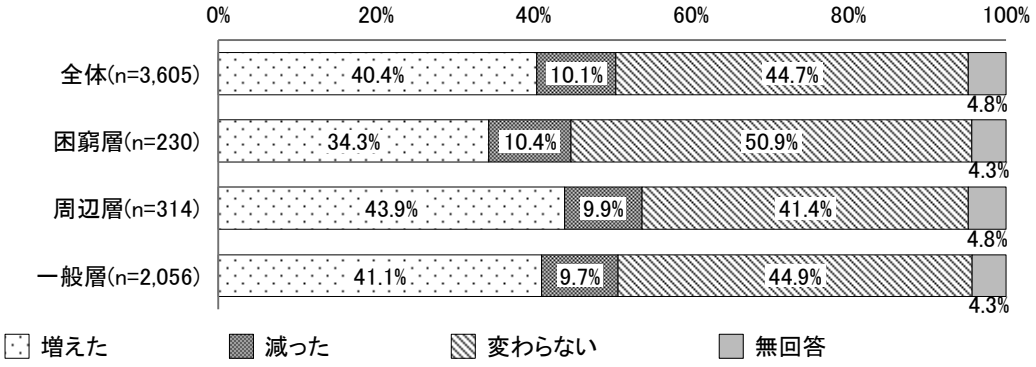
「困窮層」では、「変わらない」が 50.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「増えた」が 43.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 44.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 43.7%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 40.8%となっている。

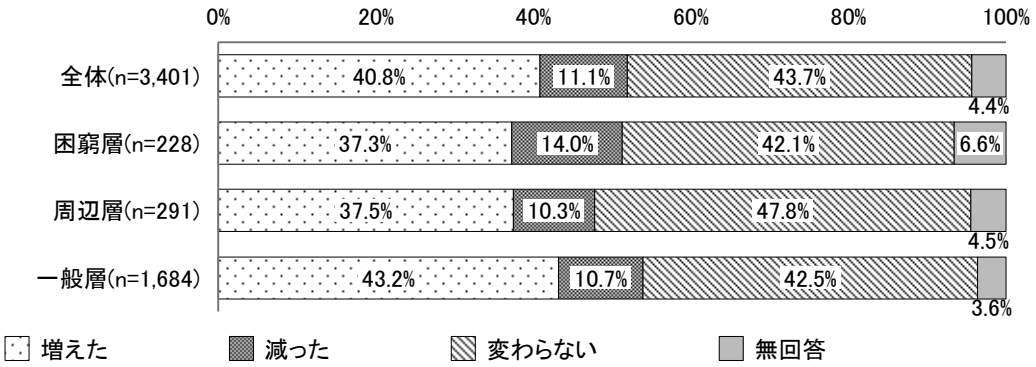
「困窮層」では、「変わらない」が 42.1%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 47.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「増えた」が 43.2%でもっとも割合が高くなっている。

図表 387　現在の生活状況_学校の授業以外で勉強する時間：単数回答（Q36A）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



8)　現在の生活状況_学校の授業がわからないと感じること

小学生の「全体」では、「変わらない」が 51.0%でもっとも割合が高く、次いで「減った」が 28.3%となっている。

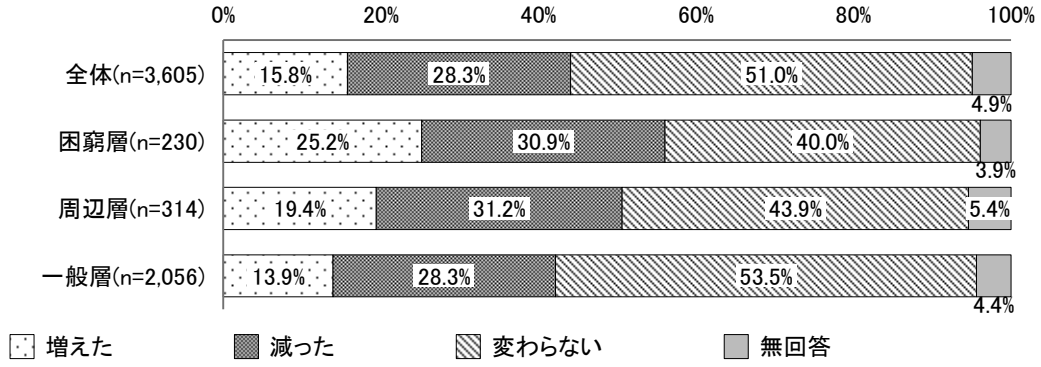
「困窮層」では、「変わらない」が 40.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 43.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 53.5%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 54.5%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 21.2%となっている。

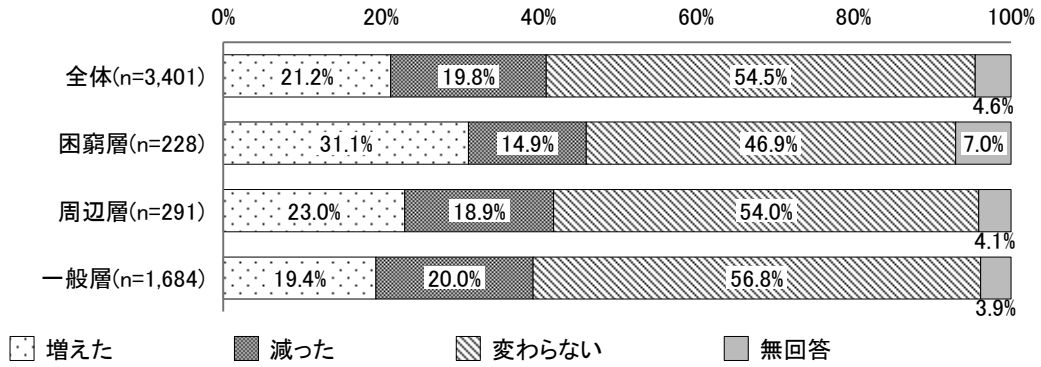
「困窮層」では、「変わらない」が 46.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 54.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 56.8%でもっとも割合が高くなっている。

図表 388　現在の生活状況_学校の授業がわからないと感じること：単数回答（Q36B）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（p<.01）



9） 現在の生活状況_食事を抜く回数

小学生の「全体」では、「変わらない」が 79.4%でもっとも割合が高く、次いで「減った」が 12.0%となっている。

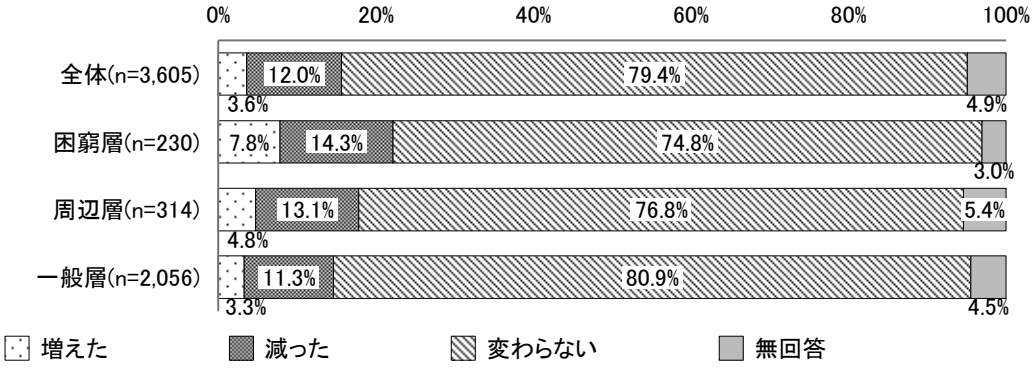
「困窮層」では、「変わらない」が 74.8%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 76.8%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 80.9%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 80.6%でもっとも割合が高く、次いで「減った」が 7.9%となっている。

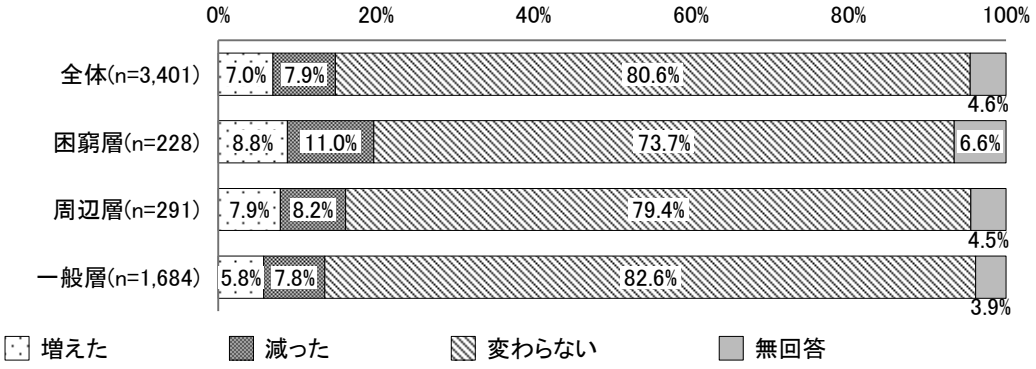
「困窮層」では、「変わらない」が 73.7%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 79.4%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 82.6%でもっとも割合が高くなっている。

図表 389　現在の生活状況_食事を抜く回数：単数回答（Q36C）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（有意差なし）



10）現在の生活状況_夜遅くまで起きている回数

小学生の「全体」では、「変わらない」が 56.0%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 26.0%となっている。

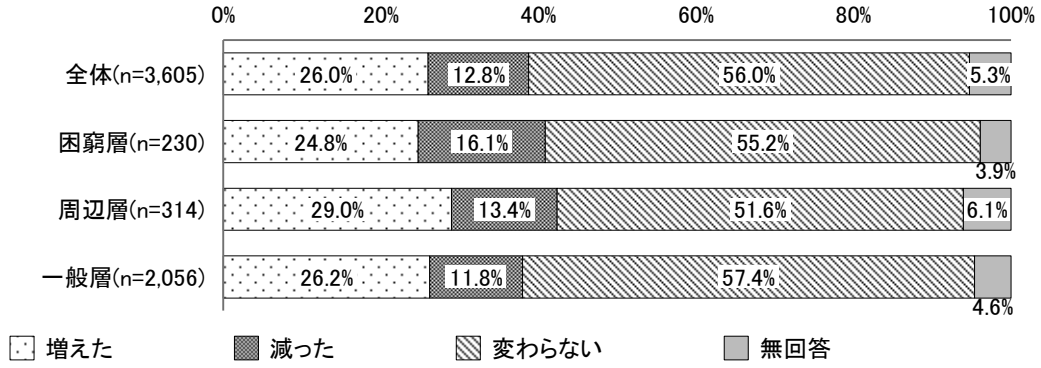
「困窮層」では、「変わらない」が 55.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 51.6%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 57.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 48.8%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 38.9%となっている。

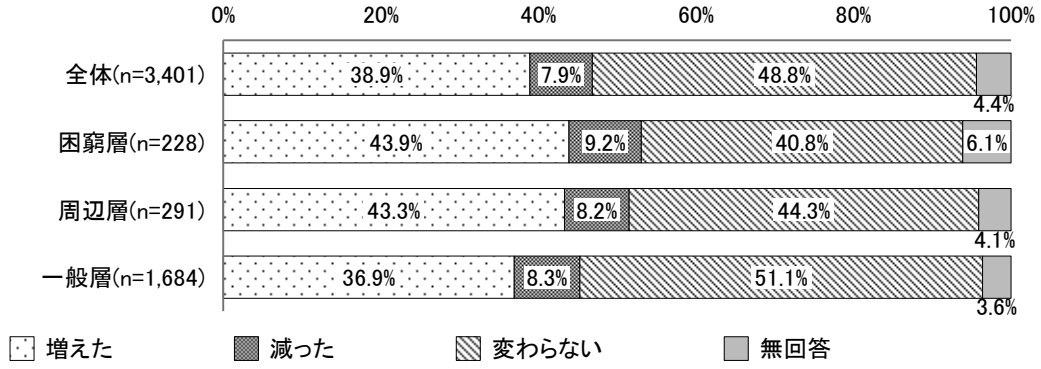
「困窮層」では、「増えた」が 43.9%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 44.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 51.1%でもっとも割合が高くなっている。

図表 390　現在の生活状況_夜遅くまで起きている回数：単数回答（Q36D）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（p<.05）



11）現在の生活状況_親以外の大人や友達と話をすること

小学生の「全体」では、「増えた」が 49.5%でもっとも割合が高く、次いで「変わらない」が 39.4%となっている。

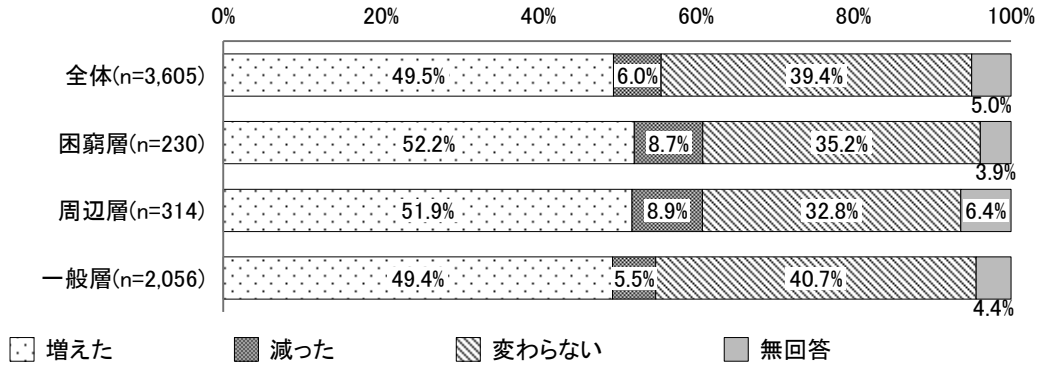
「困窮層」では、「増えた」が 52.2%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「増えた」が 51.9%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「増えた」が 49.4%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 47.4%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 41.5%となっている。

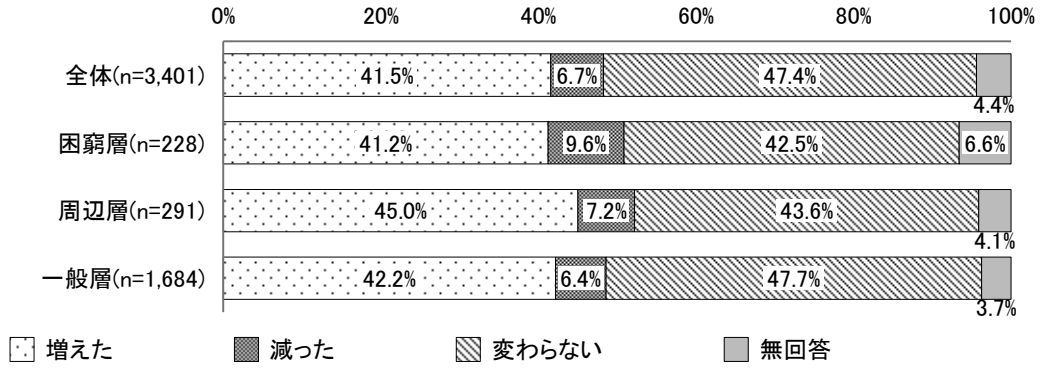
「困窮層」では、「変わらない」が 42.5%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「増えた」が 45.0%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 47.7%でもっとも割合が高くなっている。

図表 391　現在の生活状況_親以外の大人や友達と話をすること：単数回答（Q36E）（生活困難度別）

＜小学生＞（p<.01）



＜中学生＞（有意差なし）



12）現在の生活状況_イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

小学生の「全体」では、「変わらない」が 53.6%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 20.6%となっている。

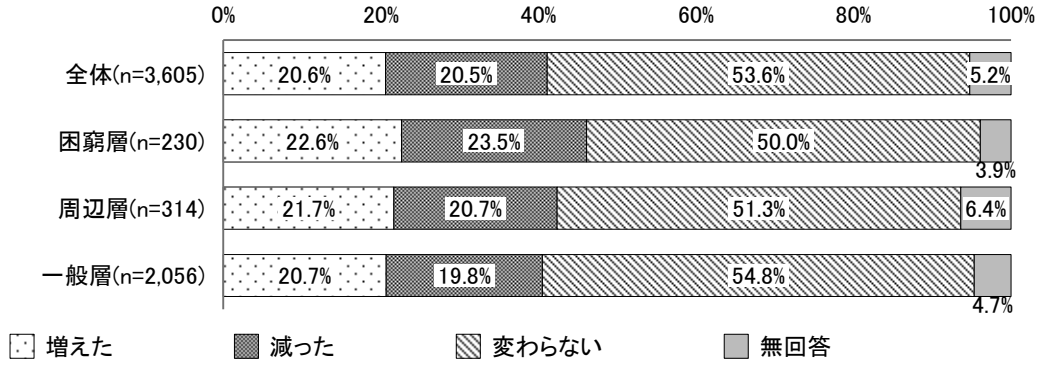
「困窮層」では、「変わらない」が 50.0%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 51.3%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 54.8%でもっとも割合が高くなっている。

中学生の「全体」では、「変わらない」が 58.4%でもっとも割合が高く、次いで「増えた」が 26.1%となっている。

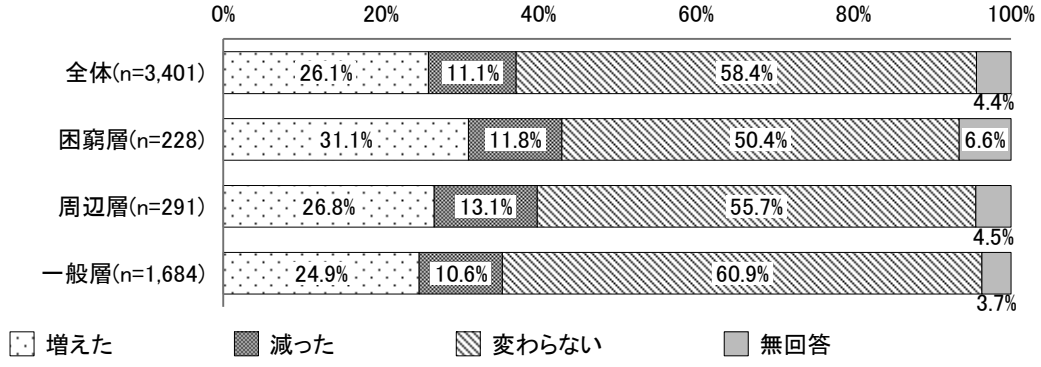
「困窮層」では、「変わらない」が 50.4%でもっとも割合が高くなっている。「周辺層」では、「変わらない」が 55.7%でもっとも割合が高くなっている。「一般層」では、「変わらない」が 60.9%でもっとも割合が高くなっている。

図表 392　現在の生活状況_イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと：単数回答（Q36F）（生活困難度別）

＜小学生＞（有意差なし）



＜中学生＞（有意差なし）



Ⅳ. テーマ別集計

１．経年比較

本節では、今回実施した調査（以下、R6 調査）と、令和元年度「千葉県子どもの生活実態調査」（以下、R1 調査）の結果を比較し、特に差がみられた項目についてその内容を掲載する。

（１）分析結果

1） 生活困難度の分布状況の変化

生活困難度の分布状況（全体）の変化をみると、Ｒ１調査に比べて R6 調査では、「困窮層」の割合が 6.9%から 9.7%に増加し、「一般層」の割合が 80.8%から 77.5%に低下している。

図表 393 【R6 調査】困窮層・周辺層・一般層の割合の状況（保護者票ベース）（再掲）

	全体		小学５年生		中学２年生	
	人	割合	人	割合	人	割合
① 困窮層	522	9.7%	264	9.0%	257	10.4%
② 周辺層	694	12.8%	360	12.3%	333	13.4%
小計（①+②）	1216	22.5%	624	21.4%	590	23.8%
③ 一般層	4190	77.5%	2297	78.6%	1890	76.2%
合計（①+②+③）	5406	100.0%	2921	100.0%	2480	100.0%

図表 394 【R1 調査】困窮層・周辺層・一般層の割合の状況（保護者票ベース）

	全体		小学５年生		中学２年生	
	人	割合	人	割合	人	割合
① 困窮層	337	6.9%	183	6.1%	154	8.2%
② 周辺層	600	12.3%	342	11.4%	258	13.8%
小計（①+②）	937	19.2%	525	17.5%	412	22.0%
③ 一般層	3932	80.8%	2473	82.5%	1459	78.0%
合計（①+②+③）	4869	100.0%	2998	100.0%	1871	100.0%

また、生活困難に係る３要素の構成割合（全体）をみると、「低所得」に該当する割合が 4.1%から 5.4%へ、「家計の逼迫」に該当する割合が 12.4%から 14.1%へ、「こどもの体験や所有物の欠如」に該当する割合が 10.6%から 14.6%へそれぞれ増加している。なお、R1 調査では税・社会保険料引き前の所得に各種給付を加えた世帯所得を用いて「低所得」を算出したが、R6 調査では各種給付額を把握していないため、「低所得」に該当する世帯の割合がやや高めに出ている可能性があることに留意が必要である。

図表 395 【R6 調査】生活困難に係る３要素の構成割合（保護者票ベース）（再掲）

	全体		小学５年生		中学２年生	
	人	割合	人	割合	人	割合
①低所得	294	5.4%	141	4.8%	151	6.1%
②家計の逼迫	763	14.1%	407	13.9%	356	14.4%
③こどもの体験や所有物の欠如	790	14.6%	394	13.5%	395	15.9%

図表 396　【R1 調査】生活困難に係る３要素の構成割合（保護者票ベース）

	全体		小学５年生		中学２年生	
	n	割合	n	割合	n	割合
①低所得	201	4.1%	113	3.8%	88	4.7%
②家計の逼迫	606	12.4%	340	11.3%	266	14.2%
③こどもの体験や所有物の欠如	516	10.6%	282	9.4%	234	12.5%

困窮層・周辺層の割合の詳細をみると、「①低所得＋②家計の逼迫＋③こどもの体験や所有物欠如」の３つの該当する者、「②家計の逼迫＋③こどもの体験や所有物欠如」の２つに該当する者、「③こどもの体験や所有物欠如」のみ該当する者の割合がそれぞれ約１ポイントずつ増加している。

図表 397　【R6 調査】困窮層・周辺層の割合（全体・保護者票ベース）（再掲）

			人	%	人	%
困窮層	３つに該当	①低所得＋②家計の逼迫＋③こどもの体験や所有物欠如	109	2.0%	522	9.7%
	２つに該当	②　低所得＋②家計の逼迫	28	0.5%		
		①低所得＋③こどもの体験や所有物欠如	50	0.9%		
		②家計の逼迫＋③こどもの体験や所有物欠如	335	6.2%		
周辺層	１つに該当	①　低所得	107	2.0%	694	12.8%
		②　家計の逼迫	291	5.4%		
		③　こどもの体験や所有物欠如	296	5.5%		
困窮層と周辺層の計					1216	22.5%

図表 398　【R1 調査】困窮層・周辺層の割合（全体・保護者票ベース）

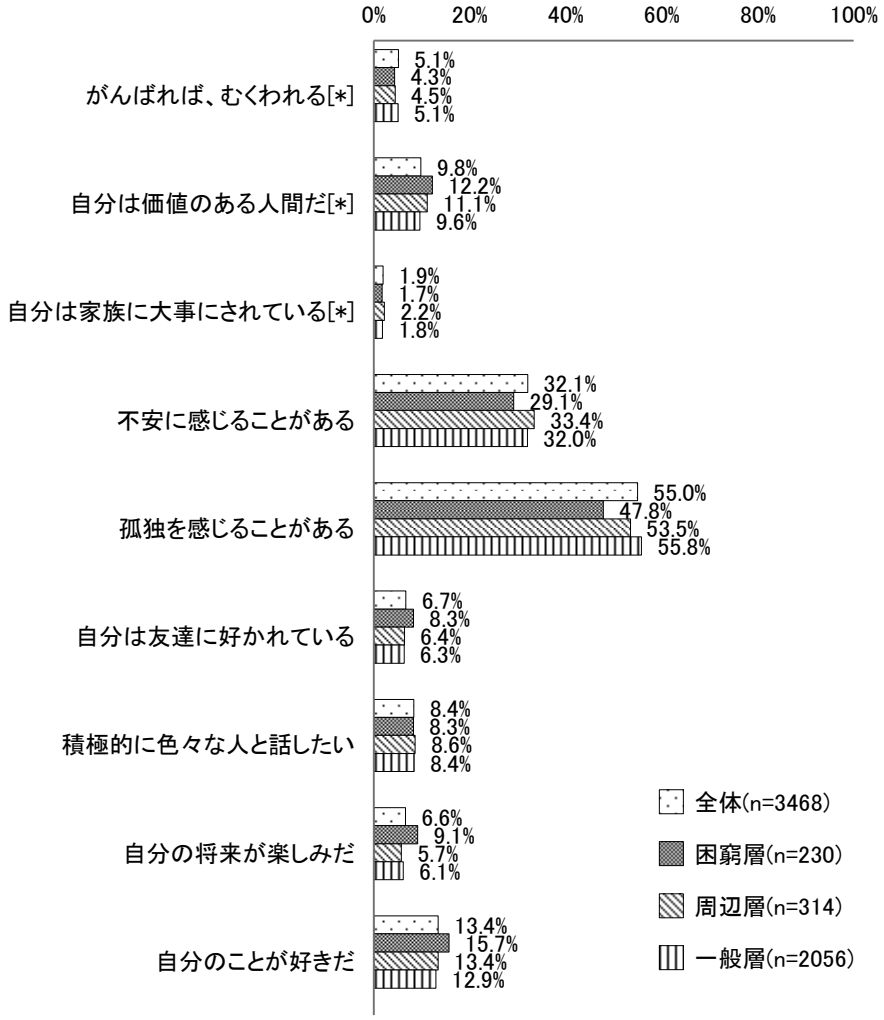
			人	%	人	%
困窮層	３つに該当	①低所得＋②家計の逼迫＋③こどもの体験や所有物欠如	49	1.0%	337	6.9%
	２つに該当	③　低所得＋②家計の逼迫	28	0.6%		
		①低所得＋③こどもの体験や所有物欠如	26	0.5%		
		②家計の逼迫＋③こどもの体験や所有物欠如	234	4.8%		
周辺層	１つに該当	①　低所得	98	2.0%	600	12.3%
		②　家計の逼迫	295	6.1%		
		③　こどもの体験や所有物欠如	207	4.3%		
困窮層と周辺層の計					937	19.2%

2)　こどもの自己肯定感の変化

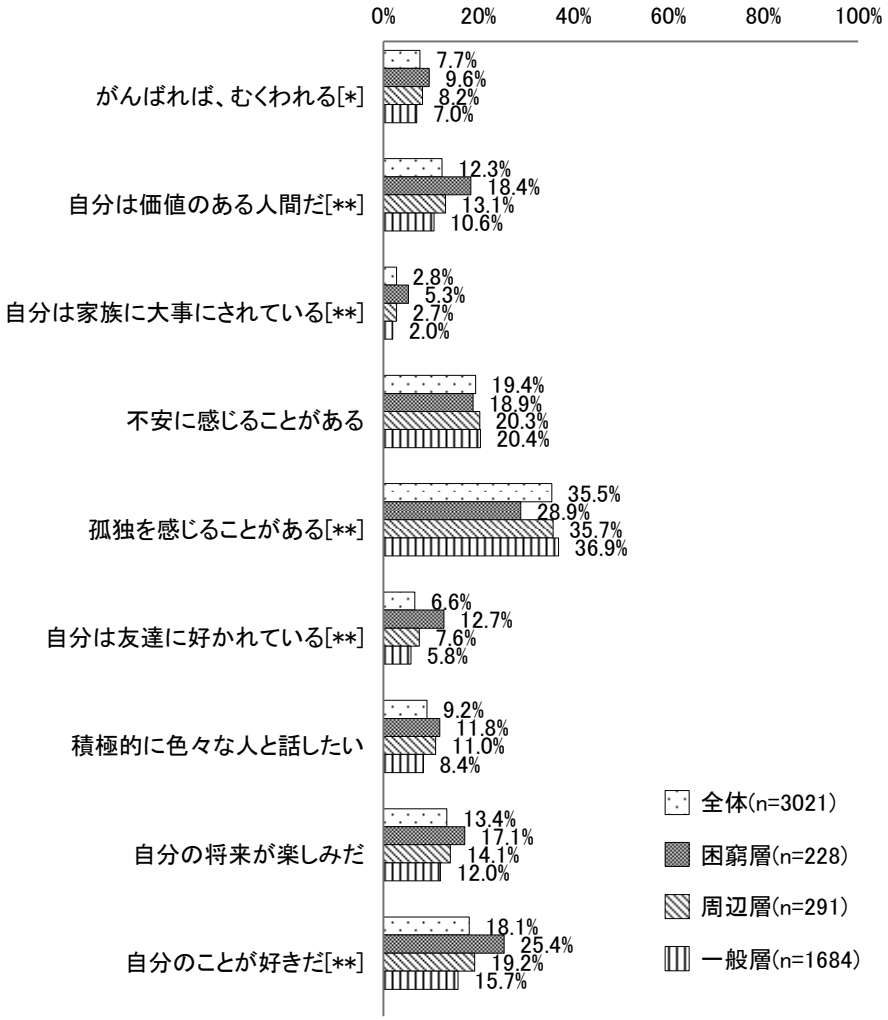
こどもの自己肯定感に関する項目について、「思わない」と回答した割合をみると、R1 調査に比べて R6 調査では、小中学生いずれも、多くの項目で困窮層と周辺層・一般層の差が縮小している傾向がみられる。特に小学生においては、R1 調査ではすべての項目で生活困難度別に有意な差がみられたが、R6 調査では「がんばれば、むくわれる」「自分は価値のある人間だ」「自分は家族に大事にされている」の３項目のみとなっている。

図表 399　【R6 調査】生活困難度別　こどもの自己肯定感（「思わない」の割合）
：単数回答（こども Q33A~I）

＜小学生＞

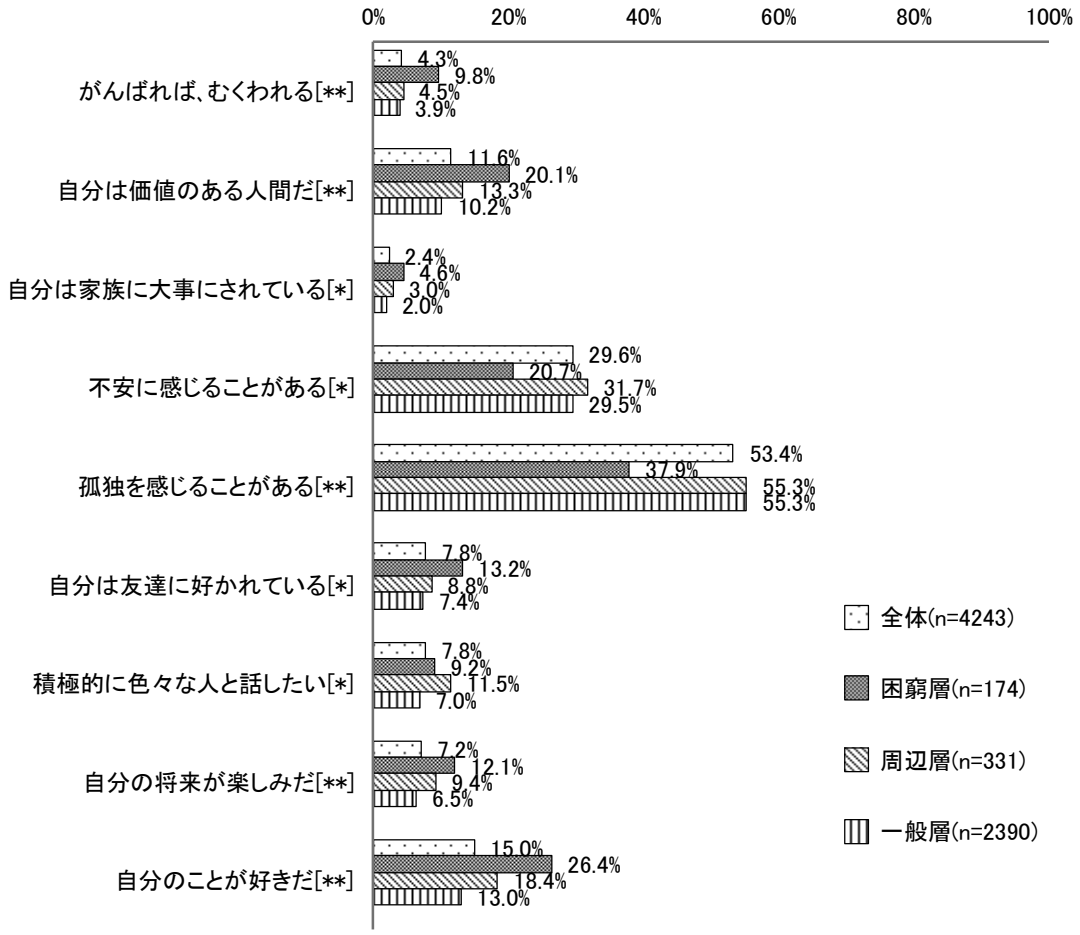


＜中学生＞

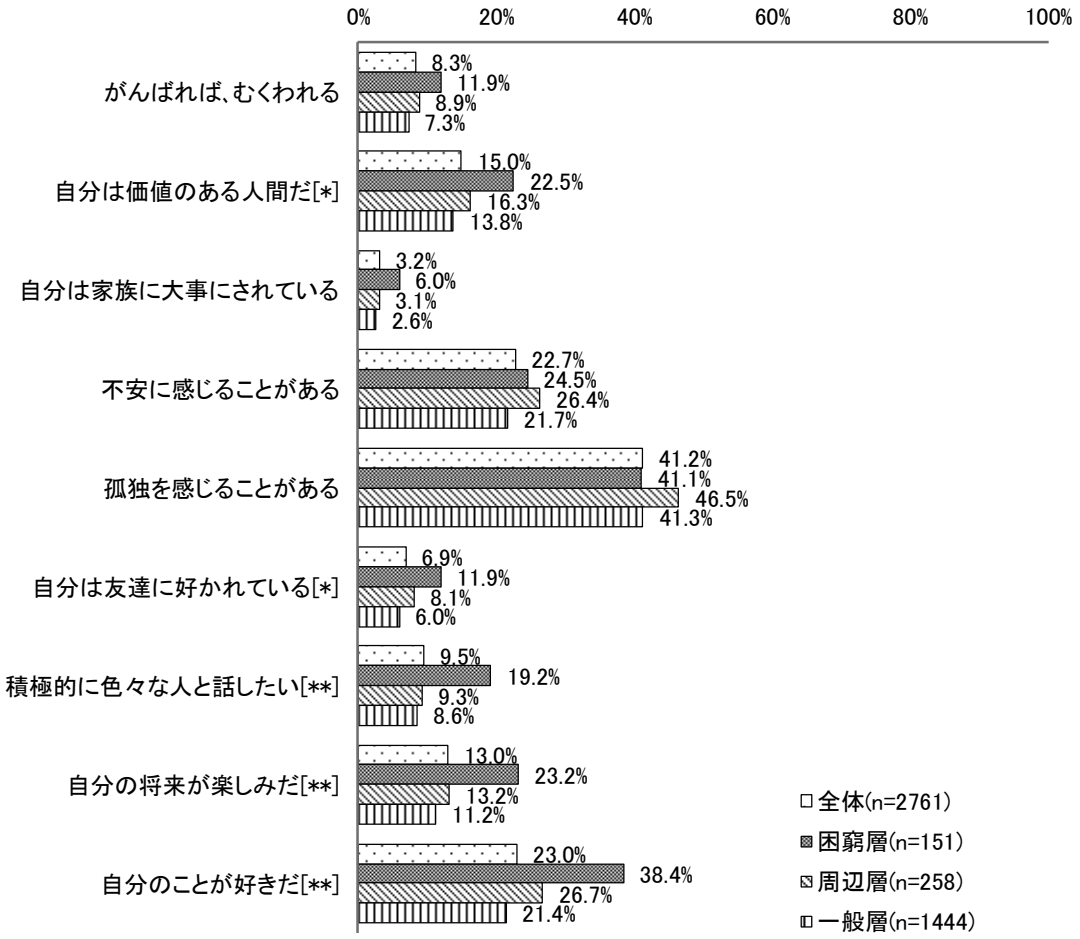

0%
20%
40%
60%
80%
100%
がんばれば、むくわれる[*]
7.7%
9.6%
8.2%
7.0%
自分は価値のある人間だ[**]
12.3%
18.4%
13.1%
10.6%
自分は家族に大事にされている[**]
2.8%
5.3%
2.7%
2.0%
不安に感じることがある
19.4%
18.9%
20.3%
20.4%
孤独を感じることがある[**]
35.5%
28.9%
35.7%
36.9%
自分は友達に好かれている[**]
6.6%
12.7%
7.6%
5.8%
積極的に色々な人と話したい
9.2%
11.8%
11.0%
8.4%
自分の将来が楽しみだ
13.4%
17.1%
14.1%
12.0%
自分のことが好きだ[**]
18.1%
25.4%
19.2%
15.7%
全体(n=3021)
困窮層(n=228)
周辺層(n=291)
一般層(n=1684)

図表 400　【R1 調査】生活困難度別　こどもの自己肯定感（「思わない」の割合）
：単数回答（こども Q38A~I）

＜小学生＞



＜中学生＞

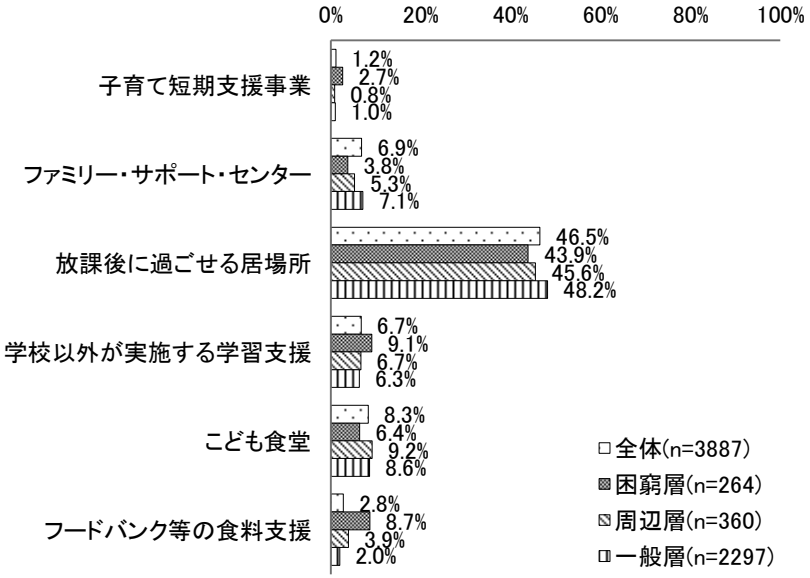

0%
20%
40%
60%
80%
100%
がんばれば、むくわれる
8.3%
11.9%
8.9%
7.3%
自分は価値のある人間だ[*]
15.0%
22.5%
16.3%
13.8%
自分は家族に大事にされている
3.2%
6.0%
3.1%
2.6%
不安に感じることがある
22.7%
24.5%
26.4%
21.7%
孤独を感じることがある
41.2%
41.1%
46.5%
41.3%
自分は友達に好かれている[*]
6.9%
11.9%
8.1%
6.0%
積極的に色々な人と話したい[**]
9.5%
19.2%
9.3%
8.6%
自分の将来が楽しみだ[**]
13.0%
23.2%
13.2%
11.2%
自分のことが好きだ[**]
23.0%
38.4%
26.7%
21.4%
全体(n=2761)
困窮層(n=151)
周辺層(n=258)
一般層(n=1444)

3)　利用したことがある子育て支援サービスの変化

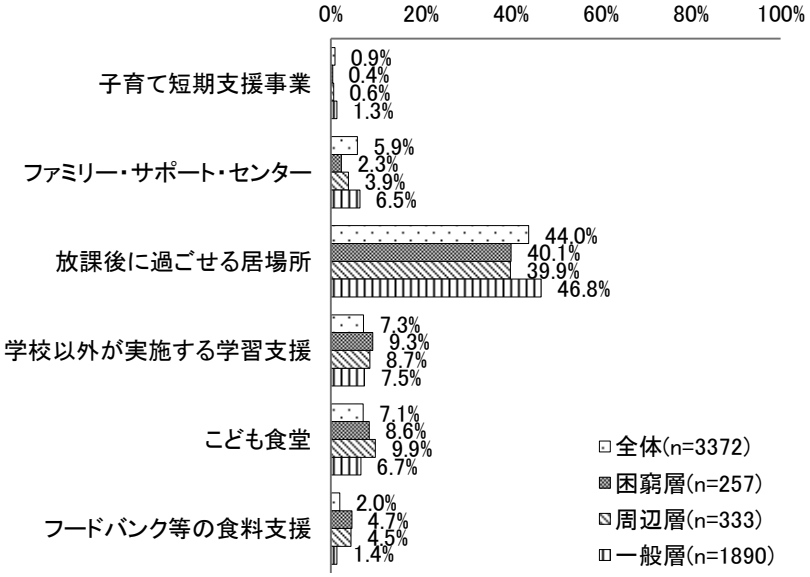
子育て支援サービスについて「利用したことがある」と回答した割合をみると、R1 調査に比べて、R6 調査では多くの項目について割合が高まっており、全体の割合をみると、特に「放課後に過ごせる居場所」（小学生：35.8%から 46.5%、中学生：35.8%から 44.0%）、「こども食堂」（小学生：3.5%から 8.3%、中学生：1.8%から 7.1%）については５～10 ポイント程度の増加がみられる。

図表 401　【R6 調査】生活困難度別　子育て支援サービスの利用状況
（「利用したことがある」の割合）：単数回答（保護者 Q46）

＜小学生＞

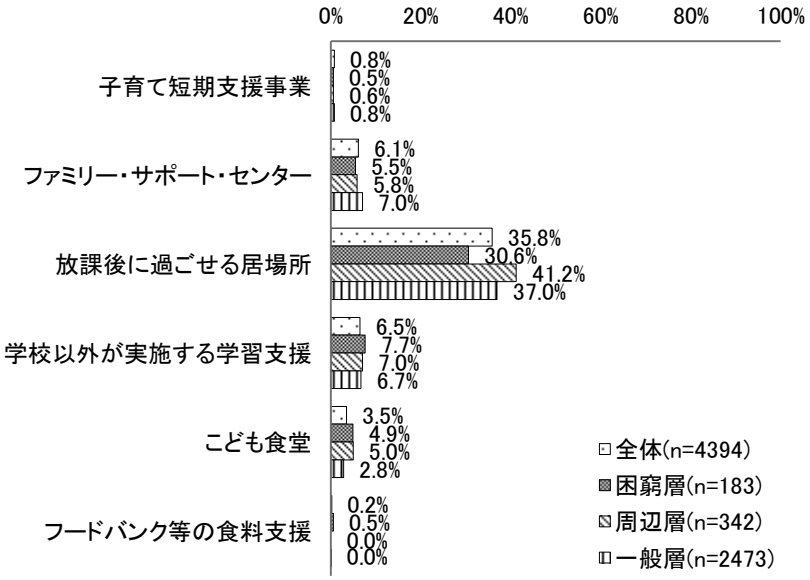


＜中学生＞

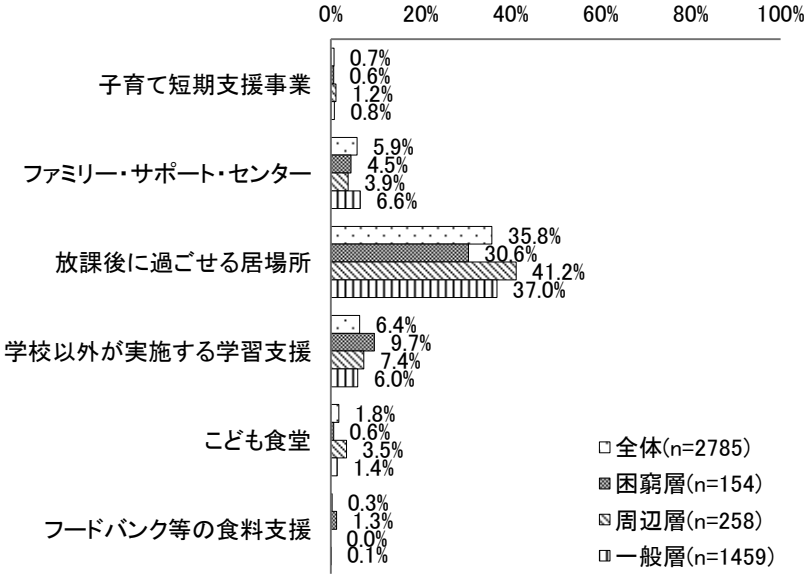


図表 402　【R1 調査】生活困難度別　子育て支援サービスの利用状況
（「利用したことがある」の割合）：単数回答（保護者 Q55）

＜小学生＞



＜中学生＞



（2）考察

○　以下では、R1 調査と R6 調査の変化について整理する。

○　生活困難度については、R1 調査に比べて R6 調査では、困窮層がやや増加し、一般層がやや減少していた。生活困難の構成要素別にみると、「低所得」に該当する割合が 4.1%から 5.4%へ、「家計の逼迫」に該当する割合が 12.4%から 14.1%へ、「こどもの体験や所有物の欠如」に該当する割合が 10.6%から 14.6%へそれぞれ増加していた。

○　このことから、コロナ禍を経て、直接的な収入の格差自体はそれほど広がっていないものの、家計への影響やこどもの体験・所有物といった間接的な格差が拡大しているという可能性が示唆された。

○　次に、こどもの自己肯定感の変化をみると、特に小学生において、生活困難度による差が縮小している傾向がうかがえた。こうした改善の背景についての推察は難しいものの、R1 調査以降に「こどもの貧困」へのまなざしが高まり、学校現場等での支援が充実してきた成果といいうるかもしれない。

○　また、子育て支援サービスの利用状況の変化をみると、小中学生いずれも、生活困難度にかかわらず、特に「放課後に過ごせる居場所」と「こども食堂」の利用率が上昇していた。積極的な設置とアウトリーチの成果がみられ、今後もより取組が広がっていくことが期待される。

２．貧困の継続状況別分析

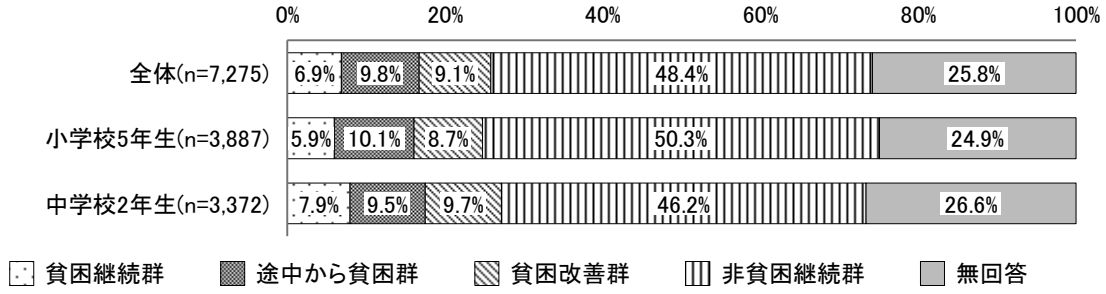
本節では、貧困の継続状況によって、保護者やこどもたちが置かれた状況や課題が異なるかどうかを分析した。

分析にあたっては、生活困難度および保護者票問 42「10 年前の暮らし向き」をもとに、以下のとおり①貧困継続群／②途中から貧困群／③貧困改善群／④非貧困継続群の４区分を作成した。

		保護者問 42　10 年前の暮らし向き	
		やや苦しかった・大変苦しかった	大変ゆとりがあった・ややゆとりがあった・普通
生活困難度	困窮層・周辺層	①貧困継続群	②途中から貧困群
	一般層	③貧困改善群	④非貧困継続群

学年別の貧困継続状況は下記のとおりである。

図表 403　貧困継続状況：単数回答（学年別）



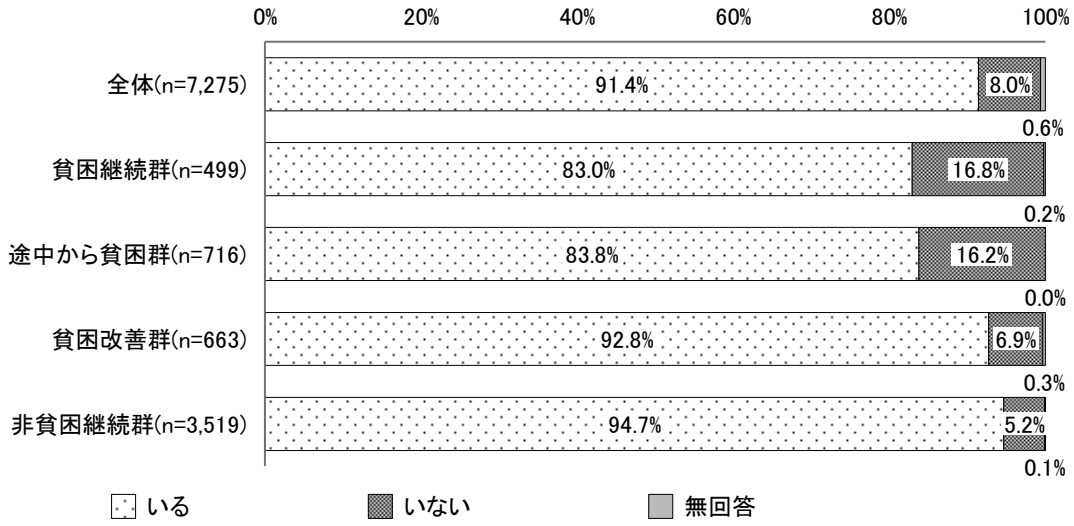
（1）分析結果

1）　【保護者】相談相手、知人等の有無

貧困継続状況別に相談相手、知人等の有無をみると、「困ったとき等、相談できる人」「近隣の、挨拶や日常会話をする知人等」「近隣の、悩みを打ち明けたり、相談することができる知人等」のいずれについても、「貧困継続群」であるほど「いない」とする割合が高くなっている。

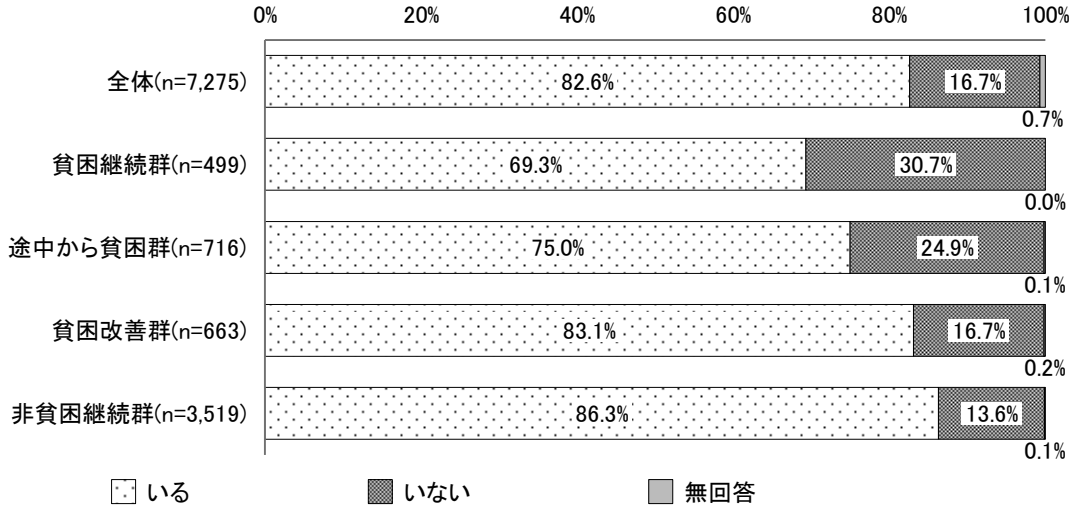
図表 404　貧困継続状況別　困ったとき等、相談できる人の有無：単数回答（保護者 Q36）

（p<.01）



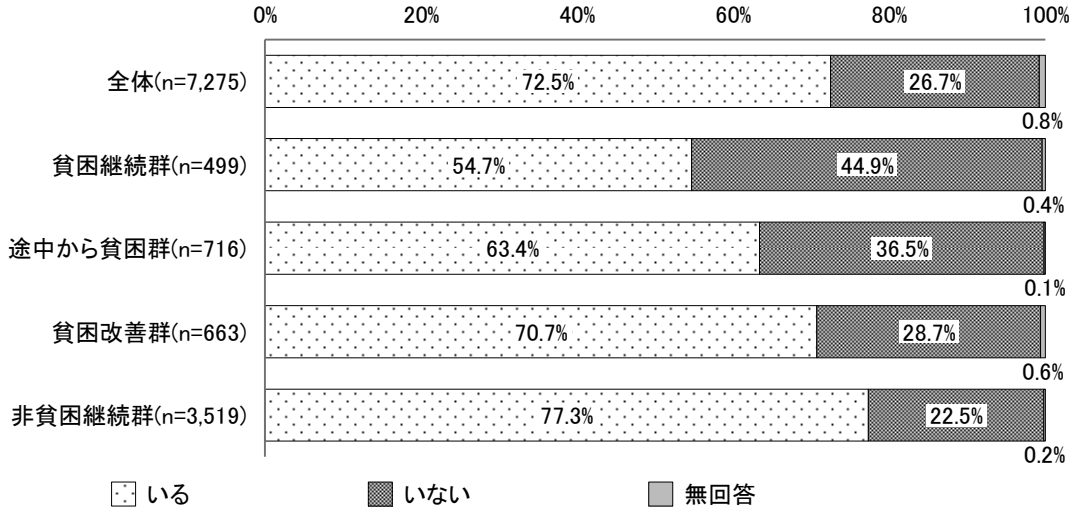
図表 405　貧困継続状況別　近隣の、挨拶や日常会話をする知人等の有無：単数回答（保護者 Q37）

（p<.01）



図表 406　貧困継続状況別　近隣の、悩みを打ち明けたり、相談することができる知人等の有無：単数回答（保護者 Q38）

（p<.01）

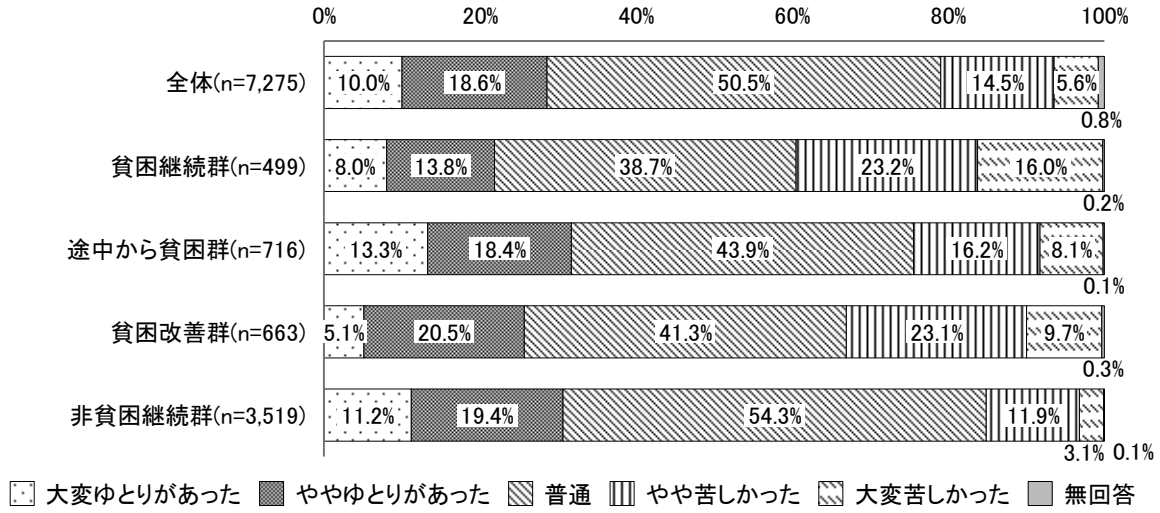


2)　【保護者】15 歳の頃の家庭の暮らし向き

貧困継続状況別に 15 歳の頃の家庭の暮らし向きをみると、15 歳の頃の家庭の暮らし向きが「大変苦しかった」とする割合は、「貧困継続群」で 16.0%ともっとも高くなっている。

図表 407　貧困継続状況別　15 歳の頃の家庭の暮らし向き：単数回答（保護者 Q41）

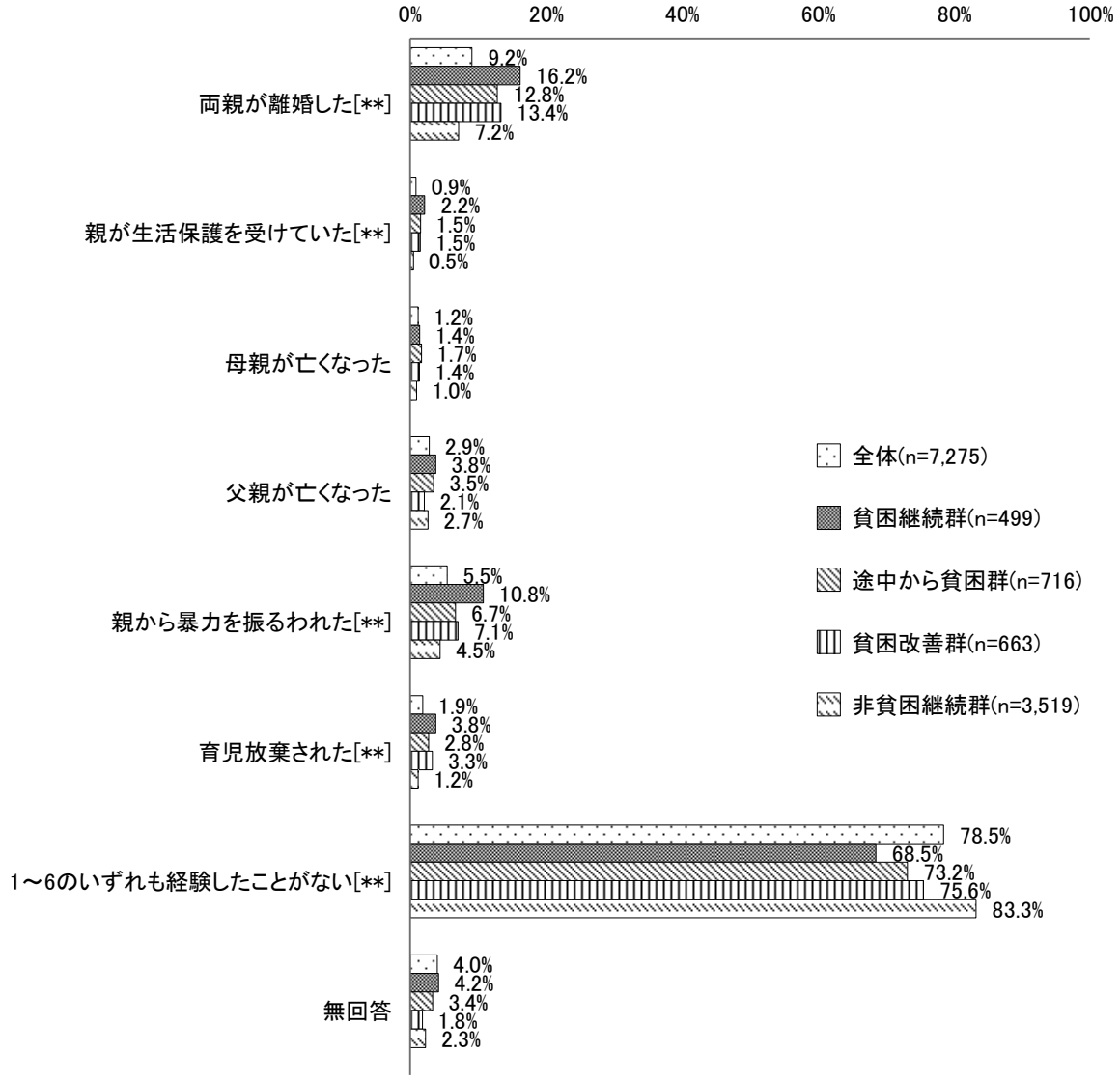
（p<.01）



3)　【保護者】成人する前に体験したこと

貧困継続状況別に成人する前に体験したことをみると、「両親が離婚した」、「親が生活保護を受けていた」、「親から暴力を振るわれた」、「育児放棄された」とする割合は「貧困継続群」で高くなっており、いわゆる逆境経験をした割合が高くなっている。

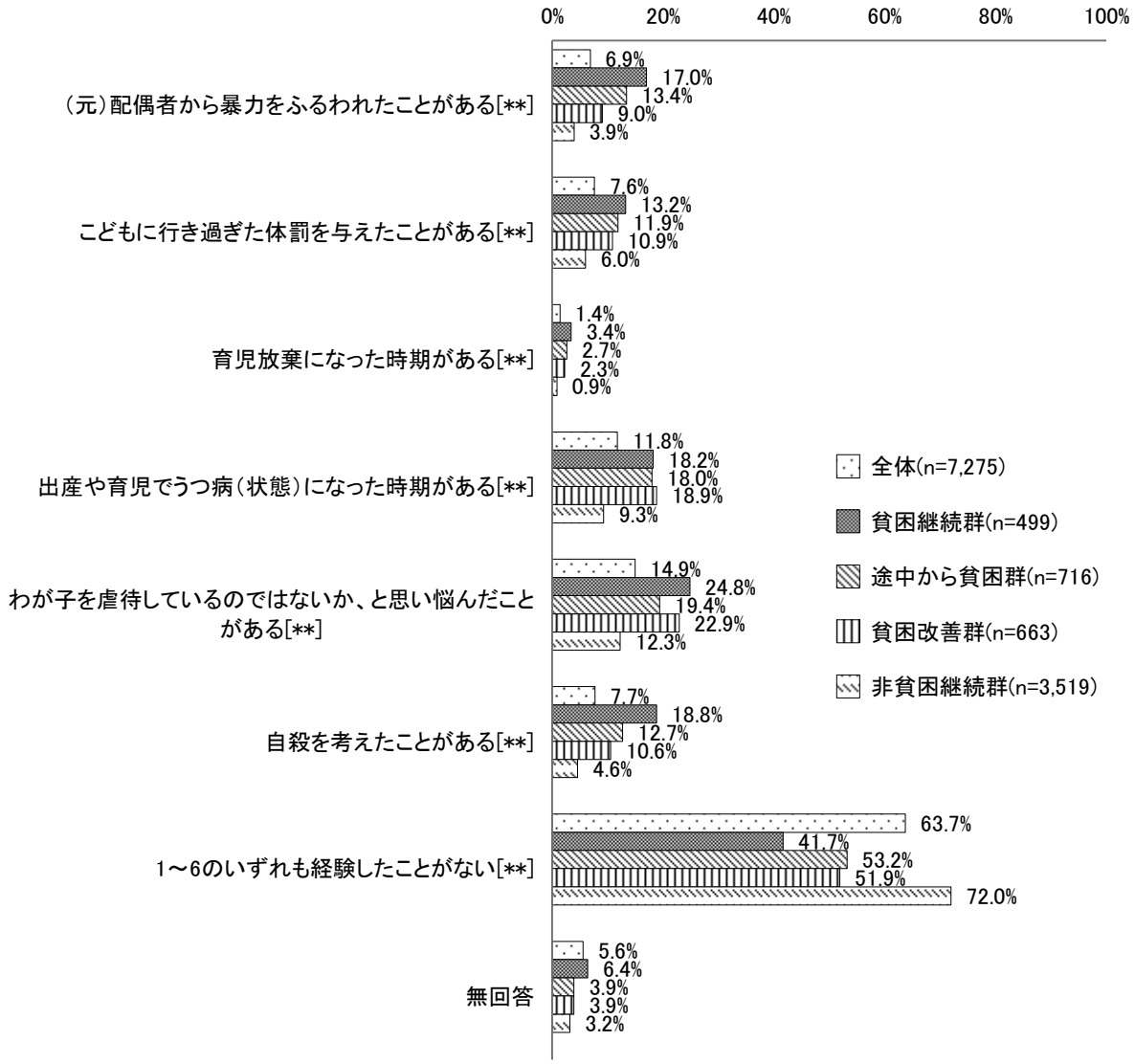
図表 408　貧困継続状況別　成人する前に体験したこと：複数回答（保護者 Q43）



4） 【保護者】お子さんをもってから経験したこと

貧困継続状況別にお子さんをもってから経験したことみると、いずれの項目も統計的に有意な差がみられる。多くの項目は「貧困継続群」であるほど高い割合となっている。一方、「出産や育児でうつ病（状態）になった時期がある」「わが子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」については、「途中から貧困群」や「貧困改善群」においても、「貧困継続群」と同程度の割合となっている。

図表 409 貧困継続状況別 お子さんをもってから経験したこと：複数回答（保護者 Q44）

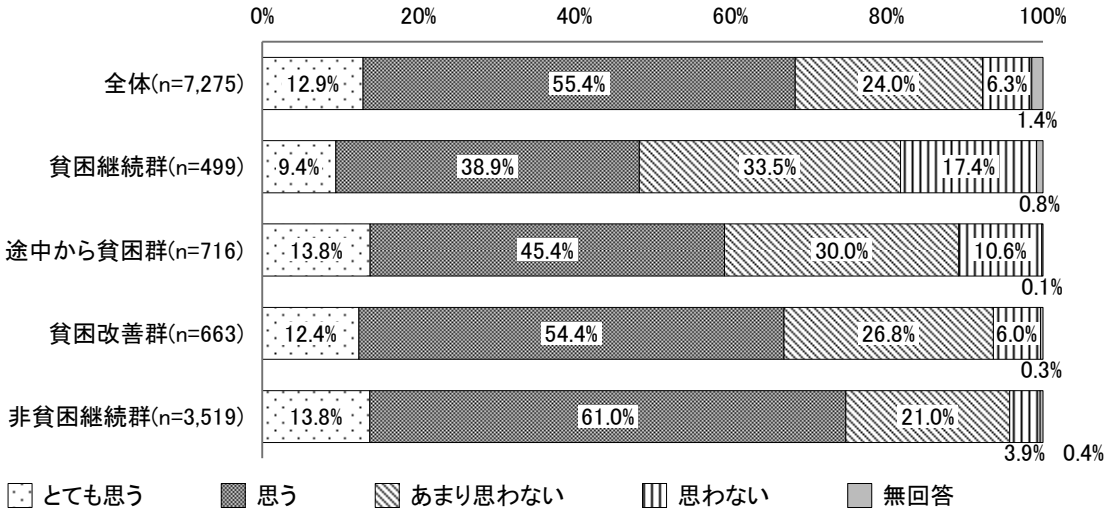


5)　【保護者】自己肯定感

貧困継続状況別に自己肯定感をみると、いずれの項目も統計的に有意な差がみられ、「不安に感じることがある」を除いたすべての項目について、「貧困継続群」であるほど「思わない」とする割合が高くなっている。

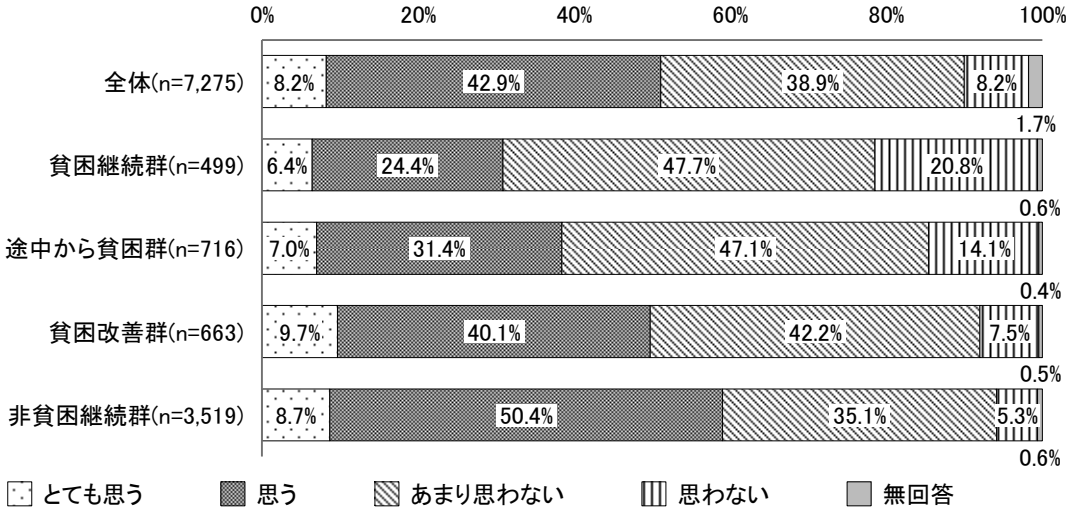
図表 410　貧困継続状況別　思いや気持ち_がんばれば、むくわれる：
単数回答（保護者 Q45A）

（p<.01）



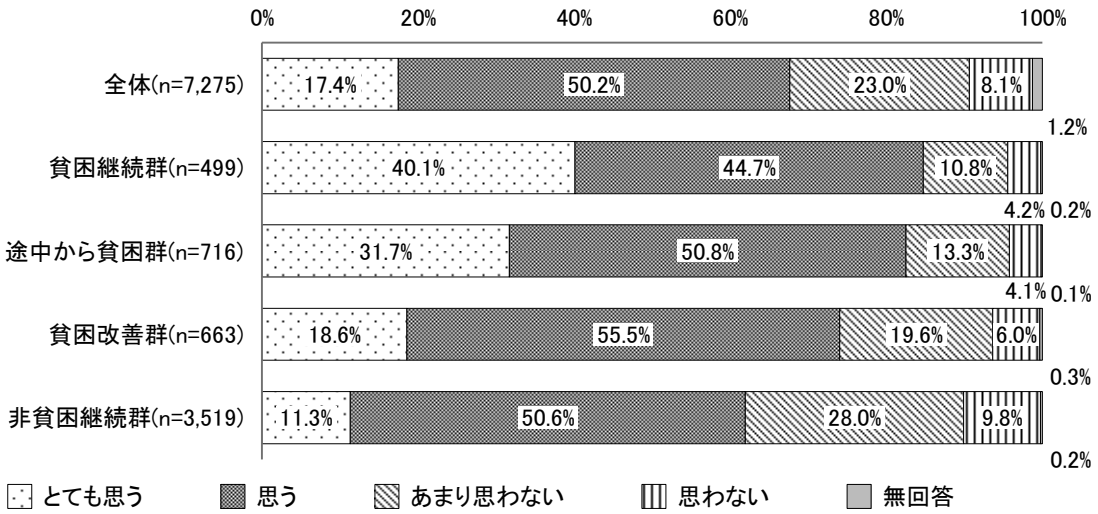
図表 411　貧困継続状況別　思いや気持ち_自分は価値のある人間だ：
単数回答（保護者 Q45B）

（p<.01）



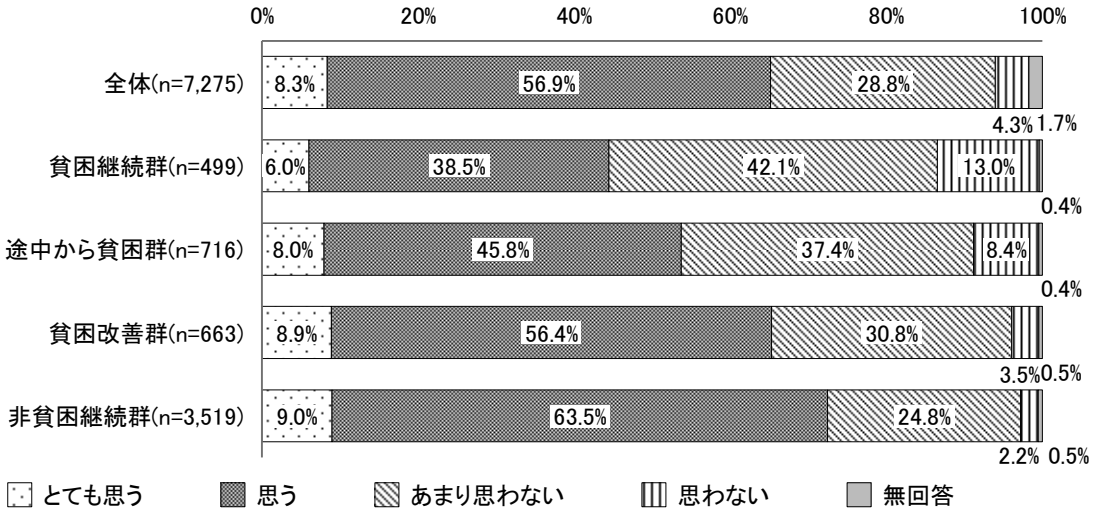
図表 412　貧困継続状況別　思いや気持ち_不安に感じることがある：
単数回答（保護者 Q45C）

（p<.01）



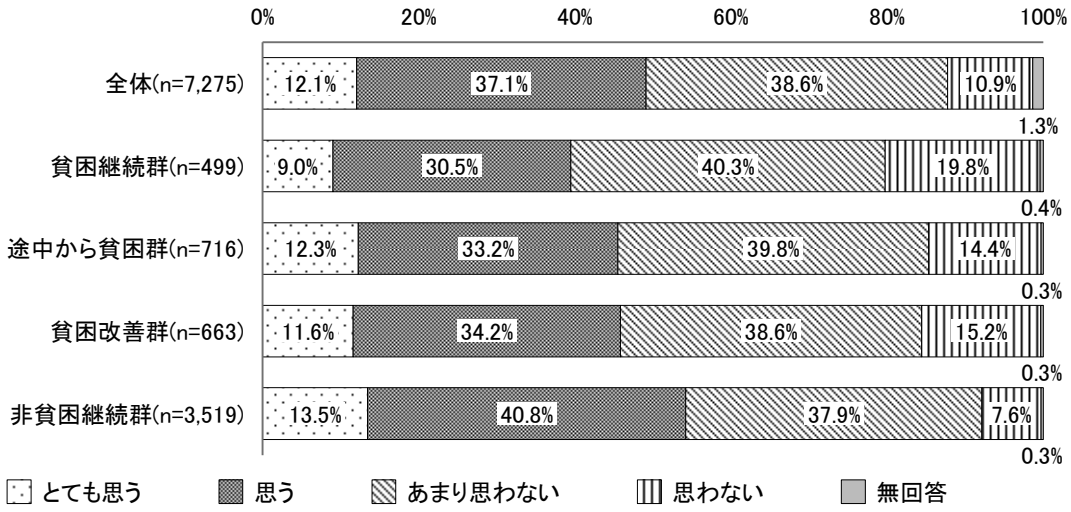
図表 413　貧困継続状況別　思いや気持ち_目標や計画は達成できる：
単数回答（保護者 Q45E）

（p<.01）



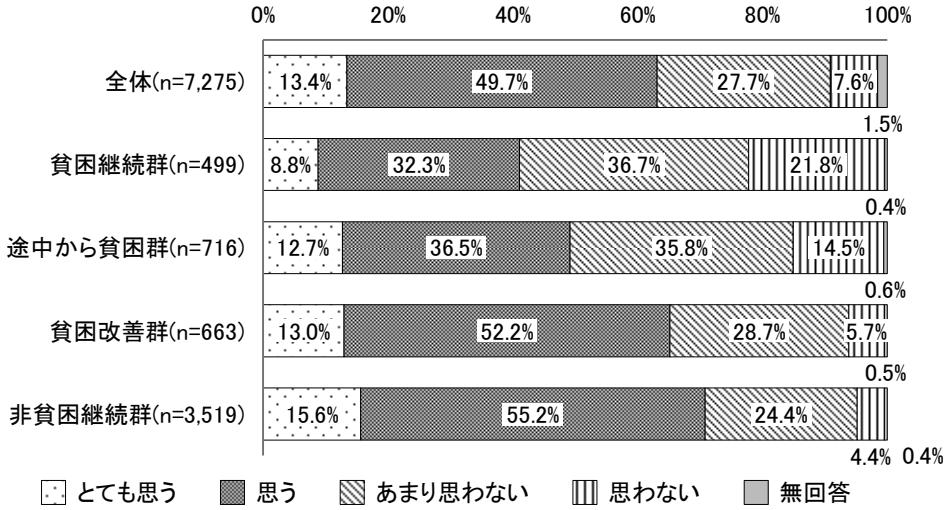
図表 414　貧困継続状況別　思いや気持ち_積極的に色々な人と話したい：単数回答（保護者 Q45F）

（p<.01）

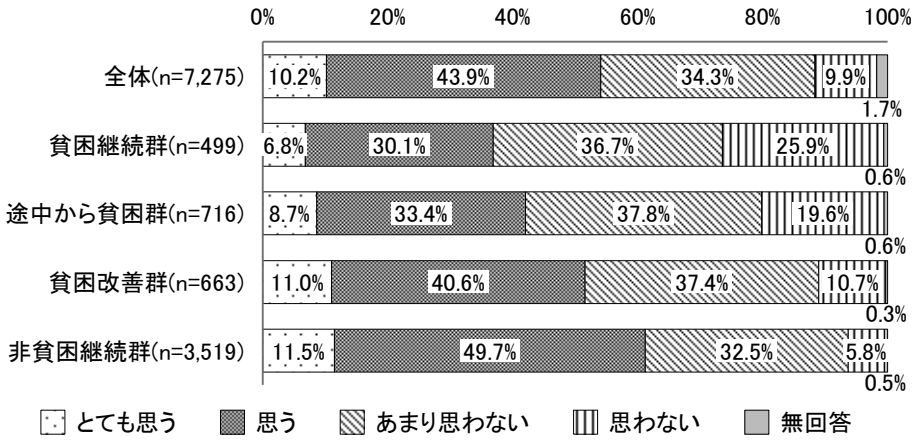


図表 415　貧困継続状況別　思いや気持ち_今後の人生が楽しみだ：単数回答（保護者 Q45G）

（p<.01）



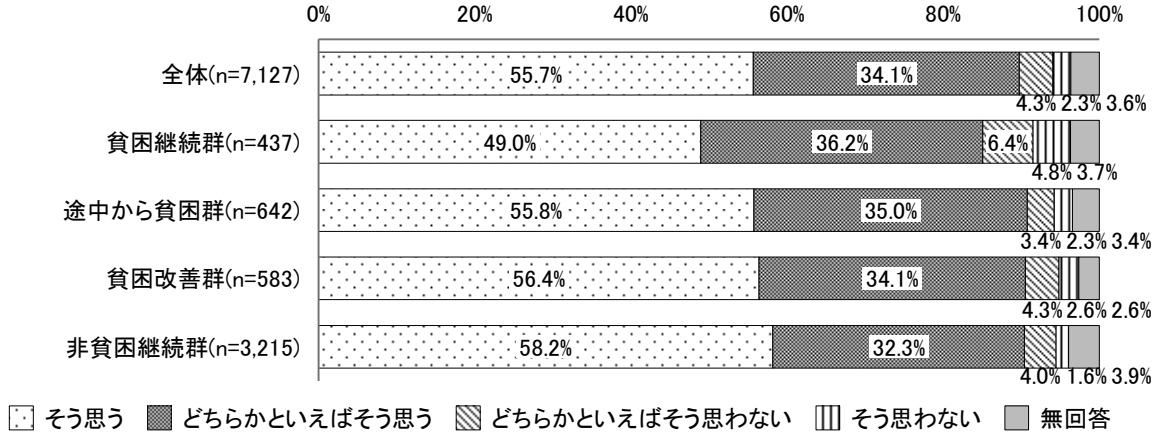
図表 416　貧困継続状況別　思いや気持ち_自分のことが好きだ：単数回答（保護者 Q45H）
（p<.01）



6)　【こども】将来のために、今頑張りたいと思うか

貧困継続状況別に将来のために、今頑張りたいと思うかをみると、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」とする割合は、「貧困継続群」であるほど高くなっている。

図表 417　貧困継続状況別　将来のために、今頑張りたいと思うか：単数回答（こども Q13）
（p<.01）

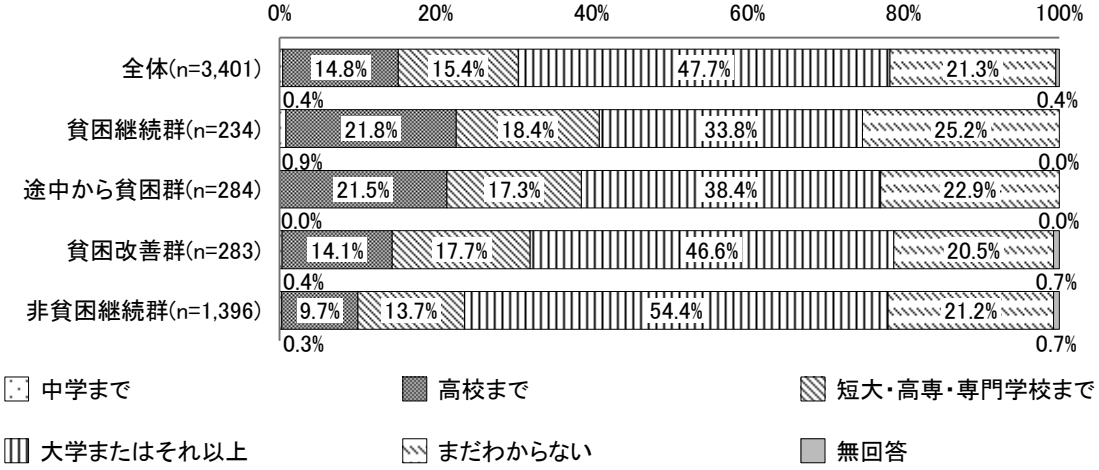


7)　【こども】進学したい段階

貧困継続状況別に進学したい段階みると、「高校まで」とする割合は「貧困継続群」「途中から貧困群」で高く、「大学またはそれ以上」とする割合は「非貧困継続群」ほど高くなっている。

図表 418　貧困継続状況別　進学したい段階：単数回答（こども Q10）

（p<.01）

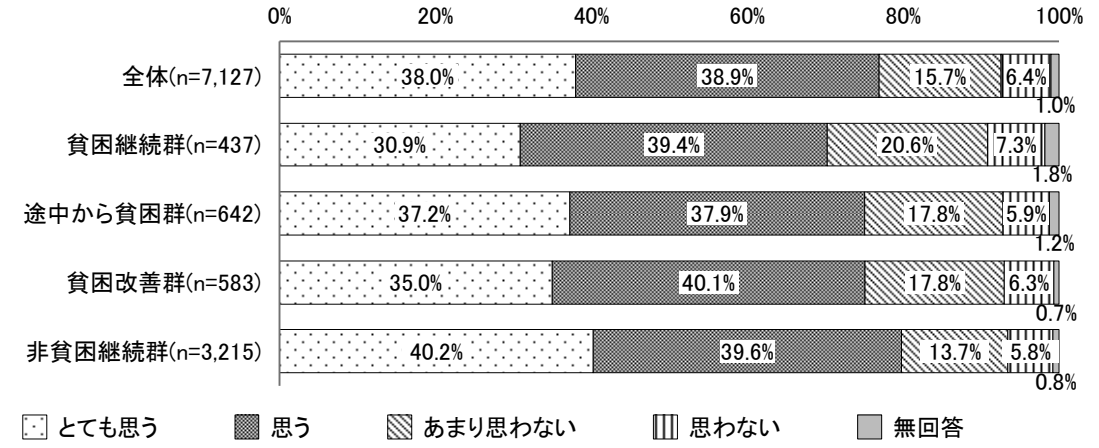


8)　【こども】自己肯定感

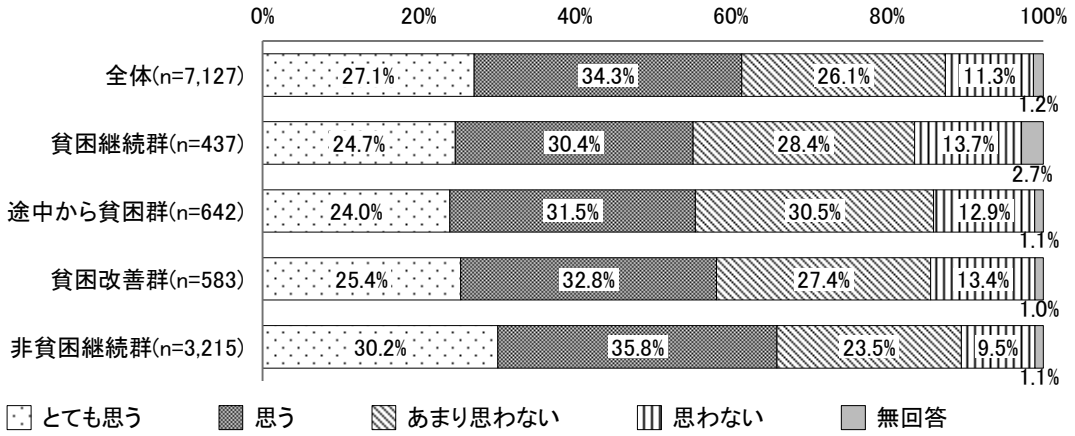
貧困継続状況別に自己肯定感をみると、多くの項目で有意な差がみられるが、特に「自分の将来が楽しみだ」「自分のことが好きだ」については、「思わない」と回答した割合が、「非貧困継続群」に比べて「貧困継続群」で５ポイント以上高くなっている。

図表 419　貧困継続状況別　がんばれば、むくわれる：単数回答（こども Q33A）

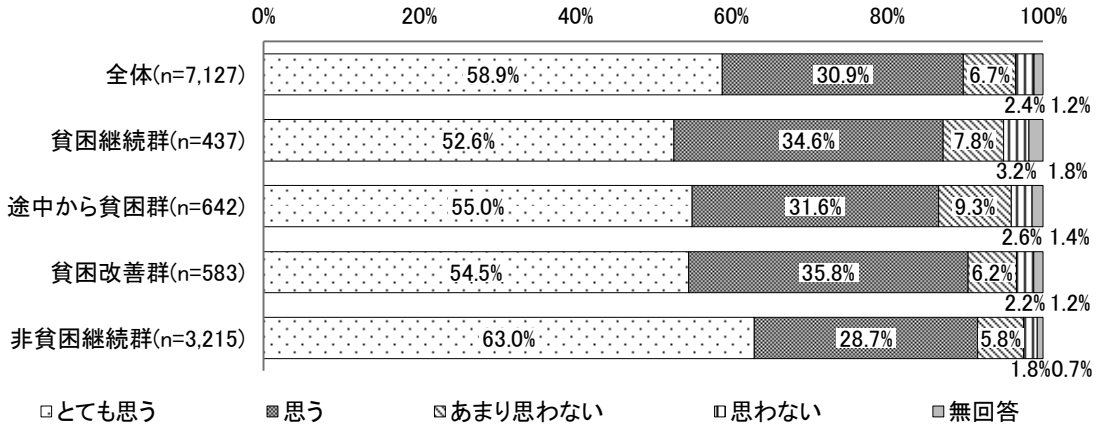
（p<.01）



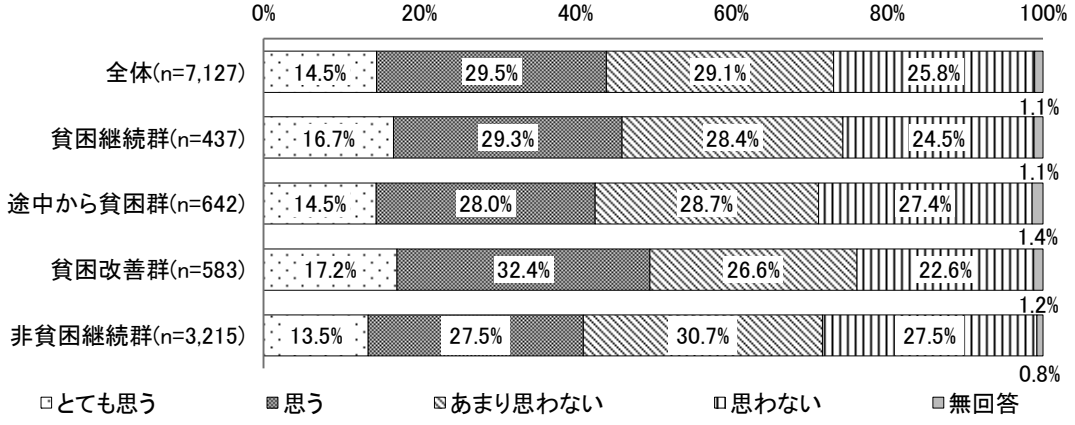
図表 420　貧困継続状況別　自分は価値のある人間だ：単数回答（こども Q33B）
（p<.01）



図表 421　貧困継続状況別　自分は家族に大事にされている：単数回答（こども Q33C）（
（p<.01）

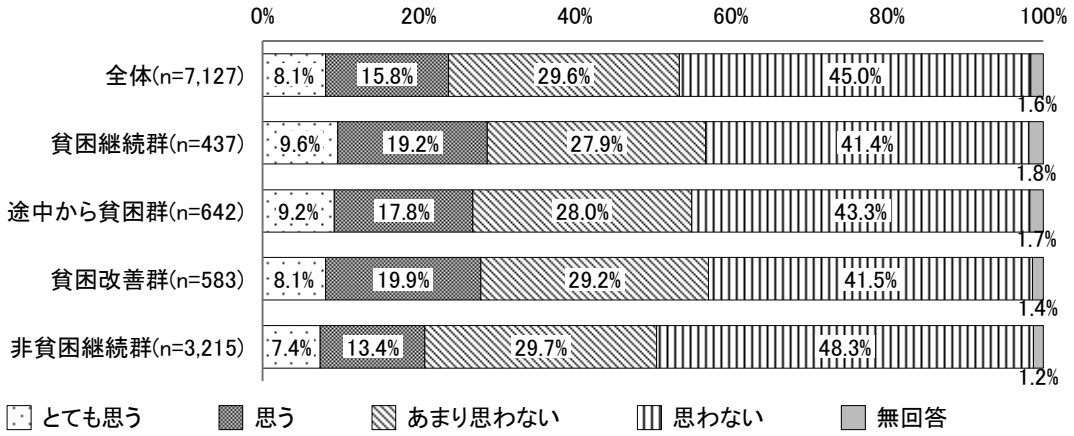


図表 422　貧困継続状況別　不安に感じることがある：単数回答（こども Q33D）
（p<.05）



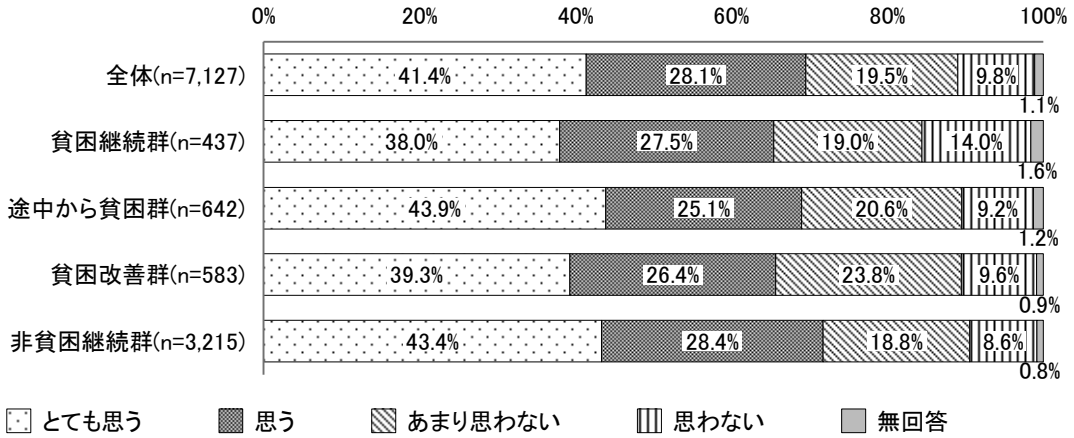
図表 423　貧困継続状況別　孤独を感じることがある：単数回答（こども Q33E）

（p<.01）



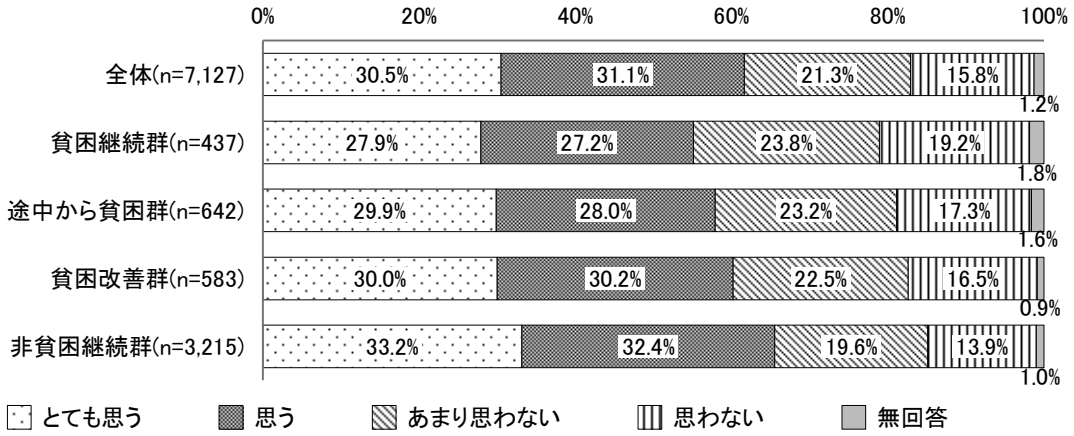
図表 424　貧困継続状況別　自分の将来が楽しみだ：単数回答（こども Q33H）

（p<.01）



図表 425　貧困継続状況別　自分のことが好きだ：単数回答（こども Q33I）

（p<.01）



（2）考察

○　以下では、貧困継続状況別にみた保護者・こどもの状況について整理する。

○　保護者についてみると、貧困継続群においては、困ったとき等に相談できる人や、近隣で交流のある知人等がいないとする割合が高い傾向がみられた。

○　また、貧困継続群においては、15 歳の頃の家庭の暮らし向きが大変苦しかったとする割合や、成人前には逆境経験（両親の離婚、親からの暴力等）がある割合、こどもを持ってからは配偶者からの暴力や自殺を考えた割合等も高くなっていた。自己肯定感についても、ほとんどの項目で貧困継続群であるほど低い傾向がみられた。

○　次に、こどもについてみると、貧困継続群ほど、将来のために今がんばりたいと思わないとする割合が高く、将来の進学希望も低い傾向がみられた。また、「自分は価値のある人間だ」「自分のことが好きだ」と思わない割合も高くなっていた。

○　これらの結果より、貧困状態が継続しているほど、保護者自身がつらい経験をしているにもかかわらず、困ったときに相談する相手がおらず、悩みを抱え込んでいる可能性があることがうかがえる。

○　また、家庭の貧困状態が継続することは、保護者のみならずこどもの意欲や自己肯定感にも影響を及ぼすことが示唆され、積極的な支援が求められる。

３．保護者の国籍別分析

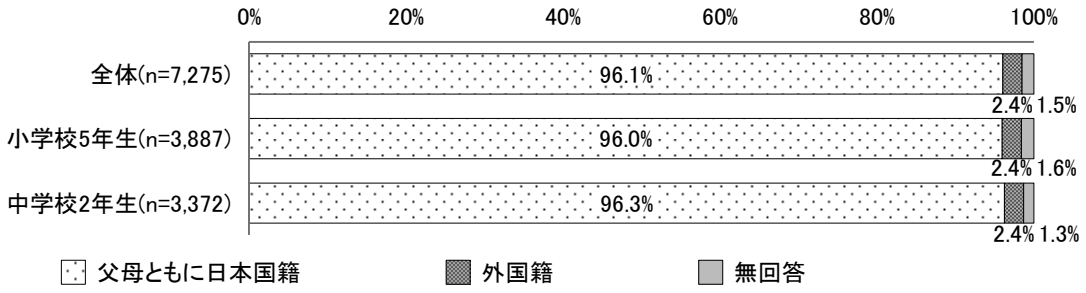
本節では、保護者の国籍によって、保護者やこどもたちがおかれた状況や課題が異なるかどうかを分析した。

分析にあたっては、保護者票問８「両親の国籍」をもとに、下記のとおり①父母ともに日本国籍／②外国籍（父母のいずれか、またはどちらも外国籍）に分類した。なお、ひとり親の場合は、同居している親の国籍が日本であれば「父母ともに日本国籍」、日本以外であれば「外国籍」に分類した。

		父親国籍	
		日本	日本以外
母親国籍	日本	①父母ともに日本国籍（ひとり親の場合は同居親が日本国籍）	②外国籍
	日本以外	②外国籍	②外国籍

学年別の保護者国籍の状況は下記のとおりである。

図表 426　保護者国籍：単数回答（学年別）



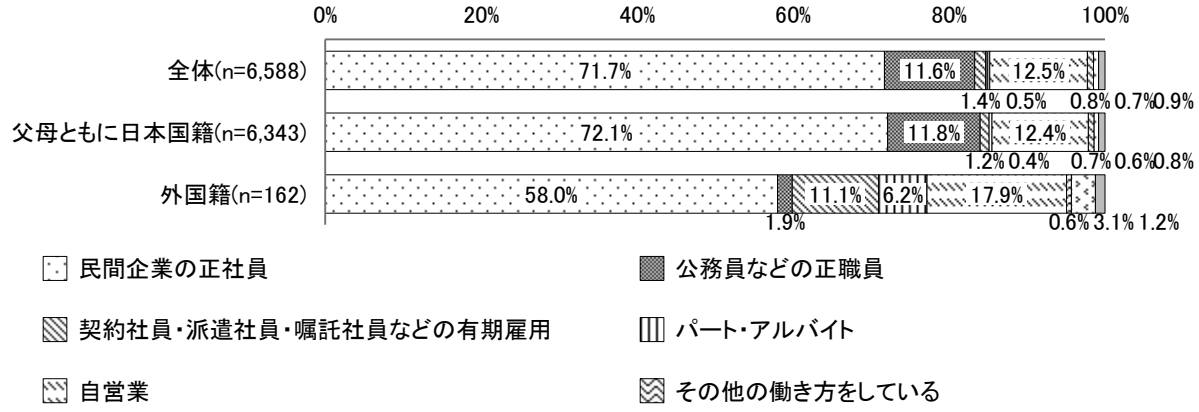
（1）分析結果

1)　【保護者】父親の就業状況

保護者国籍別にみると、保護者が「外国籍」の場合、「父母とも日本国籍」に比べて、父親が「契約社員・派遣社員・嘱託社員などの有期雇用」「パート・アルバイト」といった非正規雇用や「自営業」である割合が高くなっている。

図表 427　保護者国籍別　父親の就業状況：単数回答（保護者 Q10）

（p<.01）

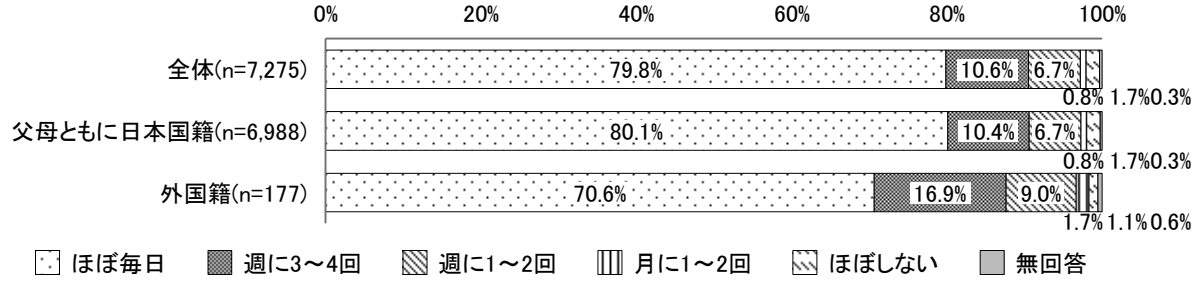


2)　【保護者】こどもとの関わり

保護者国籍別にみると、「一緒に夕食をたべる」「学校生活の話をする」「ニュースなどの社会のできごとについて話す」といった項目について、保護者が「外国籍」の場合、「父母とも日本国籍」に比べて、「ほぼ毎日」の割合が低くなっている。一方で、「一緒に外出する」については「外国籍」の保護者の方が「ほぼ毎日」の割合が高くなっている。

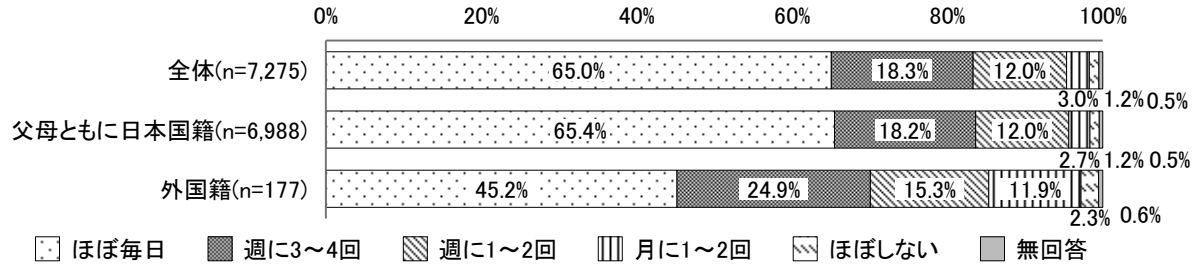
図表 428　保護者国籍別　一緒に夕食をたべる：単数回答（保護者 Q33B）

（p<.05）



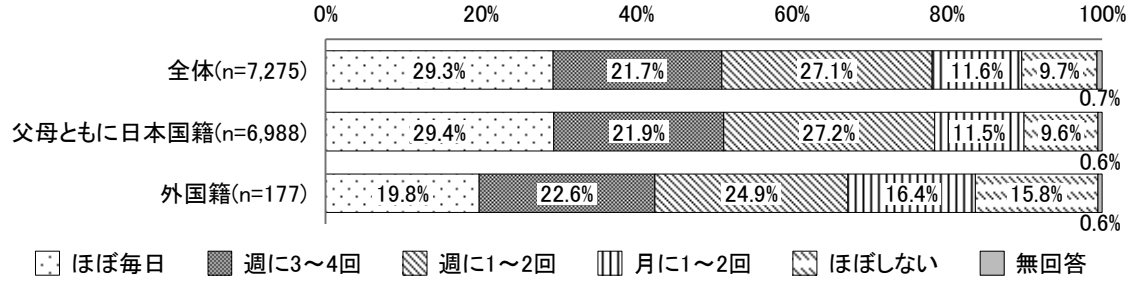
図表 429　保護者国籍別　学校生活の話をする：単数回答（保護者 Q33E）

（p<.01）



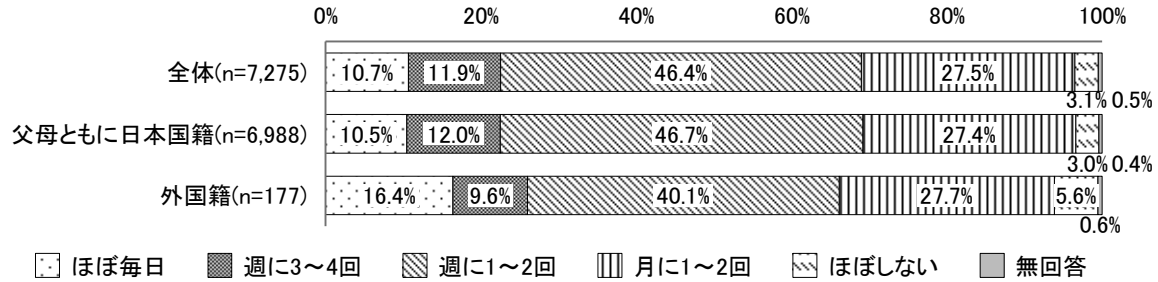
図表 430　保護者国籍別　ニュースなどの社会のできごとについて話す：単数回答（保護者 Q33F）

（p<.01）



図表 431　保護者国籍別　一緒に外出する：単数回答（保護者 Q33H）

（p<.05）

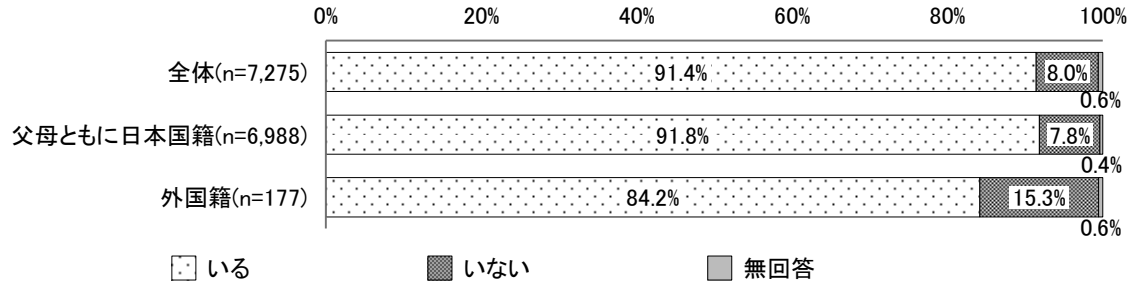


3)　【保護者】相談相手、知人等の有無

保護者国籍別にみると、「困ったとき等、相談できる人」「近隣で、挨拶や日常会話をする知人等」「近隣で、悩みを打ち明けたり、相談することができる知人等」のいずれも、保護者が「外国籍」の場合、「父母とも日本国籍」に比べて、「いない」とする割合が高くなっている。

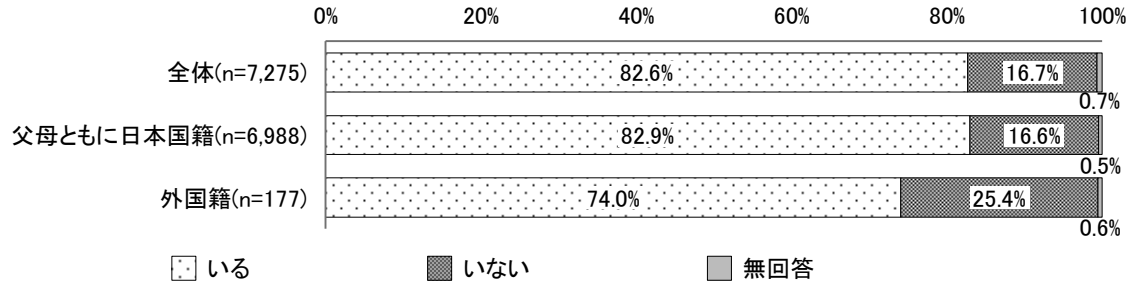
図表 432　保護者国籍別　困ったとき等、相談できる人の有無：単数回答（保護者 Q36）

（p<.01）



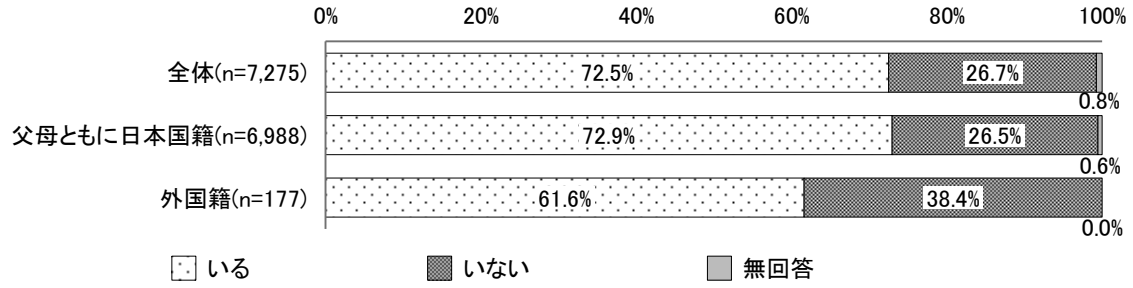
図表 433　保護者国籍別　近隣で、挨拶や日常会話をする知人等の有無：単数回答（保護者 Q37）

（p<.01）



図表 434　保護者国籍別　近隣で、悩みを打ち明けたり、相談することができる知人等の有無：単数回答（保護者 Q38）

（p<.01）

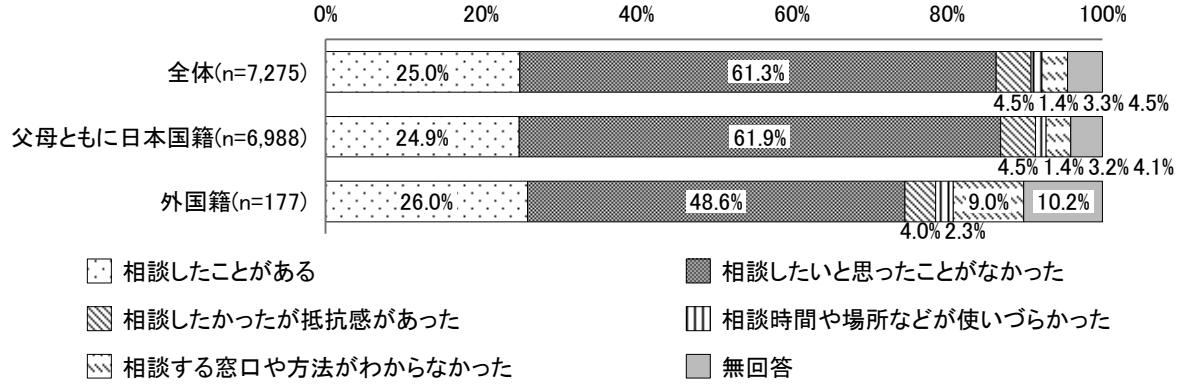


4)　【保護者】公的機関への相談状況

保護者国籍別にみると、いずれの項目についても、保護者が「外国籍」の場合、「父母とも日本国籍」に比べて、「相談する窓口や方法がわからなかった」を選択している割合が高くなっている。

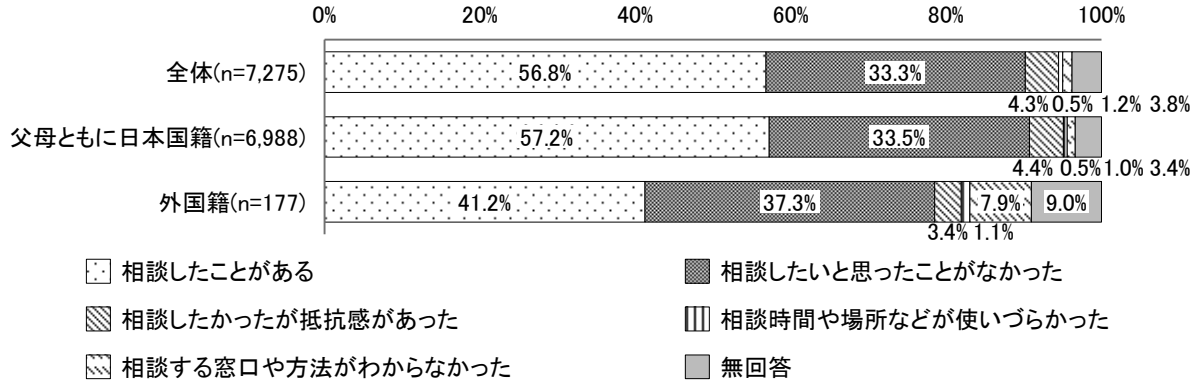
図表 435　保護者国籍別　公的機関への相談状況_市役所、町村役場の窓口：単数回答
（保護者 Q48A）

（p<.01）



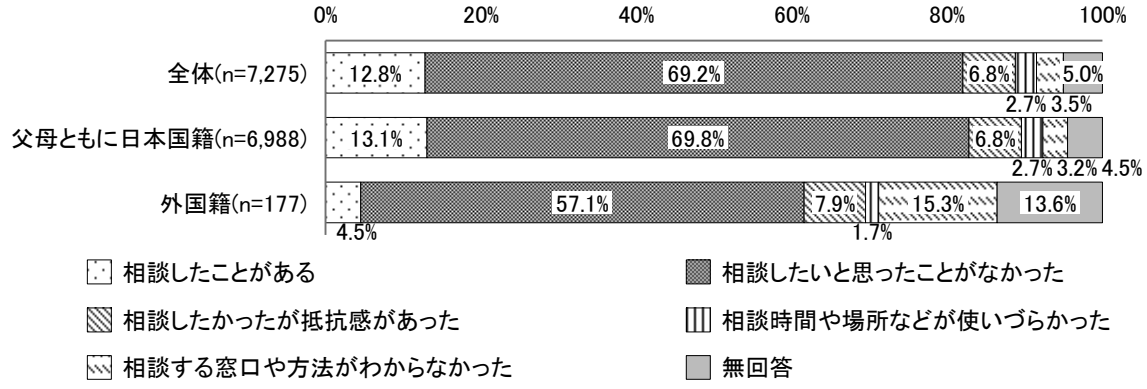
図表 436　保護者国籍別　公的機関への相談状況_学校・保育所・幼稚園の先生：単数回答
（保護者 Q48B）

（p<.01）



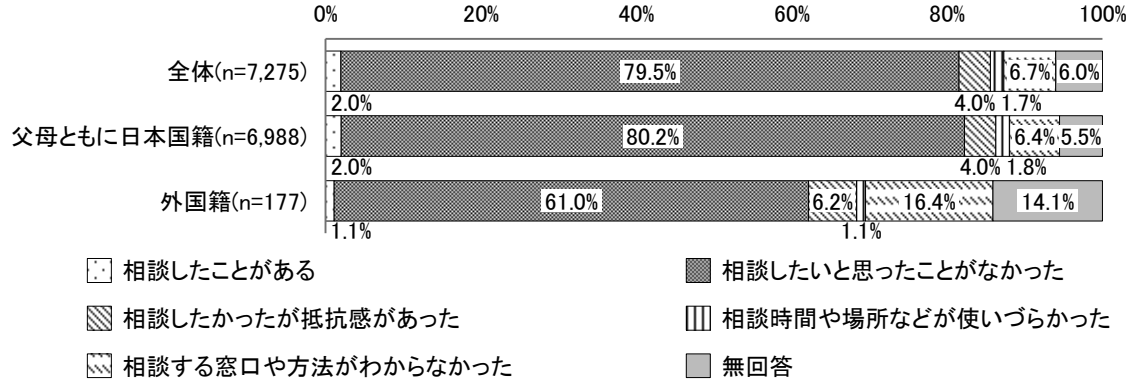
図表 437　保護者国籍別　公的機関への相談状況_スクールカウンセラー：単数回答
（保護者 Q48C）

（p<.01）



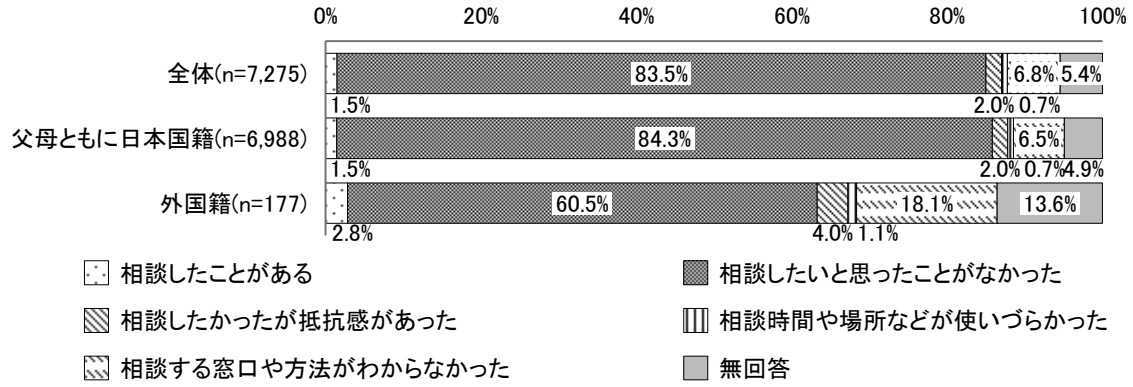
図表 438　保護者国籍別　公的機関への相談状況_スクールソーシャルワーカー：単数回答
（保護者 Q48D）

（p<.01）



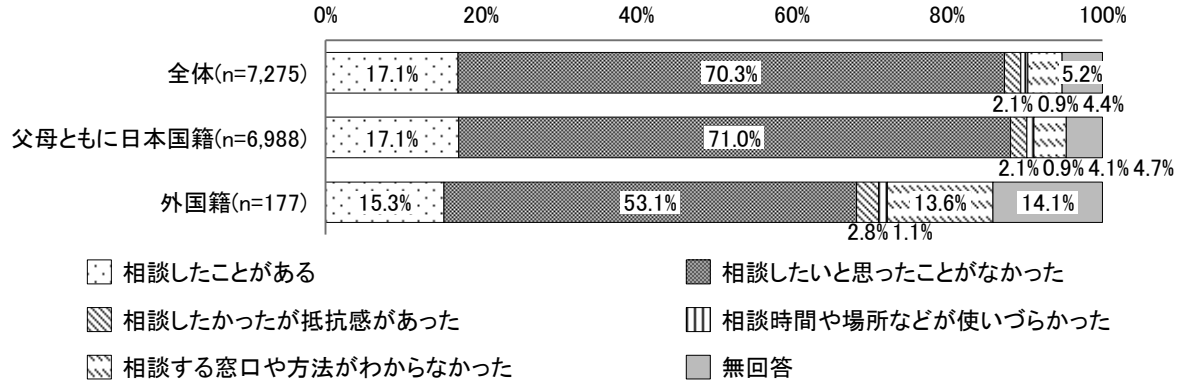
図表 439　保護者国籍別　公的機関への相談状況_民生委員・児童委員：単数回答
（保護者 Q48E）

（p<.01）



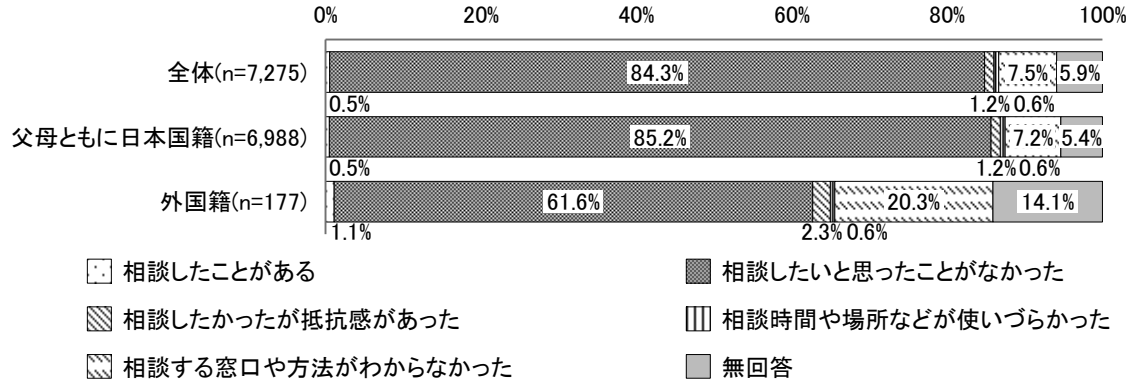
図表 440　保護者国籍別　公的機関への相談状況_保健所：単数回答（保護者 Q48F）

（p<.01）



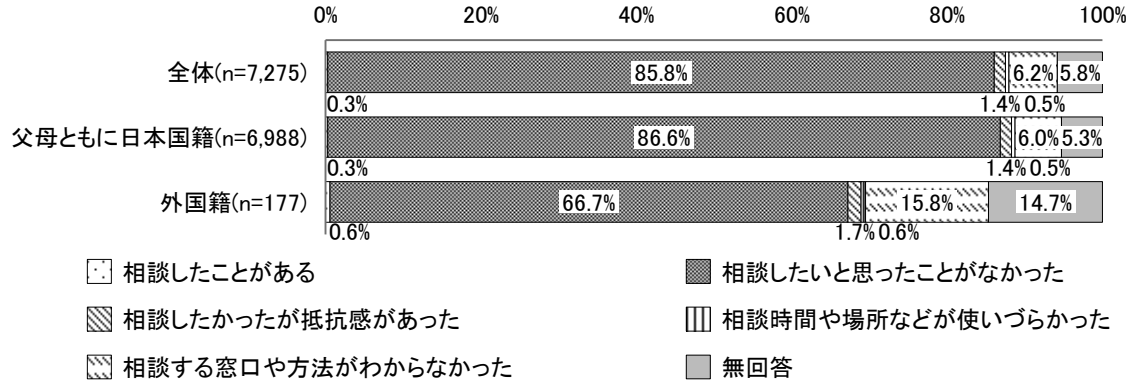
図表 441　保護者国籍別　公的機関への相談状況_中核地域生活支援センター：単数回答（保護者 Q48G）

（p<.01）



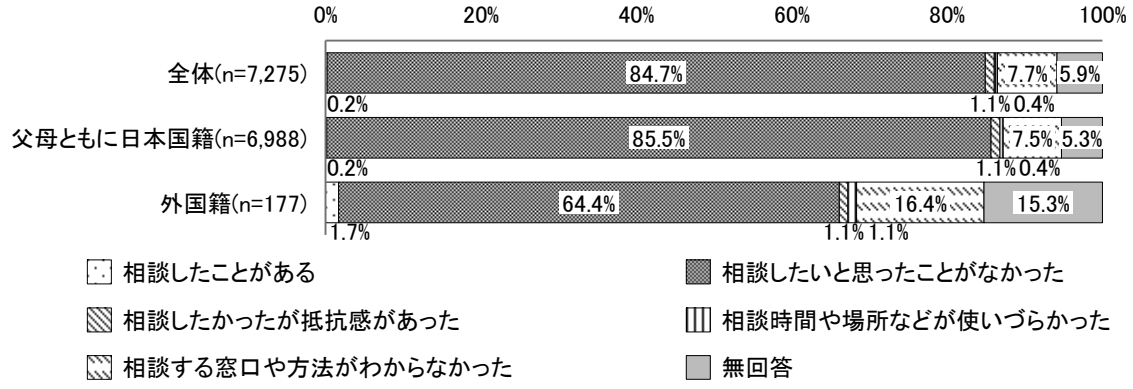
図表 442　保護者国籍別　公的機関への相談状況_生活困窮者自立支援制度に基づく相談窓口：単数回答（保護者 Q48H）

（p<.01）



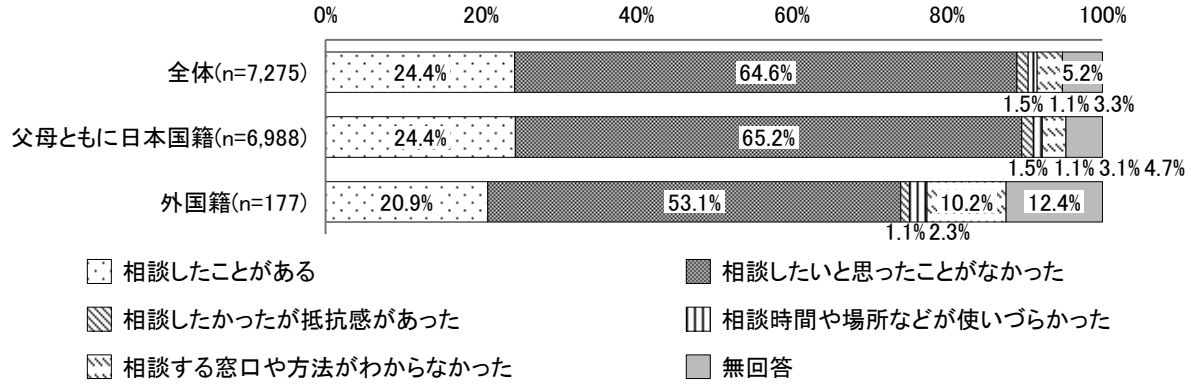
図表 443　保護者国籍別　公的機関への相談状況_千葉県子ども・若者総合相談センター「ライトハウスちば」：単数回答（保護者 Q48I）

（p<.01）



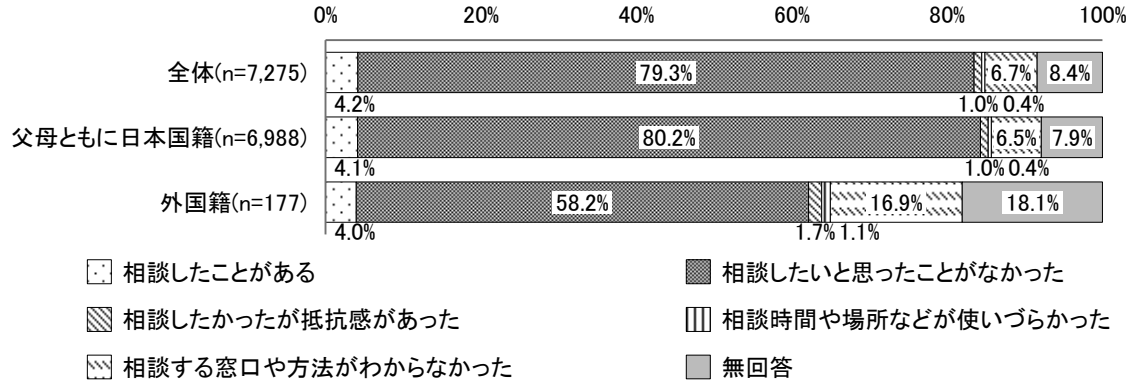
図表 444　保護者国籍別　公的機関への相談状況_ハローワーク：単数回答（保護者 Q48J）

（p<.01）



図表 445　保護者国籍別　公的機関への相談状況_上記以外の公的機関：単数回答（保護者 Q48K）

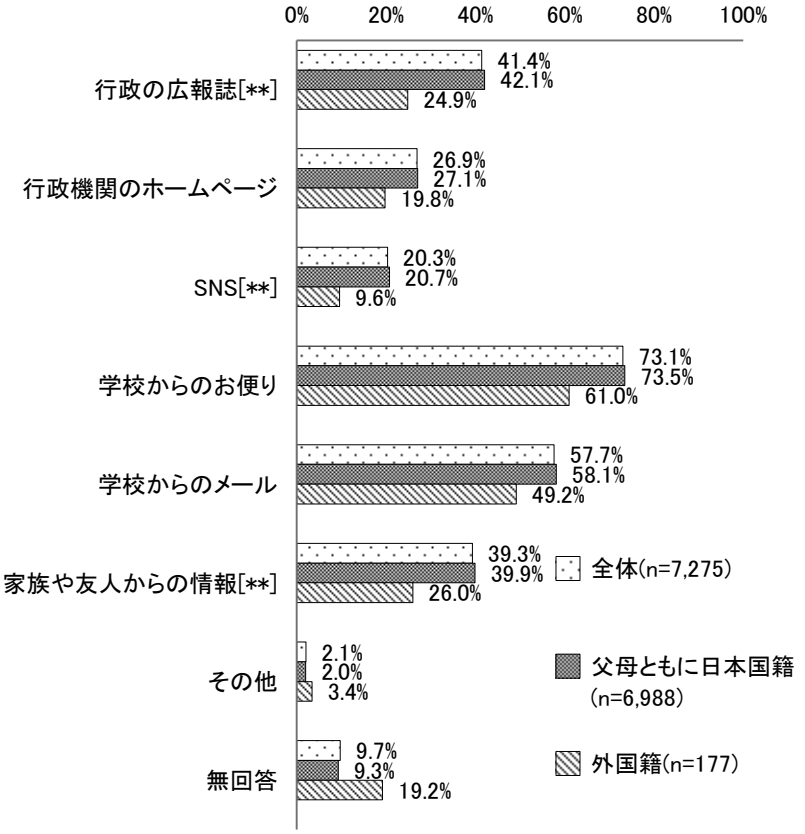
（p<.01）



5)　【保護者】こどもに関する支援制度等の情報_現在の受け取り方法

保護者国籍別にみると、いずれの項目も、保護者が「外国籍」の場合、「父母とも日本国籍」に比べて、選択している割合が 10 ポイント程度低くなっている。特に、「行政の広報誌」の差が大きい。

図表 446　保護者国籍別　こどもに関する支援制度等の情報_現在の受け取り方法：単数回答（保護者 Q49_1）

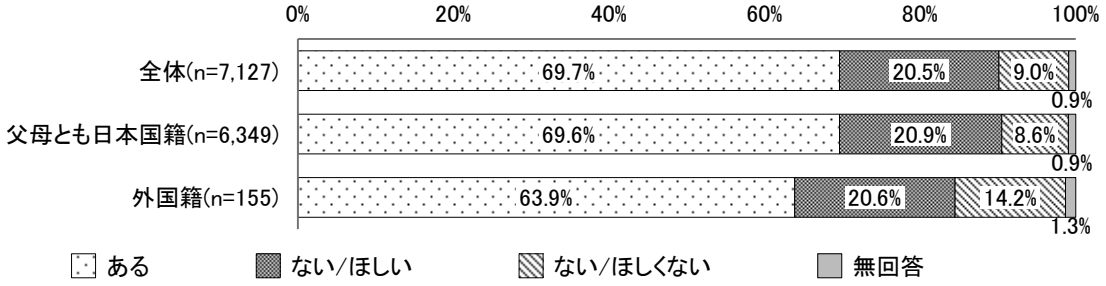


6) 【こども】所有しているもの

保護者国籍別にみると、「こども部屋」「ゲーム機」「自転車」「2 足以上のサイズのあった靴」について、保護者が「外国籍」の場合、「父母とも日本国籍」に比べて、「ある」と回答する割合が低くなっている。

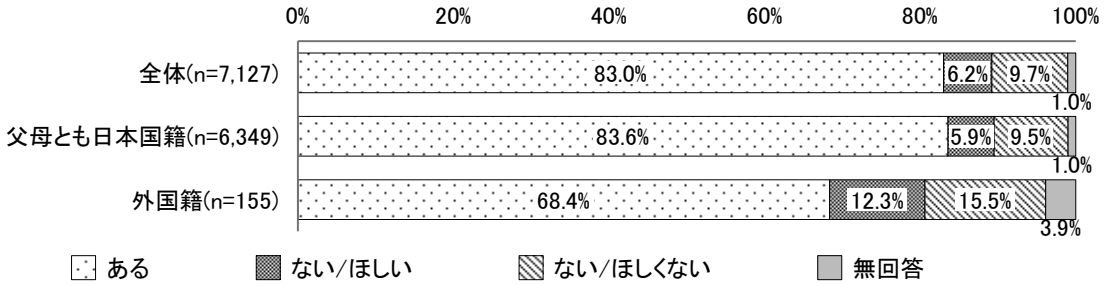
図表 447 保護者国籍別 こども部屋：単数回答（こども Q26B）

（p<.05）



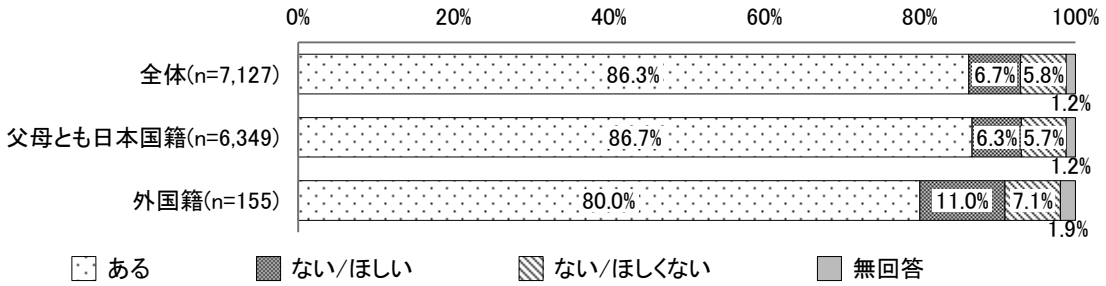
図表 448 保護者国籍別 ゲーム機：単数回答（こども Q26G）

（p<.01）



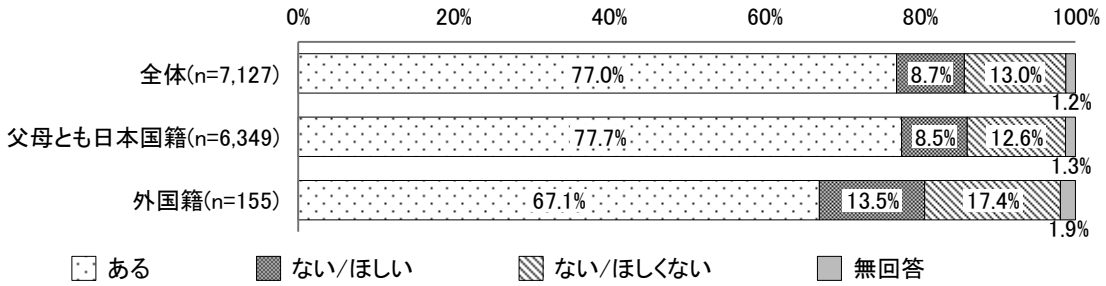
図表 449 保護者国籍別 自転車：単数回答（こども Q26I）

（p<.05）



図表 450　保護者国籍別　2 足以上のサイズのあった靴：単数回答（こども Q26L）

（p<.01）

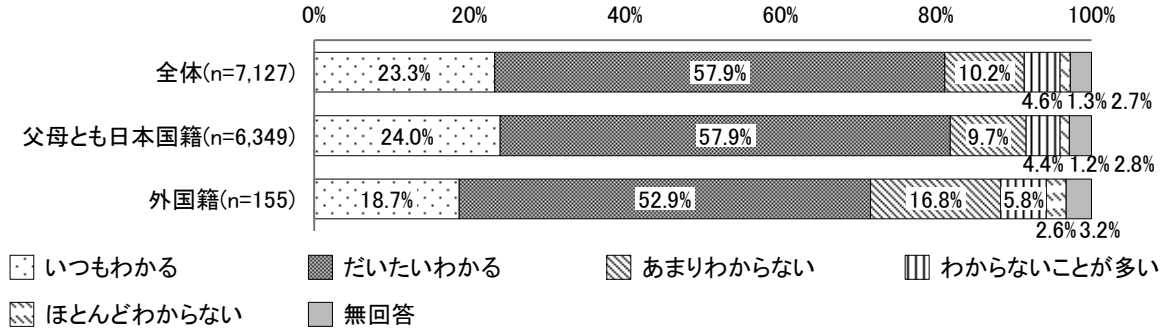


7）　【こども】授業の理解度

保護者国籍別にみると、「父母とも日本国籍」に比べて、「外国籍」の場合、「あまりわからない」と回答する割合が高くなっている。

図表 451　保護者国籍別　授業の理解度：単数回答（こども Q4）

（p<.05）

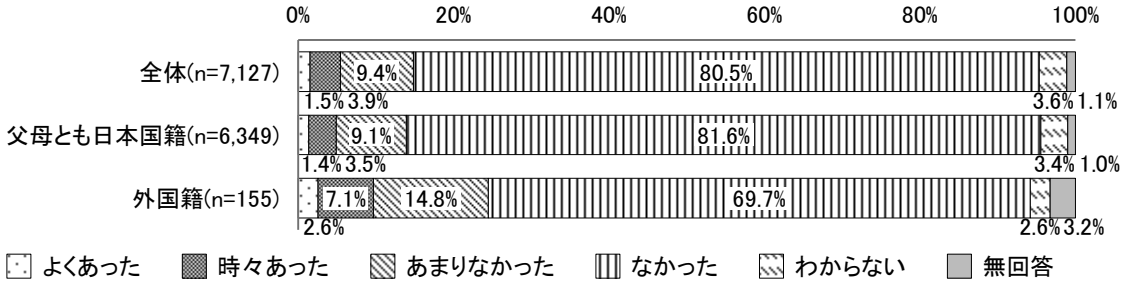


8)　【こども】家事や家族の世話の影響

保護者国籍別にみると、保護者が「外国籍」の場合、「父母とも日本国籍」に比べて、「家事や家族の世話で勉強する時間がとれなかった」「家事や家族の世話で遊ぶ時間がとれなかった」ことが「なかった」と回答する割合が低くなっている。

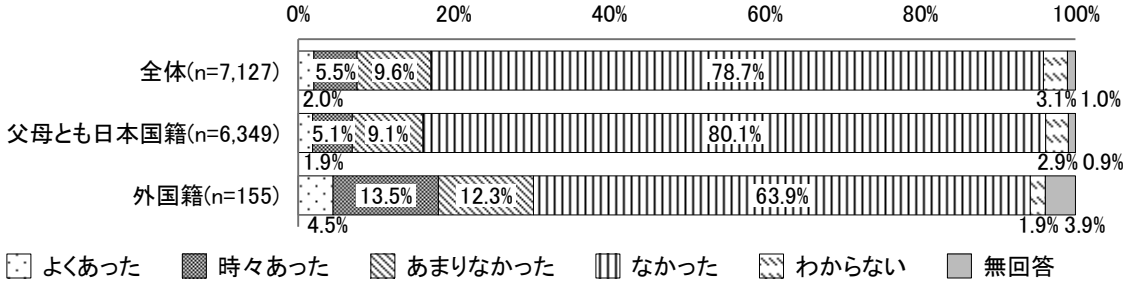
図表 452　保護者国籍別　家事や家族の世話で勉強する時間がとれなかった：単数回答
（こども Q29F）

（p<.01）



図表 453　保護者国籍別　家事や家族の世話で遊ぶ時間がとれなかった：単数回答
（こども Q29G）

（p<.01）



（２）考察

○　以下では、保護者国籍別にみた保護者・こどもの状況について整理する。

○　保護者についてみると、保護者が外国籍の場合、父親が非正規雇用（契約社員、パート・アルバイト等）や自営業で働いている割合が高くなっていた。

○　また、保護者からこどもへの関わり（学校生活の話をする、ニュースなどの社会のできごとについて話す等）についても、保護者が外国籍の場合、日常的に行っている割合が低い傾向がみられた。

○　さらに、保護者が外国籍の場合、困ったときに相談できる人や近隣の知人等がいる割合が低く、公的機関への相談について「相談する窓口や方法がわからなかった」とする割合も高い。こどもに関する支援制度等の情報の受け取り状況についても、保護者が外国籍の場合、行政の広報誌やＳＮＳ、家族・友人から情報を得ているという割合が低かった。

○　次に、こどもについてみると、保護者が外国籍の場合、こども部屋やゲーム機、自転車、２足以上のサイズの合った靴などの所有率が低くなっていた。また、学校の授業が「あまりわからない」と回答する割合が高い傾向がみられた。

○　また、保護者が外国籍の場合、こどもが「家事や家族の世話で勉強・遊ぶ時間がとれなかった」ことが「なかった」と回答する割合が低くなっていた。

○　これらの結果より、保護者が外国籍の家庭では、父親が非正規雇用など不安定な就業状況におかれていることや、学校や社会のことについてこどもと話す機会が低調になっていること、言葉の壁から相談先や支援の情報が十分に届いていないことが示唆される。

○　また、保護者に替わってこどもが家事や家族の世話を担うことで、勉強や遊びの時間を削らざるをえないというヤングケアラー的状況におかれている可能性もうかがえる。

４．保護者との関わりとこどもの自己肯定感

本節では、保護者との関わりとこどもの自己肯定感にどのように影響するのかを分析した。分析にあたっては、こども問 23「保護者との関わり」のＡ～Ｈにおいて、「ほぼ毎日」「週に３～４回」のいずれかを選択した数より、以下の４区分を作成した。

＜こども問 23＞

あなたは、おうちの大人の人と次のようなことをどれくらいしていますか。
（それぞれ、あてはまる番号１つに○）

	ほぼ毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に1～2回	ほぼない
A 一緒に朝食をたべる	1	2	3	4	5
B 一緒に夕食をたべる	1	2	3	4	5
C 勉強をみてもらう	1	2	3	4	5
D 一緒に遊んだり体を動かしたりする	1	2	3	4	5
E 学校生活の話をする	1	2	3	4	5
F ニュースなど社会のできごとについて話す	1	2	3	4	5
G 一緒に料理をする	1	2	3	4	5
H 一緒に外出する（散歩、買い物、外食等）	1	2	3	4	5

＜こども問 23 より作成した保護者との関わりのカテゴリ＞

※Ａ～Ｈにおいて、「ほぼ毎日」「週に３～４回」のいずれかを選択した数
①全くない
②１～２つ
③３～４つ
④５つ以上

（1）分析結果

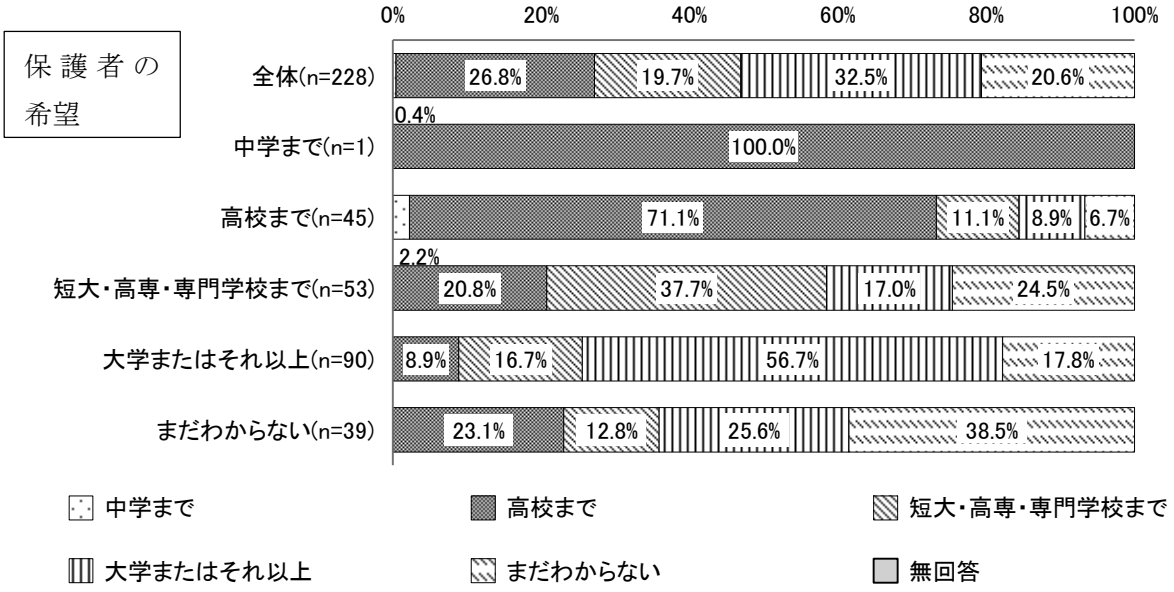
1）　【保護者×こども】保護者がこどもに受けさせたい教育段階と、こどもが進学したい段階

保護者がこどもに受けさせたい教育の段階別に、こどもがどの段階まで進学したいかをみると、生活困難度に関わらず、保護者がこどもに受けさせたい教育の段階とこどもが進学したいと思う段階は一致している割合が高い傾向にあった。一方で、保護者とこどもで不一致にある場合も一定数みられる。

困窮層は周辺層、一般層と比較して、「高校まで」で保護者とこどもで一致している割合が高く、周辺層が 52.2%、一般層が 54.5%であるのに対し、困窮層は 71.1%を占めている。

＜困窮層＞（p<.01）

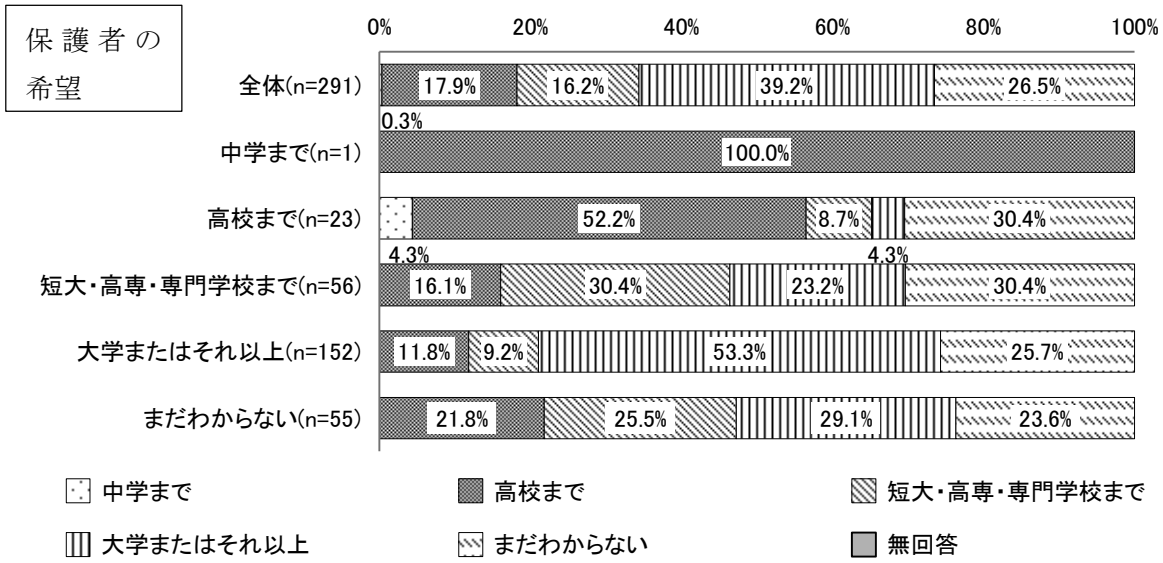
図表 454　保護者がこどもに受けさせたい教育の段階（保護者 Q29）別
こどもが進学したい段階：単数回答（こども Q10）



注）「中学まで」は n 数が 1 件のため参考値。

＜周辺層＞（p<.01）

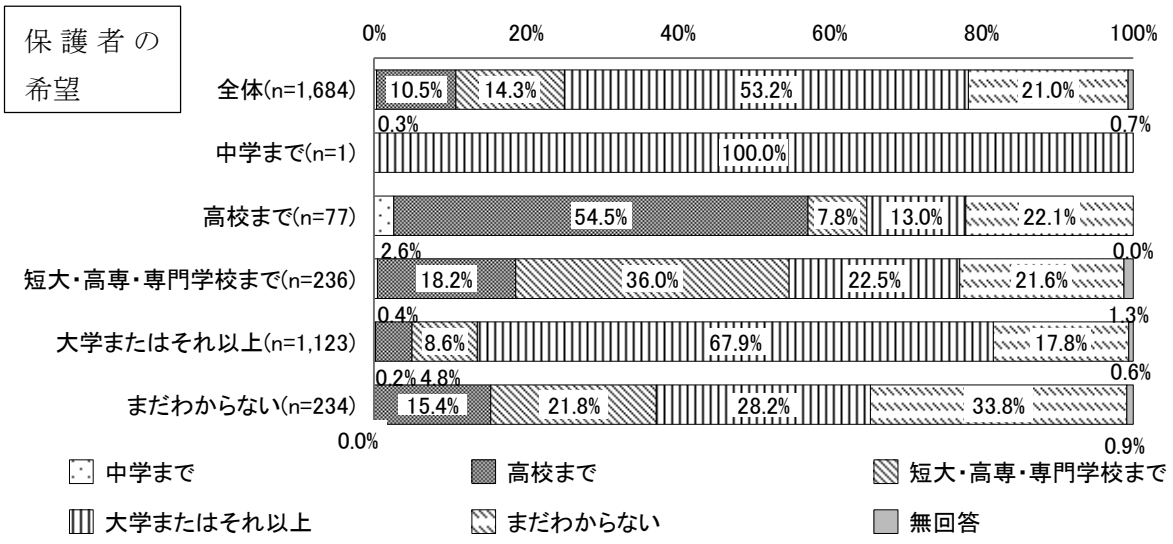
図表 455　保護者がこどもに受けさせたい教育の段階（保護者 Q29）別
こどもがこどもが進学したい段階：単数回答（こども Q10）



注）「中学まで」は n 数が 1 件のため参考値。

＜一般層＞（p<.01）

図表 456　保護者がこどもに受けさせたい教育の段階（保護者 Q29）別
こどもが進学したい段階：単数回答（こども Q10）



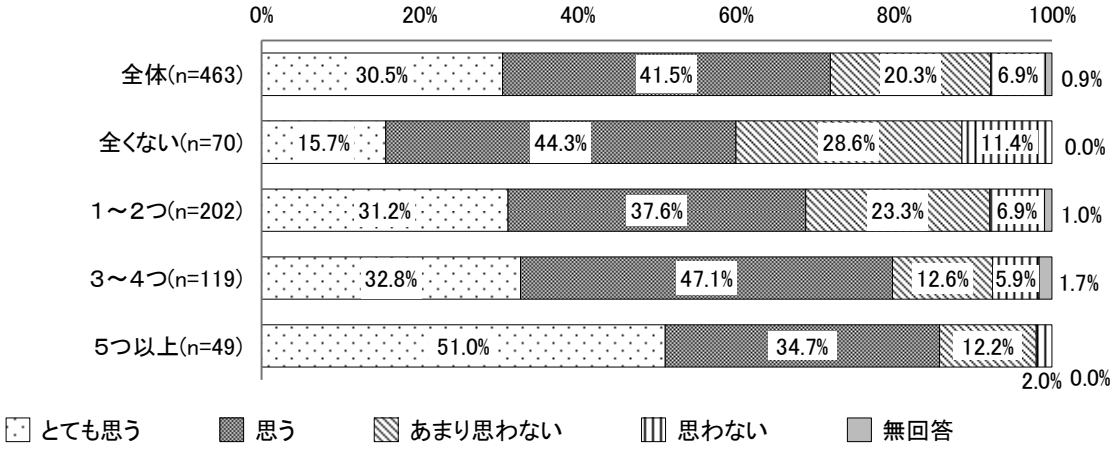
注）「中学まで」は n 数が 1 件のため参考値。

2)　【こども】思いや気持ち_がんばれば、むくわれる

保護者との関わりのカテゴリ別に、こどもの思いや気持ちとして『がんばれば、むくわれるか』と思うかどうかをみると、いずれの層とも、保護者との関わりが多いほど、「とても思う」「思う」を合わせた『思う』と回答した割合が高くなる傾向にある。

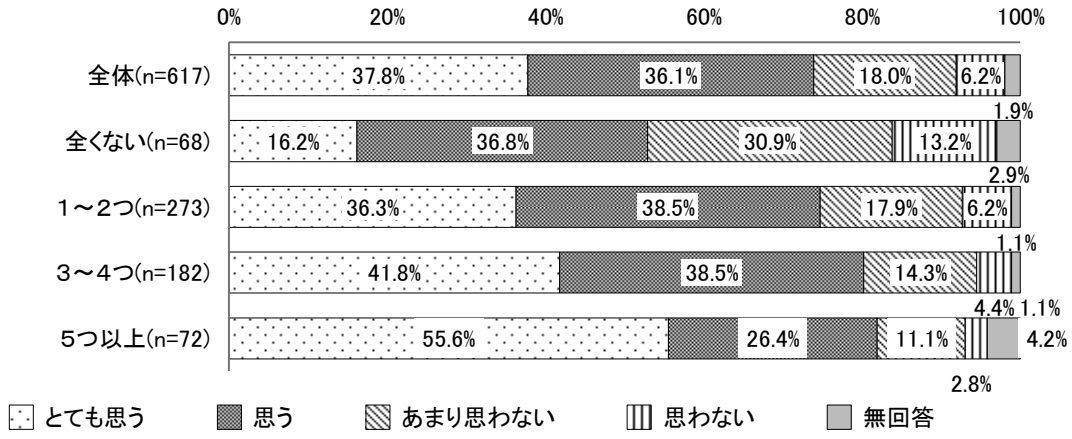
＜困窮層＞（p<.01）

図表 457　保護者との関わりのカテゴリ（こども Q23）別
思いや気持ち_がんばれば、むくわれる：単数回答（こども Q33A）



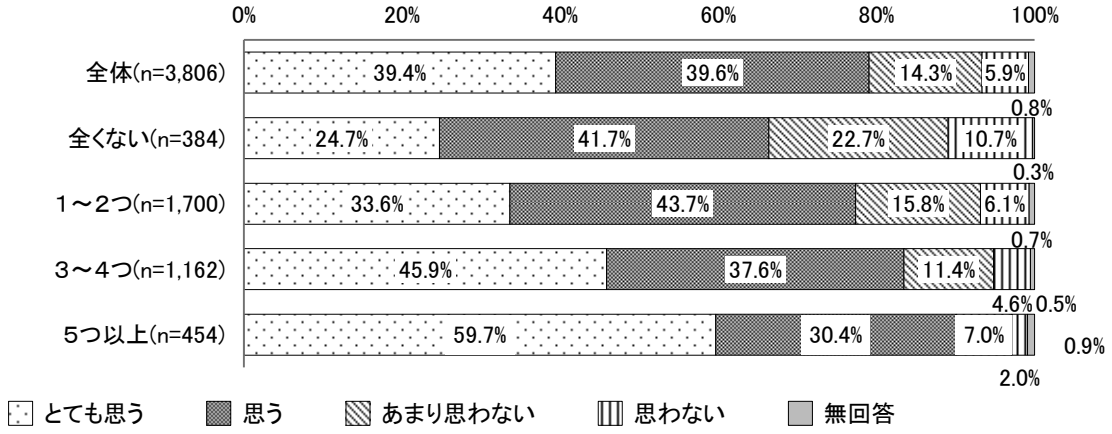
＜周辺層＞（p<.01）

図表 458　保護者との関わりのカテゴリ（こども Q23）別
思いや気持ち_がんばれば、むくわれる：単数回答（こども Q33A）



＜一般層＞（p<.01）

図表 459　保護者との関わりのカテゴリ（こども Q23）別
思いや気持ち_がんばれば、むくわれる：単数回答（こども Q33A）

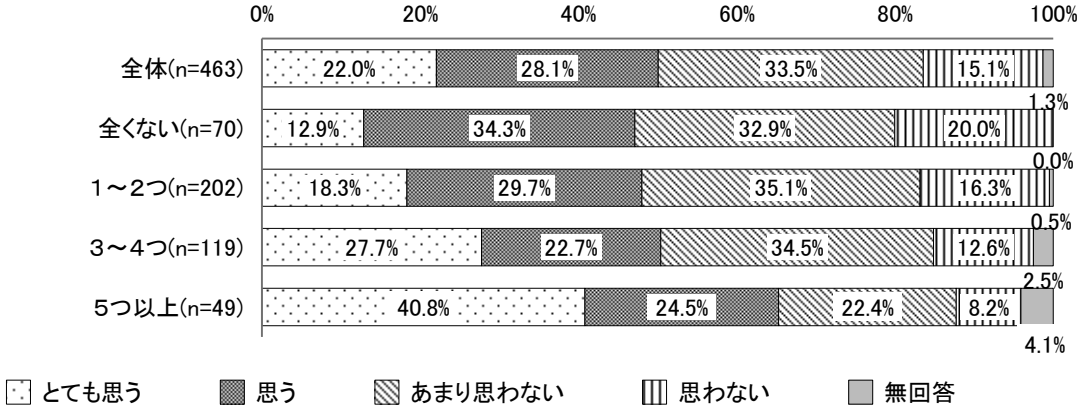


3)　【こども】思いや気持ち_自分は価値のある人間だ

保護者との関わり別に、こどもの思いや気持ちとして『自分は価値のある人間だ』と思うかどうかをみると、いずれの層とも、保護者との関わりが多いほど、「とても思う」「思う」を合わせた『思う』と回答した割合が高くなる傾向にある。

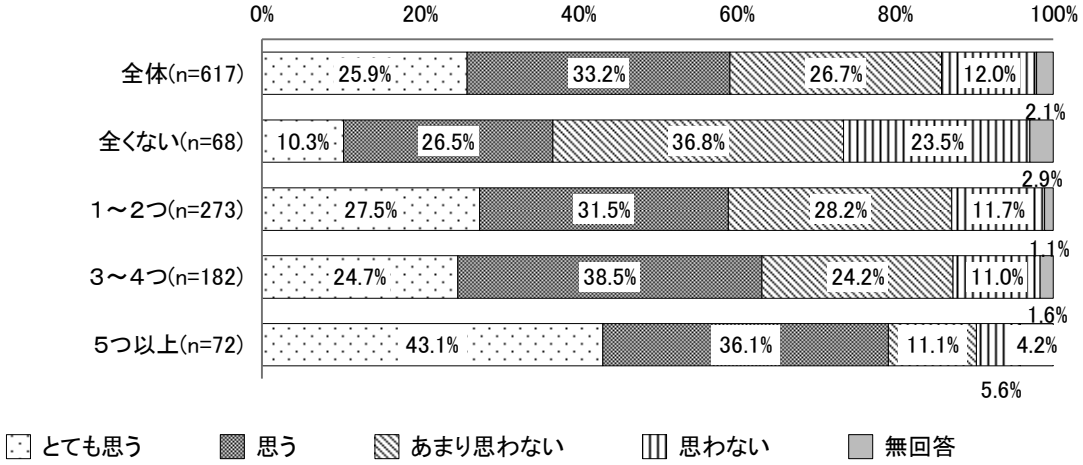
＜困窮層＞（p<.01）

図表 460　保護者との関わりのカテゴリ（こども Q23）別
思いや気持ち_自分は価値のある人間だ：単数回答（こども Q33B）



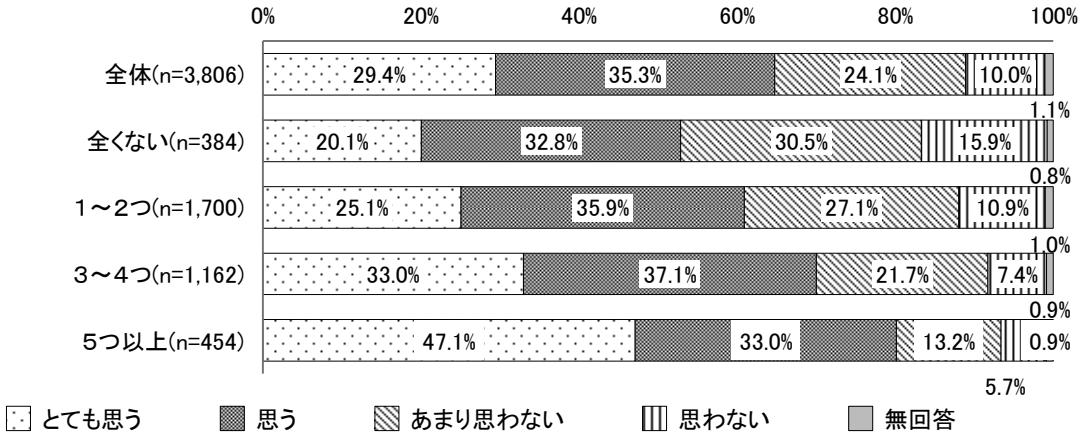
＜周辺層＞（p<.01）

図表 461　保護者との関わりのカテゴリ（こども Q23）別
思いや気持ち_自分は価値のある人間だ：単数回答（こども Q33B）



＜一般層＞（p<.01）

図表 462　保護者との関わりのカテゴリ（こども Q23）別
思いや気持ち_自分は価値のある人間だ：単数回答（こども Q33B）

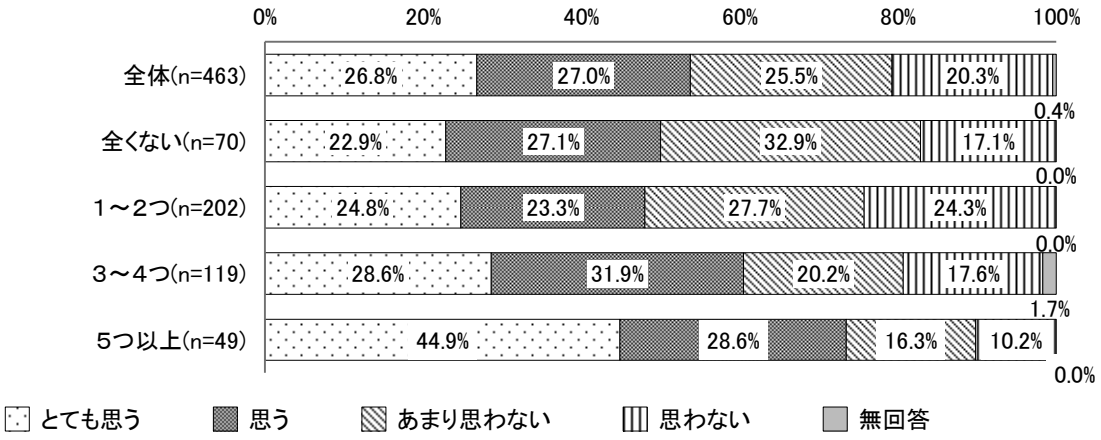


4)　【こども】思いや気持ち_自分のことが好きだ

保護者との関わり別に、こどもの思いや気持ちとして『自分のことが好きだ』と思うかどうかをみると、いずれの層とも、保護者との関わりが多いほど、「とても思う」「思う」を合わせた『思う』と回答した割合が高くなる傾向にある。

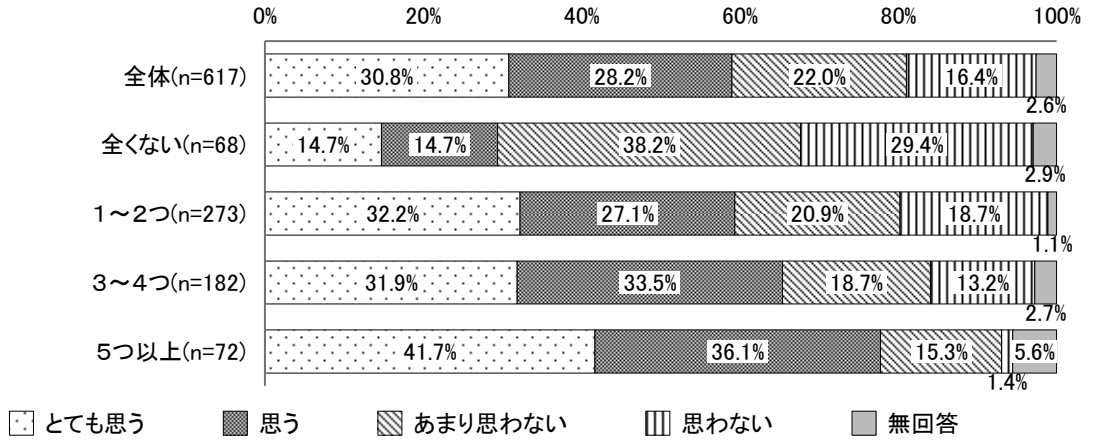
＜困窮層＞（p<.05）

図表 463　保護者との関わりのカテゴリ（こども Q23）別
思いや気持ち_自分のことが好きだ：単数回答（こども Q33I）



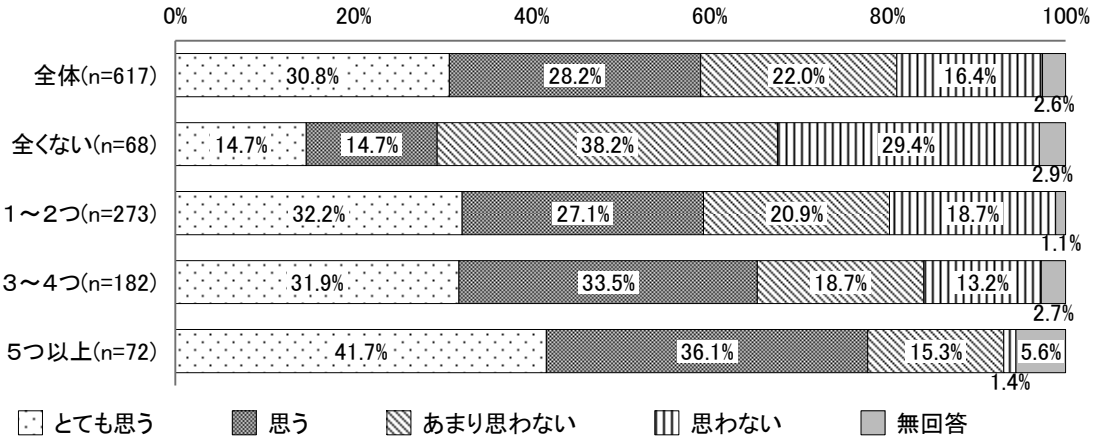
＜周辺層＞（p<.01）

図表 464　保護者との関わりのカテゴリ（こども Q23）別
思いや気持ち_自分のことが好きだ：単数回答（こども Q33I）



＜一般層＞（p<.01）

図表 465　保護者との関わりのカテゴリ（こども Q23）別
思いや気持ち_自分のことが好きだ：単数回答（こども Q33I）



（２）考察

○　ここまで、保護者との関わり状況とこどもの自己肯定感の関係を生活困難度別にみてきた。以下ではその結果を考察する。

○　保護者がこどもに受けさせたい教育の段階別に、こどもがどの段階まで進学したいかをみると、生活困難度に関わらず、どの段階とも両者が一致している割合が高くなっていたが、不一致も一定数、存在していた。また、親が考えるどの教育段階とも、こどもは「まだわからない」と回答した割合が２～３割程度みられたり、親が「まだわからない」と回答していても、こどもは、どの段階まで進学したいかを考えている割合の方が高いなど、わからないと感じている状況にもギャップがみられた。

○　保護者の関わりとこどもの自己肯定感についてみると、生活困難度に関わらず、「がんばれば、むくわれる」「自分は価値のある人間だ」「自分のことが好きだ」といった自己肯定感は、保護者との関わりが多いほど高くなる傾向にあり、保護者との関わりとこどもの自己肯定感には高い相関関係がみられた。

○　これらより、こどもの自己肯定感を高めるためには、保護者がこどもと一緒に食事をする、遊ぶ、話をするなど、日常生活の中で、様々な関わりを持つことが重要であると考えられる。

５．習い事の有無とこどもの自己肯定感

本節では、習い事の有無がこどもの自己肯定感にどのように影響するのかを分析した。
分析にあたっては、保護者票問 31 の「C　習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる」より、習い事を「している」「していない」別のクロス集計を行った。

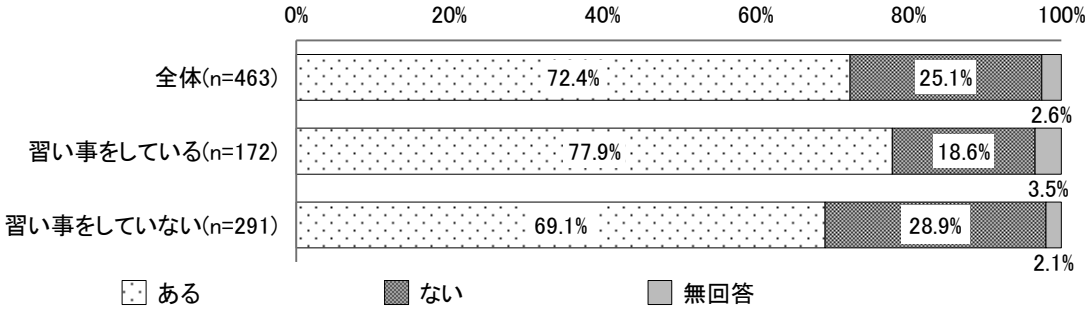
（1）分析結果

1）　【保護者×こども】将来の夢や目標

習い事の有無別に、将来の夢や目標があるかをみると、いずれの層とも、「習い事をしている」方が、将来の夢や目標が「ある」と回答した割合が高い。

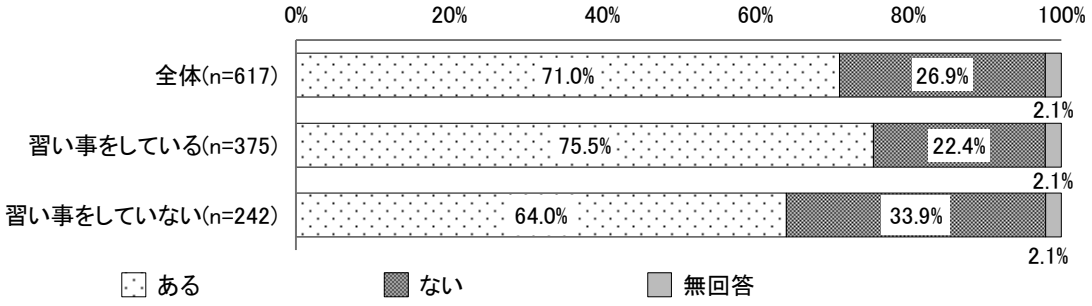
＜困窮層＞（p<.05）

図表 466　習い事の有無（保護者 Q31C）別　将来の夢や目標：単数回答（こども Q11）



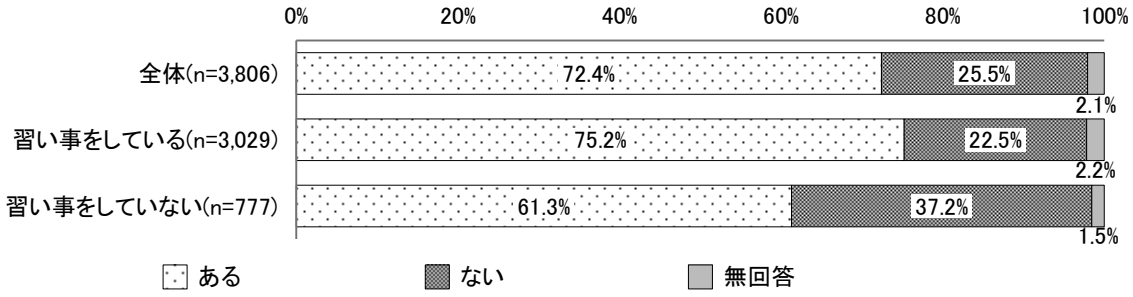
＜周辺層＞（p<.01）

図表 467　習い事の有無（保護者 Q31C）別　将来の夢や目標：単数回答（こども Q11）



＜一般層＞（p<.01）

図表 468　習い事の有無（保護者 Q31C）別　将来の夢や目標：単数回答（こども Q11）

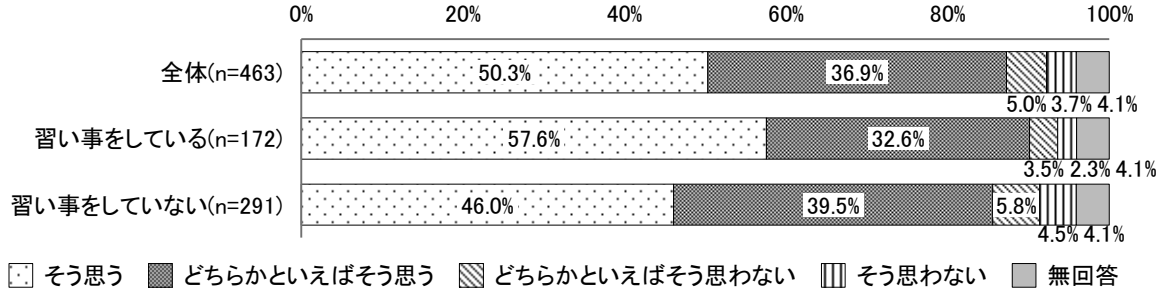


2)　【保護者×こども】将来のために、今頑張りたいと思うか

習い事の有無別に、将来のために、今頑張りたいと思うかをみると、一般層のみ、「習い事をしている」方が、「そう思う」と回答した割合が高い傾向がみられた。

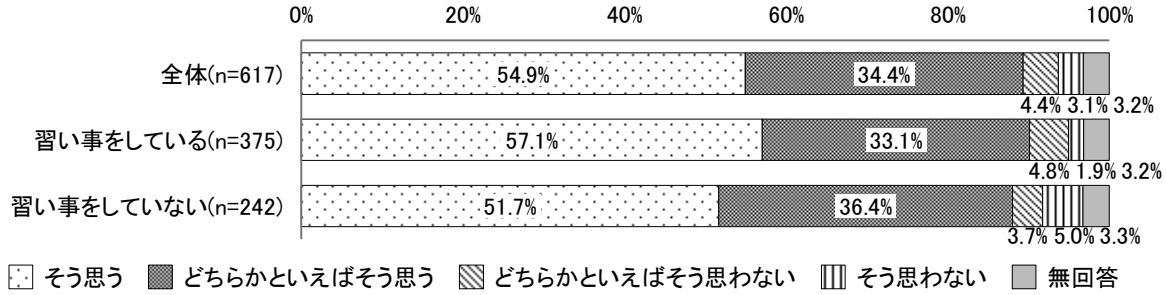
＜困窮層＞（有意差なし）

図表 469　習い事の有無（保護者 Q31C）別
将来のために、今頑張りたいと思うか：単数回答（こども Q13）



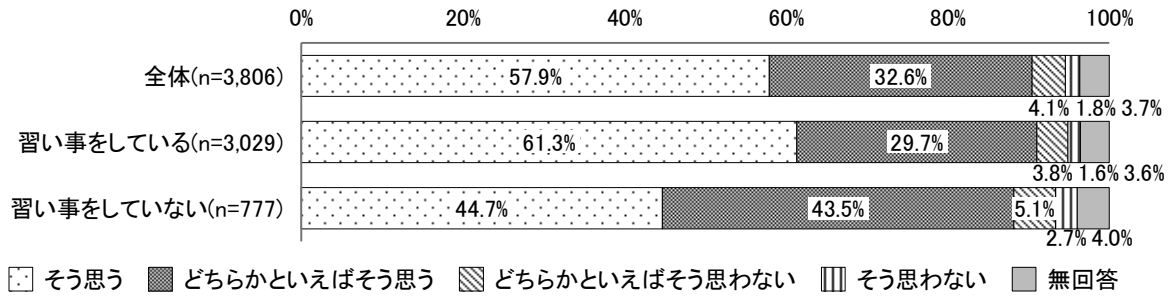
＜周辺層＞（有意差なし）

図表 470　習い事の有無（保護者 Q31C）別
将来のために、今頑張りたいと思うか：単数回答（こども Q13）



＜一般層＞（p<.01）

図表 471　習い事の有無（保護者 Q31C）別
将来のために、今頑張りたいと思うか：単数回答（こども Q13）

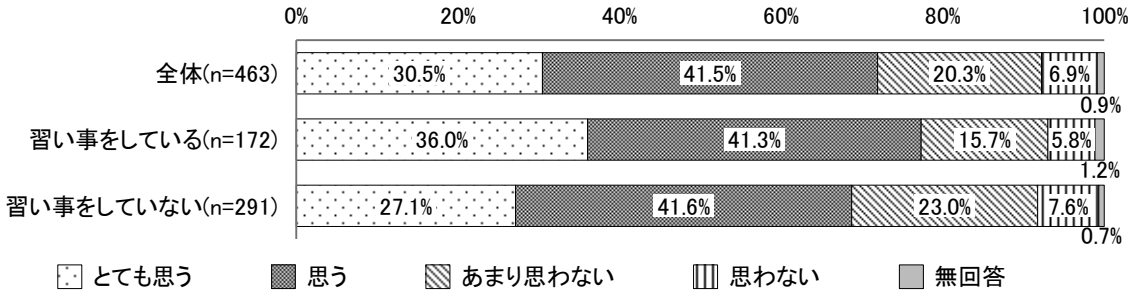


3)　【保護者×こども】思いや気持ち_がんばれば、むくわれる

習い事の有無別に、こどもの思いや気持ちとして『がんばれば、むくわれる』と思うかどうかをみると、一般層のみ、「習い事をしている」方が、「とても思う」と回答した割合が高い傾向がみられた。

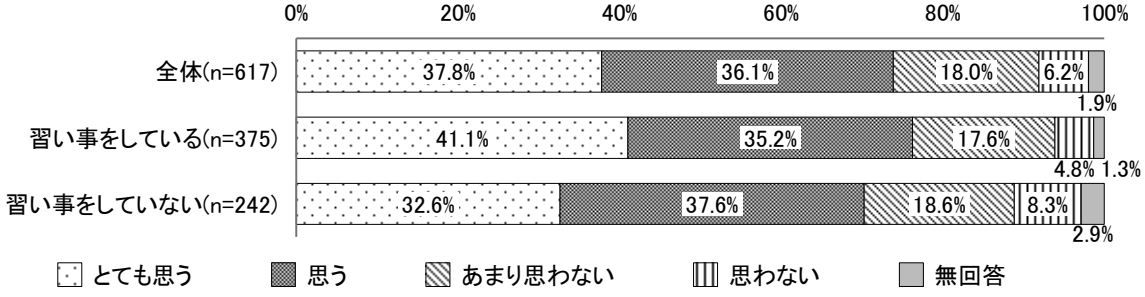
＜困窮層＞（有意差なし）

図表 472　習い事の有無（保護者 Q31C）別
思いや気持ち_がんばれば、むくわれる：単数回答（こども Q33A）



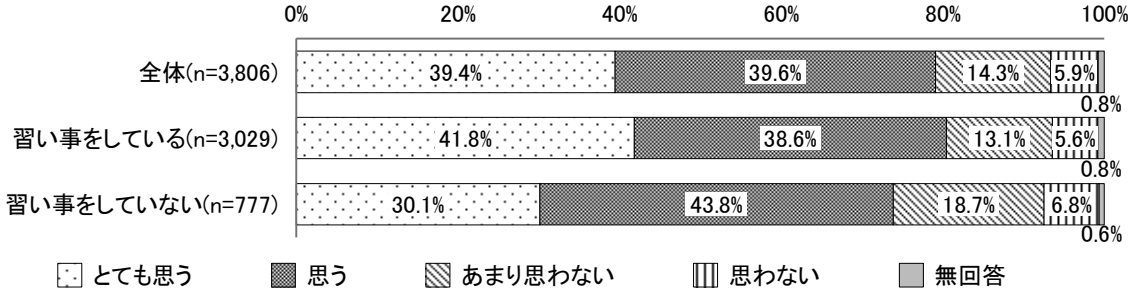
＜周辺層＞（有意差なし）

図表 473　習い事の有無（保護者 Q31C）別
思いや気持ち_がんばれば、むくわれる：単数回答（こども Q33A）



＜一般層＞（p<.01）

図表 474　習い事の有無（保護者 Q31C）別
思いや気持ち_がんばれば、むくわれる：単数回答（こども Q33A）

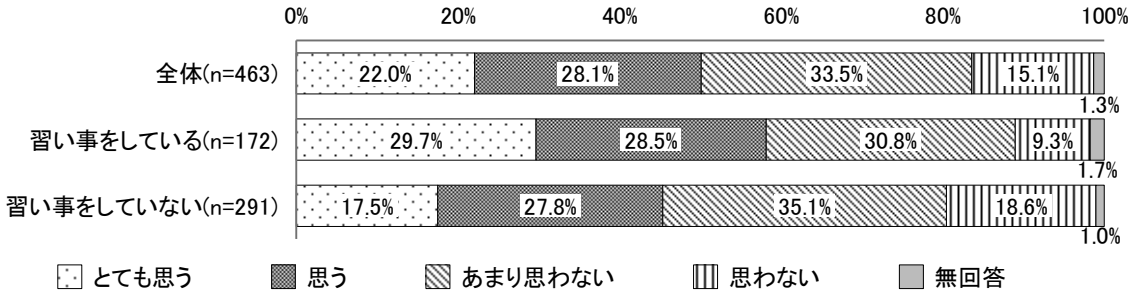


4)　【保護者×こども】思いや気持ち_自分は価値のある人間だ

習い事の有無別に、こどもの思いや気持ちとして『自分は価値のある人間だ』と思うかどうかをみると、いずれの層とも、「習い事をしている」方が、「とても思う」と回答した割合が高い傾向がみられた。

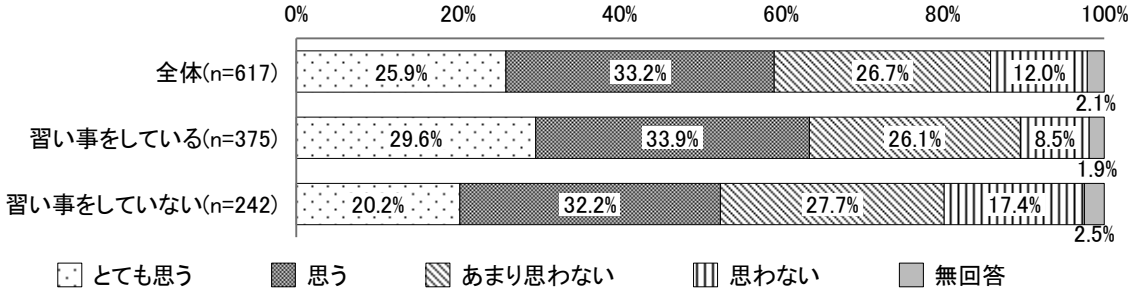
＜困窮層＞（p<.01）

図表 475　習い事の有無（保護者 Q31C）別
思いや気持ち_自分は価値のある人間だ：単数回答（こども Q33B）



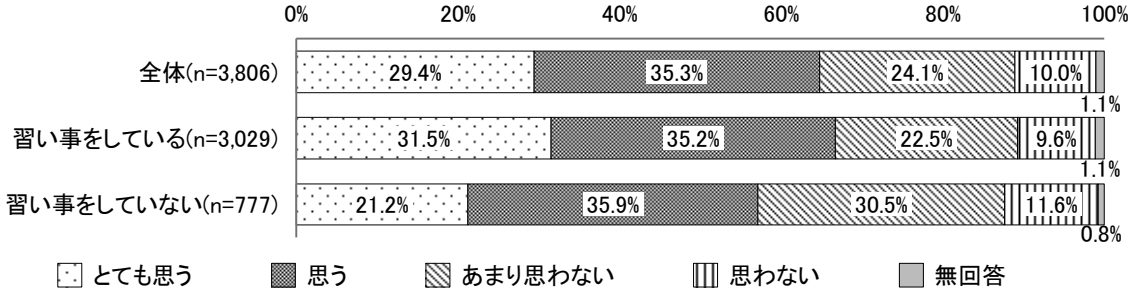
＜周辺層＞（p<.01）

図表 476　習い事の有無（保護者 Q31C）別
思いや気持ち_自分は価値のある人間だ：単数回答（こども Q33B）



＜一般層＞（p<.01）

図表 477　習い事の有無（保護者 Q31C）別
思いや気持ち_自分は価値のある人間だ：単数回答（こども Q33B）

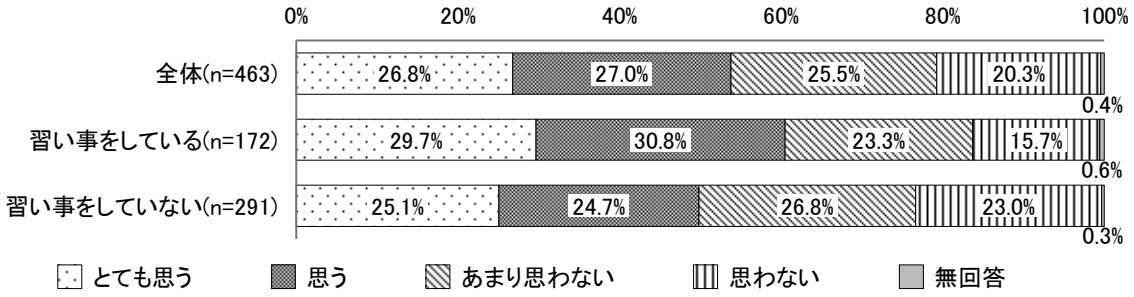


5)　【保護者×こども】思いや気持ち_自分のことが好きだ

習い事の有無別に、こどもの思いや気持ちとして『自分のことが好きだ』と思うかどうかをみると、周辺層、一般層では、「習い事をしている」方が、「とても思う」と回答した割合が高い傾向がみられたが、困窮層では差がみられなかった。

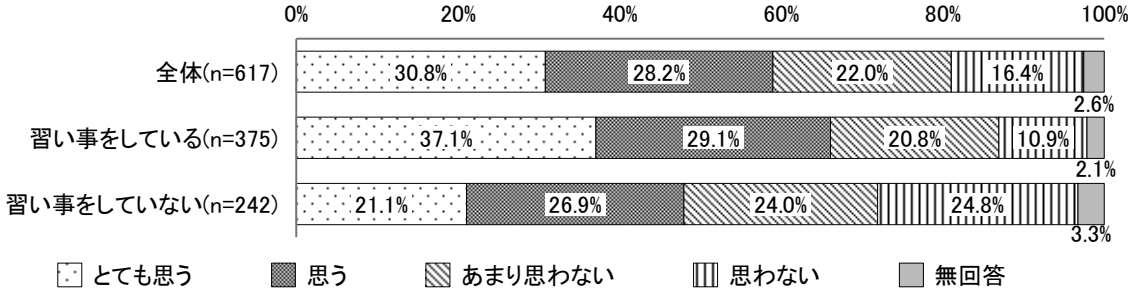
＜困窮層＞（有意差なし）

図表 478　習い事の有無（保護者 Q31C）別
思いや気持ち_自分のことが好きだ：単数回答（こども Q33I）



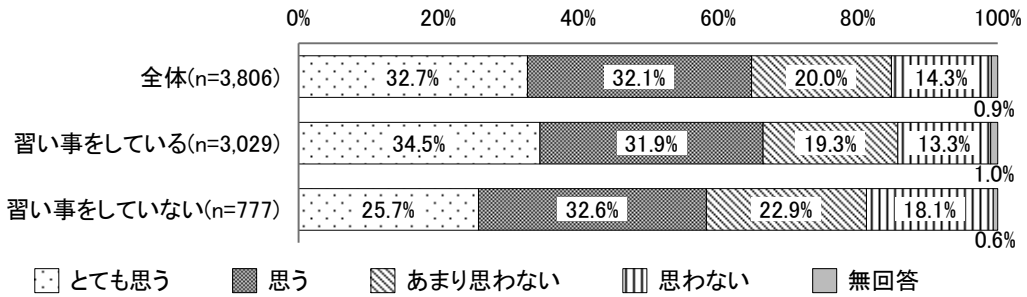
＜周辺層＞（p<.01）

図表 479　習い事の有無（保護者 Q31C）別
思いや気持ち_自分のことが好きだ：単数回答（こども Q33I）



＜一般層＞（p<.01）

図表 480　習い事の有無（保護者 Q31C）別
思いや気持ち_自分のことが好きだ：単数回答（こども Q33I）



（2）考察

○　ここまで、習い事の有無と、こどもの将来の夢や自己肯定感との関係を生活困難度別にみてきた。以下ではその結果を考察する。

○　「将来の夢や目標があるか」は生活困難度に関わらずすべての層で有意差があり、習い事をしている方が、こどもは将来の夢や目標を持ちやすい状況がうかがえた。一方、「将来のために、今頑張りたいと思うか」は一般層のみ、習い事をしている方が「そう思う」と回答した割合が高かった。

○　習い事の有無と自己肯定感の関係をみると、「がんばれば、むくわれる」は一般層のみ、「自分のことが好きだ」は周辺層と一般層、「自分は価値のある人間だ」はいずれの層とも習い事をしている方が「とても思う」と回答した割合が高く、生活困難度によって有意差がみられるものが異なっていた。他の層と比較して、一般層は、習い事をしている方が、より自己肯定感が高い傾向にあった。

○　生活困難度によって自己肯定感にはやや違いがみられたものの、生活困難度に関わらず、習い事をすることは、こどもを前向きな気持ちにしたり、将来に対して希望をもったりすることにつながることがうかがえた。

６．こどもの生活習慣と健康

本節では、こどもの生活習慣と健康について分析した。
分析にあたっては、こども票問 14 の平日の就寝時間別に、こどもの心身の健康状態に関する設問とのクロス集計を行った。

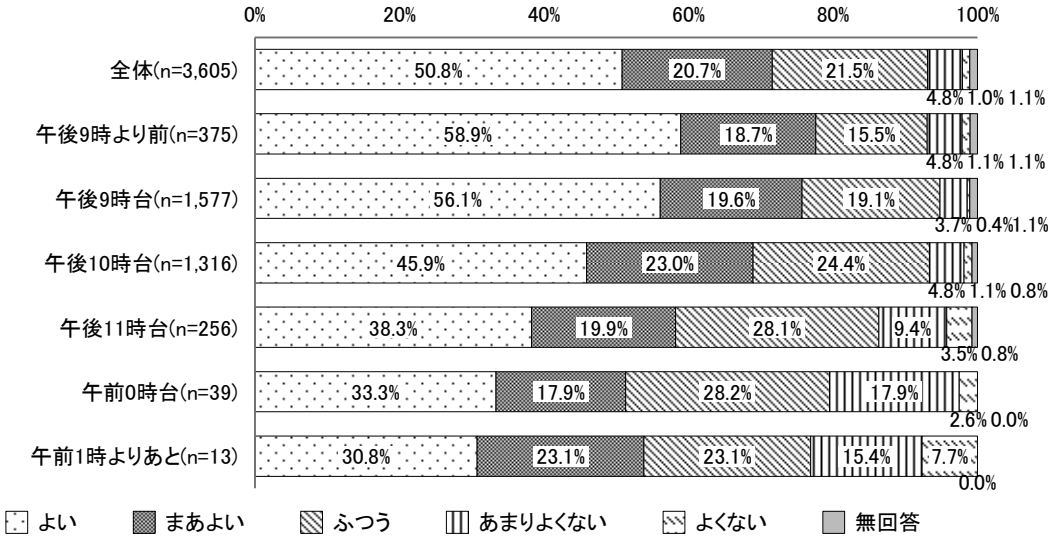
（１）分析結果

1）　【こども】自分の健康状態

平日の就寝時間別に、自分の健康状態をみると、小学生、中学生とも、就寝時間が早いほど、「よい」と回答した割合が高い傾向にある。

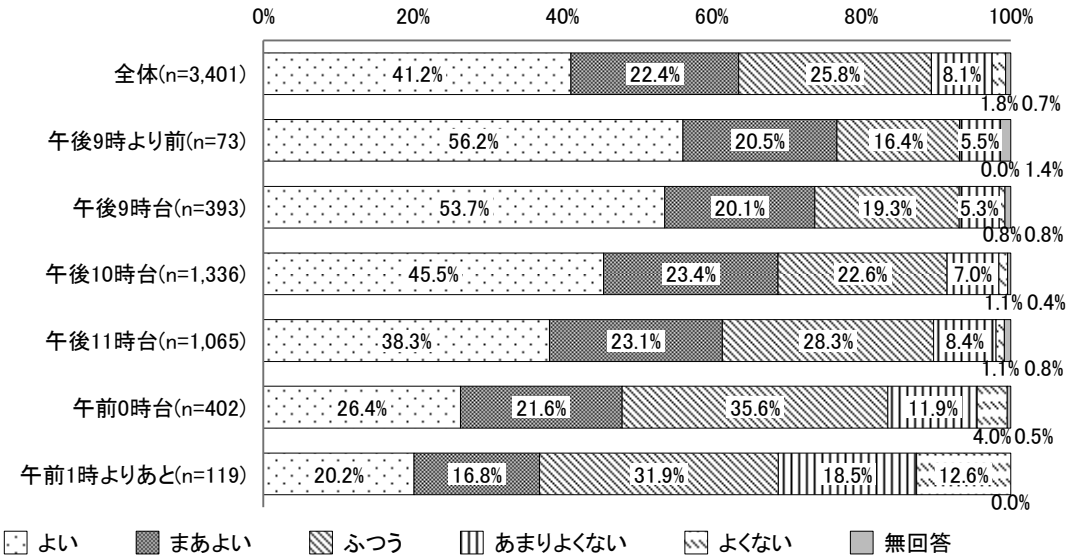
＜小学生＞（p<.01）

図表 481　平日の就寝時間（こども Q14）別　自分の健康状態：単数回答（こども Q30）



＜中学生＞（p<.01）

図表 482　平日の就寝時間（こども Q14）別　自分の健康状態：単数回答（こども Q30）

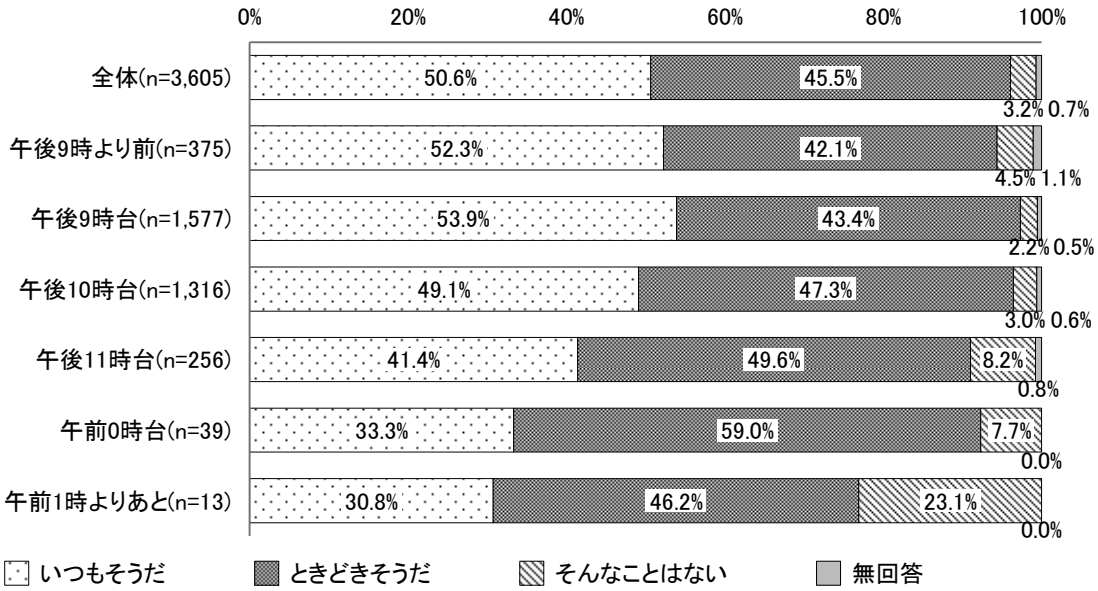


2)　【こども】心の状態_楽しみにしていることがたくさんある

平日の就寝時間別に、この１週間「楽しみにしていることがたくさんある」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、就寝時間が早いほど、「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にある。

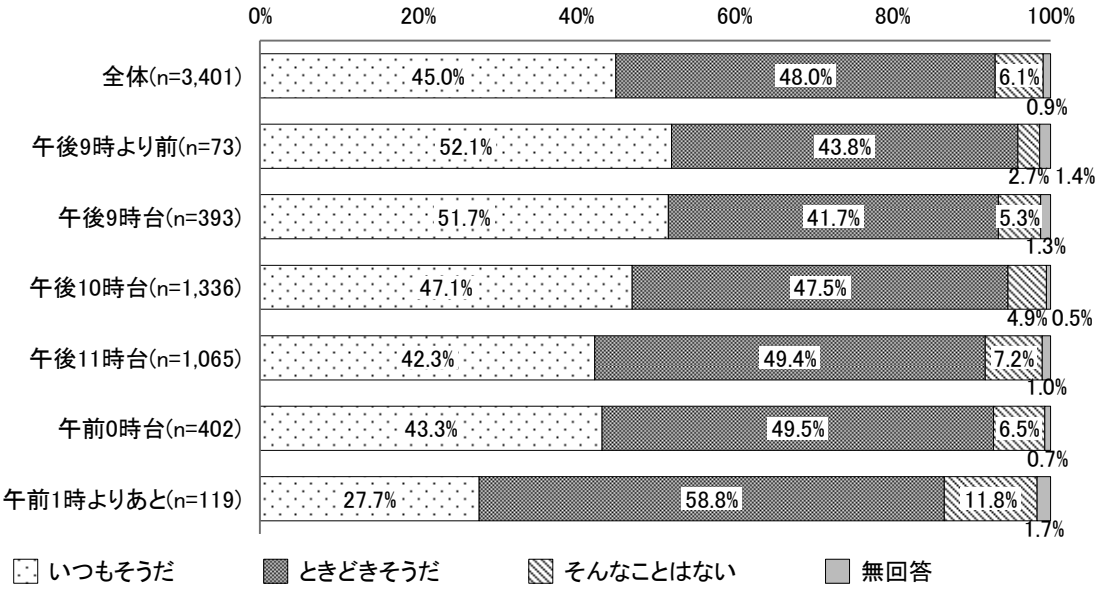
＜小学生＞（p<.01）

図表 483　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_楽しみにしていることがたくさんある：単数回答（こども Q32A）



＜中学生＞（p<.01）

図表 484　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_楽しみにしていることがたくさんある：単数回答（こども Q32A）

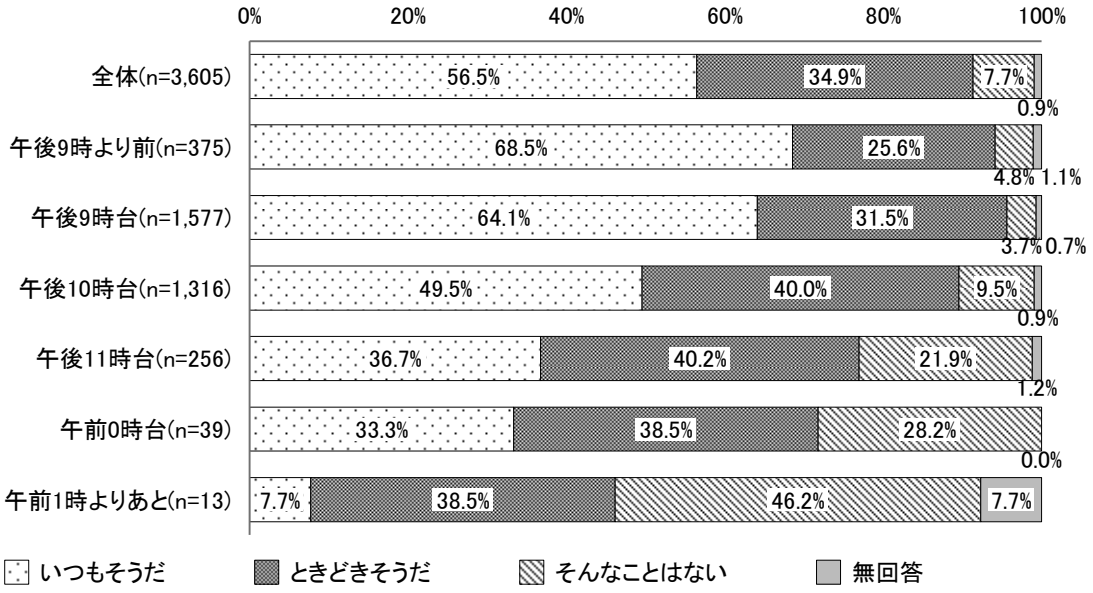


3)　【こども】心の状態_とてもよく眠れる

平日の就寝時間別に、この１週間「とてもよく眠れる」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、就寝時間が早いほど、「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にある。

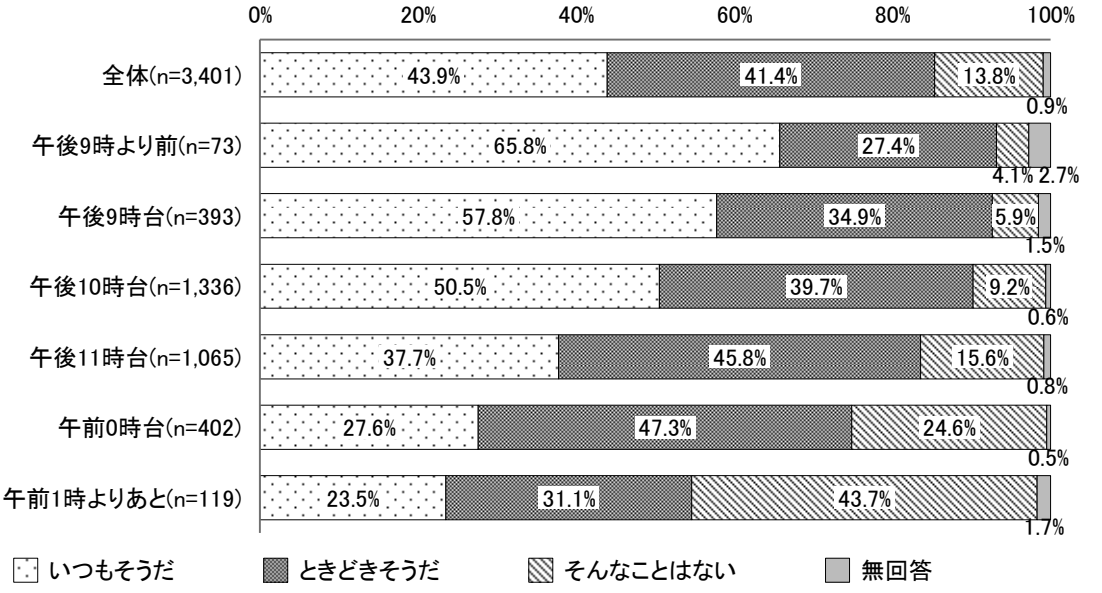
＜小学生＞（p<.01）

図表 485　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_とてもよく眠れる：単数回答（こども Q32B）



＜中学生＞（p<.01）

図表 486　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_とてもよく眠れる：単数回答（こども Q32B）

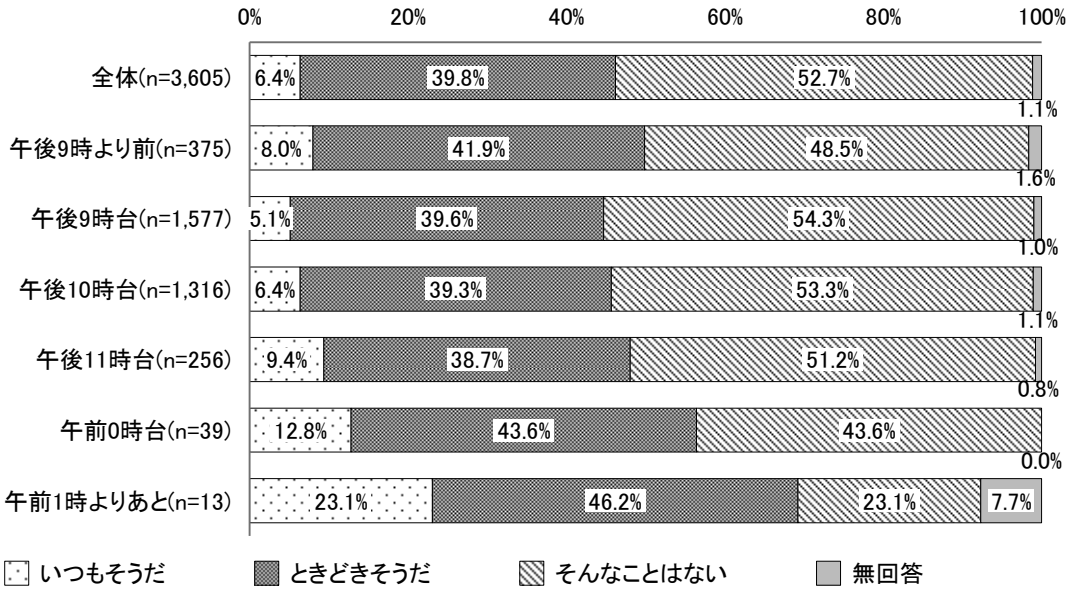


4)　【こども】心の状態_泣きたいような気がする

平日の就寝時間別に、この１週間「泣きたいような気がする」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、就寝時間が「午前０時台」以降であるほど、「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にある。

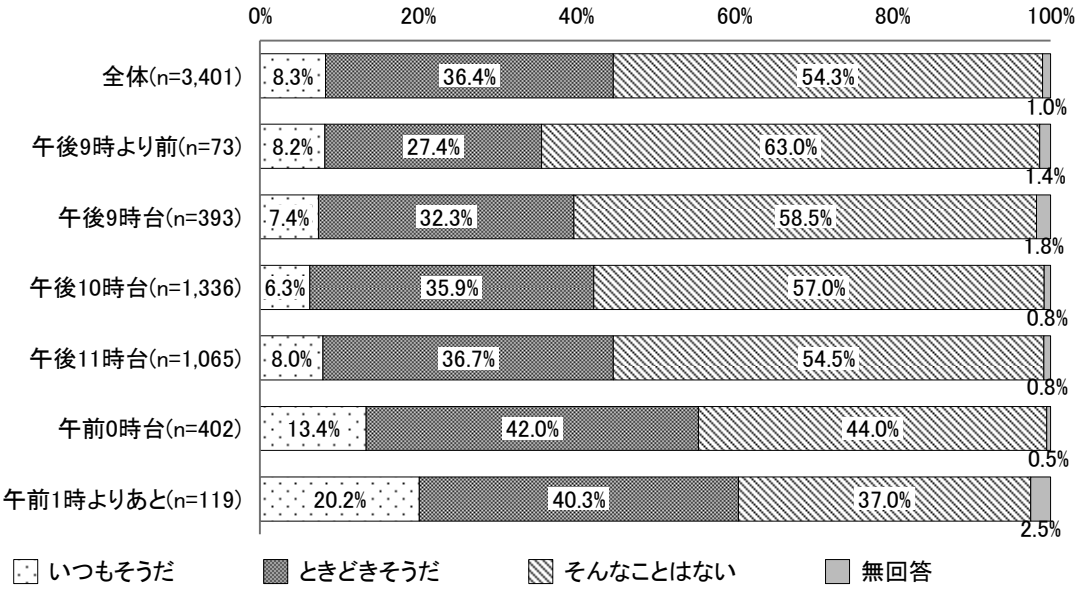
＜小学生＞（p<.01）

図表 487　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_泣きたいような気がする：単数回答（こども Q32C）



＜中学生＞（p<.01）

図表 488　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_泣きたいような気がする：単数回答（こども Q32C）

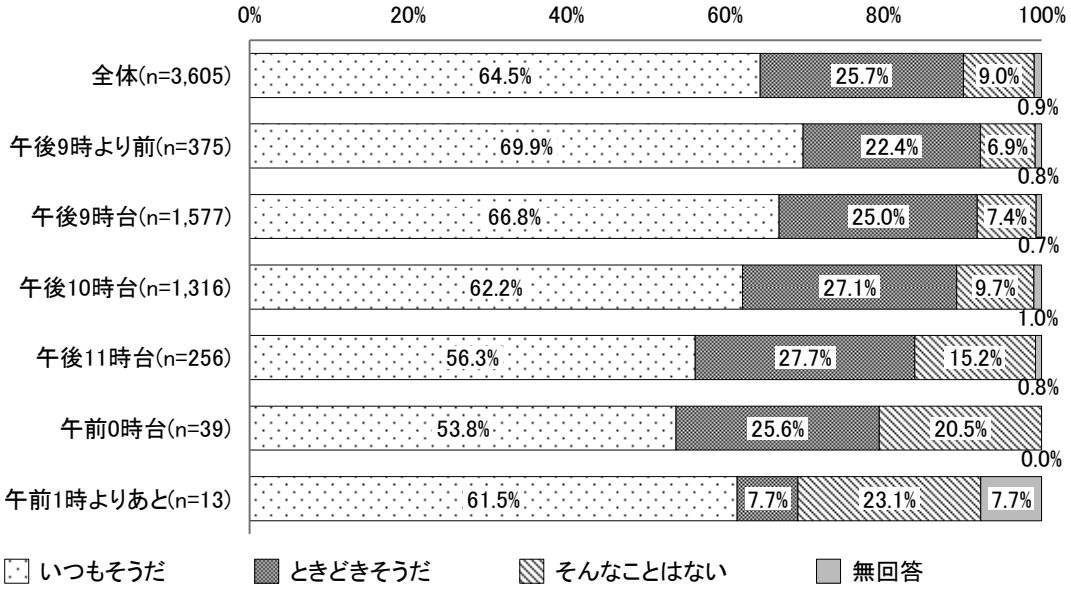


5)　【こども】心の状態_遊びに出かけるのが好きだ

平日の就寝時間別に、この１週間「遊びに出かけるのが好きだ」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、就寝時間が遅いほど、「そんなことはない」と回答した割合が高い傾向にある。

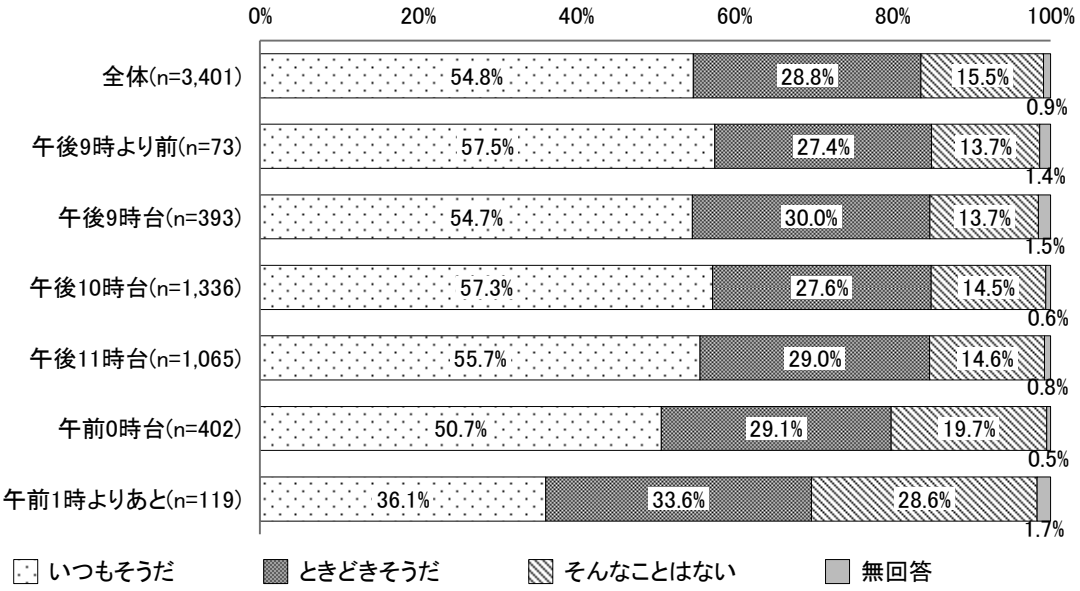
＜小学生＞（p<.01）

図表 489　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_遊びに出かけるのが好きだ：単数回答（こども Q32D）



＜中学生＞（p<.01）

図表 490　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_遊びに出かけるのが好きだ：単数回答（こども Q32D）

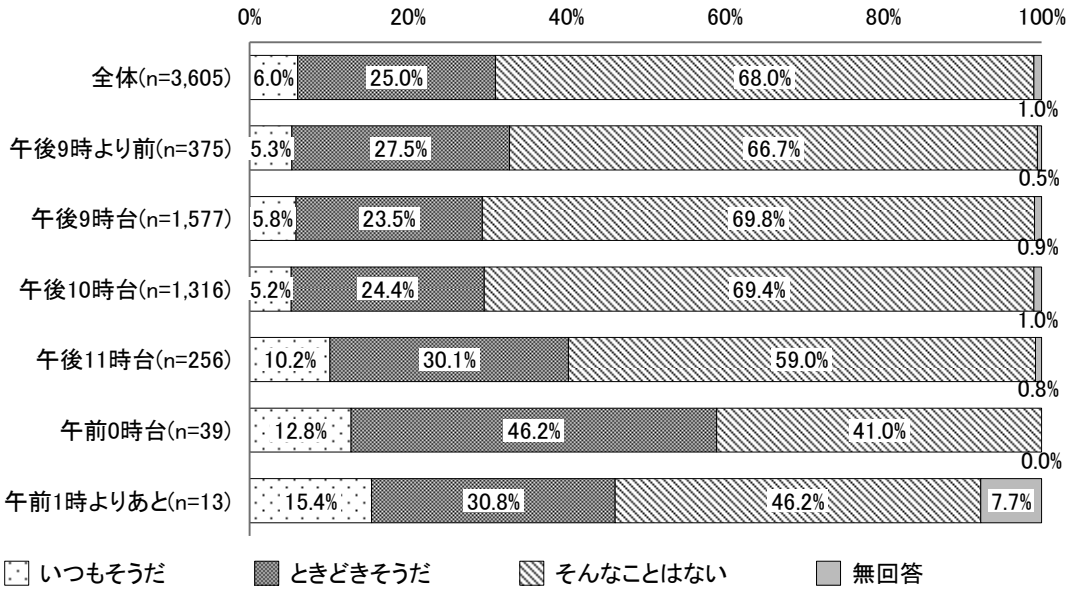


6)　【こども】心の状態_逃げ出したいような気がする

平日の就寝時間別に、この１週間「逃げ出したいような気がする」と感じたかどうかをみると、小学生では「午後 11 時台」以降、中学生では「午前０時台」以降であるほど、「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にある。

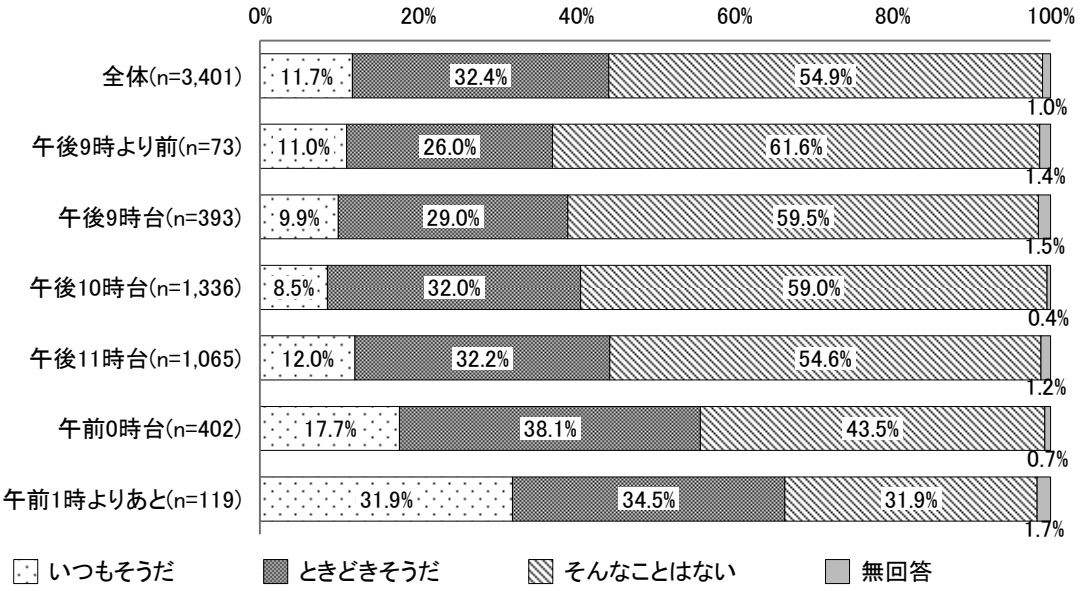
＜小学生＞（p<.01）

図表 491　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_逃げ出したいような気がする：単数回答（こども Q32E）



＜中学生＞（p<.01）

図表 492　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_逃げ出したいような気がする：単数回答（こども Q32E）

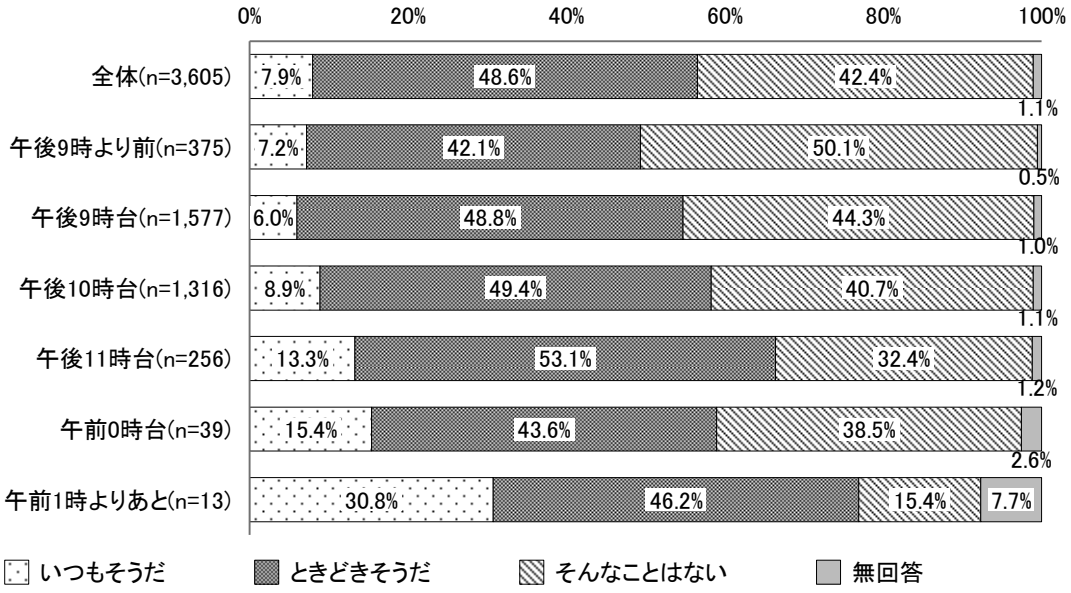


7)　【こども】心の状態_おなかが痛くなることがある

平日の就寝時間別に、この１週間「おなかが痛くなることがある」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、就寝時間が遅いほど、「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にある。

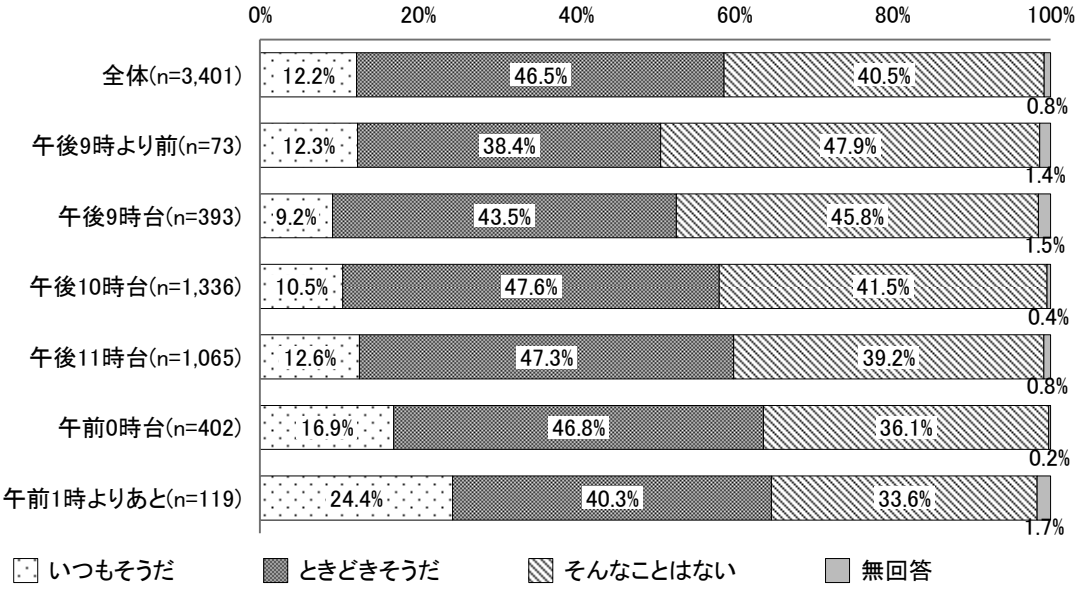
＜小学生＞（p<.01）

図表 493　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_おなかが痛くなることがある：単数回答（こども Q32F）



＜中学生＞（p<.01）

図表 494　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_おなかが痛くなることがある：単数回答（こども Q32F）

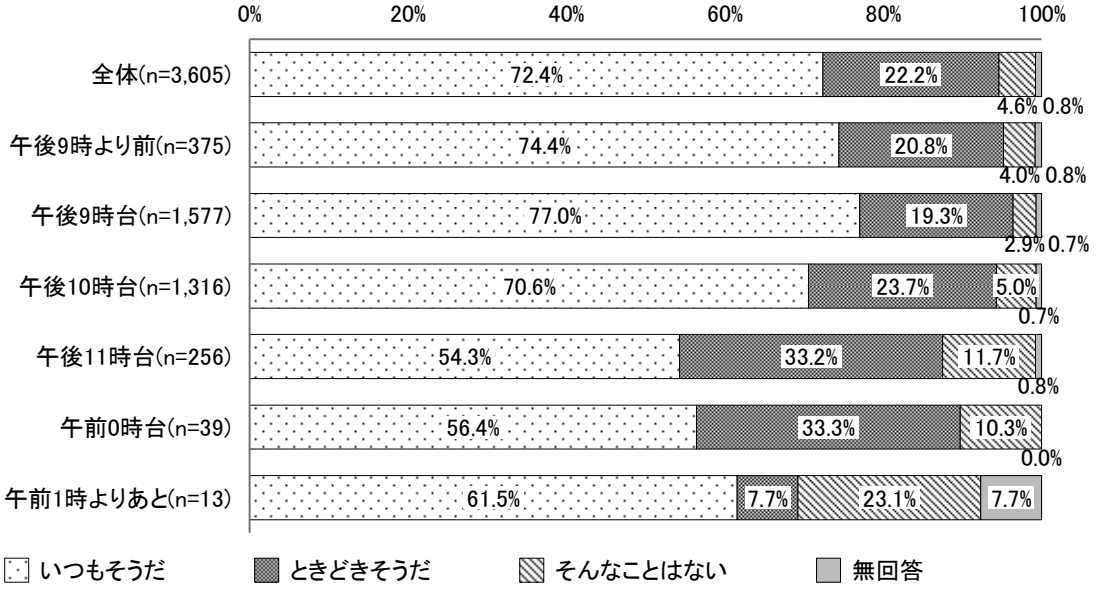


8)　【こども】心の状態_元気いっぱいだ

平日の就寝時間別に、この１週間「元気いっぱいだ」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、「午後 10 時台」以前では、「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にある。

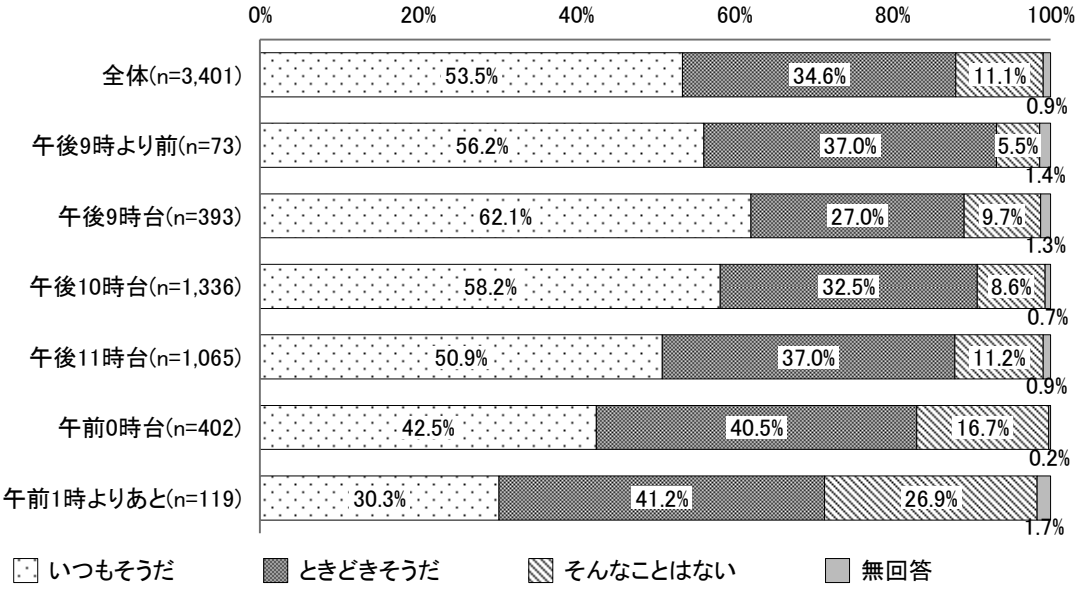
＜小学生＞（p<.01）

図表 495　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_元気いっぱいだ：単数回答（こども Q32G）



＜中学生＞（p<.01）

図表 496　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_元気いっぱいだ：単数回答（こども Q32G）

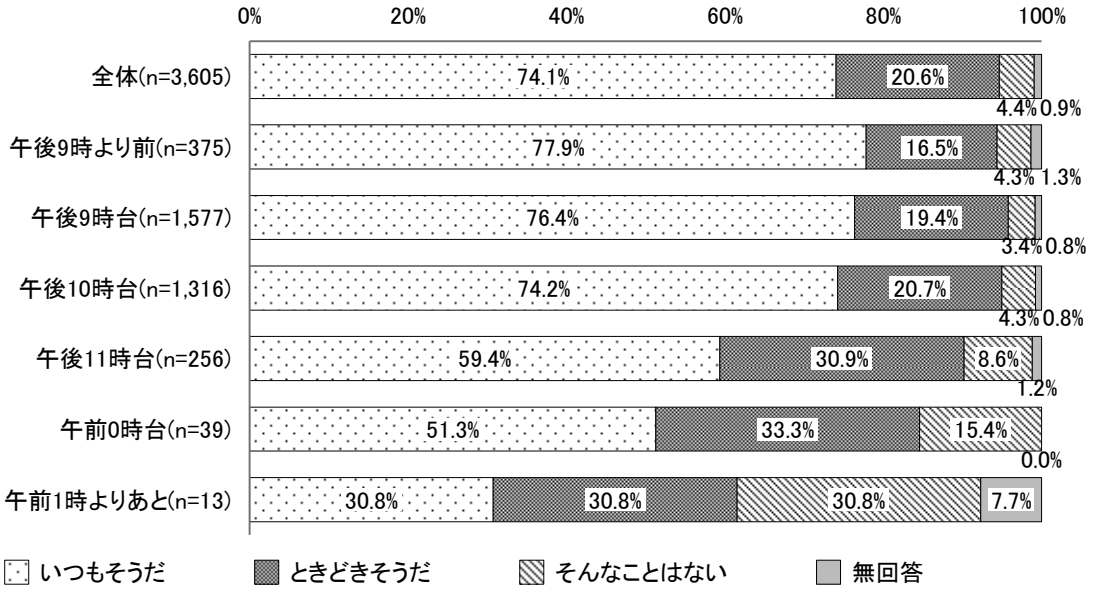


9)　【こども】心の状態_食事が楽しい

平日の就寝時間別に、この１週間「食事が楽しい」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、就寝時間が早いほど、「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にある。

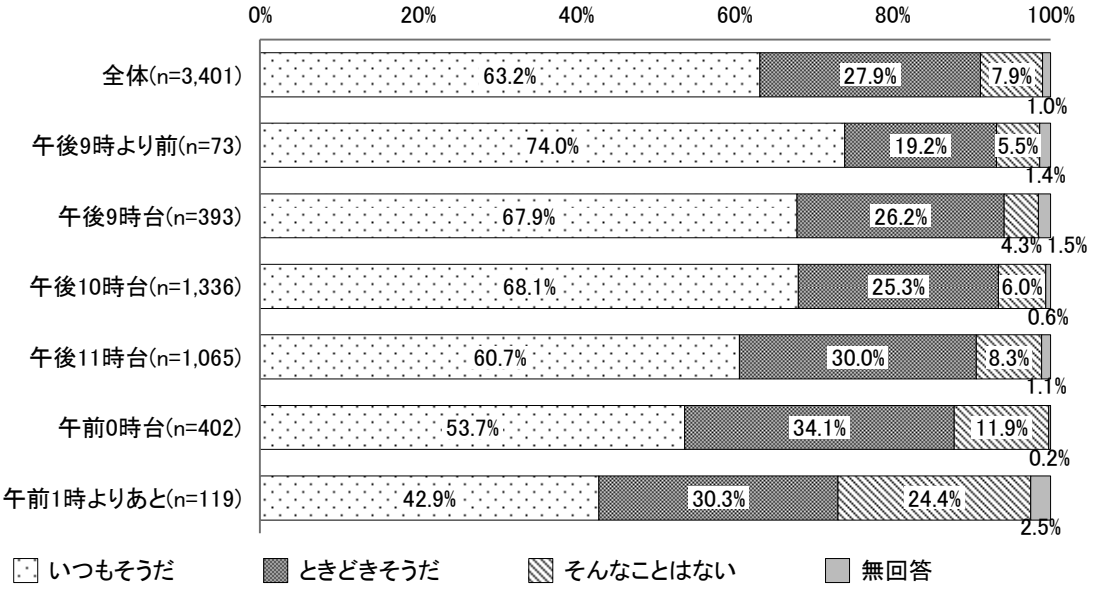
＜小学生＞（p<.01）

図表 497　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_食事が楽しい：単数回答（こども Q32H）



＜中学生＞（p<.01）

図表 498　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_食事が楽しい：単数回答（こども Q32H）

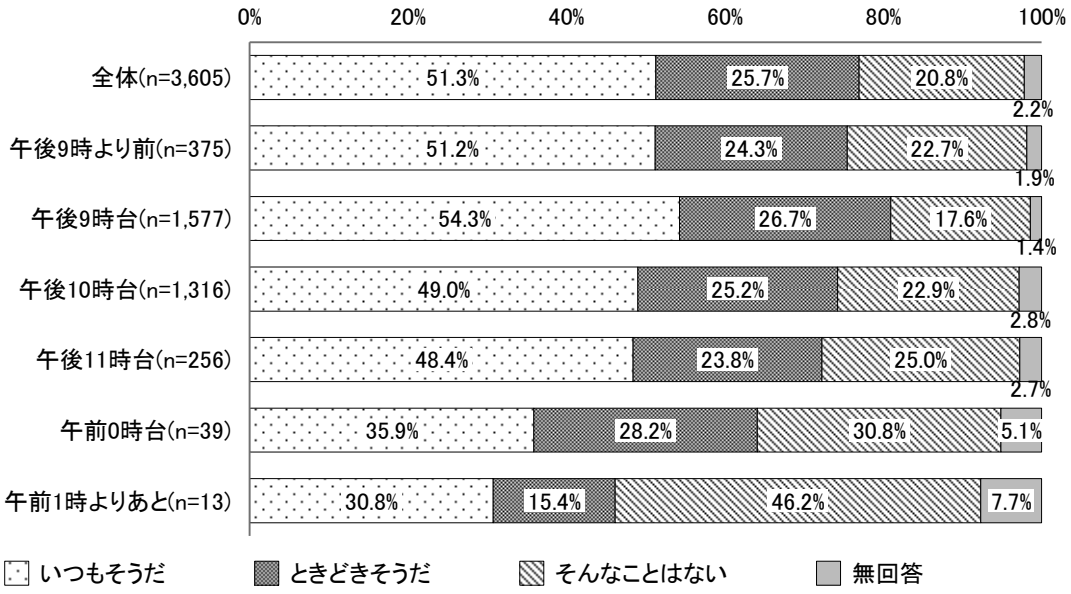


10）【こども】心の状態_いじめられても自分で「やめて」と言える

平日の就寝時間別に、この１週間「いじめられても自分で「やめて」と言える」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、就寝時間が早いほど、「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にある。

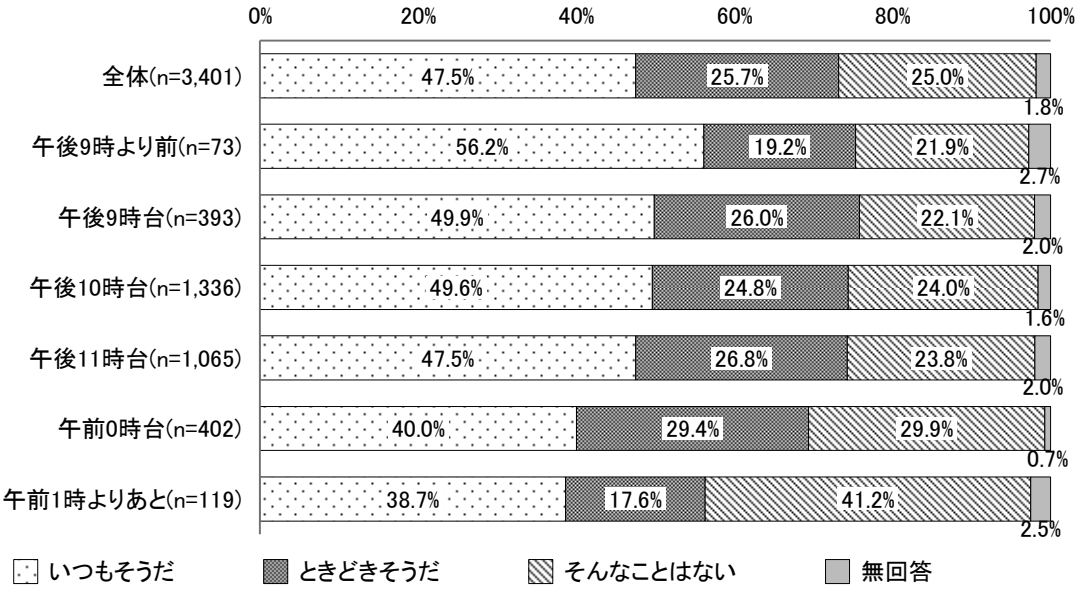
＜小学生＞（p<.01）

図表 499　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_いじめられても自分で「やめて」と言える：単数回答（こども Q32I）



＜中学生＞（p<.01）

図表 500　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_いじめられても自分で「やめて」と言える：単数回答（こども Q32I）

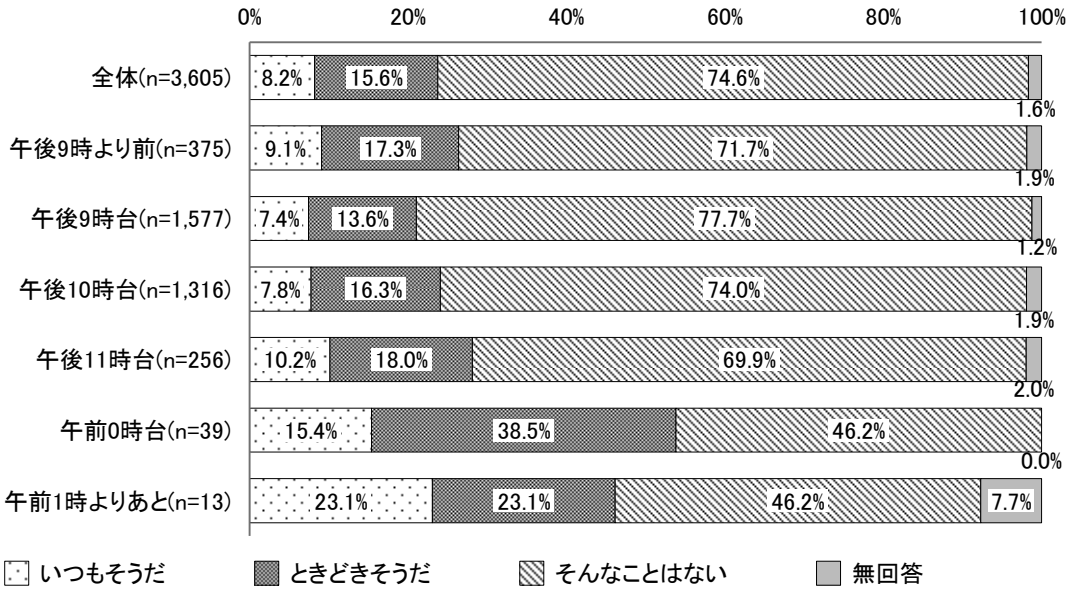


11）【こども】心の状態_生きていても仕方がないと思う

平日の就寝時間別に、この１週間「生きていても仕方がないと思う」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、就寝時間が午前０時台以降になると、「いつもそうだ」「ときどきそうだ」を合わせた『そうだ』と感じる割合が高くなっている。

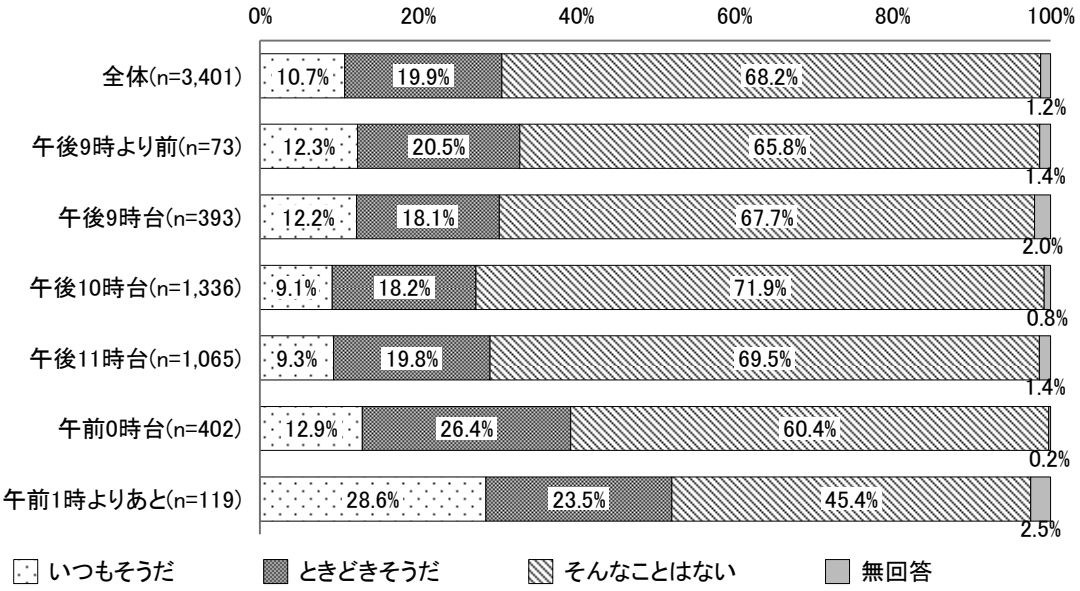
＜小学生＞（p<.01）

図表 501　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_生きていても仕方がないと思う：単数回答（こども Q32J）



＜中学生＞（p<.01）

図表 502　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_生きていても仕方がないと思う：単数回答（こども Q32J）

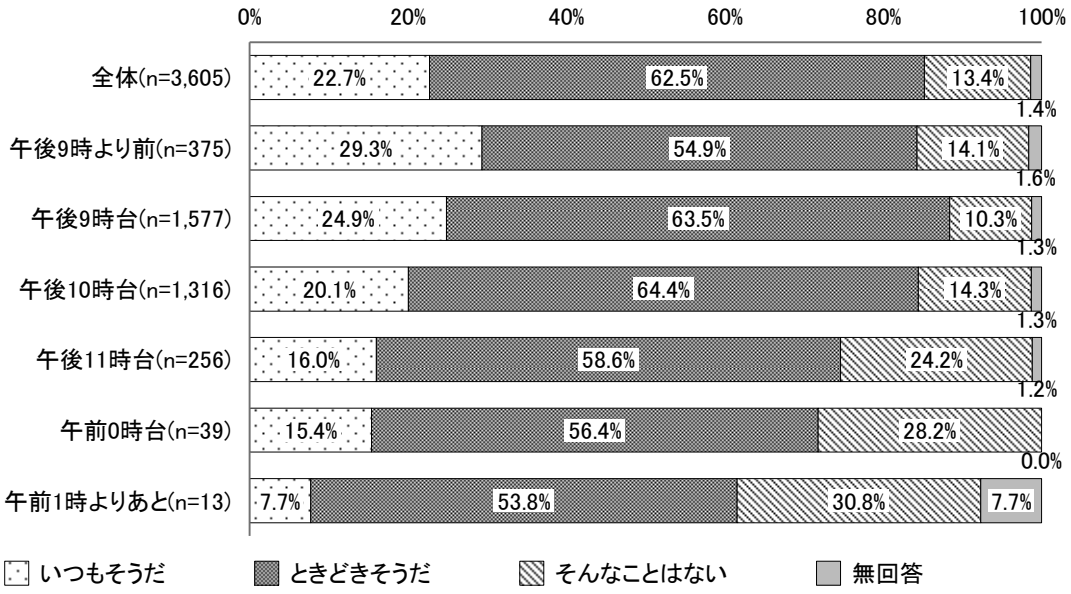


12) 【こども】心の状態_やろうと思ったことがうまくできる

平日の就寝時間別に、この１週間「やろうと思ったことがうまくできる」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、就寝時間が早いほど、「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にある。

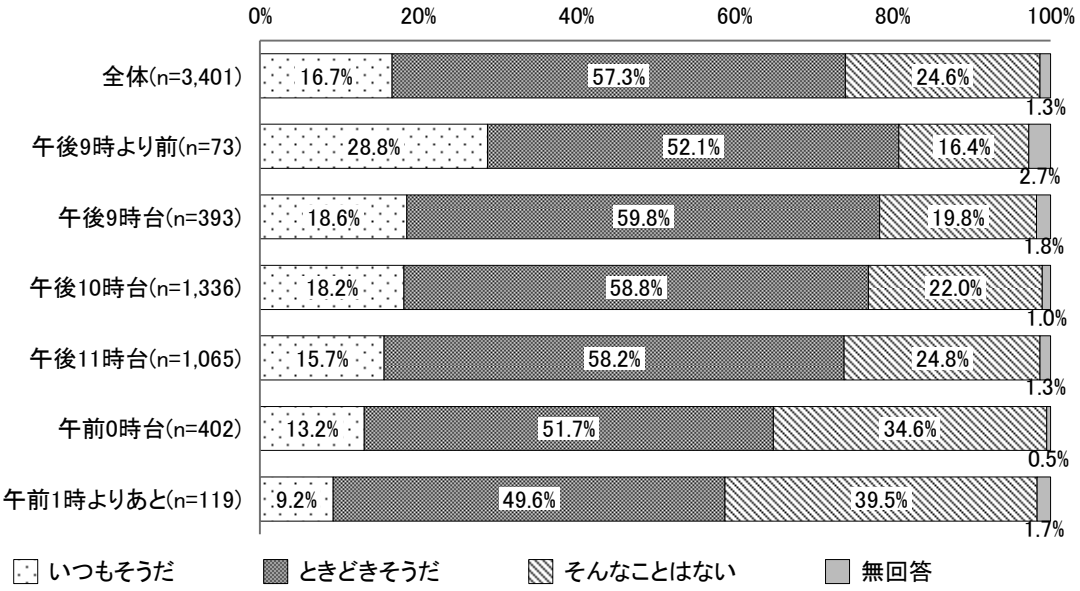
＜小学生＞（p<.01）

図表 503　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_やろうと思ったことがうまくできる：単数回答（こども Q32K）



＜中学生＞（p<.01）

図表 504　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_やろうと思ったことがうまくできる：単数回答（こども Q32K）

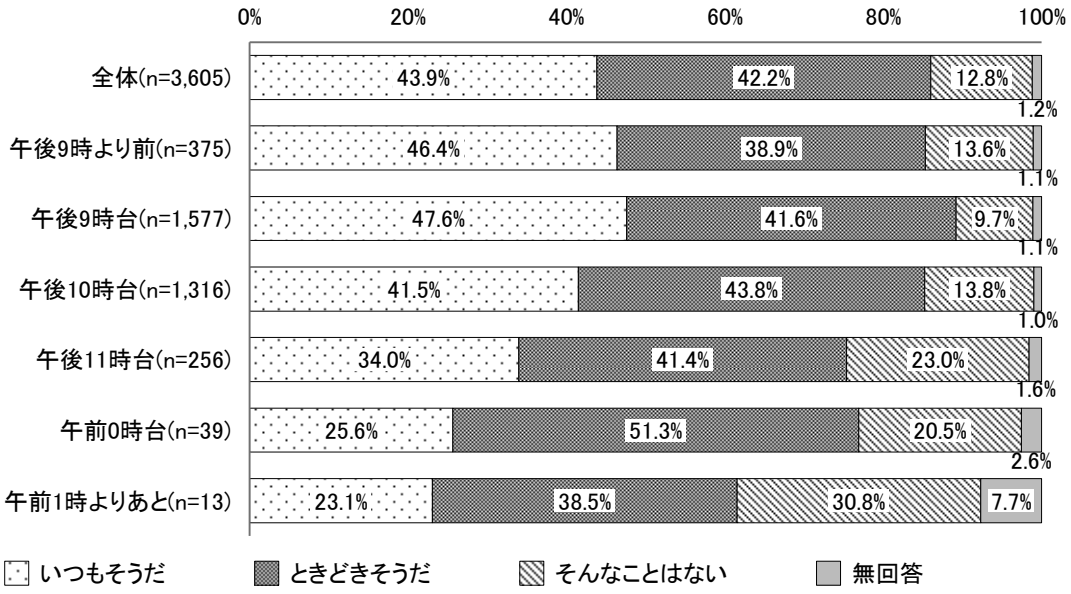


13）【こども】心の状態_いつものように何をしても楽しい

平日の就寝時間別に、この１週間「いつものように何をしても楽しい」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、就寝時間が早いほど、「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にある。

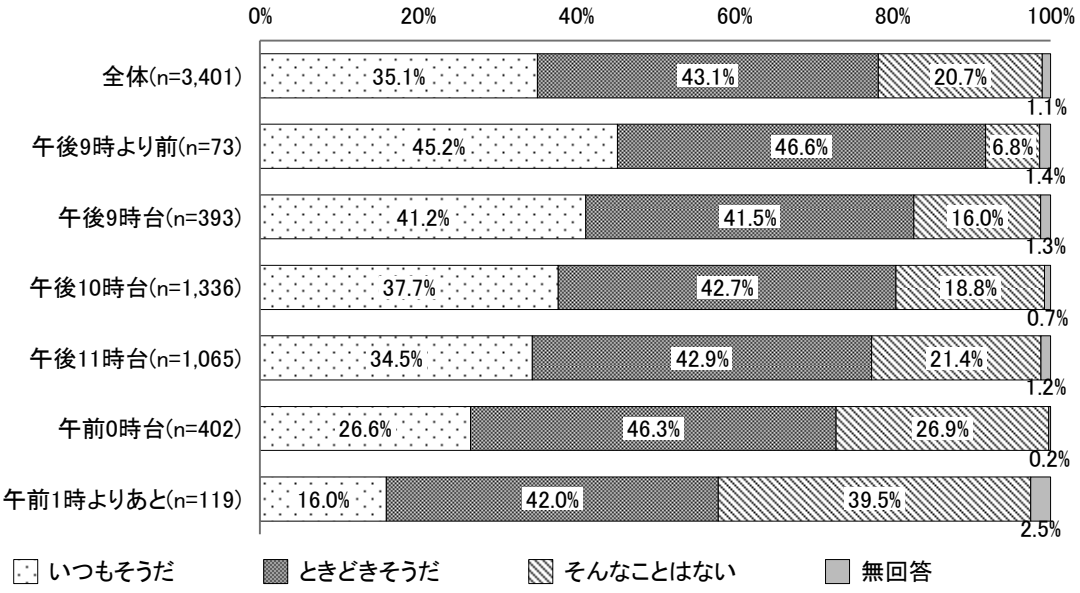
＜小学生＞（p<.01）

図表 505　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_いつものように何をしても楽しい：単数回答（こども Q32L）



＜中学生＞（p<.01）

図表 506　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_いつものように何をしても楽しい：単数回答（こども Q32L）

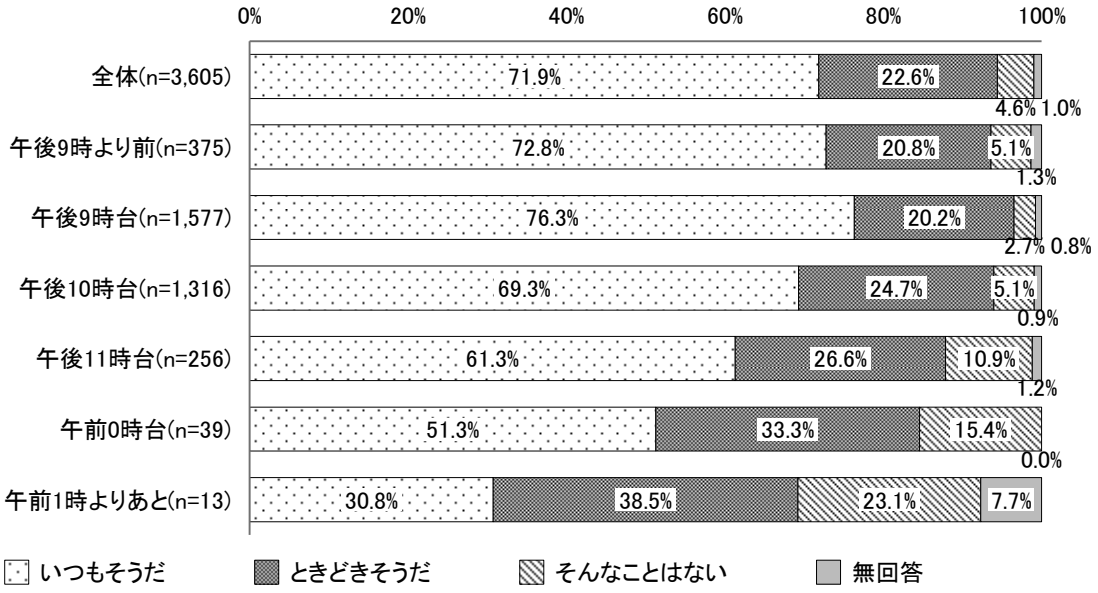


14）【こども】心の状態_家族と話すのが好きだ

平日の就寝時間別に、この１週間「家族と話すのが好きだ」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、就寝時間が早いほど、「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にある。

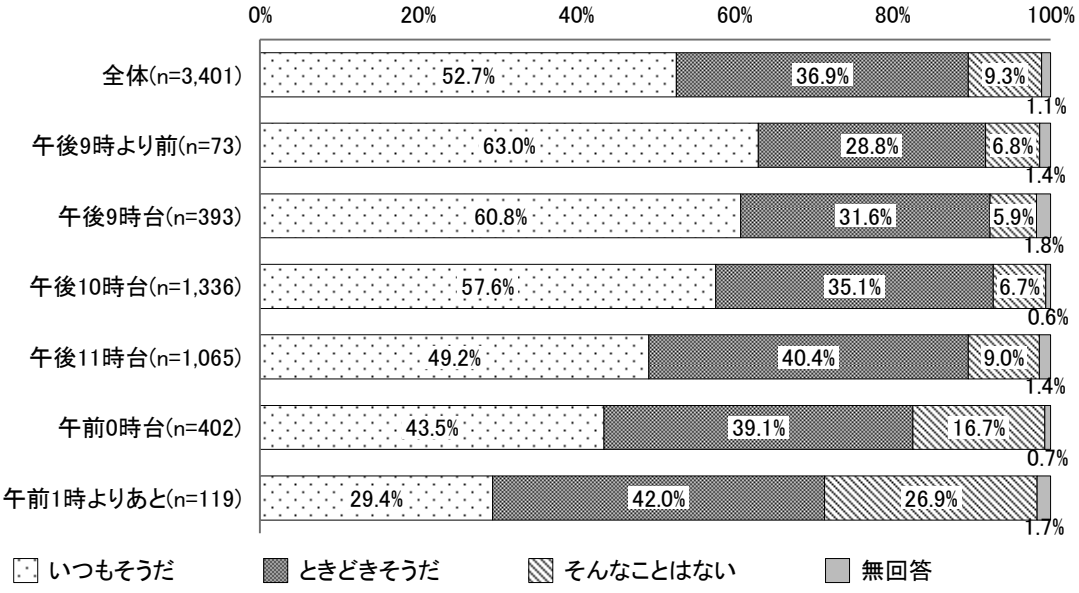
＜小学生＞（p<.01）

図表 507　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_家族と話すのが好きだ：単数回答（こども Q32M）



＜中学生＞（p<.01）

図表 508　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_家族と話すのが好きだ：単数回答（こども Q32M）

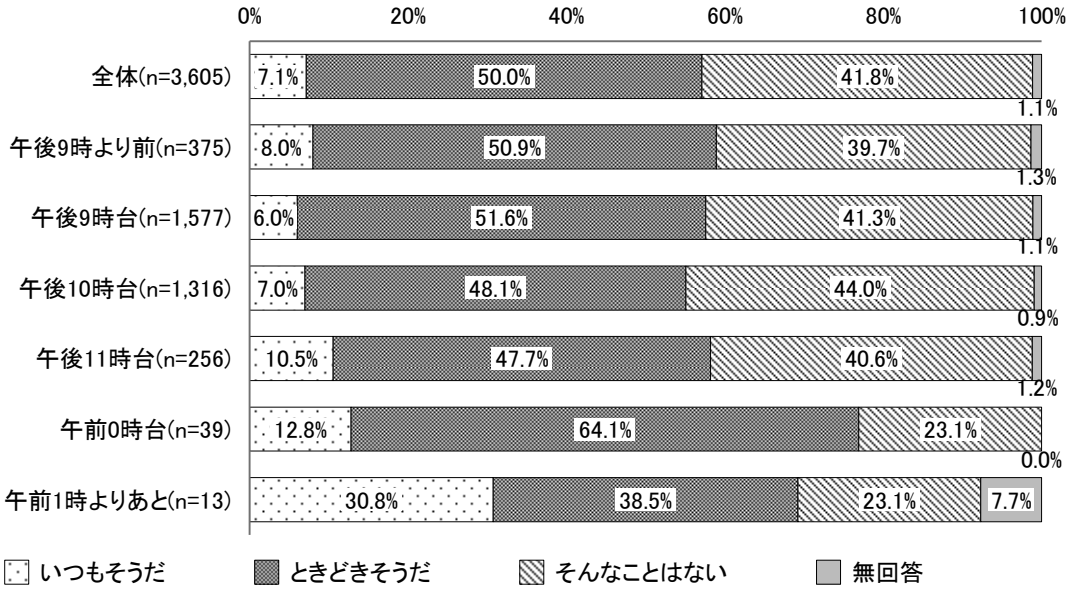


15）【こども】心の状態_こわい夢を見る

平日の就寝時間別に、この１週間「こわい夢を見る」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、就寝時間が遅いほど、「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にある。

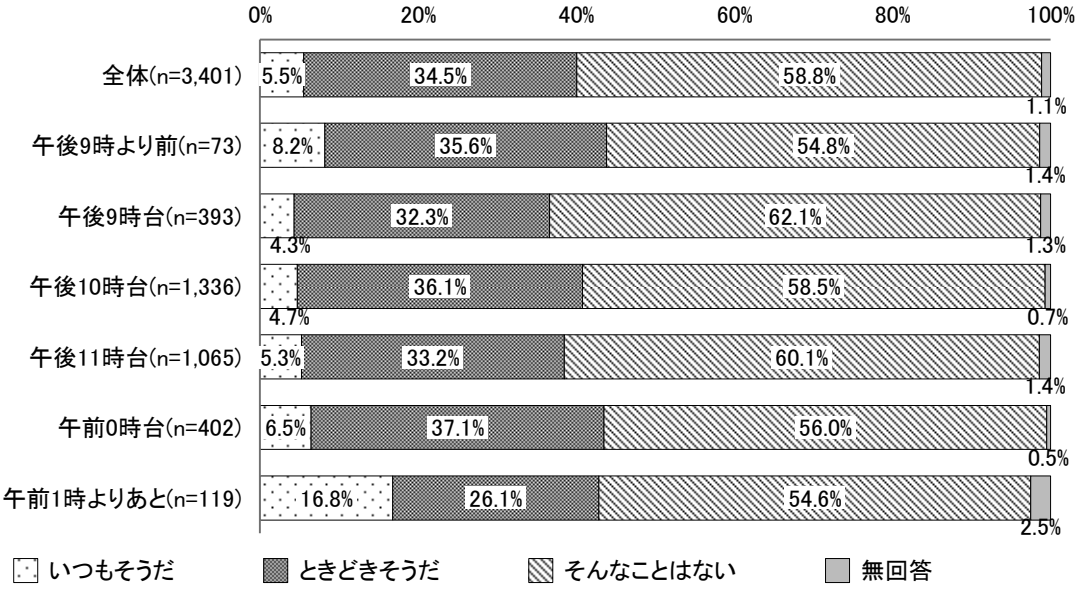
＜小学生＞（p<.01）

図表 509　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_こわい夢を見る：単数回答（こども Q32N）



＜中学生＞（p<.01）

図表 510　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_こわい夢を見る：単数回答（こども Q32N）

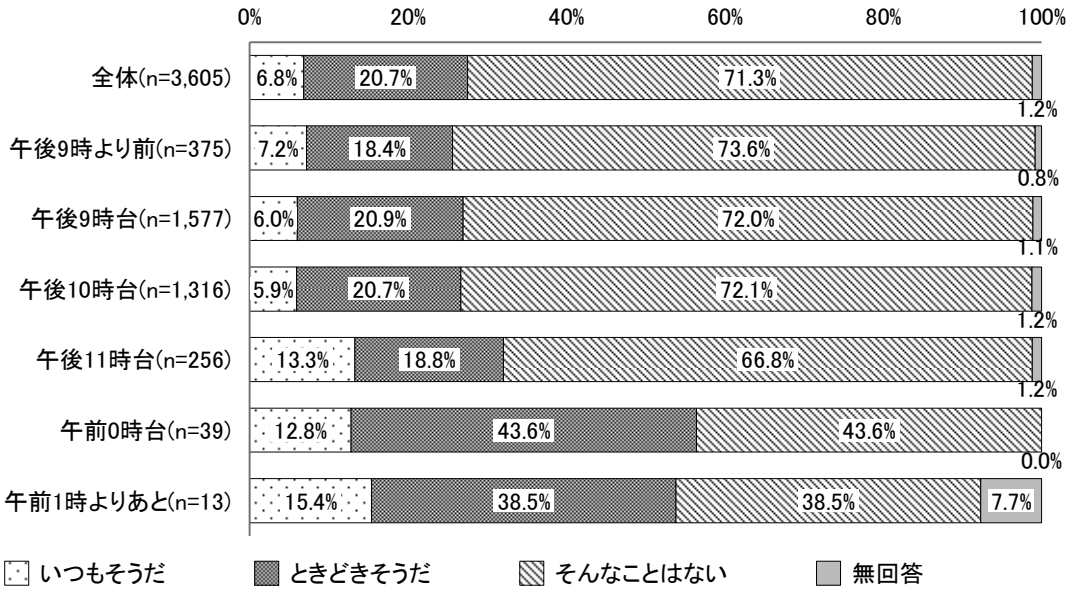


16）【こども】心の状態_ひとりぼっちの気がする

平日の就寝時間別に、この１週間「ひとりぼっちの気がする」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、就寝時間が午前０時台以降になると、「いつもそうだ」「ときどきそうだ」を合わせた『そうだ』と感じる割合が高くなっている。

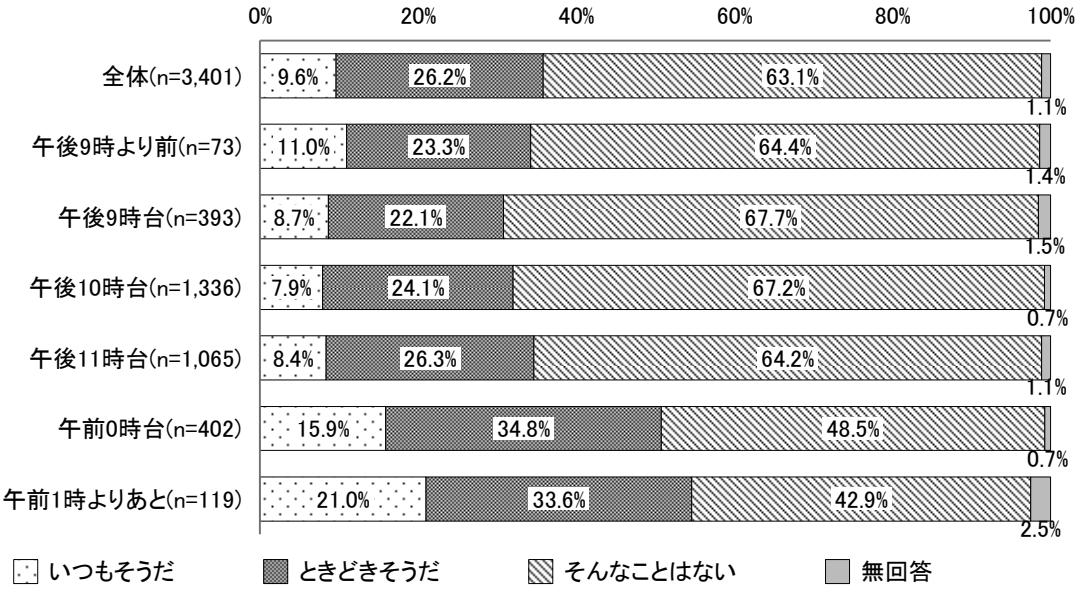
＜小学生＞（p<.01）

図表 511　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_ひとりぼっちの気がする：単数回答（こども Q32O）



＜中学生＞（p<.01）

図表 512　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_ひとりぼっちの気がする：単数回答（こども Q32O）

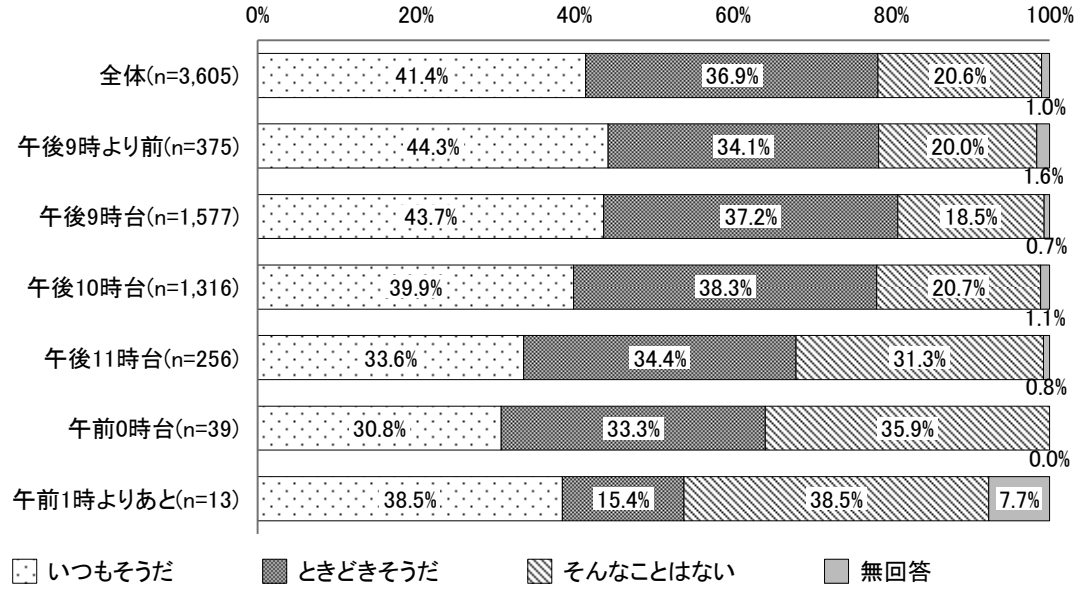


17）【こども】心の状態_落ち込んでいてもすぐに元気になれる

平日の就寝時間別に、この１週間「落ち込んでいてもすぐに元気になれる」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、基本的に就寝時間が早いほど、「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にある。なお、小学生の「午前１時よりあと」は「いつもそうだ」の割合が高いが、同時に「そんなことはない」の割合も高く、やや極端な傾向がみられる。

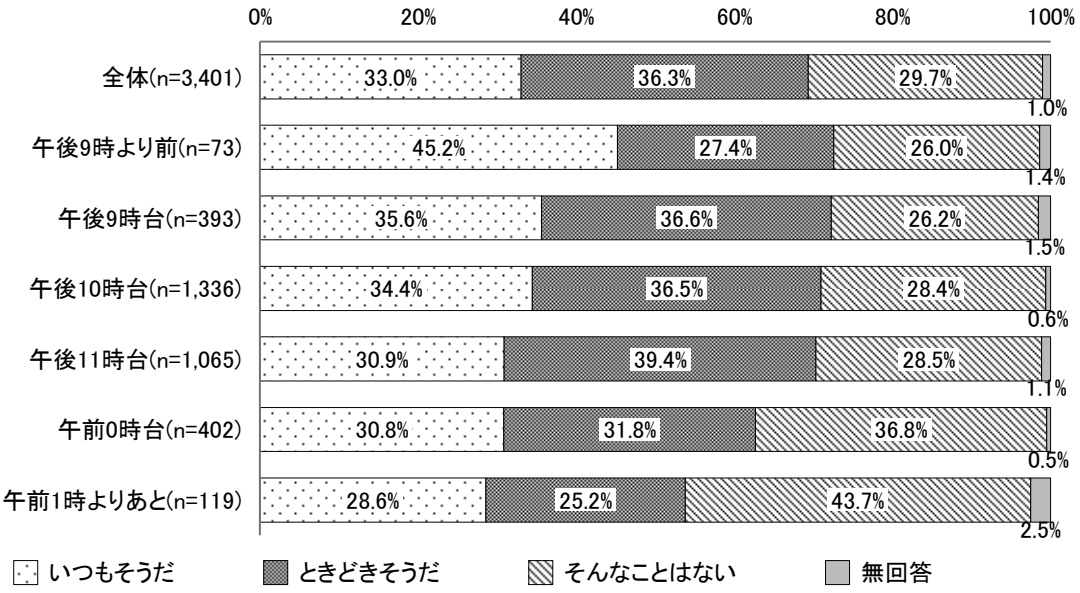
＜小学生＞（p<.01）

図表 513　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_落ち込んでいてもすぐに元気になれる：単数回答（こども Q32P）



＜中学生＞（p<.01）

図表 514　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_落ち込んでいてもすぐに元気になれる：単数回答（こども Q32P）

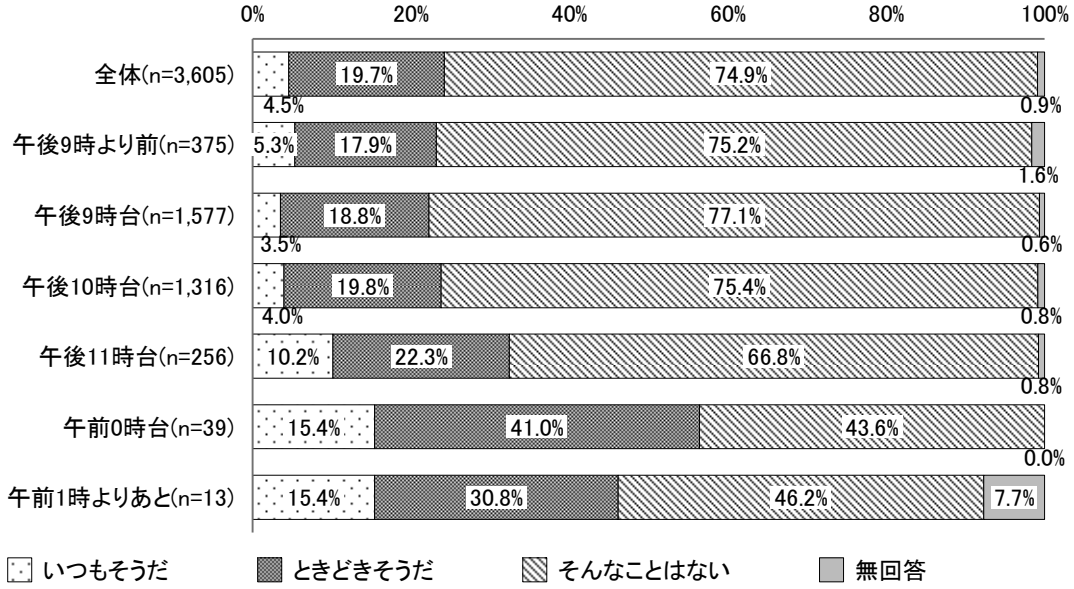


18）【こども】心の状態_とても悲しい気がする

平日の就寝時間別に、この１週間「とても悲しい気がする」と感じたかどうかをみると、小学生、中学生とも、就寝時間が遅いほど、「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にあり、特に就寝時間が午前０時台以降になると、「いつもそうだ」「ときどきそうだ」を合わせた『そうだ』と感じる割合が高くなっている。

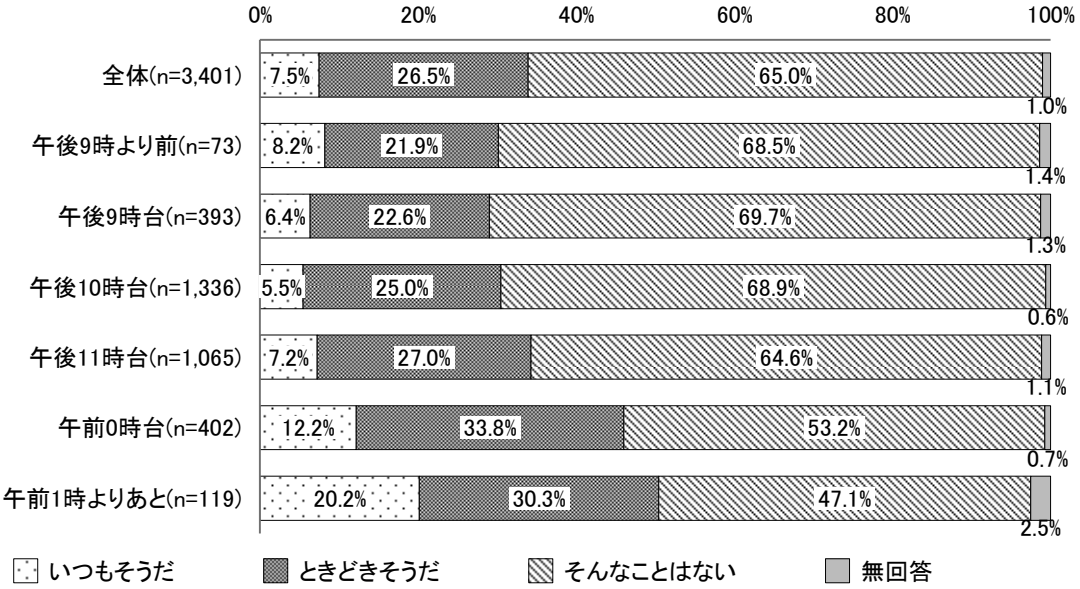
＜小学生＞（p<.01）

図表 515　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_とても悲しい気がする：単数回答（こども Q32Q）



＜中学生＞（p<.01）

図表 516　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_とても悲しい気がする：単数回答（こども Q32Q）

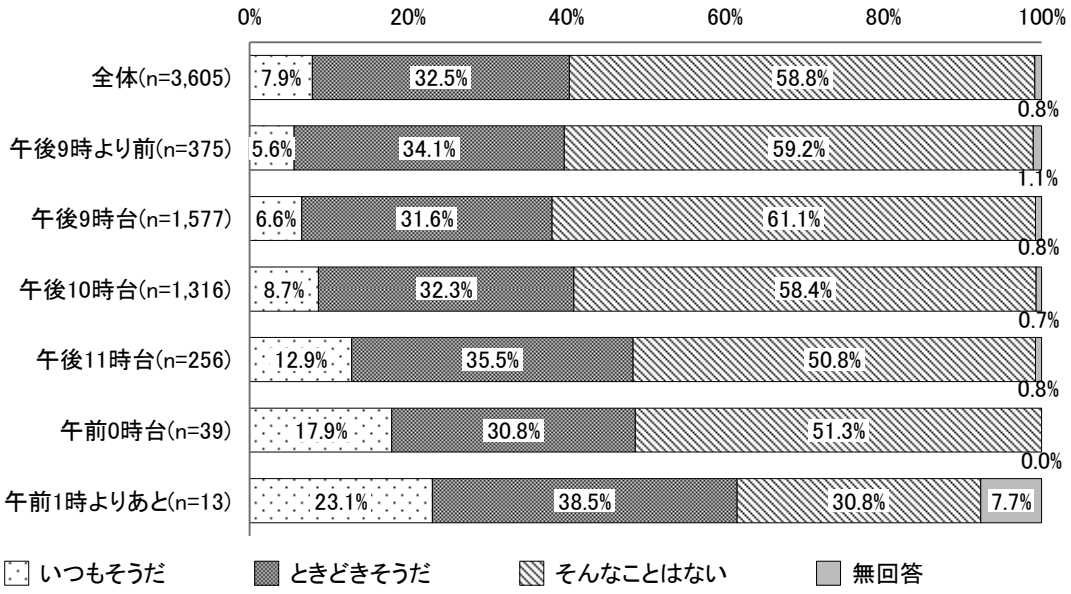


19）【こども】心の状態_とても退屈な気がする

平日の就寝時間別に、この１週間「とても退屈な気がする」と感じたかどうかをみると、小学生では就寝時間が遅いほど、中学生では午前０時台以降になるほど、「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にある。

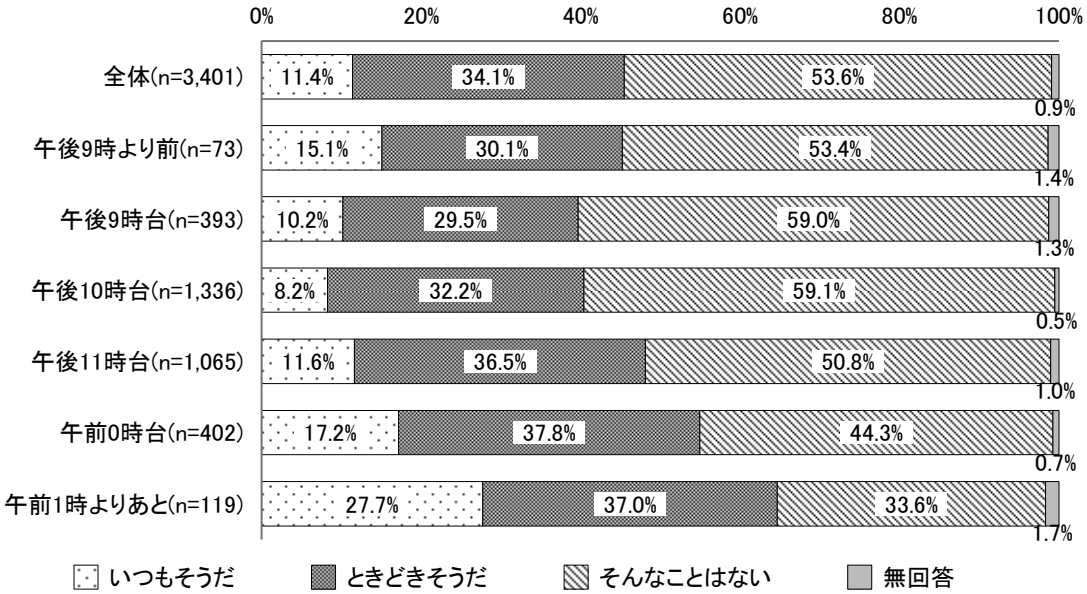
＜小学生＞（p<.01）

図表 517　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_とても退屈な気がする：単数回答（こども Q32R）



＜中学生＞（p<.01）

図表 518　平日の就寝時間（こども Q14）別
心の状態_とても退屈な気がする：単数回答（こども Q32R）



（2）考察

○　ここまで、平日の就寝時間と心身の健康状態の関係を、小学生・中学生別にみてきた。以下ではその結果を考察する。

○　小学生、中学生とも、一部例外的な傾向もみられたが、基本的に就寝時間が早いほど、ポジティブな気持ち（「自分の健康状態」「楽しみにしていることがたくさんある」「とてもよく眠れる」「遊びに出かけるのが好きだ」「元気いっぱいだ」「食事が楽しい」「いじめられても自分で「やめて」と言える」「やろうと思ったことがうまくできる」「いつものように何をしても楽しい」「家族と話すのが好きだ」「落ち込んでもすぐに元気になれる」）で「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にあり、就寝時間が遅いほど、ネガティブな気持ち（「泣きたいような気がする」「逃げ出したいような気がする」「生きていても仕方がないと思う」「こわい夢を見る」「ひとりぼっちの気がする」「おなかが痛くなることがある」「とても悲しい気がする」「とても退屈な気がする」）で「いつもそうだ」と回答した割合が高い傾向にあった。

○　小学生、中学生とも、平日の就寝時間と現在の健康状態に高い相関関係があることがうかがえた。

７．保護者の相談相手の有無と心の健康

本節では、生活困難度別に、保護者の相談相手の有無と心の健康について分析した。分析にあたっては、保護者票問 36「本当に困ったときや悩みがあるとき、相談できる人（家族、友人、親戚、同僚など)」の有無別に、心の健康状態に関する設問とのクロス集計を行った。

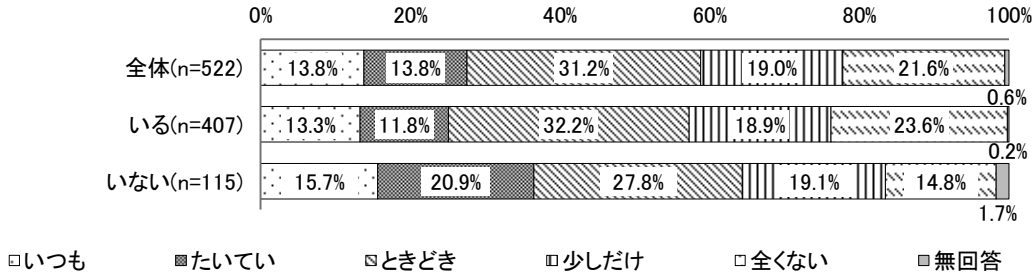
（１）分析結果

1)　【保護者】心の状態_神経過敏に感じた

保護者について、相談相手の有無別に、ここ１か月の間に「神経過敏に感じた」頻度をみると、いずれの層とも、相談相手が「いる」方が「全くない」の割合が高い。

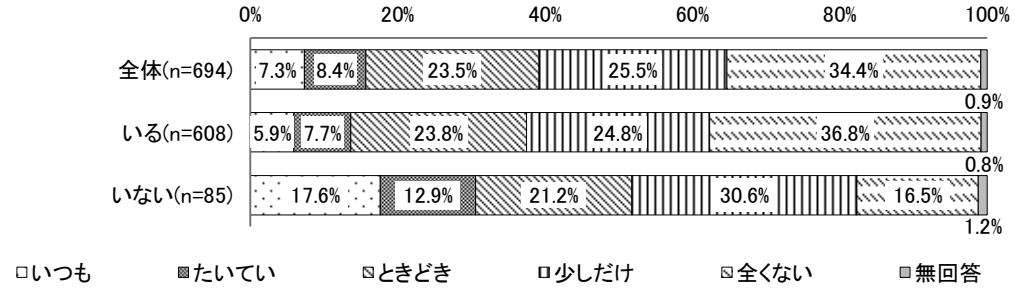
＜困窮層＞（p<.05）

図表 519　相談相手の有無別（保護者 Q36）
心の状態_神経過敏に感じた：単数回答（保護者 Q20A）



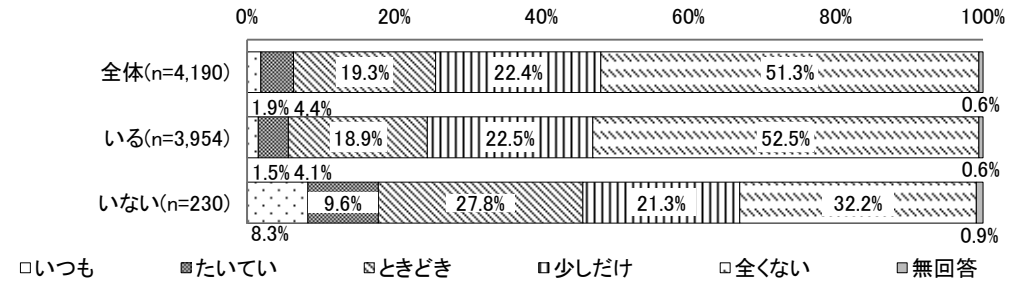
＜周辺層＞（p<.01）

図表 520　相談相手の有無別（保護者 Q36）
心の状態_神経過敏に感じた：単数回答（保護者 Q20A）



＜一般層＞（p<.01）

図表 521　相談相手の有無別（保護者 Q36）
心の状態_神経過敏に感じた：単数回答（保護者 Q20A）

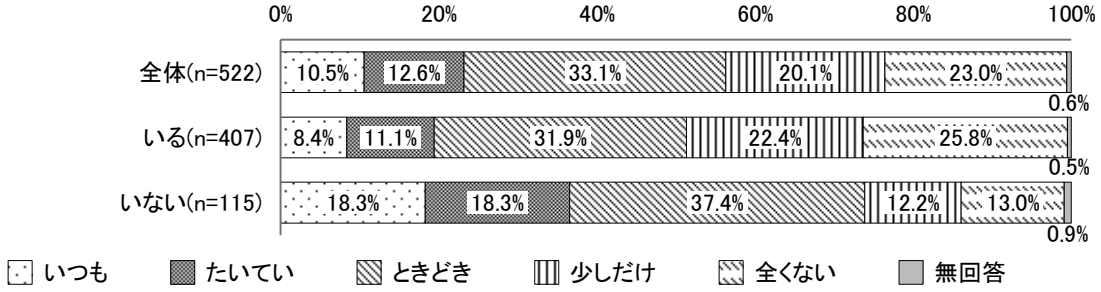


2)　【保護者】心の状態_絶望的だと感じた

保護者について、相談相手の有無別に、ここ１か月の間に「絶望的だと感じた」頻度をみると、いずれの層とも、相談相手が「いる」方が「全くない」の割合が高い。

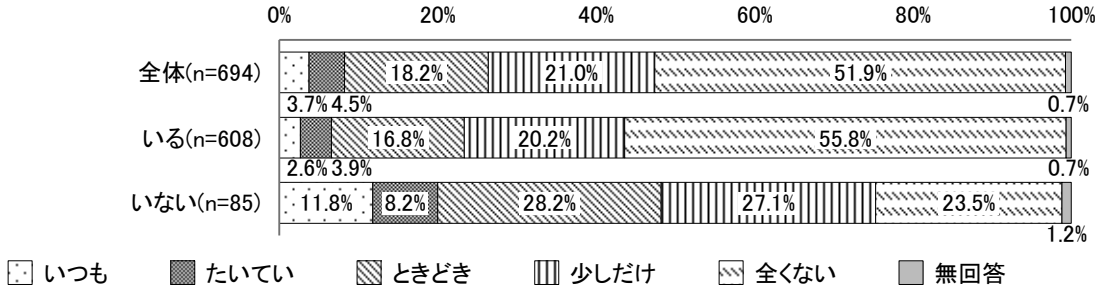
＜困窮層＞（p<.01）

図表 522　相談相手の有無別（保護者 Q36）
心の状態_絶望的だと感じた：単数回答（保護者 Q20B）



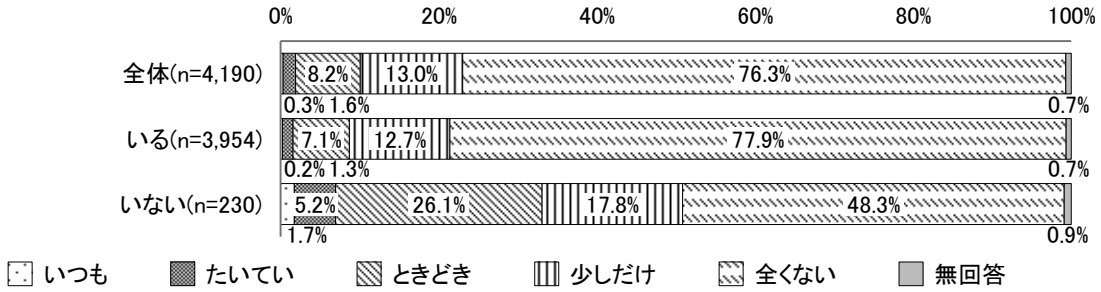
＜周辺層＞（p<.01）

図表 523　相談相手の有無別（保護者 Q36）
心の状態_絶望的だと感じた：単数回答（保護者 Q20B）



＜一般層＞（p<.01）

図表 524　相談相手の有無別（保護者 Q36）
心の状態_絶望的だと感じた：単数回答（保護者 Q20B）

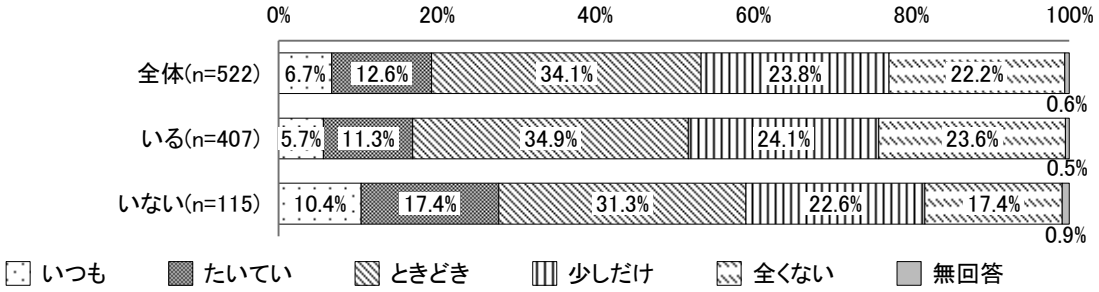


3) 【保護者】心の状態_そわそわ、落ち着かなく感じた

保護者について、相談相手の有無別に、ここ１か月の間に「そわそわ、落ち着かなく感じた」頻度をみると、周辺層、一般層は、相談相手が「いる」方が「全くない」の割合が高い一方、困窮層は、差は見られなかった。

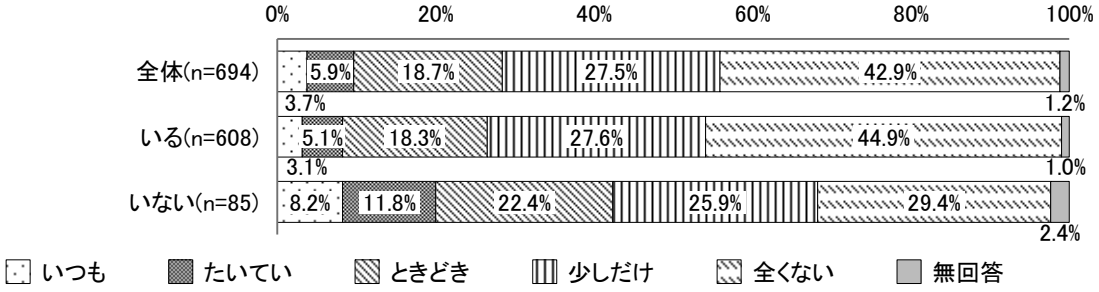
＜困窮層＞（有意差なし）

図表 525　相談相手の有無別（保護者 Q36）
心の状態_そわそわ、落ち着かなく感じた：単数回答（保護者 Q20C）



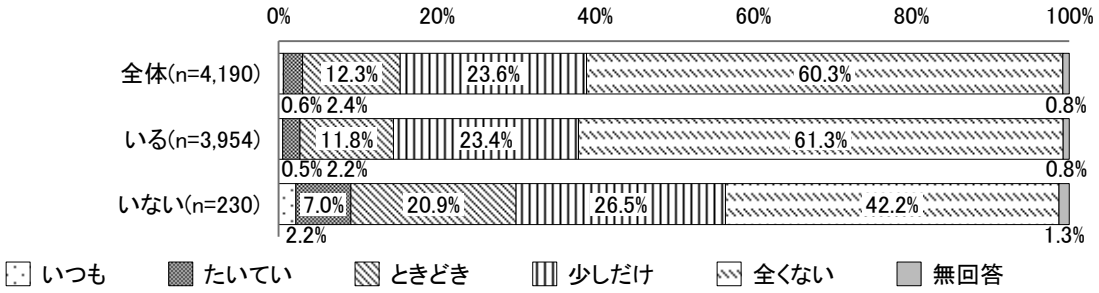
＜周辺層＞（p<.01）

図表 526　相談相手の有無別（保護者 Q36）
心の状態_そわそわ、落ち着かなく感じた：単数回答（保護者 Q20C）



＜一般層＞（p<.01）

図表 527　相談相手の有無別（保護者 Q36）
心の状態_そわそわ、落ち着かなく感じた：単数回答（保護者 Q20C）

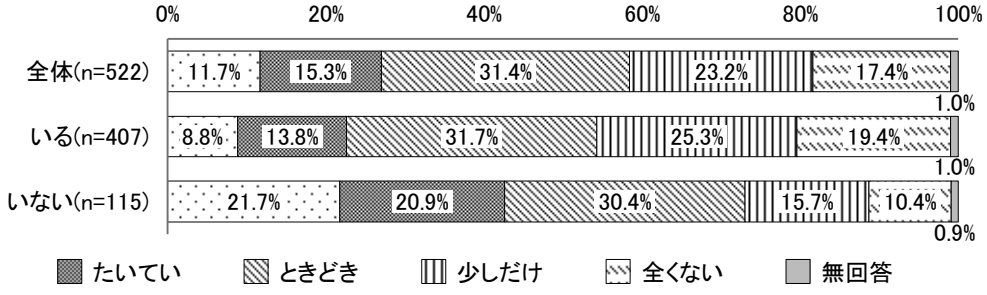


4)　【保護者】心の状態_気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた

保護者について、相談相手の有無別に、ここ１か月の間に「気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた」頻度をみると、いずれの層とも、相談相手が「いる」方が、頻度が少ない傾向にある。

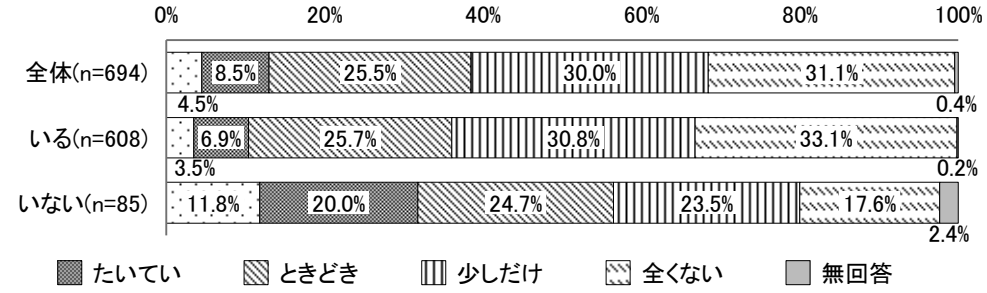
＜困窮層＞（p<.01）

図表 528　相談相手の有無別（保護者 Q36）
心の状態_気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた
：単数回答（保護者 Q20D）



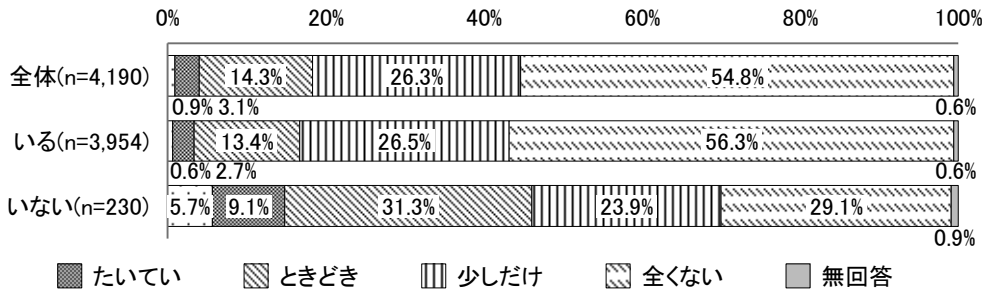
＜周辺層＞（p<.01）

図表 529　相談相手の有無別（保護者 Q36）
心の状態_気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた
：単数回答（保護者 Q20D）



＜一般層＞（p<.01）

図表 530　相談相手の有無別（保護者 Q36）
心の状態_気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた
：単数回答（保護者 Q20D）

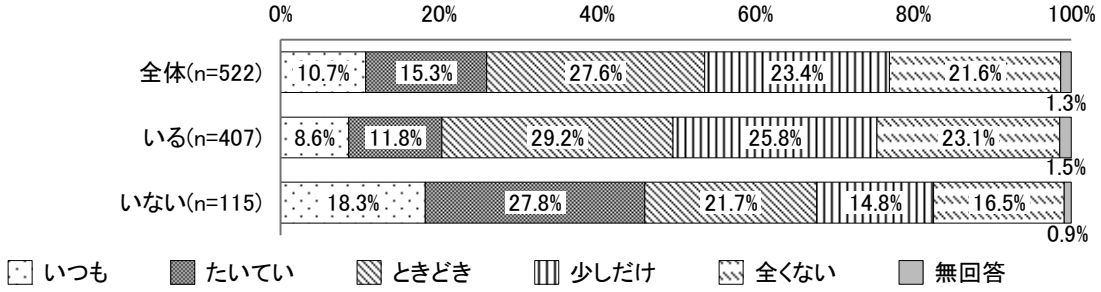


5)　【保護者】心の状態_何をするのも骨折りだと感じた

保護者について、相談相手の有無別に、ここ１か月の間に「何をするのも骨折りだと感じた」頻度をみると、いずれの層とも、相談相手が「いる」方が、頻度が少ない傾向にある。

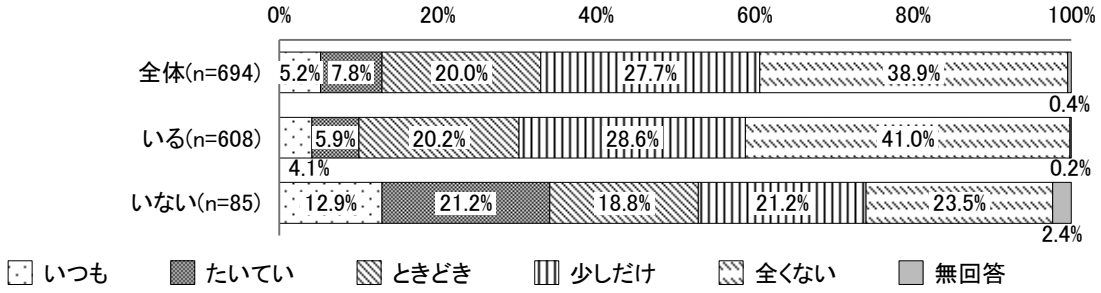
＜困窮層＞（p<.01）

図表 531　相談相手の有無別（保護者 Q36）
心の状態_何をするのも骨折りだと感じた：単数回答（保護者 Q20E）



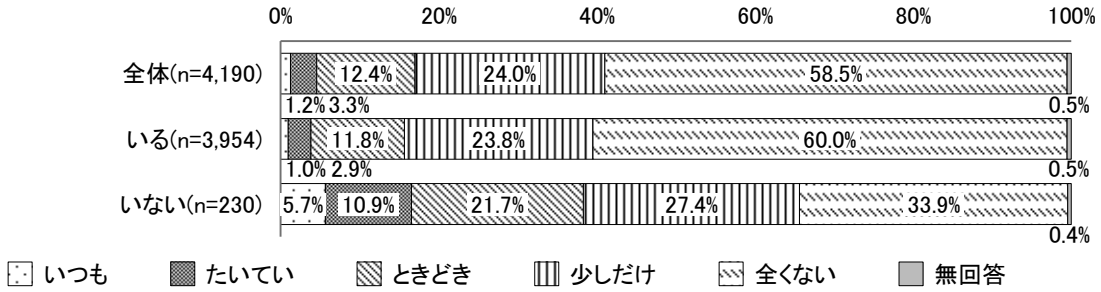
＜周辺層＞（p<.01）

図表 532　相談相手の有無別（保護者 Q36）
心の状態_何をするのも骨折りだと感じた：単数回答（保護者 Q20E）



＜一般層＞（p<.01）

図表 533　相談相手の有無別（保護者 Q36）
心の状態_何をするのも骨折りだと感じた：単数回答（保護者 Q20E）

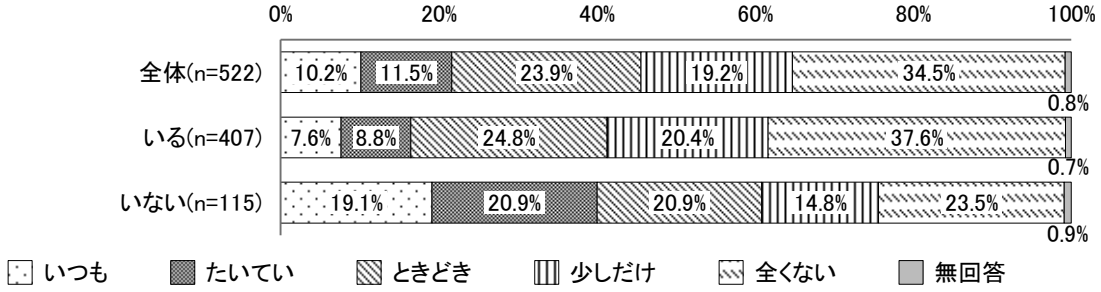


6)　【保護者】心の状態_自分は価値のない人間だと感じた

保護者について、相談相手の有無別に、ここ１か月の間に「自分は価値のない人間だと感じた」頻度をみると、いずれの層とも、相談相手が「いる」方が、頻度が少ない傾向にある。

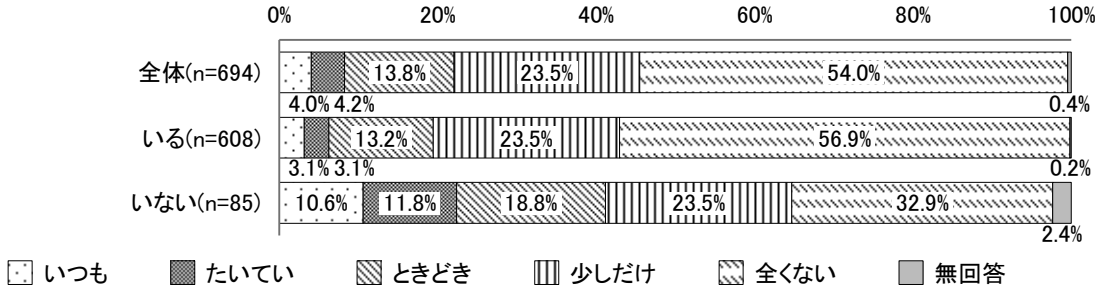
＜困窮層＞（p<.01）

図表 534　相談相手の有無別（保護者 Q36）
心の状態_自分は価値のない人間だと感じた：単数回答（保護者 Q20F）



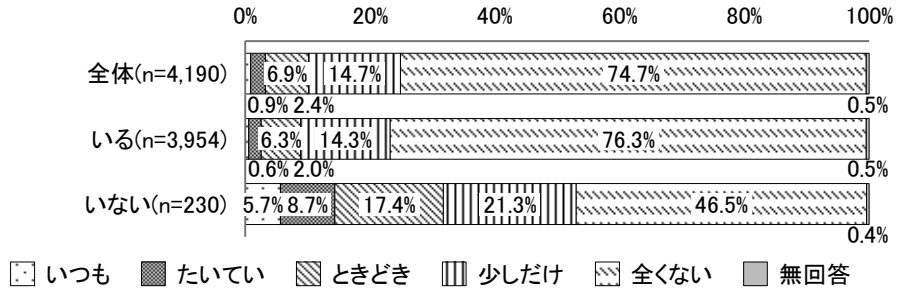
＜周辺層＞（p<.01）

図表 535　相談相手の有無別（保護者 Q36）
心の状態_自分は価値のない人間だと感じた：単数回答（保護者 Q20F）



＜一般層＞（p<.01）

図表 536　相談相手の有無別（保護者 Q36）
心の状態_自分は価値のない人間だと感じた：単数回答（保護者 Q20F）



（２）考察

○　ここまで、保護者について、保護者の相談相手の有無と心の健康の関係を、生活困難度別にみてきた。以下ではその結果を考察する。

○　生活困難度に関わらず、相談相手がいる方が、ここ１か月の間に「神経過敏に感じた」「絶望的だと感じた」「気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた」「何をするのも骨折りだと感じた」「自分は価値のない人間だと感じた」ということは「全くない」、もしくは、そのように感じる頻度が少ない傾向にあった。

○　保護者に相談相手がいるかどうかと、保護者自身の心の健康状態には高い相関関係がみられ、心の健康を高めるために相談相手をもつことの重要性がうかがえた。

＜参考資料＞

保護者用調査票

こども用調査票

こどもの生活実態調査（保護者用）

ご回答いただく方について

問１　このアンケート用紙が配付されたお子さんは何年生ですか。（あてはまる番号１つに○）

１　小学校５年生　　２　中学校２年生

問２　お子さんとあなた（回答者）との関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。（あてはまる番号１つに○）

１　母親（継母を含む）	２　父親（継父を含む）	３　祖父・祖母
４　叔父・叔母などの親戚	５　施設職員	６　里親
７　その他（具体的に　　）		

※「５ 施設職員」に該当される方は、以後の設問に回答できる範囲で回答してください。

ご家族のことについて

問３　お子さんと同居しているご家族の人数を教えてください（あなたとお子さんも含む）。　単身赴任しているご家族も含めてください。（枠内に数字で記入してください。）

＿＿＿＿人

問４　お子さんと同居しているご家族の方はどなたですか（単身赴任しているご家族も含む）。
お子さんからみた続柄でお答えください。
（あてはまる番号すべてに○、人数はカッコの中に数字で記入してください）

１　母親	２　父親	３　祖母（　人）	４　祖父（　人）
５　兄（　人）	６　姉（　人）	７　弟（　人）	８　妹（　人）
９　その他の親戚（　人）		１０　その他（　人）	

問５　お子さんと同居しているご家族の中に、高齢であったり障害があったりするなど、介護が必要な方はいますか。（あてはまる番号１つに○）

１　いる　　２　いない

問6　お子さんと同居している親の婚姻状況を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

1　結婚している（再婚や事実婚を含む）		2　離婚（別居中を含む）	
3　死別	4　未婚・非婚	5　いない、わからない	

問7　問6で「2 離婚」を選んだ方にお聞きします。

①離婚相手とこどもの養育費の取り決めをしていますか。また、養育費を現在受け取って　いますか。（あてはまる番号1つに○）

1　取り決めをしており、養育費を受け取っている。
2　特に取り決めはしていないが、養育費を受け取っている。
3　養育費の取り決めをしているが、受け取っていない。**⇒問8へ**
4　養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない。**⇒問8へ**

②養育費を受け取っている場合、その金額は十分だと感じますか。

（あてはまる番号1つに○）

1　十分である	2　十分ではない（不十分である）

問8　お子さんの両親の国籍は、次のどれにあたりますか。それぞれ教えてください。

（あてはまる番号1つに○）

A　お母さま	1　日本	2　日本以外
B　お父さま	1　日本	2　日本以外

お母さまのお仕事について

問9　お子さんのお母さまの現在の就業状況は、次のどれに最も近いですか。

（あてはまる番号1つに○）

1　民間企業の正社員	2　公務員などの正職員	
3　契約社員・派遣社員・嘱託社員などの有期雇用	4　パート・アルバイト	
5　自営業（家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む）		
6　その他の働き方をしている		
7　働いてない		

※お子さんにお母さまがいらっしゃらない場合(離婚・死別)は、問10にお進みください。

お父さまのお仕事について

問10　お子さんのお父さまの現在の就業状況は、次のどれに最も近いですか。

（あてはまる番号1つに○）

1　民間企業の正社員	2　公務員などの正職員	
3　契約社員・派遣社員・嘱託社員などの有期雇用	4　パート・アルバイト	
5　自営業（家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む）		
6　その他の働き方をしている		
7　働いてない		

※お子さんにお父さまがいらっしゃらない場合(離婚・死別)は、問11にお進みください。

収入について

問11 お子さんと生計を共にしている世帯全員の方の、おおよその年間収入（税込）は　いくらですか。（あてはまる番号1つに○）

1　収入はない（0円）	2　1～50万円未満	3　50～100万円未満
4　100～200万円未満	5　200～300万円未満	6　300～400万円未満
7　400～500万円未満	8　500～600万円未満	9　600～700万円未満
10　700～800万円未満	11　800～900万円未満	12　900万円以上
13　わからない		

※収入には、勤労収入（パート、アルバイトを含む）、事業収入（自営業等）、農業収入、不動産収入、利子・配当金、個人年金、仕送りや元配偶者からの養育費を含みますが、公的年金(遺族年金、老齢年金等)と社会保障給付金(児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当、生活保護等)は除いてお考えください。

※複数の収入源がある場合（お父さまが勤労収入、お母さまが事業収入など）は、おおよその合算値（合計額）を教えてください。

問12　問11で回答いただいた、世帯の年間収入のうち、お子さんのお母さまのおおよその年間収入を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

1　収入はない（0円）	2　1～50万円未満	3　50～100万円未満
4　100～200万円未満	5　200～300万円未満	6　300～400万円未満
7　400～500万円未満	8　500～600万円未満	9　600～700万円未満
10　700～800万円未満	11　800～900万円未満	12　900万円以上
13　わからない	14　母親はいない	

問13　問11で回答いただいた、世帯の年間収入のうち、お子さんのお父さまのおおよその年間収入を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

1　収入はない（0円）	2　1～50万円未満	3　50～100万円未満
4　100～200万円未満	5　200～300万円未満	6　300～400万円未満
7　400～500万円未満	8　500～600万円未満	9　600～700万円未満
10　700～800万円未満	11　800～900万円未満	12　900万円以上
13　わからない	14　父親はいない	

暮らしについて

問14　あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。（あてはまる番号1つに○）

1　大変ゆとりがある	2　ややゆとりがある	3　普通
4　やや苦しい	5　大変苦しい	

問15　あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料や衣類を買えないことがありましたか。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

A 食料	1 よくあった　2 ときどきあった　3 まれにあった　4 まったくなかった
B 衣類	1 よくあった　2 ときどきあった　3 まれにあった　4 まったくなかった

問16　あなたのご家庭では、過去1年の間に、経済的な理由で、以下のA～Jの料金などを期限内に支払えないこと(準備できないこと)がありましたか。

（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	あった	なかった	該当しない（払う必要がない）
A　電話料金	1	2	3
B　電気料金	1	2	3
C　ガス料金	1	2	3
D　水道料金	1	2	3
E　家賃	1	2	3
F　住宅ローン	1	2	3
G　公的医療保険	1	2	3
H　お子さんの給食費	1	2	3
I　お子さんの学用品費	1	2	3
J　その他の債務	1	2	3

※学用品は、体操服、算数セット、書道セット、絵の具セット、鍵盤ハーモニカ等、学校生活で使用するもので、各家庭が購入又は費用を支払うものを指します。

問17　次のもののうち、経済的理由のためあなたの世帯にないものはありますか。

（あてはまる番号すべてに○）

1　こどもの年齢に合った本	2　こども用のスポーツ用品・おもちゃ
3　こどもが自宅で宿題をできる場所	4　洗濯機
5　炊飯器	6　掃除機
7　暖房機器	8　冷房機器
9　電子レンジ	10　電話（固定電話・携帯電話を含む）
11　インターネットにつながるパソコン	12　新聞の定期購読（ネット含む）
13　世帯専用のお風呂	14　世帯人数分のベッドまたは布団
15　急な出費のための貯金（5万円以上）	16　あてはまるものはない

健康状態について

問18　あなた（回答者）の健康状態はどうですか。（あてはまる番号1つに○）

1　よい　　2　まあよい　　3　ふつう　　4　あまりよくない　　5　よくない

問19　お子さんの健康状態はどうですか。（あてはまる番号1つに○）

1　よい　　2　まあよい　　3　ふつう　　4　あまりよくない　　5　よくない

問20　あなたの心の状態についてお聞きします。ここ1か月の間にどれくらいの頻度で、次のことがありましたか。（それぞれあてはまる番号1つに○）

	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	全くない
A　神経過敏に感じた	1	2	3	4	5
B　絶望的だと感じた	1	2	3	4	5
C　そわそわ、落ち着かなく感じた	1	2	3	4	5
D　気分が沈み込んで、何が起こっても　気が晴れないように感じた	1	2	3	4	5
E　何をするのも骨折りだと感じた	1	2	3	4	5
F　自分は価値のない人間だと感じた	1	2	3	4	5

問21　あなたは、自分の体で気になることはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

1　よく頭がいたくなる	5　よくかぜをひく
2　歯がいたい	6　よくかゆくなる
3　ものが見づらい	7　とくに気になることはない
4　聞こえにくい	8　その他 （具体的に　　）

問22　あなたは、定期的に健康診断やがん検診を受けていますか。（あてはまる番号1つに○）

1　はい　　2　いいえ

問23　問22で「2　いいえ」と答えた方におうかがいします。その理由はなぜですか。

（あてはまる番号すべてに○）

1　必要性を感じないから　　2　受診する時間がないから　　3　費用がかかるから 4　医療機関が近所にないから　　5　その他（　　）

問 24　過去1年間に、あなたが医療機関で受診した方がよいと思ったが、実際には受診　　しなかったことがありましたか。（あてはまる番号1つに○）

1　あった　　2　なかった

問25　問24で「1　あった」と答えた方におうかがいします。その理由はなぜですか。

（あてはまる番号1つに○）

1　受診する時間がなかったから　　2　費用がかかるから 3　医療機関が近所にないから　　4　その他（　　）

問26　過去1年間に、お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診　させなかったことがありましたか。（あてはまる番号1つに○）

1　あった　　2　なかった

問27　問26で「1　あった」と答えた方におうかがいします。その理由はなぜですか。以下の　　中から最も近いものに○をつけてください。（あてはまる番号1つに○）

1　公的医療保険に加入しておらず、医療費の支払いができなかったため
2　公的医療保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を支払うことができないと思ったため
3　こども本人が受診したがらなかったため
4　医療機関までの距離が遠く、通院することが困難であったため
5　多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため
6　最初は受診させようと思ったが、こどもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため
7　自分の健康状態が悪かったため
8　その他（具体的に　　）

お子さんのこと、お子さんとの関わりなどについて

問 28　お子さんがこれまでに通ったことのある保育・教育機関等をすべてお答えください。

（あてはまる番号すべてに○）

1　認可保育所	2　無認可の保育施設	3　認定こども園
4　家庭福祉員（保育ママ）	5　幼稚園（国立）	6　幼稚園（公立）
7　幼稚園（私立）	8　小学校（国立）	9　小学校（公立）
10　小学校（私立）		

問 29　お子さんに、どの段階までの教育を受けさせたいと考えていますか。

あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。（あてはまる番号 1 つに○）

1　中学まで	2　高校まで	3　短大・高専・専門学校まで	
4　大学またはそれ以上	5　まだわからない		

問 30　あなたは、お子さんの将来（夢・進路・職業等）について、お子さんと一緒に考えたり、話すことがありますか。（あてはまる番号 1 つに○）

1　よくする	2　たまにする	3　あまりしない	4　これまで特にしたことがない	

問 31　あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。

（それぞれ、あてはまる番号一つに○）

	している	していない	
		したくない（方針でしない）	経済的にできない
A　毎月お小遣いを渡す	1	2	3
B　毎年新しい洋服・靴を買う	1	2	3
C　習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる	1	2	3
D　学習塾に通わせる（家庭教師、通信教育を含む）	1	2	3
E　お誕生日のお祝いをする	1	2	3
F　1 年に 1 回くらい家族旅行に行く	1	2	3
G　クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる	1	2	3
H　こどもの学校行事などへ親が参加する	1	2	3

問32　過去1年間において、あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をしましたか。

（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	ある	ない		
		金銭的理由で	時間の制約で	その他の理由で
A 海水浴に行く	1	2	3	4
B キャンプやバーベキューに行く	1	2	3	4
C 博物館・科学館・美術館などに行く	1	2	3	4
D スポーツ観戦や劇場に行く	1	2	3	4
E 映画鑑賞に行く	1	2	3	4
F 遊園地やテーマパークに行く	1	2	3	4

問33　あなたは、お子さんと次のようなことをどの程度していますか。

（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	ほぼ毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に1～2回	ほぼしない
A 一緒に朝食をたべる	1	2	3	4	5
B 一緒に夕食をたべる	1	2	3	4	5
C 勉強をみてあげる	1	2	3	4	5
D 一緒に遊んだり体を動かしたりする	1	2	3	4	5
E 学校生活の話をする	1	2	3	4	5
F ニュースなどの社会のできごとについて話す	1	2	3	4	5
G 一緒に料理をする	1	2	3	4	5
H 一緒に外出する(散歩、買い物、外食など)	1	2	3	4	5

新型コロナウイルス感染症の影響について

問34　今から4年前のことをお聞きします。

新型コロナウイルス感染症が流行し始めた頃(2020年頃)のあなたのご家庭の生活は、それまでと比べて、どのように変わったと思いますか。

（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	増えた	減った	変わらない
A 世帯全体の収入の変化	1	2	3
B 生活に必要な支出の変化	1	2	3
C お金が足りなくて必要な食料や衣服を買えないこと	1	2	3
D お子さんと話をすること	1	2	3
E 家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること	1	2	3
F あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと	1	2	3
G こども食堂やフードバンクを利用すること	1	2	3

※思い出すことが難しい場合は、回答する必要はありません。

問35　現在のことをお聞きします。

あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症が流行し始めた頃(2020年頃)に比べて、どのように変わったと思いますか。

（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	増えた	減った	変わらない
A 世帯全体の収入の変化	1	2	3
B 生活に必要な支出の変化	1	2	3
C お金が足りなくて必要な食料や衣服を買えないこと	1	2	3
D お子さんと話をすること	1	2	3
E 家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること	1	2	3
F あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと	1	2	3
G こども食堂やフードバンクを利用すること	1	2	3

※思い出すことが難しい場合は、回答する必要はありません。

あなたやお子さんのご両親のことについて

問36　あなたは、本当に困ったときや悩みがあるとき、相談できる人（家族、友人、親戚、同僚など）がいますか。（あてはまる番号1つに○）

1　いる　　2　いない

問37　あなたは、近隣に、挨拶や日常的な会話をする知人や友人はいますか。

（あてはまる番号1つに○）

1　いる　　2　いない

問38　あなたは、近隣に、子育てに関する悩みを打ち明けたり、相談したりすることができる知人や友人はいますか。（あてはまる番号1つに○）

1　いる　　2　いない

問39　お子さんのお母さまとお父さまが、最後に卒業した学校は次のどちらにあたりますか。

（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

お母さま	お父さま
1　中学校	1　中学校
2　高等学校	2　高等学校
3　短大、高専、専門学校等	3　短大、高専、専門学校等
4　大学	4　大学
5　大学院	5　大学院
6　その他の教育機関	6　その他の教育機関
7　わからない	7　わからない

※お母さまやお父さまがいらっしゃらない場合にはあてはまる方だけ○をつけてください。

問40　あなたが15歳の頃のご家庭の様子に 最 も近いものに○をつけてください。

（あてはまる番号１つに○）

１　両親世帯（祖父母との同居あり）	２　両 親 世帯（祖父母との同居なし）
３　母子世帯（祖父母との同居あり）	４　母子世帯（祖父母との同居なし）
５　父子世帯（祖父母との同居あり）	６　父子世帯（祖父母との同居なし）
７　児童養護施設などの施設	８　その他（具体的に　　）

問41　あなたが15歳の頃のご家庭の暮らし向きについて、最 も近いものに○をつけてくだ　さい。（あてはまる番号１つに○）

１　大変ゆとりがあった	２　ややゆとりがあった	３　普通
４　やや苦しかった	５　大変苦しかった	

問42　今から10年前の、あなたのご家庭の暮らし向きについて、最 も近いものに○をつけて　ください。

（あてはまる番号１つに○）

１　大変ゆとりがあった	２　ややゆとりがあった	３　普通
４　やや苦しかった	５　大変苦しかった	

問43　あなたは、成人する前に以下のような体験をしたことがありますか。

※答えたくない場合には答える必要はありません。　（あてはまる番号すべてに○）

１　両 親 が離婚した	２　親が生活保護を受けていた
３　母親が亡くなった	４　父親が亡くなった
５　親から暴 力 を振るわれた	６　育児放棄（ネグレクト）された
７　１～６のいずれも経験したことがない	

問44　あなたはお子さんをもってから、以下のような経験をしたことがありますか。

※答えたくない場合には答える必要はありません。　（あてはまる番号すべてに○）

１　（元）配偶者（またはパートナー）から暴 力 をふるわれたことがある
２　こどもに行き過ぎた体罰を与えたことがある
３　育児放棄になった時期がある
４　出 産 や育児でうつ 病 （状 態）になった時期がある
５　わが子を 虐 待 しているのではないか、と思い悩んだことがある
６　自殺を 考 えたことがある
７　１～６のいずれも経験したことがない

問45　あなたの思いや気持ちについてお聞きします。

次の A～H について、「とても思う」から「思わない」のうち 最も 近いものに○をつけてください。

（それぞれ、あてはまる番号 1 つに○）

	とても思う	思う	あまり思わない	思わない
A　がんばれば、むくわれる	1	2	3	4
B　自分は価値のある人間だ	1	2	3	4
C　不安に感じることがある	1	2	3	4
D　孤独を感じることがある	1	2	3	4
E　目標や計画は達成できる	1	2	3	4
F　積極的に色々な人と話したい	1	2	3	4
G　今後の人生が楽しみだ	1	2	3	4
H　自分のことが好きだ	1	2	3	4

支援の利用について

問 46　このアンケート用紙が配付されたお子さんに関して、以下の A～F の事業や民間の取組を利用したことがありますか。ある場合は「1」に○をつけてください。利用したことがない場合は、「2」～「6」のうち、その理由に最も近いものにそれぞれ○をつけてください。

また、利用したことはないが、利用について興味がある場合は「7」に○をつけてください。

	利用したことがある	利用したことがない					利用したことはないが興味がある
		利用したいと思ったことがなかった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度等が使いづらかった	利用の仕方がわからなかった	制度等について全く知らなかった	
【記載例】<制度等について知らなかったために利用していないが、利用に興味がある場合〉							
A子育て短期支援事業（ショートステイ）	1	2	3	4	5	(6)	(7)
A子育て短期支援事業（ショートステイ）	1	2	3	4	5	6	7
B ファミリー・サポート・センター	1	2	3	4	5	6	7
C 放課後に過ごせる居場所 （放課後児童クラブ、放課後子ども教室、児童館・こども館、青少年会館、公民館）	1	2	3	4	5	6	7
D 学校以外が実施する学習支援	1	2	3	4	5	6	7
E こども食堂	1	2	3	4	5	6	7
F フードバンク等の食料支援	1	2	3	4	5	6	7

＜制度の説明＞

A 子育て短期支援事業 （ショートステイ）	入院、出産、介護、仕事などで、一時的にお子さんの養育にお困りのとき、児童福祉施設でこどもを預かる制度
B ファミリー・サポート・センター	育児のお手伝いをしてほしい方（利用会員）と育児のお手伝いをしたい方（提供会員）の両者を登録して、援助活動により仕事と育児の両立や、子育てする家庭にゆとりを持っていただけるよう支援する制度
D 学校以外が実施する学習支援	地域において無料または安価で学習支援を行う事業。 （経済的理由で学習塾などに通うことができないこどもを対象としたものや、学習が遅れがちな中学生等を対象に地域住民等の協力により実施するもの、地域団体がボランティア実施するものなど）
E こども食堂	こどもたちの食の支援、居場所の支援等を目的に、民間団体などが安価または無料で食事を提供している場所
F フードバンク	まだ食べられるにもかかわらず処分されてしまう食品を、ＮＰＯなどが食品メーカー等から引き取って、福祉施設や支援を必要とする人へ無料で提供する活動

問47　あなたのご家庭では、以下の公的扶助、支援制度等を利用したことがありますか。

利用したことがない場合は、「3」～「7」のうち、その理由に最も近いものにそれぞれ　○をつけてください。

また、利用したことはないが、利用について興味がある場合は「8」に○をつけてください。

	現在利用している	利用したことがある	利用したことがない					利用したことはないが興味がある
			利用したいと思ったことがなかった（そもそも制度の対象外であった）	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用したかったが制度が使いづらかった	利用の仕方がわからなかった	制度について全く知らなかった	
A 児童手当	1	2	3	4	5	6	7	8
B 児童扶養手当	1	2	3	4	5	6	7	8
C 特別児童扶養手当	1	2	3	4	5	6	7	8
D 就学援助費	1	2	3	4	5	6	7	8
E 子ども医療費助成	1	2	3	4	5	6	7	8
F ひとり親家庭等医療費等助成	1	2	3	4	5	6	7	8
G 母子・父子・寡婦福祉資金	1	2	3	4	5	6	7	8
H 生活福祉資金	1	2	3	4	5	6	7	8
I 生活保護	1	2	3	4	5	6	7	8

＜制度の説明＞

A 児童手当	中学校卒業までの児童を養育している方が、日本国内に住所を有している場合に支給される手当
B 児童扶養手当	所得が一定水準以下のひとり親世帯の支援のために支給される手当
C 特別児童扶養手当	精神又は身体に重度又は中度の障害を有するため、日常生活において介護を必要とする20歳未満の児童を育てている家庭に支給される手当
D 就学援助費	小・中学校に就学させるのに経済的理由でお困りの方に対して、学用品費、給食費などを援助する制度
E 子ども医療費助成	こどもが病気や怪我などにより受診した場合の医療費に対する助成
F ひとり親家庭等医療費等助成	所得が一定水準以下のひとり親世帯の医療費に対する助成
G 母子・父子・寡婦福祉資金	母子家庭、父子家庭、寡婦の経済的自立を支援するための貸付
H 生活福祉資金	所得が一定水準以下の世帯等を対象とした低利または無利子の資金貸付。窓口は市町村の社会福祉協議会
I 生活保護	病気や失業などのため、生活費や医療費に困り、ほかに方法がないときに援助が受けられる制度

問48　あなたは、これまでに困ったときに以下の公的機関に相談したことがありますか。

相談したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。

（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	相談したことがある	相談したことがない			
		相談したことがなかった	相談したいと思ったが抵抗感があった	相談したかったが相談時間や場所などが使いづらかった	相談する窓口や方法がわからなかった
A 市役所、町村役場の窓口	1	2	3	4	5
B 学校・保育所・幼稚園の先生	1	2	3	4	5
C スクールカウンセラー	1	2	3	4	5
D スクールソーシャルワーカー	1	2	3	4	5
E 民生委員・児童委員	1	2	3	4	5
F 保健所（健康福祉センター）	1	2	3	4	5
G 中核地域生活支援センター	1	2	3	4	5
H 生活困窮者自立支援制度に基づく相談窓口	1	2	3	4	5
I 千葉県子ども・若者総合相談センター「ライトハウスちば」	1	2	3	4	5
J ハローワーク	1	2	3	4	5
K 上記以外の公的機関	1	2	3	4	5

問49　あなたは、こどもに関する支援制度等の情報をどういう方法で受け取っていますか。
また今後、どういう方法で受け取りたいですか。（それぞれ、あてはまる番号すべてに○）

現在の受け取り方法	今後、受け取りたい方法
1　行政の広報誌	1　行政の広報誌
2　行政機関のホームページ	2　行政機関のホームページ
3　ＳＮＳ（LINE、X(旧ツイッター)など）	3　ＳＮＳ（LINE、X(旧ツイッター)など）
4　学校からのお便り（紙のもの）	4　学校からのお便り（紙のもの）
5　学校からのメール	5　学校からのメール
6　家族や友人からの情報	6　家族や友人からの情報
7　その他（具体的に　　）	7　その他（具体的に　　）

問50　あなたが今、困っていることや悩み事がありましたら、ご自由にお書きください。

こどもの生活実態調査（こども用）

性別・学年について

問１　あなたは小学生ですか、それとも中学生ですか。（あてはまる番号１つに○）

１　小学生　　２　中学生

問２　あなたの性別を教えてください。（あてはまる番号１つに○）

１　男　　２　女　　３　その他・答えたくない

学校・勉強について

問３　あなたの学校生活についておたずねします。次の項目について、もっとも近いものに○をつけてください。（それぞれ、あてはまる番号１つに○）

	とても楽しみ	楽しみ	少し楽しみ	楽しみではない
A　算数（数学）の授業	1	2	3	4
B　国語の授業	1	2	3	4
C　理科の授業	1	2	3	4
D　社会の授業	1	2	3	4
E　音楽の授業	1	2	3	4
F　図工・美術の授業	1	2	3	4
G　技術・家庭科の授業	1	2	3	4
H　体育の授業	1	2	3	4
I　英語の授業	1	2	3	4
J　先生に会うこと	1	2	3	4
K　友だちに会うこと	1	2	3	4
L　学校の部活動・クラブ活動	1	2	3	4
M　休み時間	1	2	3	4
N　給食（お弁当）	1	2	3	4

問4　あなたは、学校の授業がわかりますか。（あてはまる番号1つに○）

1 いつもわかる⇒**問6へ**	2 だいたいわかる⇒**問6へ**	
3 あまりわからない	4 わからないことが多い	5 ほとんどわからない

問5　勉強がわからないときは、誰に教えてもらいますか。（あてはまる番号すべてに○）

1 親	2 親以外の家族（兄弟姉妹や、おじいちゃん、おばあちゃんなど）	
3 学校の先生	4 児童館・こども館、放課後児童クラブ（学童）などの先生	
5 地域の居場所にいる人（無料で勉強を教えてくれるところやこども食堂などの地域で同じ年頃のこどもが集まるところ）	6 塾や習い事の先生	
7 その他の大人	8 友だち	9 教えてもらえる人がいない

問6　あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。（あてはまる番号1つに○）

1 上のほう	2 やや上のほう	3 真ん中のあたり
4 やや下のほう	5 下のほう	6 わからない

問7　あなたは、ふだん（月～金曜日）学校の授業以外にどれくらいの時間、勉強をしますか。1日あたりの勉強時間を教えてください。※塾などでの時間も含みます。

（あてはまる番号1つに○）

1 まったくしない	2 30分より少ない	3 30分以上、1時間より少ない
4 1時間以上、2時間より少ない	5 2時間以上、3時間より少ない	6 3時間以上

問8　あなたは、自宅で以下の教材を使っていますか。（あてはまる番号すべてに○）

1 学校で配られるドリルなど	2 本屋で売っているドリルや参考書	
3 通信教育の教材	4 1～3以外の教材	5 使っていない

問9　あなたは、学習塾に通ったり、家庭教師に来てもらったりしていますか。
通っている（来てもらっている）場合、1週間に何日くらいですか。

（あてはまる番号1つに○）

1 通って（来てもらって）いない	2 週に1日	3 週に2日	4 週に3日	
5 週に4日	6 週に5日	7 週に6日	8 毎日	

問10　【この質問は中学生だけが答えてください。小学生は問11に進んでください。】

あなたは、どの段階まで進学したいですか。あなたの考えにもっとも近いものに○を　つけてください。（あてはまる番号1つに○）

1　中学まで	2　高校まで	3　短大・高専・専門学校まで
4　大学またはそれ以上	5　まだわからない	

問11　あなたは、将来の夢や目標がありますか。（あてはまる番号1つに○）

1　ある⇒**問13へ**	2　ない

問12　問11で将来の夢や目標が「2　ない」と答えた人におききします。

「ない」と答えた理由は何ですか。（あてはまる番号1つに○）

1　もうすべてに満足しているから	2　何も思いうかばないから
3　夢や目標なんてかなわないと思うから	4　わからない

問13　将来のために、今頑張りたいと思いますか。（あてはまる番号1つに○）

1　そう思う	2　どちらかといえばそう思う
3　どちらかといえばそう思わない	4　そう思わない

ふだんのくらしについて

問14　あなたは、平日（学校に行く日）は、だいたい何時に寝ていますか。

（あてはまる番号1つに○）

1　午後9時より前	2　午後9時台	3　午後10時台
4　午後11時台	5　午前0時台	6　午前1時よりあと

問15　あなたは、平日（学校に行く日）に毎日、朝ごはんを食べますか。

（あてはまる番号1つに○）

1　いつも食べる（週に5日）	2　食べるほうが多い（週に3、4日）
3　食べないほうが多い（週に1、2日）	4　いつも食べない

問 16　あなたは、学校が夏休みなどの長期休暇中の月曜日から金曜日に毎日、昼ごはんを　食べますか。（あてはまる番号１つに○）

１　いつも食べる（週に５日）	２　食べるほうが多い（週に３、４日）
３　食べないほうが多い（週に１、２日）	４　いつも食べない

問 17　あなたは、給食以外で、次の食べ物をふだんどれくらい食べますか。

（それぞれ、あてはまる番号１つに○）

	毎日食べる	１週間に４～５日	１週間に２～３日	１週間に１日以下	食べない
A　野菜	1	2	3	4	5
B　くだもの	1	2	3	4	5
C　肉か魚	1	2	3	4	5
D　カップめん・インスタントめん	1	2	3	4	5
E　コンビニのおにぎり・お弁当	1	2	3	4	5
F　お菓子	1	2	3	4	5

問 18　あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方６時くらいまで）は誰と過ごしますか。一緒に過ごす時間が一番長い人に○をつけてください。（あてはまる番号１つに○）

１　家族（お母さんやお父さん、兄弟姉妹、おじいちゃん・おばあちゃんなど）
２　放課後児童クラブ（学童）、放課後子ども教室、児童館・こども館、青少年会館の職員
３　地域の居場所にいる人（無料で勉強を教えてくれるところやこども食堂などの地域で同じ年頃のこどもが集まるところ）
４　その他の大人（近所の大人、スポーツクラブのコーチ、塾や習い事の先生など）
５　学校の友だち
６　学校以外の友だち
７　ひとりでいる

問19　あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）はどこで過ごし　ますか。
1週間のうち、そこで過ごすおおよその日数に○をつけてください。

（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	毎日	週に3～4日	週に1～2日	全くすごさない
A　自分の家	1	2	3	4
B　友だちの家	1	2	3	4
C　塾や習い事	1	2	3	4
D　放課後児童クラブ（学童）、放課後子ども教室	1	2	3	4
E　学校の部活動	1	2	3	4
F　D、E以外で、学校の図書館、教室、校庭	1	2	3	4
G　地域の居場所（無料で勉強を教えてくれる　ところやこども食堂などの地域で同じ年頃のこどもが集まる場所）	1	2	3	4
H　学校外のスポーツクラブの活動の場（野球場、サッカー場など）	1	2	3	4
I　公園	1	2	3	4
J　（学校外の）図書館	1	2	3	4
K　公民館	1	2	3	4
L　児童館・こども館、青少年会館	1	2	3	4
M　ファストフード店、ショッピングモール ゲームセンター	1	2	3	4
N　その他（具体的に　　）	1	2	3	4

問20　問19のA～Nの場所の中で、あなたが一番ほっとできる居場所はどこですか。1つだけ選んで、その記号をカッコの中に書いてください。

ほっとできる居場所がない場合は、「X ほっとできる居場所はない」に○をつけてください。

記号（　　）　　X　ほっとできる居場所はない

問21　あなたは、休日（学校がお休みの日）は誰と過ごしますか。一緒に過ごす時間が一番　長い人に○をつけてください。（あてはまる番号1つに○）

1　家族（お母さんやお父さん、兄弟姉妹、おじいちゃん・おばあちゃんなど）
2　放課後児童クラブ（学童）、放課後子ども教室の職員
3　地域の居場所にいる人（無料で勉強を教えてくれるところやこども食堂などの地域で同じ年頃のこどもが集まるところ）
4　児童館・こども館、青少年会館の職員
5　（学校外の）図書館の職員
6　公民館の職員
7　その他の大人（近所の大人、スポーツクラブのコーチ、塾や習い事の先生など）
8　学校の友だち
9　学校以外の友だち
10　ひとりでいる

問22　あなたは、休日（学校がお休みの日）、どこで過ごしますか。一番長く過ごす場所に○をつけてください。（あてはまる番号1つに○）

1　自分の家　　2　友だちの家　　3　塾や習い事
4　放課後児童クラブ（学童）、放課後子ども教室
5　学校の部活動
6　地域の居場所（無料で勉強を教えてくれるところやこども食堂などの地域で同じ年頃のこどもが集まる場所）
7　学校外のスポーツクラブの活動の場（野球場、サッカー場など）
8　公園　　9　図書館　　10　公民館　　11　児童館・こども館、青少年会館
12　ファストフード店、ショッピングモールなど　　13　ゲームセンター
14　その他（具体的に　　）

問23　あなたは、おうちの大人の人と次のようなことをどれくらいしていますか。

（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	ほぼ毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に1～2回	ほぼない
A 一緒に朝食をたべる	1	2	3	4	5
B 一緒に夕食をたべる	1	2	3	4	5
C 勉強をみてもらう	1	2	3	4	5
D 一緒に遊んだり体を動かしたりする	1	2	3	4	5
E 学校生活の話をする	1	2	3	4	5
F ニュースなど社会のできごとについて話す	1	2	3	4	5
G 一緒に料理をする	1	2	3	4	5
H 一緒に外出する（散歩、買い物、外食等）	1	2	3	4	5

問24　あなたは、以下の活動を、ふだんどれくらいしますか。

（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	毎日2時間以上	毎日1～2時間	毎日1時間以下	1週間に4～5日	1週間に2～3日	1週間に1日	しない
A ゲーム機で遊ぶ	1	2	3	4	5	6	7
B テレビを見る	1	2	3	4	5	6	7
C インターネットを見る	1	2	3	4	5	6	7
D スマートフォン、けいたい電話でメールやLINEをする	1	2	3	4	5	6	7
E 室内でのほかの活動（読書、室内遊びなど）	1	2	3	4	5	6	7
F 公園で遊ぶ	1	2	3	4	5	6	7
G 塾や習い事	1	2	3	4	5	6	7
H 家事（洗濯、掃除、料理など）	1	2	3	4	5	6	7
I 兄弟姉妹のお世話	1	2	3	4	5	6	7
J おじいちゃん、おばあちゃんのお世話	1	2	3	4	5	6	7

問25　あなたは、この1か月の間に本を何冊くらい読みましたか。（あてはまる番号1つに○）

1　読まなかった	2　1冊	3　2～3冊
4　4～7冊	5　8～11冊	6　12冊以上

※自宅以外で読んだ本も数えてください。

※パソコンやタブレット、スマートフォンなどで読める本（電子書籍）も数えてください。

※雑誌やマンガは、内容に関わらず、数にふくめないでください。

問26　次のA～Nのうち、あなたが自分で使うことができるものはありますか。

ある場合は、「1　ある」に○をつけてください。

ない場合は、それがほしいものであれば「2　ほしい」、いらないと思うものであれば　「3　ほしくない」に○をつけてください。

（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	ある	ない	
		ほしい	ほしくない
A　自分だけの本（学校の教科書やマンガはのぞく）	1	2	3
B　こども部屋（兄弟姉妹と使っている場合も含む）	1	2	3
C　(自宅で)インターネットにつながるパソコン、タブレット	1	2	3
D　自宅で宿題をすることができる場所	1	2	3
E　自分専用の勉強机	1	2	3
F　スポーツ用品（サッカーボールやラケットなど）	1	2	3
G　ゲーム機	1	2	3
H　多くの友だちが持っているおもちゃ	1	2	3
I　自転車	1	2	3
J　おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい	1	2	3
K　友だちが着ているのと同じような服	1	2	3
L　2足以上のサイズのあった靴	1	2	3
M　けいたい電話、スマートフォン	1	2	3
N　けいたい音楽プレーヤー	1	2	3

問27　あなたの一番仲が良い友だちは、どのような友だちですか。（あてはまる番号１つに○）

１　学校の友だち　２　学校はいっしょではないが、近所に住んでいる友だち
３　学校外のスポーツチームやクラブの友だち　４　塾や習い事の友だち
５　インターネット上（ＳＮＳ上）の友だち　６　その他の友だち
７　とくに仲の良い友だちはいない

問28　あなたはふだん、楽しいことや悲しいこと、困っていることや悩みごとを、他の人に　どれくらい話しますか。電話、メール、LINEも「話した」と考えて答えてください。

（それぞれ、あてはまる番号１つに○）

	よく話す	時々話す	あまり話さない	ぜんぜん話さない
A　親	1	2	3	4
B　兄弟姉妹	1	2	3	4
C　おじいちゃん、おばあちゃんなど	1	2	3	4
D　学校の先生	1	2	3	4
E　スクールカウンセラー	1	2	3	4
F　スクールソーシャルワーカー	1	2	3	4
G　放課後児童クラブ（学童）、放課後子ども教室	1	2	3	4
H　地域の居場所にいる人（無料で勉強を　教えてくれるところやこども食堂などの地域で同じ年頃のこどもが集まるところ）	1	2	3	4
I　児童館・こども館、青少年会館の職員	1	2	3	4
J　（学校外の）図書館の職員	1	2	3	4
K　公民館の職員	1	2	3	4
L　その他の大人（近所の大人、スポーツクラブのコーチや塾・習い事の先生など）	1	2	3	4
M　学校の友だち	1	2	3	4
N　学校以外の友だち	1	2	3	4

問29　あなたは、これまでに以下のようなことがありましたか。

（それぞれ、あてはまる番号１つに○）

	よく あった	時々 あった	あまり なかった	なかった	わからない
A　学校に行きたくないと思った	1	2	3	4	5
B　1か月以上学校を休んだ （病気の時をのぞく）	1	2	3	4	5
C　いじめられた	1	2	3	4	5
D　夜遅くまでこどもだけで過ごした	1	2	3	4	5
E　学校に遅刻した	1	2	3	4	5
F　家事や家族の世話で勉強する時間がとれなかった	1	2	3	4	5
G　家事や家族の世話で遊ぶ時間が　とれなかった	1	2	3	4	5
H　学校に持っていかなければなら　ない持ち物を用意できなかった。	1	2	3	4	5

問30　あなたは、現在の自分の健康状態についてどう感じていますか。

（あてはまる番号１つに○）

1　よい　　2　まあよい　　3　ふつう　　4　あまりよくない　　5　よくない

問31　あなたは、自分の体で気になることはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

1　よく頭がいたくなる 2　歯がいたい 3　ものが見づらい 4　聞こえにくい	5　よくかぜをひく 6　よくかゆくなる 7　とくに気になることはない 8　その他 （具体的に　　）

問 32　わたしたちは、楽しい日もあれば、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。みなさんがこの１週間、どんな気持ちだったかあてはまるところに○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに答えてください。

（それぞれ、あてはまる番号１つに○）

	いつもそうだ	ときどきそうだ	そんなことはない
A　楽しみにしていることがたくさんある	1	2	3
B　とてもよく眠れる	1	2	3
C　泣きたいような気がする	1	2	3
D　遊びに出かけるのが好きだ	1	2	3
E　逃げ出したいような気がする	1	2	3
F　おなかが痛くなることがある	1	2	3
G　元気いっぱいだ	1	2	3
H　食事が楽しい	1	2	3
I　いじめられても自分で「やめて」と言える	1	2	3
J　生きていても仕方がないと思う	1	2	3
K　やろうと思ったことがうまくできる	1	2	3
L　いつものように何をしても楽しい	1	2	3
M　家族と話すのが好きだ	1	2	3
N　こわい夢を見る	1	2	3
O　ひとりぼっちの気がする	1	2	3
P　落ち込んでいてもすぐに元気になれる	1	2	3
Q　とても悲しい気がする	1	2	3
R　とても退屈な気がする	1	2	3

問33　あなたの思いや気持ちについて、「1　とても思う」から「4　思わない」のもっとも近いものに○をつけてください。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	とても思う	思う	あまり思わない	思わない
A　がんばれば、むくわれる	1	2	3	4
B　自分は価値のある人間だ	1	2	3	4
C　自分は家族に大事にされている	1	2	3	4
D　不安に感じることがある	1	2	3	4
E　孤独を感じることがある	1	2	3	4
F　自分は友達に好かれている	1	2	3	4
G　積極的に色々な人と話したい	1	2	3	4
H　自分の将来が楽しみだ	1	2	3	4
I　自分のことが好きだ	1	2	3	4

問34　あなたは、以下のような場所などがあったら使ってみたいと思いますか。

（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	使ってみたい	興味がある	使いたくない	使う必要はない
A　（家以外で）平日の放課後に夜までいることができる場所	1	2	3	4
B　（家以外で）休日にいることができる場所	1	2	3	4
C　家の人がいない時、夕ごはんをみんなで食べることができる場所	1	2	3	4
D　家で勉強できない時、静かに勉強できる場所	1	2	3	4
E　大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所	1	2	3	4
F　（学校以外で）なんでも相談できる場所	1	2	3	4
G　困ったときに自分のところまできて相談にのってくれる人	1	2	3	4

問35　今から４年前のことをお聞きします。

新型コロナウイルス感染症が流行し始めた頃(2020年頃)のあなたの生活は、それまでと比べて、どのように変わったと思いますか。　（それぞれ、あてはまる番号１つに○）

	増えた	減った	変わらない
A 学校の授業以外で勉強する時間	1	2	3
B 学校の授業がわからないと感じること	1	2	3
C 食事を抜く回数	1	2	3
D 夜遅くまで起きている回数	1	2	3
E 親以外の大人や友達と話をすること	1	2	3
F イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと	1	2	3

※いま小学５年生の方は、小学１年生～小学２年生の頃のことを思い出して書いてください。

※いま中学２年生の方は、小学４年生～小学５年生の頃のことを思い出して書いてください。

※思い出すのがむずかしければ、回答する必要はありません。

問36　今のことをお聞きします。

あなたの今の生活は、新型コロナウイルス感染症が流行し始めた頃(2020年頃)に　比べて、どのように変わったと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号１つに○)

	増えた	減った	変わらない
A 学校の授業以外で勉強する時間	1	2	3
B 学校の授業がわからないと感じること	1	2	3
C 食事を抜く回数	1	2	3
D 夜遅くまで起きている回数	1	2	3
E 親以外の大人や友達と話をすること	1	2	3
F イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと	1	2	3

※思い出すのがむずかしければ、回答する必要はありません。

問37　最後に、あなたが今、困っていることや悩み事、大人の人に言いたいことなどがありましたら、下の欄に書いてください。

※ここに書いていただいた内容は、だれが書いたかわからないように十分に注意して公表します。
みなさんの意見を使用するときは、もしだれが書いたかわかるような内容があれば、その部分は公表しませんので、安心して書いてください。